

NetOp Remote Control

バージョン 9.0

ユーザー マニュアル

Moving expertise - not people

Copyright © 1981-2006 Danware Data A/S. All Rights Reserved.

Portions used under license from third parties.

Printed in Japan

ドキュメント改訂番号：2006061

ご質問およびご意見の送付先：

Danware Data A/S

Bregnerodvej 127

DK-3460 Birkerød

Denmark

FAX 番号：Int +45 45 90 25 26

電子メール：info@netop.com

インターネット：<http://www.netop.com>

保証

Danware Data A/S は、マニュアルと CD-ROM で構成されたユーザー パッケージの有形物の品質を保証いたします。これらのものに欠陥があった場合には、Danware Data から購入後 60 日以内であれば、無料で交換いたします。

免責

Danware Data A/S は、同梱されているプログラムおよび / またはマニュアルの欠陥によって直接的または間接的に発生する損害に対して、一切の責任を負いません。

ライセンス

ユーザー マニュアルに対する著作権は、Danware Data A/S が保有します。プログラムに関するすべての特許権、著作権、およびその他の知的所有権は、Danware Data A/S またはそのライセンス許諾者が保有します。

パッケージに同梱の『Danware ライセンス証明書』に記載されているように、この製品を購入することにより、プログラムをコピーして使用する権利がお客様に与えられます。

『Danware ライセンス証明書』とオリジナルの CD-ROM は、大切に保管してください。これらは、ソフトウェアを使用する法的権利を示す証拠となります。また、製品の更新を将来受ける場合にも必要となります。

Danware ライセンス証明書で許可された数を超える PC にソフトウェアをインストールしたり、許可された数を超える PC でソフトウェアを実行しないように注意してください。

バックアップ目的で、かつ上記の規則に従っている場合にのみ、プログラムをコピーできます。

商標

NetOp® および赤い凧は、Danware Data A/S の登録商標です。このマニュアルに記載されているその他の製品は、それぞれの製造元の商標です。

目次

保証	3
免責	3
ライセンス	3
商標	3
目次	5
1 はじめに	13
1.1 ようこそ	14
1.2 機能	14
1.2.1 リモート コントロール	14
1.2.2 その他の対話処理	15
1.2.3 セキュリティ	15
1.2.4 オペレーティング システム	16
1.2.5 通信デバイス	17
1.3 マニュアル	17
1.3.1 NetOp マニュアルの使用方法	18
1.3.2 表記上の決まり	18
1.3.3 標準ボタン	19
1.4 更新	19
1.5 互換性	20
1.6 共通するコントロール	21
1.6.1 ウィンドウ コントロール	21
1.6.2 メニューとツールバーのコントロール	21
1.6.3 テーブル コントロール	22
2 インストール	23
2.1 概要	24
2.2 パッケージの内容	24
2.3 要件	24
2.4 インストール	25
2.4.1 Windows インストーラ	26
2.4.1.1 インストールの変更またはアンインストール	34
2.4.2 従来の InstallShield	35
2.4.2.1 インストールの変更またはアンインストール	41
2.5 その他のインストール方法	41
2.5.1 ディレクトリからのインストール	41
2.5.2 自動インストール	42
2.5.3 NetOp インストール ユーティリティ	42
2.5.4 ターミナル サーバー	42
3 NetOp ゲスト	43
3.1 概要	44
3.2 読み込みとアンロード	44
3.2.1 その他の読み込み方法	44
3.2.2 セットアップ ウィザード	46
3.3 接続ガイド	49
3.3.1 リモート コントロール	49
3.3.2 その他のセッション	50
3.3.3 アクション	50
3.3.4 ヘルプ呼出	51
3.3.5 接続の問題	51
3.4 ホストのセキュリティ ガイド	52
3.4.1 ゲスト認証	52
3.4.1.1 共有 NetOp 認証	52

3.4.1.2	個々の NetOp 認証	53
3.4.1.3	Windows 認証	53
3.4.1.4	ディレクトリ サービス認証	54
3.4.1.5	NetOp セキュリティ サーバー認証	54
3.4.1.6	RSA SecurID 認証	55
3.4.1.7	スマート カード認証	56
3.4.2	セキュリティ ロール	56
3.4.2.1	ゲストが行える操作	57
3.4.2.2	アクセスの確認	58
3.4.3	ゲスト プロファイル	59
3.4.3.1	資格	59
3.4.3.2	コールバック	59
3.4.4	ゲスト ポリシー	60
3.4.5	アドレス チェック	61
3.4.6	暗号化	61
3.5	NetOp ゲスト ウィンドウ	61
3.5.1	タイトル バー	62
3.5.2	メニュー バー	62
3.5.2.1	[ファイル] メニュー	62
3.5.2.2	[接続] メニュー	63
3.5.2.2.1	セッション コマンド	63
3.5.2.2.2	アクション コマンド	65
3.5.2.2.3	他のコマンド	65
3.5.2.3	[編集] メニュー	66
3.5.2.4	[表示] メニュー	67
3.5.2.5	[ツール] メニュー	68
3.5.2.6	[ヘルプ] メニュー	69
3.5.3	ツールバー	70
3.5.3.1	セッション ボタン	70
3.5.3.2	[アクション] ボタン	71
3.5.3.3	その他のボタン	72
3.5.4	タブ パネル	73
3.5.4.1	[電話帳] タブ	74
3.5.4.1.1	ツリー ペイン	75
3.5.4.1.2	レコード ペイン	76
3.5.4.1.3	電話帳レコード	77
3.5.4.1.4	電話帳のインポート / エクスポート	78
3.5.4.2	[簡易接続] タブ	79
3.5.4.2.1	[ホスト] セクション	80
3.5.4.2.2	[通信プロファイル] セクション	84
3.5.4.2.3	ボタン	85
3.5.4.2.4	[NetOp ネットワーク] タブ	85
3.5.4.2.5	[Windows ネットワーク] タブ	86
3.5.4.3	[接続] タブ	88
3.5.4.4	[履歴] タブ	89
3.5.4.4.1	ツリー ペイン	89
3.5.4.4.2	レコード ペイン	90
3.5.4.4.3	履歴レコード	91
3.5.4.5	[ヘルプ呼出] タブ	91
3.5.4.6	[記録] タブ	93
3.5.4.6.1	ツリー ペイン	93
3.5.4.6.2	レコード ペイン	94
3.5.4.6.3	記録レコード	95
3.5.4.7	[スクリプト] タブ	96
3.5.4.7.1	ツリー ペイン	96
3.5.4.7.2	レコード ペイン	97

3.5.4.7.3 スクリプト レコード	97
3.5.4.8 [インベントリ] タブ	98
3.5.4.8.1 コンテンツ ペイン	98
3.5.4.8.2 詳細ペイン	99
3.5.4.8.3 ホスト コンピュータのインベントリ	99
3.5.5 ステータス バー	100
3.6 ゲスト ツール	100
3.6.1 プログラムのオプション	101
3.6.1.1 [レイアウト] タブ	102
3.6.1.2 [一般] タブ	104
3.6.1.3 [キャッシュ] タブ	106
3.6.1.4 [ログイン] タブ	107
3.6.1.5 [ホスト名] タブ	108
3.6.1.6 [ディレクトリ サービス] タブ	110
3.6.1.7 [リモート コントロール] タブ	112
3.6.1.8 [画面呼出] タブ	113
3.6.1.9 [オーディオビデオ チャット] タブ	114
3.6.1.10 [リモート印刷] タブ	117
3.6.1.11 [記録] タブ	119
3.6.1.12 [サウンド] タブ	120
3.6.1.13 [ヘルプ リクエスト] タブ	121
3.6.1.14 [プログラムの実行] タブ	124
3.6.1.15 [暗号化] タブ	126
3.6.1.16 [インベントリ] タブ	127
3.6.1.17 [スマート カード] タブ	130
3.6.1.18 [Web の更新] タブ	131
3.6.2 ファイル マネージャのオプション	134
3.6.3 ログのセットアップ	134
3.6.4 保守パスワード	134
3.6.5 通信プロファイル	135
3.6.6 モデム データベース	136
3.6.7 新規および更新のチェック	136
3.6.8 新しい更新を公開	136
3.6.9 デバッグのトレース	136
3.6.10 セットアップ ウィザードの実行	136
3.6.11 ゲストをリムーバブル メディアにコピー	136
3.7 ゲストのセッション	137
3.7.1 リモート コントロール	137
3.7.1.1 タイトル バー	138
3.7.1.2 ツールバーとツールボックス	141
3.7.1.2.1 セッション ボタン	142
3.7.1.2.2 [アクション] ボタン	143
3.7.1.2.3 コントロール ボタン	144
3.7.1.2.4 マルチ ゲスト セッションのボタン	145
3.7.1.2.5 クリップボード ボタン	145
3.7.1.2.6 ツール ボタン	146
3.7.1.3 リモート コントロール表示	147
3.7.1.4 ステータス バー	148
3.7.1.5 マルチ ゲスト セッション	148
3.7.2 ファイルの転送	148
3.7.2.1 タイトル バー	149
3.7.2.2 メニュー バー	149
3.7.2.2.1 [ファイル] メニュー	150
3.7.2.2.2 コピー / 移動 / 同期化 / 複製	153
3.7.2.2.3 転送ステータス	154
3.7.2.2.4 [編集] メニュー	156

3.7.2.2.5 [表示] メニュー	157
3.7.2.2.6 [オプション] メニュー	159
3.7.2.2.7 [ヘルプ] メニュー	167
3.7.2.3 ツールバー	167
3.7.2.3.1 ファイル転送ボタン	168
3.7.2.3.2 その他のボタン	168
3.7.2.4 レコード パネル	169
3.7.3 チャット	171
3.7.3.1 マルチ チャット セッション	173
3.7.4 オーディオビデオ チャット	173
3.7.5 リモート管理	176
3.7.5.1 タイトル バー	177
3.7.5.2 メニュー バー	177
3.7.5.2.1 [ファイル] メニュー	177
3.7.5.2.2 [表示] メニュー	178
3.7.5.2.3 [管理] メニュー	178
3.7.5.2.4 [ヘルプ] メニュー	178
3.7.5.2.5 [ディスク ドライブ] メニュー	179
3.7.5.3 ツールバー	179
3.7.5.4 ナビゲーション パネル	180
3.7.5.5 表示パネル	181
3.7.5.6 ステータス バー	181
3.7.5.7 管理	182
3.7.5.7.1 ディスク ドライブ	182
3.7.5.7.2 イベント ビューア	185
3.7.5.7.3 タスク マネージャ	188
3.7.5.7.4 レジストリ	191
3.7.5.7.5 サービス	199
3.7.5.7.6 共有フォルダ	208
3.7.5.7.7 インベントリ	215
3.7.5.7.8 コマンド コンソール	216
3.7.5.7.9 システム制御	218
3.7.5.8 NetOp セッション	220
3.7.5.9 詳細情報	221
3.8 セッションのツール	221
3.8.1 接続のプロパティ	222
3.8.1.1 [接続] タブ	224
3.8.1.2 [ログイン] タブ	225
3.8.1.3 [項目の保護] タブ	226
3.8.1.4 [起動] タブ	227
3.8.1.5 [表示] タブ	229
3.8.1.6 [キーボード/マウス] タブ	230
3.8.1.7 [圧縮/暗号化] タブ	232
3.8.1.8 [デスクトップ] タブ	234
3.8.1.9 [記録] タブ	235
3.8.1.10 [カスタム] タブ	236
3.8.2 NetOp マーカー ユーティリティ	237
3.8.2.1 タイトル バー	238
3.8.2.2 上のツールバー	239
3.8.2.3 下のツールバー	240
3.8.2.4 ステータス バー	240
3.8.2.5 図形マーカー	240
3.8.2.6 テキスト マーカー	242
3.8.2.7 NetOp 拡大鏡	243
3.8.2.8 マーカーの削除	244
3.8.2.9 マーカーのプロパティとヘルプ	244

3.8.3 NetOp スクリプト	245
3.8.3.1 グローバル設定	246
3.8.3.1.1 [一般] タブ	247
3.8.3.1.2 [転送] タブ	248
3.8.3.1.3 [上書き/削除] タブ	249
3.8.3.1.4 [詳細] タブ	250
3.8.3.1.5 スクリプト ファイル内のグローバル設定	251
3.8.3.2 コマンド	252
3.8.3.2.1 接続コマンド	253
3.8.3.2.2 待機コマンド	255
3.8.3.2.3 実行コマンド	258
3.8.3.2.4 ファイル転送コマンド	258
3.8.3.2.5 アクション コマンド	262
3.8.3.2.6 スクリプト ファイル内のコマンド	264
3.8.3.3 スクリプト ファイル	267
3.8.3.4 NetOp スクリプトのテスト	268
3.8.3.5 スクリプト ログ	269
3.9 ゲスト アクション	271
3.9.1 プログラムの実行	271
3.9.1.1 プログラムの実行 - 参照	273
3.9.2 コマンドの実行	274
3.9.3 NetOp メッセージ	274
3.9.3.1 タイトル バー	275
3.9.3.2 メニュー バー	275
3.9.3.2.1 [ファイル] メニュー	276
3.9.3.2.2 [編集] メニュー	277
3.9.3.2.3 [検索] メニュー	277
3.9.3.2.4 [フォーマット] メニュー	278
3.9.3.3 ツールバー	278
3.9.3.4 メッセージ ペイン	280
3.9.3.5 ステータス バー	280
3.9.4 画面呼出	280
3.9.4.1 [画面呼出] ツールボックス	282
3.9.5 インベントリの取得	284
4 NetOp ホスト	285
4.1 概要	286
4.2 ホストの起動ガイド	286
4.2.1 通常のコンピュータ ユーザーの場合	286
4.2.2 上級者のコンピュータ ユーザーの場合	287
4.2.3 その他の読み込み方法	288
4.2.4 セットアップ ウィザード	289
4.3 [NetOp ホスト] ウィンドウ	300
4.3.1 タイトル バー	300
4.3.2 メニュー バー	301
4.3.2.1 [ファイル] メニュー	301
4.3.2.2 [表示] メニュー	302
4.3.2.3 [アクション] メニュー	302
4.3.2.4 [セッション] メニュー	304
4.3.2.5 [ツール] メニュー	305
4.3.2.6 [ヘルプ] メニュー	305
4.3.3 ツールバー	307
4.3.3.1 アクション ボタン	307
4.3.3.2 セッション ボタン	307
4.3.3.3 ツール ボタン	308
4.3.4 タブ パネル	308

4.3.4.1 [一般] タブ	309
4.3.4.2 [接続] タブ	309
4.3.4.3 [履歴] タブ	310
4.3.4.4 [サービス] タブ	311
4.3.4.5 [通信] タブ	312
4.3.4.6 [名前] タブ	312
4.3.4.7 [メッセージ] タブ	313
4.3.5 ステータス バー	314
4.4 ホスト ツール	315
4.4.1 プログラムのオプション	316
4.4.1.1 [一般] タブ	317
4.4.1.2 [ホスト名] タブ	319
4.4.1.3 [接続の通知] タブ	321
4.4.1.4 [オーディオ/ビデオ チャット] タブ	323
4.4.1.5 [リモート印刷] タブ	325
4.4.1.6 [ヘルプ呼出] タブ	327
4.4.1.7 [別のユーザーとして実行] タブ	329
4.4.1.8 [ディレクトリ サービス] タブ	331
4.4.1.9 [Web の更新] タブ	334
4.4.2 ゲスト アクセス セキュリティ	337
4.4.2.1 [ゲスト アクセス特権] タブ	338
4.4.2.1.1 すべてのゲストにデフォルトのアクセス特権を与える	339
4.4.2.1.2 NetOp 認証を使用して各ゲストに個別にアクセス特権を与える	343
4.4.2.1.3 Windows セキュリティ管理を使用して各ゲストにそれぞれアクセス特権を与える	345
4.4.2.1.4 ディレクトリ サービスを使用して各ゲストに個別にアクセス特権を与える	348
4.4.2.1.5 NetOp セキュリティ サーバーの使用	351
4.4.2.2 [ゲスト ポリシー] タブ	352
4.4.2.3 [MAC/IP アドレス リストのセットアップ] タブ	354
4.4.2.4 [暗号化] タブ	355
4.4.2.5 [スマート カード] タブ	356
4.4.3 保守パスワード	357
4.4.4 ログのセットアップ	359
4.4.5 通信プロファイル	359
4.4.6 モデム データベース	360
4.4.7 新規および更新のチェック	360
4.4.8 デバッグのトレース	360
4.4.9 セットアップ ウィザードの実行	360
4.5 ホスト セッション	361
4.5.1 リモート コントロール	362
4.5.2 ファイルの転送	363
4.5.3 チャット	364
4.5.4 オーディオ/ビデオ チャット	365
4.5.5 リモート管理	366
4.6 ホスト アクション	366
4.6.1 ヘルプ呼出	366
4.6.2 プログラムの実行	370
4.6.3 コマンドの実行	370
4.6.4 NetOp メッセージ	370
4.6.4.1 タイトル バー	371
4.6.4.2 メニュー バー	371
4.6.4.2.1 [ファイル] メニュー	371
4.6.4.2.2 [編集] メニュー	371
4.6.4.2.3 [検索] メニュー	372
4.6.4.3 ツールバー	372
4.6.4.4 メッセージ ペイン	372
4.6.4.5 ステータス バー	373

4.6.5	画面呼出	373
4.6.6	インベントリの取得	373
5	共通のツール	375
5.1	概要	376
5.2	通信デバイス	376
5.2.1	NetBIOS	377
5.2.1.1	NetBIOS の設定	377
5.2.1.2	NetBIOS 通信プロファイルの編集	378
5.2.1.2.1	NetBIOS アダプタ番号	378
5.2.2	IPX	379
5.2.2.1	IPX の設定	379
5.2.2.2	IPX 通信プロファイルの編集	380
5.2.2.2.1	Novell ネットワーク番号	381
5.2.3	ISDN (CAPI)	381
5.2.3.1	ISDN (CAPI) の設定	382
5.2.3.2	ISDN (CAPI) 通信プロファイルの編集	382
5.2.3.2.1	許可されている ISDN 番号	383
5.2.4	シリアル	383
5.2.4.1	シリアルの設定	384
5.2.4.2	シリアル通信プロファイルの編集	384
5.2.5	Windows モデム	385
5.2.5.1	Windows モデムの設定	386
5.2.5.2	Windows モデム通信プロファイルの編集	386
5.2.6	TCP/IP	387
5.2.6.1	TCP/IP の設定	387
5.2.6.2	TCP/IP 通信プロファイルの編集	389
5.2.6.2.1	TCP/IP の詳細設定	390
5.2.6.2.2	IP ブロードキャスト リスト	391
5.2.7	TCP/IP (TCP)	393
5.2.7.1	TCP/IP (TCP) の設定	393
5.2.7.2	TCP/IP (TCP) 通信プロファイルの編集	393
5.2.8	TCP/IP (TCP IPv6)	394
5.2.8.1	TCP/IP (TCP IPv6) の設定	394
5.2.8.2	TCP/IP (TCP IPv6) 通信プロファイルの編集	394
5.2.9	ゲートウェイ	395
5.2.9.1	ゲートウェイの設定	395
5.2.9.2	ゲートウェイ通信プロファイルの編集	395
5.2.9.2.1	ゲートウェイ デバイス グループ リスト	396
5.2.10	赤外線 (IrDA)	396
5.2.10.1	赤外線 (IrDA) の設定	396
5.2.10.2	赤外線 (IrDA) 通信プロファイルの編集	397
5.2.11	ターミナル サーバー	397
5.2.11.1	ターミナル サーバーの設定	397
5.2.11.2	ターミナル サーバー通信プロファイルの編集	398
5.3	モデム データベースとモデム ダイアログ	398
5.3.1	モデム データベース	398
5.3.1.1	モデムの設定	399
5.3.2	モデム ダイアログ	400
5.4	NetOp ログ	400
5.4.1	ログのセットアップ	401
5.4.1.1	[ログ] タブ	402
5.4.1.2	[NetOp ローカル] タブ	404
5.4.1.3	[NetOp サーバー] タブ	405
5.4.1.4	[Windows イベント ログ] タブ	407
5.4.1.5	[SNMP] タブ	408

5.4.2 ローカル NetOp ログ	409
5.4.3 NetOp ログ イベント	410
5.4.3.1 ゲストの NetOp ログ イベント	410
5.4.3.2 ホストおよび拡張ホストの NetOp ログ イベント	411
5.5 システム情報	415
5.6 NETOP.INI	416
5.6.1 [INSTALL] セクション	417
5.6.2 [COEXISTENCE] セクション	417
5.6.3 [GUEST]、[HOST]、[GATEWAY]、[NNS]、[NSS] の各セクション	418
5.6.4 [IPX] セクション	418
5.6.5 [NetBIOS] セクション	418
5.6.6 [TCP] セクション	419
5.6.7 [DTL] セクション	419
5.6.8 [AUDIO] セクション	419
5.6.9 例	419
5.7 NetOp の設定ファイル	420
5.7.1 NetOp 設定ファイルのデフォルトの場所	421
5.7.2 NetOp 設定ファイルのその他の場所	422
索引	423

1 はじめに

1.1 ようこそ

1.1 ようこそ

NetOp Remote Control へようこそ。NetOp Remote Control は、Danware のリモート コントロール ソフトウェアです。

ユーザーの要求に応じ、期待に添うことができる製品です。

製品の使用中に問題がありましたら、まずマニュアルとヘルプ システムを参照してください。

また、トラブルシューティング ガイダンスを NetOp [KnowledgeBase](#) で参照できます。ここから、詳細な技術情報を検索できます。

NetOp 製品の販売代理店では、NetOp 製品を最大限に活用するアドバイスをを行っています。

最後の手段として、サポート リクエストを NetOp [カスタマー & 製品サポート](#) に送付できます。できる限り問題を解決できるようにお答えします。

NetOp カスタマー & 製品サポート

この章には、以下のセクションがあります。

- [機能](#)
- [マニュアル](#)
- [更新](#)
- [互換性](#)
- [共通するコントロール](#)

1.2 機能

NetOp Remote Control には、次のモジュールが含まれます。

- [NetOp ゲスト](#) : コンピュータ ユーザーが、NetOp または拡張 NetOp ホストが実行されている別のコンピュータをリモート コントロールしたり、別の方法でコンピュータと対話することを可能にします。
- [NetOp ホスト](#) : コンピュータを、NetOp ゲストが実行されているコンピュータからリモート コントロールしたり、別の方法で対話することを可能にします。
- NetOp セキュリティ サーバー : 複数のホストのゲスト アクセス セキュリティを管理できる拡張 NetOp ホストです。
- NetOp ゲートウェイ : 異なる通信デバイス間で NetOp トラフィックの転送を可能にする拡張 NetOp ホストです。
- NetOp ネーム サーバー : セグメント化されたネットワーク全体で NetOp モジュールを接続できる拡張 NetOp ホストです。

NetOp Remote Control の機能には、以下が含まれます。

- [リモート コントロール](#)
- [その他の対話処理](#)
- [セキュリティ](#)
- [オペレーティング システム](#)
- [通信デバイス](#)

1.2.1 リモート コントロール

NetOp ゲストは、1 つまたは複数 NetOp ホストと [リモート コントロール](#) セッションを実行して、ホスト コンピュータの画面イメージを表示できます。これにより、ゲスト ユーザーはキーボードとマウスを使って、ホスト コンピュータ上で作業したり、さまざまな方法でホスト コンピュータをコントロールしたりすることができます。

NetOp ホストは、1 つの NetOp ゲストからリモート コントロールできます。NetOp ホストは、一度に複数のゲストを接続するマルチ ゲスト セッションが可能です。これにより、接続しているユーザーの 1 人がキーボードとマウスを使ってホストをコントロールしている一方で、接続している他のユーザーがホスト コンピュータに制限付きでアクセスしたりできます。

1.2.2 その他の対話処理

NetOp ゲストは 1 つまたは複数の NetOp ホストと [ファイルの転送](#) セッションを実行して、ファイルやディレクトリを転送したり管理したりできます。NetOp ホストで複数のゲストからの接続が可能な場合、それぞれのゲストは同時に別々の [ファイルの転送](#) セッションを実行できます。

NetOp ゲストは 1 つまたは複数の NetOp ホストと [チャット](#) セッションを実行して、入力したテキストによって通信することができます。NetOp ホストで複数のゲストからの接続が可能な場合、それぞれのゲストはそのホストとのマルチ [チャット](#) セッションに参加することができます。NetOp ホストは、接続している 1 つまたは複数のゲストと [チャット](#) セッションを開始できます。

1 つの NetOp ゲストと 1 つの NetOp ホストは、[オーディオビデオ チャット](#) セッションを実行して、サウンドおよびライブ イメージによって通信することができます。NetOp ホストが [オーディオ/ビデオ チャット](#) セッションを開始できるのは、接続しているゲストの中で、キーボードとマウスによるコントロール機能を持つゲストとだけです。

NetOp ゲストは、1 つまたは複数の NetOp ホストと [リモート管理](#) セッションを実行して、ホストコンピュータを管理することができます。NetOp ホストで複数のゲストからの接続が可能な場合、それぞれのゲストは同時に別々の [リモート管理](#) セッションを実行できます。

NetOp ゲストは NetOp ホスト コンピュータ上で指定したプログラムを実行できます。[プログラムの実行](#) を参照してください。

NetOp ゲストは、NetOp ホスト コンピュータ上でシステム制御コマンドを実行できます。[コマンドの実行](#) を参照してください。

NetOp ゲストは NetOp ホストに対して [NetOp メッセージ](#) を送信できます。

NetOp ゲストは複数の NetOp ホストの [画面呼出](#) を行い、そのコンピュータの画面イメージを順次表示することができます。

NetOp ゲストは NetOp ホスト コンピュータのハードウェアおよびソフトウェア インベントリを取得できます。[インベントリの取得](#) を参照してください。

NetOp ホストおよび拡張ホストは、ヘルプ サービスを提供する NetOp ゲストから [ヘルプ呼出](#) を実行できます。

1.2.3 セキュリティ

NetOp ゲスト、NetOp ホストおよび拡張ホストの設定は、[保守パスワード](#) によって保護することができます。

NetOp ホストおよび拡張ホストは、[ゲスト アクセス セキュリティ](#) を使用することで、権限のない NetOp ゲストのアクセスやアクションから保護することができます。

- ・ [\[ゲスト アクセス特権\] タブ](#) では、ゲストの認証方法とローカル セキュリティ ロールを指定します。[NetOp セキュリティ サーバーの使用](#) は、中央で一元的に管理するセキュリティ情報を利用します。
- ・ [\[ゲスト ポリシー\] タブ](#) では、ゲスト アクセスのセキュリティ ポリシーを指定します。
- ・ [\[MAC/IP アドレス リストのセットアップ\] タブ](#) では、ゲスト アクセスを、指定したゲストアドレスだけに制限できます。

モジュール間の通信は暗号化によって保護されます。[\[暗号化\] タブ](#) を参照してください。

すべての NetOp リモート コントロール モジュールは、NetOp イベントのログをローカルに記録するか、[NetOp ログ](#) に集中的に記録することができます。

1.2 機能

1.2.4 オペレーティング システム

NetOp Remote Control は、広範囲なオペレーティング システムをサポートします。上記の機能は、いずれのオペレーティング システムでも利用できます。

オペレーティング システム ▶	Windows	ActiveX	Windows CE **	Linux	Solaris	Mac OS X	Symbian OS	OS/2	DOS
▼ 機能									
モジュール：									
Guest	●	●	●	●	●		●**	●**	●**
Host	●		●	●	●	●		●	●
セキュリティ サーバ	●							●**	
ゲートウェイ	●							●**	
ネーム サーバー	●								
セッション：									
リモート コントロール	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ファイルの転送	●		●*	●	●	●		●	●**
チャット	●		●*	●*	●*	●		●	●
オーディオビデオ チャット	●								
リモート管理	●								
アクション：									
プログラムの実行	●								
コマンドの実行	●								
NetOp メッセージ	●								
画面呼出	●								
インベントリの取得	●								
ヘルプ呼出 (ホスト)	●							●	
ヘルプ サービス (ゲスト)	●							●**	

* ホストのみ。

** NetOp Remote Control バージョン 9.0 以外の NetOp 製品が対象。

NetOp 製品は異なるオペレーティング システムで実行していても、ほとんど例外や制限なしに対話できます。

1.2.5 通信デバイス

NetOp Remote Control モジュールは、[通信デバイス](#)で通信します。これらの通信デバイスは、異なるオペレーティング システムを使用するコンピュータ上で実行される NetOp モジュール上で利用できます。

通信デバイス ▶ ▼ オペレーティング システム	NetBIOS	IPX	ISDN (CAPI)	Windows モデム	シリアル モデム	TCP/IP	TCP/IP (TCP)	ゲート ウェイ	赤外線	ターミナル サーバー
Windows Server 2003	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●*
Windows XP	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
Windows 2000	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●*
Windows NT 4.0	●	●	●	●	●	●	●	●		●*
Windows ME/98SE	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
ActiveX						●	●			
Windows CE						●	●			
Linux						●	●			
Solaris						●	●			
Mac OS X						●	●			
Symbian OS							●			
OS/2	●	●	●		●	●	●			
DOS	●	●	●**		●**					

* ターミナル サーバー モジュールのみ。

** DOS から DOS のみ。

1.3 マニュアル

NetOp Remote Control には、[クイック ガイド](#)、2 つのマニュアル、3 つのヘルプ システムが同梱されています。

『[クイック ガイド](#)』（英語版）は、NetOp Remote Control の購入時かアップグレード時にブックレットとして CD ボックスに添付されています。NetOp Remote Control で利用可能な言語で記された『[クイック ガイド](#)』は、NetOp Remote Control CD に PDF ファイルで収録されています。このマニュアルには、NetOp Remote Control をインストールして使用するためのスタートアップ情報が含まれています。

NetOp Remote Control で使用可能な言語で記されたこの『[ユーザー マニュアル](#)』は、NetOp Remote Control CD に PDF ファイルで収録されています。このマニュアルには、次の章が含まれています。

- ・ **1 はじめに**：NetOp Remote Control の機能、マニュアル、更新、互換性、共通のコントロールについて説明しています。
- ・ **2 インストール**：NetOp Remote Control のインストール手順について説明しています。
- ・ **3 NetOp ゲスト**：NetOp ゲストの機能について説明しています。
- ・ **4 NetOp ホスト**：NetOp ホストの機能について説明しています。
- ・ **5 共通のツール**：すべての NetOp Remote Control モジュールに共通するツールについて説明しています。

『[Administrator's Manual](#)』は英語版だけが NetOp Remote Control CD に PDF ファイルで収録されています。このマニュアルには、次の章が含まれています。

- ・ **1 NetOp セキュリティ管理**：NetOp セキュリティ マネージャと NetOp セキュリティ サーバーの機能について説明しています。
- ・ **2 NetOp ゲートウェイ**：NetOp ゲートウェイの機能について説明しています。
- ・ **3 NetOp ネーム管理**：NetOp ネーム サーバーの機能について説明しています。
- ・ **4 高度なツール**：NetOp Remote Control の高度なツールについて説明しています。

1.3 マニュアル

- ・ **5 他のオペレーティング システム**：NetOp Remote Control for Linux、Solaris、Mac OS X、OS/2、DOS のインストールと詳細について説明しています。

注意：これらのマニュアルは、NetOp [KnowledgeBase](#) でも入手できます。

インストールされた言語で NetOp ゲスト (Windows、Linux、Solaris) から利用できる *NetOp* ゲスト ヘルプには、次のセクションが含まれています。

- ・ **はじめに**：NetOp Remote Control の機能、マニュアル、更新、互換性、共通のコントロールについて説明しています。
- ・ **インストール**：NetOp Remote Control のインストール手順について説明しています。
- ・ **NetOp ゲスト**：NetOp ゲストの機能について説明しています。
- ・ **共通のツール**：すべての NetOp Remote Control モジュールに共通するツールについて説明しています。

インストールされた言語で NetOp ホスト、NetOp セキュリティ マネージャ、NetOp セキュリティ サーバー、NetOp ゲートウェイ、および NetOp ネーム サーバー (Windows) から利用できる *NetOp* ホスト ヘルプには、次のセクションが含まれています。

- ・ **はじめに**：NetOp Remote Control の機能、マニュアル、更新、互換性、共通のコントロールについて説明しています。
- ・ **インストール**：NetOp Remote Control のインストール手順について説明しています。
- ・ **NetOp ホスト**：NetOp ホストの機能について説明しています。
- ・ **共通のツール**：すべての NetOp Remote Control モジュールに共通するツールについて説明しています。

英語版の NetOp インストール ユーティリティから利用できる *NDU* ヘルプでは、NetOp インストール ユーティリティの機能について説明しています。

ヘルプシステムの各セクションには、対応するマニュアルの各章と同じ情報が含まれています。

注意：製品を最新版に更新してもマニュアルは更新されません。主要な更新時に更新される *ReadMe.txt* ファイルで更新情報を探してください。

1.3.1 NetOp マニュアルの使用方法

NetOp を初めて使用するユーザーには、『**クイック ガイド**』をまず読んで、テスト インストールを行い、ヘルプシステムをガイドとして使用しながら試用されることをお勧めします。

経験を積んだ NetOp ユーザーであっても、『**ユーザー マニュアル**』かヘルプシステムの「はじめに」章/セクションにある「**機能**」セクションを復習し、利用可能な新しい機能を理解することをお勧めします。

製品の機能を明確に理解する必要がある場合は、詳細な説明を参照してください。

1.3.2 表記上の決まり

このマニュアルでは、次に示す表記規則が使用されます。

- ・ *斜字体*のテキストは、画面に表示されるテキストを表します。
- ・ 小文字のテキストは、キーボードのキーを表します。「+」記号は、同時に押すキーを表します。
- ・ **Lucida Console** フォントのテキストは、ユーザーが入力するテキストを表します。
- ・ *Adobe Reader* に表示される PDF ファイルやヘルプシステムに見られる [色付きの下線を持つテキスト](#)は、ジャンプ用のホットスポットです。ホットスポットをクリックすると、下線を持つテキスト項目を説明するセクションまたはトピックにジャンプします。
- ・ [角括弧] は、オプションの入力を表します。
- ・ <角括弧> は、内容の説明を表します。

1.3.3 標準ボタン

以下の標準ウィンドウ ボタンについては、その機能が標準的なものから逸脱する場合にだけ説明しています。

- ・ *OK*: このボタンをクリックすると、選択内容が適用されてウィンドウが閉じます。
- ・ *キャンセル*: このボタンをクリックすると、選択内容が適用されずにウィンドウが閉じます。
- ・ *ヘルプ*: このボタンをクリックすると、ヘルプ システムが開き、ウィンドウの内容を説明しているトピックを表示します。

1.4 更新

NetOp 製品は、更新されたビルドのリリースを介して適宜改善されます。

インストールされた NetOp 製品のビルドを識別するには、[ヘルプ] メニューの [バージョン情報] コマンドを選択して [バージョン情報] ウィンドウを表示します。ビルド番号は、バージョン番号の後の括弧内に、YYYYDD (Y= 年、D= 日付) 形式で表示されます。

NetOp 製品を最新の状態に保つためには、最新版のビルドを常にインストールする必要があります。

Windows において自動で更新するには、*Web 更新機能*を有効にします。[\[Web の更新\] タブ](#)を参照してください。

手動で更新するには、NetOp [KnowledgeBase](#) で、[Download Products] を選択し、利用できるダウンロード項目を表示します。インストールされている製品のバージョンについて、新しいビルド番号が入手可能である場合、ダウンロードおよびインストールしてください。インストールには、有効なライセンス番号が必要です。小数第一位までバージョン番号が同じ製品は、同じライセンス番号を使用します。

アップデート時に一緒にインストールされる *ReadMe.txt* ファイルには、アップデート情報が記載されています。

1.5 互換性

1.5 互換性

次の表は、古い NetOp リモート コントロール製品と NetOp Remote Control バージョン 9.0 との互換性についてまとめたものです。

製品	バージョン	言語	最新のビルド	バージョン 9.0 との互換性
NetOp Remote Control (言語の列の言語は Windows 版に適用されま す。他のオペレーティン グ システム版は、英語版 のみです。)	8.0	英語 フランス語 ドイツ語 イタリア語 日本語 ポルトガル語 スペイン語	2005271	完全互換。通常、新しいバージョンで 追加された機能は、古いバージョンで は利用できません。
	7.65	英語 フランス語 ドイツ語 イタリア語 日本語 ポルトガル語 スペイン語	2004342	
	7.6	英語 フランス語 ドイツ語 イタリア語 日本語 ポルトガル語 スペイン語	2003246	
	7.5	英語 フランス語 ドイツ語 イタリア語 日本語 ポルトガル語 スペイン語	2003048	
	7.0	英語 フランス語 ドイツ語 イタリア語 日本語 ポルトガル語 スペイン語	2002291	
	6.5	英語 フランス語 ドイツ語 スペイン語	2002063	
	6.0	英語 フランス語 ドイツ語 スペイン語	1999309	
NetOp Windows 版	5.4	英語	1998315	完全互換。通常、新しいバージョンで 追加された機能は、古いバージョンで は利用できません。
	5.3	英語	22497	
NetOp OS/2 版	6.5	英語	2002063	完全互換。通常、新しいバージョンで 追加された機能は、古いバージョンで は利用できません。
	5.4	英語	1999322	
	5.3	英語	30197	
NetOp DOS 版 (ネットワーク)	4.3	英語	-	NetBIOS と IPX のみ
NetOp DOS 版 (モデム)	1.01	英語	-	互換性なし
NetOp DOS 版 (ISDN)	1.03	英語	-	互換性なし

1.6 共通するコントロール

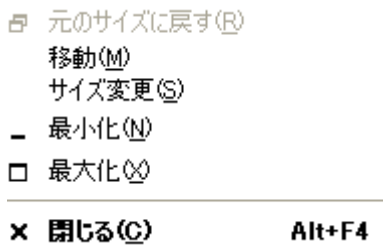
この節では、NetOp Remote Control ユーザー インタフェースで共通する要素のコントロールについて説明します。このセクションには以下のトピックがあります。

- ・ [ウィンドウ コントロール](#)
- ・ [メニューとツールバーのコントロール](#)
- ・ [テーブル コントロール](#)

1.6.1 ウィンドウ コントロール

タイトル バーの左端にアイコンを持つウィンドウは、次のウィンドウ コントロールを共有します。

タイトル バー左アイコンをクリックするか、タイトル バーの任意の位置で右クリックするか、ALT+SPACE キーを押すと、次のウィンドウ コントロール メニューが表示されます。



元のサイズに戻す：このコマンドを選択するか、対応するタイトル バー右端のボタンをクリックすると、最大化 / 最小化されたウィンドウが通常のサイズに戻ります。

移動：このコマンドを選択すると、矢印が付いた + が表示されます。キーボードの矢印ボタンを押すと、ウィンドウが移動します。ENTER キーを押すと、操作が終了します。

注意：ウィンドウは、一般的にはタイトル バーをドラッグして移動します。

サイズ変更：このコマンドを選択すると、矢印が付いた + が表示されます。キーボードの矢印ボタンを押すと、ウィンドウの端に二重の矢印が表示されます。この状態でウィンドウの端を移動すると、ウィンドウのサイズを変更できます。ENTER キーを押すと、操作が終了します。

注意：ウィンドウのサイズは、一般的にはウィンドウの端か隅をドラッグして変更します。

最小化：このコマンドを選択するか、対応するタイトル バー右端のボタンをクリックすると、ウィンドウが最小化されます。ウィンドウは、タスクバーか通知領域のボタンに最小化できます。ウィンドウの作業パネル内では、通常は作業パネルの左下隅に最小化されます。タスクバーに最小化されたウィンドウのボタンをクリックするか、通知領域に最小化されたウィンドウのボタンをダブルクリックすると、ウィンドウが元のサイズに戻ります。

最大化：このコマンドを選択するか、対応するタイトル バー右端のボタンをクリックすると、ウィンドウが最大化されます。

閉じる：このコマンドを選択するか、対応するタイトル バー右端のボタンをクリックするか、ALT+F4 キーを押すか、タイトル バーのアイコンをダブルクリックすると、ウィンドウでの選択が適用されずにウィンドウが閉じます。ロードされていたプログラムのウィンドウである場合は、そのプログラムがアンロードされます。

1.6.2 メニューとツールバーのコントロール

有効なメニュー コマンドは、黒のテキストで表示されます。現在の選択に対しては無効なメニュー コマンドは、グレーのテキストで表示されます。ウィンドウがアクティブな場合は、マウス ポインタをコマンド上に置くとヒントがステータス バーに表示されます。ステータスが オン / オフ に切り替わるコマンドには、チェックマークかアイコンが表示されることがあります。チェックマークが付けられるかアイコンが押された状態に表示される場合は、ステータスはオンです。コマンドを選択すると、ステータスがオフに切り替わります。コマンドを実行すると、メニューが閉じます。

1.6 共通するコントロール

ツールバーの左端をドラッグすると、ツールバーをメニューバー下のデフォルト位置から、ウィンドウの別の辺に沿った位置（メニューバーの下、ステータスバーの上）に移動できます。また、ウィンドウ外側の任意の位置に移動できます。

有効なツールバーボタンはカラーで表示されます。現在の選択に対しては無効なツールバーボタンは、グレーで表示されます。ウィンドウがアクティブな場合は、マウスポインタをツールバーボタン上に置くとヒントがボタン名と共に表示され、またヒントがステータスバーに表示されます。ステータスがオン/オフに切り替わるツールバーボタンは、押された状態で表示されることがあります。押された状態で表示される場合、ステータスはオンです。ボタンをクリックすると、ステータスがオフに切り替わります。

1.6.3 テーブルコントロール

一般的には、これらのコントロールはウィンドウペイン内のテーブルで使用できます。

ペインのサイズを変更するには、ウィンドウの境界線をドラッグしてウィンドウのサイズを変更します。列の幅を変更するには、そのヘッダの右境界線をドラッグします。列のヘッダをクリックすると、レコードを昇順または降順に並べ替えることができます。テーブルの内容がペイン内に入りきらない場合は、スクロールバーが表示されます。

レコードをクリックすると、レコードが選択されて強調表示されます。あるレコードをクリックし、SHIFT キーを押しながら別のレコードをクリックすると、両方のレコードとその間にあるレコードが選択されて強調表示されます。あるレコードをクリックし、CTRL キーを押しながら別のレコードをクリックすると、クリックしたレコードが選択されて強調表示されます。

2 インストール

2.1 概要

2.1 概要

この章では、NetOp Remote Control を Windows オペレーティング システムで動作するコンピュータ上にインストールする方法について説明します。

注意: NetOp Remote Control を他のオペレーティング システムにインストールする場合の手順については、『**管理者マニュアル**』の章「**その他のオペレーティング システム**」で説明しています。

このマニュアルには、次のセクションが含まれます。

- ・ [パッケージの内容](#)
- ・ [要件](#)
- ・ [インストール](#)
- ・ [その他のインストール方法](#)

2.2 パッケージの内容

ライセンス版の NetOp Remote Control を購入したとき、同パッケージには NetOp Remote Control CD、『**クイック ガイド**』、ライセンス証明書、および登録カードが含まれています。

NetOp Remote Control CD には、利用可能な言語版の NetOp Remote Control プログラム、マニュアル、および追加リソースが収録されています。

『**クイック ガイド**』には、インストールとスタートアップのガイドが記載されています。

ライセンス証明書には、使用許諾された NetOp Remote Control モジュールの名前と、インストール時に入力しなければならないライセンス番号が記載されています。ライセンス証明書は、ライセンスを証明するものなので、安全な場所に保管してください。ライセンス番号は、使用許諾された製品に固有のもので、使用許諾されたモジュールを同時に実行できる数を指定します。

登録カードを使用するか、Web サイト ([NetOp 製品登録](#)) からオンラインで NetOp ソフトウェアを登録してください。登録しておくこと、ライセンス証明書を紛失した場合や、製品を新しいバージョンにアップグレードしたい場合に便利です。

2.3 要件

NetOp Remote Control を Microsoft Windows オペレーティング システムで動作するコンピュータ上にインストールし、使用するには、次のシステム要件を満たしていることが必要です。

コンピュータ	Intel Pentium プロセッサまたはそれ以上のプロセッサを搭載したコンピュータ、または 100 % 互換性のあるコンピュータ。
メモリ	ゲスト : OS 要件に 16 MB を追加 (32 MB 以上推奨) その他のモジュール : OS 要件に 12 MB を追加 (16 MB 以上推奨)
プラットフォーム	Windows Server 2003 Standard、Enterprise、Web Edition Windows XP Professional、Tablet PC Edition、Home Edition Windows 2000 Server、Advanced Server Windows 2000 Terminal Services Windows 2000 Professional Windows NT 4.0 Terminal Server (SP4) Windows NT Server 4.0 (SP4) Windows NT Workstation 4.0 (SP4) Windows ME、98、95

注意: Windows Server 2003、XP、2000、NT で動作するコンピュータに NetOp Remote Control をインストールする場合は、Windows の管理者権限が必要です。

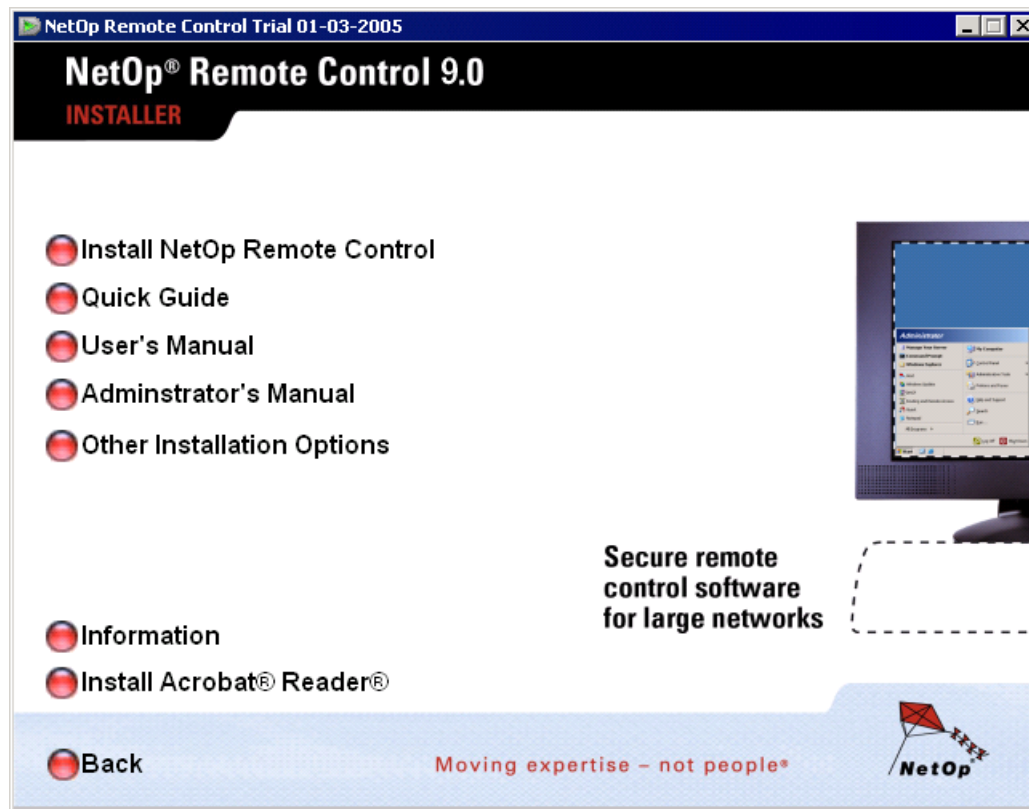
インストールを開始する前に、NetOp Remote Control CD のルート ディレクトリにある *ReadMe.txt* ファイルを読んでください。このファイルには、重要な一般情報、およびこのマニュアルの編集時には入手できなかった最新情報が記載されています。

2.4 インストール

NetOp Remote Control CD をコンピュータの CD ドライブに挿入します。言語ボタンを持つウィンドウが表示されます。

注意：言語ボタンを持つウィンドウが自動的に表示されない場合は、CD のルート ディレクトリにある *SETUP.EXE* をダブルクリックしてウィンドウを表示してください。

[English] をクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



[Windows インストーラ](#)を使用してモジュールをインストールする場合は、[インストール] <モジュール名>をクリックします。こうすると、不要なサブ機能をインストール対象から除外できます。

[従来の InstallShield](#) を使用して NetOp Remote Control をインストールする場合は、[その他のインストール オプション] をクリックして [InstallShield] をクリックします。

注意：インストールできるのは、ライセンスを所持しているモジュールに限られます。

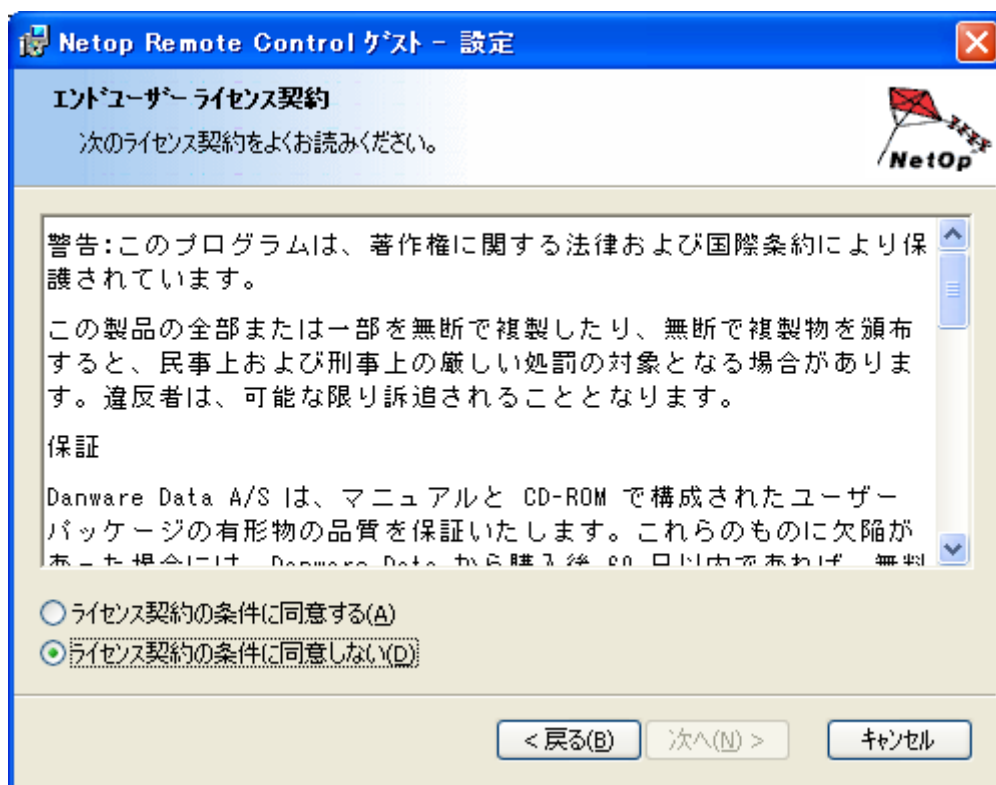
2.4 インストール

2.4.1 Windows インストーラ

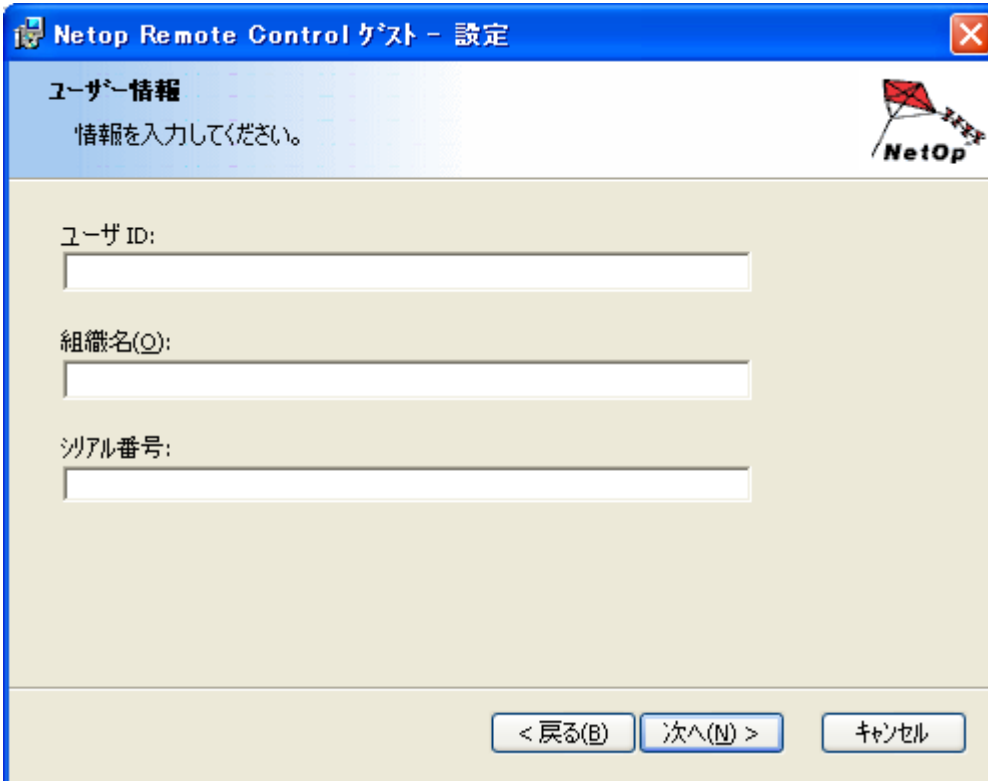
Windows インストーラによるインストールを開始すると、次のウィンドウが表示されます。
よろこ



[次へ >] をクリックして、次のウィンドウを表示します。



スクロール ペイン内のライセンス契約を読みます。[ライセンス契約の条件に同意する]を選択すると、[次へ >] ボタンがクリック可能になります。[次へ >] をクリックして、次のウィンドウを表示します。



各フィールドにデータを入力します。

ユーザ ID : []: ユーザ ID を入力します。

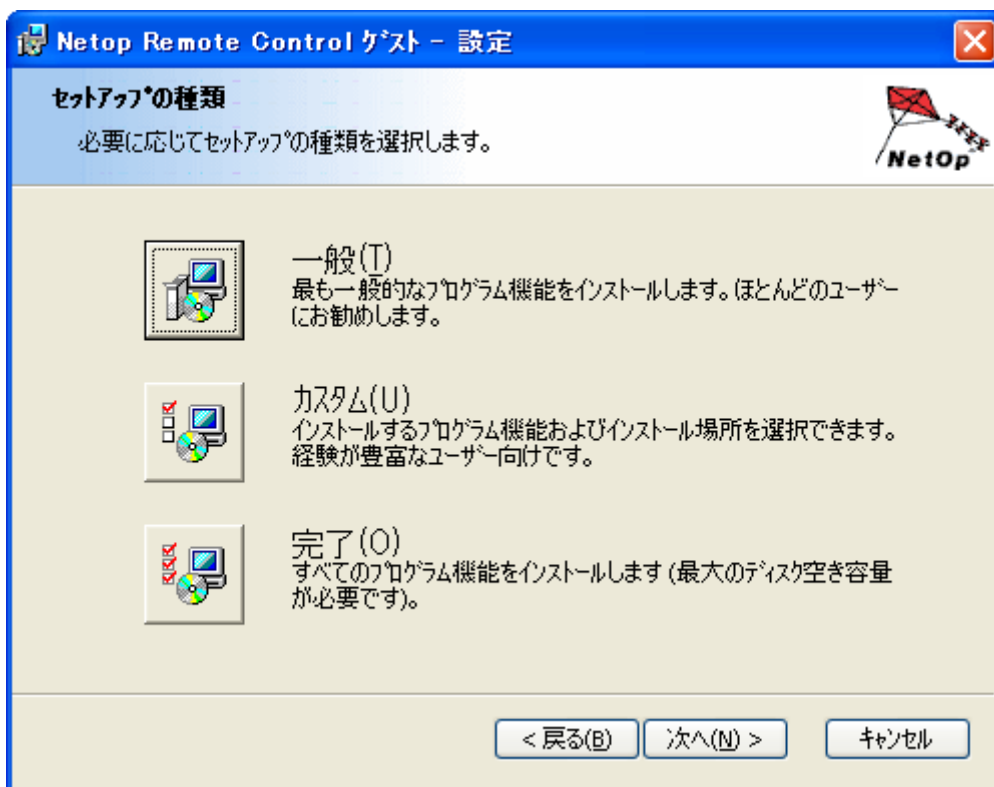
組織名 : []: ライセンスが供与されているユーザー名を指定します。

シリアル番号 : []: ライセンス番号を入力します。

注意: 無効なライセンス番号を指定した場合は、[次へ >] をクリックした後で、間違いを修正するように要求されます。

2.4 インストール

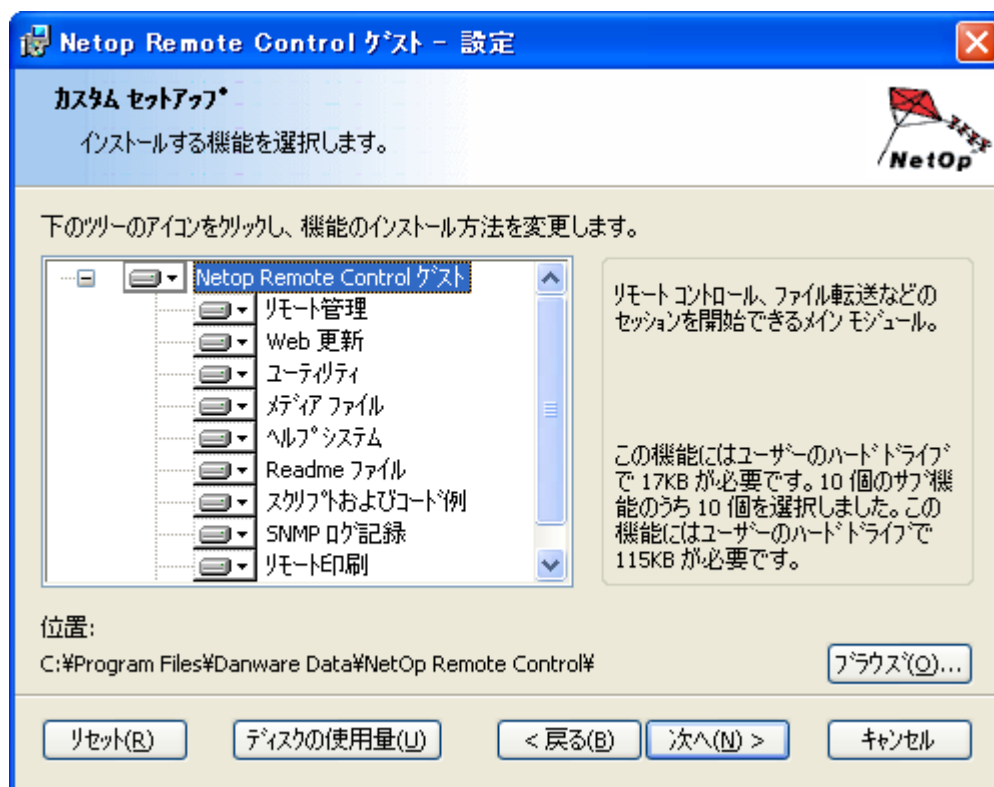
[次へ >] をクリックして、次のウィンドウを表示します。



すべてのプログラム機能をインストールする場合は、[一般] または [完了] を選択した後、[次へ >] をクリックして [Windows のファイアウォール設定](#) ウィンドウを表示します。

[カスタム] を選択して [次へ >] をクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

カスタム セットアップ



このウィンドウでは、不要なサブ機能をインストール対象から除外できます。デフォルトでは、すべてのサブ機能がインストールされます。インストールするサブ機能とインストールしないサブ機能を選択してください。次の表に利用可能なサブ機能を示します。

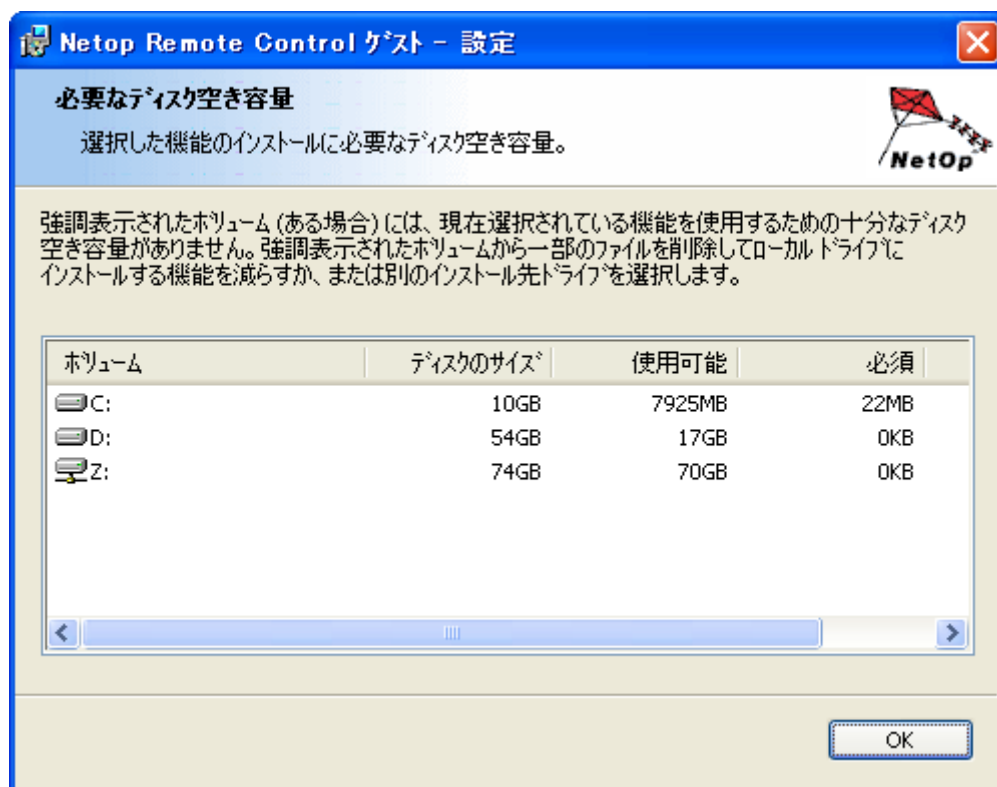
サブ機能	右記のモジュールで利用可能： 機能	Guest	Host	セキュリティ サーバ	ゲート ウェイ	ネーム サーバ
リモート管理	リモート管理を有効にする。	●	●	●	●	●
Web 更新	Web 更新を有効にする。	●	●	●	●	●
ユーティリティ	モジュールを再表示できるようにする。	●	●	●	●	●
メディア ファイル	サウンド ファイルとアニメーション ファイルが収録されている。	●	●	●	●	●
ヘルプ システム	ヘルプ システムが収録されている。	●	●	●	●	●
Readme ファイル	Readme ファイルが収録されている。	●	●	●	●	●
スクリプトおよびコード例	スクリプトとコードのサンプルが収録されている。	●				
SNMP ログ記録	SNMP ログ記録を有効にする。	●	●	●	●	●
リモート印刷	リモート印刷を有効にする。	●	●	●	●	●
ActiveX コンポーネント	ActiveX スクリプトを有効にする。	●				
マーカー モード	NetOp マーカーを有効にする。		●	●	●	●
高度な機能用ドライバ	リモート制御コマンドを有効にする。		●	●	●	●
コマンド モード転送	コマンド モード画像転送を有効にする。		●	●	●	●
セキュリティ マネージャ	NetOp セキュリティ マネージャをインストールする。			●		
コードのサンプル	セキュリティ コードのサンプルが収録されている。			●		

2.4 インストール

注意：サブ機能の選択を変更するには、セットアップ ウィザードを再実行します。詳細は[インストールの変更またはアンインストール](#)を参照。

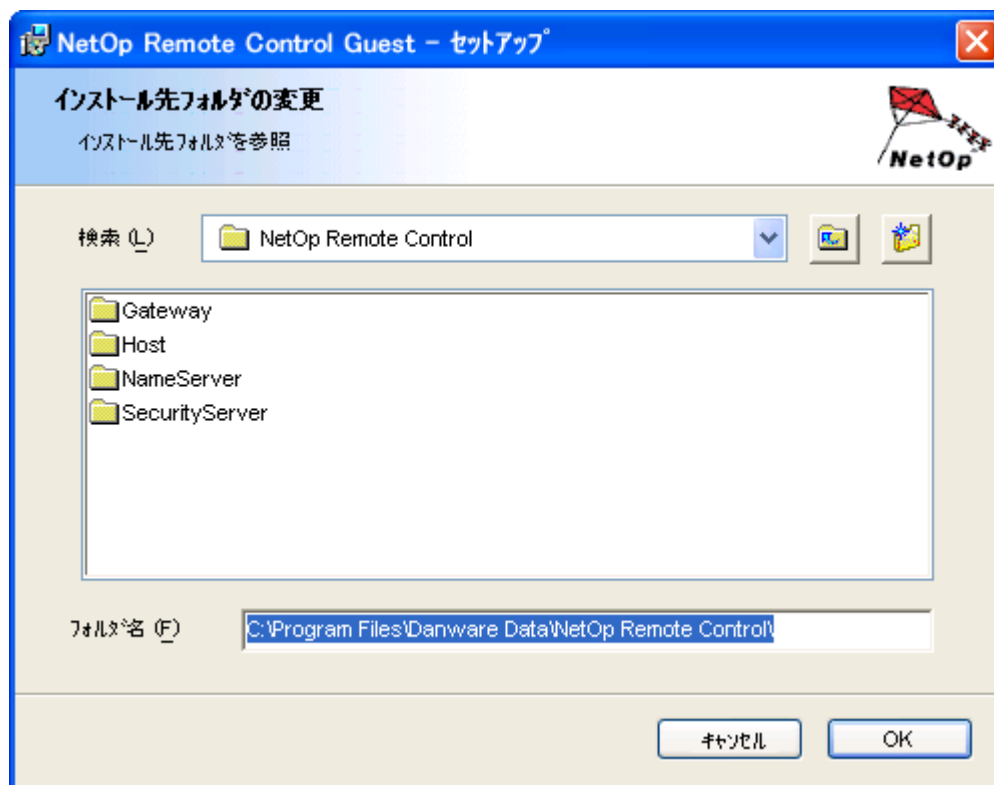
最初のデフォルト選択に戻すには、[リセット] をクリックします。

[ディスク使用率] をクリックして、次のウィンドウを表示します。



このウィンドウにはディスク ボリュームの一覧が表示され、各ディスクの総容量と利用可能なディスク容量、選択したコンポーネントのインストールに必要なディスク容量が示されます。[OK] をクリックすると、ウィンドウが閉じます。

[参照] をクリックして、次のウィンドウを表示します。

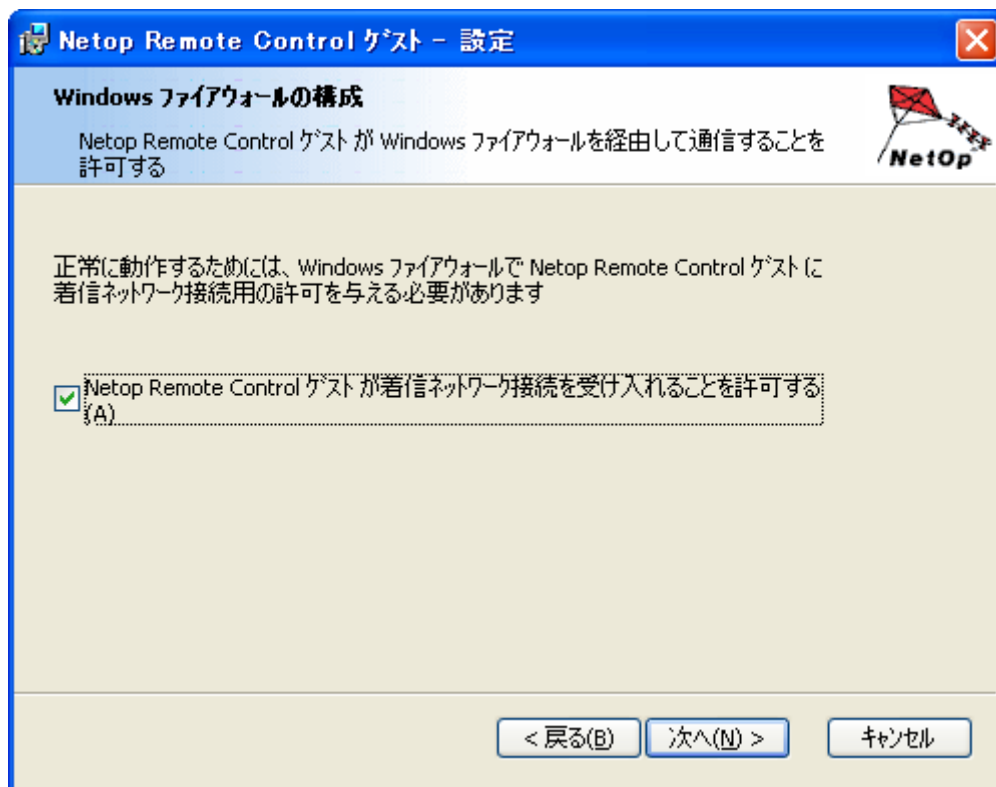


このウィンドウには、システム上のフォルダの名前、各フォルダの内容、選択したインストール先フォルダのパス名が表示されます。ドロップダウン ボックスのボタンをクリックすると、利用可能なフォルダが表示されます。このボタンからフォルダ構造を上下に移動して、新しいフォルダを作成できます。インストール先フォルダを選択してそのパス名を表示し、[OK] をクリックすると、選択したフォルダが確定します。

[カスタム セットアップ](#) ウィンドウ内で適切なコンポーネントを選択できたら、[次へ >] をクリックして、次のウィンドウを表示します。

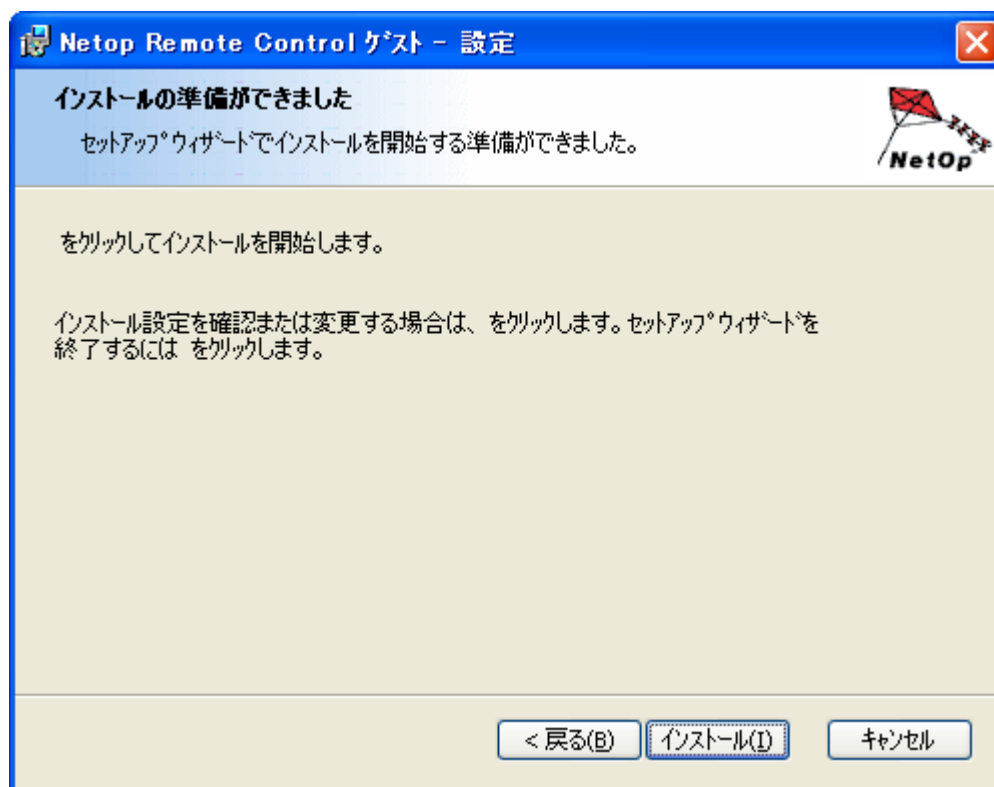
2.4 インストール

Windows のファイアウォール設定



NetOp 通信を許可するよう Windows のファイアウォール設定を変更するために、このボックスはチェックマークを付けたままにします。[次へ >] をクリックして、次のウィンドウを表示します。

インストールの準備完了



[インストール] をクリックして、インストールを開始します。インストールが完了すると、次のウィンドウが表示されます。



インストール後にモジュールが読み込まれるように、このボックスはチェックマークを付けたままにします。[完了] をクリックして、セットアップウィザードを終了します。

2.4 インストール

2.4.1.1 インストールの変更またはアンインストール

Windows インストーラでインストールしたプログラムの変更またはアンインストールを行うには、[\[スタート\]](#) > ([\[設定\]](#)) > [\[コントロール パネル\]](#) > [\[プログラムの追加と削除\]](#) を選択するか、セットアップ ウィザードを再実行します。

[\[プログラムの追加と削除\]](#) ウィンドウ内で、インストール済みのプログラムを選択し、[\[変更\]](#) をクリックするかセットアップ ウィザードを再実行して、[ようこそ](#) ウィンドウを表示します。[\[次へ >\]](#) をクリックして、次のウィンドウを表示します。



どの機能をインストールするのかわるを変更し、[Windows インストーラ](#)の方式でインストールを完了するには、[\[変更\]](#) をクリックして[カスタム セットアップ](#) ウィンドウを表示します。

[Windows インストーラ](#)の方式で再インストールを実行するには、[\[修復\]](#) をクリックして、[インストールの準備完了](#) ウィンドウと似た [\[NetOp Remote Control の修正\]](#) ウィンドウを表示します。

注意：[\[変更\]](#) または [\[修正\]](#) を実行するには、インストール ファイルを用意しておく必要があります。

[Windows インストーラ](#)の方式でアンインストールを実行するには、[\[削除\]](#) をクリックして、[インストールの準備完了](#) ウィンドウと似た [\[NetOp Remote Control の削除\]](#) ウィンドウを表示します。

小さいウィンドウ内でプログラムをアンインストールする場合は、[\[プログラムの追加と削除\]](#) ウィンドウ内で、インストール済みのプログラムを選択し、[\[削除\]](#) をクリックします。

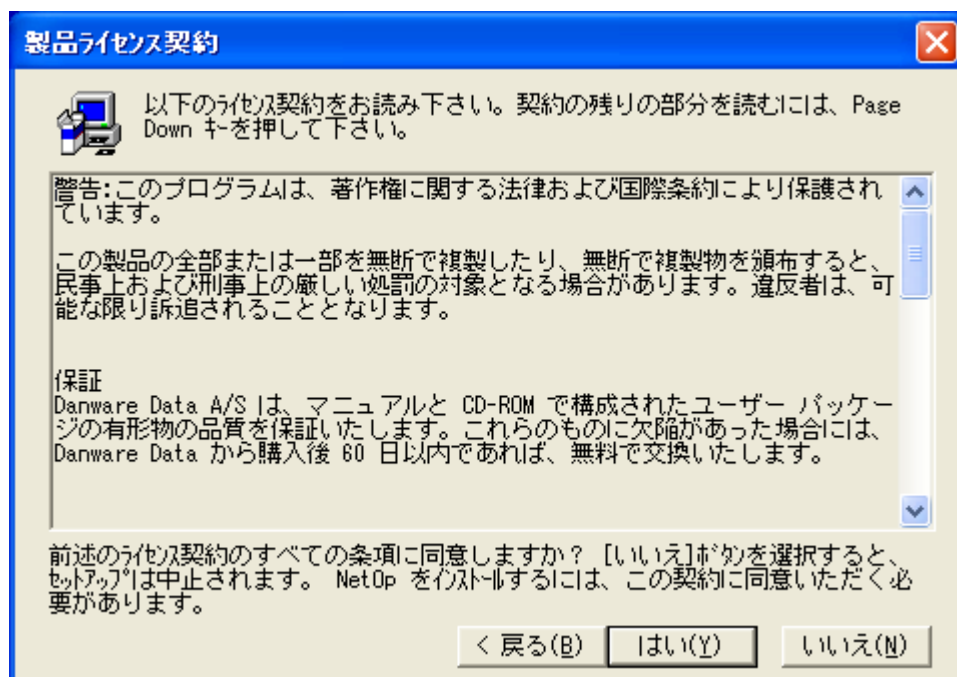
注意：変更または削除を行っても、ユーザー設定ファイルは影響を受けません。詳細は [NetOp の設定ファイル](#) を参照。

2.4.2 従来の InstallShield

従来の InstallShield によるインストールを開始すると、次のウィンドウが表示されます。



[次へ >] をクリックして、次のウィンドウを表示します。



ライセンス契約の内容を確認し、[はい] をクリックして先に進みます。通常のインストールでは、[登録](#)ウィンドウが表示されます。

2.4 インストール

インストール ファイルに LICENSE.DAT (Guest と Host の同時インストールを可能にするファイル) が含まれている場合は、次のウィンドウが表示されます。

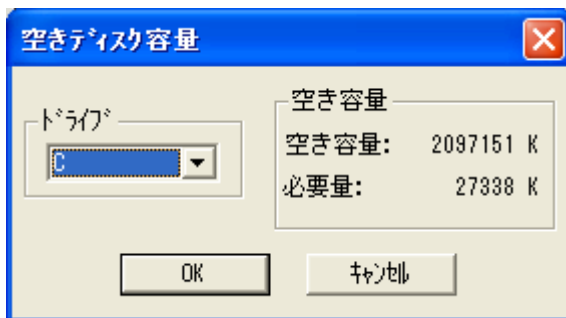
インストールするコンポーネントの選択



NetOp ゲストおよび NetOp ホスト (拡張ホスト) の両方をインストールする場合は、ウィンドウ内の 2 つのボックスにチェックマークを付けたままにします。どちらか一方のモジュールのみをインストールする場合は、該当のチェックマークを外します。

[インストール先のフォルダ] セクションには、デフォルトのインストール先フォルダのパス名が表示されます。Windows [フォルダ選択] ウィンドウで別のインストール先フォルダを選択する場合は、[参照] をクリックします。

[必要な容量] と [現在の空き容量] には、[インストール先のフォルダ] セクションで指定したフォルダについて、インストールに必要なディスク容量と現在利用可能なディスク容量が表示されます。[ディスク容量] をクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



このウィンドウでは別のディスク ドライブを選択し、そのドライブで利用できるディスク容量と必要なディスク容量を表示できます。ドライブを選択して [OK] をクリックすると、そのドライブが [インストールするコンポーネントの選択](#) ウィンドウの [インストール先フォルダ] セクションに反映されます。

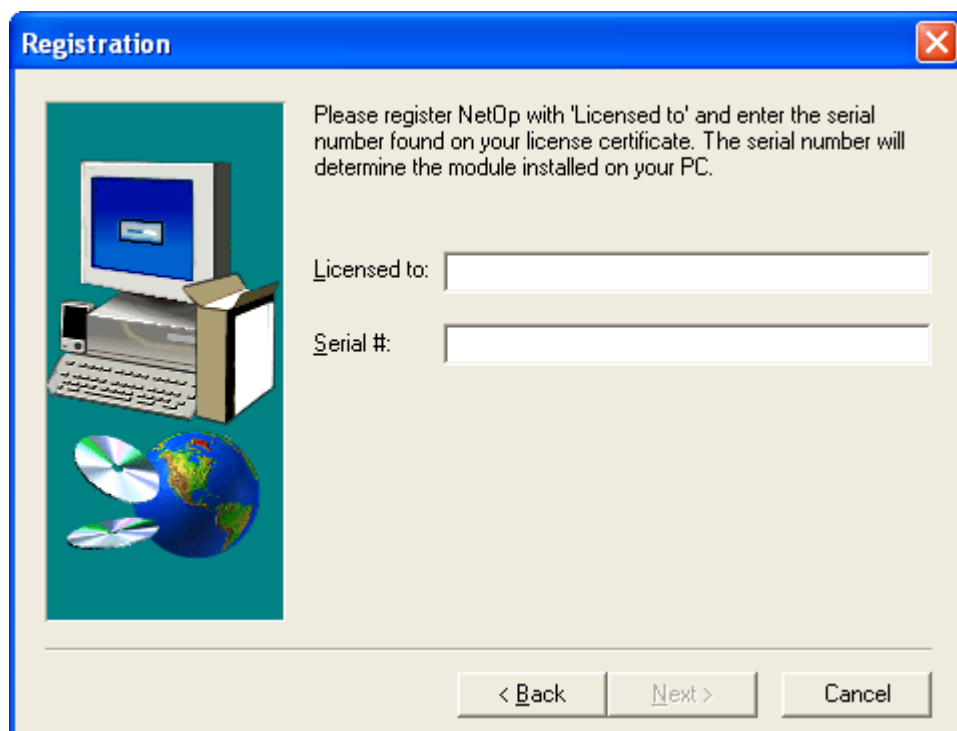
[ホスト ファイル] ボックスのチェックマークを外した場合、[次へ >] をクリックすると、[登録](#) ウィンドウが表示されます。

[ホスト ファイル] ボックスにチェックマークを付けた場合、[次へ >] をクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



インストールするホストの種類を選択して [次へ >] をクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

登録



ライセンス権利者の名前を [ライセンス先] フィールドに入力し、インストールするモジュールのライセンス番号を [シリアル番号] フィールドに入力します。

2.4 インストール

注意：無効なライセンス番号を指定した場合は、[次へ >] をクリックした後で、間違いを修正するように要求されます。

インストールするコンポーネントの選択 ウィンドウで両方のボックスにチェックマークを付けた場合は、上記のウィンドウに [ゲスト シリアル番号] フィールドと [ホスト シリアル番号] フィールドが表示されます。両方のフィールドにライセンス番号を入力してください。コンピュータに以前にインストールされた NetOp ソフトウェアが見つかった場合は、[次へ >] をクリックした後で、[既存のソフトウェアのアップデート] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内のオプションは重要ではありません。[次へ >] をクリックして、**プログラム フォルダの選択** ウィンドウを表示してください。

[次へ >] をクリックして、次のウィンドウを表示します。

インストール先の選択



[インストール先のフォルダ] セクションには、デフォルトのインストール先フォルダのパス名が表示されます。Windows [フォルダ選択] ウィンドウで別のインストール先フォルダを選択する場合は、[参照] をクリックします。

コンピュータに以前にインストールされた NetOp ソフトウェアが見つかった場合は、[次へ >] をクリックした後で、[既存のソフトウェアのアップデート] ウィンドウが表示されます。このウィンドウ内のオプションは重要ではありません。[次へ >] をクリックして、次のウィンドウを表示します。

プログラム フォルダの選択



このウィンドウでは、[スタート] > [(すべての) プログラム] を選択したときに NetOp プログラム コマンドが表示されるプログラム フォルダを指定します。通常は、表示されたプログラム フォルダ (NetOp Remote Control) をそのまま使用します。

[次へ >] をクリックして、[ファイルのコピー開始](#)ウィンドウを表示します。コンピュータ上で Windows ファイアウォールが動作している場合は、次のウィンドウが表示されます。



NetOp 通信を許可するよう Windows のファイアウォール設定を変更するために、このボックスはチェックマークを付けたままにします。[次へ >] をクリックして、次のウィンドウを表示します。

2.4 インストール

ファイルのコピー開始



このペインには、以前のウィンドウで選択したコンポーネントのファイルが表示されます。前のウィンドウに戻って選択内容を変更する場合は、[< 戻る] をクリックします。

[次へ >] をクリックして、インストールを開始します。インストールが完了すると、次のウィンドウが表示されます。

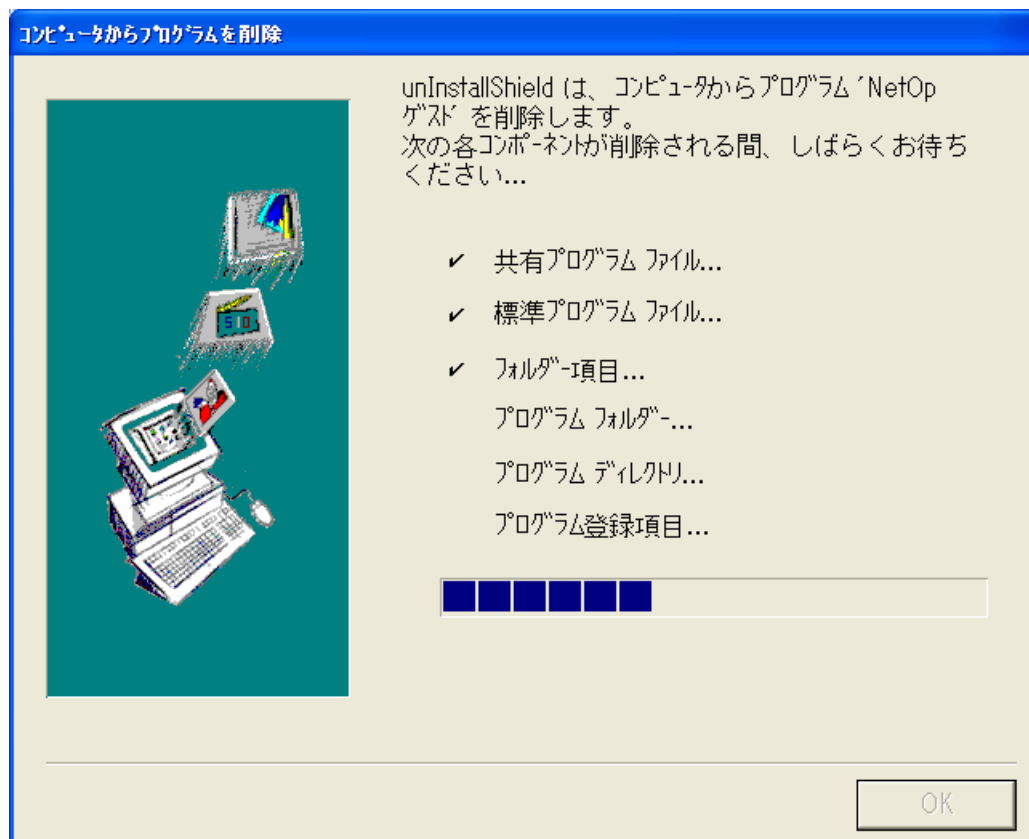


[完了] をクリックすると、インストール作業が終了してプログラム フォルダ ウィンドウが表示されます。インストールしたモジュールは、このウィンドウから起動できます。

2.4.2.1 インストールの変更またはアンインストール

従来の InstallShield でインストールしたプログラムの変更または修正を行うには、インストール済みのモジュールに対してセットアップ プログラムを再実行します。その際、インストールファイルが必要です。

従来の InstallShield でインストールしたプログラムを削除（アンインストール）するには、**[スタート] > ([設定] >) [コントロール パネル] > [プログラムの追加と削除]** を選択して、**[プログラムの追加と削除]** ウィンドウを表示します。インストール済みのモジュールを選択し、**[変更/削除]** をクリックして削除を確認すると、進行状況が次のウィンドウに表示されます。



処理が完了したら、**[OK]** をクリックしてウィンドウを閉じます。

注意： 変更または削除を行っても、ユーザー設定ファイルは影響を受けません。詳細は [NetOp の設定ファイル](#) を参照。

2.5 その他のインストール方法

次のような方法で NetOp Remote Control CD からインストールを行うこともできます。

- ・ [ディレクトリからのインストール](#)
- ・ [自動インストール](#)
- ・ [NetOp インストール ユーティリティ](#)
- ・ [ターミナル サーバー](#)

2.5.1 ディレクトリからのインストール

ディレクトリ（通常はネットワーク ドライブ上のディレクトリ）からインストールするには、CD の `%NRC%\WINDOWS\INSTALL.WI%<Language>` ディレクトリ（Windows インストーラを使用する場合）または `%NRC%\WINDOWS\INSTALL%<Language>` ディレクトリ（従来の InstallShield を使用する場合）の全内容を宛先のディレクトリにコピーします。

インストール ファイルがコピーされたディレクトリを選択し、`setup.exe` を実行してインストールを開始します。

2.5 その他のインストール方法

2.5.2 自動インストール

自動インストールでは、ユーザーが最小限の操作を行うだけで、Windows コンピュータに NetOp Remote Control モジュールをインストールして、NetOp ホストを設定できます。詳細については、『**管理者マニュアル**』の章「高度なツール」の節「自動インストール」を参照してください。

2.5.3 NetOp インストール ユーティリティ

NetOp インストール ユーティリティを使用すると、ローカル ユーザーが操作を行わなくても、管理者が NetOp Remote Control モジュールのインストールとアップグレードを実行し、リモートホスト上の複数の Windows コンピュータ上で NetOp ホストを設定できます。詳細については、『**管理者マニュアル**』の章「高度なツール」の節「NetOp インストール ユーティリティ」を参照してください。

2.5.4 ターミナル サーバー

ターミナル サーバー コンピュータ上に NetOp Remote Control をインストールするには特別な注意が必要です。詳細については、『**管理者マニュアル**』の章「高度なツール」の節「ターミナルサーバー環境における NetOp の使用」を参照してください。

3 NetOp ゲスト

3.1 概要

3.1 概要

この章では、Windows オペレーティング システム上で稼働するコンピュータ上の NetOp ゲストの機能について説明します。

注意 : Linux または Solaris オペレーティング システム上で稼働するコンピュータ上の NetOp ゲストの機能も同様です。その他のオペレーティング システムにおける NetOp ゲストの詳細については、『**管理者マニュアル**』の「**他のオペレーティング システム**」の章を参照してください。

NetOp ゲスト ActiveX コンポーネントの詳細については、『**管理者マニュアル**』の「**高度なツール 群**」の章にある「**NetOp ゲスト ActiveX コンポーネント**」セクションを参照してください。

NetOp ゲストを使用すると、[NetOp ホスト](#)または拡張ホスト (NetOp セキュリティ サーバー、NetOp ゲートウェイ、NetOp ネーム サーバー、『**管理者マニュアル**』の該当する章を参照) が稼働している別のコンピュータをリモート コントロールしたり、そのコンピュータと対話したりすることができます。

この章には、以下のセクションがあります。

- ・ [読み込みとアンロード](#)
- ・ [接続ガイド](#)
- ・ [ホストのセキュリティ ガイド](#)
- ・ [NetOp ゲスト ウィンドウ](#)
- ・ [ゲスト ツール](#)
- ・ [ゲストのセッション](#)
- ・ [セッションのツール](#)
- ・ [ゲスト アクション](#)

3.2 読み込みとアンロード

NetOp ゲストのインストールについては、[インストール](#)を参照してください。

NetOp ゲストを読み込むには、`[スタート] > [プログラム] > [NetOp Remote Control] > [ゲスト]`、または、インストール中に指定したその他のゲスト プログラムのコマンド パスを選択します。

その他の読み込み方法については、[その他の読み込み方法](#)を参照してください。

NetOp ゲストを初めて読み込む場合、`[NetOp Guest]` ウィンドウの前に[セットアップ ウィザード](#)が表示されます。

以前に NetOp ゲストを読み込んだことがある場合、[NetOp ゲスト ウィンドウ](#)が表示されます。

NetOp ゲストをアンロードするには、[ウィンドウ コントロール](#)の `[閉じる]` ボタンをクリックするか、対応する[ウィンドウ コントロール](#) コマンドを選択するか、[NetOp ゲスト ウィンドウ \[ファイル\] メニュー](#)の `[終了]` コマンドを選択するか、ALT+F4 キーを押します。

3.2.1 その他の読み込み方法

その他に、NetOp ゲストを読み込むには、次の方法があります。

1. Windows XP の `[スタート]` メニューで、`[スタート]` メニューまたは最も頻繁に使用されているプログラムのリストから `[ゲスト]` を選択します。
2. デスクトップに `NGSTW32.EXE` へのショートカットを作成し、このショートカットをダブルクリックします。
3. NetOp ゲストがインストールされているディレクトリ (通常、`C:\Program Files\Danware Data\NetOp Remote Control\Guest`) にある `NGSTW32.EXE` を実行 (ダブルクリック) します。

4. Windows の [ファイル名を指定して実行] ウィンドウまたは [コマンド プロンプト] ウィンドウで、*NGSTW32.EXE* のパスとファイル名を指定したコマンドを実行します。何らかの NetOp ゲスト アクションを実行するために、以下のスイッチをコマンドに追加することができます。各スイッチの前には、スペースを 1 つ挿入します。

スイッチ	機能
/A:	接続されているホストと オーディオビデオ チャット セッションを開始します。
/B:< 記録ファイルのパスと名前 >	< 記録ファイルのパスと名前 > を再生します。このスイッチは、他のスイッチと組み合わせて使用しないでください。
/C:< 通信プロファイル >	< 通信プロファイル > を使用して、スイッチ /H: または /P: で指定されたホストに接続します。
/D:	接続されているホストとの接続を切断します。このスイッチは、他のスイッチと組み合わせて使用しないでください。
/E:< 電話帳ファイルのパスと名前 >	< 電話帳ファイルのパスと名前 > の 接続のプロパティ を表示します。セッション スイッチ (/A:、/F:、/G:、/R:、/V:) と組み合わせる場合は、< 電話帳ファイルのパスと名前 > のホストとこのセッションを開始します。
/F:	接続されているホストと ファイルの転送 セッションを開始します。
/G:	接続されているホストと リモート管理 セッションを開始します。
/H:< ホスト名 >	有効なネットワーク通信プロファイルを使用して、< ホスト名 > のホストに接続します。スイッチ /C: で指定されている場合は、その通信プロファイルを使用して接続します。
/LGD:< ゲートウェイのログオン ドメイン >	接続用の NetOp ゲートウェイと接続する際、ログオンするための < ゲートウェイのログオン ドメイン > を指定します。
/LGN:< ゲートウェイのログオン名 >	接続用の NetOp ゲートウェイと接続する際、ログオンするための < ゲートウェイのログオン名 > を指定します。
/LGN:< ゲートウェイのログオン パスワード >	接続用の NetOp ゲートウェイと接続する際、ログオンするための < ゲートウェイのログオン パスワード > を指定します。
/LHD:< ホストのログインしているドメイン >	ホストと接続する際、ログインするための < ホストのログインしているドメイン > を指定します。
/LHN:< ホストのログイン名 >	ホストと接続する際、ログインするための < ホストのログイン名 > を指定します。
/LHP:< ホストのログイン パスワード >	ホストと接続する際、ログインするための < ホストのログイン パスワード > を指定します。
/M: [< 記録ファイルのパスと名前 >]	このスイッチを /R: と組み合わせると、リモート コントロール セッションを記録できます。< 記録ファイルのパスと名前 > が指定されていない場合は、 NetOp の設定ファイル の [record] ディレクトリに、< タイム スタンプ > < ゲスト ID > < ホスト ID > .dwr という名前の記録ファイルが保存されます。
/P:< 電話番号または IP アドレス >	有効なポイントツーポイント通信プロファイルを使用して、< 電話番号または IP アドレス > のホストに接続します。スイッチ /C: で指定されている場合は、その通信プロファイルを使用して接続します。
/R:	接続されているホストと リモート コントロール セッションを開始します。
/S:< スクリプト ファイルのパスと名前 >	< スクリプト ファイルのパスと名前 > を実行します。このスイッチは、他のスイッチと組み合わせて使用しないでください。
/V:	接続されているホストと チャット セッションを開始します。
/X:< 画面左端からのピクセル数 > [, < 画面上端からのピクセル数 > [, < 幅のピクセル数 > [, < 高さのピクセル数 >]]	このスイッチを /R: と組み合わせると、 リモート コントロール に対して、デフォルトとは異なる位置とサイズを指定できます。

3.2 読み込みとアンロード

注意：NetOp ゲストを別のアプリケーションから読み込んだり、制御したりするには、同じコマンド構造を使用します。

例

```
<NetOp ゲスト プログラムのパスとファイル> /E:"C:\Documents and Settings\Administrator\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Guest\PhBook\John.dwc" /R:/M:
```

説明：ゲストを読み込み、電話帳エントリ ファイルが *John.dwc* のホストに接続します。このファイルは管理者の NetOp 設定ファイルの *PhBook* ディレクトリにあり、リモート コントロール セッションを開始し、セッションを記録して、記録ファイルをデフォルト名でデフォルトの場所に保存します。

```
<NetOp ゲスト プログラムのパスとファイル> /C:TCP/IP /H:Peter /F:
```

説明：ゲストを読み込んで、通信プロファイルに *TCP/IP* を使用して、*Peter* という名前のホストに接続し、ファイル転送セッションを開始します。

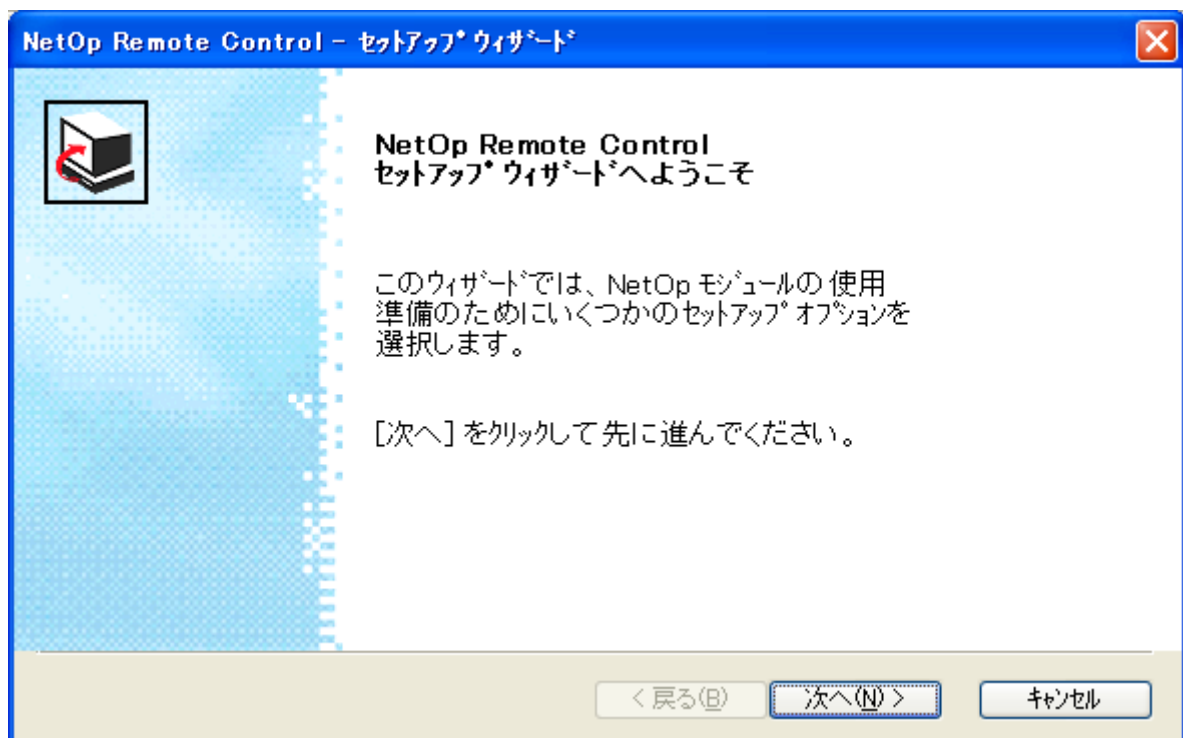
```
<NetOp ゲスト プログラムのパスとファイル> /S:"C:\SCRIPTS\MY SCRIPT.DWS"
```

説明：ゲストを読み込んで、*C* ドライブの *SCRIPTS* ディレクトリにあるスクリプト ファイル *MY SCRIPT.DWS* を実行します。

注意：スイッチのパスと名前にスペースや特殊文字が入っている場合は、そのパスや名前を二重引用符で囲む必要があります。

3.2.2 セットアップ ウィザード

NetOp ゲストを初めて読み込んだ場合、[NetOp ゲスト] ウィンドウの前に次のウィンドウが表示されます。

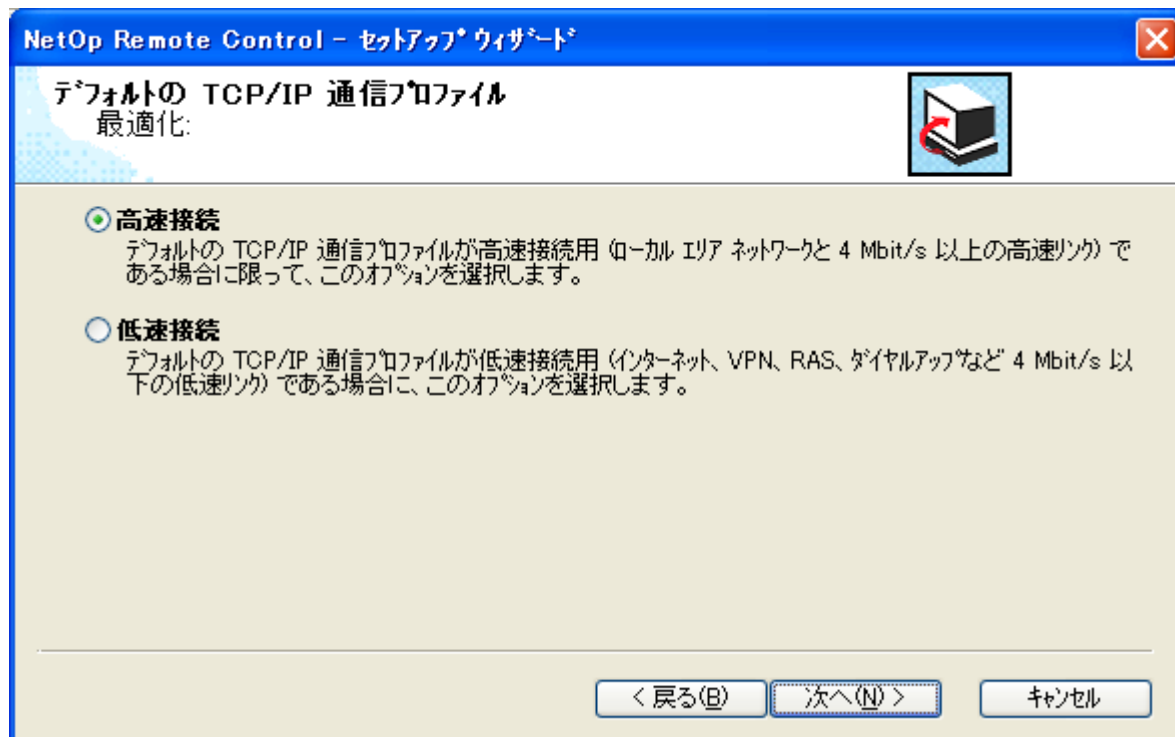


注意：デフォルトでは、NetOp ゲストのセットアップは、Windows にログオンしたユーザーごとに個別になります。[NetOp の設定ファイル](#)を参照してください。

セットアップ ウィザードをスキップするには、[キャンセル] をクリックしてウィンドウを閉じ、デフォルトの設定を適用します。

注意：デフォルトの設定には、ホストに接続するために必要な機能が欠けています。そのため、セットアップ ウィザードを実行することをお勧めします。セットアップ ウィザードは、[ゲストツール](#)の「セットアップ ウィザードの実行」コマンドからいつでも実行することができます。

[次へ >] をクリックして、このウィンドウを表示します。

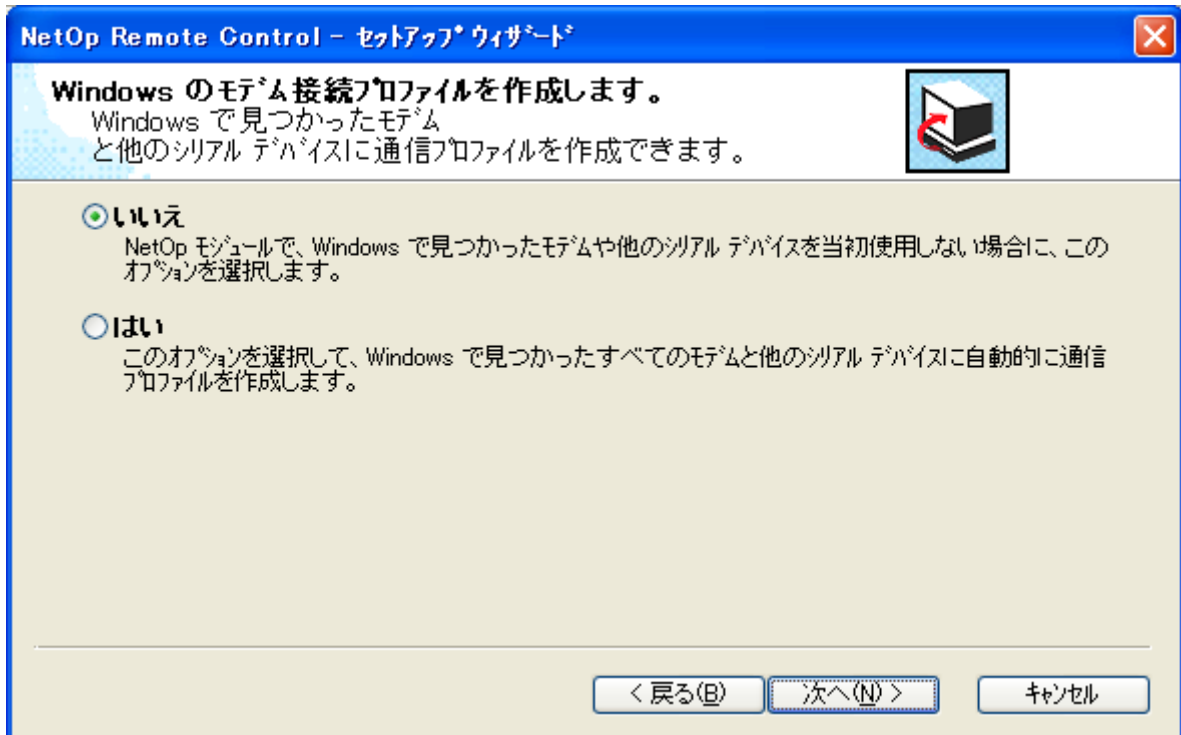


次のどちらかのオプションを選択します。

- 高速接続**：通常、ローカル エリア ネットワーク（LAN）によって接続します（デフォルト設定）。
- 低速接続**：通常、インターネットまたは電話接続によって接続します。

3.2 読み込みとアンロード

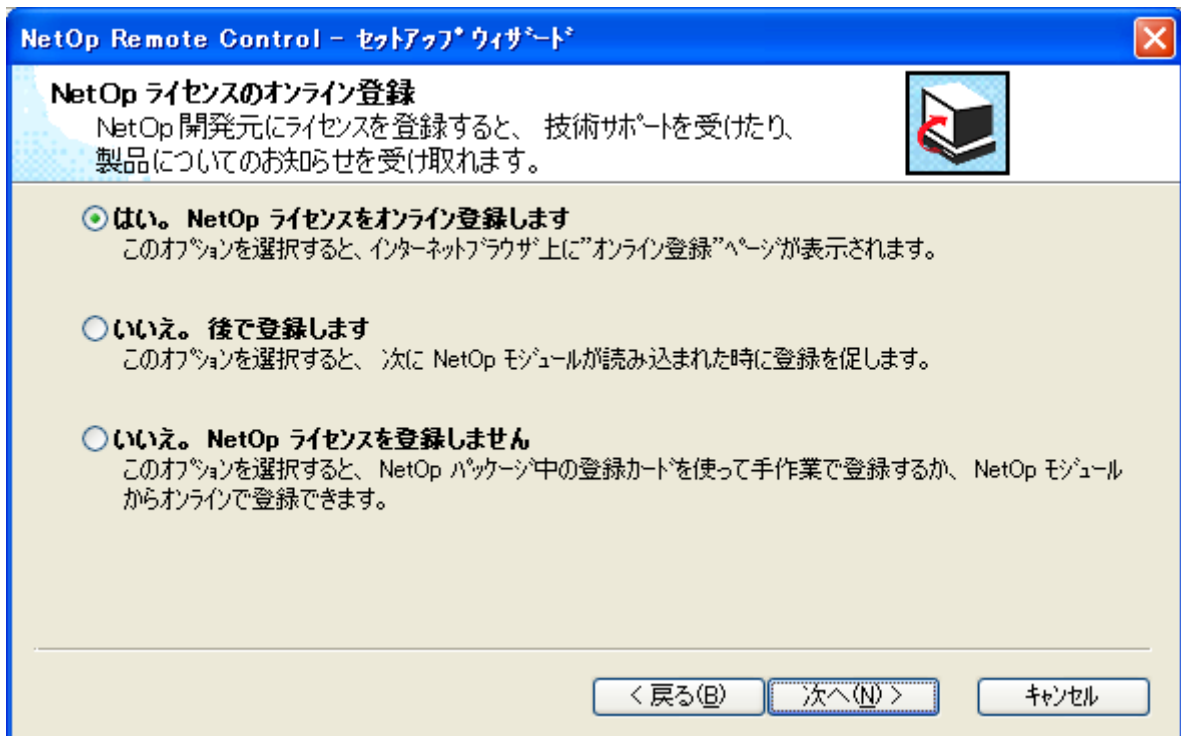
[次へ >] をクリックして、このウィンドウを表示します。



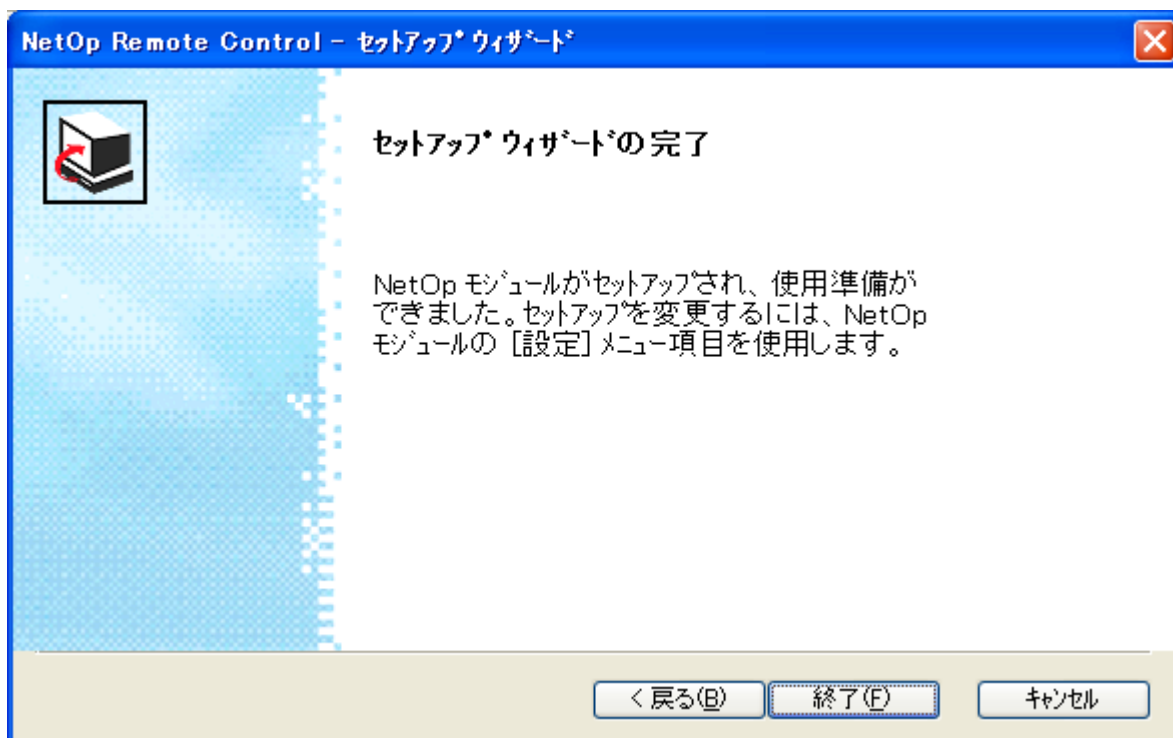
次のどちらかのオプションを選択します。

- いいえ：モデムを使用して通信しません（デフォルト設定）。
- はい：モデムを使用して通信します。

[次へ >] をクリックして、このウィンドウを表示します。



ライセンスを組織内の誰かが登録したか、これから登録する予定でない限り、デフォルトの [はい、NetOp ライセンスをオンライン登録します] の設定をそのまま選択することをお勧めします。 [次へ >] をクリックして、登録のために接続するか、次のウィンドウを表示します。



[終了] をクリックしてウィンドウを閉じ、セットアップ ウィザードを終了します。

3.3 接続ガイド

このガイドには、以下のトピックがあります。

- ・ [リモート コントロール](#)
- ・ [その他のセッション](#)
- ・ [アクション](#)
- ・ [ヘルプ呼出](#)

3.3.1 リモート コントロール

ネットワーク セグメントにあるコンピュータ上のホストと [リモート コントロール](#) セッションを開始するには：

1. [タブ パネルの \[簡易接続\] タブの \[通信プロファイル\] セクション](#)で、ホストで有効になっている通信プロファイルに対応する通信プロファイルを選択します (デフォルト：TCP/IP)。
 2. 稼働中のホストを参照するには、[ボタンの \[参照\]](#) ボタンをクリックします。参照タイムアウトの時間が経過すると、応答したホストの記録が [\[NetOp ネットワーク\] タブ](#)に表示されます。
 3. ホストのレコードをダブルクリックします。通常、ログイン ウィンドウが表示されます。[ゲスト認証](#)を参照してください。ログオン資格を指定して、[OK] をクリックし、ホストに送信して承認を求めます。
 4. ホストがログオン資格を承認した場合、[リモート コントロール](#) ウィンドウが表示されます。ホスト名によっても接続できます。
1. [タブ パネルの \[簡易接続\] タブの \[ホスト\] セクション](#)で、[名前] フィールドにホスト名を指定します。

3.3 接続ガイド

2. ボタンの [\[接続\]](#) ボタンをクリックします。通常、ログイン ウィンドウが表示されます。[ゲスト認証](#)を参照してください。

以前接続したホストに再接続するには、[タブ パネルの \[履歴\] タブのレコード ペイン](#)で、ホストのレコードをダブルクリックします。通常、ログイン ウィンドウが表示されます。[ゲスト認証](#)を参照してください。

ホストのレコードを [\[電話帳\] タブ](#)に追加して、[\[履歴\] タブ](#)からと同様に接続することができます。

1. [\[簡易接続\] タブの \[NetOp ネットワーク\] タブ](#)にあるレコードを右クリックするか、複数のレコードを選択してから右クリックしてから [\[電話帳に追加\]](#) を選択すると、Windows の [\[フォルダの参照\]](#) ウィンドウが開きます。
2. [\[PhBook\]](#) フォルダを選択し、[\[OK\]](#) をクリックすると、選択したレコードが [\[電話帳\] タブの ツリー ペイン](#)にある [\[電話帳\]](#) フォルダの [レコード ペイン](#)に追加されます。

または、[タブ パネルの \[簡易接続\] タブの \[NetOp ネットワーク\] タブ](#)、または [\[履歴\] タブのレコード ペイン](#)からレコードをコピーして、[\[電話帳\] タブのレコード ペイン](#)に貼り付けます。

注意：接続にもっと手間がかかる場合があります。[接続の問題](#)および[ホストのセキュリティ ガイド](#)を参照してください。

3.3.2 その他のセッション

その他に以下のセッションが利用できます。

- ・ [ファイルの転送](#)
- ・ [チャット](#)
- ・ [オーディオビデオ チャット](#)
- ・ [リモート管理](#)

これらのセッションの 1 つをゲスト ウィンドウから開始するには：

1. [タブ パネルの \[簡易接続\] タブの \[NetOp ネットワーク\] タブ](#)で、[\[名前\]](#) の列からホストのレコードをクリックして、[\[ホスト\] セクションの \[名前\]](#) フィールドに名前を入力するか、このフィールドにホスト名を指定するか、[\[電話帳\] タブ](#)または [\[履歴\] タブ](#)にあるホストのレコードを選択します。
2. [ツールバーのセッション ボタン](#)の希望するセッション ボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#)の希望するセッション コマンドを選択します。通常、[共有 NetOp 認証](#)のログイン ウィンドウが表示されます。
3. ログインすると、セッション ウィンドウが表示されます。

注意：[リモート コントロール](#) セッションの間、[リモート コントロール](#) ウィンドウの [ツールバーとツールボックスのセッション ボタン](#)から、他のセッションを開始することができます。

3.3.3 アクション

ホスト コンピュータ上で、次のアクションを実行することができます。

- ・ [プログラムの実行](#)
- ・ [コマンドの実行](#)
- ・ [NetOp メッセージ](#)
- ・ [インベントリの取得](#)

これらのアクションの 1 つをゲスト ウィンドウで実行するには：

1. [\[簡易接続\] タブの \[NetOp ネットワーク\] タブ](#)で、[\[名前\]](#) の列からレコードを選択して [\[ホスト\] セクションの \[名前\]](#) フィールドに名前を入力するか、このフィールドにホスト名を指定するか、[\[電話帳\] タブ](#)または [\[履歴\] タブ](#)にあるホストのレコードを選択します。
2. [ツールバーの \[アクション\] ボタン](#)の希望するアクション ボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#)の希望するアクション コマンドを選択します。通常、アクション オプションが表示されます。

注意：[リモート コントロール](#) セッションの間、[リモート コントロール](#) ウィンドウの[ツールバー](#)と[ツールボックス](#)の[\[アクション\]](#) ボタンから、アクションを実行することができます。

3.3.4 ヘルプ呼出

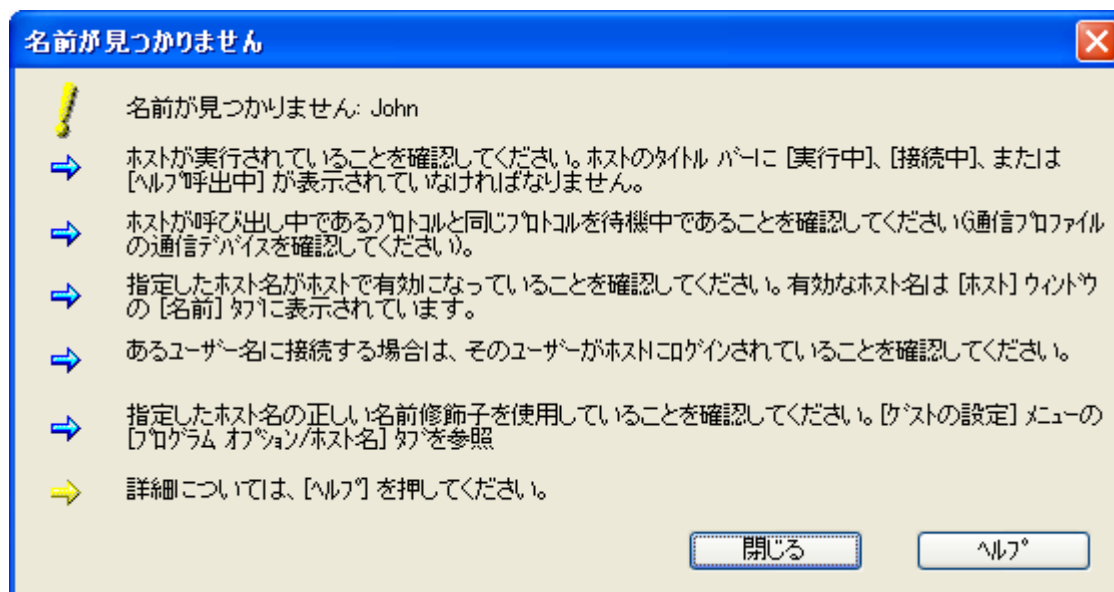
ヘルプ サービスが有効になっている場合、ホスト ユーザーはゲストに対してヘルプ呼出を送信することができます。ヘルプ サービスを有効にするには：

1. [プログラムのオプション](#) ウィンドウ [\[ヘルプ リクエスト\]](#) タブで、1 つまたは複数のヘルプ サービスを有効にします。
2. ゲストの読み込み時に、1 つまたは複数の[通信プロファイル](#)を有効にします。

ホスト ユーザーのヘルプ呼出は、[タブ パネル](#)の[\[ヘルプ呼出\]](#) タブ内のレコードに表示されます。ヘルプ呼出に応答するには、通常、そのレコードをダブルクリックして、ヘルプを呼び出したホストと[リモート コントロール](#) セッションを開始します。

3.3.5 接続の問題

NetOp が指定したホストと接続できない場合、タイムアウトの時間が経過すると、次のウィンドウが表示されます。



このウィンドウには、接続の問題を解決するためのアドバイスが書かれています。

その他のアドバイスをいくつか以下に示します。

- 通信が物理的に宛先に届いているか検証します。

TCP/IP ネットワークで通信している場合、Windows の [\[コマンド プロンプト \(MS-DOS プロンプト\)\]](#) ウィンドウで次のコマンドを実行します。

PING <宛先のコンピュータの IP アドレス>

このコマンドは、4 つのデータ パケットを指定した IP アドレスに送信し、応答を要求します。

正常な応答が返された場合、通信は物理的に宛先に届いています。

否定的な応答が返された場合、ネットワークの設定を確認するか、ネットワーク / システム管理者にお問い合わせください。

[Windows モデム](#)を使用したモデム接続で通信している場合、Windows でのモデム設定が NetOp の要件を満たしていない可能性があります。[シリアル](#)を使用してモデムを設定してみてください。

- 宛先のコンピュータが、選択した通信プロファイルを使って、指定した宛先名またはアドレスに応答できるか検証します。[通信デバイス](#)で、選択した通信プロファイルで使用されている通信デバイスの特性について調べてください。

3.4 ホストのセキュリティ ガイド

- ・ 他の通信プロファイルと、他の宛先名とアドレスを使用して、他の宛先からゲストまでのテストを実施します。
- ・ ネットワーク / システム管理者に問い合わせます。
- ・ 最後の手段として、サポート リクエストを [NetOp カスタマー & 製品サポート](#) に送付できません。

3.4 ホストのセキュリティ ガイド

ホストおよび接続しているゲートウェイは[ゲスト アクセス セキュリティ](#)を適用して、接続できるゲストや、接続したゲストができる機能を制限できます。このガイドには以下のトピックがあります。

- ・ [ゲスト認証](#)
- ・ [セキュリティ ロール](#)
- ・ [ゲスト プロファイル](#)
- ・ [ゲスト ポリシー](#)
- ・ [アドレス チェック](#)
- ・ [暗号化](#)

3.4.1 ゲスト認証

ホストおよび接続しているゲートウェイは、ログオン資格などの確認方法によって、接続しようとしているゲストやゲスト ユーザーを認証することができます。

注意： 認証はゲストの接続情報は検証できますが、接続しようとしているゲストやゲスト ユーザーそのものは検証できません。

このセクションには以下のトピックがあります。

- ・ [共有 NetOp 認証](#)
- ・ [個々の NetOp 認証](#)
- ・ [Windows 認証](#)
- ・ [スマート カード認証](#)
- ・ [ディレクトリ サービス認証](#)
- ・ [NetOp セキュリティ サーバー認証](#)
- ・ [RSA SecurID 認証](#)

3.4.1.1 共有 NetOp 認証

ホストまたは接続している NetOp ゲートウェイが共有 NetOp 認証を使用している場合、接続時に、次のウィンドウが表示されます（デフォルト選択時）。



<ホスト名> へのログイン

パスワード [] : このフィールドには、ホストまたは接続しているゲートウェイで指定した共有パスワードを指定します。

ログオンの試行回数は、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)の[ゲスト ポリシー](#)で指定します。

3.4.1.2 個々の NetOp 認証

ホストまたは接続しているゲートウェイが個々の NetOp 認証を使用している場合、接続時に、次のウィンドウが表示されます。

〈ホスト名〉へのログイン

ゲスト ID: []: このフィールドには、ホストまたは接続しているゲートウェイで指定したゲスト ID を指定します。

パスワード: []: このフィールドには、ホストまたは接続しているゲートウェイで指定した対応するパスワードを指定します。

ログオンの試行回数は、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)の[ゲスト ポリシー](#)で指定します。

3.4.1.3 Windows 認証

ホストまたは接続しているゲートウェイが Windows 認証をしている場合、または、ホストが NetOp セキュリティ サーバーを使用していてその[優先ゲスト タイプ](#)が *Windows ユーザー*である場合、接続時に、次のウィンドウが表示されます。

〈ホスト名〉へのログイン

ユーザー名: []: このフィールドには、ホスト コンピュータ、接続しているゲートウェイ、または NetOp セキュリティ サーバーで使用する、ローカルまたはドメインの Windows セキュリティ管理で指定した Windows ログイン ユーザー名を指定します。

パスワード: []: このフィールドには、Windows セキュリティ管理で指定した対応するパスワードを指定します。

ドメイン: []: このフィールドには、Windows セキュリティ 管理で指定した対応するドメインを指定します。

ログオンの試行回数は、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)の[ゲスト ポリシー](#)で指定します。

3.4 ホストのセキュリティ ガイド

3.4.1.4 ディレクトリ サービス認証

ホストがディレクトリ サービス認証を使用している場合、または、ホストが NetOp セキュリティ サービスを使用していてその優先ゲスト タイプがディレクトリ サービス ユーザーである場合、接続時に、次のウィンドウが表示されます。

<ホスト名> へのログイン

ユーザー名: []: このフィールドには、ホストまたは NetOp セキュリティ サーバー、および下で指定したディレクトリ サーバーで指定したディレクトリ サービスのユーザー共通名を指定します。

パスワード: []: このフィールドには、ディレクトリ サーバーで指定した対応するパスワードを指定します。

ディレクトリ サーバー: []: このフィールドには、対応するディレクトリ サーバーを指定します。

ログオンの試行回数は、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)の[ゲスト ポリシー](#)で指定します。

3.4.1.5 NetOp セキュリティ サーバー認証

ホストが NetOp セキュリティ サーバーを使用していてその優先ゲスト タイプが NetOp ゲスト ID である場合、接続時に、次のウィンドウが表示されます。

<ホスト名> へのログイン

ゲスト: []: このフィールドには、NetOp セキュリティ サーバーが使用するセキュリティ データベースに指定されたゲスト ID を指定します。

パスワード: []: このフィールドには、NetOp セキュリティ サーバーが使用するセキュリティ データベースに指定された対応するパスワードを指定します。

パスワードの変更... : このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



パスワードの変更

新しいパスワード : このフィールドには、新しいパスワードを指定します。

パスワードの確認 : このフィールドに新しいパスワードをもう一度指定して、確認します。

ログオンの試行回数は、ホストの [ゲスト アクセス セキュリティ](#) の [ゲスト ポリシー](#) で指定します。これは、セキュリティ データベースの指定によって、さらに制限される場合があります。

3.4.1.6 RSA SecurID 認証

ホストが NetOp セキュリティ サーバーを使用していてその優先ゲスト タイプが *RSA SecurID* ユーザーである場合、接続時に、次のウィンドウが表示されます。



<ホスト名> へのログイン

ユーザー名 : [] : このフィールドには、RSA SecurID のユーザー名を指定します。

パスワード : [] : このフィールドは、NetOp セキュリティ サーバーによって 3 重のセキュリティが指定された場合にのみ表示されます。このフィールドには、3 重のセキュリティの NetOp パスワードを指定します。

PASSCODE : [] : このフィールドに RSA SecureID パスコード (PIN+ トークン番号) を指定します。

パスワードの変更... : このボタンは、NetOp セキュリティ サーバーによって 3 重のセキュリティが指定された場合にのみ表示されます。NetOp パスワードを変更するには、このボタンをクリックします。操作は、上に示した [ゲスト セキュリティ サーバー ログイン] ウィンドウの場合と同じです。

3.4 ホストのセキュリティ ガイド

ログオンの試行回数は、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)の[ゲスト ポリシー](#)で指定します。

3.4.1.7 スマート カード認証

ホストが NetOp セキュリティ サーバーを使用していて、その優先ゲスト タイプがスマートカードおよびPIN である場合、接続時に、次のウィンドウが表示されます。



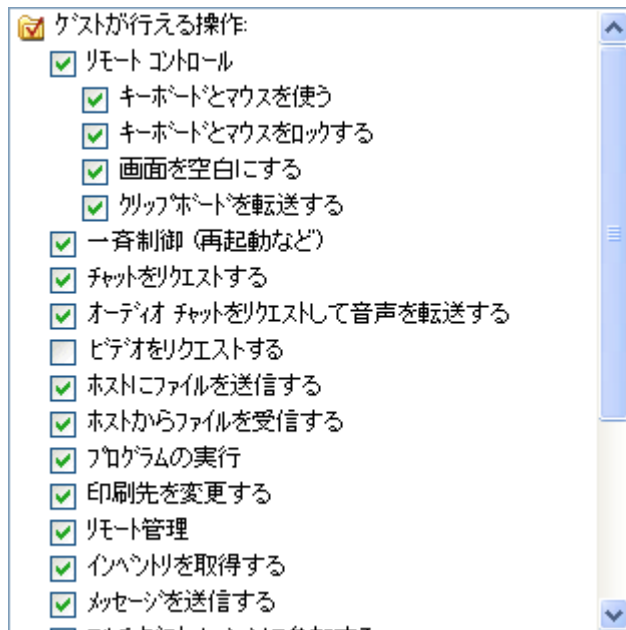
NetOp 認証用スマート カードをスマート カード リーダーに挿入して、[OK] をクリックすると、対応する PIN 番号を要求するウィンドウが表示されます。PIN 番号を指定して、接続します。

ログオンの試行回数は、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)の[ゲスト ポリシー](#)で指定します。

3.4.2 セキュリティ ロール

NetOp ホストはローカルで、また、NetOp セキュリティ サーバーのセキュリティ データベースは集中的に、セキュリティ ロール内で、ゲストに対して許可するアクションと、ホスト コンピュータ ユーザーが使用できるアクセスの確認オプションを指定することができます。

各セキュリティ ロールは、次の要素を指定します。



このセクションには以下のトピックがあります。

[ゲストが行える操作](#)

[アクセスの確認](#)

3.4.2.1 ゲストが行える操作

ホストまたはセキュリティ データベースの[セキュリティ ロール](#)指定の上部にあり、ゲストが行える操作の下にインデント下げされた部分を以下に示します。

- ゲストが行える操作:
 - リモート コントロール
 - キーボードとマウスを使う
 - キーボードとマウスをロックする
 - 画面を空白にする
 - クリップボードを転送する
 - 一斉制御 (再起動など)
 - チャットをリクエストする
 - オーディオ チャットをリクエストして音声を転送する
 - ビデオをリクエストする
 - ホストにファイルを送信する
 - ホストからファイルを受信する
 - プログラムの実行
 - 印刷先を変更する
 - リモート管理
 - イベントリを取得する
 - メッセージを送信する

これは、ゲストがホストとの接続時に許可されるアクションを指定します。チェックマークを付けたアクションは許可され、チェックマークなしのアクションは拒否されます。

[リモート コントロール](#) : ホストの画面イメージを参照するための[リモート コントロール](#) セッションを開始します (デフォルト : 許可される)。リモート コントロールが許可されている場合、インデント下げされた次のアクションを許可することができます。

- [キーボードとマウスを使う](#) : ホスト コンピュータの画面内でキーボードとマウスを操作します (デフォルト : 許可される)。
- [キーボードとマウスをロックする](#) : ホスト コンピュータのキーボードとマウスを無効化します (デフォルト : 許可される)。
- [画面を空白にする](#) : ホスト コンピュータのユーザーに対して、画面を空白にします (デフォルト : 許可される)。
- [クリップボードを転送する](#) : ゲスト コンピュータのクリップボードの内容をホスト コンピュータに転送するなどします (デフォルト : 許可される)。

[一斉制御 \(再起動など\)](#) : ホスト コンピュータ上で再起動などその他のコマンドの[コマンドの実行](#)を行います (デフォルト : 許可される)。

[チャットをリクエストする](#) : ホストと[チャット](#) セッションを開始します (デフォルト : 許可される)。

[オーディオビデオ チャットをリクエストして音声を転送する](#) : ホストと[オーディオビデオ チャット](#) セッションを開始して、ホスト コンピュータ上で稼働しているアプリケーションのサウンドを転送します (デフォルト : 許可される)。

[ビデオをリクエストする](#) : [オーディオビデオ チャット](#) セッションで、ホスト コンピュータのビデオ カメラ画像を、ゲストの[オーディオビデオ チャット](#) ウィンドウの [リモート] セクションのビデオ フレームに転送します (デフォルト : 拒否)。

「[ホストにファイルを送信する](#)」 : ゲスト コンピュータからホスト コンピュータに[ファイルの転送](#)を行います (デフォルト : 許可される)。

[ホストからファイルを受信する](#) : ホスト コンピュータからゲスト コンピュータに[ファイルの転送](#)を行います (デフォルト : 許可される)。

3.4 ホストのセキュリティ ガイド

- プログラムの実行：ホスト コンピュータ上で[プログラムの実行](#)を行います（デフォルト：許可される）。
- 印刷先を変更する：接続中に、印刷ジョブを一方のコンピュータから他方のコンピュータのプリンタに送信します。[プログラムのオプション](#) ウィンドウの[\[リモート印刷\]](#) タブを参照してください。（デフォルト：許可される）。
- リモート管理：[リモート管理](#)セッションを開始して、ホスト コンピュータを管理します（デフォルト：許可される）。
- インベントリを取得する：ホスト コンピュータから[インベントリの取得](#)を行います（デフォルト：許可される）。
- メッセージを送信する：ホストに [NetOp メッセージ](#)を送信します（デフォルト：許可される）。
- マルチ ゲスト セッション参加：別のゲストがホストと実行している[リモート コントロール](#)セッションに参加します（デフォルト：許可される）。
- マルチ ゲスト セッション管理者として行動：[リモート コントロール](#)の[マルチ ゲスト セッション](#)を管理します（デフォルト：許可される）。

3.4.2.2 アクセスの確認

ホストまたはセキュリティ データベースの[セキュリティ ロール](#)指定の下部にあり、[アクセスの確認](#)の下にインデント下げされた部分を以下に示します。

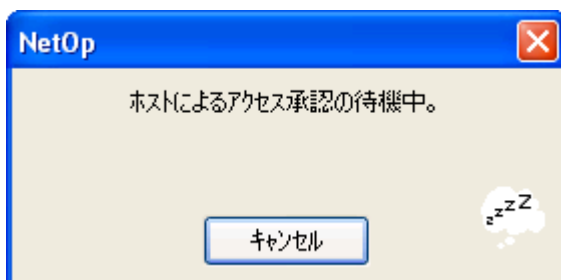
アクセスの確認

- いいえ
- はい (以下は例外)
 - ロックされたコンピュータ
 - ログオンしているユーザーがいない
 - ゲストユーザーがログオン

これは、ホスト コンピュータのユーザーが、ゲスト ユーザーによるホスト コンピュータへのアクセスを確認するかどうかを指定します。次のどちらかのオプションを選択します。

- いいえ：ホスト コンピュータのユーザーは、アクセスを確認しません（デフォルトの設定）。
- はい (以下は例外)：ホスト コンピュータのユーザーは、以下のチェックマークが付いた場合を除いて、アクセスを確認します。
 - ロックされたコンピュータ：コンピュータがロックされている場合、ホスト コンピュータのユーザーはアクセスを確認できません（デフォルト：チェックなし）。
 - ログオンしているユーザーがいない：ホスト コンピュータにログオンしているユーザーがいない場合、アクセスを確認できるユーザーがいません（デフォルト：チェックなし）。
 - ゲストユーザーがログオン：ゲスト資格がホスト コンピュータのユーザー ログオン資格と一致する場合、通常、アクセスの確認は容認されません（デフォルト：チェックなし）。

接続されているホストにアクセスの確認が適用されている場合、ゲストがログオンすると次のメッセージが表示されます。



このメッセージは、ホスト コンピュータがアクセスを確認するか、アクセスの確認が時間切れになるまで表示されます。ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)の[ゲスト ポリシー](#)を参照してください。ホスト コンピュータのユーザーがアクセスを許可した場合、ゲストはホスト コンピュータにアクセスできます。ホスト コンピュータのユーザーがアクセスを拒否したり、アクセスの確認が時間切れになったりした場合、ホストは接続を切断します。

キャンセル：このボタンをクリックすると、メッセージを閉じて接続を切断します。

3.4.3 ゲスト プロファイル

ゲスト プロファイルは、ゲスト、ユーザーまたはグループの接続のプロパティを指定します。

デフォルトでは、ホストは[共有 NetOp 認証](#)を使用します。この認証方法は、接続しているすべてのゲストに対して、1 つのローカル ゲスト プロファイルを指定します。

他の認証方法を使用するために、ホストは接続している各ゲスト、ユーザーまたはグループに対してローカル ゲスト プロファイルを指定したり、各ゲスト、ユーザーまたはグループに対して中央のセキュリティ データベースが指定したゲスト プロファイルを使用したりすることができます。

ホストや中央のセキュリティ データベースでは、通常、各ゲスト プロファイルに対して 1 つの[セキュリティ ロール](#)が割り当てられます。そして、グループ メンバーシップによって、複数の[セキュリティ ロール](#)を各ゲストまたはユーザーに適用できます。ホストまたは NetOp セキュリティ サーバーは、適用可能な複数の[セキュリティ ロール](#)の複合体を適用します。

たとえば、次のホスト ウィンドウは[個々の NetOp 認証](#)のゲスト プロファイルを指定します。

各ゲスト プロファイルは、次の要素を指定します。

資格

コールバック

3.4.3.1 資格

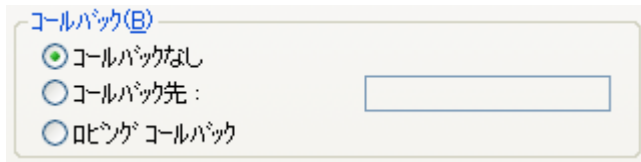
[ゲスト プロファイル](#)の資格は、ゲスト ユーザーが認証のために [ログイン...] ウィンドウで指定しなければならない内容を指定します。[ゲスト認証](#)を参照してください。NetOp の認証は、ホストまたは中央のセキュリティ データベースで指定された資格を使用します。その他の認証方法は、他のセキュリティ システムで指定された資格を使用します。

3.4.3.2 コールバック

[ゲスト プロファイル](#)のコールバックは、ゲストのログイン後にホストが接続を切断して、ホストまたはゲストが指定した電話番号または IP アドレスに再接続するかどうかを指定します。コールバックは、[ISDN \(CAPI\)](#)、[シリアル](#)、[Windows モデム](#)、[TCP/IP \(TCP\)](#)、[TCP/IP \(TCP IPv6\)](#) などのポイントツーポイント通信によって接続されているゲストに対してのみ適用されます。

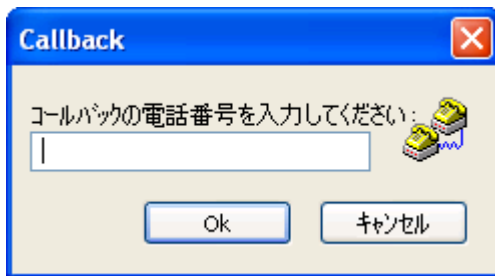
3.4 ホストのセキュリティ ガイド

ホストのローカルな[ゲスト プロファイル](#)には、次のコールバック オプションがあります。



次のどちらかのオプションを選択します。

- コールバックなし：ホストは接続の切断および再接続を行いません（デフォルト設定）。
- コールバック先：[]：ホストは接続を切断して、ホストのフィールドに指定されている電話番号または IP アドレスに再接続します。これで、ゲストに再接続できない場合は、ゲストはホストにアクセスできません。[アドレス チェック](#)も参照してください。
- ロビンゲ コールバック：ゲストのコンピュータ画面上に次のウィンドウが表示されます。



コールバックの電話番号を入力してください：[]：このフィールドには、ゲスト コンピュータの接続元の電話番号または IP アドレスを指定します。

ホストは接続を切断して、指定されている電話番号または IP アドレスに再接続し、接続中の課金を負担します。

注意：中央のセキュリティ データベースの[ゲスト プロファイル](#)にコールバック オプションはありません。常にコールバックなしが選択されます。

3.4.4 ゲスト ポリシー

ホストおよび接続しているゲートウェイは、次のゲスト セキュリティ ポリシーを適用することができます。[\[ゲスト ポリシー\] タブ](#)を参照してください。

- ・ ログオン試行回数を指定します（デフォルト：3）。
- ・ 接続するゲストがログイン試行回数を超えた場合に実行するアクションを選択します：切断、ホストを使用不可にする（ローカルでリセットされるまで、すべての接続を拒否します）、または *Windows* を再起動する（デフォルト：切断します）。

注意：*Windows* を再起動するは通常、ホストまたはゲートウェイを再度読み込み、再起動します。

- ・ 切断後に実行するアクションを選択します：なし、コンピュータをロックする、*Windows* をログオフする、または *Windows* を再起動する（デフォルト：なし）。

注意：ゲストは、ロックされたホスト コンピュータやユーザーが誰もログインしていないホスト コンピュータに接続できます。ゲスト ユーザーがホスト コンピュータにアクセスするには、このコンピュータのロックを解除するか、ログインする必要があります。

- ・ ホスト コンピュータにログインしているユーザーがいない場合にファイル転送を無効にします（デフォルト：非選択）。
- ・ リモート コントロール セッションを記録し、必要に応じて、セッションの記録に失敗した場合に接続を切断します（デフォルト：無効）。

- ・ タイムアウト（指定した秒数内に完了しなかった場合に接続を切断します）
 - ・ アクセスの確認（デフォルト：タイムアウトなし）。
 - ・ 認証（デフォルト：タイムアウトなし）。
 - ・ 非アクティブ（ゲスト コンピュータのキーボードまたはマウスを操作しなかった場合。デフォルト：タイムアウトなし）。

3.4.5 アドレス チェック

ホストおよび接続しているゲートウェイは、ネットワーク通信による接続を、指定した MAC および IP アドレスを持つコンピュータだけに許可するように設定できます。[\[MAC/IP アドレス リストのセットアップ\] タブ](#)を参照してください（デフォルト：非適用）。

注意：MAC アドレスは、[NetBIOS](#) および [IPX](#) の通信デバイスによる接続に適用されます。IP アドレスは、[TCP/IP](#) および [TCP/IP \(TCP\)](#) の通信デバイスによる接続に適用されます。

ホストおよび接続しているゲートウェイは、[ISDN \(CAPI\)](#) 通信による接続を、[許可されている ISDN 番号](#)リストに登録されている電話番号だけに許可するように設定できます（デフォルト：非適用）。

ホストおよび接続しているゲートウェイは、ポイントツーポイント通信による接続を、[コールバック](#)によって指定した電話番号または IP アドレスだけに許可するように設定できます（デフォルト：非適用）。

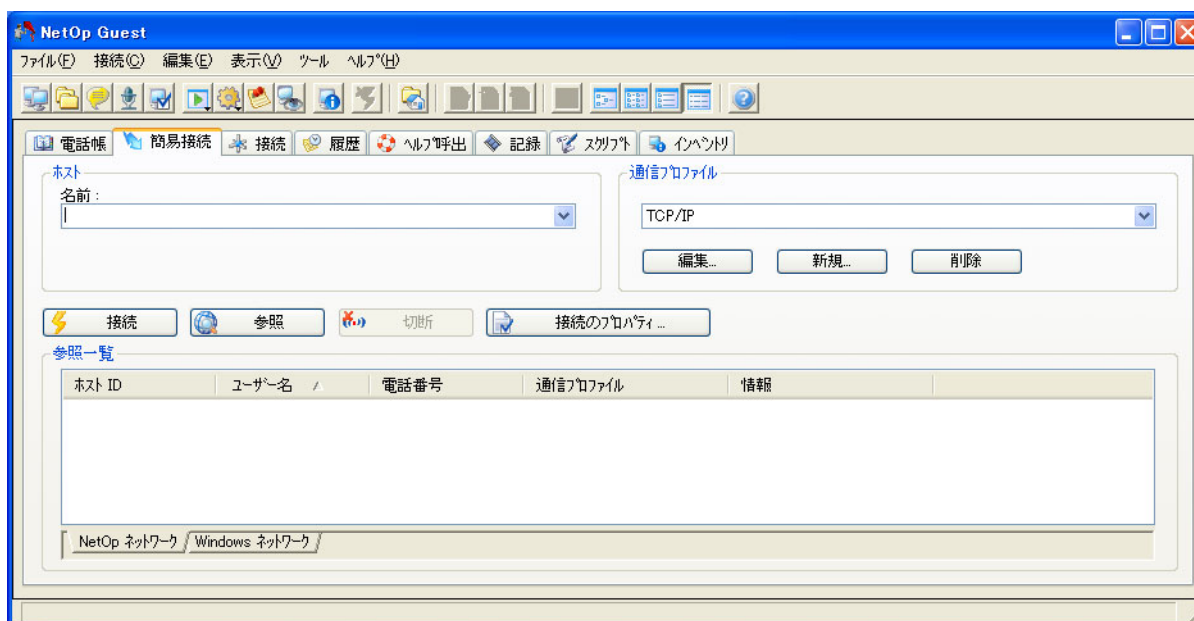
3.4.6 暗号化

ホストおよび接続しているゲートウェイは、暗号化タイプの選択を有効化できます（デフォルト：すべて）。[\[暗号化\] タブ](#)を参照してください。

ゲストが接続できるのは、ゲストで有効になっている少なくとも 1 つの暗号化タイプが、接続しているゲートウェイおよびホストでも有効になっている場合のみです。

3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

NetOp ゲストが読み込まれると、次のウィンドウが表示されます。



このウィンドウには、次の要素があります。

- ・ [タイトル バー](#)
- ・ [メニュー バー](#)
- ・ [ツールバー](#)
- ・ [タブ パネル](#)

3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

- ・ [ステータス バー](#)

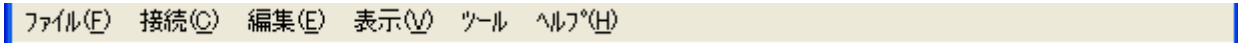
3.5.1 タイトル バー



ウィンドウのタイトル バー コントロールについては、「[ウィンドウ コントロール](#)」で説明しています。

3.5.2 メニュー バー

これは、[NetOp ゲスト ウィンドウ](#)のメニュー バーです。

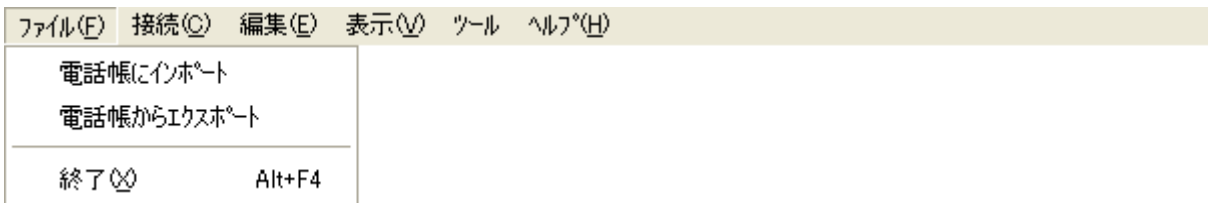


次のメニューがあります。

- ・ [\[ファイル\] メニュー](#)
- ・ [\[接続\] メニュー](#)
- ・ [\[編集\] メニュー](#)
- ・ [\[表示\] メニュー](#)
- ・ [\[ツール\] メニュー](#)
- ・ [\[ヘルプ\] メニュー](#)

3.5.2.1 [ファイル] メニュー

[メニュー バー](#)で [ファイル] を選択するか、[NetOp ゲスト ウィンドウ](#)がアクティブな状態で ALT+F を押すと、次のメニューが表示されます。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

電話帳にインポート：このコマンドを選択すると、[電話帳にインポート] ウィンドウが表示されます。[電話帳のインポート/エクスポート](#)を参照してください。

電話帳からエクスポート：このコマンドを選択すると、[電話帳からエクスポート] ウィンドウが表示されます。[電話帳のインポート/エクスポート](#)を参照してください。

終了：このコマンドまたは[ウィンドウ コントロール](#) メニューの [閉じる] コマンドを選択するか、[ウィンドウ コントロール](#)の [閉じる] ボタンをクリックするか、ALT+F4 を押すと、ゲストをアンロードします。

3.5.2.2 [接続] メニュー

[メニュー](#) バーで [接続] を選択するか、[NetOp ゲスト ウィンドウ](#) がアクティブな状態で ALT+C を押すと、次のメニューが表示されます。

ファイル(F)	接続(C)	編集(E)	表示(V)	ツール	ヘルプ(H)
	リモート コントロール(M)				
	ファイル転送(F)				
	チャット(C)				
	オーディオビデオ チャット(A)				
	リモート管理(M)				
	プログラムの実行(R)				
	一斉制御(Q)				
	メッセージを送信(S)				
	Monitor				
	イベントリを取得する(G)				
	切断(H)				
	ローカル ファイル転送(L)				
	セッション記録の再生(P)				

[接続] メニューのコマンドは、次のグループに分類できます。

- ・ [セッション コマンド](#)
- ・ [アクション コマンド](#)
- ・ [他のコマンド](#)

3.5.2.2.1 セッション コマンド

以下は [NetOp ゲスト ウィンドウ](#) の [\[接続\] メニュー](#) のセッション コマンドです。

リモート コントロール
 ファイル転送
 チャット
 オーディオビデオ チャット(A)
 リモート管理(M)

メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#) を参照してください。

セッション コマンドを有効にするには、[\[簡易接続\] タブ](#) のホスト レコードを選択するか、[\[ホスト\] セクション](#) の [名前] フィールドでホスト名を指定するか、[\[電話帳\] タブ](#)、[\[接続\] タブ](#)、[\[履歴\] タブ](#)、[\[ヘルプ呼出\] タブ](#) でホスト レコードを 1 つ以上選択します。複数のホストとセッションを同時に開始できるのは、選択したホストとの間でセッションが実行中でない場合のみです。セッションは、一度に 1 つのホストとのみ終了できます。

リモート コントロール：このコマンドまたは [タブ パネル](#) のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、[ツールバー](#) の [セッション ボタン](#) の [リモート コントロール] ボタンをクリックすると、[リモート コントロール](#) セッションを開始または終了します。[リモート コントロール](#) セッションを、最後に選択したレコードのホストと実行している場合、コマンドにチェックマークが付けられます。

ファイル転送：このコマンドまたは [タブ パネル](#) のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、[ツールバー](#) の [セッション ボタン](#) の [ファイル転送] ボタンをクリックすると、[ファイルの転送](#) セッションを開始または終了します。[ファイルの転送](#) セッションを、最後に選択したレコードのホストと実行している場合、コマンドにチェックマークが付けられます。

3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

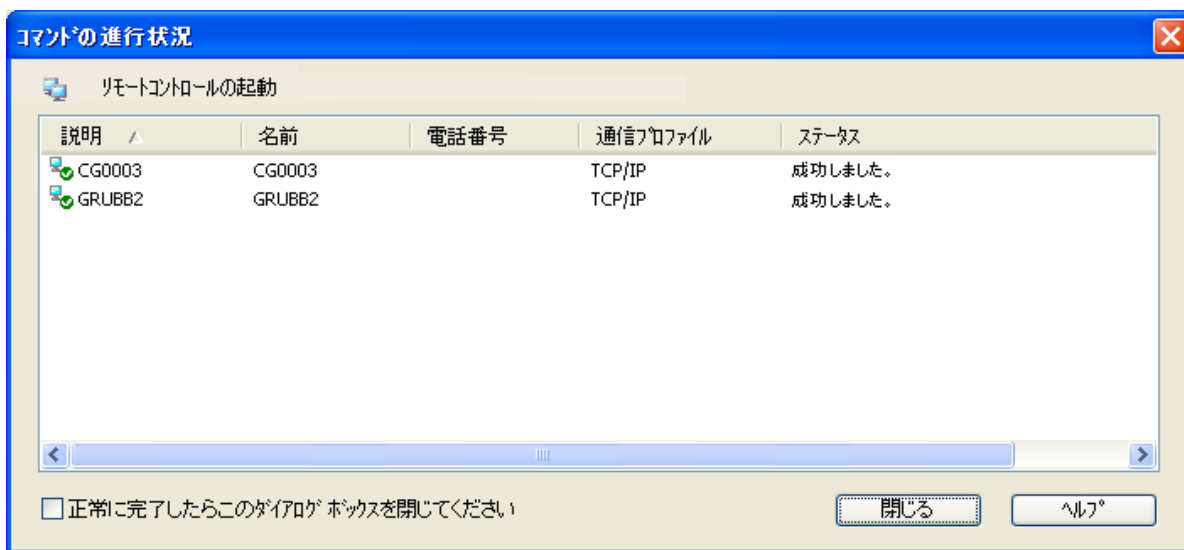
チャット：このコマンドまたは**タブ パネル**のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、**ツールバー**の**セッション ボタン**の [チャット] ボタンをクリックすると、**チャット** セッションを開始または終了します。**チャット** セッションを、最後に選択したレコードのホストと実行している場合、コマンドにチェックマークが付けられます。

オーディオ チャット：このコマンドまたは**タブ パネル**のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、**ツールバー**の**セッション ボタン**の [オーディオ チャット] ボタンをクリックすると、**オーディオビデオ チャット** セッションを開始または終了します。**オーディオビデオ チャット** セッションを、最後に選択したレコードのホストと実行している場合、コマンドにチェックマークが付けられます。

注意：ゲストは、一度に 1 つのオーディオ セッションのみを実行できます。




リモート管理：このコマンドまたは**タブ パネル**のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、**ツールバー**の**セッション ボタン**の [リモート管理] ボタンをクリックすると、**リモート管理**セッションを開始または終了します。**リモート管理**セッションを、最後に選択したレコードのホストと実行している場合、コマンドにチェックマークが付けられます。

複数のホストとのセッションを開始した場合、次のウィンドウが表示されます。



ウィンドウには、[セッション タイプ] アイコンと〈セッション タイプ〉の起動が表示されます。

下のペインには、選択されたホストのレコードが表形式で表示されます。表には次の列があります。

- ・ **説明**：進行状況と**タブ パネル**のレコードの説明です。次の進行状況が表示できます。
 -  コマンドの実行中です。
 -  コマンドは正常に実行されました。
 -  コマンドの実行は失敗しました。
- ・ **名前**：**タブ パネル** レコード **名前**
- ・ **電話番号**：**タブ パネル** レコード **電話番号**
- ・ **通信プロファイル**：**タブ パネル** レコード **通信プロファイル**
- ・ **ステータス**：テキスト形式の進行状況。

表内のコントロールについては、**テーブル コントロール**を参照してください。

コマンドは進行状況と [ステータス] 列の内容に従って、順番に実行されます。

他のセッションが選択したレコードのホストと実行されていない場合、セッションを開始するとホストに接続されます。

注意：選択したレコードのホスト上で、選択したコマンドのセッションがゲスト アクセス セキュリティによって許可されていない場合、コマンドは実行できません。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

正常に完了したらこのダイアログ ボックスを閉じてください：このボックスをオンにすると、選択したすべてのレコードのホストに対してコマンドが正常に完了した場合に、このウィンドウを閉じます（デフォルト：チェックなし）。

キャンセル/閉じる：実行中は、このボタンは [キャンセル] と表示されます。これをクリックすると、現在のホスト レコードに対するコマンドの実行をキャンセルし、次に進みます。完了すると、このボタンは [閉じる] と表示されます。クリックすると、ウィンドウが閉じます。

3.5.2.2.2 アクション コマンド

以下は [NetOp ゲスト ウィンドウ](#) の [\[接続\] メニュー](#) のアクション コマンドです。

```
プログラムの実行      ▶
一斉制御              ▶
メッセージの送信
インベントリの取得
```

メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

アクション コマンドを有効にするには、[\[簡易接続\] タブ](#)のホスト レコードを選択するか、[\[ホスト\] セクション](#)の [\[名前\]](#) フィールドでホスト名を指定するか、[\[電話帳\] タブ](#)、[\[接続\] タブ](#)、[\[履歴\] タブ](#)でホスト レコードを 1 つ以上選択します。

プログラムの実行：このコマンドまたは[タブ パネル](#)のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の [\[アクション\] ボタン](#)の [\[プログラムの実行\]](#) ボタンをクリックすると、[プログラムの実行](#)ドロップダウン メニューが表示されます。

一斉制御：このコマンドまたは[タブ パネル](#)のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の [\[アクション\] ボタン](#)の [\[一斉制御\]](#) ボタンをクリックすると、[コマンドの実行](#)ドロップダウン メニューが表示されます。

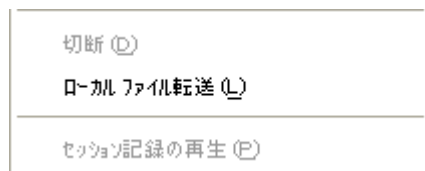
メッセージ送信：このコマンドまたは[タブ パネル](#)のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の [\[アクション\] ボタン](#)の [\[メッセージ送信\]](#) ボタンをクリックすると、[NetOp メッセージ](#) ウィンドウが表示されます。

インベントリを取得する：このコマンドまたは[タブ パネル](#)のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の [\[アクション\] ボタン](#)の [\[インベントリを取得する\]](#) ボタンをクリックすると、ホスト コンピュータから[インベントリの取得](#)処理を実行します。

注意：これらのアクションの一部を実行すると、[\[コマンドの進行状況\]](#) ウィンドウが表示されます。[プログラムの実行](#)を参照してください。

3.5.2.2.3 他のコマンド

以下は [NetOp ゲスト ウィンドウ](#) の [\[接続\] メニュー](#) の他のコマンドです。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

切断：[\[電話帳\] タブ](#)、[\[簡易接続\] タブ](#)、[\[接続\] タブ](#)、[\[履歴\] タブ](#)の接続されているホストレコードを選択してから、このコマンドまたは[タブ パネル](#)のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の[その他のボタン](#)の [\[切断\]](#) ボタンをクリックすると、接続を切断します。

3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

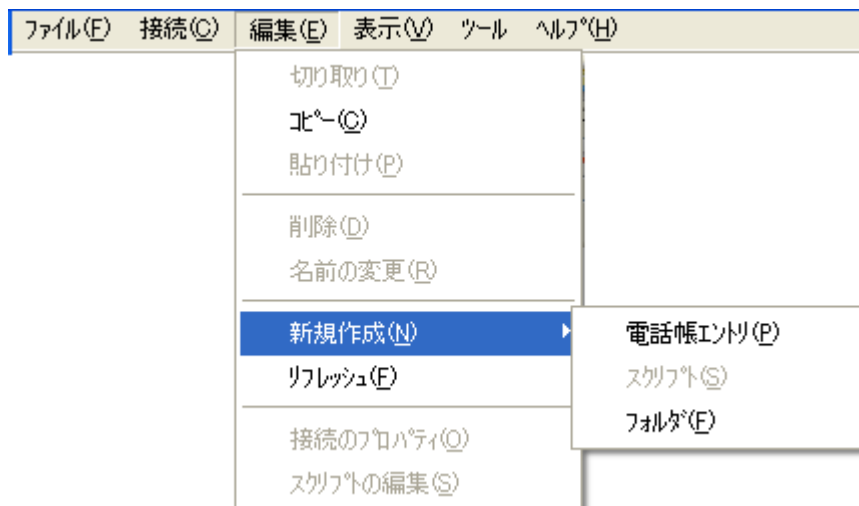
注意：一度に 1 つのホストを切断できます。

ローカル ファイル転送：このコマンドを選択するか、[ツールバー](#) [その他のボタン](#) の [ローカル ファイル転送] ボタンをクリックすると、ローカルの[ファイルの転送](#)セッションを開始します。

セッション記録の再生：[[記録](#)] [タブ](#)のレコードを選択してから、このコマンドまたは[タブ パネル](#)のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、レコードをダブルクリックすると、セッション記録を再生します。

3.5.2.3 [編集] メニュー

[メニュー バー](#)で [編集] を選択するか、[NetOp ゲスト ウィンドウ](#)がアクティブな状態で ALT+E を押すと、次のメニューが表示されます。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

切り取り：[タブ パネル](#)のフォルダまたはレコードを 1 つ以上選択してから、このコマンドまたはコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択すると、選択した項目を削除して、それをクリップボードに配置します。

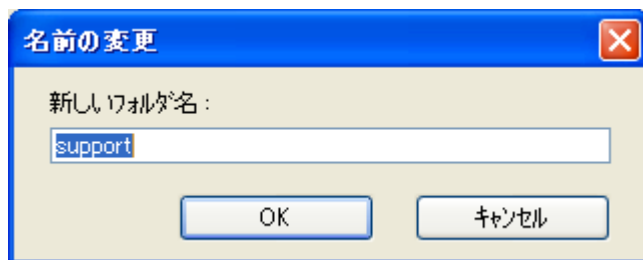
コピー：[タブ パネル](#)のフォルダまたはレコードを 1 つ以上選択してから、このコマンドまたはコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択すると、選択した項目をコピーして、それをクリップボードに配置します。

貼り付け：[タブ パネル](#)のフォルダを選択してから、このコマンドまたはコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択すると、クリップボードの内容を選択したフォルダに貼り付けます。

削除：[タブ パネル](#)のフォルダまたはレコードを 1 つ以上選択してから、このコマンドまたはコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の[その他のボタン](#)の [削除] ボタンをクリックすると、選択した項目を削除できます (削除前に確認ダイアログボックスが表示されます)。

警告：フォルダを削除すると、フォルダ内のすべてのフォルダおよびレコードが削除されます。

名前の変更：[タブ パネル](#)のフォルダを選択してから、このコマンドまたはコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。



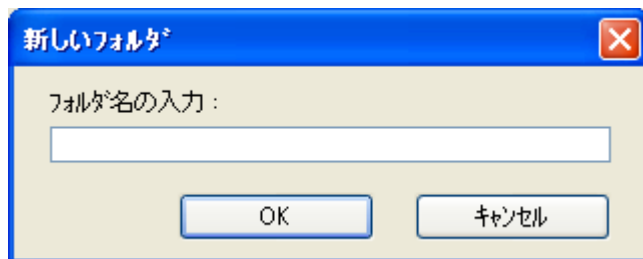
新しいフォルダ名：[]: フィールドにフォルダ名が強調表示されます。これを編集して、フォルダの名前を変更します。

新規：このコマンドは以下のコマンドに拡張されます。

電話帳エントリ：[電話帳] タブを表示して、このコマンドまたはレコード ペインのコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、ツールバーのその他のボタンの [電話帳エントリ] ボタンをクリックすると、接続のプロパティ ウィンドウが表示され、表示されたレコード ペインの中で電話帳レコードを作成することができます。

スクリプト：[スクリプト] タブを表示して、このコマンドまたはレコード ペインのコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択すると、空の [スクリプト] ウィンドウが表示され、NetOp スクリプトを作成することができます。

フォルダ：タブ パネルのツリー ペイン フォルダを選択してから、このコマンドまたはコンテキスト メニューの [新しいフォルダ] コマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。



フォルダ名の入力：[]: このフィールドにフォルダ名を入力すると、選択したフォルダ内にこのフォルダを作成します。

更新：このコマンドを選択すると、タブ パネルの表示されているタブの内容が更新されます。[簡易接続] タブが表示されている場合、ホストの参照が開始されます。ボタンを参照してください。

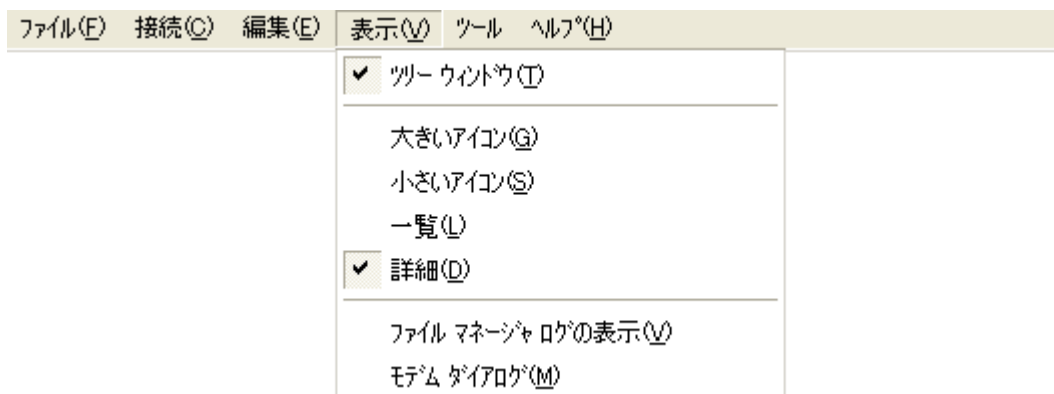
注意：タブの外で変更が加えられた場合、その変更は、更新して初めてタブの内容に反映されません。

接続のプロパティ：[電話帳] タブ、[履歴] タブ、[ヘルプ呼出] タブのホスト レコードを選択してから、このコマンドまたはコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、ツールバーのその他のボタンの [接続のプロパティ] ボタンをクリックすると、接続のプロパティ ウィンドウが表示され、選択したホスト レコードの接続のプロパティを参照および編集することができます。

スクリプトの編集：[スクリプト] タブのレコードを選択してから、このコマンドを選択すると、[スクリプト] ウィンドウにレコード スクリプトが開きます。NetOp スクリプトを参照してください。

3.5.2.4 [表示] メニュー

メニュー バーで [表示] を選択するか、NetOp ゲスト ウィンドウがアクティブな状態で ALT+V を押すと、次のメニューが表示されます。



3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

ツリー ウィンドウ：このコマンドを選択するか、[ツールバーのその他のボタン](#)の対応するボタンをクリックすると、[タブ パネル](#)のタブの左側にあるフォルダ ツリー構造を表示するペインを表示/非表示にすることができます (デフォルト：有効)。表示に切り替えると、このコマンドにチェックマークが付きます。

大きいアイコン：このコマンドを選択するか、[ツールバーのその他のボタン](#)の対応するボタンをクリックすると、[タブ パネル](#)のタブのレコードが大きなアイコンで横に並んで表示されます。選択すると、このコマンドにチェックマークが付きます。

小さいアイコン：このコマンドを選択するか、[ツールバーのその他のボタン](#)の対応するボタンをクリックすると、[タブ パネル](#)のタブのレコードが小さなアイコンで横に並んで表示されます。選択すると、このコマンドにチェックマークが付きます。

一覧：このコマンドを選択するか、[ツールバーのその他のボタン](#)の対応するボタンをクリックすると、[タブ パネル](#)のタブのレコードが小さなアイコンで縦に並んで表示されます。選択すると、このコマンドにチェックマークが付きます。

詳細：このコマンドを選択するか、[ツールバーのその他のボタン](#)の対応するボタンをクリックすると、[タブ パネル](#)のタブのレコードが詳細情報を列に持つ表形式で表示されます (デフォルト設定)。選択すると、このコマンドにチェックマークが付きます。

ファイル マネージャ ログ ファイルの表示：このコマンドを選択すると、Windows の [ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスの [ファイルの種類] ログ ファイル (*.log) が指定されているので、[ファイルの転送](#) ログ (通常、名前は *NFM.LOG*) を開いて、[NFM Log Viewer] ウィンドウに表示することができます。[\[オプション\] メニュー](#)を参照してください。

モデム ダイアログ：このコマンドを選択すると、[\[モデム ダイアログ\]](#) ウィンドウが表示されます。

3.5.2.5 [ツール] メニュー

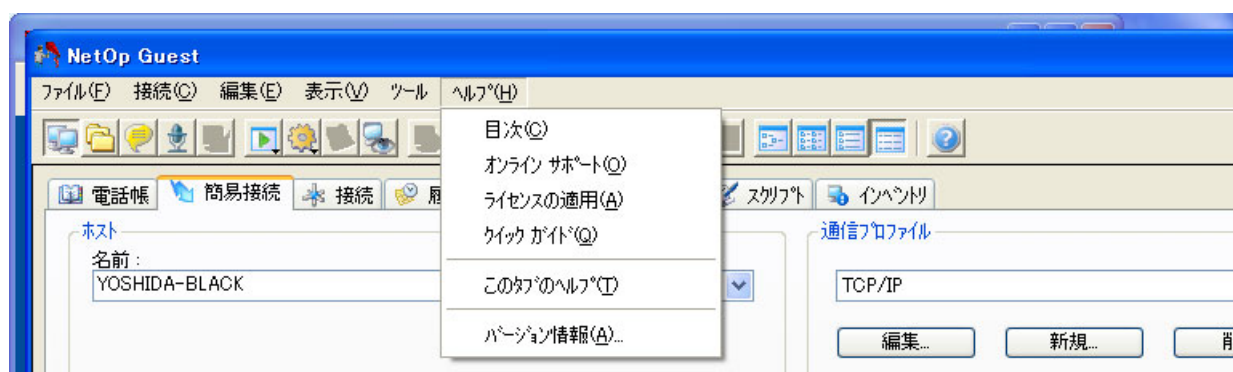
[メニュー バー](#)で [ツール] を選択するか、[NetOp ゲスト ウィンドウ](#)がアクティブな状態で ALT+T を押すと、次のメニューが表示されます。

ファイル(F) 接続(C) 編集(E) 表示(V) ツール ヘルプ(H)
プログラムのオプション(O)
ファイル マネージャのオプション(E)
ログのセットアップ(L)
保守パスワード(M)
通信プロファイル(C)
モデム データベース(D)
新規および更新のチェック
新しい更新を公開 (P)
セットアップ ウィザードの実行(R)
ゲストをリムーバブル メディアにコピー

[ツール] メニューのコマンドについては、[ゲスト ツール](#)を参照してください。

3.5.2.6 [ヘルプ] メニュー

メニュー バーで [ヘルプ] を選択するか、NetOp ゲスト ウィンドウ がアクティブな状態で ALT+H を押すと、次のメニューが表示されます。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、メニューとツールバーのコントロール を参照してください。

目次：このコマンドを選択すると、*NetOp ゲスト ヘルプ* の「ようこそ」トピックが表示されます。ウィンドウの左側のペインには、ツリー形式で目次が表示されます。

オンライン サポート：このコマンドを選択すると、[NetOp リモート コントロールのサポート] Web ページが開き、サポート リクエストを送信できます。

ライセンスの適用 / オンライン登録：このコマンドは、トライアル バージョンがインストールされている場合は **ライセンスの適用** を実行し、ライセンス付きバージョンがインストールされている場合は **オンライン登録** を実行します。

[**ライセンスの適用**] を選択すると、次のウィンドウが表示されます。



ライセンスされたユーザー：[]: フィールドにライセンスが付与されているユーザー名を指定します。

シリアル番号：[]: フィールドにゲストのライセンス番号を指定します。

OK：このボタンをクリックすると、トライアル バージョンのライセンス名およびライセンス番号を、指定したライセンス名とライセンス番号に置き換えます。

[**オンライン登録**] を選択すると、[NetOp 製品登録] Web ページが開き、NetOp 製品を製造元に登録することができます。

クイック ガイド：このコマンドを選択すると、*NetOp ゲスト ヘルプ* の「**接続ガイド**」トピックが表示されます。

このタブのヘルプ：このコマンドを選択するか、ツールバーのその他のボタンの [このタブのヘルプ] ボタンをクリックすると、*NetOp ゲスト ヘルプ* システムが開き、タブ パネル の表示されているタブのトピックが表示されます。

バージョン情報...：このコマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。

3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

バージョン情報



このウィンドウには、NetOp ゲストのインストールに関する情報が表示されます。バージョン番号の後には、括弧の中にビルド番号が YYYYDD (Y=年、D=日付) 形式で表示されます。

システム情報...: このボタンをクリックすると、[システム情報](#) ウィンドウが表示されます。

3.5.3 ツールバー

[NetOp ゲスト ウィンドウ](#)のツールバーは、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの「[レイアウト](#)」タブで非表示になっていない限り表示されます。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

ツールバーのボタンは、次のセクションにグループ分けされます。

- ・ [セッション ボタン](#)
- ・ [\[アクション\] ボタン](#)
- ・ [その他のボタン](#)

3.5.3.1 セッション ボタン

以下は [NetOp ゲスト ウィンドウのツールバー](#) セッションのボタンです。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

セッション ボタンを有効にするには、[\[簡易接続\] タブ](#)のホスト レコードを選択するか、[\[ホスト\] セクション](#)の [\[名前\]](#) フィールドでホスト名を指定するか、[\[電話帳\] タブ](#)、[\[接続\] タブ](#)、[\[履歴\] タブ](#)、[\[ヘルプ呼出\] タブ](#)でホスト レコードを 1 つ以上選択します。複数のホストとセッションを同時に開始できるのは、選択したホストとの間でセッションが実行中でない場合のみです。セッションは、一度に 1 つのホストとのみ終了できます。



リモート コントロール：このボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#)または[タブ パネル](#)のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択すると、[リモート コントロール](#) セッションを開始または終了します。[リモート コントロール](#) セッションを、最後に選択したレコードのホストと実行している場合、ボタンが押された状態で表示されます。



ファイル転送：このボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#)または[タブ パネル](#)のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択すると、[ファイルの転送](#)セッションを開始または終了します。[ファイルの転送](#)セッションを、最後に選択したレコードのホストと実行している場合、ボタンが押された状態で表示されます。



チャット：このボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#)または[タブ パネル](#)のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択すると、[チャット](#)セッションを開始または終了します。[チャット](#)セッションを、最後に選択したレコードのホストと実行している場合、ボタンが押された状態で表示されます。



オーディオ チャット：このボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#)または[タブ パネル](#)のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択すると、[オーディオビデオチャット](#)セッションを開始または終了します。[オーディオビデオチャット](#)セッションを、最後に選択したレコードのホストと実行している場合、ボタンが押された状態で表示されます。

注意：ゲストは、一度に 1 つのオーディオ セッションのみを実行できます。



リモート管理：このボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#)または[タブ パネル](#)のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択すると、[リモート管理](#)セッションを開始または終了します。[リモート管理](#)セッションを、最後に選択したレコードのホストと実行している場合、ボタンが押された状態で表示されます。

3.5.3.2 [アクション] ボタン

以下は [NetOp ゲスト ウィンドウ](#)の [ツールバー](#)のアクション ボタンです。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

アクション ボタンを有効にするには、[\[簡易接続\] タブ](#)でホスト レコードを選択するか、[\[ホスト\] セクション](#)の [\[名前\]](#) フィールドでホスト名を指定するか、[\[電話帳\] タブ](#)、[\[接続\] タブ](#)、[\[履歴\] タブ](#)でホスト レコードを 1 つ以上選択します。



プログラムの実行：このボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#)または[タブ パネル](#)のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択すると、[プログラムの実行](#)ドロップダウン メニューが表示されます。



一斉制御：このボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#)または[タブ パネル](#)のレコード コンテキスト メニューの対応する [\[一斉制御\]](#) コマンドを選択すると、[コマンドの実行](#)ドロップダウン メニューが表示されます。



メッセージ送信：このボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#)または[タブ パネル](#)のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択すると、[NetOp メッセージ](#)ウィンドウが表示されます。



画面呼出：このボタンをクリックすると、ホスト コンピュータの[画面呼出](#)を実行できます。最後に選択されたホスト コンピュータが画面に呼び出されている場合、ボタンが押された状態で表示されます。



インベントリを取得する：このボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#)または[タブ パネル](#)のレコード コンテキスト メニューの対応する [\[インベントリを取得する\]](#) コマンドを選択すると、ホスト コンピュータから[インベントリの取得](#)処理を実行します。

3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

注意：これらのアクションの一部を実行すると、[コマンドの進行状況] ウィンドウが表示されます。[プログラムの実行](#)を参照してください。

3.5.3.3 その他のボタン

以下は [NetOp ゲスト ウィンドウのツールバー](#)の他のボタンです。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。



切断：[\[電話帳\] タブ](#)、[\[簡易接続\] タブ](#)、[\[接続\] タブ](#)、[\[履歴\] タブ](#)で接続されているホスト レコードを選択してから、このボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#)または[タブ パネル](#)のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択すると、接続を切断します。

注意：一度に 1 つのホストを切断できます。



ローカル ファイル転送：このボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、ローカル [ファイルの転送](#)セッションを開始します。



接続のプロパティ：[\[電話帳\] タブ](#)、[\[履歴\] タブ](#)、[\[ヘルプ呼出\] タブ](#)でホスト レコードを選択してから、このボタンをクリックするか、[\[編集\] メニュー](#)または[タブ パネル](#)のレコード コンテキスト メニューの対応するコマンドを選択すると、[接続のプロパティ](#) ウィンドウが表示され、選択したホスト レコードの接続のプロパティを参照および編集することができます。



電話帳エントリ：[\[電話帳\] タブ](#)を表示して、このボタンをクリックするか、[\[編集\] メニュー](#)または[レコード ペイン](#)のコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択すると、[接続のプロパティ](#) ウィンドウが表示され、表示された[レコード ペイン](#)の中で電話帳レコードを作成することができます。



削除：[タブ パネル](#)のフォルダまたはレコードを 1 つ以上選択してから、このボタンを選択するか、[\[編集\] メニュー](#)またはコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択すると、選択した項目を削除できます (削除前に確認ダイアログボックスが表示されます)。

警告：フォルダを削除すると、フォルダ内のすべてのフォルダおよびレコードが削除されます。



ツリー ウィンドウ：このボタンをクリックするか、[\[表示\] メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、[タブ パネル](#)のタブの左側にあるフォルダ ツリー構造を表示するペインを表示 / 非表示にすることができます (デフォルト：有効)。表示に切り替えると、ボタンが押された状態で表示されます。



大きいアイコン：このボタンをクリックするか、[\[表示\] メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、[タブ パネル](#)のタブのレコードが大きなアイコンで横に並んで表示されます。選択すると、ボタンが押された状態で表示されます。



小さいアイコン：このボタンをクリックするか、[\[表示\] メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、[タブ パネル](#)のタブのレコードが小さなアイコンで横に並んで表示されます。選択すると、ボタンが押された状態で表示されます。



一覧：このボタンをクリックするか、[\[表示\] メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、[タブ パネル](#)のタブのレコードが小さなアイコンで縦に並んで表示されます。選択すると、ボタンが押された状態で表示されます。



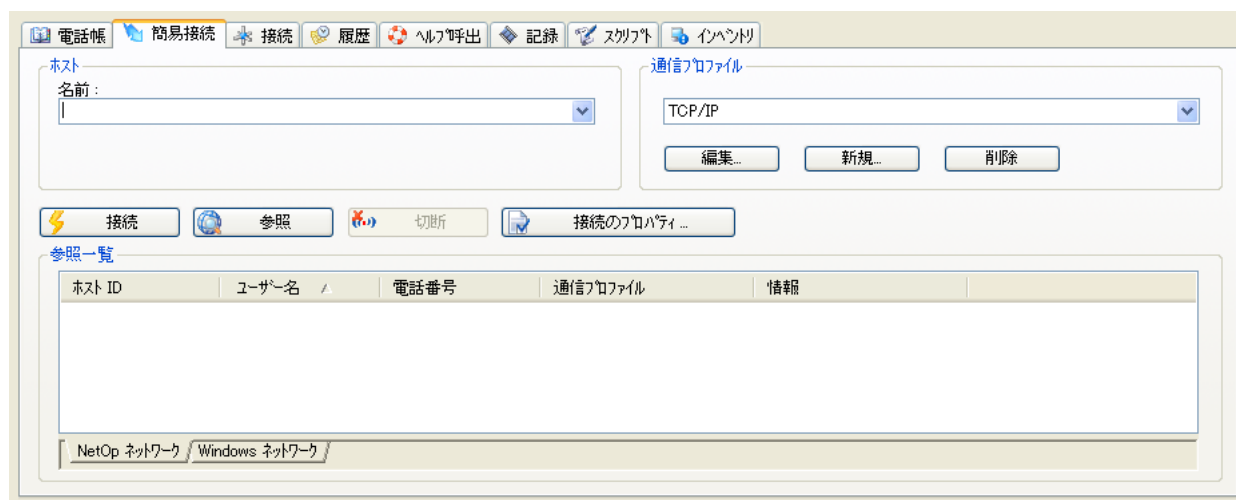
詳細：このボタンをクリックするか、[\[表示\] メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、[タブ パネル](#)のタブのレコードが詳細情報を列に持つ表形式で表示されます (デフォルト設定)。選択すると、ボタンが押された状態で表示されます。



このタブのヘルプ：このボタンをクリックするか、[\[ヘルプ\] メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、[NetOp ゲスト ヘルプ システム](#)が開き、[タブ パネル](#)の表示されているタブのトピックが表示されます。

3.5.4 タブ パネル

以下は [NetOp ゲスト ウィンドウ](#) のタブ パネルです。



以下のタブを表示できます (デフォルト: すべて)。

- ・ [\[電話帳 \] タブ](#)
- ・ [\[簡易接続 \] タブ](#)
- ・ [\[接続 \] タブ](#)
- ・ [\[履歴 \] タブ](#)
- ・ [\[ヘルプ呼出 \] タブ](#)
- ・ [\[記録 \] タブ](#)
- ・ [\[スクリプト \] タブ](#)
- ・ [\[イベントリ \] タブ](#)

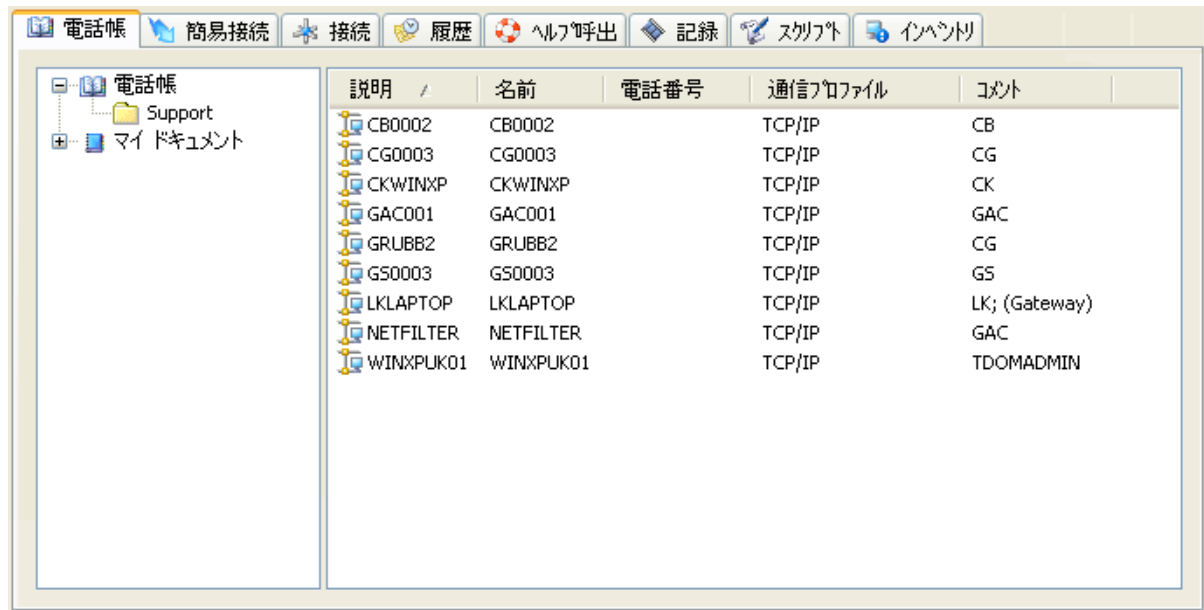
デフォルトでは [\[簡易接続 \] タブ](#) は前面に表示されます。

タブ パネルの内容は [プログラムのオプション](#) ウィンドウの [\[レイアウト \] タブ](#) で整理します。

3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

3.5.4.1 [電話帳] タブ

この [NetOp ゲスト ウィンドウ](#) の [タブ パネル](#) タブは、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [\[レイアウト\] タブ](#) で非表示になっていない限り表示されます。



これは個人の電話帳のように使用できますが、ホストに接続するには、電話番号以外の情報も必要です。

- 正しい通信プロファイルを選択する必要があります。
- ホスト名と可能な接続要素を正しく指定する必要があります。
- 接続の際、ログオン資格情報の指定が必要になることがあります。
- ゲストの設定はホストの設定に合わせ、転送の速度と品質を最適化する必要があります。
- 接続時に、優先する対話機能を使えるようにしておく必要があります。

これらすべてを [電話帳レコード](#) に指定して、数回のマウス操作でホスト コンピュータにアクセスできるようにすることができます。

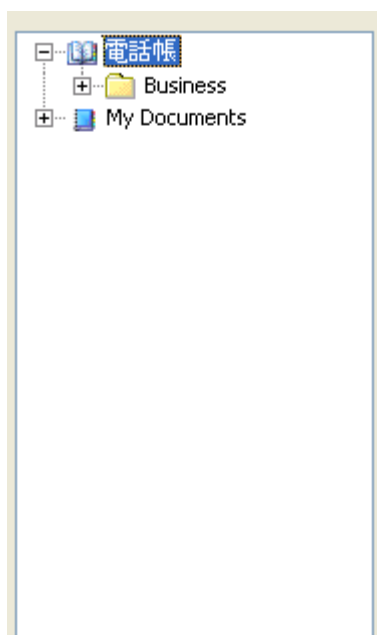
[電話帳] タブには、非表示にできる左側の [ツリー ペイン](#) と右側の [レコード ペイン](#) があります。

[ツリー ペイン](#) には、ユーザーが定義した電話帳のディレクトリ構造が表示されます。[ツリー ペイン](#) を表示 / 非表示にするには、[ツールバーのその他のボタン](#) の [\[ツリー ウィンドウ\]](#) ボタンをクリックするか、[\[表示\] メニュー](#) の対応するコマンドを選択します (デフォルト: 有効)。

[レコード ペイン](#) には、[ツリー ペイン](#) で選択された電話帳ディレクトリの [電話帳レコード](#) が表示されます。

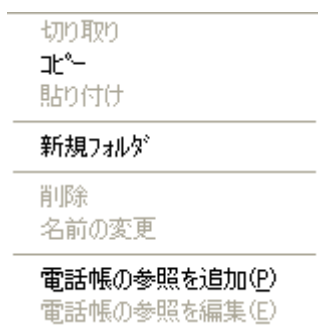
3.5.4.1.1 ツリー ペイン

以下は [NetOp ゲスト ウィンドウ](#) の [タブ パネル](#) の [「電話帳」タブ](#) にあるツリー ペインです。



初期状態では、[「電話帳」](#) という電話帳があります。

ペイン内で右クリックすると、次のコンテキスト メニューが表示されます。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

このメニューから、[電話帳](#)と電話帳リファレンス ディレクトリを管理できます。また、ドラッグアンドドロップによって、ディレクトリのフォルダを管理することもできます。

最初の3つのセクションのコマンドは、[「編集」メニュー](#)のコマンドと同じです。

電話帳の参照を追加： このコマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。



3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

電話帳リファレンスは、別のコンピュータ ユーザーの電話帳など、ゲスト コンピュータのディレクトリを参照します。

[...] ボタンをクリックすると、[フォルダの参照] ウィンドウが表示されます。このウィンドウでディレクトリを選択すると、その名前が [名前] フィールドに、パスが [フォルダ] フィールドに入力されます。必要に応じて、[名前] フィールドで電話帳リファレンスの名前を編集します。新しい電話帳リファレンスが追加された電話帳として、ツリー ペインに表示されます。

電話帳の参照を編集：電話帳リファレンスを選択し、このコマンドを選択すると、[電話帳参照の追加] ウィンドウに電話帳リファレンスの詳細を表示させ、これを編集することができます。

3.5.4.1.2 レコード ペイン

以下は [NetOp ゲスト ウィンドウ](#) の [タブ パネル](#) の [\[電話帳\] タブ](#) にあるレコード ペインです。



説明	名前	電話番号	通信プロファイル	コメント
 Host1	Host1		TCP/IP	
 Host2	Host2		TCP/IP	

ここでは、[ツリー ペイン](#) で選択した [電話帳](#) またはフォルダ内の [電話帳レコード](#) が表示されます。レコードは、[\[表示\] メニュー](#) のコマンドまたは [ツールバー](#) の [その他のボタン](#) の選択内容に応じて、アイコンまたは表内のレコードとして表示されます。

[詳細] 表示形式では、次の内容の表でレコードが表示されます。

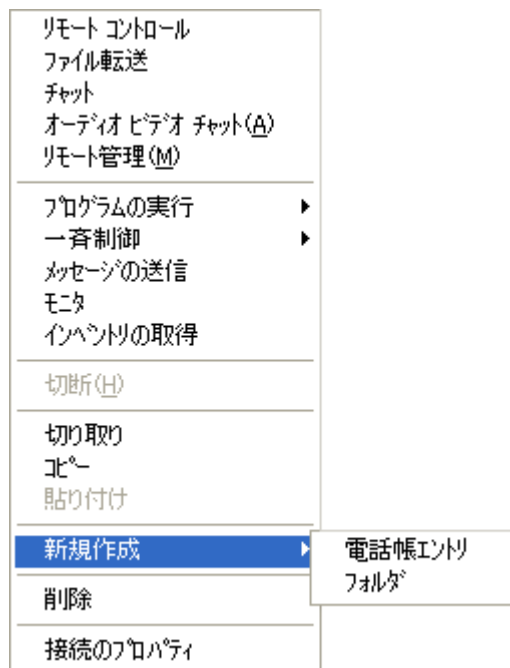
- ・ **説明**：通信デバイス タイプ（ネットワーク、回線、ネットワークのポイントツーポイント、ゲートウェイまたは赤外線）を示すアイコン、およびレコードを識別する説明が表示されます。
- ・ **名前**：ホスト [ネットワーク通信](#) 名前。
- ・ **電話番号**：ホストまたはホスト ネットワークのルーティング NetOp ゲートウェイの [回線通信](#) または [ゲートウェイ](#) の電話番号または IP アドレス、または [ネットワーク ポイントツーポイント通信](#) の IP アドレス。
- ・ **通信プロファイル**：ゲストの通信プロファイルの名前
- ・ **コメント**：ゲスト ユーザーが指定したコメントや、最初のホスト検索時のホスト コンピュータのユーザー名が表示されます。

表内のコントロールについては、[テーブル コントロール](#) を参照してください。

選択したレコードのホストとセッションを開始するには、[セッション ボタン](#) のボタンをクリックするか、[セッション コマンド](#) のコマンドを選択します。選択したレコードのホスト コンピュータに対してアクションを実行するには、[\[アクション\] ボタン](#) のボタンをクリックするか、[アクション コマンド](#) のコマンドを選択します。

レコードをダブルクリックすると、レコードのホストとデフォルト タイプのセッションを開始します。[\[一般\] タブ](#) を参照してください。

1 つのレコードまたは複数選択したレコードを右クリックすると、次のコンテキストメニューが表示されます。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

最初のセクションには、[セッション コマンド](#)があります。

2 番目のセクションには、[アクション コマンド](#)があります。

1 つのレコードが選択されている場合、アクション コマンドの後に〈カスタム アプリケーション〉コマンドを含めることができます。このコマンドを選択すると、カスタム アプリケーションを実行できます。カスタム アプリケーションを電話帳レコードへ割り当てるのは、[接続のプロパティ](#) ウィンドウの **「カスタム」** タブで行います。

切断: [他のコマンド](#)を参照してください。

残りのコマンドは、[「編集」メニュー](#)のコマンドと同じです。

3.5.4.1.3 電話帳レコード

電話帳レコードは、ホストの接続のプロパティを指定します。

電話帳レコードは、同一ホストに対して複数の代替電話帳レコードを作るなど、いくつでも作成することができます。

電話帳レコードを迅速に作成するには、[「簡易接続」](#) タブの [「NetOp ネットワーク」](#) タブのホストレコードを追加するか、[「簡易接続」](#) タブの [「NetOp ネットワーク」](#) タブまたは [「履歴」](#) タブの [レコード ペイン](#)のホストレコードを電話帳にコピーします。

電話帳レコードは、電話帳または履歴の *dwc* ファイルを電話帳にコピーするか、カンマ区切りファイルの電話帳データをインポートすることで作成できます。[電話帳のインポート/エクスポート](#)を参照してください。

電話帳レコードを最初から作成するには、[ツールバーのその他のボタン](#)の [「電話帳エントリ」](#) ボタンをクリックするか、[「編集」メニュー](#)または[レコード ペイン](#)のコンテキストメニューにある [「新しい電話帳のエントリ」](#) コマンドを選択して、[接続のプロパティ](#) ウィンドウを表示します。まず電話帳レコードを選択し、選択した電話帳レコードの接続のプロパティを基に、電話帳レコードを作成します。

電話帳レコードを編集するには、レコードを選択してから[ツールバーのその他のボタン](#)の [「接続のプロパティ」](#) ボタンをクリックするか、[「編集」メニュー](#)または[レコード ペイン](#)のコンテキストメニューにある [「接続のプロパティ」](#) コマンドを選択して、[接続のプロパティ](#) ウィンドウにその接続のプロパティを表示し、編集します。

3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

[電話帳] ルート フォルダとユーザーが定義したフォルダとの間で、電話帳レコードのコピーや移動を行うことができます。これは、ドラッグ アンド ドロップでも可能です。

電話帳レコードは、[NetOp の設定ファイル](#)のディレクトリ内にある *PhBook* ディレクトリ (通常、*C:\Documents and Settings\ユーザー名\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Guest\PhBook*) に、*dwc* という拡張子を持つファイルとして保存されます。*dwc* ファイルは XML フォーマットのファイルで、任意のテキスト エディタで読むことができます。

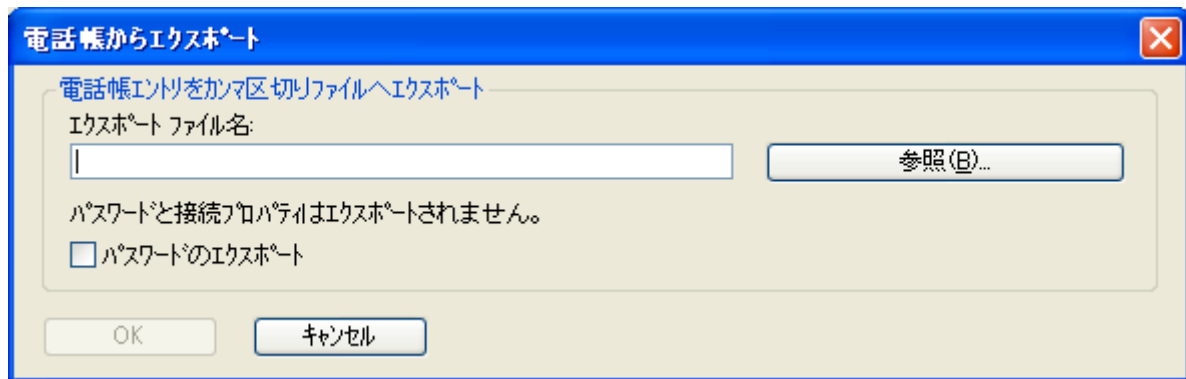
最初に NetOp ゲストを読み込まずに目的のホストに接続するには、電話帳レコードをコンピュータのデスクトップにコピーして、*dwc* ファイルのアイコンを表示させます。ホストとデフォルトタイプのセッションを開始するには、このファイル アイコンをダブルクリックします。NetOp ゲストがまだ読み込まれていない場合は、読み込まれて最小化状態で実行され、通知領域に [NetOp ゲスト] ボタンが表示されます。ファイル アイコンを右クリックすると、[セッション コマンド](#) と [接続のプロパティ](#) コマンドおよび標準のデスクトップ アイコン コマンドのあるコンテキスト メニューが表示されます。

3.5.4.1.4 電話帳のインポート / エクスポート

電話帳のデータは、カンマ区切りファイルでエクスポートおよびインポートすることができます。

エクスポート

[ツリー ペイン](#)で [電話帳] ルート フォルダまたはその中のディレクトリ フォルダを選択するか、[レコード ペイン](#)で 1 つ以上のレコードを選択して、[\[ファイル\] メニュー](#) [電話帳からエクスポート] コマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。



エクスポート ファイル名 : []:パスとファイル名を、このフィールドで指定します。ファイル名だけを指定した場合、カンマ区切りファイルは NetOp ゲストをインストールしたディレクトリに保存されます。

参照... : このボタンをクリックすると、Windows の [名前を付けて保存] ウィンドウが表示されます。このウィンドウからカンマ区切りファイルのディレクトリを選択し、その名前を指定して、[エクスポート ファイル名] フィールドにパスと名前を入力できます。

パスワードのエクスポート : このボックスをオンにすると、電話帳レコードのパスワードをカンマ区切りファイルに含めることができます (デフォルト : オフ)。

注意 : 電話帳レコードの [接続のプロパティ](#) ウィンドウにある [\[表示\] タブ](#)、[\[キーボード/マウス\] タブ](#)、[\[圧縮/暗号化\] タブ](#)、[\[デスクトップ\] タブ](#)、[\[記録\] タブ](#)のプロパティはエクスポートできませんが、インポート時にはこれらのプロパティを指定できます。

カンマ区切りファイルの構文

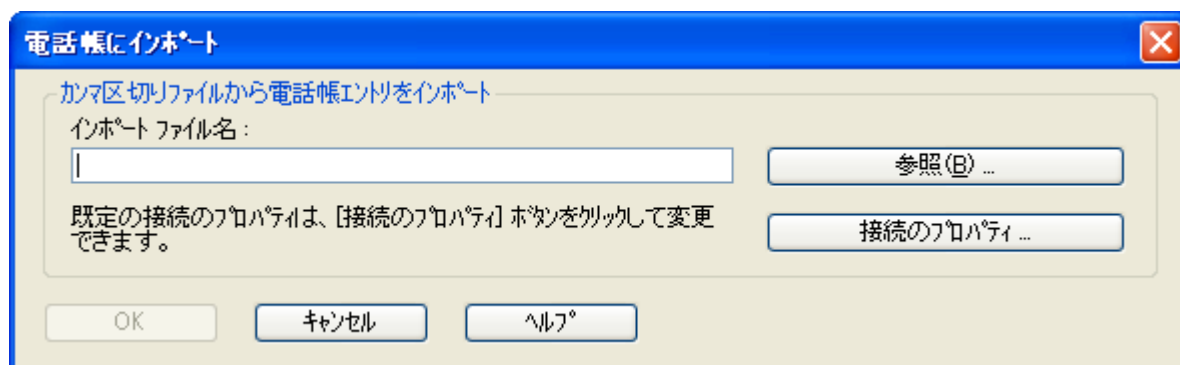
カンマ区切りファイルは、プレーン テキスト ファイルです。このファイルの中には、次の構文に従って、それぞれの電話帳レコードが項目ごとにカンマで区切られて 1 行のテキストに収められています。

<フォルダ パス>,<説明>,<電話番号>,<名前>,<コメント>,<通信プロファイル>,<ホスト ログイン名>,<ホスト ログイン パスワード>,<ホスト ログイン ドメイン>,<ゲートウェイ ログイン名>,<ゲートウェイ ログイン パスワード>,<ゲートウェイ ログイン ドメイン>,<保護項目パスワード>,<wake on LAN MAC アドレス>,<ログイン資格フラグ>,<カスタム アプリケーションの説明>,<カスタム アプリケーションのコマンド ライン>、

パスワードは暗号化され、接頭辞 **ENCRYPTED:** の付いた 32 桁の 16 進数チェックサムとしてファイルに入れます。

インポート

[\[ファイル\]](#) [メニュー](#)の [\[電話帳にインポート\]](#) コマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。



インポート ファイル名 : []: このフィールドに、電話帳のデータをインポートするカンマ区切りファイルのパス名とファイル名を入力します。

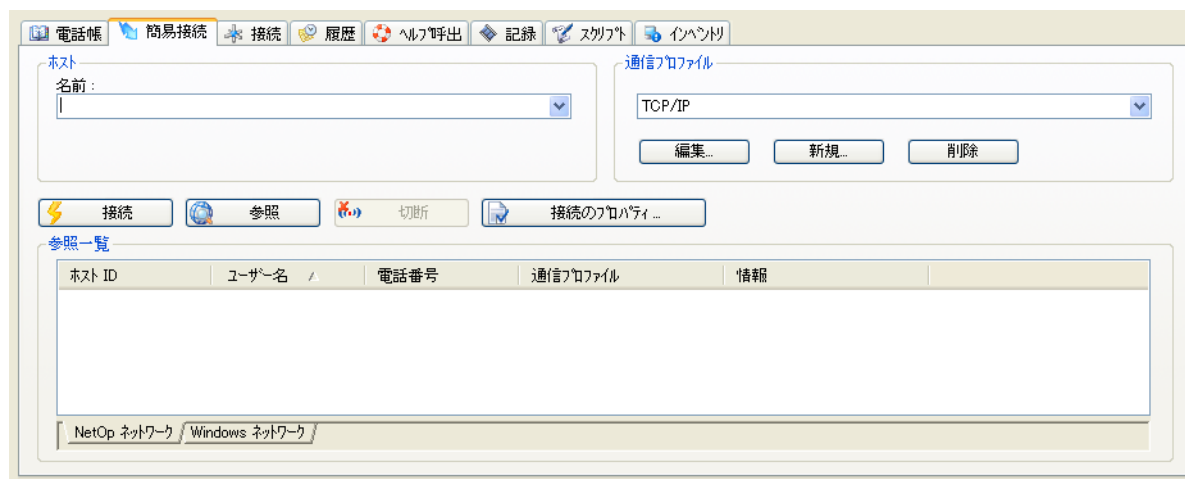
参照... : このボタンをクリックすると、Windows の [\[開く\]](#) ウィンドウが表示され、カンマ区切りファイルを選択して、[\[インポート ファイル名\]](#) フィールドにパスと名前を入力することができます。

接続のプロパティ... : このボタンをクリックすると、[\[表示\]](#) タブ、[\[キーボード/マウス\]](#) タブ、[\[圧縮/暗号化\]](#) タブ、[\[デスクトップ\]](#) タブ、[\[記録\]](#) タブの各タブを持つ [\[接続のプロパティ\]](#) ウィンドウが表示され、これらのタブで、インポートするすべての電話帳レコードのプロパティを必要に応じて設定できます。

OK : このボタンをクリックすると、カンマ区切りファイルの電話帳データをインポートして、ファイルに指定されている電話帳の構造（通常、エクスポートした NetOp ゲストと同じ）で、電話帳レコードを作成します。

3.5.4.2 [簡易接続] タブ

この [タブ パネル](#) のタブは、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [\[レイアウト\]](#) タブ で非表示になっていない限り表示されます。



これを使用すると、通信プロファイルを選択して、ホスト限定子とルーティング NetOp ゲートウェイ限定子（該当する場合）を指定することで、ホストに接続できるようになります。

1. [\[通信プロファイル\] セクション](#)で、通信プロファイルを選択します。
2. [\[ホスト\] セクション](#)でホスト名、コンピュータのアドレスまたはモデム番号、そして該当する場合はルーティング NetOp ゲートウェイ コンピュータのアドレスまたは電話番号を指定します。

3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

- 別の方法として、[ネットワーク通信](#)の通信プロファイルを選択した場合、[ボタン](#)の [[参照](#)] ボタンをクリックすると、[\[NetOp ネットワーク\] タブ](#)に応答したホストのレコードが表示されます。レコードをクリックして、そのホスト ID の値を [\[ホスト\] セクション](#)の [[名前](#)] フィールドに表示するか、レコードをダブルクリックしてデフォルトセッションを開始します。[\[一般\] タブ](#)を参照してください。
 - 別の方法として、[\[Windows ネットワーク\] タブ](#)でネットワーク コンピュータのレコードをクリックして、その[名前](#)の値を [\[ホスト\] セクション](#)の [[名前](#)] フィールドに表示するか、レコードをダブルクリックしてデフォルトセッションを開始します。[\[一般\] タブ](#)を参照してください。
3. [ボタン](#)の [[接続](#)] ボタンをクリックするか、タブのレコードをダブルクリックしてデフォルトセッションを開始します。[\[一般\] タブ](#)を参照してください。
- デフォルトでないセッションを開始したり、アクションを実行するには、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#)またはタブのコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択します。

注意：接続に失敗した場合は、[接続の問題](#)を参照してください。

3.5.4.2.1 [ホスト] セクション

この[\[簡易接続\] タブ](#)セクションの内容は、選択した通信プロファイルが使う、以下のセクションで説明する通信デバイスの種類によって変化します。

- [ネットワーク通信](#)
- [回線通信またはゲートウェイ](#)
- [ネットワーク ポイントツーポイント通信](#)
- [赤外線通信](#)

ネットワーク通信

ネットワーク通信デバイス ([IPX \(RemPCIPX v. 4.3 を含む\)](#)、[NetBIOS \(RemPCNB v. 4.3 を含む\)](#)、[TCP/IP](#)、[ターミナル サーバー](#)) を使用する通信プロファイルを選択した場合、[\[簡易接続\] タブ](#)の[\[ホスト\] セクション](#)は、次のようになります。



名前: []: このドロップダウン ボックスのフィールドには、ホストが応答できる名前を指定します。[IPX の設定](#)、[NetBIOS の設定](#)、[TCP/IP の設定](#)、[ターミナル サーバーの設定](#)を参照してください。ドロップダウン ボックス リストには、以前接続したホスト名が表示されています。リストから名前を選択すると、それがフィールドに表示されます。

注意：NetOp は指定された名前をデフォルトのホスト名限定子または接頭辞が付いたホスト名限定子に従い解釈します。[\[ホスト名\] タブ](#)を参照してください。

このセクションには以下のトピックがあります。

[ホストを参照する：](#)

[NetOp ゲートウェイを経由したネットワークまたはネットワーク ターミナル サーバー ホストへの接続](#)

ホストを参照する：

[ネットワーク通信](#)を使用する通信プロファイルを選択した場合、応答したネットワーク ホストを参照することができます。[ボタン](#)の [[参照](#)] ボタンをクリックすると、この通信を受信したホストに**応答**するようにリクエストするブロードキャスト通信を送信します。タイムアウトの時間が経過すると、応答したホストの記録が [\[NetOp ネットワーク\] タブ](#)に表示されます。レコードをクリックして、そのホスト ID の値を [\[ホスト\] セクション](#)の [[名前](#)] フィールドに表示するか、

3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

ゲートウェイ通信デバイスによってゲスト ネットワークの NetOp ゲートウェイに接続し、そこから回線通信またはネットワーク ポイントツーポイント通信によってホストと接続している場合：



[電話番号] ドロップダウン ボックス フィールドで、回線通信を使用している場合はホストのモデム電話番号を、ネットワーク ポイントツーポイント通信を使用している場合はホストの IP アドレスを指定し、下の [名前] ドロップダウン ボックス フィールドは空白のままにしておきます。

回線通信によってホスト ネットワークの NetOp ゲートウェイに接続し、そこからネットワークのホストに接続している場合：



[電話番号] ドロップダウン ボックス フィールドで、ホスト ネットワークの NetOp ゲートウェイのモデム電話番号を指定し、必要に応じて、[名前] ドロップダウン ボックス フィールドでホスト名を指定します。

ゲートウェイ通信デバイスによってゲスト ネットワークの NetOp ゲートウェイに接続し、そこから回線通信またはネットワーク ポイントツーポイント通信によってホスト ネットワークの NetOp ゲートウェイに接続して、さらにネットワークのホストに接続している場合：

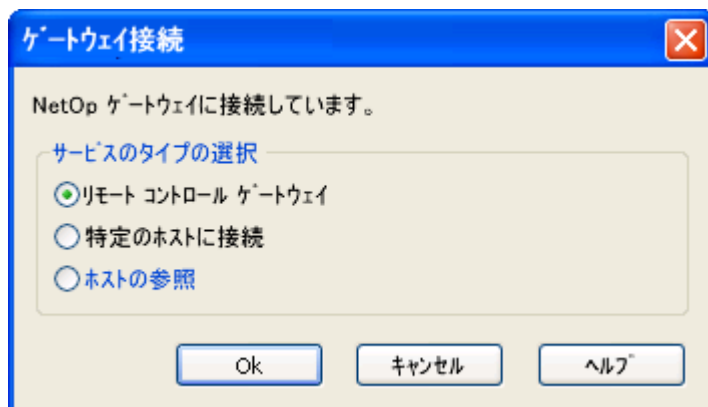


[電話番号] ドロップダウン ボックス フィールドで、回線通信を使用している場合はホスト ネットワークの NetOp ゲートウェイのモデム電話番号を、ネットワーク ポイントツーポイント通信を使用している場合はホスト ネットワークの NetOp ゲートウェイの IP アドレスを指定し、必要に応じて、[名前] ドロップダウン ボックス フィールドでホスト名を指定します。

ドロップダウン ボックス リストには、以前接続された電話番号、IP アドレスおよびホスト名が表示されています。リストのエントリを選択すると、フィールドに表示されます。

注意：NetOp は [名前] ドロップダウン ボックス フィールドのホスト名を、デフォルトのホスト名限定子または接頭辞が付いたホスト名限定子に従い解釈します。[\[ホスト名\] タブ](#)を参照してください。

[名前] ドロップダウン ボックス フィールドに名前が指定されていない場合、ホストのネットワーク NetOp ゲートウェイへの接続時に、次のウィンドウが表示されます。



次のどちらかのオプションを選択します。

- リモート コントロール ゲートウェイ: ゲートウェイに接続します (デフォルト設定)。
- 特定のホストに接続: []: このフィールドには、ホストに接続するゲートウェイ ネットワークのホスト名を指定します。
- ホストの参照: []: このフィールドは空白のままにしておくか、ホスト名の最初の数文字を指定するとゲートウェイ ネットワーク上で[ホストを参照する](#): 処理を実行できます。

ネットワーク ポイントツーポイント通信

ネットワーク ポイントツーポイント通信デバイス ([TCP/IP \(TCP\)](#) または [TCP/IP \(TCP IPv6\)](#)) を使用する通信プロファイルを [\[通信プロファイル\]](#) セクションで選択した場合、次の [\[ホスト\]](#) セクションが表示されます。

ホスト

TCP/IP アドレス:

名前 (オプション、ゲートウェイで使用):

ホストに直接接続する場合、[\[TCP/IP アドレス\]](#) ドロップダウン ボックス フィールドにホストの IP アドレスを指定し、[\[名前\]](#) ドロップダウン ボックス フィールドは空白のままにしておきます。

ホストのネットワーク NetOp ゲートウェイを介してホストに接続する場合、[\[TCP/IP アドレス\]](#) ドロップダウン ボックス フィールドにゲートウェイの IP アドレスを指定し、任意で [\[名前\]](#) ドロップダウン ボックス フィールドにホスト名を指定します。

ドロップダウン ボックス リストには、以前接続した IP アドレスとホスト名が表示されています。リストのエントリを選択すると、フィールドに表示されます。

注意: NetOp は [\[名前\]](#) ドロップダウン ボックス フィールドのホスト名を、デフォルトのホスト名限定子または接頭辞が付いたホスト名限定子に従い解釈します。[\[ホスト名\]](#) タブを参照してください。

フィールドに名前を指定しない場合は、ホスト ネットワーク ネットワーク NetOp ゲートウェイに接続したときに、[\[ゲートウェイ接続\]](#) ウィンドウが表示されます。[回線通信またはゲートウェイ](#)を参照してください。

3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

赤外線通信

通信デバイスの[赤外線 \(IrDA\)](#) を使用する通信プロファイルを[通信プロファイル セクション](#)で選択した場合、次の **[ホスト]** セクションが表示されます。

ホスト

名前 (オプション、ゲートウェイで使用):

ホストに直接接続する場合、**[名前]** ドロップダウン ボックス フィールドは空白のままにしておきます。

ホストのネットワーク NetOp ゲートウェイを介してホストに接続する場合、任意で **[名前]** ドロップダウン ボックス フィールドにホスト名を指定します。

ドロップダウン ボックス リストには、以前接続したホスト名が表示されています。リストのエントリを選択すると、フィールドに表示されます。

注意: NetOp は **[名前]** ドロップダウン ボックス フィールドのホスト名を、デフォルトのホスト名限定子または接頭辞が付いたホスト名限定子に従って解釈します。[\[ホスト名\] タブ](#)を参照してください。

フィールドに名前を指定しない場合は、ホスト ネットワーク ネットワーク NetOp ゲートウェイに接続したときに、**[ゲートウェイ接続]** ウィンドウが表示されます。[回線通信またはゲートウェイ](#)を参照してください。

3.5.4.2.2 [通信プロファイル] セクション

[NetOp ゲスト ウィンドウ](#)の**タブ パネル**の**[簡易接続] タブ**からホストに接続するには、まず、以下のセクションのドロップダウン ボックスで選択します。

通信プロファイル

TCP/IP

編集... 新規... 削除

- ホストまたはルーティング NetOp ゲートウェイ上で有効になっている通信プロファイルに対応する通信プロファイル。

注意: 通信プロファイルは、通信デバイスの設定に名前を付けたものです。NetOp リモート コントロールはさまざまな[通信デバイス](#)を幅広くサポートしています。

選択する通信プロファイルが不明な場合は、ネットワーク管理者またはシステム管理者に問い合わせてください。

初期状態では、ドロップダウン ボックスには *TCP/IP* が選択されています。ドロップダウン ボックス リストの中に、ゲストの[通信プロファイル](#)の名前があります。リストから名前を選択すると、それがフィールドに表示されます。

編集... : このボタンをクリックすると、現在選択されている通信プロファイルを編集するための **[通信プロファイルの編集]** ウィンドウが表示されます。[通信デバイス](#)を参照してください。

新規... : このボタンをクリックすると、通信プロファイルを作成するための **[通信プロファイルの編集]** ウィンドウが表示されます。[通信デバイス](#)を参照してください。

削除 : このボタンをクリックすると、選択されている通信プロファイルが削除されます。

3.5.4.2.3 ボタン

NetOp ゲスト ウィンドウのタブ パネルの「簡易接続」タブには、以下のボタンがあります。



接続: このボタンをクリックすると、「[\[ホスト\] セクション](#)」の「名前」ドロップダウン ボックス フィールドで指定されているホストに接続します。「[\[一般\] タブ](#)」を参照してください。接続に失敗すると、「名前が見つかりませんでした」ウィンドウが表示されます。「[接続の問題](#)」を参照してください。

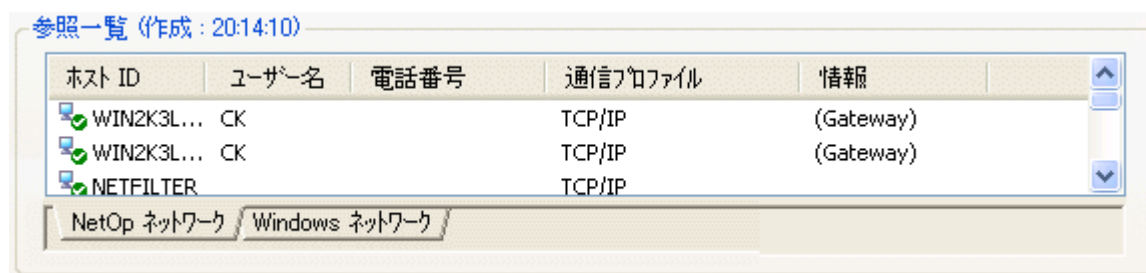
参照... : このボタンは、応答したネットワーク ホストを参照できる場合に有効になります。「[ホストを参照する](#)」を参照してください。クリックして、タイムアウトの時間が経過すると、応答したホストの記録が「[\[NetOp ネットワーク\] タブ](#)」に表示されます。

切断: このボタンは、回線 ([ISDN \(CAPI\)](#)、[シリアル](#)、[Windows モデム](#)) または[ゲートウェイ](#)通信デバイスによって接続されている場合のみ有効になります。「[回線通信またはゲートウェイ](#)」を参照してください。ボタンをクリックすると、ポイントツーポイント接続が切断されます。

接続のプロパティ... : このボタンをクリックすると、選択した一部のタブ付きの[接続のプロパティ](#) ウィンドウが表示されます。このウィンドウでの選択は、「[\[簡易接続\] タブ](#)」から接続する場合に適用されます。

3.5.4.2.4 [NetOp ネットワーク] タブ

この [NetOp ゲスト ウィンドウ](#) のタブ パネルの「[\[簡易接続\] タブ](#)」には、参照に応答したホストのレコードが表示されます。「[ホストを参照する](#)」を参照してください。



セクションのタイトルには、[参照一覧 \(作成 <時間>\)](#) が表示されます。タブの内容を更新するには、もう一度参照を実行します。

タブ ペインには、「[\[表示\] メニュー](#)」または[ツールバー](#)の[その他のボタン](#)の選択内容に応じて、アイコンまたは表内のレコードとしてホスト レコードが表示されます (初期状態は空白)。

【詳細】表示形式では、次の内容の表でレコードが表示されます。

- ホスト ID: ステータス インジケータとホスト ID またはディレクトリ サービスのユーザー名属性。タイトル バーには次のステータス インジケータが表示されます。
 - ディレクトリ サービスはこのレコードを返しましたが、ホストは応答しませんでした。
 - ホストが応答し、利用可能です。
 - ホストが応答しましたが、セッションは利用できません。通常、これは別のゲストがこのホストとセッションを実行しているためです。ホストが[マルチ ゲスト セッション](#)を許可している場合、[リモート コントロール](#)セッションまたは[チャット](#)セッションが利用可能です。
- ユーザー名: ホスト コンピュータの Windows またはネットワークのログイン ユーザー名 (有効な場合)。「[\[ホスト名\] タブ](#)」を参照してください。
- 電話番号: ホストまたはホスト ネットワークのルーティング NetOp ゲートウェイの[回線通信](#)または[ゲートウェイ](#)の電話番号または IP アドレス、または[ネットワーク ポイントツーポイント通信](#)の IP アドレス。
- 通信プロファイル: ゲストの通信プロファイルの名前

3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

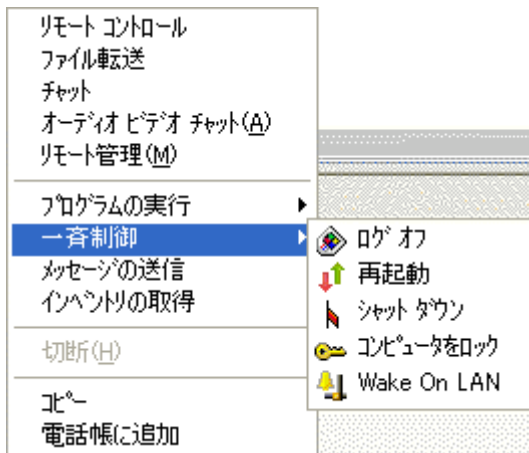
- ・ 情報：ゲートウェイのレコードが表示されます（ゲートウェイ）。

表内のコントロールについては、[テーブル コントロール](#)を参照してください。

レコードをクリックして選択し、そのホスト ID の値を[\[ホスト\] セクション](#)の[\[名前\]](#)フィールドに指定します。

利用可能なホストのレコードをダブルクリックすると、デフォルト セッションを開始します。[\[一般\] タブ](#)を参照してください。

1 つのレコードまたは複数選択したレコードを右クリックすると、次のコンテキスト メニューが表示されます。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

最初のメニュー セクションには、[セッション コマンド](#)があります。

2 番目のメニュー セクションには、[アクション コマンド](#)があります。

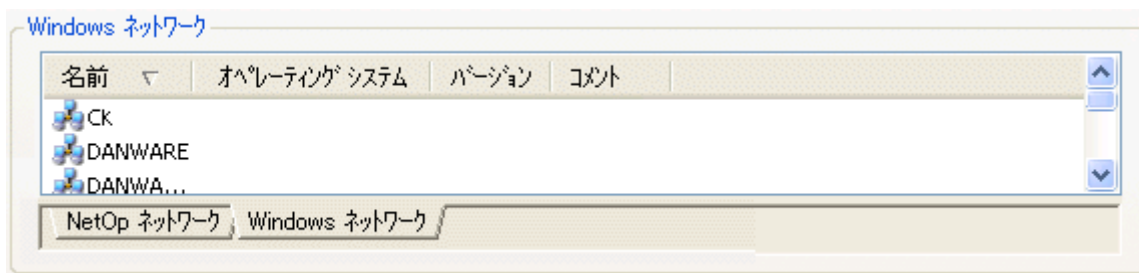
切断：[他のコマンド](#)を参照してください。

コピー：このコマンドまたは[\[編集\] メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、選択したレコードをクリップボードにコピーします。クリップボードの内容を[\[電話帳\] タブ](#)のフォルダに貼り付けると、電話帳レコードが作成されます。

電話帳に追加：このコマンドを選択すると、Windows の[\[フォルダの参照\]](#)ウィンドウが表示され、選択したレコードを電話帳レコード ファイルとして追加する宛先のディレクトリを選択できます。[電話帳レコード](#)を参照してください。

3.5.4.2.5 [Windows ネットワーク] タブ

この[\[簡易接続\] タブ](#)には、Windows のネットワーク名が表示されます。



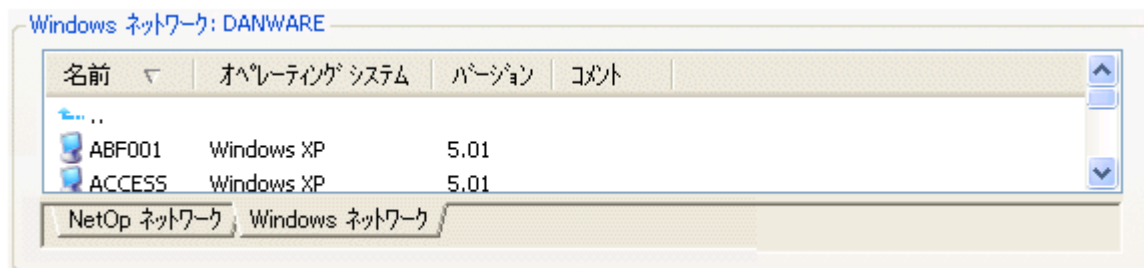
初期状態では、タブ ペインにはゲストが認識する Windows ドメインまたはワークグループのレコードが、[\[表示\] メニュー](#)または[ツールバーのその他のボタン](#)の選択内容に応じて、アイコンまたは表内のレコードとして表示されます。

[\[詳細\]](#)表示形式では、次の内容の表でドメインとワークグループのレコードが表示されます。

- ・ 名前：ドメインのアイコンとドメイン名またはワークグループ名が表示されます。

その他の列は空白になります。

レコードをダブルクリックすると、そのコンピュータ レコード群に展開します。



タブ ペインには、選択したドメインまたはワークグループの稼働しているコンピュータのレコードが、[\[表示\]メニュー](#)または[ツールバーのその他のボタンの](#)選択内容に応じて、アイコンまたは表内のレコードとして表示されます。

注意： コンピュータ レコードは、そのコンピュータが稼働中であることを確認しますが、NetOp ホストがそのコンピュータ上で稼働していることは確認しません。

[\[詳細\]](#) 表示形式では、次の内容の表でコンピュータのレコードが表示されます。

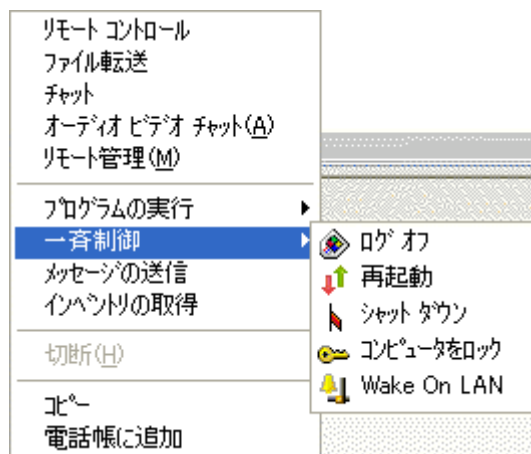
- ・ **名前：** コンピュータ アイコンとコンピュータ名が表示されます。
- ・ **OS：** コンピュータの OS 名が表示されます。
- ・ **バージョン：** コンピュータのオペレーティング システムのバージョンが表示されます。
- ・ **コメント：** コンピュータのコメントです (任意)。

表内のコントロールについては、[テーブル コントロール](#)を参照してください。

レコードをクリックして選択し、**名前**の値を[\[ホスト\]セクションの \[名前\]](#)フィールドに指定します。レコードのコンピュータのホストが応答するかどうか確認するには、[ボタンの \[参照\]](#) ボタンをクリックして、応答した場合に [\[NetOp ネットワーク\] タブ](#)にレコードを表示するようにします。

レコードをダブルクリックすると、デフォルト セッションを開始します。[\[一般\]タブ](#)を参照してください。コンピュータ上の NetOp ホストに接続できない場合、[\[名前が見つかりませんでした\]](#) ウィンドウが表示されます。[接続の問題](#)を参照してください。

1 つのレコードまたは複数選択したレコードを右クリックすると、次のコンテキスト メニューが表示されます。

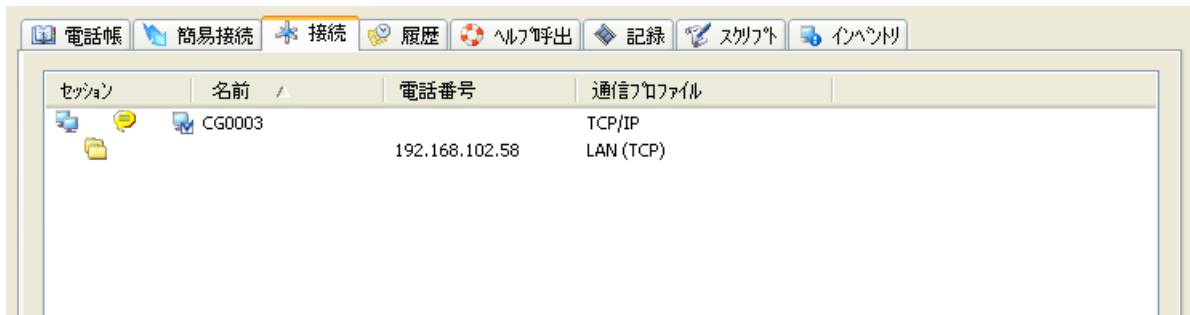


このメニューは、[\[NetOp ネットワーク\] タブ](#)のコンテキスト メニューと同じです。

3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

3.5.4.3 [接続] タブ

このタブは、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [レイアウト](#) タブで非表示になっていない限り表示されます。



これは、現在の接続およびセッションを表示します。

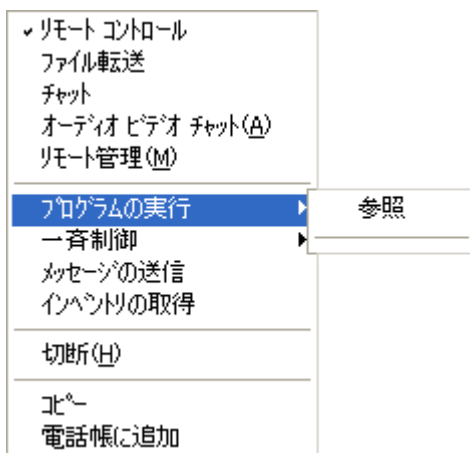
ペインには、接続したホストのレコードが、[表示](#)メニューまたはツールバーの[その他のボタン](#)の選択内容に応じて、アイコンまたは表内のレコードとして表示されます。

[詳細] 表示形式では、次の内容の表でレコードが表示されます。

- ・ セッション：実行中のセッションのアイコンが表示されます。
- ・ 名前：ホストのネットワーク通信名。
- ・ 電話番号：ホストのポイントツーポイント通信の IP アドレスまたは電話番号、またはルーティング ホスト ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスまたは電話番号。
- ・ 通信プロファイル：ゲストの通信プロファイルの名前

表内のコントロールについては、[テーブル コントロール](#)を参照してください。

レコードを右クリックすると、次のコンテキスト メニューが表示されます。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

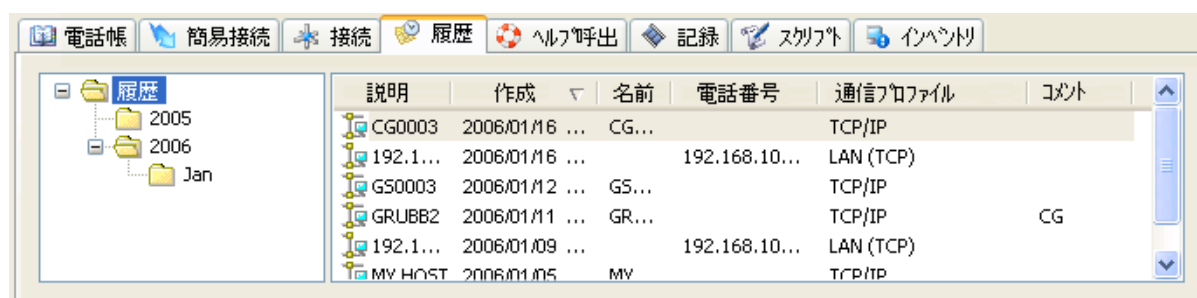
最初のセッションには、[セッション コマンド](#)があります。

2 番目のセッションには、[アクション コマンド](#)があります。

切断：[他のコマンド](#)を参照してください。

3.5.4.4 [履歴] タブ

このタブは、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [レイアウト](#) タブで非表示になっていない限り表示されます。



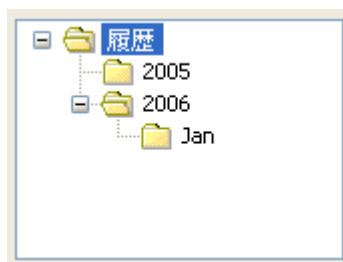
これは、ホスト接続の履歴レコードを保存します。

[履歴] タブには、非表示にできる左側の [ツリー ペイン](#) と右側の [レコード ペイン](#) があります。

[ツリー ペイン](#) には、ユーザーが定義した履歴のディレクトリ構造が表示されます。[ツリー ペイン](#) を表示 / 非表示にするには、[ツールバーのその他のボタンの \[ツリー ウィンドウ\]](#) ボタンをクリックするか、[表示メニュー](#) の対応するコマンドを選択します (デフォルト: 有効)。

[レコード ペイン](#) には、[ツリー ペイン](#) で選択された履歴ディレクトリの [履歴レコード](#) が表示されます。

3.5.4.4.1 ツリー ペイン



この [履歴](#) タブ ペインには初期状態で [履歴] ルート フォルダがあります。ペイン内で右クリックすると、次のコンテキスト メニューが表示されます。




メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#) を参照してください。

このメニューから、History ディレクトリを管理できます。また、ドラッグ アンド ドロップによって、ディレクトリのフォルダを管理することもできます。

コマンドは、[編集メニュー](#) のコマンドと同じです。

3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

3.5.4.4.2 レコード ペイン

説明	作成	名前	電話番号	通信プロファイル	コメント
 C-1000-XP	2005/01/27 15:12:34	C-1000-XP		Internet	

この [\[履歴\]](#) タブ ペインには、[ツリー ペイン](#) で選択したフォルダの [履歴レコード](#) が表示されます。レコードは、[\[表示\]](#) [メニュー](#) または [ツールバー](#) の [その他のボタン](#) の選択内容に応じて、アイコンまたは表内のレコードとして表示されます。

[\[詳細\]](#) 表示形式では、次の内容の表でレコードが表示されます。

説明: 通信デバイス タイプ (ネットワーク、回線、ネットワークのポイントツーポイント、ゲートウェイまたは赤外線) を示すアイコン、およびレコードを識別する説明が表示されます。

作成: 最後に接続された日時が表示されます。

名前: ホストのネットワーク通信名。

電話番号: ホストのポイントツーポイント通信の IP アドレスまたは電話番号、またはルーティング ホスト ネットワーク ゲートウェイのポイントツーポイント通信の IP アドレスまたは電話番号。[回線通信またはゲートウェイ](#) を参照してください。

通信プロファイル: ゲストの通信プロファイルの名前

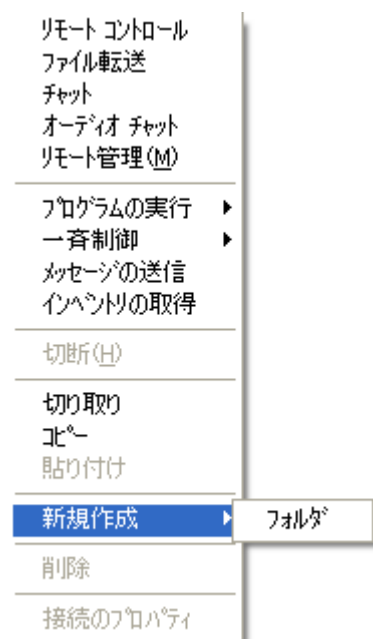
コメント: ゲスト ユーザーが指定したコメントや、最初のホスト検索時のホスト コンピュータのユーザー名が表示されます。

表内のコントロールについては、[テーブル コントロール](#) を参照してください。

選択したレコードのホストとセッションを開始するには、[セッション ボタン](#) のボタンをクリックするか、[セッション コマンド](#) のコマンドを選択します。選択したレコードのホスト コンピュータに対してアクションを実行するには、[\[アクション\]](#) [ボタン](#) のボタンをクリックするか、[アクション コマンド](#) のコマンドを選択します。

レコードをダブルクリックすると、レコードのホストとデフォルト タイプのセッションを開始します。[\[一般\]](#) [タブ](#) を参照してください。

1 つのレコードまたは複数選択した記録を右クリックすると、次のコンテキストメニューが表示されます。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

最初のセクションには、[セッション コマンド](#)があります。

2 番目のセクションには、[アクション コマンド](#)があります。

切断：[他のコマンド](#)を参照してください。

残りのコマンドは、[\[編集\]メニュー](#)のコマンドと同じです。

3.5.4.4.3 履歴レコード

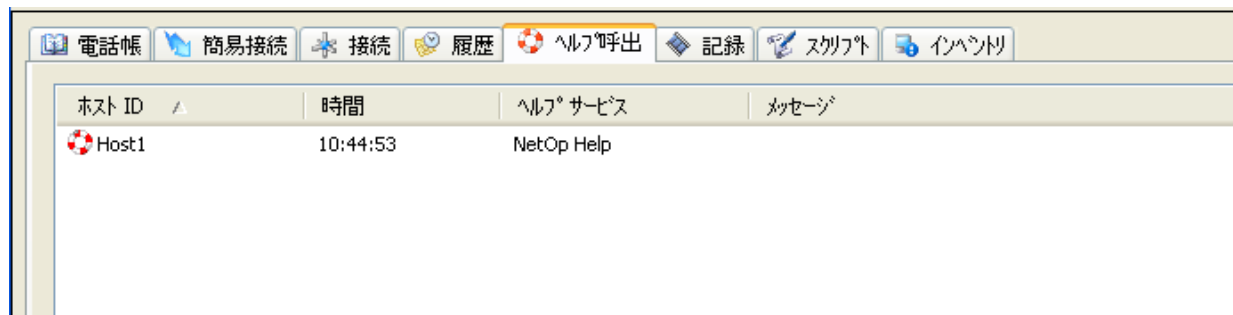
ホストの接続が切断されると、[\[履歴\]](#) ルート フォルダに履歴レコードが自動的に作成されます。フォルダ内に同じ説明を持つ古い履歴レコードがある場合は、上書きされます。

[\[履歴\]](#) ルート フォルダとユーザーが定義したフォルダとの間で、履歴レコードのコピーや移動を行うことができます。これは、ドラッグ アンド ドロップでも可能です。利用頻度の高い履歴レコードを [\[電話帳\] タブ](#) にコピーすると、電話帳レコードとして使用できます。

履歴レコードは、[電話帳レコード](#)のように、[NetOp の設定ファイル](#)のディレクトリ内にある *History* ディレクトリ (通常、*C:\Documents and Settings\ユーザー名\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Guest\History*) に、*dwc* という拡張子を持つファイルとして保存されます。

3.5.4.5 [ヘルプ呼出] タブ

このタブは、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [\[レイアウト\] タブ](#) で非表示になっていない限り表示されます。



これは、保留中のホストのヘルプ呼出を表示します。

3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

注意： ヘルプ呼出を実行するには、ゲストの読み込み時に[通信プロファイル](#)を有効にして、ヘルプ サービスを設定する必要があります。[\[ヘルプ リクエスト\] タブ](#)を参照してください。

ヘルプ呼出が保留中の場合、[ステータス バー](#)と、画面右下の通知領域に次のアイコンが表示されます。



通知領域のボタンをダブルクリックすると、[\[ヘルプ呼出\]](#) タブが表示されます。

[\[ヘルプ呼出\]](#) タブのペインは、[\[表示\] メニュー](#)または[ツールバーのその他のボタン](#)の選択内容に応じて、アイコンまたは表内のレコードとして表示されます。

[\[詳細\]](#) ビューでは、次の内容の表でレコードが表示されます。

ホスト ID : ヘルプ呼出アイコンとホスト ID。

時間 : ヘルプ呼出の時間

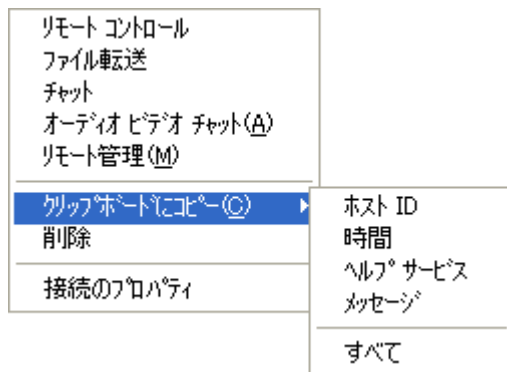
ヘルプ サービス : ヘルプ サービス名。[\[ヘルプ リクエスト\] タブ](#)を参照してください。

障害の状態 : ホストで指定された障害の説明。

表内のコントロールについては、[テーブル コントロール](#)を参照してください。

ヘルプ呼出に応答するには、通常、レコードをダブルクリックしてデフォルト セッションを開始します。[\[一般\] タブ](#)を参照してください。

レコードを右クリックすると、次のコンテキスト メニューが表示されます。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

最初のセクションには、[セッション コマンド](#)があります。

[\[クリップボードにコピー\]](#) は、表の列名およびすべてのコマンドに展開されます。表の列名のコマンドを選択すると、選択した表の列のレコード値をクリップボードにコピーします。すべてを選択すると、レコードのすべての値をクリップボードにコピーして、通常はそれをヘルプ呼出管理システム テーブルに貼り付けます。

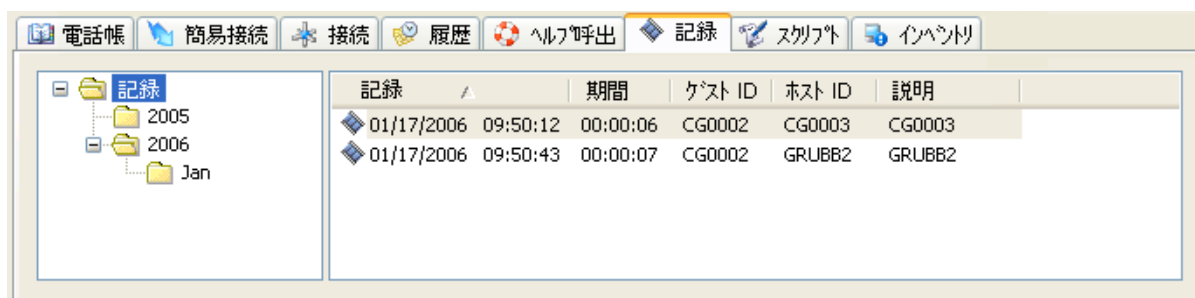
注意： [プログラムのオプション](#) ウィンドウの [\[ヘルプ リクエスト\] タブ](#)には、[\[ヘルプ サービスの詳細\]](#) オプションが含まれています。

残りのコマンドは、[\[編集\] メニュー](#)のコマンドと同じです。

注意： [\[削除\]](#) を選択すると、選択したレコードは削除しますが、レコードのヘルプ呼出はキャンセルされません。

3.5.4.6 [記録] タブ

このタブは、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [レイアウト](#) タブで非表示になっていない限り表示されます。



ここから、リモート コントロール セッションの記録にアクセスできます。

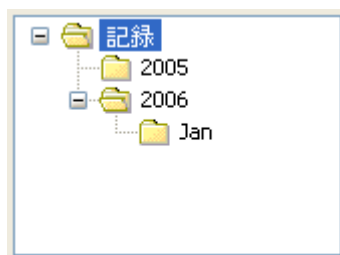
注意： リモート コントロール セッションを記録するには、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [記録](#) タブまたは [接続のプロパティ](#) ウィンドウの [記録](#) タブで記録を有効にします。

[記録] タブには、非表示にできる左側の [ツリー ペイン](#) と右側の [レコード ペイン](#) があります。

[ツリー ペイン](#) には、ユーザーが定義した記録のディレクトリ構造が表示されます。[ツリー ペイン](#) を表示 / 非表示にするには、[ツールバーのその他のボタン](#) の [ツリー ウィンドウ] ボタンをクリックするか、[表示](#) メニューの対応するコマンドを選択します (デフォルト：有効)。

[レコード ペイン](#) には、[ツリー ペイン](#) で選択された記録ディレクトリの [記録レコード](#) が表示されます。

3.5.4.6.1 ツリー ペイン



この [記録](#) タブ ペインには初期状態で [記録] ルート フォルダがあります。

ペイン内で右クリックすると、次のコンテキスト メニューが表示されます。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#) を参照してください。

このメニューから、*Recordings* ディレクトリを管理できます。また、ドラッグ アンド ドロップによって、ディレクトリのフォルダを管理することもできます。

コマンドは、[編集](#) メニューのコマンドと同じです。

3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

3.5.4.6.2 レコード ペイン

記録	期間	ゲスト ID	ホスト ID	説明
01/17/2006 09:50:12	00:00:06	CG0002	CG0003	CG0003
01/17/2006 09:50:43	00:00:07	CG0002	GRUBB2	GRUBB2

この「[記録](#)」タブペインには、[ツリー ペイン](#)で選択したフォルダの[記録レコード](#)が表示されます。レコードは、「[表示](#)」メニューまたは[ツールバー](#)の[その他のボタン](#)の選択内容に応じて、アイコンまたは表内のレコードとして表示されます。

[[詳細](#)] 表示形式では、次の内容の表でレコードが表示されます。

記録： 記録アイコンと記録日時が表示されます。

期間： 記録の期間。

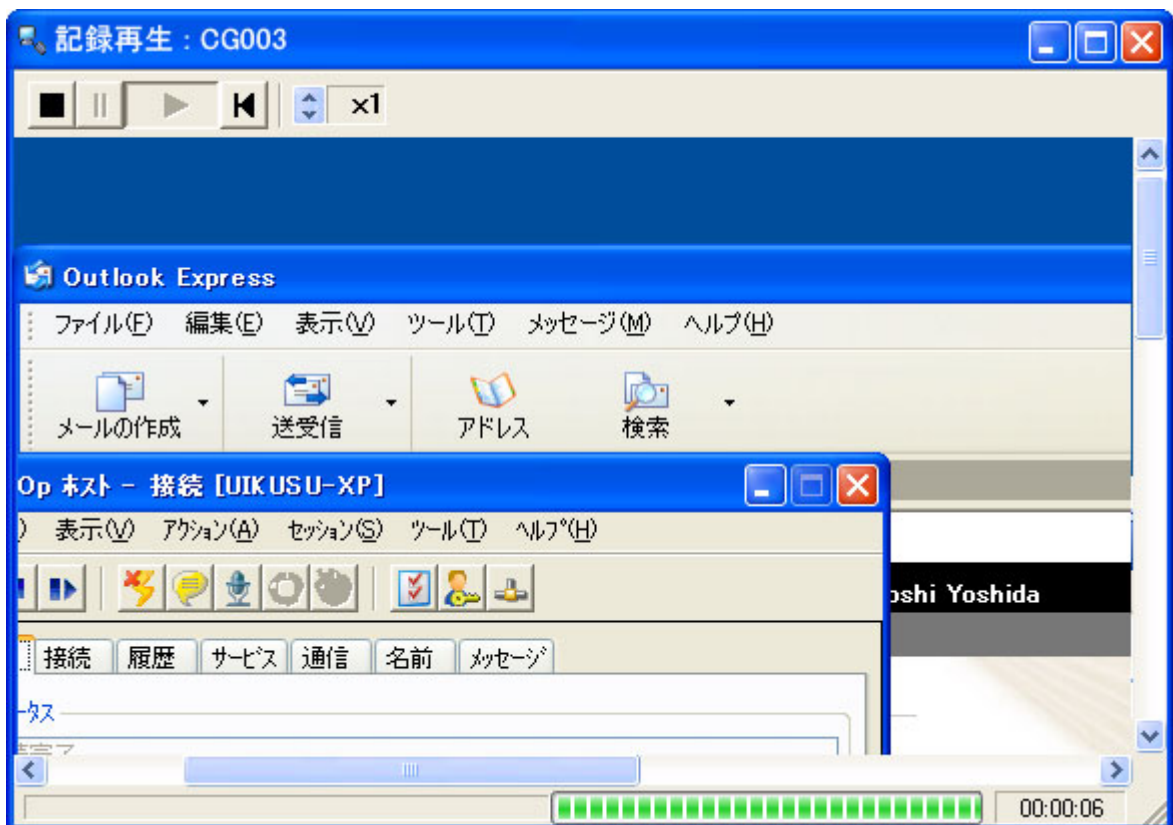
ゲスト ID： リモート コントロールしているゲスト名が表示されます。

ホスト ID： リモート コントロールされているホスト名が表示されます。

説明： リモート コントロールされているホスト レコードの[説明](#)。

表内のコントロールについては、[テーブル コントロール](#)を参照してください。

レコードをダブルクリックすると、次のウィンドウでリモート コントロール セッションの記録を再生します。



初期状態では、このウィンドウのサイズは、セッションが記録されたリモート コントロール ウィンドウと同じになっています。

タイトル バーには、セッションを記録したリモート コントロールされたホストの名前が表示されます。ウィンドウのタイトル バー コントロールについては、「[ウィンドウ コントロール](#)」で説明しています。ウィンドウのコントロール メニューには、以下で説明する再生コントロール ボタンと同じ再生コントロール コマンドがあります。

ツールバーには、次の再生コントロール ボタンがあります。

[停止] (正方形): このボタンをクリックすると、ウィンドウが閉じます。

[一時停止] (2本の縦線): このボタンをクリックして押された状態にすると、再生を一時停止します。この押された状態のボタンをクリックすると、ボタンが解放され、再生を再開します。

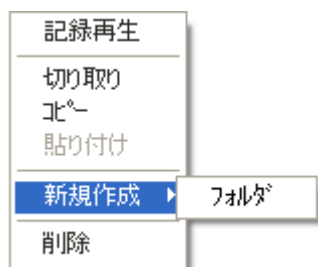
再生 (右を指す三角形): このボタンをクリックして押された状態にすると、再生を開始するか、一時停止中の再生を再開します。再生が終わると、このボタンは無効になります。

巻き戻し (縦線を指す左向きの三角形): このボタンをクリックすると、記録の最初の位置に戻り、未再生画面 (黒) になります。[一時停止] ボタンは押された状態になり、[再生] ボタンが有効になります。

再生速度: デフォルトでは、このスピンドボックス フィールドには、再生が実際の速度であることを示す $x1$ が表示されます。上 / 下ボタンをクリックすると、 $x1$ から $x20$ の倍速で再生速度を変更できます。

ステータス バーには、色付きブロックの進行状況と再生タイム カウンターが表示されます。

1 つのレコードまたは複数選択したレコードを右クリックすると、次のコンテキスト メニューが表示されます。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

記録再生: このコマンドを選択すると、[記録再生] ウィンドウ内で最後にクリックした記録を再生します。

残りのコマンドは、[編集メニュー](#)のコマンドと同じです。

3.5.4.6.3 記録レコード

リモート コントロール セッションの記録が有効になっている場合、各リモート コントロールの各セッションは、記録レコードを [記録] ルート フォルダに作成します。

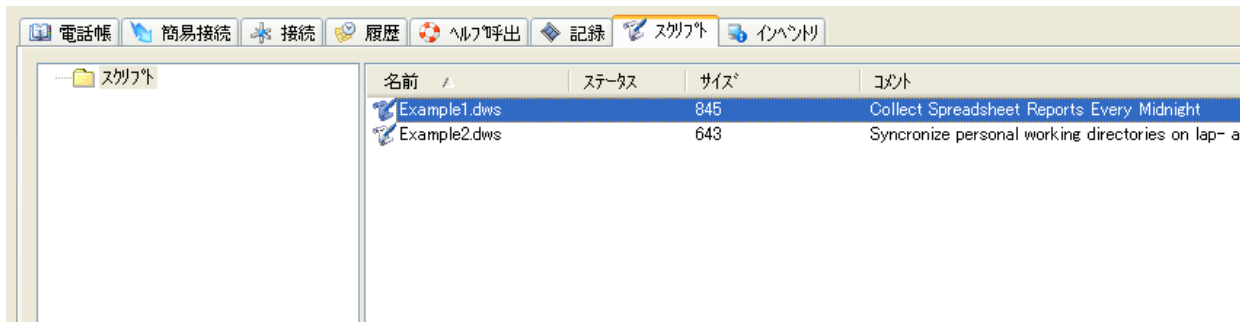
[記録] ルート フォルダとユーザーが定義したサブフォルダとの間で、記録レコードのコピーや移動を行うことができます。これは、ドラッグ アンド ドロップでも可能です。

記録レコードは、[NetOp の設定ファイル](#)のディレクトリ内にある record ディレクトリ (通常、`C:\Documents and Settings\ユーザー名\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Guest\record`) に、`dwr` という拡張子を持つファイルとして保存されます。これらのファイルは、NetOp ゲストでのみ再生できます。

3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

3.5.4.7 [スクリプト] タブ

このタブは、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [レイアウト](#) タブで非表示になっていない限り表示されます。



ここから、NetOp スクリプトと [\[スクリプト\]](#) ウィンドウにアクセスできます。[NetOp スクリプト](#) を参照してください。

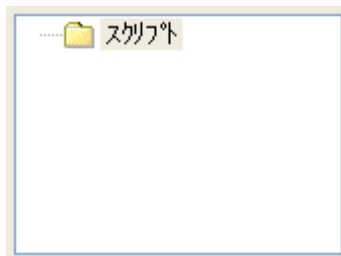
NetOp スクリプトはユーザーが指定したコマンド構造で、ファイル転送など、スケジュールされた NetOp アクションを実行できます。

[\[スクリプト\]](#) タブには、非表示にできる左側の [ツリー ペイン](#) と右側の [レコード ペイン](#) があります。

[ツリー ペイン](#) には、ユーザーが定義したスクリプトのディレクトリ構造が表示されます。[ツリー ペイン](#) を表示 / 非表示にするには、[ツールバーのその他のボタン](#) の [\[ツリー ウィンドウ\]](#) ボタンをクリックするか、[\[表示\] メニュー](#) の対応するコマンドを選択します (デフォルト: 有効)。

[レコード ペイン](#) には、[ツリー ペイン](#) で選択されたスクリプト ディレクトリの [スクリプト レコード](#) が表示されます。

3.5.4.7.1 ツリー ペイン



この [\[スクリプト\]](#) タブペインには初期状態で [\[スクリプト\]](#) ルート フォルダがあります。ペイン内で右クリックすると、次のコンテキスト メニューが表示されます。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#) を参照してください。

このメニューから、*Script* ディレクトリを管理できます。また、ドラッグ アンド ドロップによって、ディレクトリのフォルダを管理することもできます。

コマンドは、[\[編集\] メニュー](#) のコマンドと同じです。

3.5.4.7.2 レコード ペイン

名前	ステータス	サイズ	コメント
Example1.dws		845	Collect Spreadsheet Reports Every Midnight
Example2.dws		643	Synchronize personal working directories on lap- and de...

この「[スクリプト](#)」タブペインには、[ツリー ペイン](#)で選択したフォルダの[スクリプト レコード](#)が表示されます。レコードは、「[表示](#)」メニューまたはツールバーの[その他のボタン](#)の選択内容に応じて、アイコンまたは表内のレコードとして表示されます。

「[詳細](#)」ビューでは、次の内容の表でスクリプト レコードが表示されます。

名前：スクリプト アイコンとスクリプト ファイル名。

ステータス：ステータス情報などが表示されます。スクリプトが編集集中である場合は「[編集](#)」、スクリプトが実行されている場合は「[実行中](#)」と表示されます。

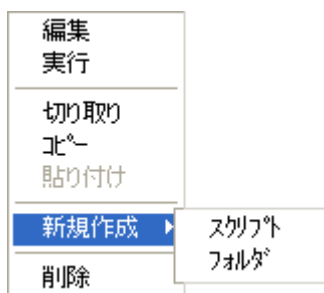
サイズ：スクリプト ファイルのサイズ (バイト単位)。

コメント：「[スクリプト](#)」ウィンドウ内で指定したコメント (任意) が表示されます。[NetOp スクリプト](#)を参照してください。

表内のコントロールについては、[テーブル コントロール](#)を参照してください。

レコードをダブルクリックすると、レコードが実行されます。[NetOp スクリプトのテスト](#)を参照してください。

1 つまたは複数選択したレコードを右クリックすると、次のコンテキスト メニューが表示されます。



メニュー コントロールとツールバー コントロールについては、「[メニューとツールバーのコントロール](#)」で説明しています。

編集：このコマンドを選択すると、「[スクリプト](#)」ウィンドウで最後に選択したレコード スクリプトを開きます。[NetOp スクリプト](#)を参照してください。

実行/停止：このコマンドを選択すると、選択したレコード スクリプトを実行/停止します。[NetOp スクリプトのテスト](#)を参照してください。

残りのコマンドは、「[編集](#)」メニューのコマンドと同じです。

3.5.4.7.3 スクリプト レコード

デフォルトでは、新しい NetOp スクリプトのレコードは「[スクリプト](#)」ルート フォルダに配置されます。「[スクリプト](#)」ルート フォルダとユーザーが定義したサブフォルダとの間で、スクリプト レコードのコピーや移動を行うことができます。これは、ドラッグ アンド ドロップでも可能です。

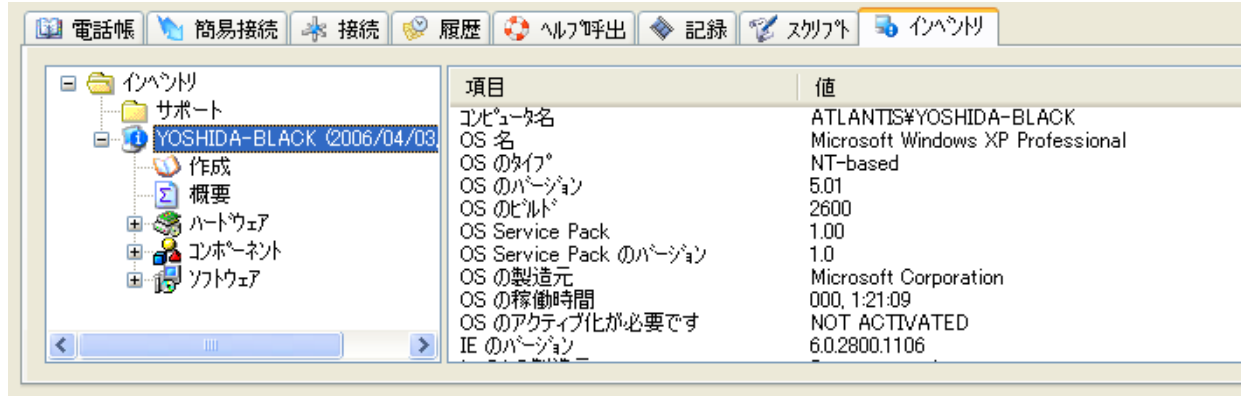
スクリプトは通常、[NetOp の設定ファイル](#)のディレクトリ内にある `script` ディレクトリ (通常、`C:\Documents and Settings\ユーザー名\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Guest\script`) に、`dws` という拡張子を持つファイルとして保存されます。NetOp スクリプト ファイルはテキスト エディタで開いて、そのテキスト構造を表示することができます。

3.5 NetOp ゲスト ウィンドウ

注意：NetOp スクリプトの編集は、スクリプト ファイルをテキスト エディタで編集してもできますが、[スクリプト](#) ウィンドウのグラフィカルな NetOp スクリプト エディタを利用することをお勧めします。

3.5.4.8 [インベントリ] タブ

このタブは、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの[レイアウト](#) タブで非表示になっていない限り表示されます。



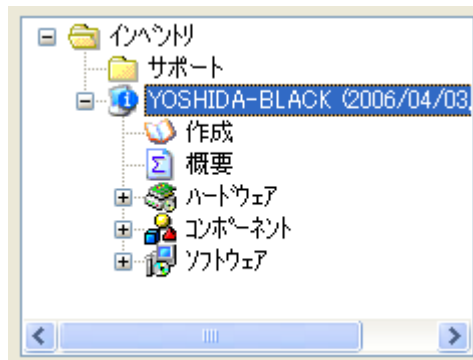
これは、取得したホスト コンピュータのインベントリを表示します。

[インベントリ] タブには、左側の[コンテンツ ペイン](#)と右側の[詳細ペイン](#)があります。

[コンテンツ ペイン](#)には、ユーザーが定義したインベントリのディレクトリ構造が表示されます。各インベントリのディレクトリ フォルダにはホスト コンピュータのインベントリが含まれ、各インベントリはさらにインベントリ要素に分岐しています。

[詳細ペイン](#)には、[コンテンツ ペイン](#)で選択したインベントリ ディレクトリ、ホスト コンピュータのインベントリ、またはインベントリ要素の詳細が表示されます。

3.5.4.8.1 コンテンツ ペイン



この[インベントリ](#) タブペインには初期状態で [インベントリ] ルート フォルダがあります。ディレクトリ フォルダまたはホスト コンピュータのインベントリを右クリックすると、次のコンテキスト メニューが表示されます。



メニュー コントロールとツールバー コントロールについては、「[メニューとツールバーのコントロール](#)」で説明しています。

このメニューから、*Inventory* ディレクトリを管理できます。また、ドラッグ アンド ドロップによって、ディレクトリのフォルダを管理することもできます。

コマンドは、「[編集](#)」メニューのコマンドと同じです。

インベントリ ディレクトリを選択すると、中にあるホスト コンピュータのインベントリの詳細をまとめた内容が[詳細ペイン](#)に表示されます。

ホスト コンピュータのインベントリを選択すると、その詳細をまとめた内容が[詳細ペイン](#)に表示されます。

ホスト コンピュータのインベントリ要素を選択すると、その詳細が[詳細ペイン](#)に表示されます。

3.5.4.8.2 詳細ペイン

項目	値
コンピュータ名	ATLANTIS#YOSHIDA-BLACK
OS 名	Microsoft Windows XP Professional
OS のタイプ	NT-based
OS のバージョン	5.01
OS のビルド	2600
OS Service Pack	1.00
OS Service Pack のバージョン	1.0
OS の製造元	Microsoft Corporation
OS の稼働時間	000, 1:21:09
OS のアクティブ化が必要です	NOT ACTIVATED
IE のバージョン	6.0.2800.1106

この「[インベントリ](#)」タブのペインには、「[コンテンツ ペイン](#)」で選択した要素の詳細が表示されます。

インベントリのディレクトリが選択された場合、「[プログラムのオプション](#)」ウィンドウの「[インベントリ](#)」タブ内で指定したインベントリの詳細を列に持つ表内のレコードとして、ホスト コンピュータのインベントリが表示されます。

ホスト コンピュータのインベントリまたはインベントリ要素が選択された場合、「項目」と「値」の列を持つ表内のレコードとして、インベントリ要素の詳細が表示されます。

表内のコントロールについては、「[テーブル コントロール](#)」を参照してください。

ホスト コンピュータのインベントリのレコードを右クリックすると、次のコンテキスト コマンドが表示されます。

削除

このコマンドを選択すると、ホスト コンピュータのインベントリを削除します。ホスト コンピュータのインベントリの詳細は削除できません。

3.5.4.8.3 ホスト コンピュータのインベントリ

ツールバーの「[アクション](#)」ボタンの「[インベントリを取得する](#)」ボタンまたは「[接続](#)」メニューの対応するボタンからホスト コンピュータのインベントリを取得します。

取得すると、ホスト コンピュータのインベントリが「[インベントリ](#)」ルート フォルダに配置されます。新しいインベントリと同じホスト名のインベントリが既にある場合、古いインベントリは上書きされます。「[インベントリ](#)」ルート フォルダとユーザーが定義したサブフォルダの間で、インベントリのコピーや移動を行うことができます。これは、ドラッグ アンド ドロップでも可能です。

取得したホスト コンピュータのインベントリは、「[NetOp の設定ファイル](#)」のディレクトリ内にある *inventor* ディレクトリ (通常、*C:\Documents and Settings\ユーザー名\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Guest\inventor*) に、*xml* という拡張子を持つファイルとして保存されます。*xml* ファイルは、任意のテキスト エディタで開くことができます。

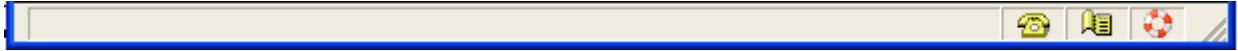
3.6 ゲスト ツール

ホスト コンピュータのインベントリ情報を取得時に処理するには、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [「インベントリ」](#) タブの [「インベントリの詳細オプション」](#) ウィンドウで、インベントリの処理プログラムを指定します。

注意： NetOp は、インベントリ処理プログラムの提供や推奨はしていません。

3.5.5 ステータス バー

ステータス バーは、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [「レイアウト」](#) タブで非表示になっていない限り表示されます。



ここには、次のアイコンが右端に表示されます。

電話のアイコン： このアイコンは、ポイントツーポイント通信デバイス ([ISDN \(CAPI\)](#)、[シリアル](#)、[Windows モデム](#)、[TCP/IP \(TCP\)](#)、[TCP/IP \(TCP IPv6\)](#)、[赤外線 \(IrDA\)](#)) を使用する通信プロファイルがゲストの読み込み時に有効になっている場合に表示されます。

黄色い電話帳のアイコン： このアイコンは、[TCP/IP](#) 通信デバイスを使用する通信プロファイルが、[TCP/IP の詳細設定](#) ウィンドウで有効になっていて、[「NetOp ネーム サーバーの使用」](#) ボックスにチェックマークが付いている場合に表示されます。このアイコン上には、次のシンボルが表示されます。

何も表示されない：指定された NetOp ネーム サーバーを使用できます。

赤い X マーク：指定した NetOp ネーム サーバーは使用できません。

赤い感嘆符 (!)：指定した 2 つの NetOp ネーム サーバーのいずれかを使用できます。

救命具のアイコン： このアイコンは、ヘルプ呼出が保留中の場合に表示されます。[「ヘルプ呼出」](#) タブを参照してください。

メニューのコマンドまたはツールバーのボタンにマウス ポインタを置くと、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [「レイアウト」](#) タブで無効にされていない場合は、ステータス バーの表示内容がクリアされ、ヒントが表示されます。

3.6 ゲスト ツール

ゲスト ウィンドウの [「ツール」](#) メニューには、以下のコマンドがあります。

ファイル(F) 接続(C) 編集(E) 表示(V) ツール ヘルプ(H)
プログラムのオプション(O)
ファイル マネージャのオプション(E)
ログのセットアップ(L)
保守パスワード(M)
通信プロファイル(C)
モデム データベース(D)
新規および更新のチェック
新しい更新を公開 (P)
セットアップ ウィザードの実行(R)
ゲストをリムーバブル メディアにコピー

以下の節では、これらのコマンドについて説明します。

[プログラムのオプション](#)

[ファイル マネージャのオプション](#)

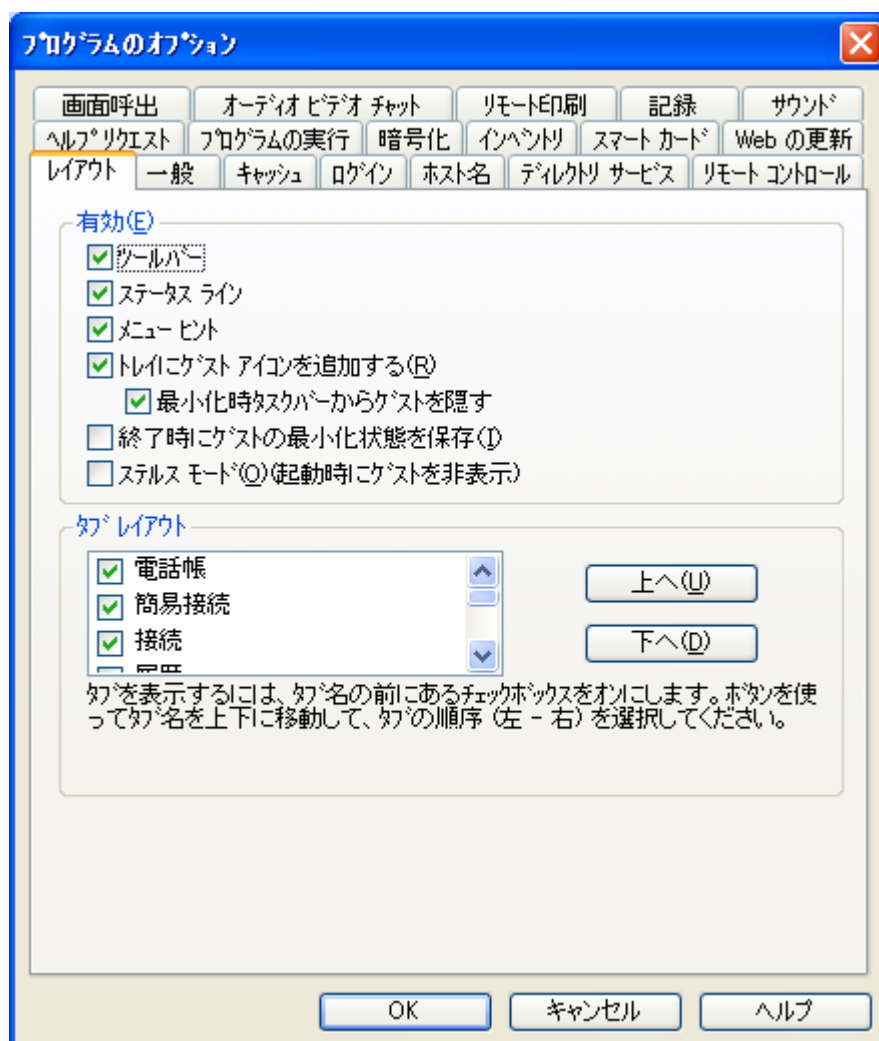
[ログのセットアップ](#)

[保守パスワード](#)
[通信プロファイル](#)
[モデム データベース](#)
[新規および更新のチェック](#)
[新しい更新を公開](#)
[デバッグのトレース](#)
[セットアップ ウィザードの実行](#)
[ゲストをリムーバブル メディアにコピー](#)

ゲスト ツールの設定は、[NetOp の設定ファイル](#)に書き込まれます。これは通常、*C:\Documents and Settings\ユーザー名\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Guest* ディレクトリにあります。

3.6.1 プログラムのオプション

[\[ツール\] メニュー](#)の [\[プログラムのオプション\]](#) コマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。



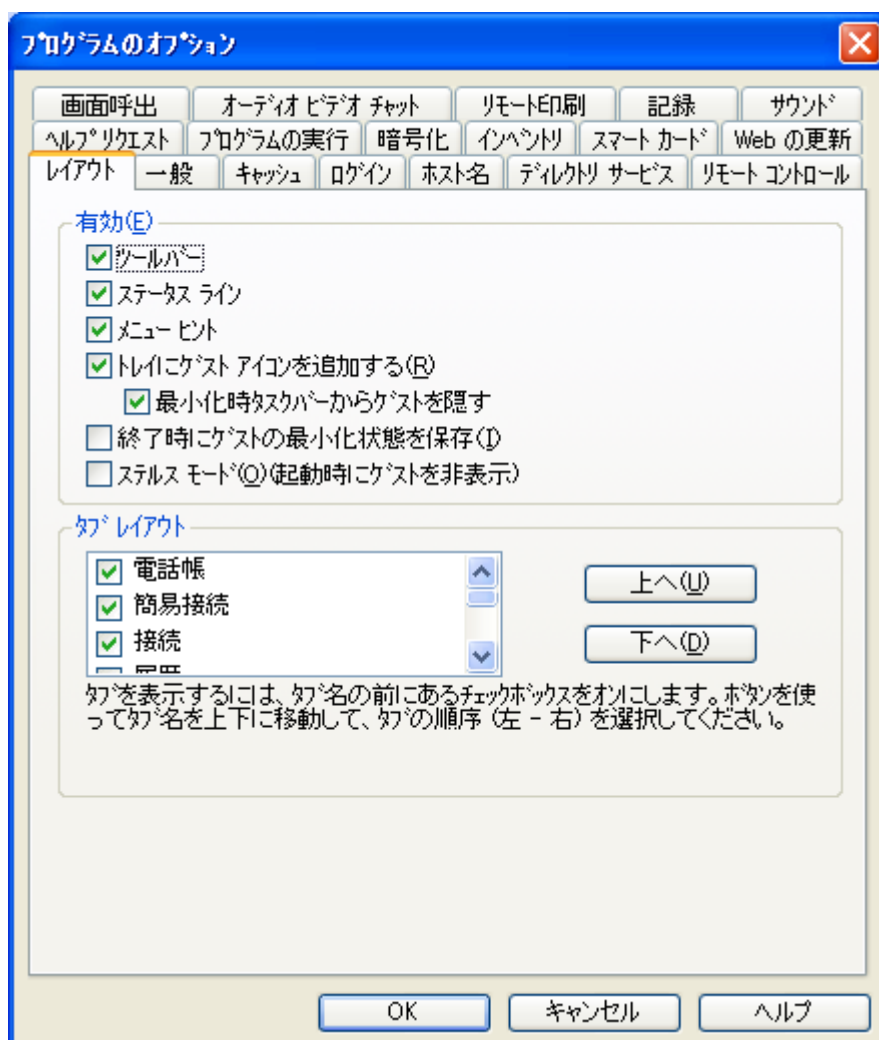
このウィンドウには次のタブがあります。

[\[レイアウト\] タブ](#)
[\[一般\] タブ](#)
[\[キャッシュ\] タブ](#)

3.6 ゲスト ツール

- [\[ログイン\] タブ](#)
- [\[ホスト名\] タブ](#)
- [\[ディレクトリ サービス\] タブ](#)
- [\[リモート コントロール\] タブ](#)
- [\[画面呼出\] タブ](#)
- [\[オーディオビデオ チャット\] タブ](#)
- [\[リモート印刷\] タブ](#)
- [\[記録\] タブ](#)
- [\[サウンド\] タブ](#)
- [\[ヘルプ リクエスト\] タブ](#)
- [\[プログラムの実行\] タブ](#)
- [\[暗号化\] タブ](#)
- [\[インベントリ\] タブ](#)
- [\[Web の更新\] タブ](#)

3.6.1.1 [レイアウト] タブ



このタブでは、[NetOp ゲスト] ウィンドウのレイアウト オプションを指定します。

有効

- ツールバー：このボックスのチェックを外すと、ゲスト ウィンドウに[ツールバー](#)が表示されなくなります（デフォルト：チェック付き）。
- ステータス ライン：このボックスのチェックを外すと、ゲスト ウィンドウに[ステータス バー](#)が表示されなくなります（デフォルト：チェック付き）。
- メニュー ヒント：このボックスのチェックを外すと、[ステータス バー](#)内のメニュー コマンドとツールバー ボタンのヒントが表示されなくなります（デフォルト：チェック付き）。
- トレイにゲスト アイコンを追加する：このボックスのチェックを外すと、NetOp ゲストのロード時に、画面の右下にある通知領域に [NetOp ゲスト] ボタンが表示されなくなります（デフォルト：チェックが付けられる）。

最小化時タスクバーからゲストを隠す：このオプションは、[トレイにゲスト アイコンを追加する] のチェックが外されている場合は無効になります。このボックスのチェックを外すと、最小化されたゲストが画面下部のタスクバーのボタンとして表示されます（デフォルト：チェック付き）。チェックマークを付けると、最小化したゲストは、画面右下の通知領域に [NetOp ゲスト] ボタンとしてだけ表示されます。

- 終了時にゲストの最小化状態を保存：このボックスにチェックマークを付けると、最後にアンロードされたときに最小化状態だったら、ゲストの読み込み時も最小化状態になります（デフォルト：チェックなし）。

- ステルス モード (起動時にゲストを非表示)：このボックスにチェックマークを付けると、ゲストをコンピュータ ユーザーに非表示のままロードします（デフォルト：チェックなし）。

非表示に設定しているときにゲストを表示するには、[スタート] > [ファイル名を指定して実行] ウィンドウまたはコマンド プロンプト ウィンドウで次のコマンドを実行します。

<ゲストのディレクトリ パス>\nowutil /g /s

ゲストを再度非表示にするには、アンロードしてから読み込みます。

タブ レイアウト

このスクロール ペインには、使用可能な[タブ パネル](#) タブ名のチェックボックスが表示されます。

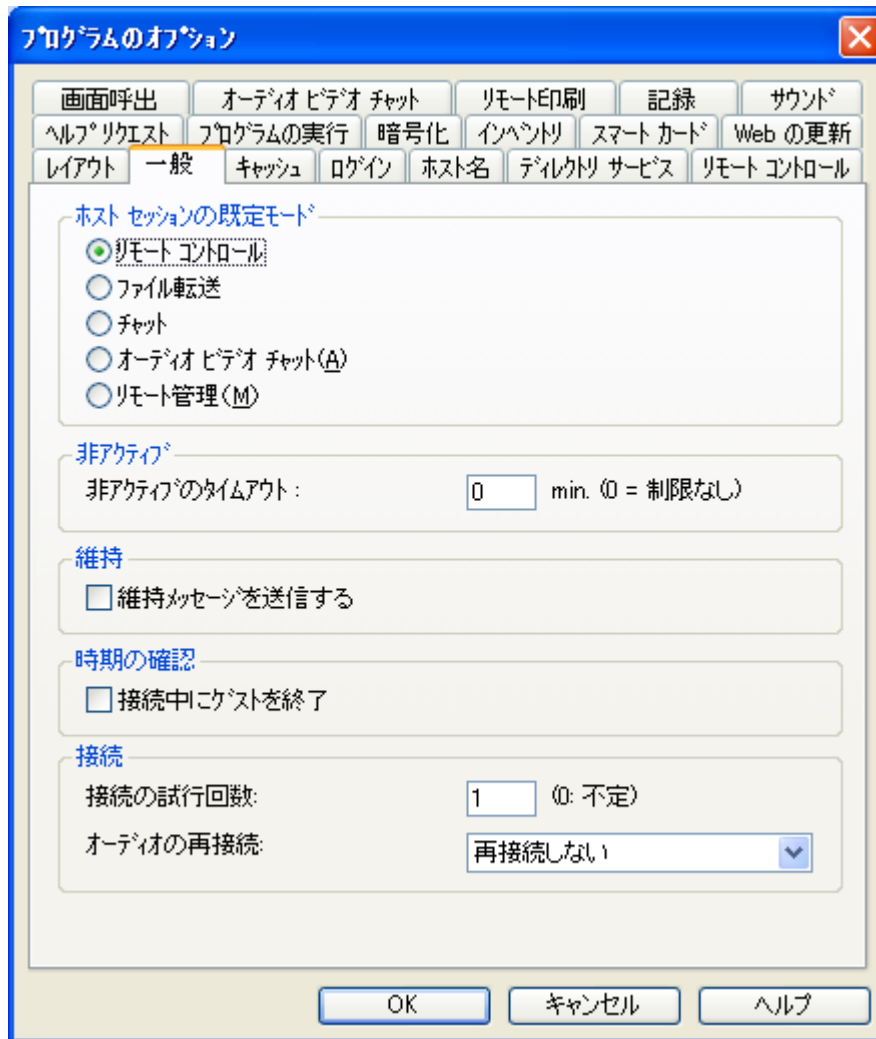
- 電話帳：
- 簡易接続
- 接続：
- 履歴：
- ヘルプ呼出
- 記録：
- スクリプト：
- インベントリ：

ボックスのチェックを外すと、そのタブが[タブ パネル](#)に表示されなくなります（デフォルト：すべてチェック付き）。

上へ/下へ：スクロール ペインにおけるタブ名の上下の順番は、[タブ パネル](#)におけるタブの左右の順番を決定します。スクロール ペインのタブ名を選択して、どちらかのボタンをクリックし、そのタブを移動します。

注意： 上記のタブの順番は、初期状態のタブの順番です。[\[簡易接続\] タブ](#)は前面に表示されます。

3.6.1.2 [一般] タブ



このタブは、一般的な接続のオプションを指定するために使用します。

ホスト セッションの既定モード

以下のセッション オプションの 1 つを選択すると、[「簡易接続」タブのボタン](#)の [接続] ボタンをクリックするか、タブのホスト レコードをダブルクリックしてホストと接続する場合に、その選択したセッションを開始します。

- リモート コントロール (デフォルト設定)
- ファイル転送
- チャット
- オーディオビデオ チャット
- リモート管理

非アクティブ

非アクティブのタイムアウト: [] min. (0 = 制限なし): このフィールドには、ゲスト ユーザーがキーボードまたはマウスを操作しなかった場合に、切断するまでの分数を指定します (デフォルト: 0、範囲 0 ~ 999)。

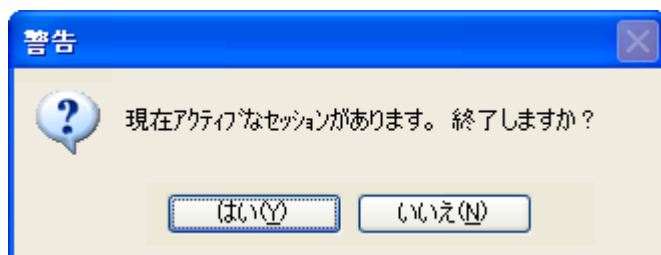
維持

維持メッセージを送信する: このボックスにチェックマークを付けると、接続が切断されたときにゲストに警告できるように、接続中にデータ パケットを適当な間隔で送信します (デフォルト: チェックなし)。

注意： 短時間の非アクティブの場合に [ISDN \(CAPI\) 接続を維持するには](#)、[短期保留モード] オプションを選択します。[ISDN \(CAPI\) 通信プロファイルの編集](#)を参照してください。

確認実行時

接続中にゲストを終了：このボックスにチェックマークを付けると、ホストへの接続中にゲストをアンロードしようとした場合に、以下の警告を表示します (デフォルト：オフ)：



はい：このボタンをクリックすると、ゲストがアンロードされます。

いいえ：このボタンをクリックすると、アンロードがキャンセルされます。

接続

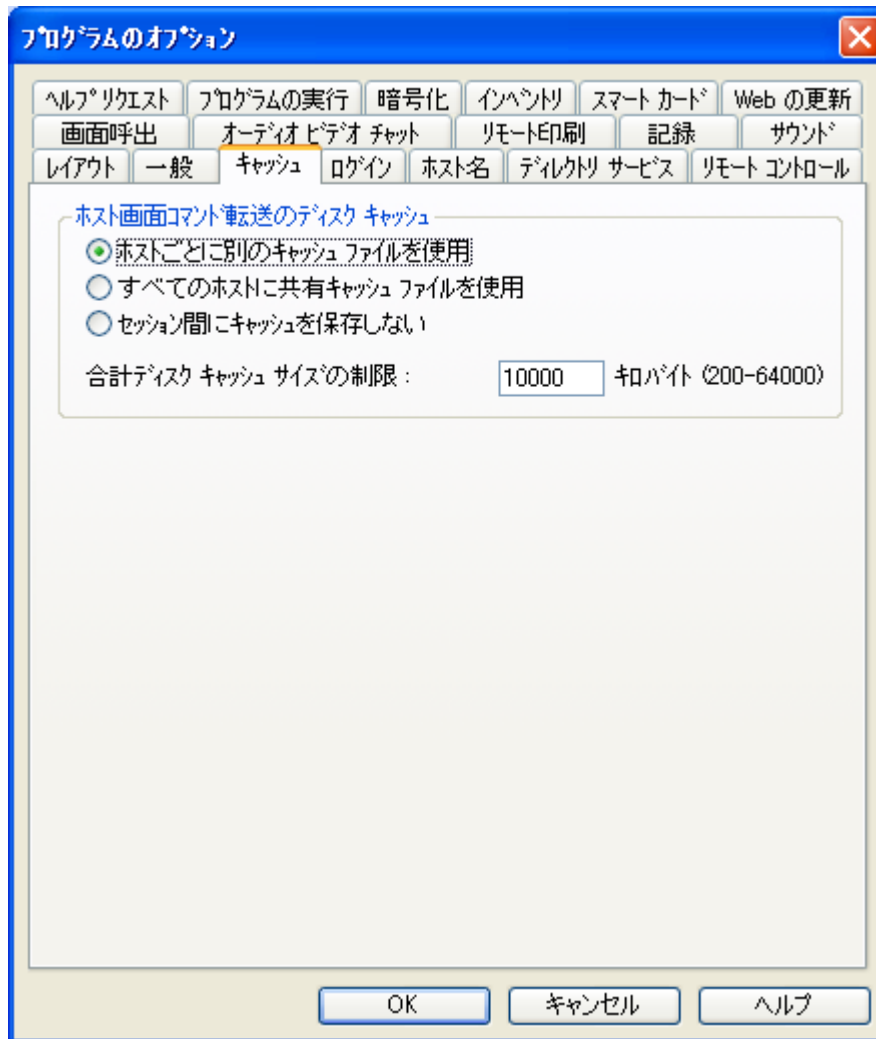
接続の試行回数： [] (0: 無制限)：このフィールドには、ホストに接続するたびに試行できる接続回数を 1 ~ 999 の範囲で指定します (デフォルト：: 1)。

オーディオの再接続： []：このドロップダウン ボックスのフィールドは、接続が切断された場合に選択した再接続オプションを表示します。ドロップダウン ボックスのリストには、次のオプションが含まれます。

- ・ **再接続しない：**再接続しません (デフォルト設定)。
- ・ **異常な切断のみ：**接続が異常な事態によって切断された場合のみ再接続します。
- ・ **ホストの切断のみ：**ホストが接続を切断した場合のみ再接続します。
- ・ **常に再接続：**常に再接続します。

リスト内のオプションを選択すると、そのオプションがフィールドにセットされます。

3.6.1.3 [キャッシュ] タブ



このタブでは、画面イメージのディスク キャッシュ オプションを指定します。

ホスト画面コマンド転送のディスク キャッシュ

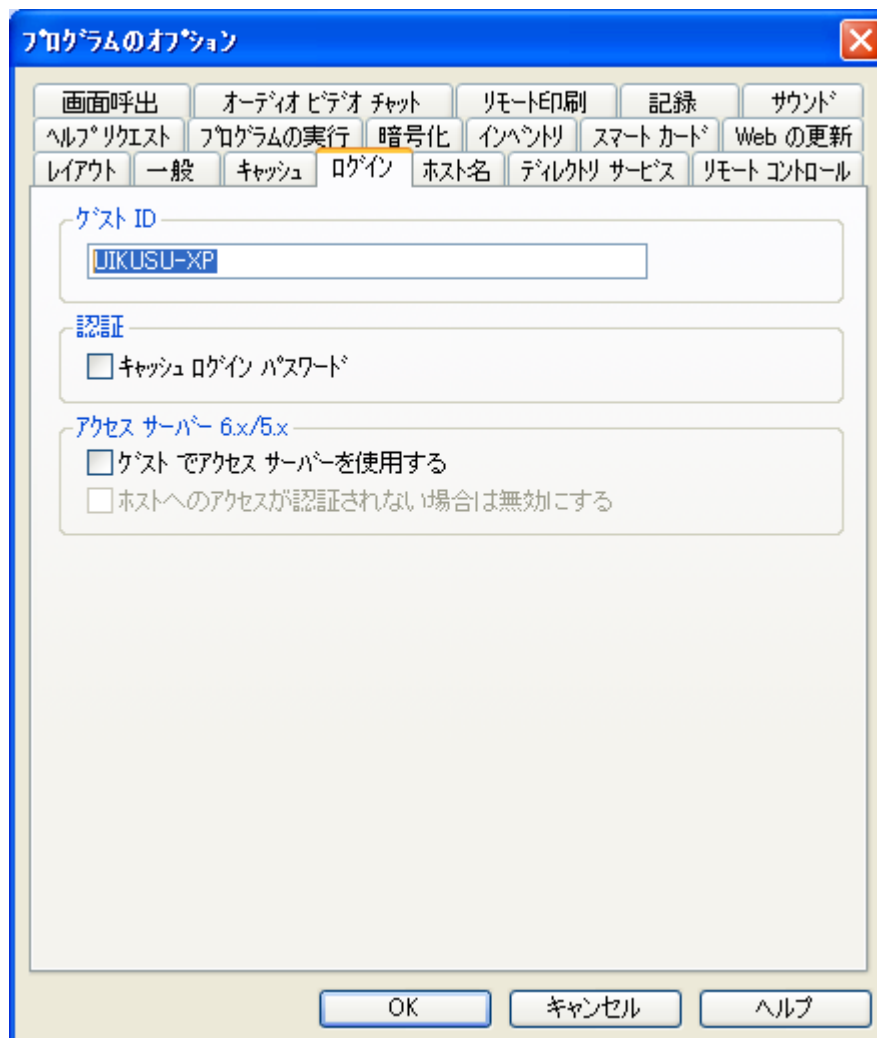
ゲストがコマンド モードでホストをリモート コントロールする場合は ([接続のプロパティ](#) ウィンドウの [\[圧縮 / 暗号化 \]](#) タブを参照)、ゲストはホストの画面イメージをディスク キャッシュ メモリに保存し、イメージの変化だけを転送して、ホストの画面イメージの更新速度を高め、転送帯域幅を節約します。

次のどちらかのオプションを選択します。

- **ホストごとに別のキャッシュ ファイルを使用** : 接続および切断されている各ホストに対して、ディスク キャッシュ セクションを確保します。多数のホストと接続する場合、高い更新速度と再接続速度を実現するためには、全体で大量のディスク キャッシュ サイズが必要になります (デフォルト設定)。
- **すべてのホストに共有キャッシュ ファイルを使用** : 接続および切断されているホスト全体で、利用可能なディスク キャッシュ を共有します。全体のディスク キャッシュ サイズ量は、通常小さくなります。
- **セッション間にキャッシュを保存しない** : 接続されているホスト間でのみ、利用可能なディスク キャッシュ を共有します。全体のディスク キャッシュ 量は、最も小さくなりますが、再接続には時間がかかります。

合計ディスク キャッシュ サイズの制限: [] キロバイト (200 - 64000):200 ~ 64000KB の範囲内でキャッシュ サイズの合計値を設定します。デフォルトのサイズは 10000KB (10MB) です。多数のホストで、コマンド モードのリモート コントロール セッションを頻繁に実行する場合は、指定範囲内の数値 (通常、デフォルトより大きい数値) を指定します。

3.6.1.4 [ログイン] タブ



このタブでは、ゲストのログインと名前のオプションを指定します。

ゲスト ID []: このフィールドでは、通信時にゲストが自身を識別するための名前を指定します (デフォルト: ゲストのコンピュータ名)。フィールドの内容は編集できます。

注意: ゲストをネットワーク コンピュータ上で実行している場合は、そのコンピュータ名を付けることをお勧めします。ゲストをターミナル サーバー クライアント上で実行している場合は、そのコンピュータのユーザー名を付けることをお勧めします。『Administrator's Manual』の「Advanced Tools」の章にある「NetOp Naming in a TSE」セクションを参照してください。

認証

キャッシュ ログイン パスワード: このボックスにチェックマークを付けると、最近使用したログオン資格をキャッシュ メモリに保存して、それを接続時に使用します (デフォルト: チェックなし)。キャッシュされたログオン資格は、ゲストがアンロードされた時点で失われます。

アクセスサーバー 6.x/5.x

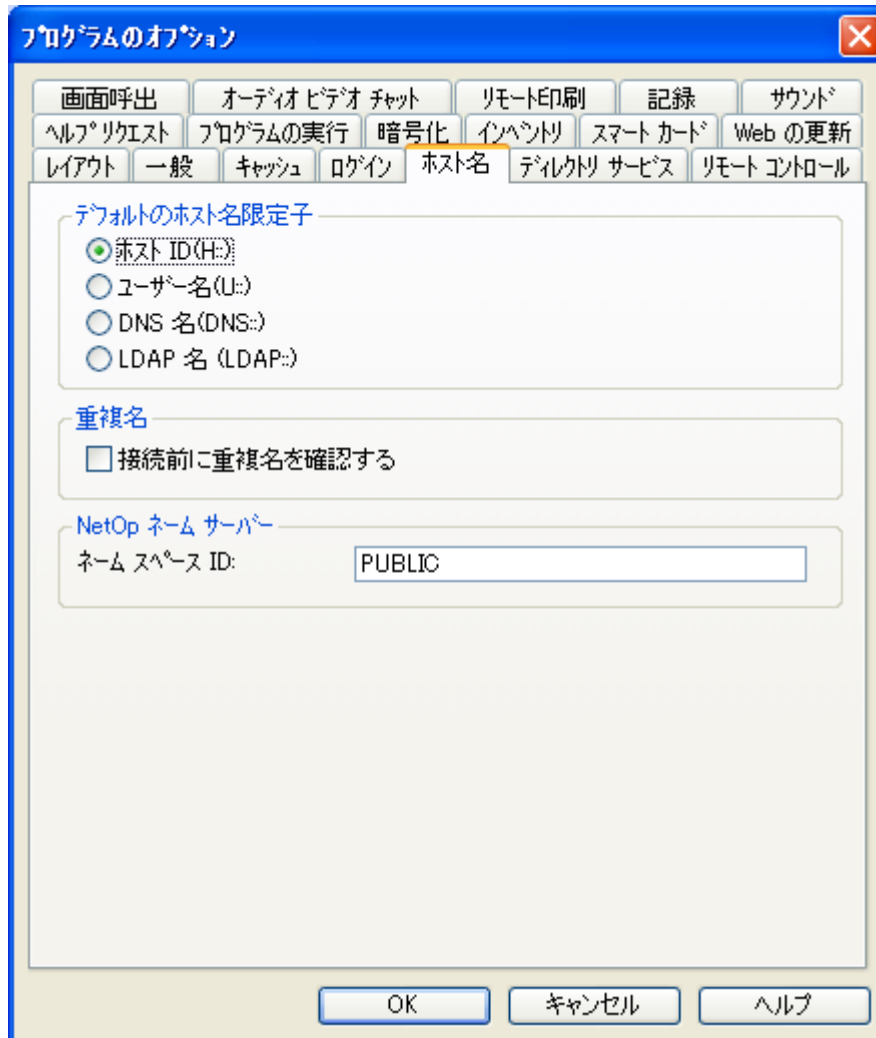
ゲストでアクセス サーバーを使用する: このボックスにチェックマークを付けると、NetOp アクセス サーバーでゲスト側の認証を有効にしているホストとの接続では、ゲスト側の認証を有効にします (デフォルト: チェックなし)。

3.6 ゲスト ツール

注意： NetOp セキュリティ サーバー（バージョン 7 以降のみ）は、ゲスト側の認証をサポートしていません。

ホストへのアクセスが認証されない場合は無効にする：このボックスにチェックマークを付けると、NetOp アクセス サーバーでゲスト側の認証が有効になっていないホストとの接続では、ゲスト側の認証を無視します（デフォルト：：チェックなし）。

3.6.1.5 [ホスト名] タブ



このタブでは、ホスト名と NetOp ネーム サーバーのネーム スペース ID オプションを指定します。

デフォルトのホスト名限定子

NetOp Remote Control は、指定したホスト名の種類を識別するために、接頭辞にデフォルト以外のホスト名限定子が明示的に付いていない限り、接頭辞にデフォルトのホスト名限定子が付いていると解釈します。このセクションでは、デフォルトのホスト名限定子を指定します。次のどちらかのオプションを選択します。

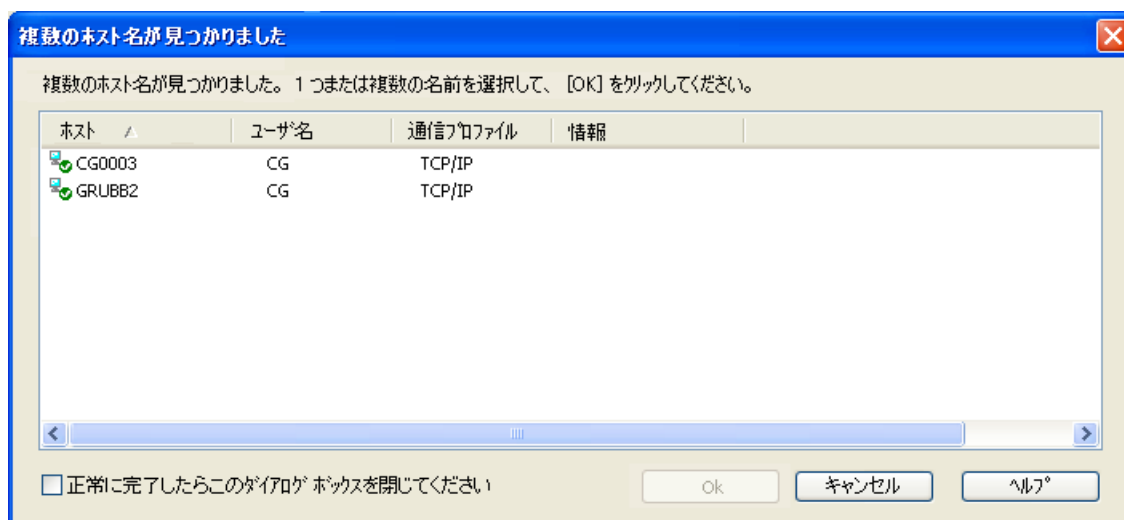
- ホスト ID (H:)**：接頭辞が付いていないホスト名をホスト ID として解釈します（デフォルト：選択）。
- ユーザー名 (U:)**：接頭辞が付いていないホスト名を Windows のログイン ユーザー名として解釈します。
- DNS 名 (DNS:)**：接頭辞が付いていないホスト名を DNS 名として解釈します。

○LDAP 名 (LDAP::): 接頭辞が付いていないホスト名をディレクトリ サービスのユーザー属性値として解釈します。

注意: 指定したホスト名がデフォルト タイプではないことを示すには、接頭辞に名前限定子 (上記の括弧内の記号) を付けます。

重複名

接続前に重複名を確認する: 重複するホスト名がネットワーク上に存在する場合があります。デフォルトでは、ゲストは指定したホスト名に対して、最初に応答したホストと接続します。このボックスにチェックマークを付けると、タイムアウトになるまで接続を試行し、複数のホストが応答したら次のウィンドウを表示します (デフォルト: オフ):



複数のホスト名が見つかりました。1 つまたは複数のホスト名を選択して [OK] をクリックしてください。[]: ペインには、次の内容の表で応答したホストが表示されます。

ホスト: ホストで指定されている場合、可用性を示すアイコン (チェックマーク: 利用可能、立ち入り禁止、利用不能)、およびホストが指定したホスト ID。

ユーザー名: ホスト コンピュータの Windows ログインまたはネットワーク ログインのユーザー名 (有効な場合)。

通信プロファイル: ゲストの通信プロファイルの名前

情報: NetOp ゲートウェイのレコードには (ゲートウェイ) と表示されます。

表内のコントロールについては、[テーブル コントロール](#)を参照してください。

レコードをダブルクリックするか、レコードを選択して [OK] をクリックすると、レコードのホストに接続します。

NetOp ネーム サーバー

ネーム スペース ID: []: デフォルトでは、このフィールドには PUBLIC が表示されます。ゲストが TCP/IP 通信デバイスを使用する通信プロファイルによって通信を行い、[TCP/IP の詳細設定](#) ウィンドウで [NetOp ネーム サーバーの使用] チェックボックスにチェックマークが付けられている場合、このフィールドには、接続するホストが指定しているネーム スペース ID と同じネーム スペース ID を指定します。

3.6.1.6 [ディレクトリ サービス] タブ

このタブでは、ディレクトリ サービスの設定を指定して、*LDAP::*ホスト名限定子を使用してホストに接続し、ホストを参照できるようにできます。[ホストを参照する:](#)を参照してください。

一般

ディレクトリ サーバー: *[]*: このフィールドには、ディレクトリ サーバーの IP アドレスまたは DNS 名を指定します。

ポート: *[]*: このフィールドには、ディレクトリ サーバーとの接続に使用するポート番号を指定します (デフォルト: 389、LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) ポート)。

セキュアな接続を使用: このボックスにチェックマークを付けると、ディレクトリ サーバーへの接続にセキュリティで保護された接続が使用されます。LDAP の保護された接続のポート番号は 636 です。

ベース DN: *[]*: このフィールドには、検索が開始されるディレクトリ サービスの識別名を指定します。

[証明] タブ

このタブでは、ゲストがディレクトリ サーバーにログインするための資格を指定します。ユーザー ID は、使用可能なディレクトリ サービス情報を決定します。

anonymous バインド: このボックスにチェックを付けたままにすると、匿名ユーザーの権限でディレクトリ サービスを検索できます (デフォルト: : チェック付き)。このボックスのチェックを外すと、以下のフィールドが有効になります。

ユーザー DN : []: このフィールドには、このユーザーの権限でディレクトリ サービスを検索するためのディレクトリ サービス ユーザー識別名を指定します。

パスワード : []: このフィールドには、対応するパスワードを指定します。

パスワードの確認 : []: このフィールドにパスワードをもう一度指定して、確認します。

【設定】タブ

このタブでは、ディレクトリ サービスを検索するための設定を指定し、ユーザーが一致する名前やアドレス属性値を取得できるようにします。初期状態では、フィールドは空白になっています。

フィールドの入力方法については、[デフォルト...] をクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

ドロップダウンのフィールドには、選択したディレクトリ サービスが表示されます (デフォルト : *Microsoft アクティブ ディレクトリ*)。ドロップダウン ボックスには、利用可能なディレクトリ サービスの名前が一覧表示されます。リストからディレクトリ サービス名を選択すると、フィールドにその名前が表示されます。

[OK] をクリックして、選択したディレクトリ サービスで利用可能なデフォルト設定を、対応するフィールドに指定します。

ユーザー検索フィルタ : []: ユーザー検索フィルタ指定を指定または編集します。

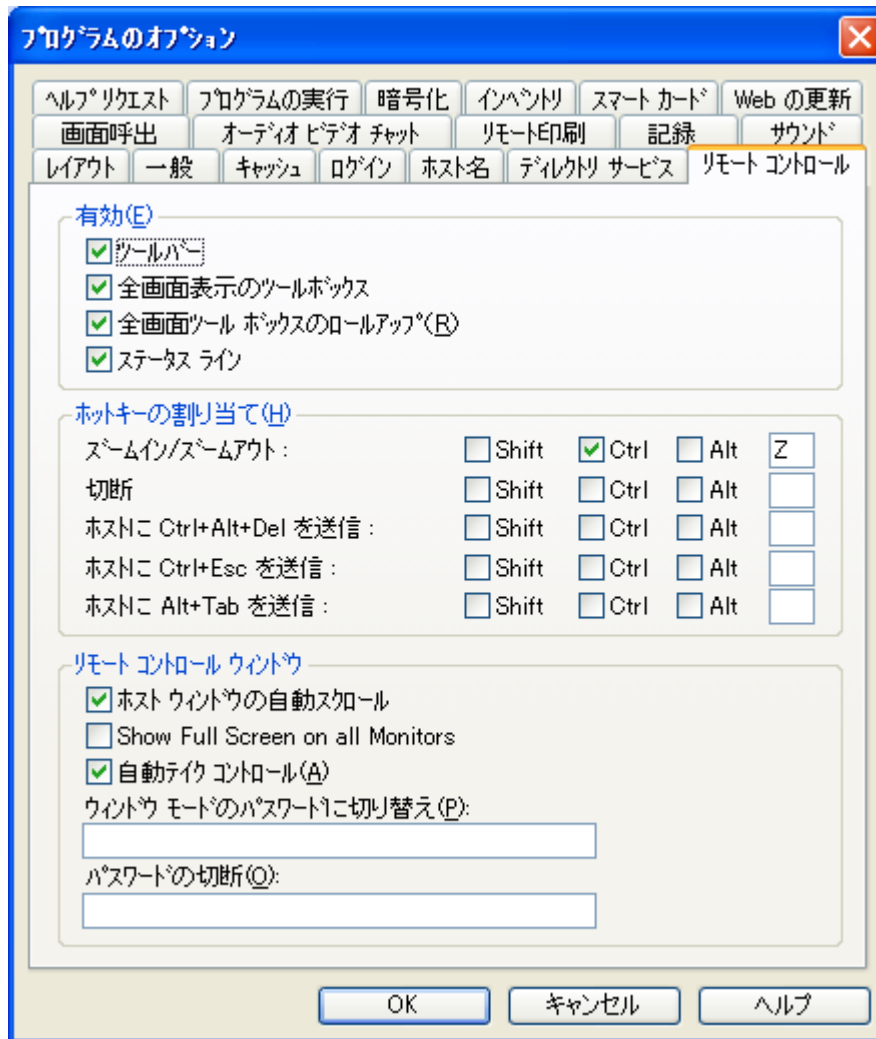
ユーザー属性 : []: ユーザー属性指定を指定または編集します。

名前属性 : []: 名前の属性指定を指定または編集します。

アドレス属性 : []: アドレス属性指定を指定または編集します。

検索名プレフィクス : []: 検索値の前に追加される接頭辞 (cn= など) を指定または編集します。

3.6.1.7 [リモート コントロール] タブ



このタブでは、リモート コントロールのオプションを指定します。

有効

- ツールバー：このボックスのチェックを外すと、[リモート コントロール] ウィンドウのツールバーを非表示にします（デフォルト：チェック付き）。
- 全画面表示のツールボックス：このボックスのチェックを外すと、リモート コントロールの全画面表示ツールボックスを非表示にします（デフォルト：チェック付き）。
- 全画面表示ツールボックスのロールアップ：このボックスのチェックを外すと、使用中でないときに、全画面表示ツールボックスをタイトル バーに縮小しません（デフォルト：チェック付き）。
- ステータス ライン：このボックスのチェックを外すと、[リモート コントロール] ウィンドウのステータス バーを非表示にします（デフォルト：チェック付き）。

ホットキーの割り当て

指定したアクションに対して、ホットキー（キーストロークの組み合わせ）を割り当てることができます。デフォルトでは、CTRL+Z が [ズームイン/ズームアウト]（リモート コントロールのウィンドウ表示と全画面表示の切り替え）に割り当てられています。ボックスをオンにして最後のフィールドに文字を指定すると、ホット キーを割り当てることができます。

リモート コントロール ウィンドウ

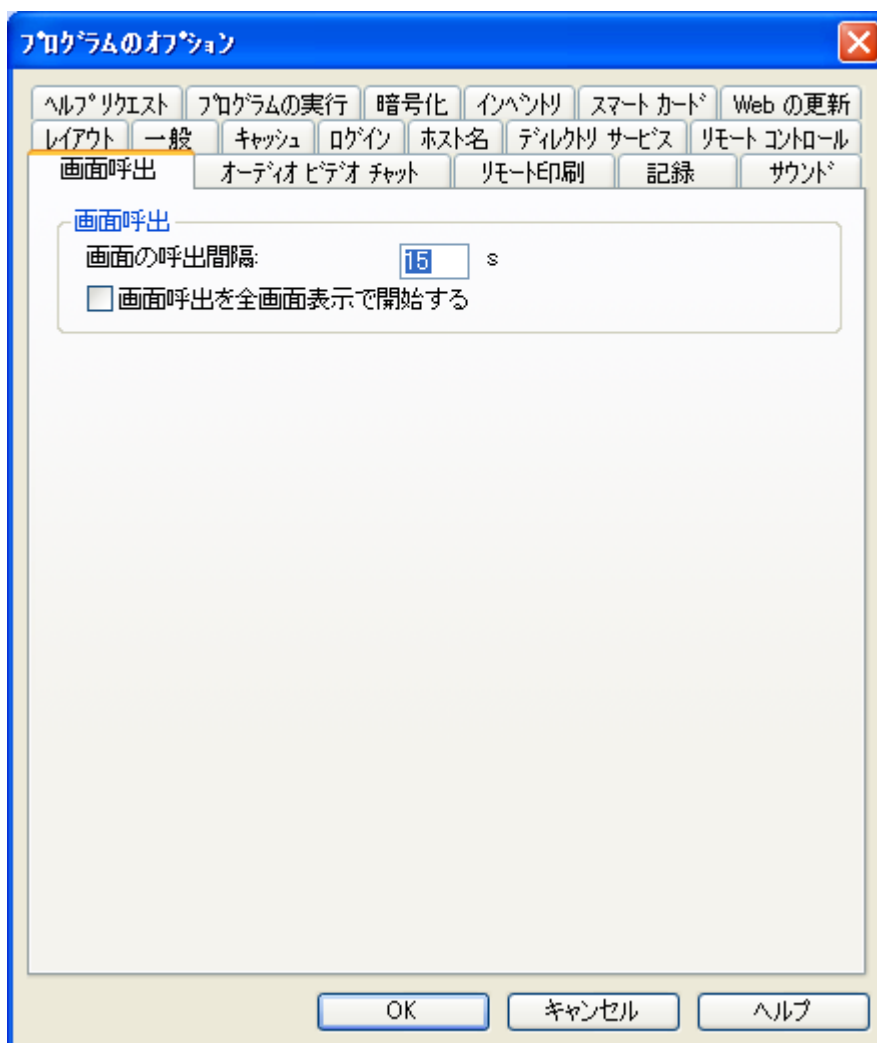
ホスト ウィンドウの自動スクロール：このボックスのチェックを外すと、マウス ポインタがリモート コントロール ウィンドウの境界に近づいた際の、ホスト画面イメージの自動スクロールを無効にします（デフォルト：チェック付き）。

自動テイク コントロール：このボックスのチェックを外すと、マルチ ゲスト セッションのキーボードとマウスのコントロールを、キーストロークまたはマウスのクリックによって取得できないようにします。[マルチ ゲスト セッションのボタン](#)を参照してください（デフォルト：チェック付き）。

ウィンドウ モードのパスワードに切り替え：[]：このフィールドにパスワードを指定すると、全画面表示からウィンドウ表示に切り替えるために、このパスワードが必要になります。フィールドに入力されたパスワードの文字は、ドットまたはアスタリスクで表示されます。

パスワードの切断：[]：このフィールドにパスワードを指定すると、切断するためにこのパスワードが必要になります。フィールドに入力されたパスワードの文字は、ドットまたはアスタリスクで表示されます。

3.6.1.8 [画面呼出] タブ

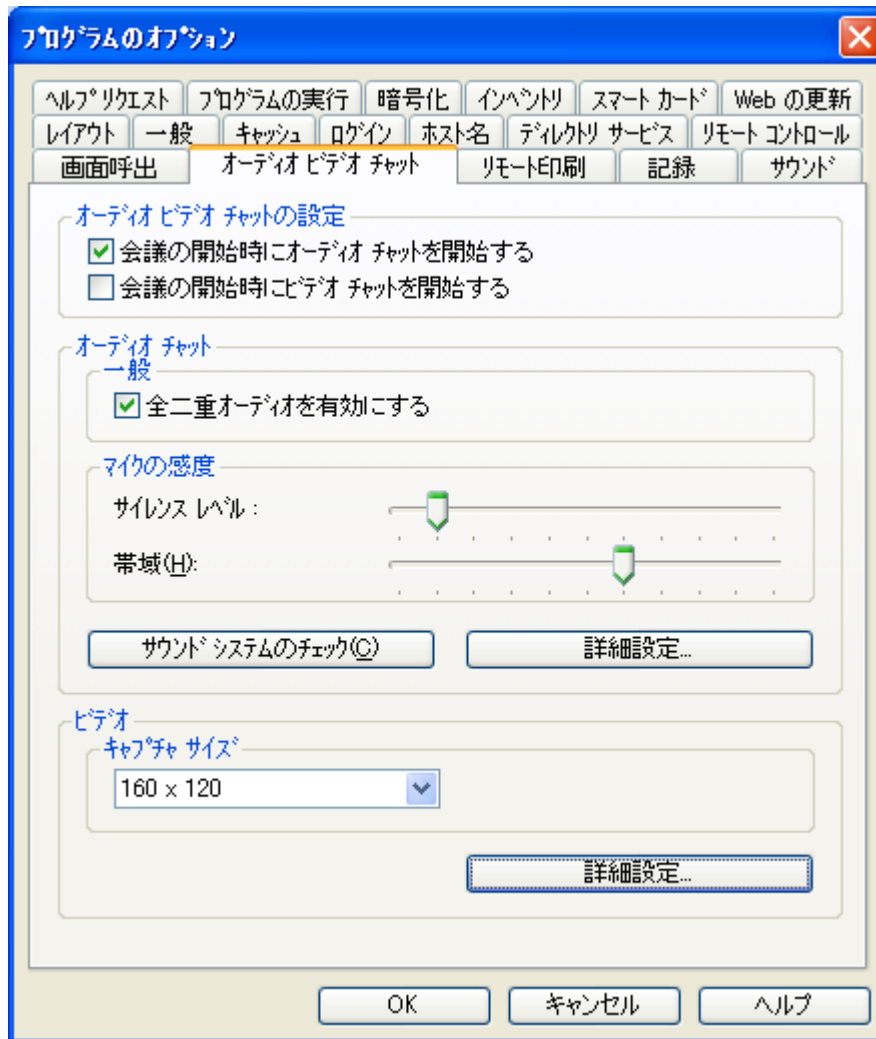


このタブでは[画面呼出](#)オプションを指定します。

画面の呼出間隔：[] s：このフィールドには、画面呼出した後に次のホストに切り替えるまでの秒数を 1 ~ 999 の範囲で指定します（デフォルト：15）。

画面呼出を全画面表示で開始する：このボックスにチェックマークを付けると、最初に画面呼出されたホストの画面イメージを全画面表示で表示します（デフォルト：チェックなし）。チェックを外した場合、最初のホストの画面イメージはウィンドウ モードで表示されます。

3.6.1.9 [オーディオビデオ チャット] タブ



このタブでは、オーディオビデオ チャットのオプションを指定します。

オーディオビデオ チャットの設定

会議の開始時にオーディオチャットを開始する：このボックスのチェックを外すと、サウンドの転送を行わずにオーディオビデオ チャット セッションを開始します（デフォルト：：チェック付き）。チェックマークを付けると、サウンドが転送されます。

会議の開始時にビデオチャットを開始する：このボックスにチェックマークを付けると、オーディオビデオ チャット セッションをビデオ イメージを転送して開始します（デフォルト：チェックなし）。チェックを外すと、ビデオ イメージは転送されません。

オーディオ チャット**一般**

全二重化オーディオを有効にする：このボックスのチェックを外すと、同時双方向の音声転送を無効にします（デフォルト：チェック付き）。

注意： コンピュータのオーディオ システムの中には、全二重オーディオをサポートしていないものがあります。

マイクの感度

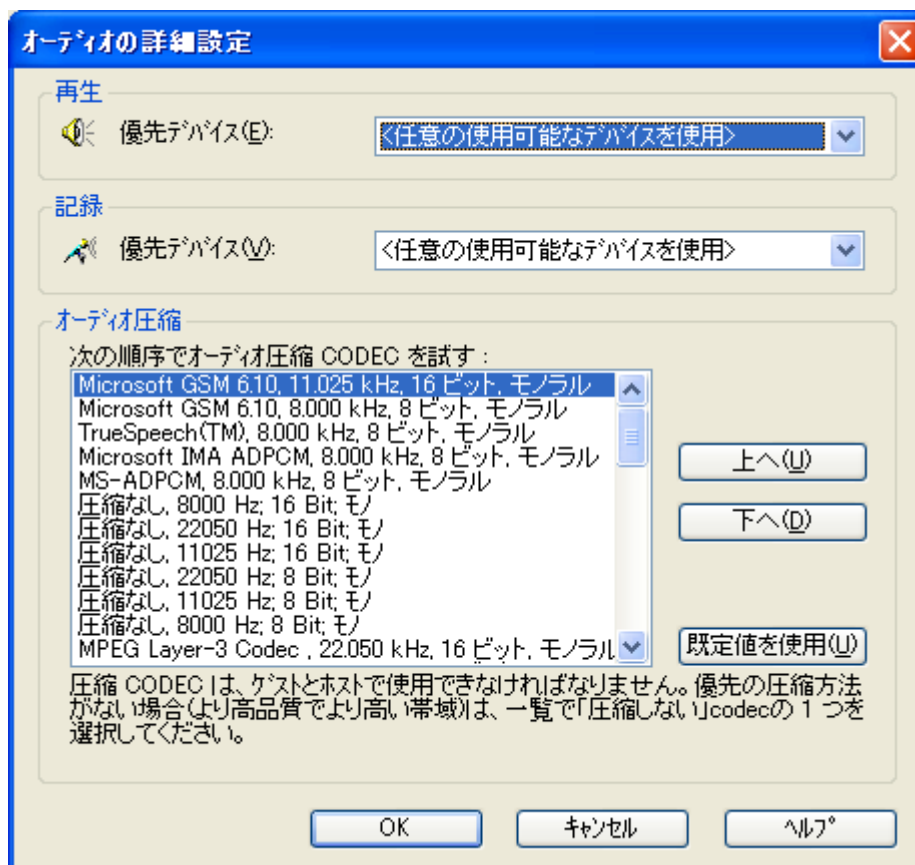
サイレンス レベル： このスライドをドラッグして、音声を送信しなくなるマイクロフォンの音声入力レベルを指定します（デフォルト：左から 2 番目の目盛りに設定される）。

帯域：このスライドをドラッグして、マイクروفンの音声入力レベルが [サイレンス レベル] よりも下がった後も音声を送信し続ける時間を指定します (デフォルト：左から 7 番目の目盛りに設定される)。

注意：さまざまな [サイレンス レベル] と [帯域] の設定を試して、サウンドの転送を最適化してください。

サウンド システムのチェック：このボタンをクリックすると、コンピュータのサウンド システムをチェックし、結果をメッセージ表示します。

詳細設定...：このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



再生

優先デバイス：[]：このドロップダウン ボックスのフィールドには、オーディオ再生の優先デバイスが表示されます (デフォルト：<任意の使用可能なデバイスを使用>)。ドロップダウン ボックスには、利用可能な再生デバイスの名前が一覧表示されます。リストから名前を選択すると、それがフィールドに表示されます。

記録

優先デバイス：[]：このドロップダウン ボックスのフィールドには、オーディオ記録の優先デバイスが表示されます (デフォルト：<任意の使用可能なデバイスを使用>)。ドロップダウン ボックスには、利用可能な記録デバイスの名前が一覧表示されます。リストから名前を選択すると、それがフィールドに表示されます。

注意：コンピュータに複数のオーディオ デバイスが接続されている場合、<任意の使用可能なデバイスを使用>を選択すると、コンピュータのサウンド システムの代わりに、接続されているデバイスが選択されることがあります。このような場合は、コンピュータのサウンド システムを選択してください。

オーディオ圧縮

次の順序でオーディオ圧縮 CODEC を試す：[]：このペインには、ゲスト コンピュータで利用できるモノラル オーディオ圧縮 CODEC のリストが優先順に表示されます。

3.6 ゲスト ツール

上へ／下へ：CODEC を選択して、これらのボタンをクリックすると、選択内容が上下に移動します。

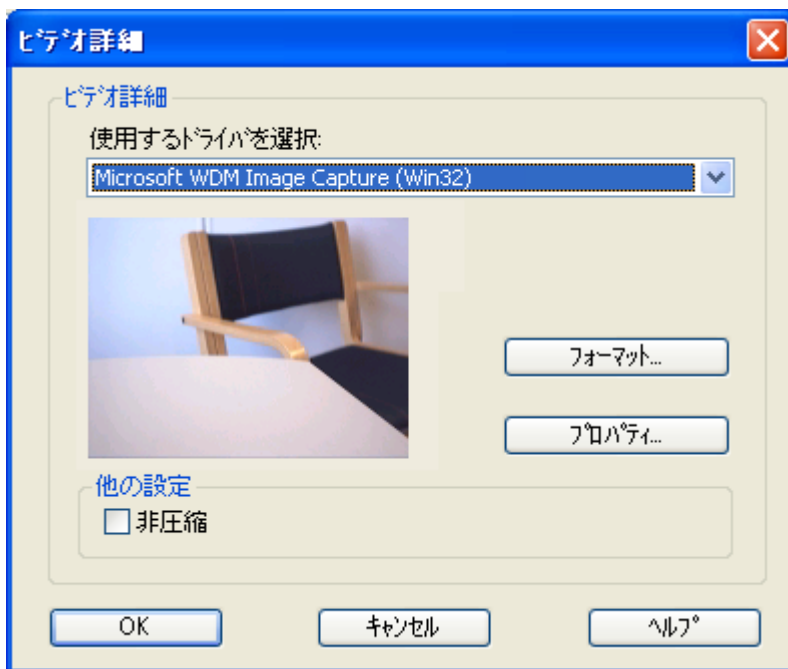
既定値を使用：このボタンをクリックすると、CODEC のデフォルトの優先順位に戻ります。

注意：オーディオ通信では、ホスト コンピュータでも使用可能な、最も優先順位の高いゲスト コンピュータ CODEC を使用します。

ビデオ

キャプチャ サイズ []：このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択したビデオ キャプチャ フレームの幅 X 高さがピクセル単位で表示されます (デフォルト：160 x 120)。ドロップダウン ボックスのリストには、利用可能なビデオ キャプチャ フレーム サイズが含まれています。リストからビデオ キャプチャ フレーム サイズを選択すると、フィールドにそのサイズが表示されます。

詳細設定...：このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



使用するドライブを選択：[]：ビデオ カメラを取り付けた場合、このドロップダウン ボックスにそのドライバ名が入ります。このリストからドライバ名を選択すると、フィールドにその名前が表示されます。

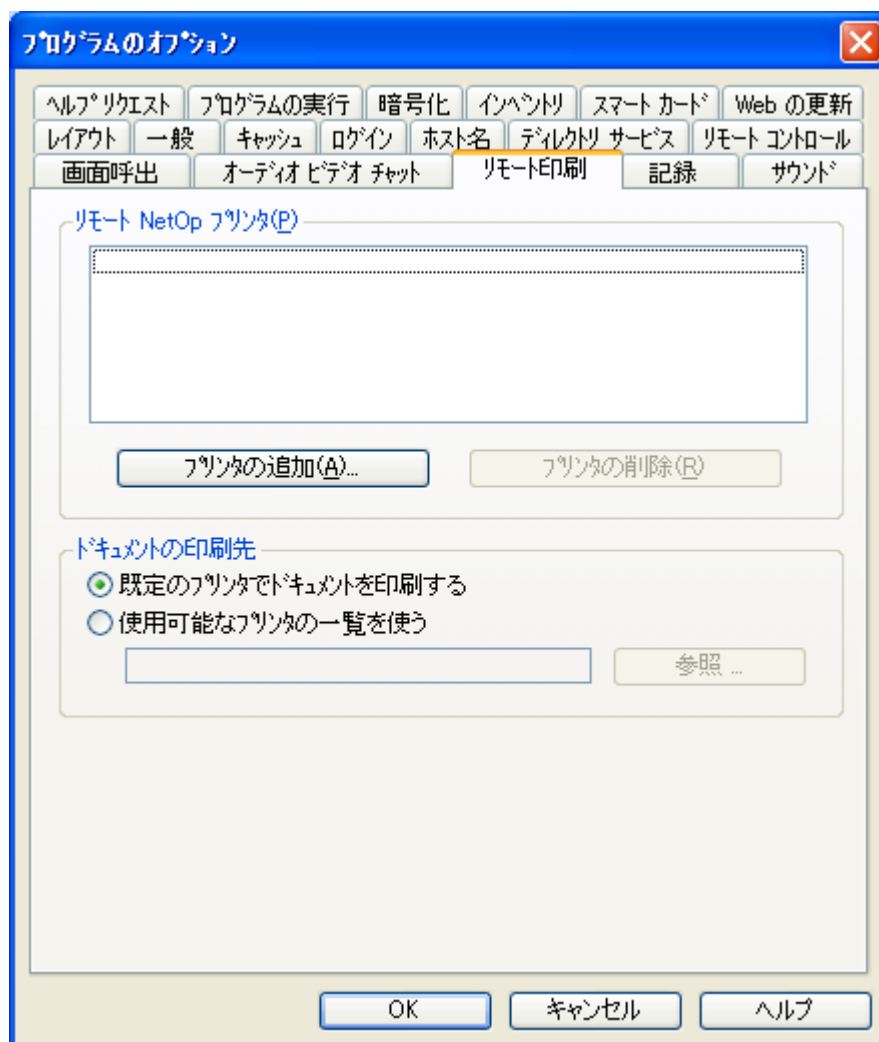
[使用するドライブを選択] ドロップダウン ボックス フィールドに名前が表示されているドライバを使用しているカメラが有効になっている場合、イメージ フレームにはキャプチャされたイメージが表示されます。

フォーマット：このボタンをクリックすると、Windows の [ビデオ フォーマット] ウィンドウが表示され、ビデオ キャプチャ イメージのフォーマットを指定できます。

プロパティ：このボタンをクリックすると、Windows の [ビデオ ソース] ウィンドウが表示され、ビデオ ソースのプロパティを指定できます。

非圧縮：このボックスにチェックマークを付けると、ビデオのデータ圧縮を無効にします (デフォルト：チェックなし)。

3.6.1.10 [リモート印刷] タブ



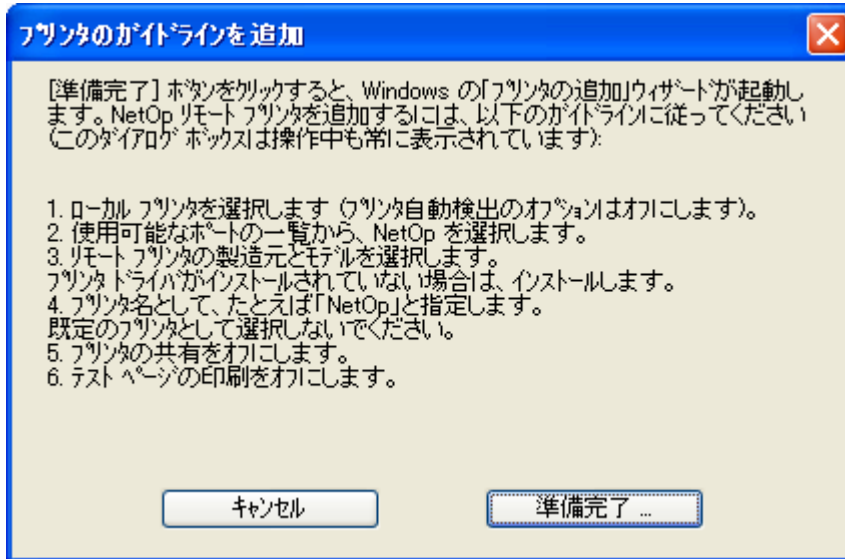
このタブでは、リモート NetOp プリンタと受信したプリント ジョブの印刷先の変更を指定します。

リモート NetOp プリンタ

このペインには、ゲスト コンピュータの Windows プリンタ フォルダにある NetOp プリンタの名前が表示されます (最初は何もありません)。

3.6 ゲスト ツール

プリンタの追加... : このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



注意： プリント ジョブを送信するコンピュータに、NetOp プリンタと選択したリモート印刷デバイスのドライバがインストールされている必要があります。

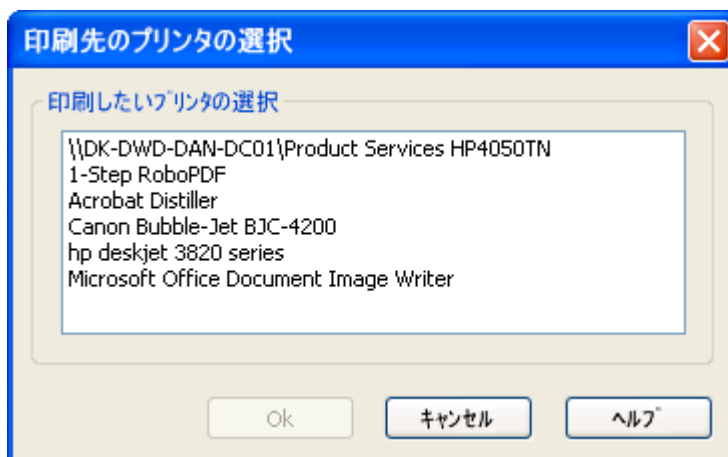
DOS アプリケーションからのリモート印刷に関する特別な指示については、NetOp [KnowledgeBase](#) を参照してください。

プリンタの削除 : ペインで NetOp プリンタを選択してこのボタンをクリックすると、そのプリンタが削除されます。

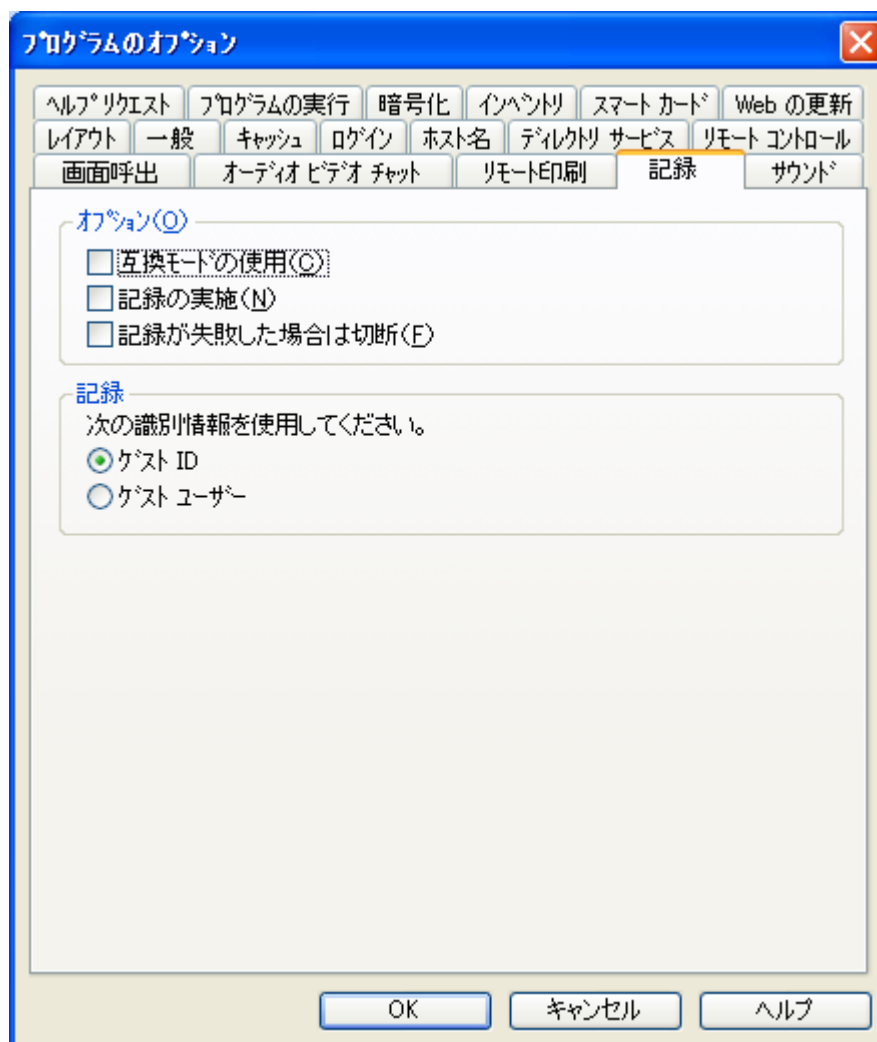
ドキュメントの印刷先

ホストからゲストに送信されたプリント ジョブは、ゲスト コンピュータ上で指定された任意のプリンタに印刷先を変更できます。次のどちらかのオプションを選択します。

- Ⓐ 既定のプリンタでドキュメントを印刷する : プリント ジョブの印刷先を、ゲスト コンピュータの規定のプリンタに変更します (デフォルト設定)。
- Ⓑ 使用可能なプリンタの一覧を使う : このオプションを選択して、[参照...] をクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



3.6.1.11 [記録] タブ



このタブでは、リモート コントロール セッションの記録のオプションを指定します。

【オプション】セクション

交換モードの使用: リモート セッションの記録は NetOp Remote Control バージョン 8 で改良が加えられました。古いゲスト バージョンでは、バージョン 8 以降の記録を再生できません。このボックスにチェックマークを付けると、古いバージョンと互換性のある記録を作成します (デフォルト: チェックなし)。

記録の実施: このボックスにチェックマークを付けると、[接続のプロパティ](#) ウィンドウの **[記録] タブ** の **[リモート コントロール セッションを記録する]** ボックスのチェックを外していても、すべてのリモート コントロール セッションを記録します (デフォルト: チェックなし)。

記録が失敗した場合は切断: このボックスにチェックマークを付けると、リモート コントロール セッションの指定した記録が失敗した場合に、接続を切断します (デフォルト: チェックなし)。

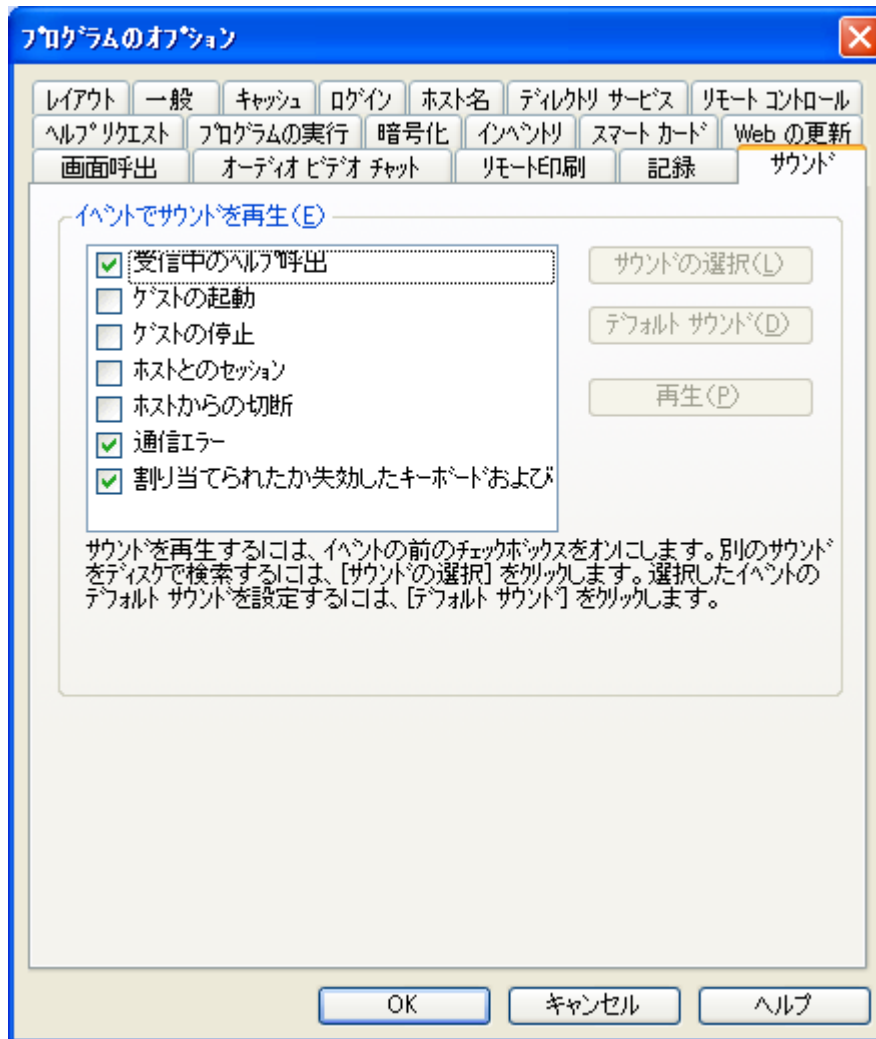
記録

次の識別情報を使用してください。: **[記録] タブ** にあるすべての記録と記録ファイル名は、ゲストを識別します。次のどちらかのオプションを選択します。

ゲスト ID: ゲスト ID によって識別します。[\[ログイン\] タブ](#) を参照してください (デフォルト設定)。

ゲスト ユーザー: ゲスト コンピュータの Windows ログイン ユーザー名によって識別します。

3.6.1.12 [サウンド] タブ



このタブでは、選択したイベントで再生するサウンドを指定します。

イベントでサウンドを再生

ペインには、次のチェックボックス付きのイベントが含まれています。

- 受信中のヘルプ呼出：新しいホストのヘルプ呼出を受け取った場合（デフォルト：チェック付き）。
- ゲストの起動：ゲストの読み込み時（デフォルト：チェックなし）。
- ゲストの停止：ゲストのアンロード時（デフォルト：チェックなし）。
- ホストとのセッション：ホスト セッションの開始時（デフォルト：チェックなし）。
- ホストからの切断：ホストとの接続の切断時（デフォルト：チェックなし）。
- 通信エラー：通信エラーの発生時（デフォルト：チェック付き）。チェックなし
- 割り当てられたか失効したキーボードおよびマウス：マルチ ゲスト セッションにおいて、ゲストがキーボードおよびマウスのコントロールを取得または喪失した時（デフォルト：チェック付き）。

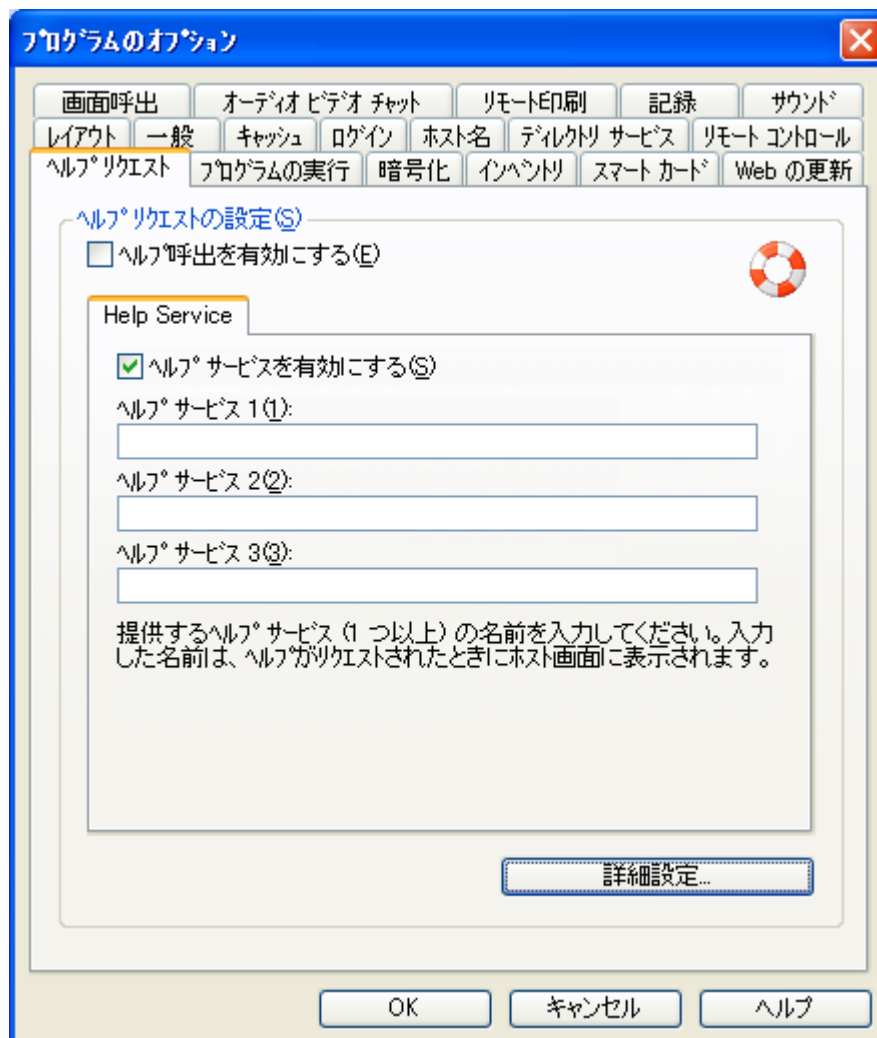
ボックスにチェックマークを付けると、そのイベントの発生時にサウンドを再生します。チェックを外すと、無効になります。

イベントを選択して、[再生] をクリックすると、イベントに割り当てられているサウンドを再生します。

イベントを選択して、[サウンドの選択]をクリックすると、Windows の [開く] ウィンドウが開き、ファイルタイプ: サウンド ファイルが指定されています。拡張子 wav の付いたサウンド ファイルを開くと、現在のサウンドが開いたサウンド ファイルのサウンドに置換され、イベントに (*) のマークが付きます。

(*) のマークの付いたイベントを選択して [デフォルトのサウンド] をクリックすると、イベントにデフォルトのサウンドが再び割り当てられ、(*) のマークが消えます。

3.6.1.13 [ヘルプ リクエスト] タブ



このタブでは、ヘルプ呼出のオプションを指定します。

注意： ゲストがヘルプ呼出を受信できるようにするには、[通信プロファイルのセットアップ] ウィンドウで、ゲストの読み込み時に、ホストのヘルプ呼出通信プロファイルと対応する通信プロファイルを有効にします。

ヘルプ リクエストの設定

ヘルプ呼出を有効にする：このボックスにチェックマークを付けると、ゲストへの各種ヘルプ呼出を有効にします (デフォルト：チェックなし)。

注意： NetOp on Demand のゲストでは、[サービス チケット] タブの下に [ヘルプ呼出] タブがあります。

[Help Service] タブ

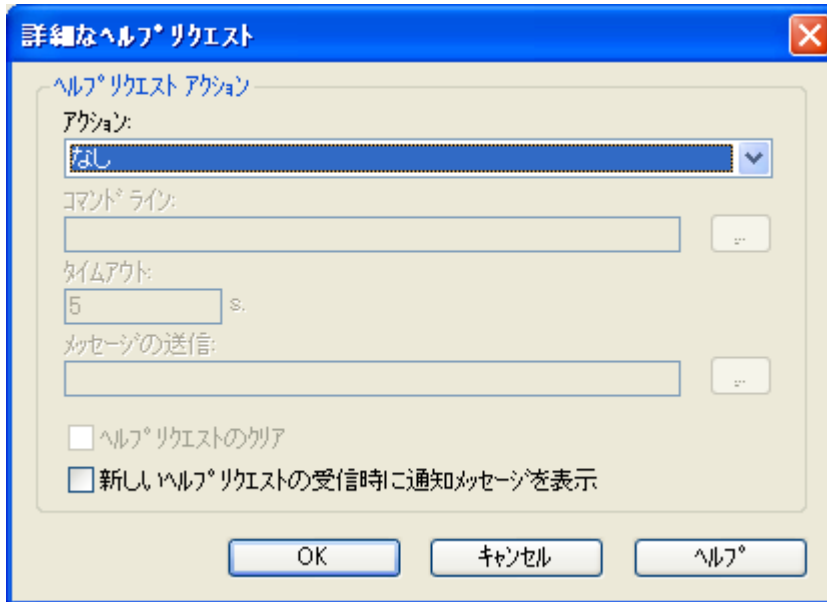
ヘルプ サービスを有効にする：このボックスのチェックを外すと、下で指定したヘルプ サービス名を無効にします (デフォルト：チェック付き)。

3.6 ゲスト ツール

ヘルプ サービス 1 ~ 3 : []: これらのフィールドには、有効にするヘルプ サービスの名前を指定します。

注意: このフィールドで指定したヘルプ サービス名は、[ヘルプ呼出を有効にする] ボックスと [ヘルプ サービスを有効にする] ボックスにチェックマークが付いていて、かつ、ゲストの読み込み時に通信プロファイルが有効になっている場合のみ、有効になります。NetOp ホストで使用しているヘルプ プロバイダという用語は、NetOp ゲストで指定したヘルプ サービス名を意味します。

詳細設定... : このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



このウィンドウでは、ヘルプ呼出を受け取った際に実行するアクションを指定できます。

アクション : []: このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択したアクションが表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには、次のオプションが含まれます。

- なし : アクションなし (デフォルト)
- メッセージを送信 : ローカル プログラムを (指定してある場合に) 実行し、ホストにメッセージを送信します。下のフィールドが有効になります。
- ローカル プログラムの実行 : ローカル プログラムを (指定してある場合に) 実行します。下のフィールドが [メッセージを送信する] を除いて有効になります。

リスト内のオプションを選択すると、そのオプションがフィールドにセットされます。

コマンド ライン : [] [...]: このフィールドには、ゲスト コンピュータのプログラムのコマンド ラインを指定します。[...] をクリックすると、Windows の [開く] ウィンドウが表示され、ファイル タイプ : プログラムが指定されています。プログラム ファイルを選択すると、フィールドにそのコマンドが表示されます。コマンドには、次の引数を追加できます。

- %H : ヘルプ呼出のホスト名。
- %T : ヘルプ呼出の時間。
- %P : ヘルプ呼出の問題の説明。

注意: 通常、ヘルプ呼出を登録するヘルプデスク プログラムのコマンドを指定します。NetOp は、ヘルプデスクのプログラムの提供や推奨はしていません。

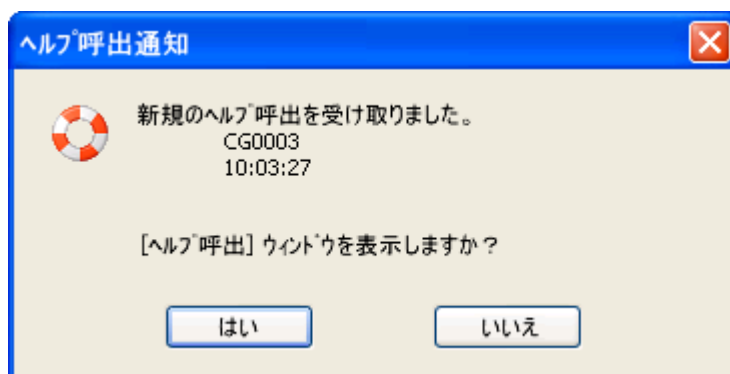
タイムアウト : [] s. : このフィールドには、上で指定したコマンドがタイムアウトする (成功しなかった場合にキャンセルする) までの時間を秒数 (デフォルト : 5、範囲 0 ~ 9999、0 = タイムアウトなし) で指定します。

メッセージの送信：[] [...]：このフィールドに *rtf*（リッチ テキスト形式）ファイルのパスと名前を指定すると、NetOp メッセージをこの *rtf* ファイルの内容とともに、ヘルプを呼び出したホストに送信します。[NetOp メッセージ](#)を参照してください。[...]をクリックすると、Windows の [開く] ウィンドウが表示されます。ファイル タイプ：*RTF* が指定されています。*rtf* ファイルを選択して開くと、そのパスと名前がフィールドに表示されます。

ヘルプ リクエストのクリア：このボックスにチェックマークを付けると、上で指定したアクションが正常に実行された場合に、[タブ パネルの \[ヘルプ呼出\] タブ](#)のレコードを削除します（デフォルト：チェックなし）。

注意：[\[ヘルプ呼出\] タブ](#)のレコードを削除しても、ホスト側でのヘルプ呼出はキャンセルされません。[ヘルプ呼出](#)を参照してください。

新しいヘルプ リクエストの受信時に通知メッセージを表示：このボックスにチェックマークを付けると、ヘルプ呼出を受け取ったときに次のメッセージが表示されます（デフォルト：オフ）：

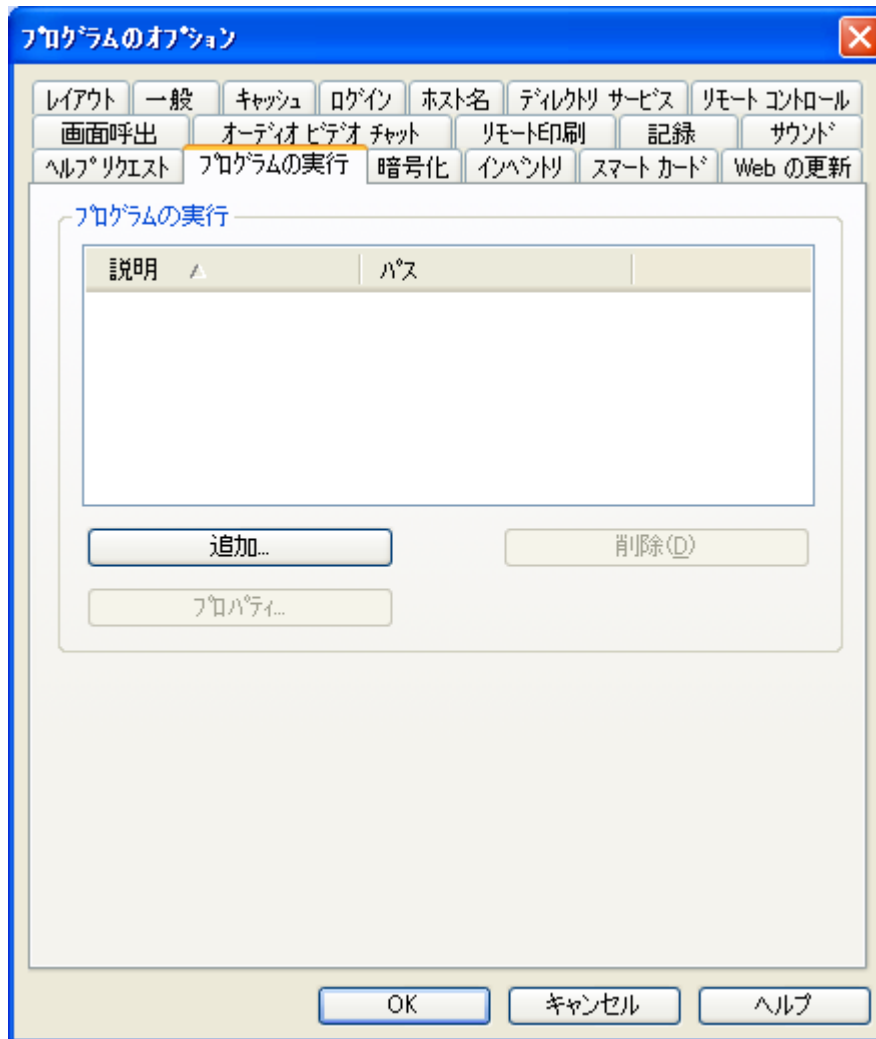


このウィンドウには、ヘルプ呼出のホスト名、時刻、および問題の説明（指定されている場合）が表示されます。

はい：このボタンをクリックすると、[タブ パネルの \[ヘルプ呼出\] タブ](#)が表示されません。

いいえ：このボタンをクリックすると、ウィンドウが閉じます。

3.6.1.14 [プログラムの実行] タブ



このタブでは、[プログラムの実行](#) ドロップダウン メニューに表示されるプログラムを指定します。

プログラムの実行

このペインには、指定したプログラムがレコードとして、次の内容の表で表示されます（初期状態は空白）。

- ・ **説明**：[プログラムの実行](#) ドロップダウン メニュー内でプログラムを識別する名前です。
- ・ **パス**：ホスト コンピュータのプログラム ファイルのパスと名前です。

表内のコントロールについては、[テーブル コントロール](#)を参照してください。

注意：表の内容は、[NetOp の設定ファイル](#)の `runprog.ndb` ファイル（通常、`C:\Documents and Settings\ユーザー名\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Guest`の下）に保存されます。

追加... : このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

ファイル

説明 : []: このフィールドには、[プログラムの実行](#) ドロップダウン メニューでプログラムを識別する説明を指定します。

ファイル名 : []: このフィールドには、プログラム ファイルのパスと名前を指定します。

ファイル情報 : []: このフィールドには、プログラム ファイルに適用するスイッチを指定します。

変換 : このボタンをクリックすると、[ファイル名] フィールドのパス要素を利用できる環境変数で置換して、言語やオペレーティング システムなどのためにゲスト コンピュータのディレクトリ構造とは異なるディレクトリ構造を持つホスト コンピュータ上のパスを識別しやすくします。

参照... : このボタンをクリックすると、Windows の [開く] ウィンドウが表示され、ファイル タイプ: プログラムが指定されています。ここから、ゲスト コンピュータのプログラム ファイルを開くと、そのパスと名前が [ファイル名] フィールドに表示されます。

注意 : [開く] ウィンドウは、ゲスト コンピュータのディレクトリとプログラム ファイルのみを表示します。下にあるドロップダウン ボックス リストから、すべてのファイルを選択すると、すべてのファイル タイプが表示されます。テキスト ファイルなど、他のファイル タイプも実行できます。ファイルを実行するには、そのファイルがホスト コンピュータ上に存在し、識別できる必要があります。

実行ウィンドウのサイズ

次のウィンドウのサイズ オプションのどれかを選択します。

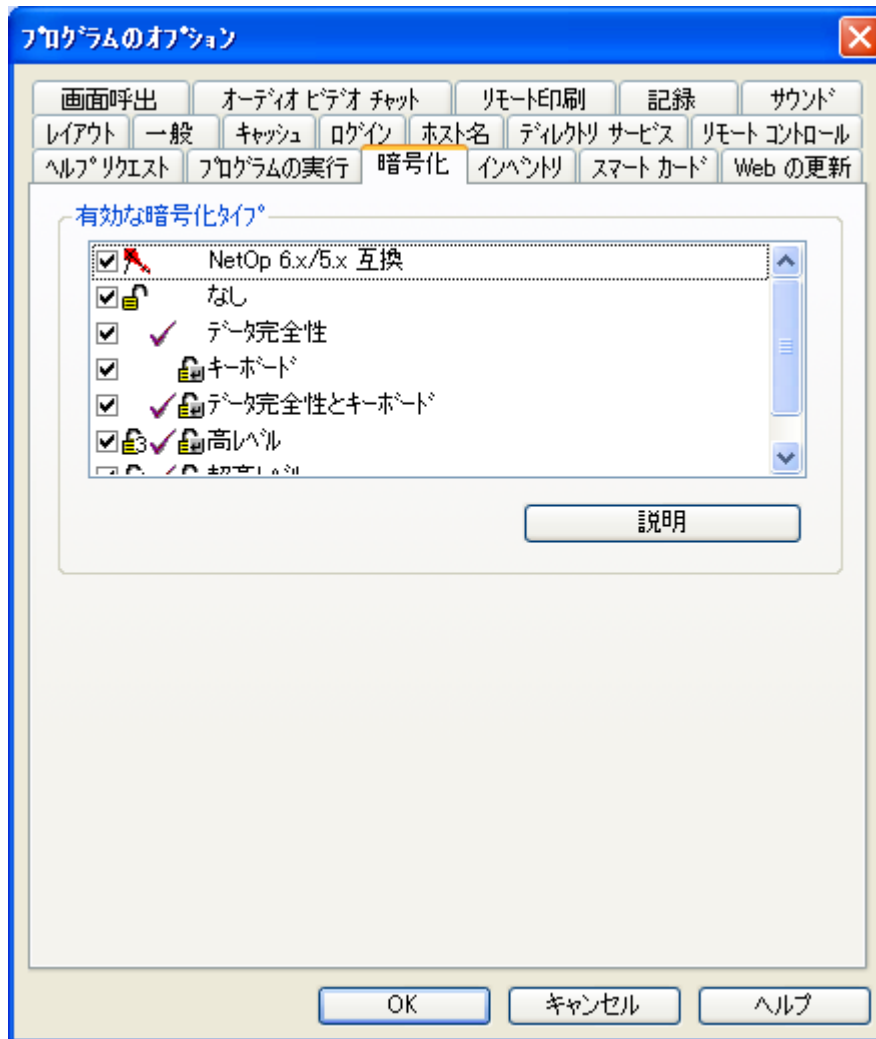
- 標準** : 通常サイズのウィンドウでプログラムを実行します (デフォルト設定)。
- 最大化** : 最大化したウィンドウでプログラムを実行します。
- 最小化** : プログラムを最小化して実行します。

OK : このボタンをクリックすると、プログラムの指定が [\[プログラムの実行\] タブ](#) ペインに追加されます。

プロパティ... : ペイン内でレコードを選択して、このボタンをクリックすると、[実行] ウィンドウにそのプロパティが表示され、編集できます。

削除 : ペイン内のレコードを選択してこのボタンをクリックすると、レコードが削除されます。

3.6.1.15 [暗号化] タブ



このタブでは、有効にする暗号化タイプを指定します。

注意： NetOp 通信は暗号化により保護されます。バージョン 7.0 以降の NetOp Remote Control モジュールでは、幅広い暗号化タイプを利用できます。バージョン 6.5 以前の NetOp Remote Control モジュールで利用できる暗号化タイプは 1 つだけです。NetOp モジュールの通信では、両方のモジュールで有効になっている暗号化タイプによって、自動的に通信を暗号化してネゴシエートします。[接続のプロパティ](#) ウィンドウの「[圧縮 / 暗号化](#)」タブを参照してください。有効になっている共通の暗号化タイプがない NetOp モジュール間は、通信できません。

有効な暗号化タイプ

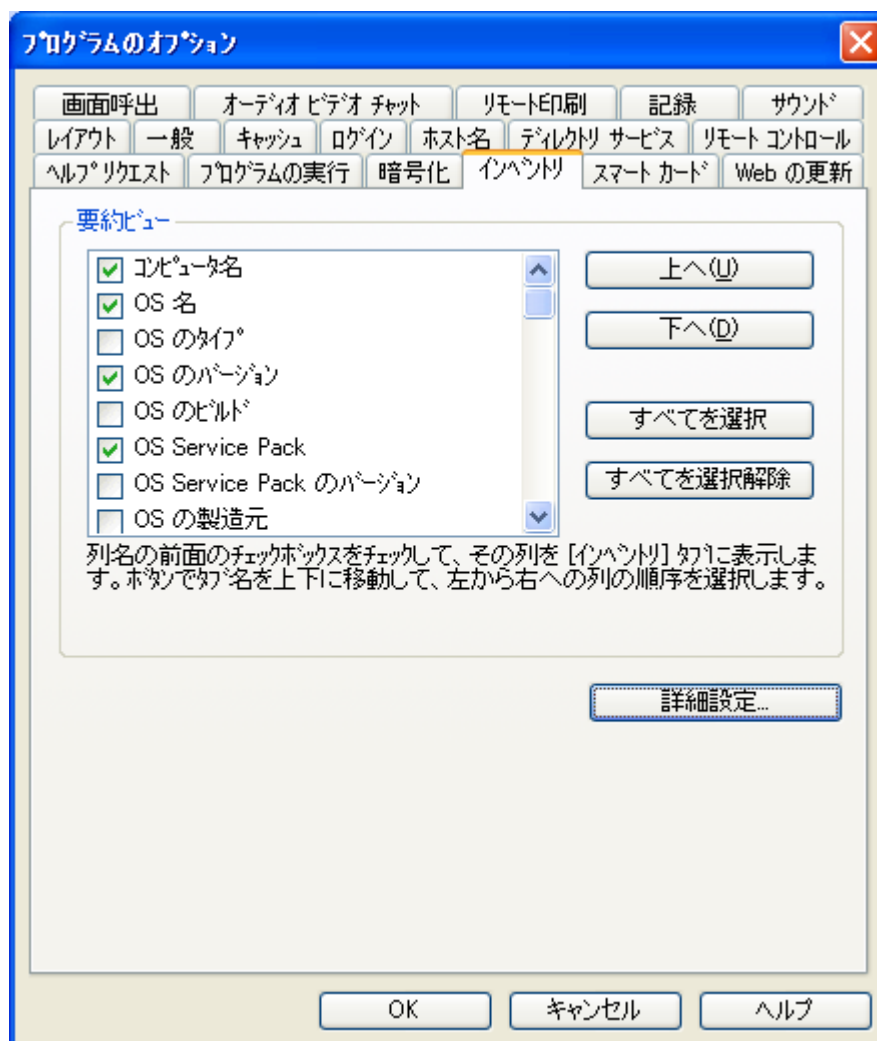
ペインには、使用可能な暗号化タイプのアイコンと名前が記されたチェックボックスが表示されます。ボックスにチェックを付けたままにすると、暗号化タイプを有効にします（デフォルト：すべてチェック付き）が、ペインに表示されます。チェックを外すと、無効になります。

- NetOp 6.x/5.x 互換* : NetOp Remote Control バージョン 6.5 以前と互換性のある暗号化です。
- なし : モジュール ID は暗号化しますが、データは暗号化しません。
- データ完全性 : データ完全性の暗号化を行います。
- キーボード : キーボードの暗号化を行います。
- データ完全性とキーボード : データ完全性とキーボードの暗号化を行います。
- 高レベル : 高レベルの暗号化を行います。

超高レベル : 超高レベルの暗号化を行います。

説明 : 暗号化タイプを選択して、このボタンをクリックすると、暗号化の詳細が表示されます。

3.6.1.16 [インベントリ] タブ



このタブでは、[タブ パネルの「インベントリ」タブ](#)およびインベントリの詳細オプションを指定します。

要約ビュー

このペインには、利用できるホスト コンピュータのインベントリ詳細のチェックボックス付きリストが含まれます。ボックスのチェックマークを付ける / 外すと、[コンテンツ ペイン](#)でフォルダが選択されたときに、[タブ パネルの「インベントリ」タブの詳細ペイン](#)にある要約ビューに表示される列を選択できます。チェックの付いたボックスの詳細な列が、ペインの上下の順番に沿って、左右の順番に表示されます。

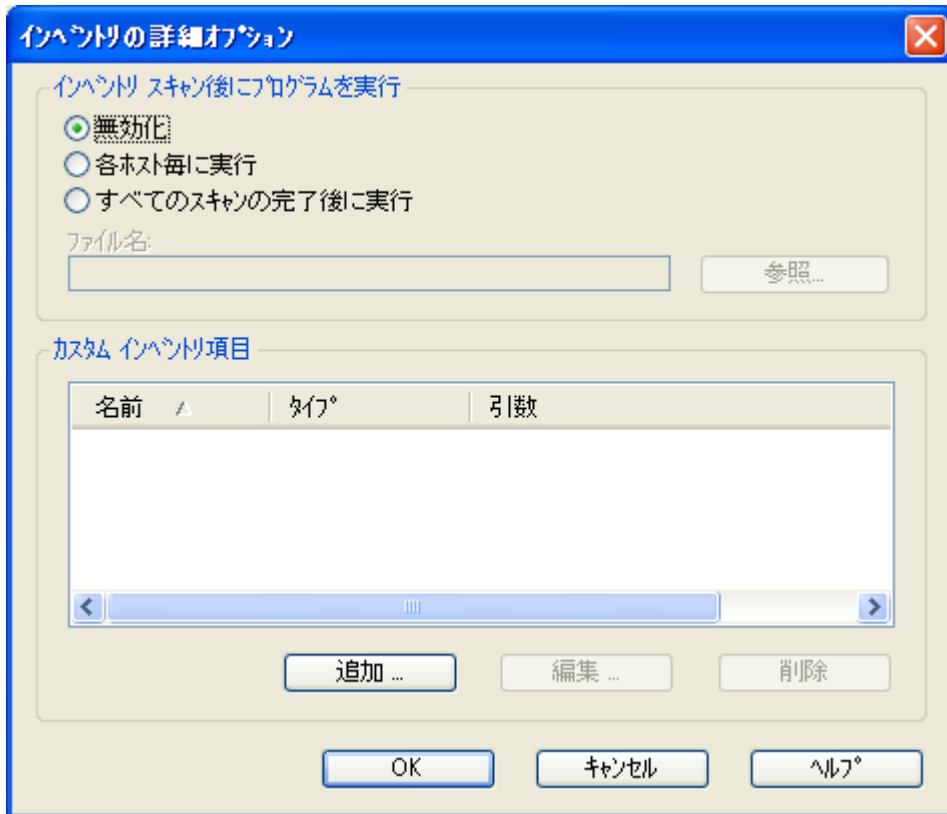
上へ / 下へ : ホストのインベントリ詳細を選択して、どちらかのボタンをクリックするとペイン内で上下に移動し、[タブ パネルの「インベントリ」タブの詳細ペイン](#)にある要約ビュー内で、列の位置を変えることができます。

すべてを選択 : このボタンをクリックすると、ペイン内にあるホストのすべてのインベントリ詳細にチェックマークを付けます。

すべてを選択解除 : このボタンをクリックすると、ペイン内にあるすべてのホストのインベントリ詳細のチェックを外します。

3.6 ゲスト ツール

詳細設定... : このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



このウィンドウで、インベントリ処理やカスタム インベントリ項目を指定できます。

インベントリ スキャン後にプログラムを実行

ホスト コンピュータのインベントリを新たに取得するたびに、自動的に実行するインベントリ処理プログラムを指定することができます。次のどちらかのオプションを選択します。

- **無効化** : 下のフィールドで指定したプログラムの実行を無効にします (デフォルト設定)。
- **各ホスト毎に実行** : ホスト コンピュータのインベントリが取り込まれたとき、下のフィールドで指定したプログラムを実行します。
- **すべてのスキャンの完了後に実行** : ホスト コンピュータのインベントリのバッチファイルが取り込まれたときに、下のフィールドで指定したプログラムを実行します。

ファイル名 : [] : このフィールドには、インベントリ処理プログラム ファイルのパスと名前を、必要なコマンド ラインのスイッチを含めて指定します。

参照... : このボタンをクリックすると、Windows の [開く] ウィンドウが表示され、ファイル タイプ : プログラムが指定されています。ここから、インベントリ処理プログラム ファイルを開くと、そのパスと名前が [ファイル名] フィールドに表示されます。

注意 : NetOp は、インベントリ処理プログラムの提供や推奨はしていません。

カスタム インベントリ項目

このペインには、次の内容の表でカスタム インベントリ項目のレコードが表示されます (初期状態は空白)。

- ・ **名前** : インベントリ項目名。
- ・ **タイプ** : インベントリ項目のタイプ。
- ・ **引数** : インベントリ項目の引数。

表内のコントロールについては、[テーブル コントロール](#)を参照してください。

追加... : このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

このウィンドウでは、カスタム インベントリ項目を指定します。

名前 : []: このフィールドには、インベントリ項目名を指定します。

項目タイプ : []: このドロップダウンのフィールドには、選択したインベントリ項目のタイプが表示されます。ドロップダウン ボックス リストにはインベントリ項目のタイプが含まれ、これが下の引数フィールドを決定します。

- **環境変数 :** フィールド : 環境変数 (デフォルト)。
- **レジストリ キー :** ドロップダウン ボックス : レジストリ キー、フィールド : サブ キー。
- **Ini ファイル :** フィールド : ファイル名、フィールド : セクション、フィールド : キー。
- **ファイル情報 :** フィールド : ファイル名。
- **DLL :** フィールド : DLL ファイル名、フィールド : DLL 引数。
- **ASCII ファイルの内容 (最大 512 バイト) :** フィールド : ファイル名。

インベントリ項目のタイプをリストから選択すると、それがフィールドに表示されます。下の引数フィールドでは、カスタム インベントリ項目を定義するために必要な引数を指定します。

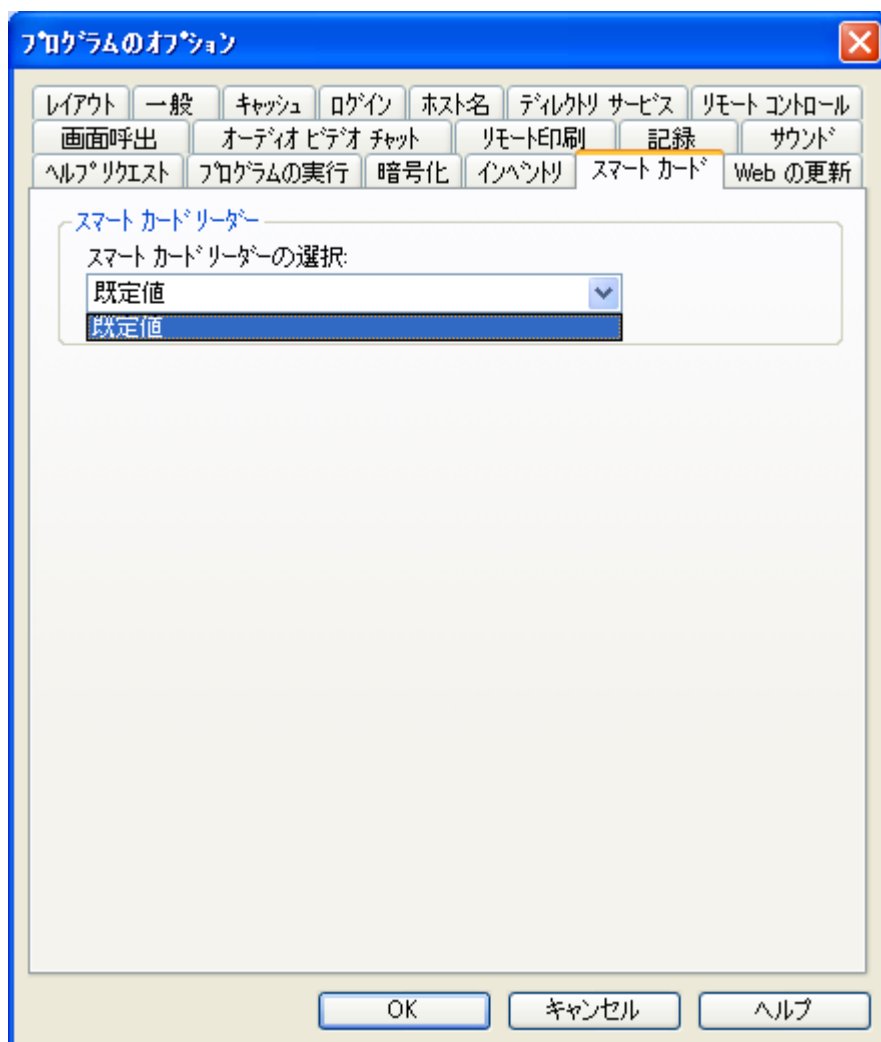
OK : このボタンをクリックすると、インベントリ項目の指定がカスタム インベントリ項目の表のレコードとして表示されます。

編集 : ペイン内のレコードを選択してこのボタンをクリックすると、[カスタム インベントリ項目] ウィンドウに詳細が表示され、編集することができます。

削除 : ペイン内のレコードを選択してこのボタンをクリックすると、レコードが削除されます。

注意 : このペインの内容は、[NetOp の設定ファイル](#)の `InvCuItm.xml` ファイル (通常、`C:\Documents and Settings\ユーザー名\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Guest` の下) に保存されます。

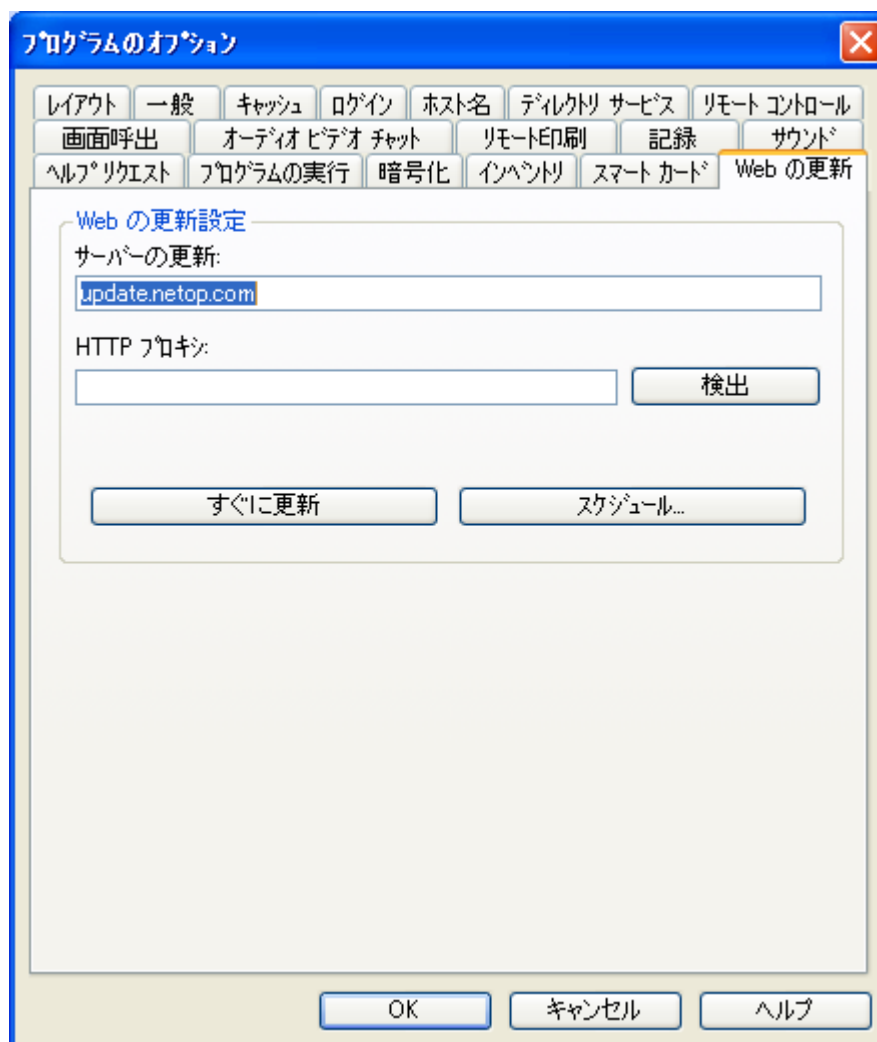
3.6.1.17 [スマート カード] タブ



このタブでは、[スマート カード認証](#)に使用するスマート カード リーダーを指定します。

スマート カード リーダーの選択: []: このドロップダウンのフィールドには、選択したスマート カード リーダーの名前が表示されます。ドロップダウン ボックス リストには、*Default* や Windows が検出した、接続されているスマート カード リーダーが含まれています。リスト内のオプションを選択すると、そのオプションがフィールドにセットされます。

3.6.1.18 [Web の更新] タブ



このタブでは、NetOp ゲストのインストールをネットワークから更新できるようにする Web 更新のオプションを指定します。

サーバーの更新：[]: このフィールドには、ゲストの更新ファイルをダウンロードする元になるサーバーの Web アドレスを指定します（デフォルト：update.netop.com、NetOp 開発元の Web 更新サーバー）。

注意：組織内に多数の NetOp がインストールされている環境で更新する場合、社内の Web 更新サーバーに**新しい更新を公開**を行うことをお勧めします。

HTTP プロキシ：[]: HTTP プロキシの指定は通常必要ありません。

HTTP プロキシを指定する前に、[**すぐに更新**]をクリックして、Web 更新接続のテストを行います。これにより、更新サーバーへの接続が成功したことを示すメッセージが表示されたら、HTTP プロキシを指定しません。

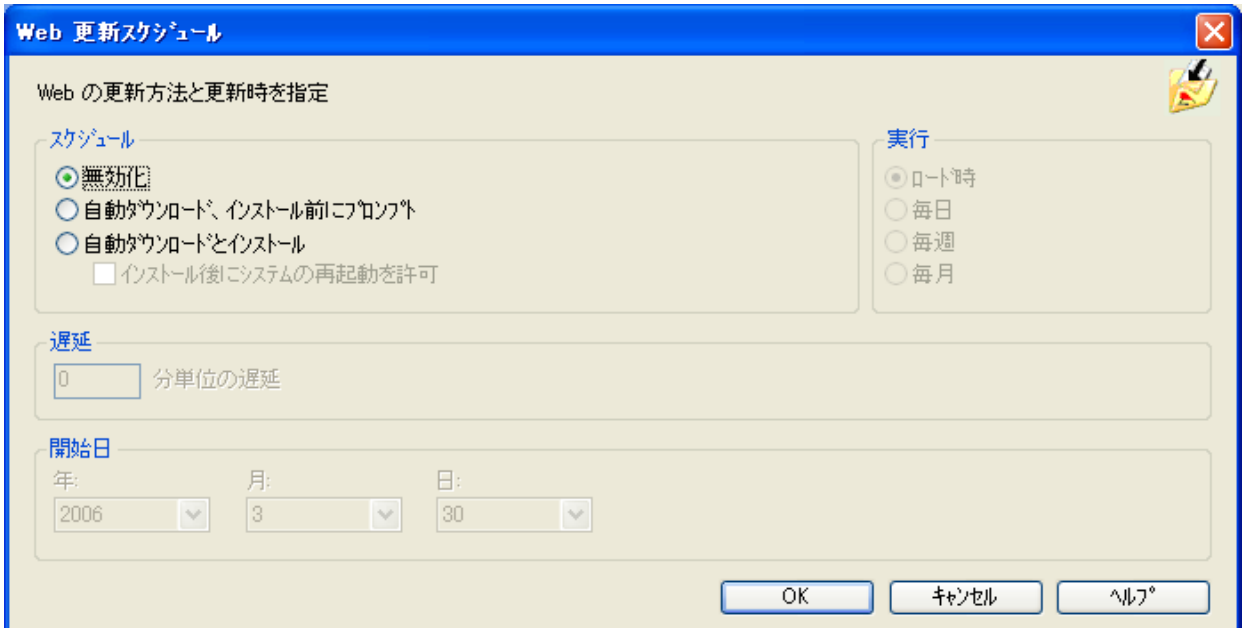
[**すぐに更新**]で接続できない場合は、[**検出**]をクリックして、NetOp に HTTP プロキシサーバーを検出させ、その名前とポート番号を [HTTP プロキシ] フィールドに表示させます。[**すぐに更新**]をクリックして、接続のテストを行います。

接続できなかった場合、[HTTP プロキシ] フィールド（形式：<サーバー名>:<ポート番号>）に指定する内容について、ネットワーク / システム管理者に問い合わせてください。

3.6 ゲスト ツール

すぐに更新：このボタンをクリックすると、[サーバーの更新]フィールドで指定した更新サーバーに接続します。更新サーバーへの接続に失敗した場合、更新内容がない場合、更新内容がある場合に、Web 更新メッセージが通知されます。最後の場合、更新内容をダウンロードおよびインストールするか問い合わせがあります。

スケジュール...：このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



このウィンドウでは、利用できる更新ファイルのダウンロードやインストールなど、更新をチェックするスケジュールを指定できます。

スケジュール

次のどちらかのオプションを選択します。

- **無効化：**自動 Web 更新を無効にします (デフォルト設定)。ウィンドウ内の他のセクションが無効になります。
- **自動ダウンロード、インストール前にプロンプト：**更新ファイルがあれば自動的にダウンロードし、ユーザーにダウンロード時にプロンプトを表示します。
- **自動ダウンロードとインストール：**更新ファイルがあれば自動的にダウンロードおよびインストールします。
 - インストール後にシステムの再起動を許可：**このボックスにチェックマークを付けると、更新インストールの完了後に、必要に応じて自動的に再起動します (デフォルト：チェックなし)。チェックを外したままにすると、自動的に再起動せず、インストール後に、インストールを完了させるためには再起動が必要ですよというメッセージが表示されます。

実行

次のどちらかのオプションを選択します。

- **ロード時：**更新をゲストの読み込み時にチェックします (デフォルト設定)。上の画像の [遅延] セクションが表示されます。

遅延

[] **分単位の遅延：**このフィールドには、Web 更新を遅延させる時間を分数で指定します (デフォルト：0、範囲 0 ~ 99)。

- 毎日：更新を毎日チェックします。次のセクションが表示されます。

開始日

12:00 毎日 1 日

1 時間内でランダム化

開始日

毎日 日：最初のフィールドには、時刻を指定します（デフォルト：12:00）。2 番目のフィールドには、間隔を日数で指定します（デフォルト：1、範囲 1 ~ 99）。

1 時間内でランダム化：このボックスにチェックマークを付けると、混雑を避けるため、更新時刻を指定した時刻から 1 時間の範囲内でランダムに開始します（デフォルト：チェックなし）。

注意： スケジュールされた時刻にゲストが読み込まれていない場合は、その後、ゲストが読み込まれた時点で Web 更新が実行されます。

- 毎週：更新を毎週チェックします。次のセクションが表示されます。

開始日

12:00 毎週 1 週

月曜 火曜 水曜
 木曜 金曜 土曜
 日曜

1 時間内でランダム化

開始日

毎週 週：最初のフィールドには、時刻を指定します（デフォルト：12:00）。2 番目のフィールドには、間隔を週数で指定します（デフォルト：1、範囲 1 ~ 99）。

<曜日>：このボックスにチェックマークを付けると、Web 更新のスケジュールを選択した週日に実行します（デフォルト：月曜日だけがオン）。

1 時間内でランダム化：このボックスにチェックマークを付けると、混雑を避けるため、更新時刻を指定した時刻から 1 時間の範囲内でランダムに開始します（デフォルト：チェックなし）。

注意： スケジュールされた時刻にゲストが読み込まれていない場合は、その後、ゲストが読み込まれた時点で Web 更新が実行されます。

- 毎月：更新を毎月チェックします。次のセクションが表示されます。

開始日

12:00 時間 1 日付 (1 - 28)

1 時間内でランダム化

開始日

時間 日付：最初のフィールドには、時刻を指定します（デフォルト：12:00）。2 番目のフィールドには、日付を指定します（デフォルト：1、範囲 1 ~ 28）。

1 時間内でランダム化：このボックスにチェックマークを付けると、混雑を避けるため、更新時刻を指定した時刻から 1 時間の範囲内でランダムに開始します（デフォルト：チェックなし）。

3.6 ゲスト ツール

注意： スケジュールされた時刻にゲストが読み込まれていない場合は、その後、ゲストが読み込まれた時点で Web 更新が実行されます。

スケジュール開始日

年：[] 月：[] 日：[]: ドロップダウン ボックスでスケジュール開始日を選択します（デフォルト：当日）。

3.6.2 ファイル マネージャのオプション

[[ツール](#)] [メニュー](#)の [[ファイル マネージャのオプション](#)] コマンドを選択すると、[ファイル マネージャのオプション](#) ウィンドウが表示されます。[ファイルの転送の](#) [[オプション](#)] [メニュー](#)を参照してください。

3.6.3 ログのセットアップ

[[ツール](#)] [メニュー](#)の [[ログのセットアップ](#)] コマンドを選択すると、[ログのセットアップ](#) ウィンドウが表示されます。

注意： ログのセットアップは、すべての NetOp モジュールで共通です。そのため、[ログのセットアップ](#) セクションは、[共通のツール](#)の章に記載されています。

3.6.4 保守パスワード

[[ツール](#)] [メニュー](#)の [[保守パスワード](#)] コマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。

保守パスワードは、[ツール](#) [メニュー](#)のセットアップ コマンドへのアクセスを保護し、権限のないゲストによるセットアップの変更を防ぎます。

古いパスワード： []: このフィールドには、現在の保守パスワードを指定します（最初は何もなく、このフィールドは無効になっています）。キーストロークは、ドットまたはアスタリスクで表示されます。

新しいパスワード： []: このフィールドには、新しいパスワードを指定します（最大 16 文字）。

パスワードの確認： []: このフィールドには、確認のために、新しいパスワードを指定します。

注意： [[新しいパスワード](#)] フィールドと [[パスワードの確認](#)] フィールドを空白にすると、保守パスワードによる保護が無効になります。

保守パスワードによる保護が適用されている場合、[ツール](#) [メニュー](#)の任意のセットアップ コマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。

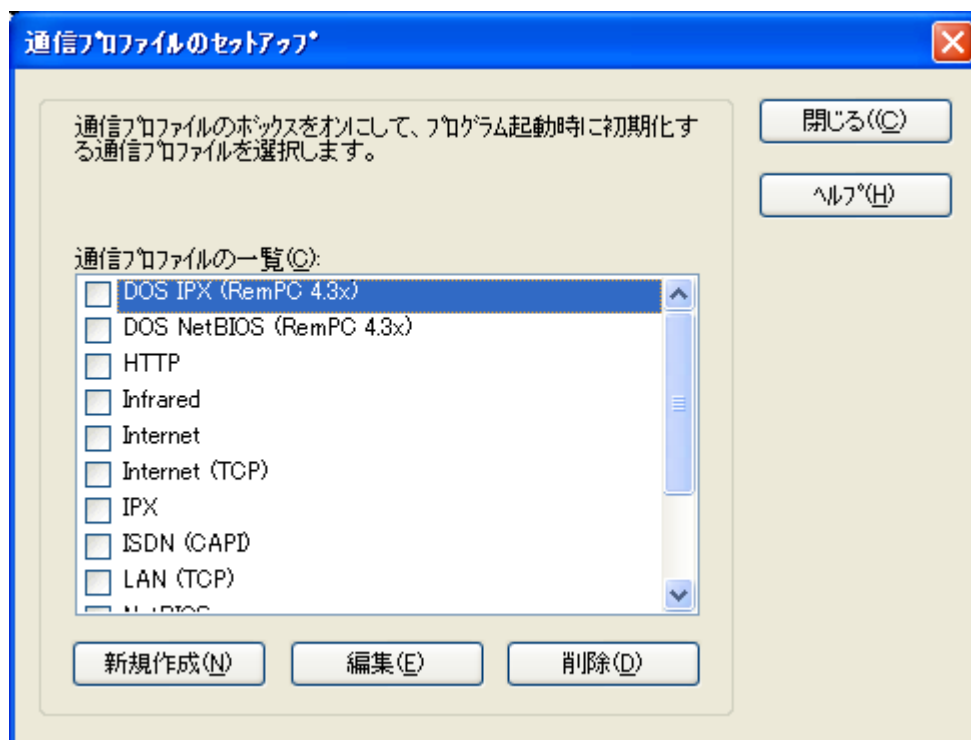
パスワードを入力してください： []: このフィールドに保守パスワードを入力します。

指定したパスワードが間違っている場合は、エラーメッセージが表示されます。保守パスワード入力の実行回数に制限はありません。

3.6.5 通信プロファイル

[ツール] メニューの [通信プロファイル] コマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。

通信プロファイルのセットアップ



このウィンドウでは、通信プロファイルの有効 / 無効化、作成、編集、削除を行うことができます。

注意：通信プロファイルは、通信デバイスの設定に名前を付けたものです。それぞれの通信デバイスに対して、設定が異なる複数の通信プロファイルを作成することができます。通信デバイスは、すべての NetOp モジュールで共通です。そのため、[通信デバイス](#) セクションは、[共通のツールの](#)章に記載されています。

通信プロファイルの一覧：このペインには、チェックボックスの付いたゲストの通信プロファイル名が含まれます。チェックボックス（デフォルト：LAN (TCP) と TCP/IP がチェック付き）にチェックマークを付けると、ゲストの読み込み時に通信プロファイルが有効になります。

注意：ゲストの読み込み時に通信プロファイルを有効にする必要があるのは、以下の目的のためだけです。

- ・ ホストのヘルプ呼出を受け取るため。[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [\[ヘルプ リクエスト\] タブ](#) を参照してください。
- ・ [NetOp ゲートウェイを経由したネットワークまたはネットワーク ターミナル サーバー ホストへの接続](#) を行うため。
- ・ [初期化された任意の通信](#) を使用して、ネットワークでゲートウェイのデバイス グループを検索するため。[ゲートウェイ通信プロファイルの編集](#) を参照してください。

新規作成：このボタンをクリックすると、[通信プロファイルの編集](#) ウィンドウが表示され、通信プロファイルを作成できます。

編集：このペインで通信プロファイルを選択し強調表示にしてから、このボタンをクリックすると、[通信プロファイルの編集](#) ウィンドウが表示され、その通信プロファイルを編集できます。

3.6 ゲスト ツール

削除： このペインで通信プロファイルを選択してから、このボタンをクリックすると、その通信プロファイルを削除できます。

注意： 有効になっている通信プロファイルに対して変更を適用するには、ゲストを再度読み込む必要があります。

3.6.6 モデム データベース

[\[ツール\] メニュー](#)の [\[モデム データベース\]](#) コマンドを選択すると、[\[モデム\]](#) ウィンドウが表示されます。[モデム データベース](#)を参照してください。

注意： モデム データベースは、すべての NetOp モジュールで共通です。そのため、[モデム データベース](#) セクションは[共通のツール](#)の章に記載されています。

3.6.7 新規および更新のチェック

[\[ツール\] メニュー](#)の [\[新規更新のチェック\]](#) コマンドを選択すると、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [\[Web の更新\]](#) タブで指定した Web 更新サーバーに接続して、ゲストに対して新しい更新があるか確認します。

3.6.8 新しい更新を公開

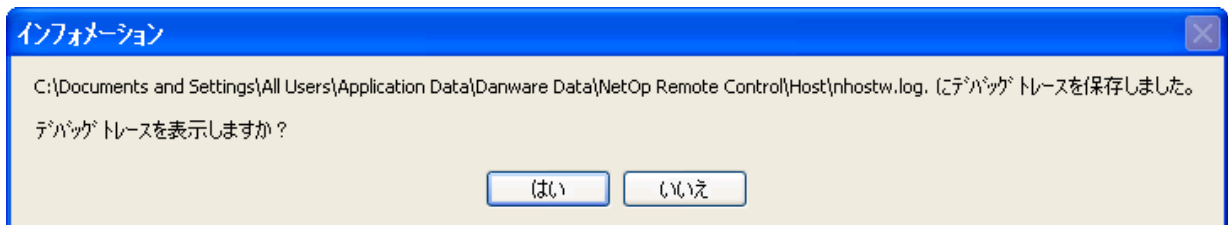
[\[ツール\] メニュー](#)の [\[新しい更新の公開\]](#) コマンドを選択すると、Windows の [\[フォルダの参照\]](#) ウィンドウが表示されます。ネットワーク フォルダを選択して、インストールしてあるバージョンの NetOp Remote Control の Web 更新ファイルを、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [\[Web の更新\]](#) タブで指定した URL から指定したネットワーク フォルダにコピーします。

このシステム / ネットワーク管理者向けのツールを使用すると、社内の Web 更新サーバーに接続することで、ネットワーク上のユーザーが各自の NetOp を Web 更新できるようになります。

3.6.9 デバッグのトレース

通常、このコマンドは [\[ツール\] メニュー](#) に表示されていません。このコマンドを表示するには、[\[ヘルプ\] メニュー](#)の [\[バージョン情報\]](#) を選択して ALT+Z を押します。このコマンドを選択すると、最近の通信のデバッグ トレースを保存します。このデバッグ トレースは、通信上の問題解決のために、NetOp のサポーターから依頼される場合があります。

次のウィンドウが表示されます。



ここには、デバッグ トレースの保存場所が表示されます。

はい： このボタンをクリックすると、デバッグ トレースの内容が表示されます。これは、NetOp 通信イベントを通信されたデータを除いてログに記録したテキスト ファイルです。デバッグ トレースを解析するには、NetOp に関する専門知識と経験が必要です。

いいえ： このボタンをクリックすると、ウィンドウが閉じます。

3.6.10 セットアップ ウィザードの実行

[\[ツール\] メニュー](#)の [\[セットアップ ウィザードの実行\]](#) コマンドを選択すると、[セットアップ ウィザード](#)が起動されます。

3.6.11 ゲストをリムーバブル メディアにコピー

リムーバブル データ ストレージ メディア デバイスを、USB ソケットなどからコンピュータに接続して、[\[ツール\] メニュー](#)の [\[ゲストをリムーバブル メディアにコピー\]](#) コマンドを選択すると、Windows の [\[フォルダの参照\]](#) ウィンドウが表示されます。リムーバブル データ ストレージ メディア デバイスを選択し、インストールされたゲスト (個人的な設定を含む) をリムーバブル データ ストレージ メディア デバイスにコピーします。

これで、自分の NetOp ゲストを持ち運び、リムーバブル データ ストレージ メディア デバイスを互換性がある任意の Windows コンピュータに接続して、そこからゲストを実行できます。

NetOp ゲストは、リムーバブル データ ストレージ メディア デバイス上で、約 13 MB と個人のゲスト設定分を合わせたスペースを使用します。

3.7 ゲストのセッション

あるコンピュータ上にある NetOp ゲストは、別のコンピュータ上にある NetOp ホストに接続して、1 つまたは複数のセッション タイプを同時に実行できます。[接続ガイド](#)を参照してください。

次のセッション タイプが利用できます。

- [リモート コントロール](#)
- [ファイルの転送](#)
- [チャット](#)
- [オーディオビデオ チャット](#)
- [リモート管理](#)

NetOp ホストは、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの **[一般]** タブで、同時に複数のゲスト接続を許可することができます。

1 つのホストと [リモート コントロール](#) セッションを実行している複数のゲストは、共有の [マルチ ゲスト セッション](#) を実行します。

1 つのホストと [ファイルの転送](#) セッションを実行している複数のゲストは、別々のセッションを実行します。

1 つのホストと [チャット](#) セッションを実行している複数のゲストは、共有の [マルチ チャット セッション](#) を実行します。

各ゲストと各ホストは、一度に 1 つの [オーディオビデオ チャット](#) セッションしか実行できません。

1 つのホストと [リモート管理](#) セッションを実行している複数のゲストは、別々のセッションを実行します。

3.7.1 リモート コントロール

ホストの [ゲスト アクセス セキュリティ](#) によって許可されている場合 ([ゲストが行える操作](#) を参照)、ゲストはホストとリモート コントロール セッションを開始して、ホスト コンピュータの画面イメージをゲスト コンピュータ上に表示することができます。

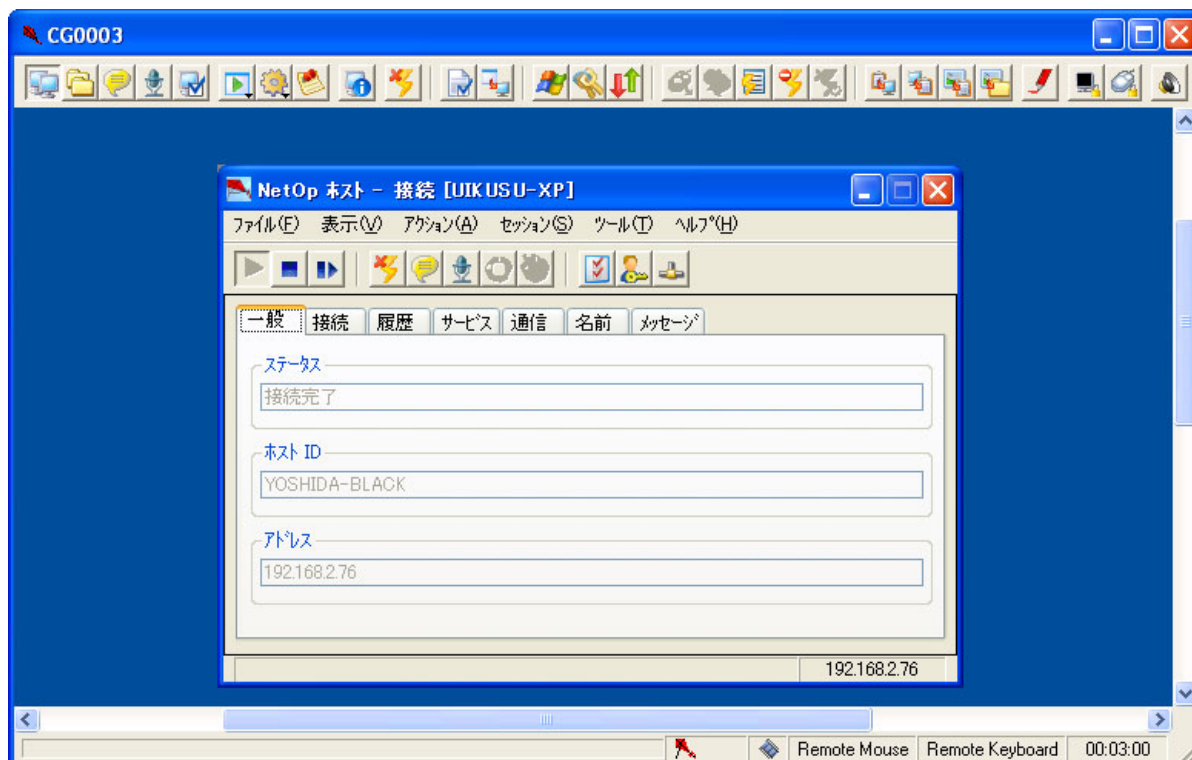
ゲストは、[タブ パネル](#) の **[簡易接続]** タブ ([リモート コントロール](#) を参照) からや、**[電話帳]** タブや **[履歴]** タブのレコードから、または **[ヘルプ呼出]** タブのレコードからのヘルプ呼出に応じて、接続してリモート コントロール セッションを開始できます。

接続したら、ゲストは [タブ パネル](#) の **[電話帳]** タブ、**[簡易接続]** タブ、**[接続]** タブ、**[履歴]** タブのレコードからや、[リモート管理](#) の [NetOp セッション](#) の **[リモート コントロール]** コマンドから、リモート コントロール セッションを開始および終了できます。

注意： ホストが、同時に複数のゲスト接続を許可している場合 ([ゲストのセッション](#) を参照)、リモート コントロール セッションの複数のゲストは、共有の [マルチ ゲスト セッション](#) を実行しません。

3.7 ゲストのセッション

ホスト コンピュータの画面イメージがゲスト コンピュータの画面上（通常は [リモート コントロール] ウィンドウ）に表示されます。[リモート コントロール表示](#)を参照してください。



このウィンドウには、次の要素があります。

[タイトル バー](#)

[ツールバーとツールボックス](#)

[リモート コントロール表示](#)

[ステータス バー](#)

3.7.1.1 タイトル バー



[リモート コントロール](#) ウィンドウのタイトル バーには、ホストに接続する際に使用した名前が表示されます。

ウィンドウのタイトル バー コントロールについては、「[ウィンドウ コントロール](#)」で説明しています。

リモート コントロール ウィンドウのタイトル バーのメニューには、その他に以下のコマンドがあります。



メニュー コントロールとツールバー コントロールについては、「メニューとツールバーのコントロール」で説明しています。

キーストロークの送信：このコマンドは以下のコマンドに拡張されます。

注意：このコマンドは、ホストのゲスト アクセス セキュリティが「キーボードとマウスを使う」を許可していない場合は無効になります。ゲストが行える操作を参照してください。

キーボードからこれらのキーストロークの組み合わせを使用すると、望ましくない結果を引き起こす場合があります。

*Ctrl+Esc の送信：*このコマンドを選択するか、ツールバーとツールボックスのコントロール ボタンの対応するボタンをクリックすると、CTRL+ESC のキーストロークの組み合わせをホストに送信し、Windows ホスト コンピュータでは「スタート」メニューが表示され、OS/2 ホスト コンピュータでは「ウィンドウ リスト」が表示されます。

*Ctrl+Alt+Del の送信：*このコマンドを選択するか、ツールバーとツールボックスのコントロール ボタンの対応するボタンをクリックすると、CTRL+ALT+DEL のキーストロークの組み合わせをホストに送信し、Windows 2003/XP/2000 ホスト コンピュータではセキュリティ ダイアログ ボックスが表示され、OS/2 ホスト コンピュータの場合は再起動します。

注意：「Ctrl+Alt+Del の送信」は、Windows ME、98、95 のホスト コンピュータでは無効になります。

ホスト コンピュータを再起動するには、「ホスト PC の再起動」を選択します。

*Alt+Tab の送信：*このコマンドを選択すると、ALT+TAB のキーストロークの組み合わせをホストに送信し、通常、ホスト コンピュータ画面のアクティブなウィンドウを時計回りに移動します。

*Alt+Shift+Tab の送信：*このコマンドを選択すると、ALT+SHIFT+TAB のキーストロークの組み合わせをホストに送信し、通常、ホスト コンピュータ画面のアクティブなウィンドウを反時計回りに移動します。

*Print Screen の送信：*このコマンドを選択すると、PRINT SCRNM コマンドをホストに送信し、ホスト コンピュータ画面のイメージをホスト コンピュータのクリップボードへコピーします。

*Alt+Print Screen の送信：*このコマンドを選択すると、ALT+PRINT SCRNM コマンドをホストに送信し、ホスト コンピュータ画面のアクティブなウィンドウのイメージをホスト コンピュータのクリップボードへコピーします。

3.7 ゲストのセッション

クリップボード：このコマンドは以下のコマンドに拡張されます。

ホストに送信する：このコマンドを選択するか、[ツールバーとツールボックスのクリップボード ボタン](#)の [クリップボードの送信] ボタンをクリックすると、ゲスト コンピュータのクリップボードの内容をホスト コンピュータのクリップボードへ送信します。

注意：このコマンドは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [クリップボードを転送する] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

ホストから取得する：このコマンドを選択するか、[ツールバーとツールボックスのクリップボード ボタン](#)の [クリップボードの受信] ボタンをクリックすると、ホスト コンピュータのクリップボードの内容をゲスト コンピュータのクリップボードに取得します。

注意：このコマンドは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [クリップボードを転送する] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

画面をクリップボードに保存する：このコマンドを選択するか、[ツールバーとツールボックスのクリップボード ボタン](#)の対応するボタンをクリックすると、ホスト コンピュータの画面イメージをゲスト コンピュータのクリップボードに取得します。

画面をファイルに保存する：このコマンドを選択するか、[ツールバーとツールボックスのクリップボード ボタン](#)の対応するボタンをクリックすると、ホスト コンピュータの画面イメージをキャプチャして、Windows の [名前を付けて保存] ウィンドウを表示します。ウィンドウ内で、ファイル名は <ホスト名>-<日付>-<時刻>.bmp、ディレクトリは [NetOp の設定ファイル](#)の *SnapShot* になっています。保存する前に、このファイル名とディレクトリを変更することができます。

接続のプロパティ：このコマンドを選択するか、[ツールバーとツールボックスのコントロール ボタン](#)の対応するボタンをクリックすると、[接続のプロパティ](#) ウィンドウが限られたオプションで表示されます。

全画面表示：このコマンドを選択するか、[ツールバーとツールボックスのコントロール ボタン](#)の対応するボタンをクリックすると、ホスト コンピュータの画面イメージを全画面表示で表示します。

注意：拡大のホットキーを押すと、ウィンドウ表示と全画面表示を切り替えることができます。拡大のホットキーは、変更していなければ、CTRL+Z です。[リモート コントロール](#) タブを参照してください。

マーカー モード：このコマンドを選択してチェックマークを付けるか、[ツールバーとツールボックスのツール ボタン](#)の対応するボタンをクリックして押された状態にすると、[NetOp マーカーユーティリティ](#)を起動します。チェックマークの付いたコマンドを選択してチェックを外すか、押された状態のボタンをクリックして解放すると、[NetOp マーカー ユーティリティ](#)を停止します。

注意：このコマンドは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [キーボードとマウスを使う] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

ホスト PC の再起動：このコマンドを選択するか、[ツールバーとツールボックスのコントロール ボタン](#)の対応するボタンをクリックすると、ホスト コンピュータの再起動を確認する確認ウィンドウが表示されます。

注意：このコマンドは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [一斉制御 (再起動など)] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

キーボードとマウスのロック：このコマンドを選択してチェックマークを付けるか、[ツールバーとツールボックスのツール ボタン](#)の対応するボタンをクリックして押された状態にすると、ホスト コンピュータのキーボードとマウスを無効にします。チェックマークの付いたコマンドを選択してチェックを外すか、押された状態のボタンをクリックして解放すると、ホスト コンピュータのキーボードとマウスを有効にします。

注意：このコマンドは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [キーボードとマウスのロック] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

空白表示：このコマンドを選択してチェックマークを付けるか、[ツールバーとツールボックスのツール ボタン](#)の対応するボタンをクリックして押された状態にすると、ホスト コンピュータのユーザーに対して、ホスト コンピュータの画面を空白にします。チェックマークの付いたコマンドを選択してチェックを外すか、押された状態のボタンをクリックして解放すると、ホストを空白表示から戻します。

注意：このコマンドは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [\[画面を空白にする\]](#) を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

[\[空白表示\]](#) はほとんどのホスト コンピュータで使用できますが、ディスプレイ アダプタの設計によっては、空白表示ができないものもあります。

音声の転送：このコマンドを選択してチェックマークを付けるか、[ツールバーとツールボックスのツール ボタン](#)の対応するボタンをクリックして押された状態にすると、ホスト コンピュータのアプリケーションのサウンドを転送します。チェックマークの付いたコマンドを選択してチェックを外すか、押された状態のボタンをクリックして解放すると、サウンドを転送しません。

注意：このコマンドは、ゲストまたはホストが別のオーディオ セッションを実行している場合や、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [\[オーディオ チャットをリクエストする\]](#) を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

サウンドの転送が機能するためには、以下の条件を満たす必要があります。

1. ホスト側で、[\[オーディオ/ビデオ チャット\] タブ](#)の [\[オーディオの詳細設定\]](#) ウィンドウにある [\[記録\]](#) セクションの [\[優先デバイス\]](#) ドロップダウン ボックスで、コンピュータのサウンド システムが選択されていること。
2. ホスト コンピュータのサウンド システムがサウンド ミックスをサポートしていること。
3. ホスト側で、ホスト コンピュータのサウンド システムのサウンド ミックス録音モード名が指定されていること。[\[AUDIO\] セクション](#)を参照してください。

リフレッシュ：このコマンドを選択すると、ホストの画面イメージが再描画されます。

3.7.1.2 ツールバーとツールボックス

[リモート コントロール](#) ウィンドウのツールバーまたは全画面表示のツールボックスは、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [\[リモート コントロール\] タブ](#)で無効になっていない限り表示されます。

[リモート コントロール](#) ウィンドウには、以下のボタンがあります。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

3.7 ゲストのセッション

[リモート コントロール](#)の全画面表示のツールボックスにも同じボタンがあります。



ツールボックスは、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの「[リモート コントロール](#)」タブで無効になっていない限り、ロールアップし、タイトル バーだけが表示されます。

ツールバーとツールボックスには、以下のボタン グループがあります。

[セッション ボタン](#)

[\[アクション\] ボタン](#)

[コントロール ボタン](#)

[マルチ ゲスト セッションのボタン](#)

[クリップボード ボタン](#)

[ツール ボタン](#)

3.7.1.2.1 セッション ボタン

以下は [リモート コントロール](#)の[ツールバーとツールボックス](#)のアクション ボタンです。



リモート コントロール：このボタンは、[リモート コントロール](#) セッションの間、押された状態で表示されます。押された状態のボタンをクリックして解放すると、[リモート コントロール](#) セッションを終了します。



ファイル転送：このボタンをクリックして押された状態にすると、[ファイルの転送](#)セッションを開始します。押された状態のボタンをクリックして解放すると、[ファイルの転送](#)セッションを終了します。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が「[ホストのファイルを送信する](#)」と「[ホストからファイルを受信する](#)」の両方を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。



チャット：このボタンをクリックして押された状態にすると、[チャット](#) セッションを開始します。押された状態のボタンをクリックして解放すると、[チャット](#) セッションを終了します。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [チャットをリクエスト] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。



オーディオビデオ チャット：このボタンをクリックして押された状態にすると、[オーディオビデオ チャット](#) セッションを開始します。押された状態のボタンをクリックして解放すると、[オーディオビデオ チャット](#) セッションを終了します。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [オーディオ チャットをリクエストする] と [ビデオをリクエストする] の両方を許可していない場合や、ゲストが別のオーディオまたはビデオ セッションを実行している場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。



リモート管理：このボタンをクリックして押された状態にすると、[リモート管理](#)セッションを開始します。押された状態のボタンをクリックして解放すると、[リモート管理](#)セッションを終了します。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [リモート管理] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

注意：[NetOp ゲスト ウィンドウ](#)からもセッションをコントロールできます。

3.7.1.2.2 [アクション] ボタン

以下は[リモート コントロール](#)の[ツールバー](#)と[ツールボックス](#)にあるアクション ボタンです。



プログラムの実行：このボタンをクリックすると、[プログラムの実行](#)ドロップダウン メニューが表示され、ホスト コンピュータ上でプログラムを実行できます。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [プログラムの実行] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。



一斉制御：このボタンをクリックすると、[コマンドの実行](#)ドロップダウン メニューが表示され、ホスト コンピュータ上でコマンドを実行できます。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [一斉制御 (再起動など)] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。



メッセージ送信：このボタンをクリックすると、[NetOp メッセージ](#) ウィンドウが表示され、NetOp メッセージをホスト コンピュータへ送信できます。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [メッセージの送信] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。



インベントリを取得する：このボタンをクリックすると、ホスト コンピュータから[インベントリの取得](#)処理を実行します。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [インベントリを取得する] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

注意：アクションは、[NetOp ゲスト ウィンドウ](#)からも実行できます。

3.7 ゲストのセッション

3.7.1.2.3 コントロール ボタン

以下は[リモート コントロール](#)の[ツールバーとツールボックス](#)のコントロール ボタンです。



切断：このボタンまたは [NetOp ゲスト ウィンドウ](#)のツールバーの[その他のボタン](#)にある対応するボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、ホストとの接続を切断します。



接続のプロパティ：このボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択すると、[接続のプロパティ](#) ウィンドウが選択したタブとオプションで表示されます。



全画面表示：このウィンドウ ツールバーのボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択すると、ホスト コンピュータの画面イメージを全画面表示で表示します。[リモート コントロール表示](#)を参照してください。



この全画面のツールボックス ボタンをクリックすると、ホスト コンピュータの画面イメージをウィンドウ表示で表示します。[リモート コントロール表示](#)を参照してください。

注意：拡大のホットキーを押すと、ウィンドウ表示と全画面表示を切り替えることができます。拡大のホットキーは、変更していなければ、CTRL+Z です。[\[リモート コントロール\] タブ](#)を参照してください。



Ctrl+Esc の送信：このボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択すると、CTRL+ESC のキーストロークの組み合わせをホストに送信し、Windows ホスト コンピュータでは [\[スタート\] メニュー](#)が表示され、OS/2 ホスト コンピュータでは [\[ウィンドウ リスト\]](#)が表示されます。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [\[キーボードとマウスを使う\]](#)を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

キーボードからこのキーストロークの組み合わせを使用すると、望ましくない結果を引き起こす場合があります。



Ctrl+Alt+Del の送信：このボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択すると、CTRL+ALT+DEL のキーストロークの組み合わせをホストに送信し、Windows 2003/XP/2000 ホスト コンピュータではセキュリティ ダイアログ ボックスが表示され、OS/2 ホスト コンピュータの場合は再起動します。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [\[キーボードとマウスを使う\]](#)を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

キーボードからこのキーストロークの組み合わせを使用すると、望ましくない結果を引き起こす場合があります。

Send Ctrl+Alt+Del は、Windows ME、98、95 のホスト コンピュータでは無効になります。

ホスト コンピュータを再起動するには、[\[ホスト PC の再起動\]](#)をクリックまたは選択します。



ホスト PC の再起動：このボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択すると、ホスト コンピュータの再起動を確認する確認ウィンドウが表示されます。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [\[一斉制御 \(再起動など\)\]](#)を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

3.7.1.2.4 マルチ ゲスト セッションのボタン

以下は[リモート コントロール](#)の[ツールバーとツールボックス](#)のマルチ ゲスト セッション ボタンです。



すべてのボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [\[マルチ ゲスト セッション管理者として行動\]](#) を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。



キーボードとマウスのコントロールの取得： このボタンをクリックすると、キーボードとマウスのコントロールを取得します。

注意： [プログラムのオプション](#) ウィンドウの [\[リモート コントロール\]](#) タブで、[\[コントロールの自動取得\]](#) ボックスにチェックマークが付いている場合、代わりに方法として、[リモート コントロール表示](#)内でクリックするかキーをたたくと、キーボードまたはマウスのコントロールを取得することができます。

このボタンは、ゲストがキーボードとマウスのコントロールを持っている場合は無効になります。



マルチ チャットの開始： このボタンをクリックすると、ホストに接続されているすべてのゲストを含む[チャット](#) セッションを開始します。

注意： このボタンは、1 つのゲストだけがホストに接続しているか、[マルチ チャット セッション](#)が実行中の場合は無効になります。



接続一覧の表示： このボタンをクリックすると、ホスト コンピュータ画面上に [\[接続一覧\]](#) ウィンドウが表示され、接続しているゲストのレコードが表示されます。ホストの[接続一覧](#)を参照してください。



今後の接続のサスペンド： このボタンをクリックして押された状態にすると、これ以上のゲストの接続が拒否されます。押された状態のボタンをクリックして解放すると、これ以上のゲストの接続が許可されます。

注意： このボタンは、ホストが [\[同時に複数のゲスト接続を許可する\]](#) を許可していない場合は無効になります。ホストの[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [\[一般\]](#) タブを参照してください。



他のゲストを切断： このボタンをクリックすると、接続している他のゲストの接続を切断します。

注意： このボタンは、ホストと接続しているゲストが 1 つだけの場合は無効になります。

3.7.1.2.5 クリップボード ボタン

以下は[リモート コントロール](#)の[ツールバーとツールボックス](#)のクリップボード ボタンです。



クリップボードの送信： このボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択すると、ゲスト コンピュータのクリップボードの内容をホスト コンピュータのクリップボードへ送信します。

注意： このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [\[クリップボードを転送する\]](#) を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。



クリップボードの受信： このボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択すると、ホスト コンピュータのクリップボードの内容をゲスト コンピュータのクリップボードに取得します。

注意： このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [\[クリップボードを転送する\]](#) を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

3.7 ゲストのセッション



画面をクリップボードに保存する：このボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択すると、ホスト コンピュータの画面イメージをゲスト コンピュータのクリップボードに取得します。



画面をファイルに保存する：このボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択すると、ホスト コンピュータの画面イメージをキャプチャして、Windows の [名前を付けて保存] ウィンドウを表示します。ウィンドウ内で、ファイル名は <ホスト名>-<日付>-<時刻>.bmp、ディレクトリは [NetOp の設定ファイル](#) の *SnapShot* になっています。保存する前に、このファイル名とディレクトリを変更することができます。

3.7.1.2.6 ツール ボタン

以下は[リモート コントロール](#)の[ツールバーとツールボックス](#)のツール ボタンです。



マーカー モード：このボタンをクリックして押された状態にするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択してチェックマークを付けると、[NetOp マーカー ユーティリティ](#)を起動します。押された状態のボタンをクリックして解放するか、チェックマークの付いたコマンドを選択してチェックを外すと、[NetOp マーカー ユーティリティ](#)を停止します。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [キーボードとマウスを使う] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。



空白表示：このボタンをクリックして押された状態にするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択してチェックマークを付けると、ホスト コンピュータのユーザーに対して、ホスト コンピュータの画面を空白にします。押された状態のボタンをクリックして解放するか、チェックマークの付いたコマンドを選択してチェックを外すと、ホストを空白表示から戻します。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [画面を空白にする] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

[空白表示] はほとんどのホスト コンピュータで使用できますが、ディスプレイ アダプタの設計によっては、空白表示ができないものもあります。



キーボードとマウスのロック：このボタンをクリックして押された状態にするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択してチェックマークを付けると、ホスト コンピュータのキーボードとマウスを無効にします。押された状態のボタンをクリックして解放するか、チェックマークの付いたコマンドを選択してチェックを外すと、ホスト コンピュータのキーボードとマウスを有効にします。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [キーボードとマウスのロック] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。



サウンドの転送：このボタンをクリックして押された状態にするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択してチェックマークを付けると、ホスト コンピュータのアプリケーションのサウンドを転送します。押された状態のボタンをクリックして解放するか、チェックマークの付いたコマンドを選択してチェックを外すと、サウンドを転送しません。

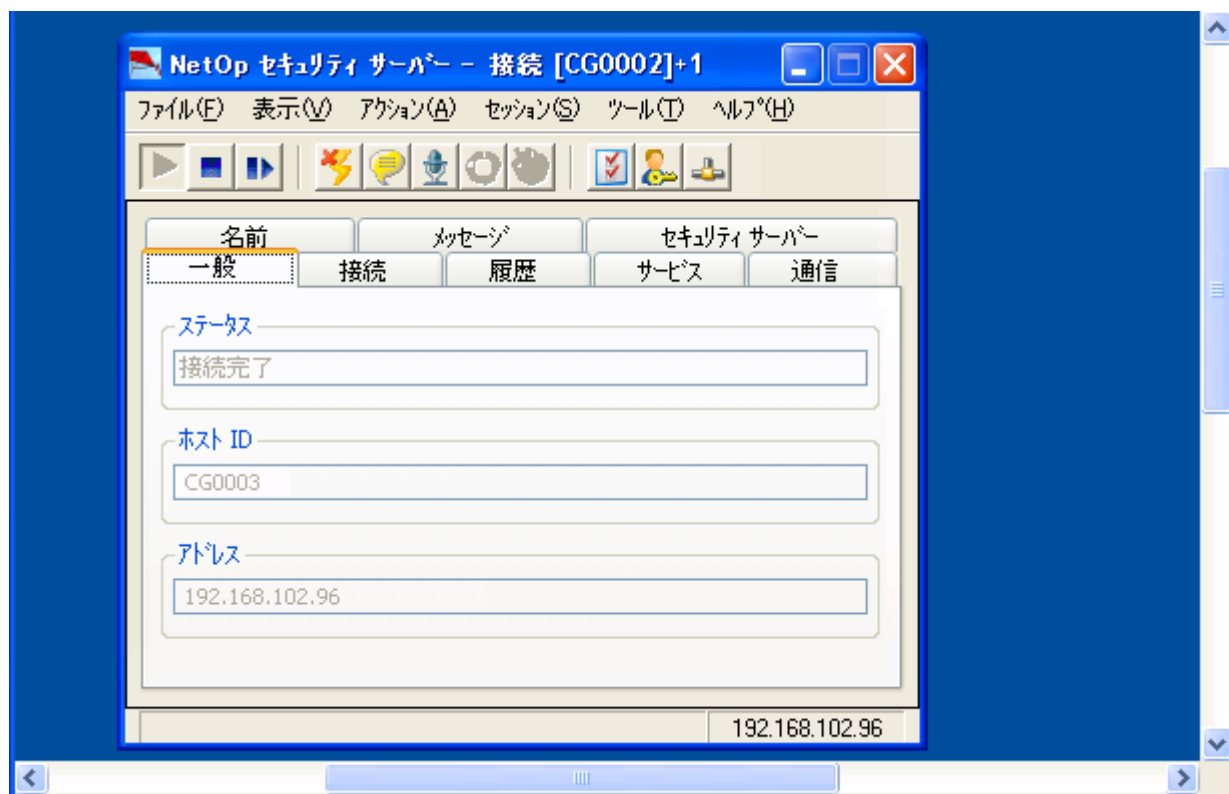
注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が「オーディオ チャットをリクエストする」を許可していない場合や、ゲストが別のオーディオ セッションを実行している場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

サウンドの転送が機能するためには、以下の条件を満たす必要があります。

1. ホスト側で、[オーディオ/ビデオ チャット](#) タブの「オーディオの詳細設定」ウィンドウにある「記録」セクションの「優先デバイス」ドロップダウン ボックスで、コンピュータのサウンド システムが選択されていること。
2. ホスト コンピュータのサウンド システムがサウンド ミックスをサポートしていること。
3. ホスト側で、ホスト コンピュータのサウンド システムのサウンド ミックス録音モード名が指定されていること。[AUDIO](#) セクションを参照してください。

3.7.1.3 リモート コントロール表示

[リモート コントロール](#) ウィンドウ表示パネルは、ホスト コンピュータの画面イメージを表示します。



全画面表示の場合、ホスト コンピュータの画面イメージは、ゲスト コンピュータの画面全体を使って表示されます。[タイトル バー](#)または[コントロール ボタン](#)を参照してください。

[プログラムのオプション](#) ウィンドウの「[リモート コントロール](#)」タブで、一般的な[リモート コントロール](#) セッションのオプションを指定します。

[接続のプロパティ](#) ウィンドウで、各ホスト レコードまたはセッションに対する[リモート コントロール](#) セッションのオプションを指定します。

デフォルトでは、ゲスト ユーザーとホスト ユーザーは、ホスト コンピュータの画面イメージ内で同時に作業できます。

3.7 ゲストのセッション

ゲスト ユーザーは、[接続のプロパティ](#) ウィンドウの **[起動]** タブの [アクション] セクションや、[ツールバーとツールボックスのツール ボタン](#) および [タイトル バー](#) のメニュー コマンドから、ホスト コンピュータの画面イメージへのホスト ユーザーのアクセスをコントロールすることができます。

一方、ホスト ユーザーやシステム管理者は、ホストの [ゲスト アクセス セキュリティ](#) やその他の [ホスト ツール](#) によって、ホスト コンピュータ上でのゲストのアクセスやアクションに制限を付けることができます。[ホストのセキュリティ ガイド](#) を参照してください。

3.7.1.4 ステータス バー

[リモート コントロール](#) ウィンドウのステータス バーは、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの **[リモート コントロール]** タブで無効になっていない限り表示されます。



左側のフィールドには、ゲストとホスト間の通信に適用される暗号化タイプのアイコンが表示されます。[\[圧縮 / 暗号化\]](#) タブを参照してください。

次の記録アイコン付きのフィールドは、セッションが記録中の場合に表示されます。[\[記録\]](#) タブを参照してください。

次の 2 つのフィールドには、ゲストのマウスとキーボードのモードが表示されます。[\[キーボード / マウス\]](#) タブを参照してください。

右側のフィールドには、このリモート コントロール セッションの経過時間が表示されます。

3.7.1.5 マルチ ゲスト セッション

NetOp ホストが、同時に複数のゲスト接続を許可している場合 ([ゲストのセッション](#) を参照)、複数のゲストが接続して、マルチ ゲストの [リモート コントロール](#) セッションを実行できます。

ホストの [ゲスト アクセス セキュリティ](#) は、ゲストに許可するマルチ ゲスト セッションの内容を指定します。[ゲストが行える操作](#) を参照してください。

- [\[マルチ ゲスト セッション参加\]](#) ボックスにチェックマークが付いている場合、ゲストは別のゲストがホストと実行している [リモート コントロール](#) セッションに参加できます (通常、チェック付き)。
- [\[マルチ ゲスト セッション管理者として行動\]](#) ボックスにチェックマークが付いている場合、そのゲストはマルチ ゲスト セッションを管理できます。[マルチ ゲスト セッションのボタン](#) を参照してください (通常、チェック付き)。

[リモート コントロール](#) のマルチ ゲスト セッションでは、一度に 1 つのゲストだけがキーボードとマウスのコントロールを持つことができます。キーボードとマウスのコントロールを持っているゲストは、許可されているすべてのアクションを実行できます。キーボードとマウスのコントロールを持たないゲストは、限られた範囲のアクションしか実行できません。

[\[NetOp ホスト\]](#) ウィンドウの [タイトル バー](#) は通常、キーボードとマウスのコントロールを持つゲストの名前が表示されます。ホストの [プログラムのオプション](#) ウィンドウの [\[接続の通知\]](#) タブを参照してください。接続している他のゲストは、< 接続している他のゲスト数 > で示されます。

3.7.2 ファイルの転送

ホストの [ゲスト アクセス セキュリティ](#) によって許可されている場合 ([ゲストが行える操作](#) を参照)、ゲストはホストとファイル転送セッションを開始して、ゲストとホストのコンピュータ間でファイルを転送できます。

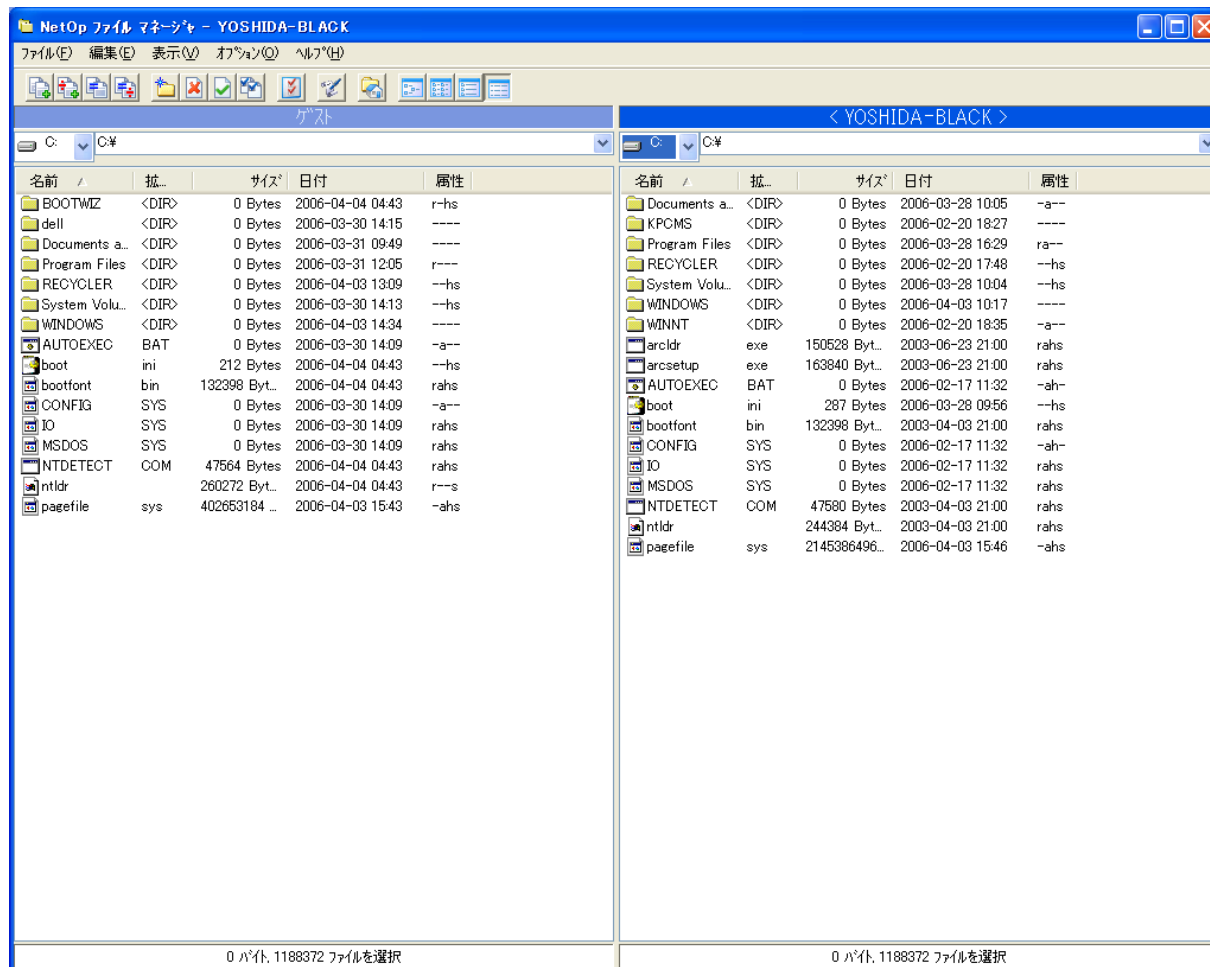
ゲストは、[タブ パネル](#) の [\[簡易接続\]](#) タブ ([その他のセッション](#) を参照) からや、[\[電話帳\]](#) タブや [\[履歴\]](#) タブのレコードから、または [\[ヘルプ呼出\]](#) タブのレコードからのヘルプ呼出に応じて、接続してファイル転送セッションを開始できます。

接続したら、ゲストは [タブ パネル](#) の [\[電話帳\]](#) タブ、[\[簡易接続\]](#) タブ、[\[接続\]](#) タブ、[\[履歴\]](#) タブのレコードからや、[リモート コントロール](#) の [ツールバーとツールボックス](#) の [セッション ボタン](#) にある [\[ファイル転送\]](#) ボタンまたは [リモート管理](#) の [NetOp セッション](#) の [\[ファイル転送\]](#) コマンドから、ファイル転送セッションを開始および終了できます。

注意： ホストが、同時に複数のゲスト接続を許可している場合 ([ゲストのセッション](#) を参照)、ファイル転送セッションの複数のゲストは、別々のセッションを実行します。

次のウィンドウがゲスト コンピュータの画面上に表示されます。

NetOp ファイル マネージャ



ホスト コンピュータの画面上には、ウィンドウは表示されません。

このウィンドウは、主に次のコンポーネントから構成されています。

- ・ [タイトル バー](#)
- ・ [メニュー バー](#)
- ・ [ツールバー](#)
- ・ 左側にゲスト、右側にホストの [レコード パネル](#)が表示されます。ローカル ファイル転送セッションでは、ゲストのレコード パネルが 2 つ表示されます。

3.7.2.1 タイトル バー

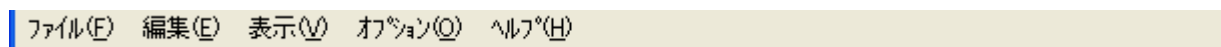


[NetOp ファイル マネージャ](#) ウィンドウのタイトル バーには、ホストに接続する際に使用した名前が表示されます。

ウィンドウのタイトル バー コントロールについては、「[ウィンドウ コントロール](#)」で説明しています。

3.7.2.2 メニュー バー

以下は、ゲストの [NetOp ファイル マネージャ](#) ウィンドウのメニュー バーです。



3.7 ゲストのセッション

次のメニューがあります。

- ・ [\[ファイル\]メニュー](#)
- ・ [\[編集\]メニュー](#)
- ・ [\[表示\]メニュー](#)
- ・ [\[オプション\]メニュー](#)
- ・ [\[ヘルプ\]メニュー](#)

3.7.2.2.1 [ファイル]メニュー

以下は、ゲストの [NetOp ファイル マネージャ](#) ウィンドウの [ファイル]メニューです。

ファイル(F)	編集(E)	表示(V)	オプション(O)	ヘルプ(H)
ファイルのコピー(C)				
ファイルの移動(M)				
ファイルの同期化(S)				
ファイルの複製(L)				

新しいフォルダ(N)				

ドライブ情報(I)				

削除(D)	Delete キー			
名前の変更(R)	F2 キー			
プロパティ(P)	Alt キー+改行キー			

閉じる(Q)	Alt キー+F4 キー			

メニュー コントロールとツールバー コントロールについては、「[メニューとツールバーのコントロール](#)」で説明しています。

ファイルのコピー： [レコード パネル](#)のレコードを選択してから、このコマンドまたは[レコード パネル](#)のコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すか ([\[レイアウト\] タブ](#)を参照)、[ファイル転送ボタン](#)の [ファイルのコピー] ボタンをクリックすると、[コピー] ウィンドウが表示されます。[コピー / 移動 / 同期化 / 複製](#)を参照してください。

注意： 別の方法として、一方の[レコード パネル](#)からレコードをドラッグして、もう一方にドロップする方法もあります。

ファイルの移動： [レコード パネル](#)のレコードを選択してから、このコマンドまたは[レコード パネル](#)のコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すか ([\[レイアウト\] タブ](#)を参照)、[ファイル転送ボタン](#)の [ファイルの移動] ボタンをクリックすると、[移動] ウィンドウが表示されます。[コピー / 移動 / 同期化 / 複製](#)を参照してください。

ファイルの同期化： このコマンドを選択するか、[ファイル転送ボタン](#)の対応するボタンをクリックすると、[同期化] ウィンドウが表示されます。[コピー / 移動 / 同期化 / 複製](#)を参照してください。

注意： デフォルトでは、同期化によってディレクトリやファイルが転送され、一方の[レコード パネル](#)に存在するディレクトリやファイルが、両方の[レコード パネル](#)に存在するようになります。このとき、古いファイルは新しいファイルで置換されます。

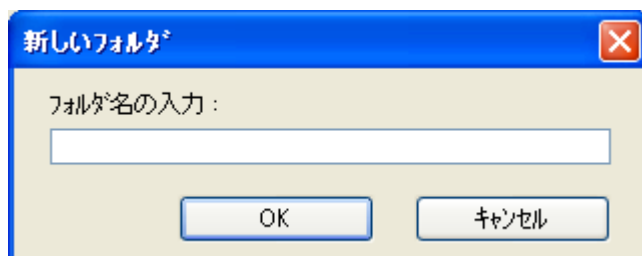
[オプション] ウィンドウの [\[転送\] タブ](#)で、[同期化] の選択項目として [ファイルが存在する場合のみ転送] および [一方向でのみ転送] を適用できます。

ファイルの複製： このコマンドを選択するか、[ファイル転送ボタン](#)の対応するボタンをクリックすると、[複製] ウィンドウが表示されます。[コピー / 移動 / 同期化 / 複製](#)を参照してください。

注意：複製を行うと、選択した**レコード パネル**内にあるすべてのディレクトリとファイルは、選択していない**レコード パネル**に転送され、転送先にある既存のディレクトリとファイルは削除されます。

新しいフォルダ：このコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すと (**レイアウト** タブを参照)、次のウィンドウが表示されます。

新しいフォルダ



フォルダ名の入力：このフィールドで、新しいフォルダの名前を指定します。

OK：このボタンをクリックすると、ウィンドウを閉じ、選択した**レコード パネル**に新しいフォルダが作成されます。

ドライブ情報：このコマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。



ドライブ：このペインには、選択している**レコード パネル**のコンピュータで見つかった各ドライブのアイコンと文字 (ドライブ レター) が表示されます。ドライブを選択すると、**情報** セクションにドライブの情報が表示されます。

情報：このセクションには、**ドライブ** ペインで選択したドライブの情報が表示されます。

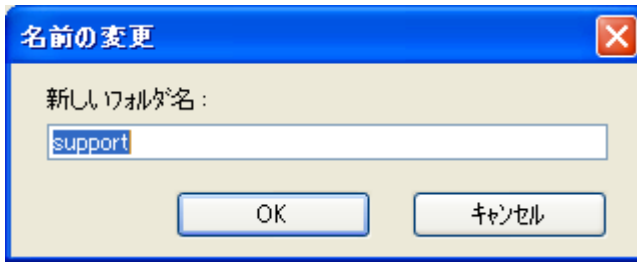
- ・ **タイプ：**ドライブのタイプ
- ・ **ファイル システム：**ドライブのファイル システム
- ・ **使用済み容量：**ドライブで使用済みの容量 (バイト単位)
- ・ **空き容量：**ドライブの空き容量 (バイト単位)
- ・ **容量：**ドライブの容量 (バイト単位)

削除：**レコード パネル**のレコードを選択してから、このコマンドまたは**レコード パネル**のコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すか (**レイアウト** タブを参照)、**その他のボタン**の対応するボタンをクリックすると、選択したレコードを削除します。確認ウィンドウが表示される場合があります。**確認** タブを参照してください。

警告：ディレクトリを削除すると、その中にあるディレクトリとファイルも削除されます。

3.7 ゲストのセッション

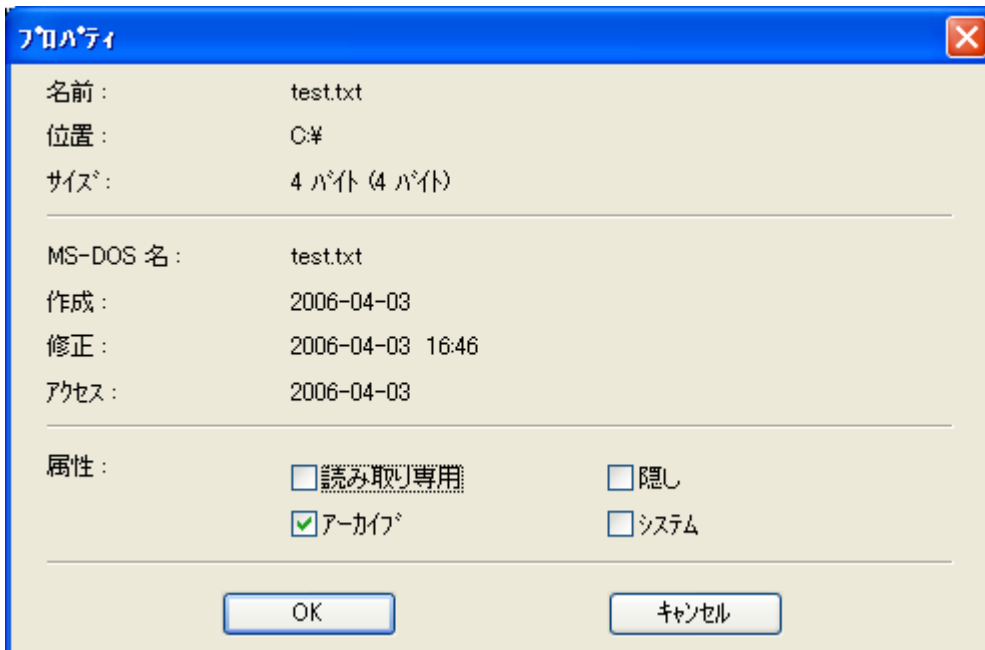
名前の変更：[レコード パネル](#)のレコードを選択してから、このコマンドまたは[レコード パネル](#)のコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すと（[\[レイアウト\] タブ](#)を参照）、次のウィンドウが表示されます。



新しいフォルダ名：このフィールドには現在のレコード名が強調表示されます。この名前を編集してレコード名を変更します。

プロパティ：[レコード パネル](#)のレコードを選択してから、このコマンドまたは[レコード パネル](#)のコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すか（[\[レイアウト\] タブ](#)を参照）、[その他のボタン](#)の対応するボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

プロパティ

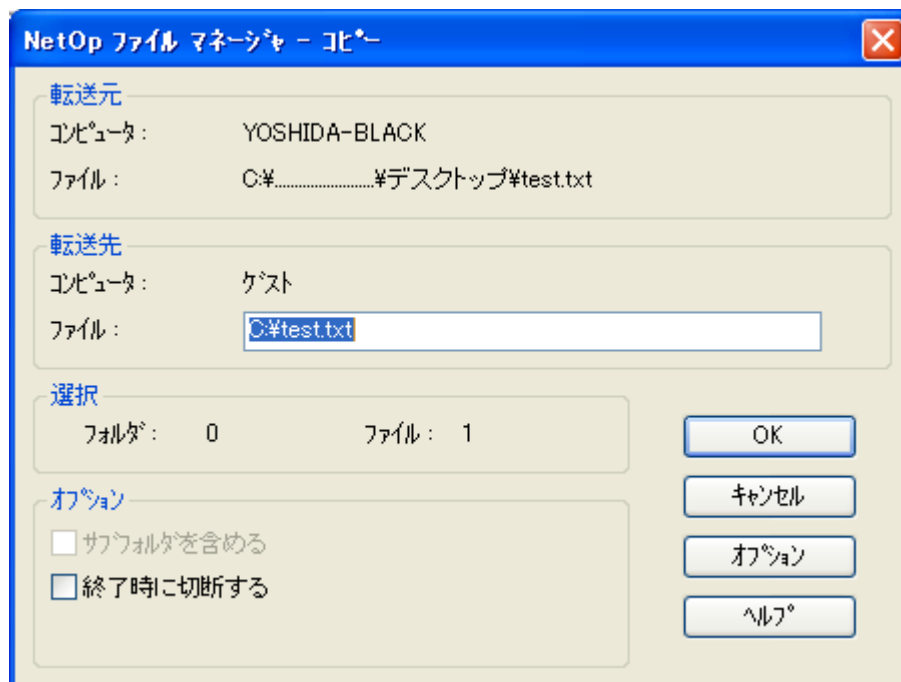


このウィンドウには、選択したディレクトリまたはファイルのプロパティが属性を含めて表示されます。属性は変更できます。

閉じる：このコマンドまたは[ウィンドウ コントロール](#)のメニューの対応するコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すか（[\[レイアウト\] タブ](#)を参照）、[ウィンドウ コントロール](#)の対応するボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)のアイコンをダブルクリックすると、[NetOp ファイル マネージャ](#) ウィンドウを閉じて、[ファイルの転送](#)セッションを終了します。

3.7.2.2.2 コピー / 移動 / 同期化 / 複製

[ファイル] メニューで [ファイルのコピー]、[ファイルの移動]、[ファイルの同期化]、[ファイルの複製] のいずれかを選択するか、[ファイル転送ボタン](#)の対応するボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



注意：[ファイルの転送](#)操作の [ファイルのコピー]、[ファイルの移動]、[ファイルの同期化]、[ファイルの複製] のそれぞれで、このウィンドウのタイトルバーの操作名が変わります。

このウィンドウでは、ファイル転送の実行方法を変更できます。

【転送元】セクション

コンピュータ：転送元コンピュータ名が表示されます。

フォルダ/ファイル：転送元コンピュータの選択したパスが表示されます。ディレクトリを選択した場合は <ディレクトリ パス>*.*、ファイルを選択した場合は <ディレクトリ パス>\\ファイル名 > が表示されます。

【転送先】セクション

コンピュータ：送信先コンピュータ名が表示されます。

ファイル：[]：送信先コンピュータの現在のディレクトリ パスと、ディレクトリを選択した場合は *.*、ファイルを選択した場合は <ファイル名 > が強調表示されます。フィールドの内容を編集して、別の送信先ディレクトリやファイル名を指定することができます。

【選択】セクション

フォルダ：選択しているフォルダの数が表示されます。

ファイル：選択しているファイルの数が表示されます。

【オプション】セクション

サブフォルダを含める：このボックスは、ディレクトリを選択した場合は有効になり、チェックマークが付きます。選択したディレクトリのサブディレクトリとそのファイルの内容も転送する場合は、チェックを付けたままにします。チェックを外すと、選択したディレクトリとそのファイルの内容だけを転送します。

終了時に切断する：このボックスにチェックマークを付けると、このファイル転送が完了したら [ファイルの転送](#) セッションを終了します (デフォルト：チェックなし)。

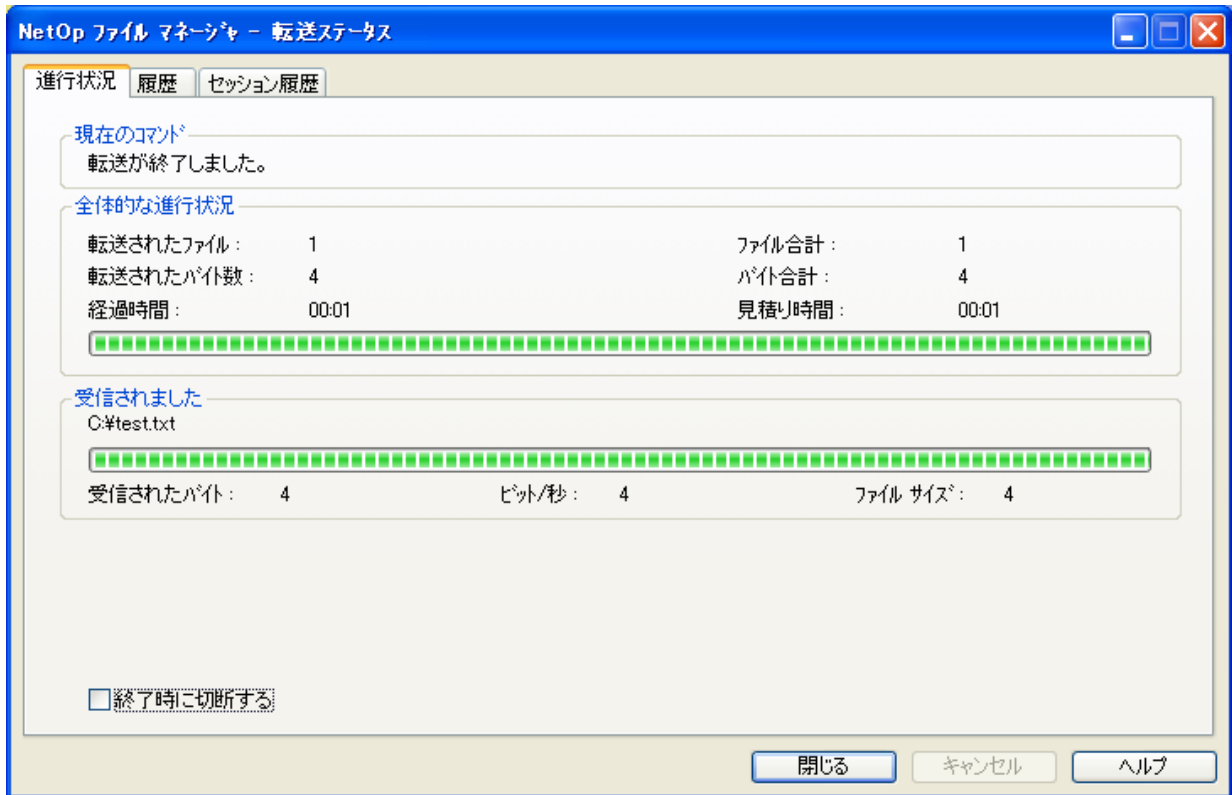
OK：このボタンをクリックすると、ファイル転送を実行して、[転送ステータス](#) ウィンドウを表示します。

3.7 ゲストのセッション

オプション: このボタンをクリックすると、[NetOp ファイル マネージャ - オプション] ウィンドウが表示され、このファイル転送のオプションの選択を変更することができます。[\[オプション\]メニュー](#)を参照してください。

3.7.2.2.3 転送ステータス

このウィンドウは、[コピー/移動/同期化/複製](#)ウィンドウで [OK] をクリックした後や、ドラッグ アンド ドロップによってファイル転送を実行した後に表示されます。



このウィンドウには次のタブがあります。

- ・ [\[進行状況 \] タブ](#)
- ・ [\[履歴 \] タブ](#)
- ・ [\[セッション履歴 \] タブ](#)

閉じる: このボタンは、ファイル転送中は無効になります。クリックすると、ウィンドウが閉じます。

キャンセル: このボタンは、ファイル転送中だけ有効になります。クリックすると、進行中の転送がキャンセルされます。

[進行状況] タブ

このタブには以下のセクションがあります。

現在のコマンド

ファイル転送中には実行されているコマンドが逐次表示され、ファイル転送の完了後は「転送が終了しました」という表示になります。

全体的な進行状況

転送されたファイル: 転送されたファイルの数が表示されます。

ファイル合計: 選択したファイルの数が表示されます。

転送されたバイト数: 転送されたバイト数が表示されます。

バイト合計: 選択したファイルの合計バイト数が表示されます。

経過時間: 転送の経過時間が MM:SS 形式で表示されます。

見積り時間：転送の見積り合計時間が MM:SS 形式で表示されます。
色付きのブロックは、ファイル転送の全体的な進行状況を示します。

送信しています / 送信されました / 受信しています / 受信されました：

ファイル転送中には現在転送されているファイルのパスと名前、ファイル転送の完了後には最後に転送されたファイルのパスと名前が、それぞれ表示されます。

色付きのブロックは、現在または前回のファイル転送の進行状況を示します。

次の値は、進行状況の下に表示されます。

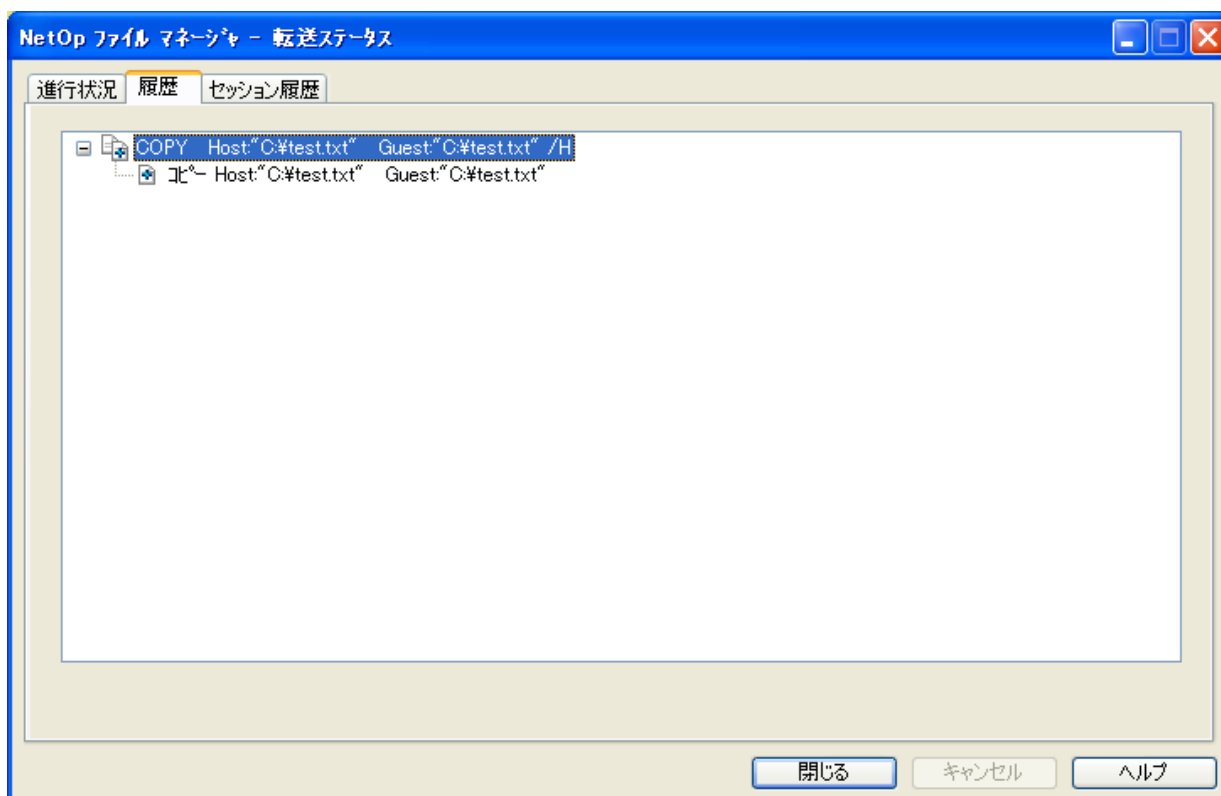
送信された / 受信したバイト：現在または前回のファイル転送で送信 / 受信したバイト数が表示されます。

ビット / 秒：現在または前回のファイル転送の転送速度（バイト / 秒）が表示されます。

バイト合計：現在または前回のファイル転送で転送されたバイト数が表示されます。

終了時に切断する：このボックスをクリックして（デフォルト：チェックなし）、このファイル転送が完了したときに、ファイル転送セッションを終了します。

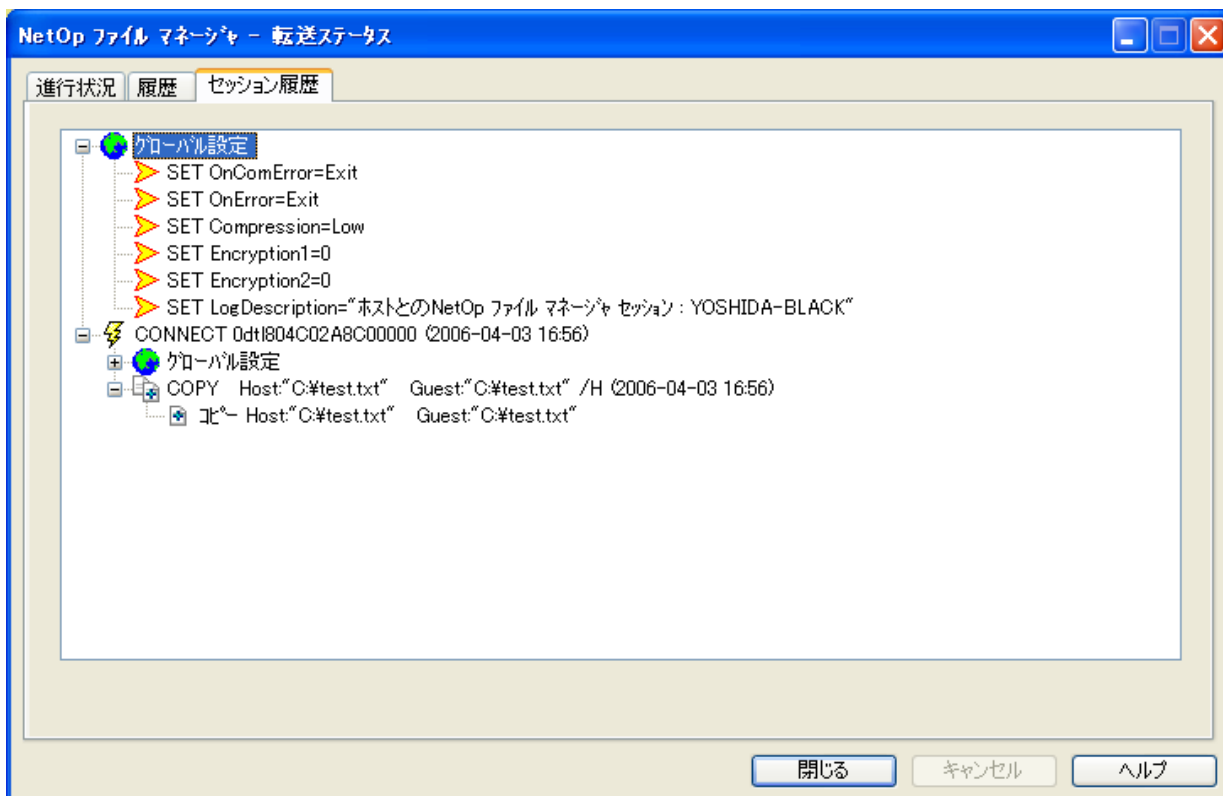
〔履歴〕 タブ



このタブのペインには、[NetOp スクリプト](#) イベントのような、現在または前回のファイル転送のイベントが表示されます。[+] をクリックするとイベント ツリーが展開され、[-] をクリックすると展開されていた部分が収納されます。

3.7 ゲストのセッション

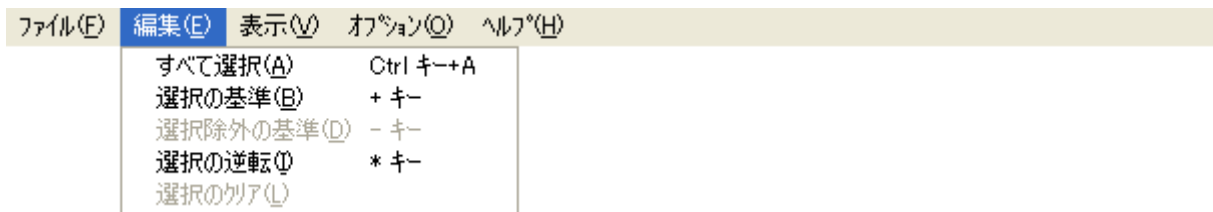
[セッション履歴] タブ



このタブのペインには、[NetOp スクリプト](#) イベントのような、この[ファイルの転送](#)セッションのイベントが表示されます。[+] をクリックするとイベント ツリーが展開され、[-] をクリックすると展開されていた部分が収納されます。

3.7.2.2.4 [編集] メニュー

以下は、ゲストの [NetOp ファイル マネージャ](#) ウィンドウの [編集] メニューです。



メニュー コントロールとツールバー コントロールについては、「[メニューとツールバーのコントロール](#)」で説明しています。

すべて選択：このコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すと（[\[レイアウト\] タブ](#)を参照）、選択した[レコード パネル](#)内にあるすべてのディレクトリとファイルを選択します。

選択の基準：このコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すか（[\[レイアウト\] タブ](#)を参照）、[その他のボタン](#)の [\[ファイルの選択\]](#) ボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

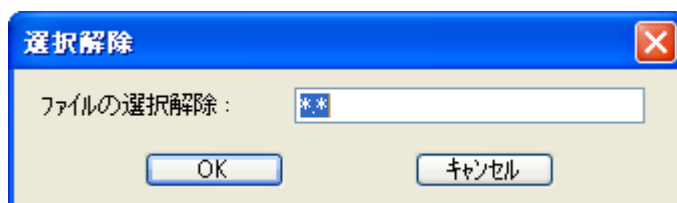
選択



ファイルの選択：[\[\]](#)：このフィールドでは、すべてのディレクトリとファイルを示す *.* を、ファイル名やワイルドカード文字（任意の文字を表す * など）からなるファイル マスクで置き換え、名前に共通文字を持つファイルやディレクトリを選択します。

OK：このボタンをクリックすると、選択している [レコード パネル](#)内で、指定したファイル マスクに合致するディレクトリとファイルが選択されます。

選択除外の基準：このコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すと（[\[レイアウト\] タブ](#)を参照）、次のウィンドウが表示されます。



ファイルの選択解除：[\[\]](#)：このフィールドでは、すべてのディレクトリとファイルを示す *.* を、ファイル名やワイルドカード文字（任意の文字を表す * など）からなるファイル マスクで置き換え、名前に共通文字を持つファイルやディレクトリの選択を解除します。

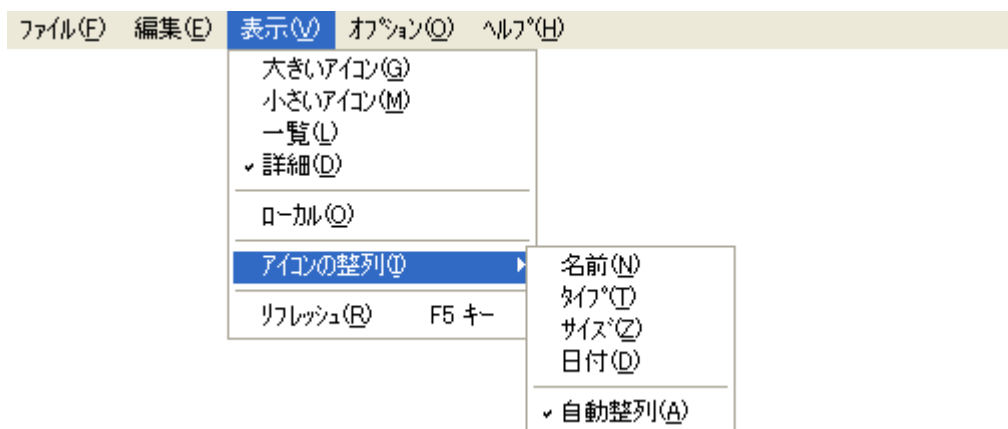
OK：このボタンをクリックすると、選択している [レコード パネル](#)内で、指定したファイル マスクに合致するディレクトリとファイルの選択が解除されます。

選択の逆転：このコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すと（[\[レイアウト\] タブ](#)を参照）、[レコード パネル](#)内で、選択したすべてのディレクトリとファイルは選択が解除され、選択していないすべてのディレクトリとファイルは選択されます。

選択のクリア：このコマンドを選択すると、選択している [レコード パネル](#)内のすべてのディレクトリとファイルの選択が解除されます。

3.7.2.2.5 [表示] メニュー

以下は、ゲストの [NetOp ファイル マネージャ](#) ウィンドウの [\[表示\]](#) メニューです。



3.7 ゲストのセッション

メニュー コントロールとツールバー コントロールについては、「[メニューとツールバーのコントロール](#)」で説明しています。

大きいアイコン: このコマンドを選択してチェックマークを付けるか、[その他のボタン](#)の対応するボタンをクリックして押された状態にすると、レコードが横に並んだ大きいアイコンとして表示されます。

小さいアイコン: このコマンドを選択してチェックマークを付けるか、[その他のボタン](#)の対応するボタンをクリックして押された状態にすると、レコードが横に並んだ小さいアイコンとして表示されます。

一覧: このコマンドを選択してチェックマークを付けるか、[その他のボタン](#)の対応するボタンをクリックして押された状態にすると、レコードが縦に並んだ小さいアイコンとして一覧表示されます。

詳細: このコマンドを選択してチェックマークを付けるか、[その他のボタン](#)の対応するボタンをクリックして押された状態にすると、レコードが表形式で一覧表示され、各列にレコードの詳細情報が表示されます (この状態がデフォルトです)。

ローカル: このコマンドを選択してチェックマークを付けたり外したりするか、[その他のボタン](#)の「ローカル」ボタンをクリックして押された状態 / 解放された状態を切り替えると、ファイル転送がリモートからローカルに、またはその逆に切り替わります (デフォルト: リモートファイル転送を表すチェックなし / 解放状態)。

アイコンの整列: このコマンドは以下のコマンドに拡張されます。

名前: このコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すと ([「レイアウト」タブ](#)を参照)、ファイル レコードが [「詳細」](#) ビューを選択した場合と同じように、ファイル名を基準として昇順 / 降順にソートされます。

タイプ: このコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すと ([「レイアウト」タブ](#)を参照)、ファイル レコードが [「詳細」](#) ビューを選択した場合と同じように、拡張子を基準として昇順 / 降順にソートされます。

サイズ: このコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すと ([「レイアウト」タブ](#)を参照)、ファイル レコードが [「詳細」](#) ビューを選択した場合と同じように、サイズを基準として昇順 / 降順にソートされます。

日付: このコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すと ([「レイアウト」タブ](#)を参照)、ファイル レコードが [「詳細」](#) ビューを選択した場合と同じように、日付を基準として昇順 / 降順にソートされます。

自動整列: このコマンドを選択してチェックマークを付けたり外したりすると、変更後に現在の選択内容でファイル レコードを自動的にソートする機能を無効 / 有効にできます (デフォルト: [「自動整列」](#) が有効であることを表すチェック付き)。

注意: ディレクトリ レコードは、常にアルファベットの昇順で、ファイル レコードの上に表示されます。

[「詳細」](#) ビューで列のヘッダをクリックすると、レコードを昇順または降順で並べ替えることができます。

リフレッシュ: このコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すと ([「レイアウト」タブ](#)を参照)、コンピュータから新しい情報を取得して、[レコード パネル](#)の内容を更新します。

3.7.2.2.6 [オプション] メニュー

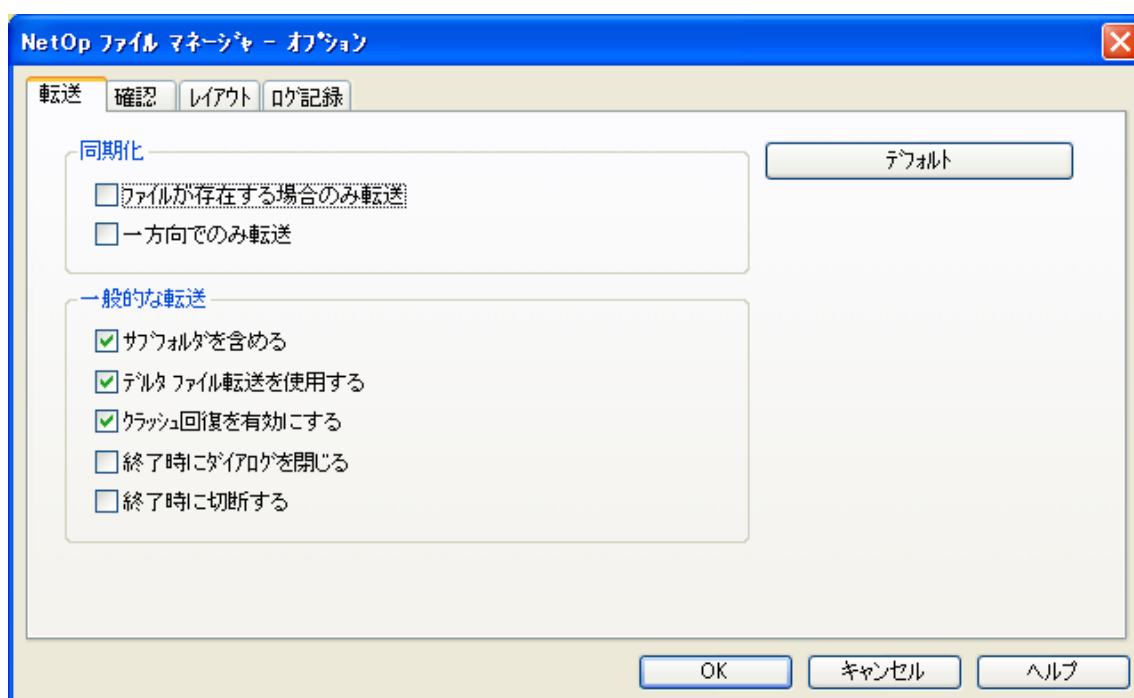
以下は、ゲストの [NetOp ファイル マネージャ](#) ウィンドウの [オプション] メニューです。



メニュー コントロールとツールバー コントロールについては、「[メニューとツールバーのコントロール](#)」で説明しています。

オプション: このコマンドを選択するか、[その他のボタン](#)の [オプション] ボタンをクリックするか、[コピー/移動/同期化/複製](#)ウィンドウで [オプション] ボタンをクリックするか、[NetOp ゲスト ウィンドウの \[ツール\] メニュー](#)で [ファイル マネージャのオプション] コマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。

[オプション] セクション

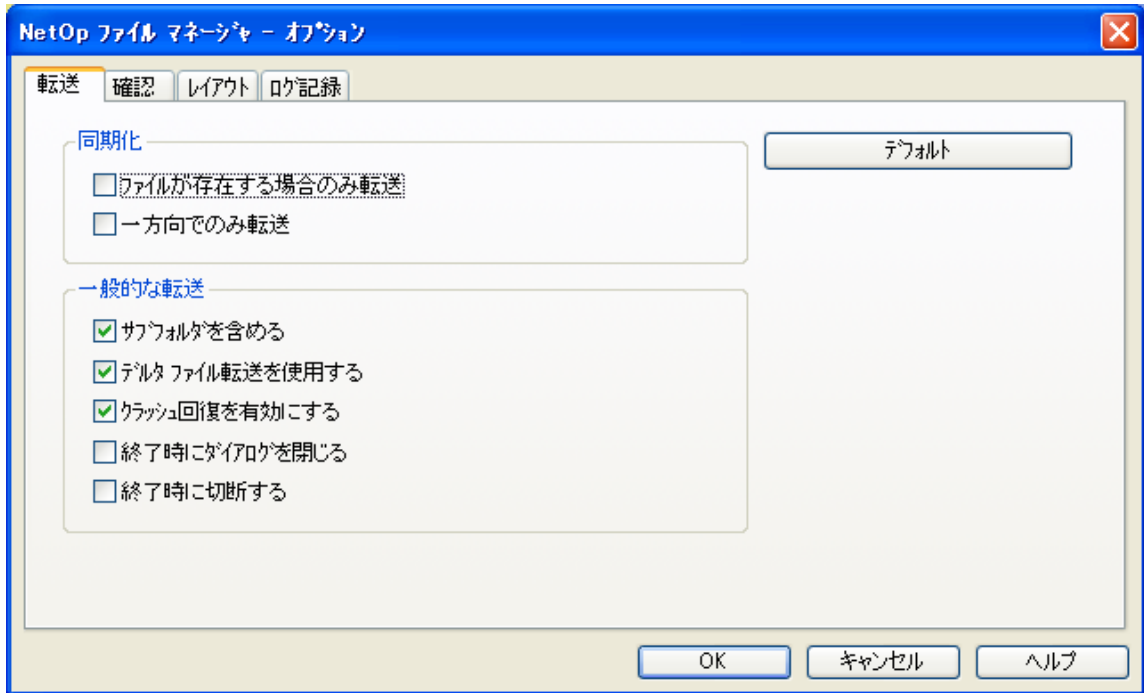


このウィンドウには次のタブがあります。

- ・ [\[転送\] タブ](#)
- ・ [\[確認\] タブ](#)
- ・ [\[レイアウト\] タブ](#)
- ・ [\[ログ記録\] タブ](#)

3.7 ゲストのセッション

[転送] タブ



このタブには以下のセクションがあります。

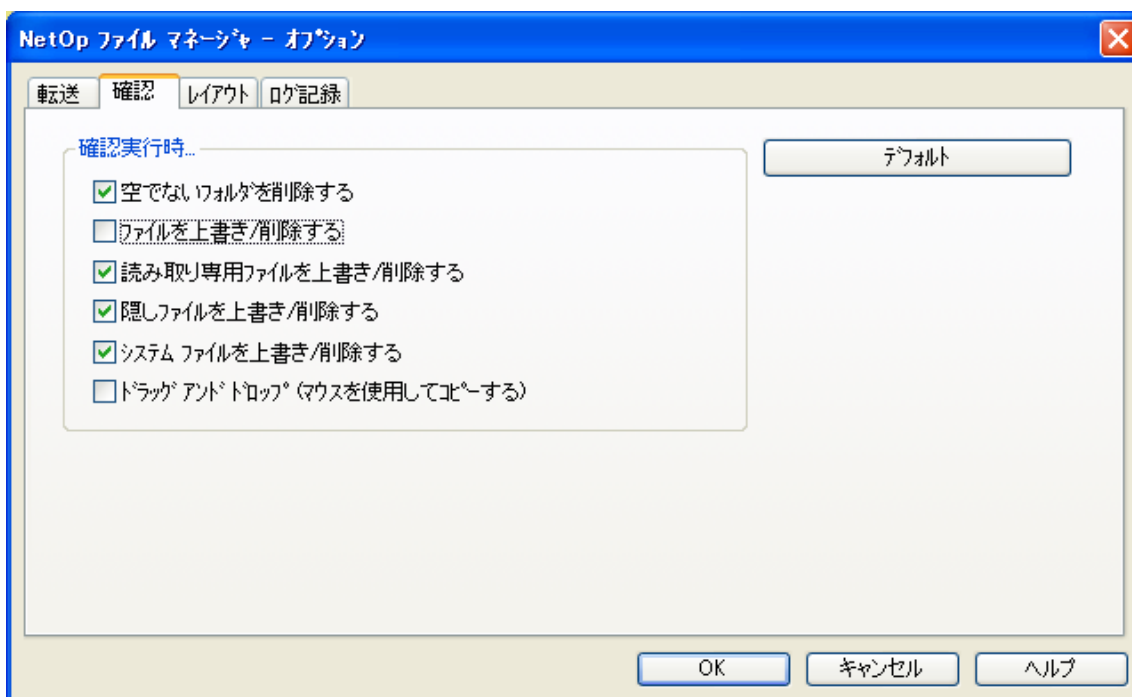
同期化

- ファイルが存在する場合のみ転送**：このボックスにチェックマークを付けると、両方の [レコード パネル](#) の同じ場所にファイルが存在する場合のみ、ファイルを同期化します (デフォルト：チェックなし)。
- 一方向でのみ転送**：このボックスにチェックマークを付けると、選択した [レコード パネル](#) から選択していない [レコード パネル](#) へのみファイルを転送します (デフォルト：チェックなし)。

一般的な転送

- サブフォルダを含める**：このボックスにチェックマークを付けると、選択したディレクトリのサブフォルダの内容もファイル転送に含めます (デフォルト：チェック付き)。
 - デルタ ファイル転送を使用する**：このボックスにチェックマークを付けると、転送の帯域幅を節約するために、転送元の各ファイルと送信先の対応するファイルが比較され、双方のファイルの差分のみが転送されます (デフォルト：チェック付き)。
 - クラッシュ回復を有効にする**：このボックスにチェックマークを付けると、転送中にコンピュータまたはネットワークがクラッシュした場合に、後から回復できるような方法で、ファイルが転送されます (デフォルト：チェック付き)。
 - 終了時にダイアログを閉じる**：このボックスにチェックマークを付けると、ファイル転送が完了したら、[転送ステータス](#) ウィンドウを閉じます (デフォルト：チェックなし)。
 - 終了時に切断する**：このボックスにチェックマークを付けると、ファイル転送が完了したら、[ファイルの転送](#) セッションを終了します (デフォルト：チェックなし)。
- デフォルト：このボタンをクリックすると、タブのデフォルト設定に戻ります。

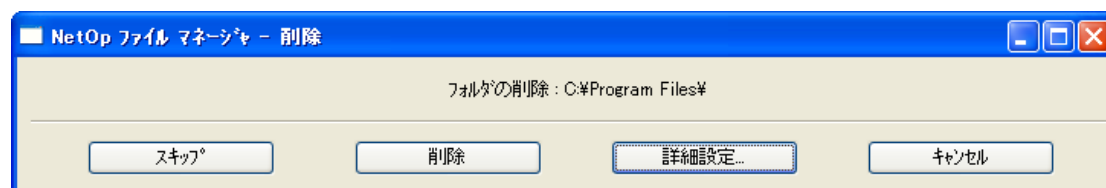
[確認] タブ



このタブには以下のセクションがあります。

確認実行時...

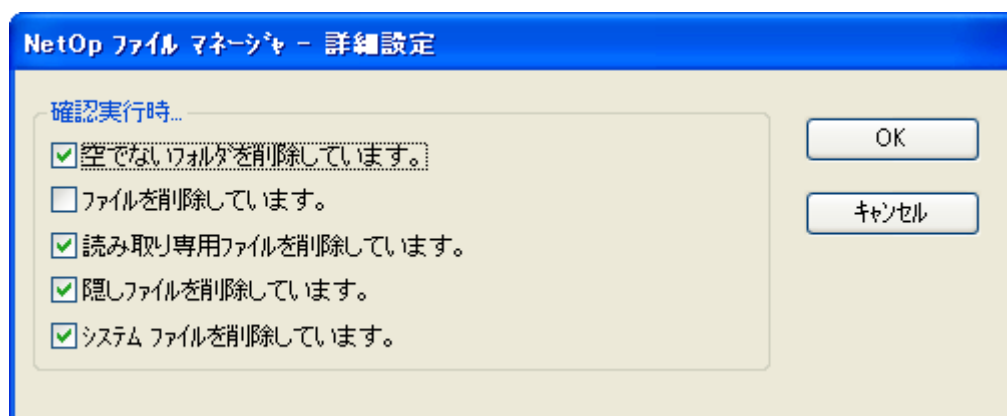
空でないフォルダを削除する : このボックスにチェックを付けたままにすると、ディレクトリやファイルを含むディレクトリを削除しようとした場合に、次の確認ウィンドウが表示されます (デフォルト : チェック付き)。



スキップ : このボタンをクリックすると、指定したディレクトリの削除をスキップできます。

削除 : このボタンをクリックすると、指定したディレクトリが削除されます。

詳細設定... : このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

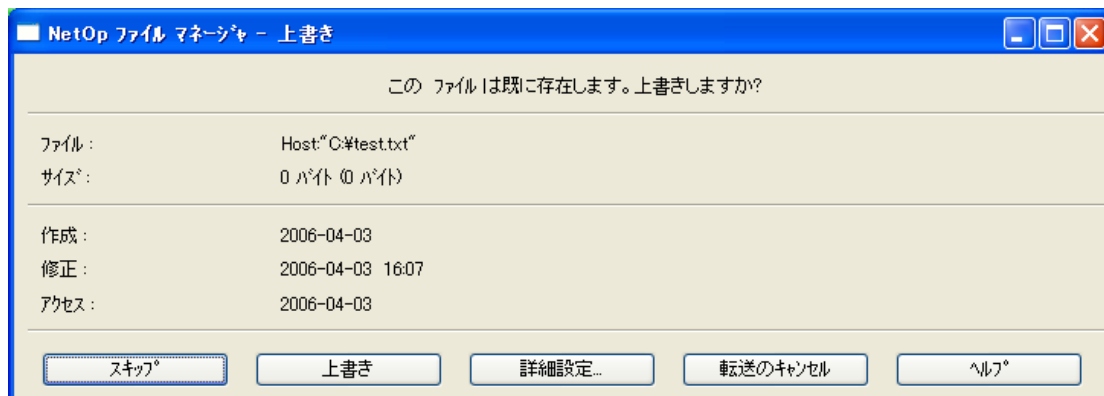


3.7 ゲストのセッション

このウィンドウには、**[確認]** タブの **[削除]** 確認オプションの選択内容が表示され、このファイル転送を処理する前に、選択内容を変更することができます。

キャンセル: このボタンをクリックすると、ファイル転送が現在の段階でキャンセルされます。実行済みのファイル転送アクションは元に戻せません。

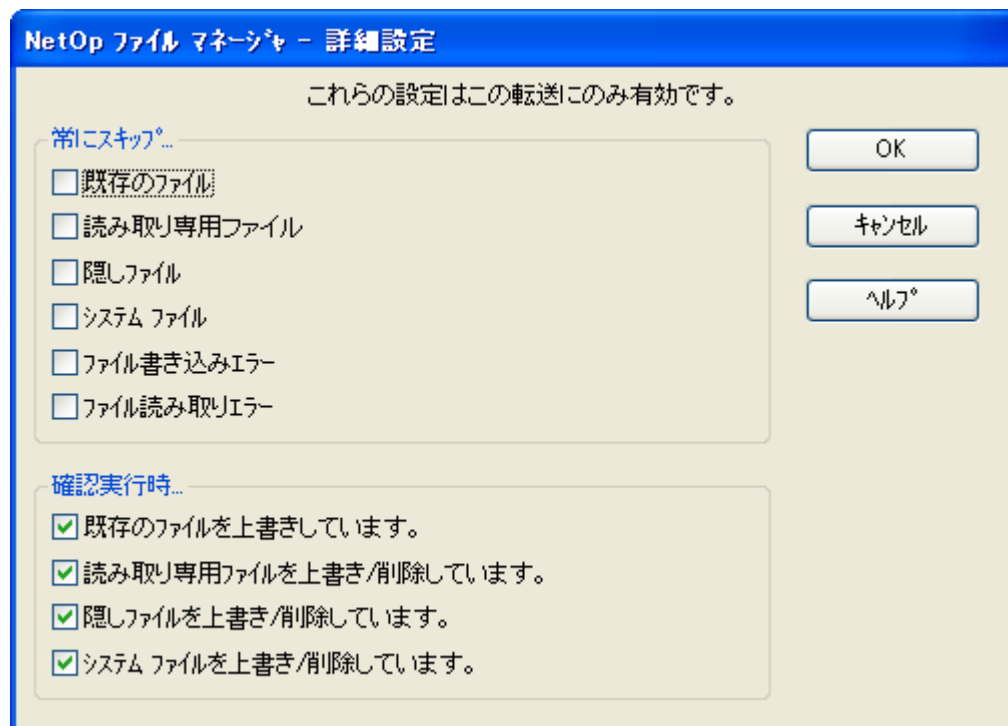
- ファイルを上書き / 削除する:** このボックスにチェックマークを付けると、ファイルを上書き / 削除しようとした場合に、次のウィンドウまたは前述した **[削除]** ウィンドウが表示されます (デフォルト: オフ) :



スキップ: このボタンをクリックすると、指定したファイルの上書きがスキップされます。

上書き: このボタンをクリックすると、指定したファイルが上書きされます。

詳細設定... : このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



常にスキップ... :

このセクションのボックスにチェックマークを付けると、チェックマークを付けたプロパティを持つファイルに対して、このファイル転送で選択したアクションがスキップされます (デフォルト: : チェックなし)

- 既存のファイル
- 読み取り専用ファイル
- 隠しファイル
- システム ファイル
- ファイル書き込みエラー
- ファイル読み取りエラー

確認実行時... :

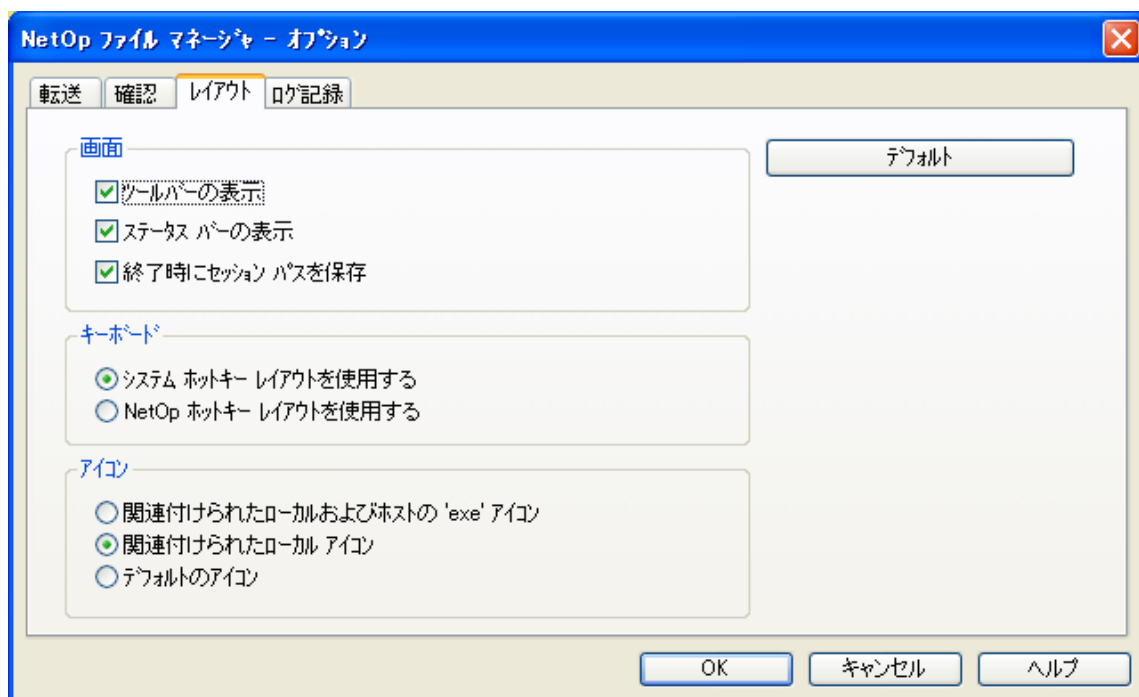
このセクションには、[\[確認\]](#) タブの [\[上書き/削除\]](#) 確認オプションの選択内容が表示され、このファイル転送を処理する前に、選択内容を変更することができます。

転送のキャンセル: このボタンをクリックすると、ファイル転送が現在の段階でキャンセルされます。実行済みのファイル転送アクションは元に戻せません。

- 読み取り専用ファイルを上書き/削除する:** このボックスにチェックマークを付けると、読み取り専用ファイルを上書き/削除する場合に、前述した関連する確認ウィンドウが表示されます (デフォルト: チェック付き)。
- 隠しファイルを上書き/削除する:** このボックスにチェックマークを付けると、隠しファイルを上書き/削除する場合に、前述した関連する確認ウィンドウが表示されます (デフォルト: チェック付き)。
- システム ファイルを上書き/削除する:** このボックスにチェックマークを付けると、システム ファイルを上書き/削除する場合に、前述した関連する確認ウィンドウが表示されます (デフォルト: チェック付き)。
- ドラッグ アンド ドロップ (マウスを使用してコピーする):** このボックスにチェックマークを付けると、ドラッグ アンド ドロップによってファイルを転送する場合に、前述した関連する確認ウィンドウが表示されます (デフォルト: チェックなし)。
デフォルト: このボタンをクリックすると、タブのデフォルト設定に戻ります。

3.7 ゲストのセッション

[レイアウト] タブ



このタブには以下のセクションがあります。

画面

- ツールバーの表示: このボックスにチェックを付けたままにすると、[NetOp ファイル マネージャ](#) ウィンドウの [ツールバー](#) が表示されます (デフォルト: チェック付き)。
- ステータス バーの表示: このボックスにチェックを付けたままにすると、2 つの [レコード パネル](#) の下部にステータス バーが表示されます (デフォルト: チェック付き)。
- 終了時にセッション パスを保存: このボックスにチェックを付けたままにすると、同じホストとの次回の [ファイルの転送](#) セッションの開始時に、同じ内容の [レコード パネル](#) が表示されます (デフォルト: チェック付き)。ボックスのチェックを外すと、[ファイルの転送](#) セッションの開始時に、常にシステム ドライブの内容が表示されます。

キーボード

次のどちらかのオプションを選択します。

◎ システム ホットキー レイアウトを使用する：このオプションを選択すると、オペレーティング システムのホットキー レイアウトが使用できます。以下の表を参照してください。デフォルトでは、このオプションが選択されています。

○ NetOp ホットキー レイアウトを使用する：このオプションを選択すると、NetOp のホットキー レイアウトが使用できます。以下の表を参照してください。

機能	Windows のホットキー	NetOp ホットキー
ファイルのコピー		F3
ファイルの移動		F6
新しいフォルダ		F7
削除	削除	F8
名前の変更	F2	
閉じる	ALT+F4	F10
プロパティ	ALT+ENTER	SHIFT+F1
すべて選択	CTRL+A	
選択の基準		+
選択除外の基準		-
選択の逆転		*
名前順にアイコンを整列		CTRL+F3
種類別にアイコンを整列		CTRL+F4
サイズ順にアイコンを整列		CTRL+F6
日付順にアイコンを整列		CTRL+F5
更新	F5	CTRL+R
左側のレコード パネルを選択		ALT+F1
右側のレコード パネルを選択		ALT+F2
ヘルプ	F1	F1

注意： ホットキーは、メニュー コマンドの横に表示されます。

アイコン

次のどちらかのオプションを選択します。

○ 関連付けられたローカルおよびホストの 'exe' アイコン：ゲストのファイルの関連付けに基づいて、[レコード パネル](#)のファイルのアイコンが表示されます。ただし、ホストの exe ファイルのアイコンは、ホストのファイルの関連付けに基づいて表示されます。

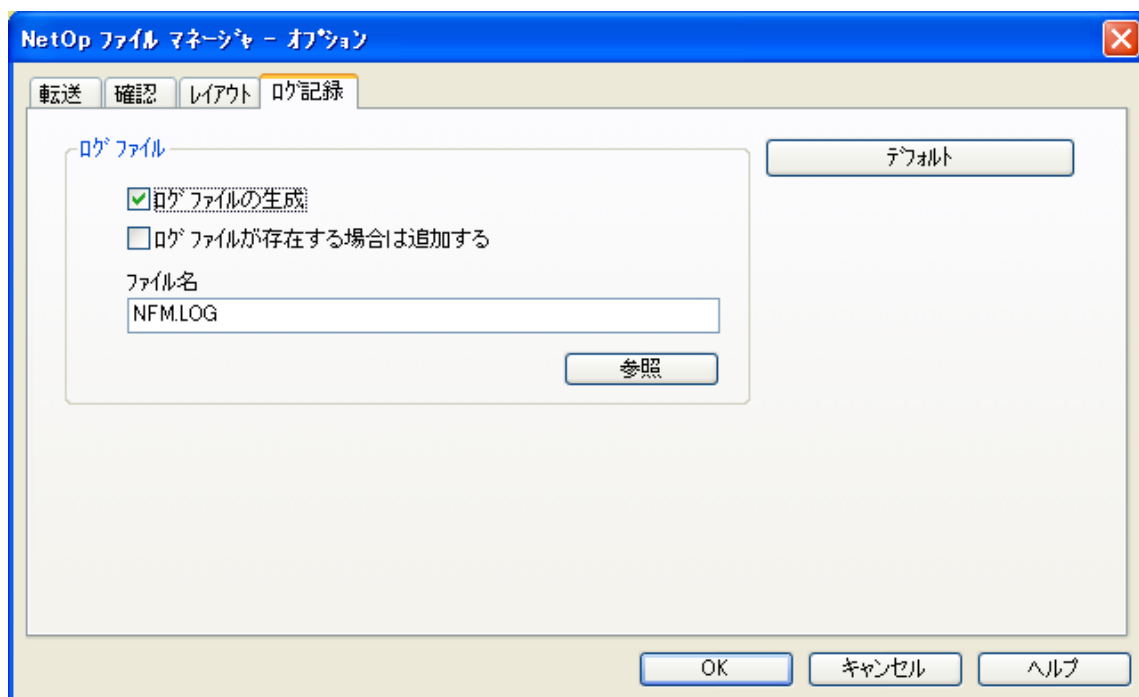
◎ 関連付けられたローカル アイコン：ゲストのファイルの関連付けに基づいて、[レコード パネル](#)のファイルのアイコンが表示されます（デフォルト設定。転送帯域幅が節約されます）。

○ デフォルトのアイコン：[レコード パネル](#)のすべてのファイルを、共通のデフォルト アイコンで表示します（転送帯域幅とプロセッサ時間が節約されます）。

デフォルト：このボタンをクリックすると、タブのデフォルト設定に戻ります。

3.7 ゲストのセッション

[ログ記録] タブ



このタブには以下のセクションがあります。

ログ ファイル

ログ ファイルの生成 : このボックスにチェックを付けたままにすると、[ファイルの転送](#)セッションの終了時に、ファイル転送のログ ファイルを作成します (デフォルト : チェック付き)。

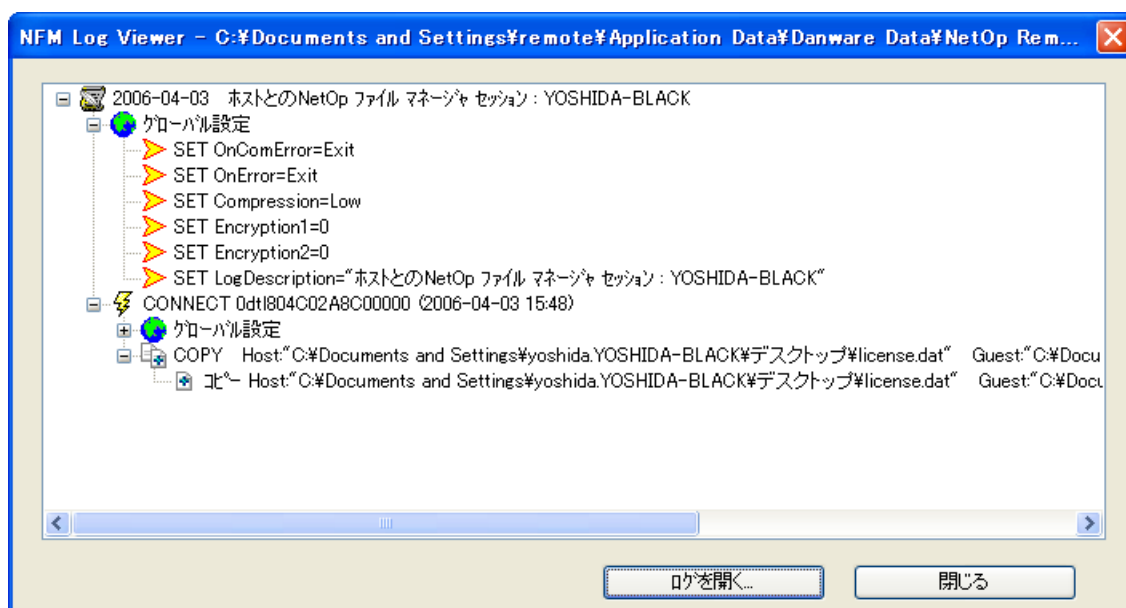
ログ ファイルが存在する場合は追加する : このボックスにチェックマークを付けると、既存のログ ファイルに新しいログ エントリを追加します (デフォルト : チェックなし)。チェックを付けない場合、既存のログ ファイルが上書きされます。

ファイル名 : このフィールドにはログファイルの (パスと) 名前を指定します。デフォルトでは、名前は *NFM.LOG* で、[NetOp の設定ファイル](#)のディレクトリ (通常、*C:\Documents and Settings\ユーザー名\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Guest*) にあります。

参照 : このボタンをクリックすると、Windows の [名前を付けて保存] ウィンドウが表示され、ログ ファイルのパスと名前を指定すると、フィールドに入力されます。

デフォルト : このボタンをクリックすると、タブのデフォルト設定に戻ります。

ファイル マネージャ ログ ファイルの表示：このコマンドを選択すると、Windows の [開く] ウィンドウが表示され、ファイル タイプ：ログ ファイル (*.log) が指定されています。ここから、NetOp [ファイルの転送](#)のログを開くと、その内容が次のウィンドウに表示されます。



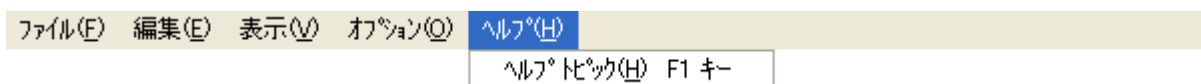
このウィンドウのペインには、[NetOp スクリプト](#) イベントのように、ログに記録されたイベントが表示されます。[+] をクリックするとイベント ツリーが展開され、[-] をクリックすると展開されていた部分が収納されます。

ログを開く... : このボタンをクリックすると、Windows の [開く] ウィンドウが表示され、ファイル タイプ：ログ ファイル (*.log) が指定されています。ここから、ウィンドウに別のログ ファイルを開くことができます。

スクリプト : このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の [スクリプト] ボタンをクリックすると、[スクリプト](#) ウィンドウが表示され、[NetOp スクリプト](#)を作成したり、開いたりすることができます。

3.7.2.2.7 [ヘルプ] メニュー

以下は、ゲストの [NetOp ファイル マネージャ](#) ウィンドウの [ヘルプ] メニューです。



ヘルプ トピック F1 : このコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すと、NetOp ゲスト ヘルプ システムが開き、[ファイル転送](#)のトピックが表示されます。ヘルプ ウィンドウの左側のペインには、目次がツリー形式で表示されます。

3.7.2.3 ツールバー

[NetOp ファイル マネージャ](#) ウィンドウのツールバーは、[オプション] ウィンドウの [\[レイアウト\]](#) タブで無効になっていない限り表示されます。



これには、以下のグループからなるボタン群があります。

- ・ [ファイル転送ボタン](#)
- ・ [その他のボタン](#)

3.7 ゲストのセッション

3.7.2.3.1 ファイル転送ボタン

この [NetOp ファイル マネージャ](#) ウィンドウの [ツールバー](#) のボタン グループ :



次のボタンがあります。



ファイルのコピー : [レコード パネル](#) のレコードを選択してから、このボタンをクリックするか、[\[ファイル\] メニュー](#) または [レコード パネル](#) のコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すと ([\[レイアウト\] タブ](#) を参照)、[\[コピー\]](#) ウィンドウが表示されます。[コピー / 移動 / 同期化 / 複製](#) を参照してください。

注意 : 別の方法として、一方の [レコード パネル](#) からレコードをドラッグして、もう一方にドロップする方法もあります。



ファイルの移動 : [レコード パネル](#) のレコードを選択してから、このボタンをクリックするか、[\[ファイル\] メニュー](#) または [レコード パネル](#) のコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すと ([\[レイアウト\] タブ](#) を参照)、[\[移動\]](#) ウィンドウが表示されます。[コピー / 移動 / 同期化 / 複製](#) を参照してください。



ファイルの同期化 : このボタンをクリックするか、[\[ファイル\] メニュー](#) の対応するコマンドを選択すると、[\[同期化\]](#) ウィンドウが表示されます。[コピー / 移動 / 同期化 / 複製](#) を参照してください。

注意 : デフォルトでは、同期化によってディレクトリやファイルが転送され、一方の [レコード パネル](#) に存在するディレクトリやファイルが、両方の [レコード パネル](#) に存在するようになります。このとき、古いファイルは新しいファイルで置換されます。

[\[オプション\]](#) ウィンドウの [\[転送\] タブ](#) で、[\[同期化\]](#) の選択項目として [\[ファイルが存在する場合のみ転送\]](#) および [\[一方向でのみ転送\]](#) を適用できます。



ファイルの複製 : このボタンをクリックするか、[\[ファイル\] メニュー](#) の対応するコマンドを選択すると、[\[複製\]](#) ウィンドウが表示されます。[コピー / 移動 / 同期化 / 複製](#) を参照してください。

注意 : 複製を行うと、選択した [レコード パネル](#) 内にあるすべてのディレクトリとファイルは、選択していない [レコード パネル](#) に転送され、転送先にある既存のディレクトリとファイルは削除されます。

3.7.2.3.2 その他のボタン

この [NetOp ファイル マネージャ](#) ウィンドウの [ツールバー](#) のボタン グループ :



次のボタンがあります。











新しいフォルダ : このボタンをクリックするか、[\[ファイル\] メニュー](#) の対応するコマンドを選択すると、[新しいフォルダ](#) ウィンドウが表示されます。



削除 : [レコード パネル](#) のレコードを選択してから、このボタンをクリックするか、[\[ファイル\] メニュー](#) または [レコード パネル](#) のコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すと ([\[レイアウト\] タブ](#) を参照)、選択したレコードを削除します。確認ウィンドウが表示される場合があります。[\[確認\] タブ](#) を参照してください。

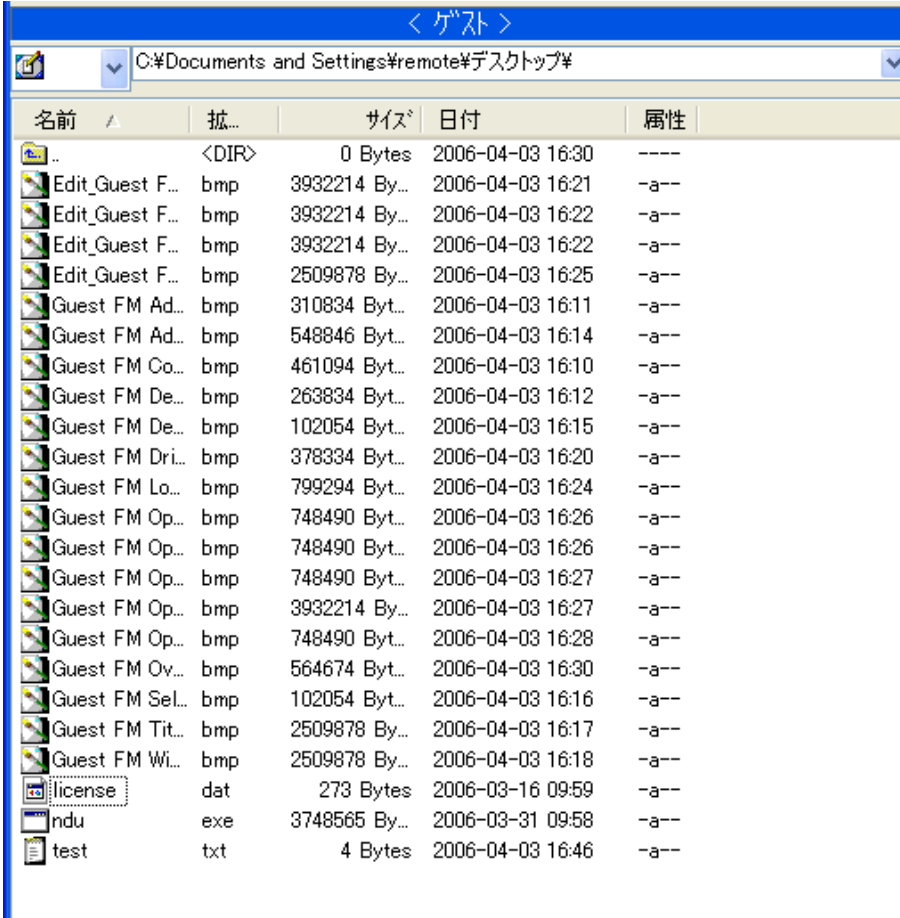


プロパティ : [レコード パネル](#) のレコードを選択してから、このボタンをクリックするか、[\[ファイル\] メニュー](#) または [レコード パネル](#) のコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択するか、対応するキーボード ショートカットを押すと ([\[レイアウト\] タブ](#) を参照)、[プロパティ](#) ウィンドウが表示されます。

-  **選択の基準**：このボタンをクリックするか、[\[編集\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択するか、対応するキーボードショートカットを押すと ([\[レイアウト\]タブ](#)を参照)、[選択](#)ウィンドウが表示されます。
-  **オプション**：このボタンをクリックするか、対応する[\[オプション\]メニュー](#)のコマンドを選択すると、[\[オプション\]セクション](#)ウィンドウが表示されます。
-  **スクリプト**：このボタンをクリックするか、[\[オプション\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、[スクリプト](#)ウィンドウが表示され、[NetOp スクリプト](#)を開いたり、作成したりできます。
-  **ローカル**：ボタンをクリックして押された状態 / 解放された状態を切り替えたり、[\[表示\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択してチェックマークを付けたり外したりすると、ファイル転送がリモートからローカルに、またはその逆に切り替わります (デフォルト：リモートファイル転送を表す解放状態 / チェックなし)。
-  **大きいアイコン**：このボタンをクリックして押された状態にするか、[\[表示\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択してチェックマークを付けると、[レコードパネル](#)のレコードが横に並んだ大きいアイコンとして表示されます。
-  **小さいアイコン**：このボタンをクリックして押された状態にするか、[\[表示\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択してチェックマークを付けると、[レコードパネル](#)のレコードが横に並んだ小さいアイコンとして表示されます。
-  **一覧**：このボタンをクリックして押された状態にするか、[\[表示\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択してチェックマークを付けると、[レコードパネル](#)のレコードが縦に並んだ小さいアイコンとして一覧表示されます。
-  **詳細**：このボタンをクリックして押された状態にするか、[\[表示\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択してチェックマークを付けると、[レコードパネル](#)のレコードが表形式で一覧表示され、各列にレコードの詳細情報が表示されます (デフォルト設定)。

3.7.2.4 レコード パネル

[NetOp ファイル マネージャ](#) ウィンドウの 2 つのレコード パネルは同じレイアウトです。



名前	拡張	サイズ	日付	属性
..	<DIR>	0 Bytes	2006-04-03 16:30	----
Edit_Guest F...	bmp	3932214 By...	2006-04-03 16:21	-a--
Edit_Guest F...	bmp	3932214 By...	2006-04-03 16:22	-a--
Edit_Guest F...	bmp	3932214 By...	2006-04-03 16:22	-a--
Edit_Guest F...	bmp	2509878 By...	2006-04-03 16:25	-a--
Guest FM Ad...	bmp	310834 Byt...	2006-04-03 16:11	-a--
Guest FM Ad...	bmp	548846 Byt...	2006-04-03 16:14	-a--
Guest FM Co...	bmp	461094 Byt...	2006-04-03 16:10	-a--
Guest FM De...	bmp	263834 Byt...	2006-04-03 16:12	-a--
Guest FM De...	bmp	102054 Byt...	2006-04-03 16:15	-a--
Guest FM Dri...	bmp	378334 Byt...	2006-04-03 16:20	-a--
Guest FM Lo...	bmp	799294 Byt...	2006-04-03 16:24	-a--
Guest FM Op...	bmp	748490 Byt...	2006-04-03 16:26	-a--
Guest FM Op...	bmp	748490 Byt...	2006-04-03 16:26	-a--
Guest FM Op...	bmp	748490 Byt...	2006-04-03 16:27	-a--
Guest FM Op...	bmp	3932214 By...	2006-04-03 16:27	-a--
Guest FM Op...	bmp	748490 Byt...	2006-04-03 16:28	-a--
Guest FM Ov...	bmp	564674 Byt...	2006-04-03 16:30	-a--
Guest FM Sel...	bmp	102054 Byt...	2006-04-03 16:16	-a--
Guest FM Tit...	bmp	2509878 By...	2006-04-03 16:17	-a--
Guest FM Wi...	bmp	2509878 By...	2006-04-03 16:18	-a--
license	dat	273 Bytes	2006-03-16 09:59	-a--
indu	exe	3748565 By...	2006-03-31 09:58	-a--
test	txt	4 Bytes	2006-04-03 16:46	-a--

3.7 ゲストのセッション

最上部のタイトル バーには `<Guest>` (左側のレコード パネル) またはホストの名前 (左側のレコード パネル) が表示されます。ただし、ローカル ファイル転送の場合は、右側のレコード パネルにも `Guest` が表示されます。

選択したレコード パネルのタイトル バーはアクティブ表示になり、選択していない方のレコード パネルのタイトル バーは淡色表示になります。レコード パネル内をクリックするか、キーボード ショートカットを押すと ([\[レイアウト\] タブ](#)を参照)、そのパネルを選択します。TAB キーを押すと、選択しているレコード パネルを切り替えることができます。2 つのレコード パネルのサイズは常に同じです。

ディレクトリ バーには、左にドライブ ドロップダウン ボックスが、右にディレクトリ ドロップダウン ボックスが表示されます。

ドライブ ドロップダウン ボックスのフィールドには、選択しているドライブのアイコンと文字 (ドライブ レター) が表示されます。このドロップダウン ボックスのリストには、コンピュータ上の各ドライブのアイコンと文字が一覧され、いずれかのドライブを選択すると、それがフィールドに表示されます。

ディレクトリ ドロップダウン ボックスのフィールドには、選択しているディレクトリのパスが表示されます。このドロップダウン ボックスのリストには、現在のファイル転送セッションで選択したディレクトリのパスが 30 件まで一覧されます。このリストでディレクトリ パスを選択すると、それがフィールドに表示され、該当するディレクトリの内容が下のレコード ペインに表示されます。ドロップダウン ボックスのフィールドにパスを直接入力して ENTER キーを押す方法でも、そのディレクトリを選択できます。

その下にあるレコード ペインには、選択したディレクトリに含まれるディレクトリとファイルのレコードが、[\[大きいアイコン\]](#)、[\[小さいアイコン\]](#)、[\[リスト\]](#)、[\[詳細\]](#)のいずれかのビューで表示されます。ビューは、[\[表示\] メニュー](#)または[ツールバーのその他のボタン](#)から変更できます。ディレクトリ レコードは、常にアルファベットの昇順で、ファイル レコードの上に表示されます。ファイルをソートするには、[\[詳細\]](#) ビューの列のヘッダをクリックするか、キーボード ショートカットを押します ([\[レイアウト\] タブ](#)を参照)。

[\[詳細\]](#) 表示形式では、次の内容の表でレコードの詳細が表示されます。

- ・ **名前**: レコード名
- ・ **拡張子**: ファイルの拡張子 (行がディレクトリの場合は `<DIR>`)
- ・ **サイズ**: ファイルのサイズ (バイト単位。行がディレクトリの場合は 0 バイト)
- ・ **日付**: レコードが前回変更された日時
- ・ **属性**: レコード属性の最初の 1 文字。次のいずれかになります。
 - `r`: 読み取り専用
 - `a`: アーカイブ
 - `h`: 隠し
 - `s`: システム

表内のコントロールについては、[テーブル コントロール](#)を参照してください。

ディレクトリ レコードをダブルクリックすると、このディレクトリが選択され、そのパスがディレクトリ バーに、内容がレコード ペインに表示されます。

レコード ペインの最上部にある 2 つのピリオド (..) を持つディレクトリ レコードをダブルクリックすると、ディレクトリ ツリー構造内で 1 つ上に移動します。

最下部のステータス バーには、選択しているレコード ファイルの数と合計バイト数が表示されます。この合計バイト数には、選択しているディレクトリ レコードに対応するディレクトリ内のファイルは含まれません。

メニューのコマンドと[ツールバー](#)のボタンを使って、ファイル転送の実行とレコード管理を行います。

1 つのレコードまたは選択している複数のレコードを右クリックすると、次のポップアップメニューが表示されます。

ファイルを開く...
ファイルのコピー(C)
ファイルの移動(M)
削除(D)
名前の変更(R)
プロパティ(P)

上部のセクションに含まれるコマンドは、選択したファイルやコンピュータのセットアップによって異なる場合がありますが、Windows のエクスプローラで右クリックしたときに表示されるポップアップメニューのコマンドとほぼ同じです。

下部の 2 つのセクションに含まれるコマンドは、[NetOp ファイル マネージャ](#) ウィンドウの [\[ファイル\]](#) メニューのコマンドと同じです。

一方のレコード ペインで選択したレコードを他方のレコード ペインまでドラッグしてドロップすると、強調表示されているレコード ディレクトリにレコードがコピーされます。強調表示されているレコード ディレクトリがない場合は、ペインに表示されているレコード群と同じディレクトリにコピーされます。

一方のレコード パネルで選択しているレコードを、マウスの右ボタンを押してドラッグし、他方のレコード パネルにドロップすると、次のポップアップメニューが表示されます。

ここにコピー
ここに移動
キャンセル

ここにコピー：このコマンドを選択すると、選択しているレコードが、強調表示されているレコード ディレクトリにコピーされます（強調表示されているレコード ディレクトリがない場合は、ペインに表示されているレコード群と同じディレクトリにコピーされます）。

ここに移動：このコマンドを選択すると、選択しているレコードが、強調表示されているレコード ディレクトリに移動します（強調表示されているレコード ディレクトリがない場合は、ペインに表示されているレコード群と同じディレクトリに移動します）。

キャンセル：このコマンドを選択すると、実行中のファイル転送が中断されます。

3.7.3 チャット

ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)によって許可されている場合（[ゲストが行える操作](#)を参照）、ゲストはホストとチャット セッションを開始して、ゲスト コンピュータとホスト コンピュータのユーザー間でテキスト入力による通信を行うことができます。

ゲストは、[タブ パネル](#)の [\[簡易接続\]](#) タブ（[その他のセッション](#)を参照）からや、[\[電話帳\]](#) タブや [\[履歴\]](#) タブのレコードから、または [\[ヘルプ呼出\]](#) タブのレコードからのヘルプ呼出に応じて、接続してチャット セッションを開始できます。

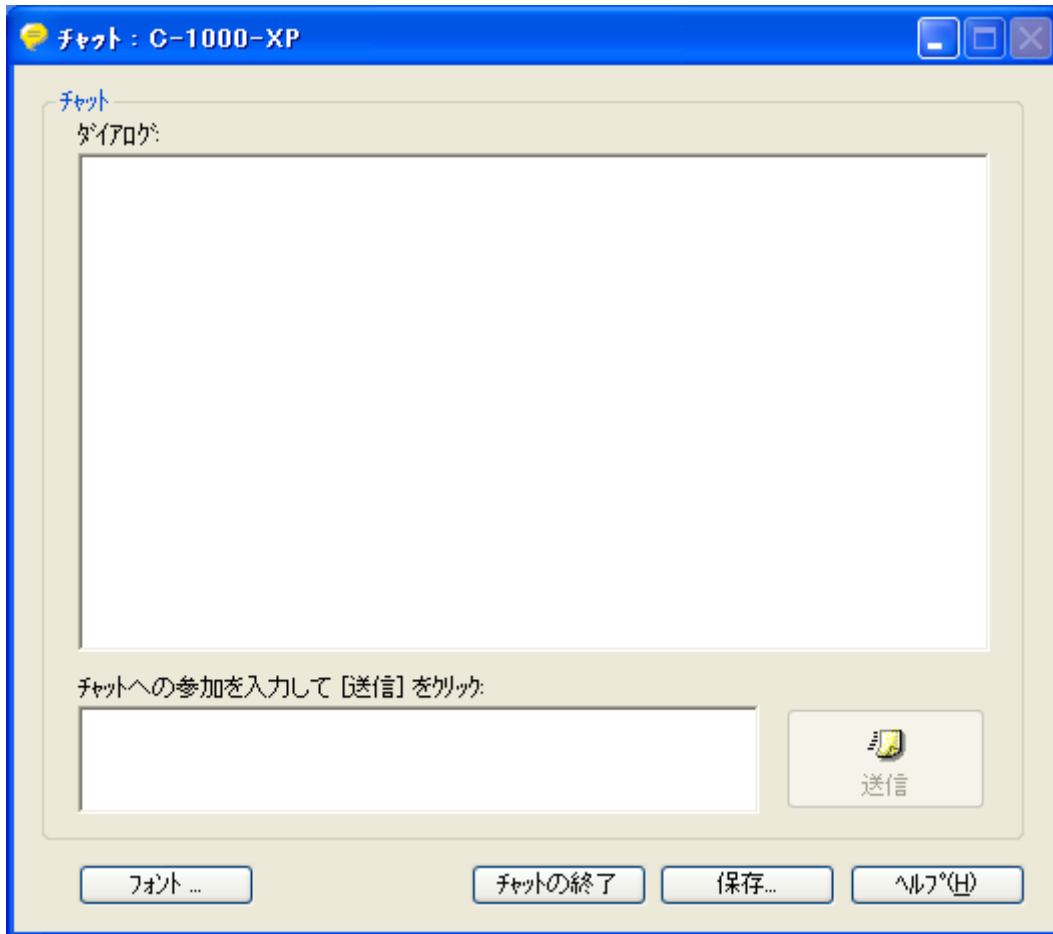
接続したら、ゲストは[タブ パネル](#)の [\[電話帳\]](#) タブ、[\[簡易接続\]](#) タブ、[\[接続\]](#) タブ、[\[履歴\]](#) タブのレコードからや、[リモート コントロール](#)のツールバーとツールボックスの[セッション ボタン](#)にある [\[チャット\]](#) ボタンまたは[リモート管理](#)の [NetOp セッション](#)の [\[チャット\]](#) コマンドから、チャット セッションを開始および終了できます。

ホストは、接続しているゲストとチャット セッションを開始および終了できます。[マルチ チャット セッション](#)も参照してください。

注意：ホストが、同時に複数のゲスト接続を許可している場合（[ゲストのセッション](#)を参照）、チャット セッションの複数のゲストは、ホストと共有の[マルチ チャット セッション](#)を実行しません。

3.7 ゲストのセッション

次のウィンドウがゲスト コンピュータの画面上に表示されます。ホスト コンピュータの画面上にも同様のウィンドウが表示されます。



タイトル バーには、ホストの名前が表示されます。

ウィンドウのタイトル バー コントロールについては、「[ウィンドウ コントロール](#)」で説明しています。

ダイアログ : []: このペインには、チャット ダイアログが表示されるとともに、各メッセージの前に送信者の名前が表示されます。チャットが進行して対話内容がペインに収まらなくなると、縦スクロールバーが表示されます。

チャットへの参加を入力して [送信] をクリック : []: [チャット] ウィンドウがアクティブな場合はキーボードから、あるいはテキストを貼り付けて、このペインに発言を入力します。チャットの発言は、キーボード ショートカットの CTRL+X (切り取り)、CTRL+C (コピー)、CTRL+V (貼り付け)、DEL (削除) を使って編集します。

送信 : このボタンをクリックすると、入力した発言が [発言を入力して [送信] をクリック] ペインから、[ダイアログ] ペインに移動し、チャットの参加者が読めるようになります。

フォント : このボタンをクリックすると、Windows の [フォント] ウィンドウが表示され、発言の書式を変更することができます。

チャットの終了 : このボタンをクリックすると、セッションを終了します。

保存... : このボタンをクリックすると、Windows の [名前を付けて保存] ウィンドウが表示され、チャットの対話内容を Chat <日付> <時刻>.rtf の形式の名前を持つファイルとして、ローカル コンピュータ上のディレクトリに保存できます。保存する前に、このファイルのパスと名前を編集することができます。

3.7.3.1 マルチ チャット セッション

NetOp ホストが、同時に複数のゲスト接続を許可している場合 ([ゲストのセッション](#)を参照)、NetOp ゲストはチャット セッションを開始し、別のゲストとホストの間で実行しているチャットセッションに参加して、マルチ チャット セッションにすることができます。

複数のゲストがホストに接続している場合、ホストは接続しているすべてのゲスト、またはその中から選択したゲストとチャット セッションを開始できます。

ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)で [マルチ ゲスト セッション管理者として行動] が許可されているゲストは ([ゲストが行える操作](#)を参照)、[リモート コントロール](#)の[マルチ ゲスト セッション](#)から、接続しているすべてのゲストとマルチ チャット セッションを開始できます。[マルチ ゲスト セッションのボタン](#)を参照してください。

[チャット](#) ウィンドウの [チャットの終了] ボタンでマルチ チャット セッションを終了したゲストは、セッションから離れます。セッションは、ホストまたはセッションの最後のゲストがセッションを終了したら、終了します。

3.7.4 オーディオビデオ チャット

ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)によって許可されている場合 ([ゲストが行える操作](#)を参照)、ゲストはホストとオーディオビデオ チャット セッションを開始して、ゲスト コンピュータとホスト コンピュータのユーザー間でサウンドおよびイメージを使った通信を行うことができます。

ゲストは、[タブ パネル](#)の [簡易接続] タブ ([その他のセッション](#)を参照) からや、[電話帳](#) タブや[履歴](#) タブのレコードから、または[ヘルプ呼出](#) タブのレコードからのヘルプ呼出に応じて、接続してオーディオビデオ チャット セッションを開始できます。

接続したら、ゲストは[タブ パネル](#)の [電話帳](#) タブ、[簡易接続](#) タブ、[接続](#) タブ、[履歴](#) タブのレコードからや、[リモート コントロール](#)の[ツールバーとツールボックス](#)の[セッション ボタン](#)にある [オーディオビデオ チャット] ボタンまたは[リモート管理](#)の [NetOp セッション](#)の [オーディオビデオ チャット] コマンドから、オーディオ チャット セッションを開始および終了できます。

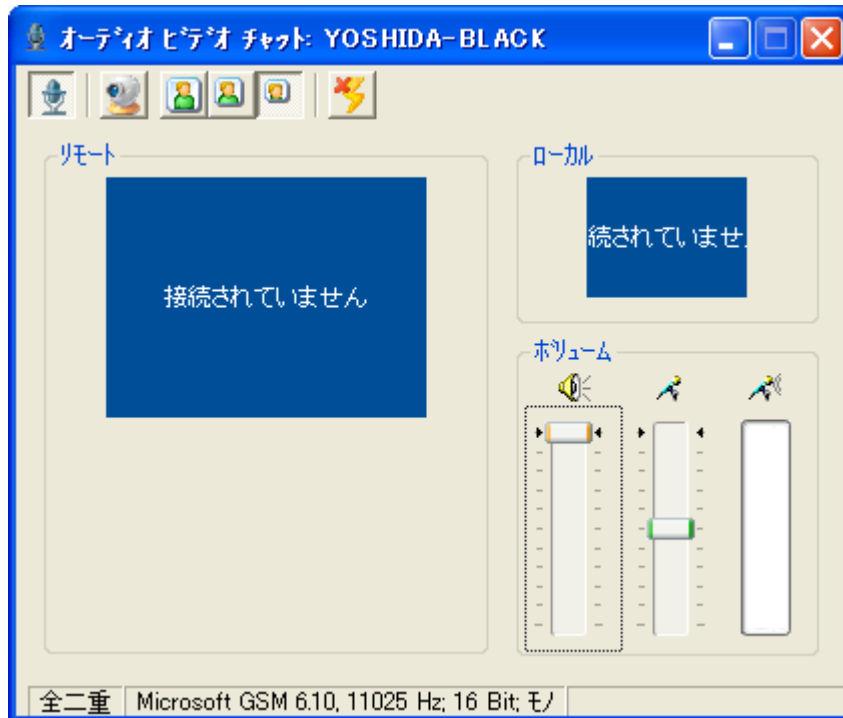
ホストがオーディオビデオ チャット セッションを開始できるのは、接続しているゲストの中で、キーボードとマウスのコントロールを持っているゲストだけです。ホストの [NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)を参照してください。

注意：各ゲストと各ホストは [サウンドの転送](#)を含めて、一度に 1 つのオーディオ セッションだけしか実行できません。[リモート コントロール](#)の[タイトル バー](#)または[ツールバーとツールボックス](#)の[ツール ボタン](#)を参照してください。

3.7 ゲストのセッション

次のウィンドウがゲスト コンピュータの画面上に表示されます。

オーディオビデオ チャット



ホスト コンピュータの画面上には、同様のウィンドウがツールバーなしで表示されます。ホストは、接続を切断することで、セッションを終了できます。

タイトル バーには、ホスト コンピュータの名前が表示されます。

ウィンドウのタイトル バー コントロールについては、「[ウィンドウ コントロール](#)」で説明しています。

ツールバーには次のボタンがあります。



オーディオ：初期状態では、このボタンは押された状態で表示され、(会話による)オーディオ通信が有効になっていることを示します。このボタンをクリックすると、オーディオ通信が有効 / 無効になります。



ビデオ：初期状態では、このボタンは解放された状態で表示され、(ライブ イメージによる)ビデオ通信が無効になっていることを示します。このボタンをクリックすると、ビデオ通信が有効 / 無効になります。

注意：ビデオ通信は、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が「[ビデオのリクエスト](#)」を許可していない場合は無効のままになります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。



大：このボタンをクリックすると、ゲストおよびホストの[オーディオビデオ チャット](#)ウィンドウのサイズを大きなリモート ビデオ フレームに合うように変更します。



中：このボタンをクリックすると、ゲストおよびホストの[オーディオビデオ チャット](#)ウィンドウのサイズを中くらいのリモート ビデオ フレームに合うように変更します。



小：このボタンをクリックすると、ゲストおよびホストの[オーディオビデオ チャット](#)ウィンドウのサイズを小さなリモート ビデオ フレームに合うように変更します (デフォルト設定)。



セッションの終了：このボタンをクリックすると、オーディオビデオ チャット セッションを終了します。

[リモート] セクションでは、ビデオ フレームにリモート コンピュータのビデオ カメラ画像が表示されます。ツールバーの [ビデオ] ボタンが押されていない場合は、このフレームには [No Video] と表示されます。リモート コンピュータでカメラが動作していない場合は、このフレームには [No Camera] と表示されます。

[ローカル] セクションでは、ビデオ フレームにローカル コンピュータのビデオ カメラ画像が表示されます。ツールバーの [ビデオ] ボタンが押されていない場合は、このフレームには [No Video] と表示されます。ローカル コンピュータでカメラが動作していない場合は、このフレームには [No Camera] と表示されます。

右下にある [ボリューム] セクションには、次のような 2 つのスライドと 1 つの表示部があります。

- ・ 左側のスピーカーのスライドをドラッグすると、再生ボリュームを調整できます (デフォルト: 最大)。
- ・ 中央のマイクのスライドをドラッグすると、録音ボリュームを調整できます (デフォルト: 中)。
- ・ 右側のマイクの表示部には、録音ボリュームがモニタリングされます。会話が行われていないときは、この表示部には何も表示されません。会話が行われていると、この表示部には色付きのブロックが部分的に現れます。

オーディオビデオ チャットのオプションは、ゲストの [プログラムのオプション](#) ウィンドウの [\[オーディオビデオ チャット\] タブ](#) およびホストの [プログラムのオプション](#) ウィンドウの [\[オーディオ/ビデオ チャット\] タブ](#) で指定します。

3.7 ゲストのセッション

3.7.5 リモート管理

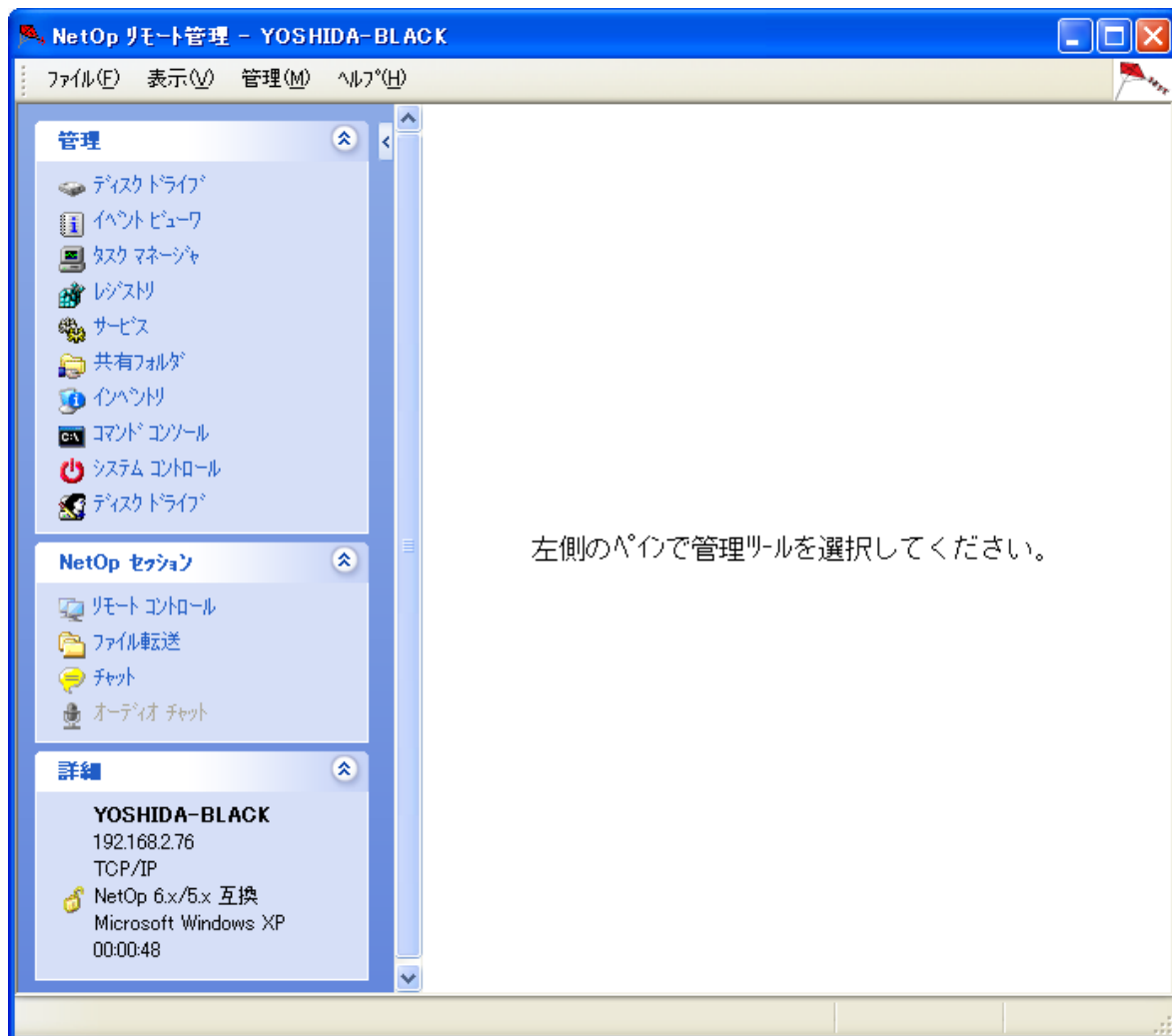
ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)によって許可されている場合（「[ゲストが行える操作](#)」を参照）、ゲストはホストとリモート管理セッションを開始して、ホスト コンピュータの管理ツールにアクセスすることができます。

ゲストは、[タブ パネル](#)の「[簡易接続](#)」タブ（「[その他のセッション](#)を」参照）からや、「[電話帳](#)」タブや「[履歴](#)」タブのレコードから、または「[ヘルプ呼出](#)」タブのレコードからのヘルプ呼出に応じて、接続してリモート管理セッションを開始できます。

接続したら、ゲストは[タブ パネル](#)の「[電話帳](#)」タブ、「[簡易接続](#)」タブ、「[接続](#)」タブ、「[履歴](#)」タブのレコードからや、[リモート コントロール](#)の[ツールバーとツールボックス](#)の[セッション ボタン](#)「[リモート管理](#)」ボタンから、リモート管理セッションを開始および終了できます。

注意：ホストが、同時に複数のゲスト接続を許可している場合（「[ゲストのセッション](#)」を参照）、リモート管理セッションの複数のゲストは、別々のセッションを実行します。

次のウィンドウがゲスト コンピュータの画面上に表示されます。



ホスト コンピュータの画面上には、ウィンドウは表示されません。

このウィンドウでは、ホスト コンピュータをリモート管理する各種ツールを利用できます。ウィンドウは主に、以下の要素から構成されています。

- ・ [タイトル バー](#)
- ・ [メニュー バー](#)
- ・ [ツールバー](#)

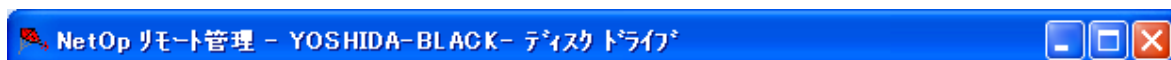
- ・ 作業パネル (左 : [ナビゲーション パネル](#)、右 : [表示パネル](#))
- ・ [ステータス バー](#)

リモート管理ツール群 (「[管理](#)」を参照)

NetOp セッション ツール群 (「[NetOp セッション](#)」を参照)

ホスト コンピュータの詳細情報 (「[詳細情報](#)」を参照)

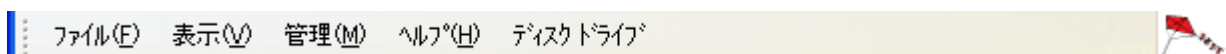
3.7.5.1 タイトル バー



タイトル バーには、セッションのホスト名と、選択している[管理](#)ツールの名前が表示されます。ウィンドウのタイトル バー コントロールについては、「[ウィンドウ コントロール](#)」で説明しています。

3.7.5.2 メニュー バー

以下は、ゲストの[リモート管理](#)ウィンドウのメニュー バーです。



次のメニューがあります。

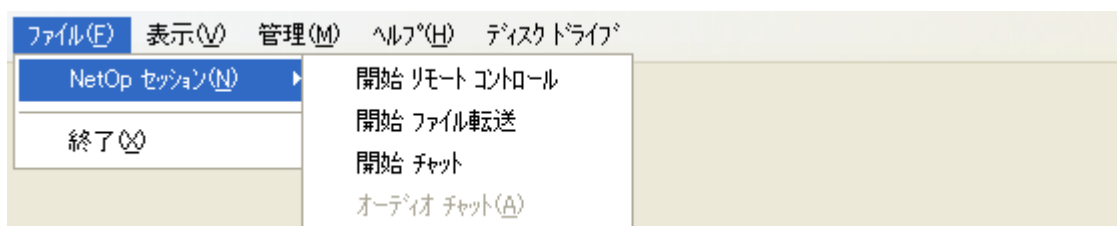
- ・ [\[ファイル\] メニュー](#)
- ・ [\[表示\] メニュー](#)
- ・ [\[管理\] メニュー](#)
- ・ [\[ヘルプ\] メニュー](#)
- ・ [\[ディスク ドライブ\] メニュー](#)

注意 : [ディスク ドライブ] メニューが利用できるのは、[管理](#)ツールを選択している場合だけです。

メニュー バー右端にある赤の「NetOp カイト」画像は、ホスト コンピュータからリモート管理情報が取り込まれている間、アニメーションになります。

3.7.5.2.1 [ファイル] メニュー

以下は、ゲストの[リモート管理](#)ウィンドウの [ファイル] メニューです。



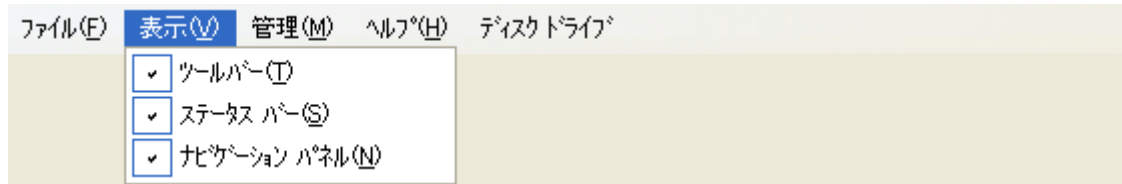
NetOp セッション : このコマンドを選択すると、[ナビゲーション パネル](#)の [NetOp セッション](#) セクションに対応する各コマンドを含むサブメニューが表示されます。

終了 : このコマンドまたは[ウィンドウ コントロール](#)メニューの [閉じる] コマンドを選択するか、Alt+F4 を押すか、あるいは[ウィンドウ コントロール](#)の閉じる ([X]) ボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)アイコンをダブルクリックすると、[リモート管理](#)セッションが終了します。

3.7 ゲストのセッション

3.7.5.2.2 [表示] メニュー

以下は、ゲストの [リモート管理](#) ウィンドウの [表示] メニューです。



ツールバー：このコマンドを選択してチェックマークを付けたり外したりすると、[ツールバー](#)の表示 / 非表示が切り替わります（デフォルトは[ツールバー](#)を表示するチェックマーク付き）。

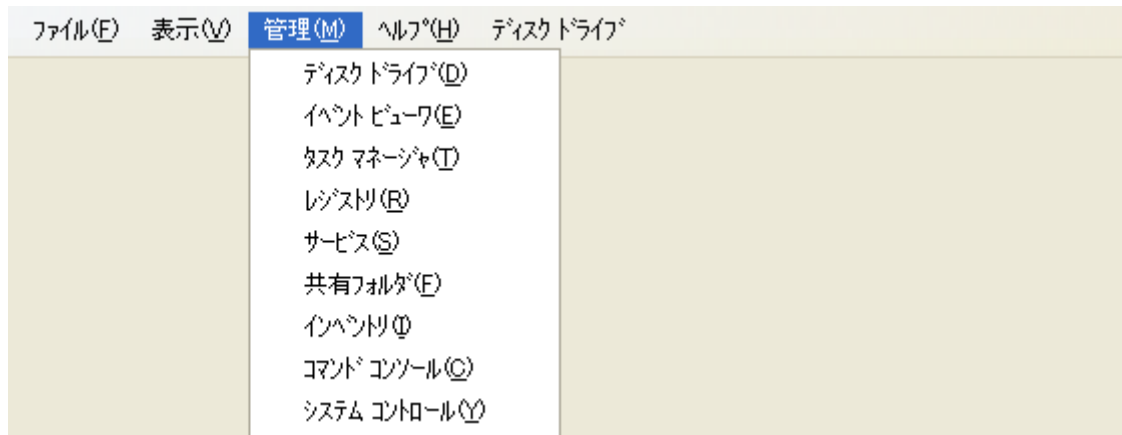
ステータス バー：このコマンドを選択してチェックマークを付けたり外したりすると、[ステータス バー](#)の表示 / 非表示が切り替わります（デフォルトは[ステータス バー](#)を表示するチェックマーク付き）。

ナビゲーション パネル：このコマンドを選択してチェックマークを付けたり外したりすると、[ナビゲーション パネル](#)の有効 / 無効が切り替わります（デフォルトは[ナビゲーション パネル](#)を有効にするチェックマーク付き）。

注意：有効な場合は、[ナビゲーション パネル](#)上部の左 / 右矢印ボタンを使って、[ナビゲーション パネル](#)の表示 / 非表示を切り替えることができます。

3.7.5.2.3 [管理] メニュー

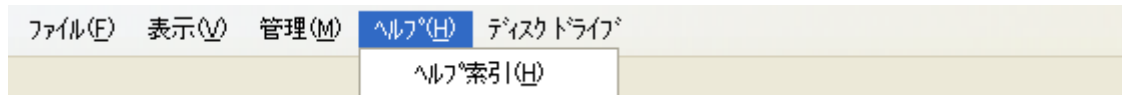
以下は、ゲストの [リモート管理](#) ウィンドウの [管理] メニューです。



このメニューには、[ナビゲーション パネル](#)の[管理](#)セクションの各コマンドに対応するコマンドがあります。

3.7.5.2.4 [ヘルプ] メニュー

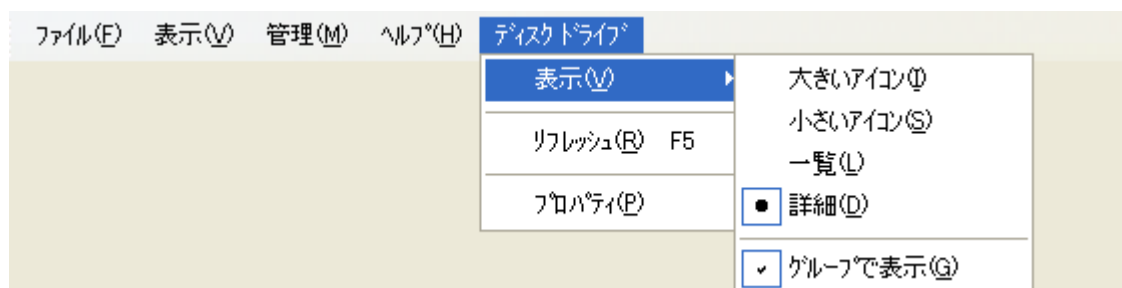
以下は、ゲストの [リモート管理](#) ウィンドウの [ヘルプ] メニューです。



ヘルプ索引：このコマンドを選択すると、*NetOp* ゲスト ヘルプの「[リモート管理](#)」トピックが表示されます。ヘルプ ウィンドウの左側のペインには、目次がツリー形式で表示されます。

3.7.5.2.5 [ディスク ドライブ] メニュー

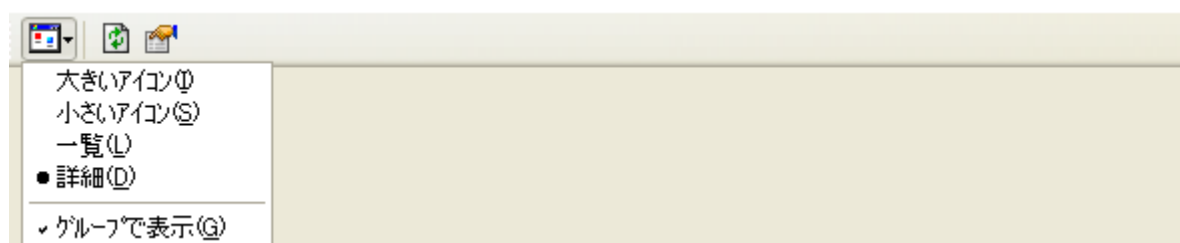
この、ゲストの [リモート管理](#) ウィンドウ メニューが利用できるのは、[管理](#) ツールを選択している場合だけです。選択している [管理](#) ツールの名前が、このメニューの名前になります。次に例を示します。



このメニューに含まれるコマンドは、選択している [管理](#) ツールによって異なります。

3.7.5.3 ツールバー

[リモート管理](#) ウィンドウには、[管理](#) ツールの選択時に [\[表示\]メニュー](#) の [\[ツールバー\]](#) コマンドで非表示に設定していない限り、次のツールバーが表示されます。



このツールバーに表示されるボタンは、選択している [管理](#) ツールによって異なります。

3.7 ゲストのセッション

3.7.5.4 ナビゲーション パネル

[リモート管理](#)ウィンドウのナビゲーション パネル（左側の作業パネル）は、[\[表示\]メニュー](#)の[\[ナビゲーション パネル\]](#)コマンドで無効化しない限り、有効になっています。



[管理] セクション： [管理](#) コマンド群が含まれています。

[NetOp セッション] セクション： [NetOp セッション](#) コマンド群が含まれています。

[詳細] セクション： [詳細情報](#) 情報が表示されます。

ナビゲーション パネル上部の左 / 右矢印ボタンをクリックすると、パネルの表示 / 非表示が切り替わります。

各セクション上部の上 / 下矢印ボタンをクリックすると、セクションが展開または収納されます。

3.7.5.5 表示パネル

[リモート管理](#)ウィンドウの作業パネルの右側にある表示パネルです。

左側のペインで管理ツールを選択してください。

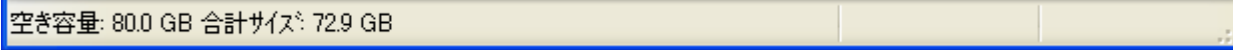
表示パネルには最初、「左側のペインで管理ツールを選択してください。」というメッセージが表示されます。

[\[管理\]メニュー](#)のコマンドを選択するか、[ナビゲーションパネル](#)の [\[管理\]](#) セクションでいずれかのコマンドを選択すると、該当する [管理](#) ツールの情報が、このパネル内に表示されます。

注意：ホスト コンピュータからリモート管理情報が取り込まれている間、[メニューバー](#)右端にある赤の「NetOp カイト」画像はアニメーションになります。

3.7.5.6 ステータス バー

[リモート管理](#)ウィンドウのステータスバー



空き容量: 80.0 GB 合計サイズ: 72.9 GB

[管理](#)ツールが選択されている場合、ここには 3 つのフィールドが表示されます。

左側のフィールドには、選択した [管理](#) ツールオブジェクトの情報が表示されます。

中央のフィールドには、セッション ホストから情報が取り込まれている間、「[進行中...](#)」というメッセージが表示されます。情報の取り込みが完了すると、メッセージが「[完了](#)」に変わります。

右側のフィールドには、[<取り込まれたレコード数>/<レコードの合計数>](#) が表示されます。

3.7 ゲストのセッション

3.7.5.7 管理

リモート管理を開始するには、[リモート管理](#)ウィンドウの「[管理](#)」メニューまたは[ナビゲーションパネル](#)の「[管理](#)」セクションで、次のいずれかのコマンドを選択します。

- [ディスク ドライブ](#)
- [イベント ビューア](#)
- [タスク マネージャ](#)
- [レジストリ](#)
- [サービス](#)
- [共有フォルダ](#)
- [インベントリ](#)
- [コマンド コンソール](#)
- [システム制御](#)

注意：[ディスク ドライブ](#)、[イベント ビューア](#)、[サービス](#)、[共有フォルダ](#)は、ホスト コンピュータでの一定権限が必要です。

[リモート管理](#)セッションでは通常、ホスト コンピュータにログオンしているユーザーの権限を取得するホストの権限が取得されます。

どのユーザーもログオンしていない、あるいは権限が不十分なユーザーがログオンしているコンピュータ上のホストで、[リモート管理](#)セッションに必要な権限を割り当てるには、必要な権限を持つユーザーとしてホストを実行します ([NetOp ホストプログラムのオプション](#)ウィンドウの「[別のユーザーとして実行](#)」タブを参照)。

3.7.5.7.1 ディスク ドライブ

「[管理](#)」メニュー、または[ナビゲーションパネル](#)の「[管理](#)」セクションでディスク ドライブコマンドを選択すると、ホストコンピュータのディスク ドライブ情報が、[表示パネル](#)に表示されます。

名前	種類	合計サイズ*	空き容量	ファイル システム	使用合計	空き (%)	使用注
ハード ディスクドライブ*							
ローカル ディスク (C:)	ローカル ディスク	80.0 GB	72.9 GB	NTFS	7.07 GB	91%	9%
ローカル ディスク (D:)	ローカル ディスク	80.0 GB	78.8 GB	NTFS	1.25 GB	98%	2%
ローカル ディスク (G:)	ローカル ディスク	73.4 GB	57.6 GB	NTFS	15.8 GB	78%	22%
リムーバブル ストレージを持つデバイス							
3.5 インチ FD (A)	3.5 インチ フロッピー...					0%	0%
リムーバブル ディスク (E)	リムーバブル ディ...					0%	0%
リムーバブル ディスク (F)	リムーバブル ディ...					0%	0%
DVD-RAM ドライブ (H)	CD ドライブ					0%	0%
DVD/CD-RW ドライブ (I)	CD ドライブ					0%	0%
ネットワークドライブ*							
Dell PowerVault Serve...	ネットワークドライ...	74.7 GB	69.6 GB	FAT	5.12 GB	93%	7%

注意：ホストコンピュータのディスク ドライブ情報を表示する権限がホストにない場合は、このコマンドは無効になります。ホストに必要な権限を割り当てるには、必要な権限を持つユーザーとして実行します ([NetOp ホストプログラムのオプション](#)ウィンドウの「[別のユーザーとして実行](#)」タブを参照)。「[別のユーザーとして実行](#)」タブは、ホストで[リモート コントロール](#)セッションに表示することができます。

ホストコンピュータのディスク ドライブ情報は、[ディスク ドライブ] メニューまたはツールバーの選択内容に応じて、アイコンまたは表内のレコードとして表示されます（以下を参照）。

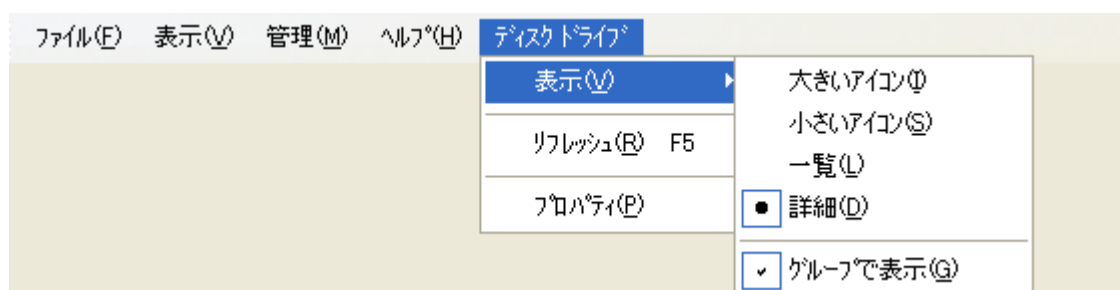
[詳細] ビューでは、以下の列にレコードの情報が表示されます。

- ・ 名前：ディスク ドライブのアイコンと名前
- ・ 種類：ディスク ドライブの種類
- ・ 合計サイズ：ディスク ドライブの容量（バイト単位）
- ・ 空き容量：ディスク ドライブの空き容量（バイト単位）
- ・ ファイル システム：ディスク ドライブのファイル システム
- ・ 使用合計：ディスク ドライブの使用済み容量（バイト単位）
- ・ 空き（%）：ディスク ドライブの空き領域の割合（パーセント値）
- ・ 使用済（%）：ディスク ドライブの使用済み容量の割合（パーセント値）

表内のコントロールについては、「[テーブル コントロール](#)」を参照してください。

[メニュー バー](#)で [ディスク ドライブ] を選択するか、ALT+D を押すか、[表示パネル](#)内で右クリックすると、次のメニューが表示されます。

ディスク ドライブ メニュー



表示：このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、次の各コマンドを含むサブメニューが表示されます。

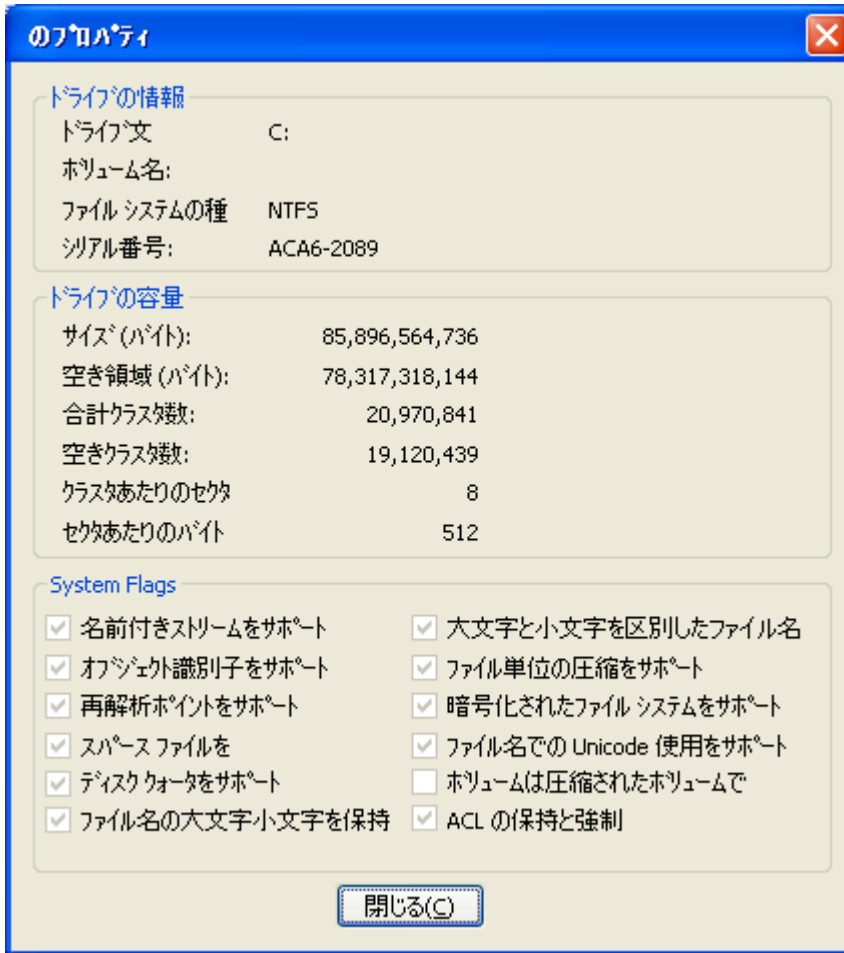
- 大きいアイコン：このコマンドを選択して横にドット（・）を付けると、レコードが横に並んだ大きいアイコンとして表示されます。
- 小さいアイコン：このコマンドを選択して横にドット（・）を付けると、レコードが横に並んだ小さいアイコンとして表示されます。
- 一覧：このコマンドを選択して横にドットを付けると、レコードが縦に並んだ小さいアイコンとして一覧表示されます。
- 詳細：このコマンドを選択して横にドットを付けると、レコードが表形式で一覧表示され、各列にレコードの詳細情報が表示されます（この状態がデフォルトです）。
- グループで表示：Windows Server 2003 または Windows XP が動作しているコンピュータで、このコマンドを選択してチェックマークを付けたり外したりすると、ドライブの種類によってレコードがグループ分けされるか、グループ分けが解除されます（デフォルト：チェックマークを付けてグループ分け）。

リフレッシュ F5：このコマンドを選択するか、F5 キーを押すか、[ツールバー](#)の [更新] ボタンをクリックすると、ホスト コンピュータから新しいデータが取り込まれ、[表示パネル](#)の表示内容が更新されます。

プロパティ：レコードを 1 つ選択して、このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

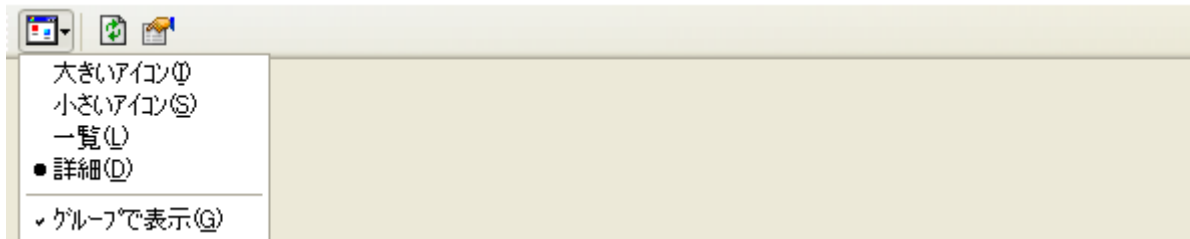
3.7 ゲストのセッション


プロパティ





このウィンドウには、選択しているレコードに対応するディスク ドライブのプロパティが表示されます。

次のツールバーが表示されます（[\[表示\]メニュー](#)の [\[ツールバー\]](#) コマンドで非表示に設定した場合を除く）。



 **表示**：このボタンをクリックするか、[\[ディスク ドライブ\]](#)メニューの対応するコマンドを選択すると、[\[表示\]](#)サブメニューが表示されます（[「ディスク ドライブ メニュー」](#)を参照）。

 **更新**：このボタンをクリックするか、[\[ディスク ドライブ\]](#)メニューの対応するコマンドを選択するか、F5 キーを押すと、ホスト コンピュータから新しいデータが取り込まれ、[表示パネル](#)の内容が更新されます。

 **プロパティ**：レコードを 1 つ選択して、このボタンをクリックするか、[\[ディスク ドライブ\]](#)メニューの対応するコマンドを選択すると、[プロパティ](#) ウィンドウにレコード ドライブのプロパティが表示されます。

ディスク ドライブのレコードを選択すると、[ステータス バー](#)の左側のフィールドに、*Free Space*: < 空き領域のバイト数 > *Total Space*: < ドライブ容量のバイト数 > が表示されます。

ディスク ドライブの種類

表示できるディスク ドライブの種類は次のとおりです。

- ・ 容量：フロッピー ディスク：ホスト コンピュータのフロッピー ディスク ドライブ
- ・ ローカル ディスク：ホスト コンピュータのハードディスクまたはパーティション
- ・ CD：ホスト コンピュータの CD ドライブ
- ・ RAM ディスク：ホスト コンピュータでファイル ストレージとして割り当てられたメモリの一部
- ・ リムーバブル ディスク：リムーバブル ファイル ストレージ デバイス
- ・ マウント済ディスク：NTFS ボリューム内の空フォルダにマウントされているドライブ
- ・ ネットワーク ドライブ：ネットワーク コンピュータのハードディスク、パーティション、またはディレクトリ

3.7.5.7.2 イベント ビューア

[リモート管理](#) ウィンドウの [\[管理\] メニュー](#) または [ナビゲーション パネル](#) の [\[管理\]](#) セクションの [\[イベント ビューア\]](#) コマンドを選択すると、ホストコンピュータの Windows のイベントログが [表示パネル](#) に表示されます。

種類	日付	時刻	ソース	カテゴリ	イベント	ユーザー	コ
成功の監査	2006/04/03	15:46:32	NetOp Host for NT Service	セットアップ	216	N/A	YO
成功の監査	2006/04/03	15:46:32	NetOp Host for NT Service	セットアップ	216	N/A	YO
成功の監査	2006/04/03	15:46:32	NetOp Host for NT Service	セットアップ	216	N/A	YO
成功の監査	2006/04/03	15:46:32	NetOp Host for NT Service	セットアップ	216	N/A	YO
成功の監査	2006/04/03	15:46:32	NetOp Host for NT Service	セットアップ	216	N/A	YO
警告	2006/04/03	15:45:01	Userenv	なし	1517	SYSTEM	YO
エラー	2006/04/03	15:44:57	NetOp Host for NT Service	サービス	210	N/A	YO
成功の監査	2006/04/03	10:22:03	NetOp Host for NT Service	セットアップ	216	N/A	YO
成功の監査	2006/04/03	10:22:03	NetOp Host for NT Service	セットアップ	216	N/A	YO
成功の監査	2006/04/03	10:22:03	NetOp Host for NT Service	セットアップ	216	N/A	YO
成功の監査	2006/04/03	10:22:03	NetOp Host for NT Service	セットアップ	216	N/A	YO
成功の監査	2006/04/03	10:22:03	NetOp Host for NT Service	セットアップ	216	N/A	YO
情報	2006/04/03	10:18:23	NetOp Host for NT Service	サービス	201	N/A	YO
成功の監査	2006/03/31	11:44:14	NetOp Host for NT Service	セットアップ	216	N/A	YO
成功の監査	2006/03/31	11:44:14	NetOp Host for NT Service	セットアップ	216	N/A	YO
成功の監査	2006/03/31	11:44:14	NetOp Host for NT Service	セットアップ	216	N/A	YO
成功の監査	2006/03/31	11:44:14	NetOp Host for NT Service	セットアップ	216	N/A	YO

注意：ホストコンピュータのイベントを表示する権限がホストにない場合は、このコマンドは無効になります。ホストに必要な権限を割り当てるには、必要な権限を持つユーザーとして実行します ([NetOp ホストのプログラムのオプション](#) ウィンドウの [「別のユーザーとして実行」](#) タブを参照)。[「別のユーザーとして実行」](#) タブは、ホストで [リモート コントロール](#) セッションに表示することができます。

イベントが記録されるのは、Windows Server 2003、XP、2000、および NT の場合のみです。[\[イベント ビューア\]](#) コマンドが有効になるのも、ホスト コンピュータでこれらのオペレーティング システムが動作している場合に限られます。

[表示パネル](#) には、Windows の [イベント ビューア](#) と同じように、[\[アプリケーション\]](#)、[\[セキュリティ\]](#)、[\[システム\]](#) の各タブがあります。4 番目の [\[ファイル\]](#) タブでは、保存したイベント ログを表示できます。どのタブにも、ホスト コンピュータのイベントのレコードが表形式で一覧表示されます。この表には、以下の列があります。

- ・ **タイプ：**イベントの種類を表すアイコンと説明
- ・ **日付：**イベントの発生日

3.7 ゲストのセッション

- ・ 時刻 : イベントの発生時刻
- ・ ソース : イベントの発生源
- ・ カテゴリ : イベントのカテゴリ (該当する場合)
- ・ イベント : イベントの ID
- ・ ユーザー : イベントのユーザー名 (ユーザー イベントでない場合は「N/A」)
- ・ コンピュータ : イベントのコンピュータ名

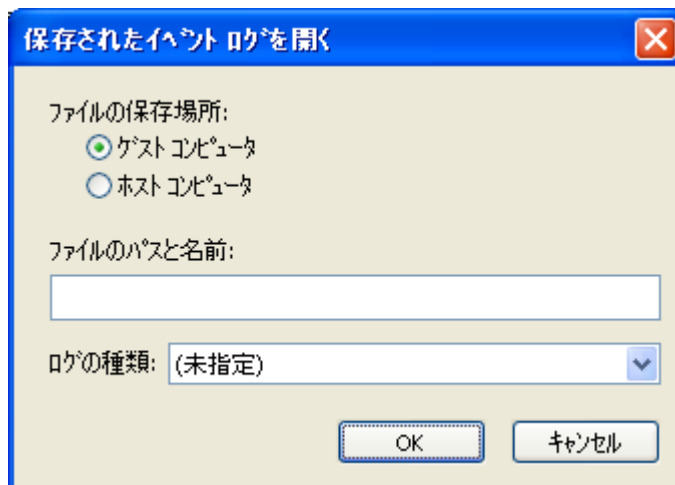
表内のコントロールについては、「[テーブル コントロール](#)」を参照してください。

[メニュー バー](#)で [イベント ビューア] を選択するか、ALT+E を押すか、[表示パネル](#)内で右クリックすると、次のメニューが表示されます。



開く Ctrl+O: このコマンドを選択するか、CTRL+O を押すか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

保存されたイベント ログを開く



このウィンドウで保存済みのイベント ログ ファイルを開き、[ファイル] タブに表示します。

ファイルの保存場所: 次のいずれかのオプションを選択します。

- **ゲスト コンピュータ:** ゲスト コンピュータに保存されているイベント ログを開きます (デフォルト)。
- **ホスト コンピュータ:** ホスト コンピュータに保存されているイベント ログを開きます。

ファイルのパスと名前: []: 保存されているイベント ログ ファイルのパスと名前を、このフィールドに入力します。

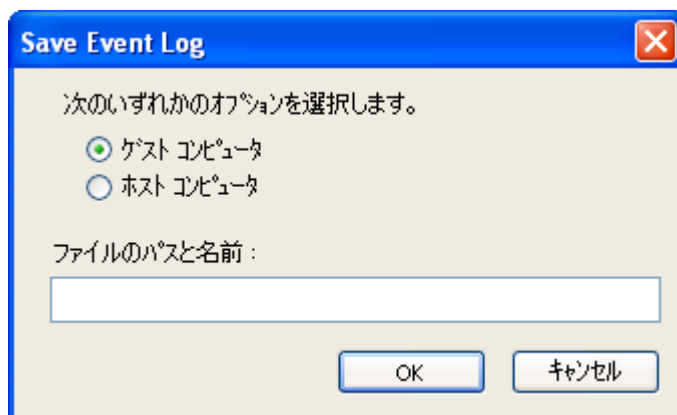
ログの種類: []: このドロップダウン ボックスのフィールドには、(未指定) と表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには、(未指定)、Application、Security、System

という 4 つのオプションがあります。リスト内のオプションを選択すると、そのオプションがフィールドにセットされます。

注意：保存済みのイベント ログを開くと、既存の [ファイル] タブ上の内容が上書きされます。

上書き保存 *Ctrl+S*: このコマンドを選択するか、CTRL+S を押すか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

Save Event Log



このウィンドウで、表示されているイベント ログをファイルに保存します。

ファイルの保存場所：次のいずれかのオプションを選択します。

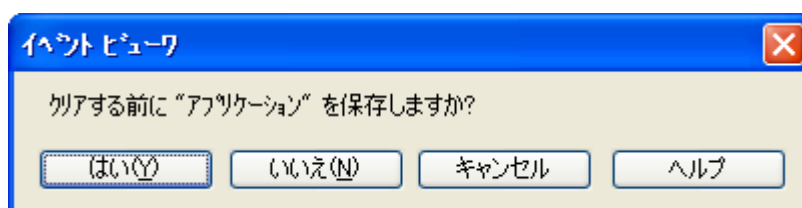
- ゲスト コンピュータ：イベント ログ ファイルをゲスト コンピュータに保存します (デフォルト)。
- ホスト コンピュータ：イベント ログ ファイルをホスト コンピュータに保存します。

ファイルのパスと名前：[]: ファイルのパスとファイル名をこのフィールドに入力します。

注意：[イベント プロパティ] ウィンドウの [データ] セクションにイベント バイナリデータが表示されるのは、イベント ログ ファイルをデフォルトの拡張子 (.evt) で保存した場合だけです。

クリア：このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

イベント ログのクリア



はい：このボタンをクリックすると [Save Event Log] ウィンドウが表示されます (上記を参照)。[Save Event Log] ウィンドウを閉じると、表示されているイベント ログのすべてのイベントが消去されます。

いいえ：このボタンをクリックすると、表示されているイベント ログのすべてのイベントが消去されます。

キャンセル：表示されているイベント ログの消去を取り消すには、このボタンをクリックします。

リフレッシュ *F5*: このコマンドを選択するか、F5 キーを押すか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、ホスト コンピュータから新しいデータが取り込まれ、タブの表示内容が更新されます。

3.7 ゲストのセッション

ログのプロパティ：このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、[\[プロパティ\]](#) ウィンドウが表示されます。このウィンドウは、Windows のイベント ビューアで表示できる [\[<ログの種類>プロパティ\]](#) ウィンドウに似ており、機能も同様です。

イベントのプロパティ：タブのレコードを選択して、このコマンドを選択するか、レコードをダブルクリックすると、[\[イベント プロパティ\]](#) ウィンドウが表示されます。このウィンドウは、Windows のイベント ビューアで表示できる [\[<イベントの種類>プロパティ\]](#) ウィンドウに似ており、機能も同様です。

次の[ツールバー](#)が表示されます ([\[表示\]](#) [メニュー](#)の [\[ツールバー\]](#) コマンドで非表示に設定した場合を除く)。



- 上書き保存**：このボタンをクリックするか、[\[イベント ビューア\]](#) [メニュー](#)の対応するコマンドを選択するか、CTRL+S を押すと、[Save Event Log](#) ウィンドウが表示されます。
- 開く**：このボタンをクリックするか、[\[イベント ビューア\]](#) [メニュー](#)の対応するコマンドを選択するか、CTRL+O を押すと、[保存されたイベント ログを開く](#) ウィンドウが表示されます。
- クリア**：このボタンをクリックするか、[\[イベント ビューア\]](#) [メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、[イベント ログのクリア](#) ウィンドウが表示されます。
- リフレッシュ**：このボタンをクリックするか、[\[イベント ビューア\]](#) [メニュー](#)の対応するコマンドを選択するか、F5 キーを押すと、ホスト コンピュータから新しいデータが取り込まれ、[表示パネル](#)の内容が更新されます。
- プロパティ**：このボタンをクリックするか、[\[イベント ビューア\]](#) [メニュー](#)の [\[ログ プロパティ\]](#) コマンドを選択すると、[\[プロパティ\]](#) ウィンドウが表示されます。
- 停止**：このボタンをクリックすると、ホスト コンピュータからの情報の取り込みが中断されます。中断時点までに取り込まれた情報が表示されます。

3.7.5.7.3 タスク マネージャ

[リモート管理](#)ウィンドウの [\[管理\]](#) [メニュー](#) または[ナビゲーション パネル](#) の [\[管理\]](#) セクションの [\[タスク マネージャ\]](#) コマンドを選択すると、ホストコンピュータで実行中のアプリケーションとプロセスが[表示パネル](#)に表示されます。

タスク	ステータス
Connection List	実行中
F-Secure BackWeb Agent	実行中
Inbox - Microsoft Outlook	実行中
Screen Saver	実行中

[表示パネル](#)には、[\[アプリケーション\]](#) タブと [\[プロセス\]](#) タブがあります。

[\[アプリケーション\]](#) タブには、ホスト コンピュータで実行されている各アプリケーションのレコードが、Windows Server 2003、XP、2000、および NT のタスク マネージャの [\[アプリケーション\]](#) タブと同じように、次の内容の表で表示されます。

- タスク：Windows でアプリケーションに関連付けられているアイコンと、アプリケーションの説明
- ステータス：ホスト コンピュータで実行されているアプリケーションは、この列に「**実行中**」と表示されます。

表内のコントロールについては、「[テーブル コントロール](#)」を参照してください。

[プロセス] タブは、上下 2 つのペインに分かれています。

イメージ名	PID	CPU 使用率	時刻	カーネル時間	ユーザー時間	スレッド	メモリ使用量
System Idle Process	0	44	00:44:43.343	100	00	2	16 K
System	4	00	00:00:03.859	100	00	71	212 K
smss.exe	1028	00	00:00:00.031	50	50	3	372 K
csrss.exe	1100	00	00:00:04.921	59	41	9	3,244 K
winlogon.exe	1124	00	00:00:01.218	71	29	19	2,760 K
services.exe	1168	00	00:00:02.546	71	29	15	5,984 K

ID	時刻	カーネル時間	ユーザー時間	優先順位
0	00:23:54.250	100	00	0
0	00:20:49.093	100	00	0

上のペインには、ホスト コンピュータで実行されている各プロセスのレコードが、Windows Server 2003、XP、2000、および NT のタスク マネージャの [プロセス] タブと同じように、次の内容の表で表示されます。

- ・ イメージ名：プロセスまたは実行ファイルの名前
- ・ PID：プロセスの ID
- ・ CPU 使用率：プロセスによる現在の CPU リソースの使用率
- ・ 時刻：プロセス開始からの経過時間 (HH:MM:SS:TTT : H= 時間、M= 分、S= 秒、T=1/1000 秒)
- ・ カーネル時間：カーネル モードで動作した時間の割合
- ・ ユーザー時間：ユーザー モードで動作した時間の割合
- ・ スレッド：プロセスで動作しているスレッドの数
- ・ メモリ使用量：プロセスで使用されているメモリのバイト数

表内のコントロールについては、「[テーブル コントロール](#)」を参照してください。

下のペインには、上のペインで選択しているプロセスで実行されている各スレッドのレコードが表形式で一覧表示されます。表には以下の列があります。

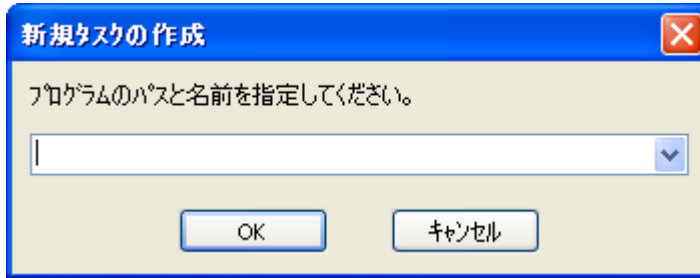
- ・ ID：スレッドの ID
- ・ 時刻：スレッド開始からの経過時間 (HH:MM:SS:TTT : H= 時間、M= 分、S= 秒、T=1/1000 秒)
- ・ カーネル時間：カーネル モードで動作した時間の割合
- ・ ユーザー時間：ユーザー モードで動作した時間の割合
- ・ 優先順位：優先度 (この値が大きければ、CPU リソースが優先して割り当てられます)

[メニュー バー](#)で [タスク マネージャ] を選択するか、ALT+T を押すか、表示パネル内で右クリックすると、次のメニューが表示されます。

ファイル(F)	表示(V)	管理(M)	ヘルプ(H)	タスク マネージャ
				新規タスク (実行...) (N)
				タスクの終了 (E)
				リフレッシュ (R) F5

3.7 ゲストのセッション

新規タスク (実行...): このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



プログラムのパスと名前を指定してください。: []: このドロップダウン ボックスのフィールドに、ホスト コンピュータのパスと、ホスト コンピュータで実行するアプリケーションの実行プログラム ファイルの名前を入力します。ドロップダウン ボックスのリストには、以前に指定したファイルのパスと名前が一覧表示されます。このリストでファイルのパスと名前を選択すると、それがフィールドに表示されます。

注意: Windows の [ファイル名を指定して実行] ウィンドウと同じように、ホスト コンピュータのシステム ディレクトリ内のファイルを実行する場合はパスを省略できます (*Windows* または *WINNT*)。それ以外の場所にファイルがある場合は、システム ディレクトリからのパスまたは完全なパスが必要です。パスには環境変数を含めることができます。


タスクの終了/プロセス: [表示パネル](#)でアプリケーションまたはプロセスを選択して、このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、そのアプリケーションやプロセスのホスト コンピュータでの実行が終了します。


警告: アプリケーションを終了すると、保存していないデータは失われます。アプリケーションやシステムの一部として実行されているプロセスを終了すると、そのアプリケーションやシステムが正しく機能しなくなることがあります。


リフレッシュ *F5*: このコマンドを選択するか、*F5* キーを押すか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、ホスト コンピュータから新しいデータが取り込まれ、[表示パネル](#)に表示されます。

次の[ツールバー](#)が表示されます ([\[表示\]メニュー](#)の [[ツールバー](#)] コマンドで非表示に設定した場合を除く)。



 **タスクの作成:** このボタンをクリックするか、[タスク マネージャ] メニューの対応するコマンドを選択するか、CTRL+S を押すと、上に示した [*Create New Task*] ウィンドウが表示されます。

 **タスクの終了/プロセス:** タスクまたはプロセスを選択してこのボタンをクリックするか、[タスク マネージャ] メニューの対応するコマンドを選択すると、選択したタスクやプロセスが終了します。

 **更新:** このボタンをクリックするか、[タスク マネージャ] メニューの対応するコマンドを選択するか、*F5* キーを押すと、ホスト コンピュータから新しいデータが取り込まれ、[表示パネル](#)の内容が更新されます。

タスク マネージャ の表示および更新時には、[ステータス バー](#)の左側のフィールドに、プロセス数: プロセス数 / CPU 使用率 (%) が表示されます。

3.7.5.7.4 レジストリ

リモート管理ウィンドウの「管理」メニューまたはナビゲーションパネルの「管理」セクションの「レジストリ」コマンドを選択すると、ホストコンピュータのWindowsレジストリが、Windowsの「レジストリ エディタ」ウィンドウと同じように表示パネルに表示されます。



警告：Windowsレジストリの編集では、些細な間違いでも、コンピュータの動作に重大な影響を与えることがあります。したがって、通常のユーザーは、Windowsレジストリを編集すべきではありません。

十分な知識を持ったユーザーは、レジストリを編集することによって、Windowsの設定に変更を加えたり、不要な設定を削除することができます。ただし、その場合も回復不能な事態を避けるため、レジストリのバックアップなど、必ず事前に適切な措置を講じてください。

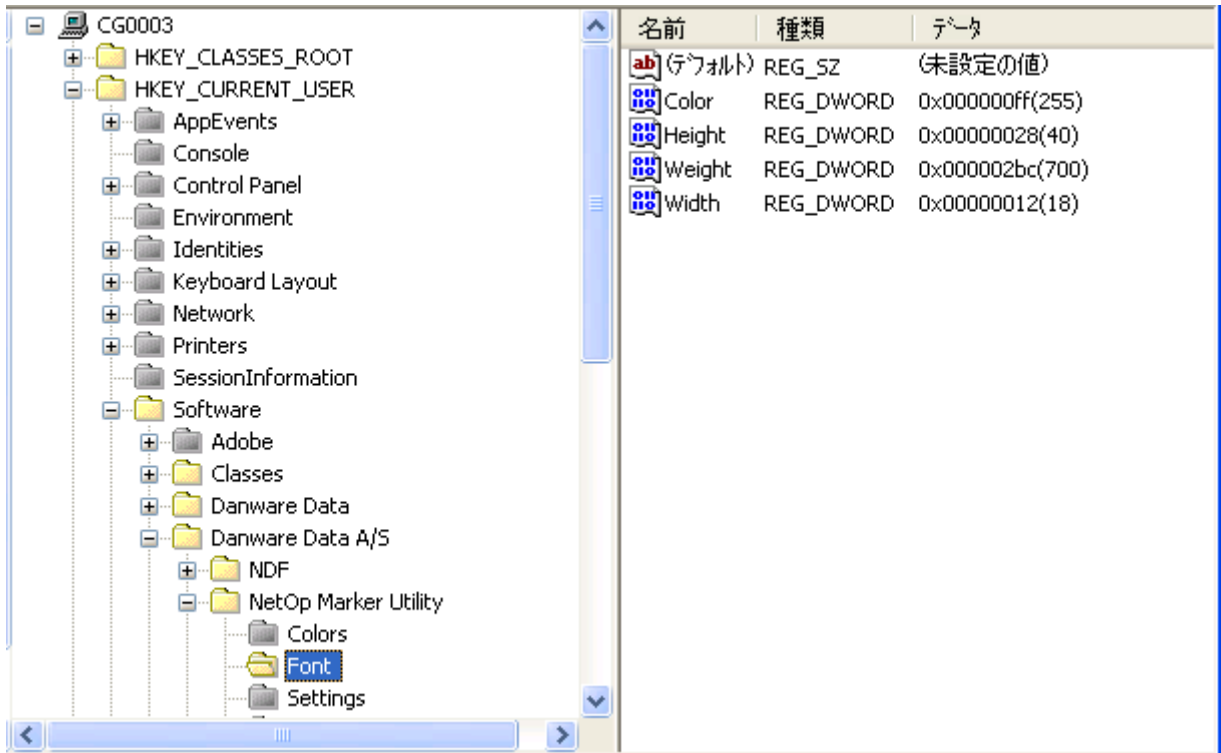
Windowsレジストリは、Windowsオペレーティングシステムの設定情報を格納する、構造化されたデータベースです。レジストリはWindowsのコンピュータへのインストール時に作成され、アプリケーションのインストールや、ユーザーの個人設定の変更に伴い、自動的に更新されます。

Windowsレジストリは、次のように、5つの定義済みサブツリーから構成されています。

サブツリー	説明
HKEY_CLASSES_ROOT	ファイルとデータの関連付けを定義します。 <i>HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Classes</i> のキーに対応しています。これらのキーによって、アプリケーションの起動と、データファイルとの関連付けが決定されます。
HKEY_CURRENT_USER	コンピュータにログオンしているユーザーのプロファイルを定義します。このサブツリーに含まれるキーは、 <i>HKEY_USERS</i> にあるログオンしているユーザーのキーの一部であり、同じデータに関する <i>HKEY_LOCAL_MACHINE</i> のキーより優先されます。
HKEY_LOCAL_MACHINE	コンピュータ上のWindowsの設定と、Windowsのロード方法を定義します。
HKEY_USERS	ユーザーがコンピュータにログオンしていない場合のユーザープロファイルを定義する <i>DEFAULT</i> サブツリーと、現在ログオンしているユーザーのユーザープロファイルを定義するサブツリーから構成されます。
HKEY_CURRENT_CONFIG	ハードウェアプロファイルを定義します。ハードウェアプロファイルは、インストールしたソフトウェアによる、利用可能なハードウェアの使用法の定義です。 <i>HKEY_LOCAL_MACHINE\Software</i> のキーと <i>HKEY_LOCAL_MACHINE\System</i> のキーが関連付けられます。

3.7 ゲストのセッション

これらのサブツリーは、いずれもキーの階層ツリーに展開されます。次の図は、レジストリ表示パネルで、ホスト コンピュータの Windows レジストリを展開した状態を示しています。



左側のキー ペインにはレジストリ キーが一覧され、右側の値ペインにはキー ペインで選択したキーの値レコードが表示されます。

キー ペイン

このペインには、展開可能なキーのツリー構造が、名前付きフォルダとして表示されます。[+] ボタンをクリックするとキーが展開され、[-] ボタンをクリックすると畳まれます。キー フォルダをダブルクリックして、展開と収納を切り替えることもできます。キー フォルダをクリックするとフォルダが開き、そのキーの値レコードが値ペインに表示されます。

一度も開かれていないキー フォルダはグレイで表示され、開かれたキー フォルダは黄色で表示されます。

値ペイン

キー ペインでキーを選択すると、このペインにその値がレコードとして次の内容の表で表示されます。

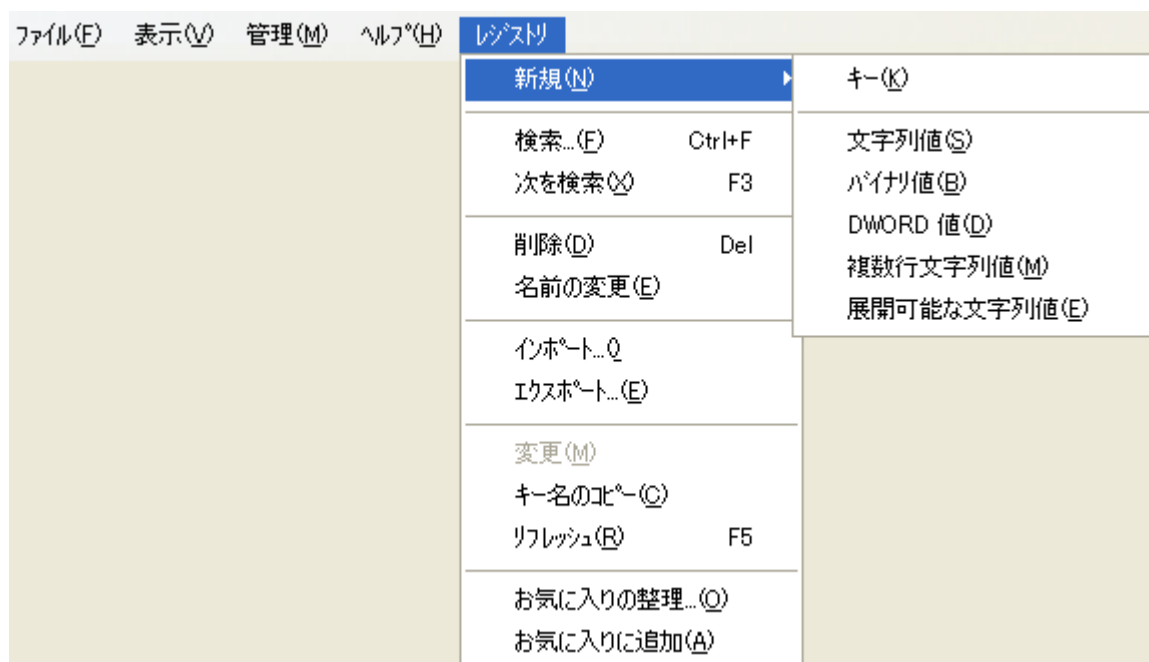
- ・ **名前**：値の種類を表すアイコンと値の名前。先頭の値の名前は、常に *(Default)* です。
- ・ **種類**：値の種類（以下の表を参照してください）。
- ・ **データ**：値のデータ。データの形式は、値の種類によって異なります（以下の表を参照してください）。先頭の値は、常に *(value not set)* になります。

表内のコントロールについては、「[テーブル コントロール](#)」を参照してください。

値の型	種類	データ形式
文字列	REG_SZ	単独の文字列
バイナリ	REG_BINARY	16 進数のペアを連結した単独の文字列。個々の 16 進数のペアが 1 バイトの値と解釈される
DWORD	REG_DWORD	1 ~ 8 桁の 16 進数または 10 進数で構成される単独の文字列
複数の文字列	REG_MULTI_SZ	NULL 文字で区切られた複数の文字列
展開可能文字列	REG_EXPAND_SZ	単独の文字列（他の値に展開される環境変数を含めることが可能）

[メニュー バー](#)で [レジストリ] を選択するか、ALT+R を押すと、次のメニューが表示されます。

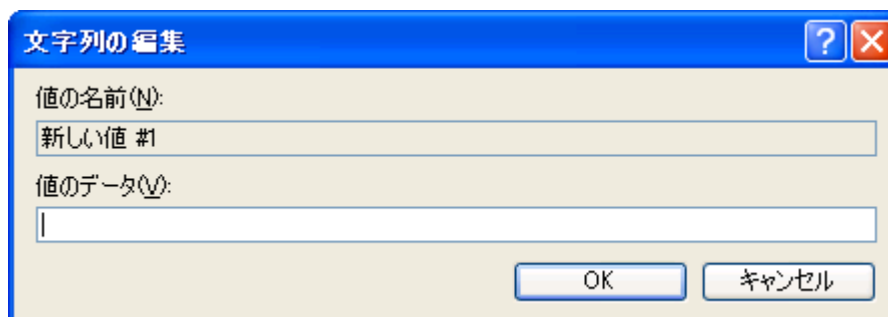
レジストリ メニュー



新規：このコマンドは以下のコマンドに拡張されます。

キー：このコマンドを選択すると、選択しているキーのサブキーとして、新しいキーが作成されます。強調表示されたデフォルトの名前は、必要に応じて直接入力するか、(CTRL+V) でクリップボードから貼り付けて変更できます。

文字列値：このコマンドを選択すると、文字列のレコードが作成されます。強調表示されたデフォルトの値名は、必要に応じて直接入力するか、(CTRL+V) でクリップボードから貼り付けて変更できます。値レコードを右クリックして [変更] を選択すると、次のウィンドウが表示されます。

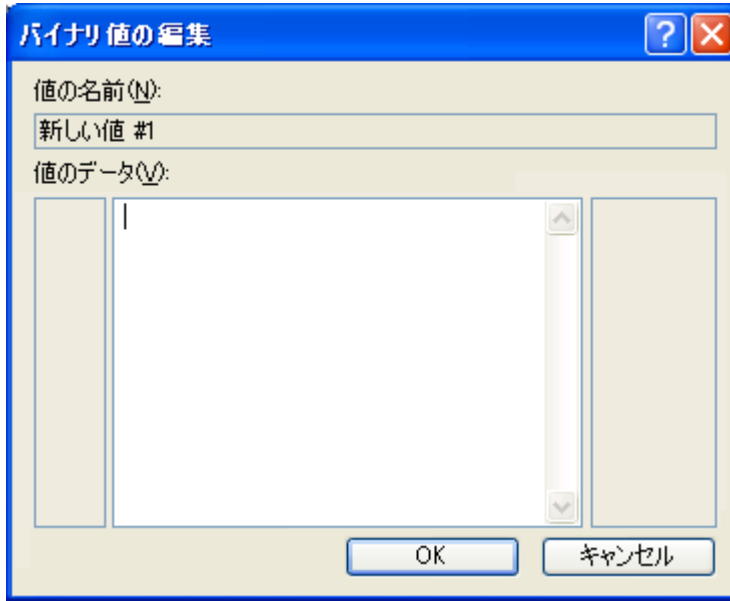


値の名前：値の名前が表示されます。このフィールドを変更することはできません。

値のデータ：値のデータを文字列として、このフィールドに入力します。

3.7 ゲストのセッション

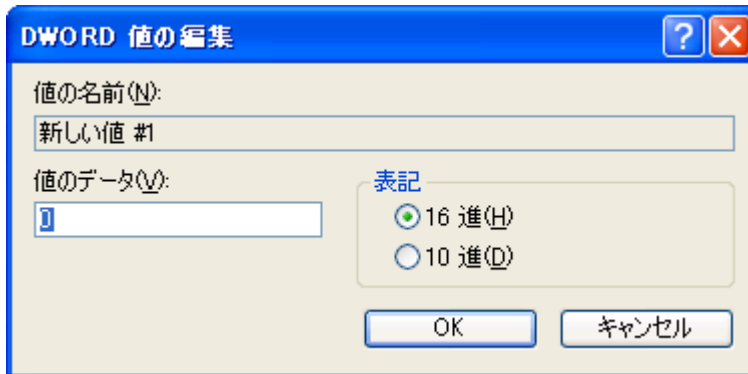
バイナリ値：このコマンドを選択すると、バイナリ値が作成されます。強調表示されたデフォルトの値名は、必要に応じて直接入力するか、(CTRL+V) でクリップボードから貼り付けて変更できます。値レコードを右クリックして [変更] を選択すると、次のウィンドウが表示されます。



値の名前：値の名前が表示されます。このフィールドを変更することはできません。

値のデータ：値のデータを文字列または 16 進数のペアの組み合わせとして、このペインに入力します。

DWORD 値：このコマンドを選択すると、DWORD 値が作成されます。強調表示されたデフォルトの値名は、必要に応じて直接入力するか、(CTRL+V) でクリップボードから貼り付けて変更できます。値レコードを右クリックして [変更] を選択すると、次のウィンドウが表示されます。



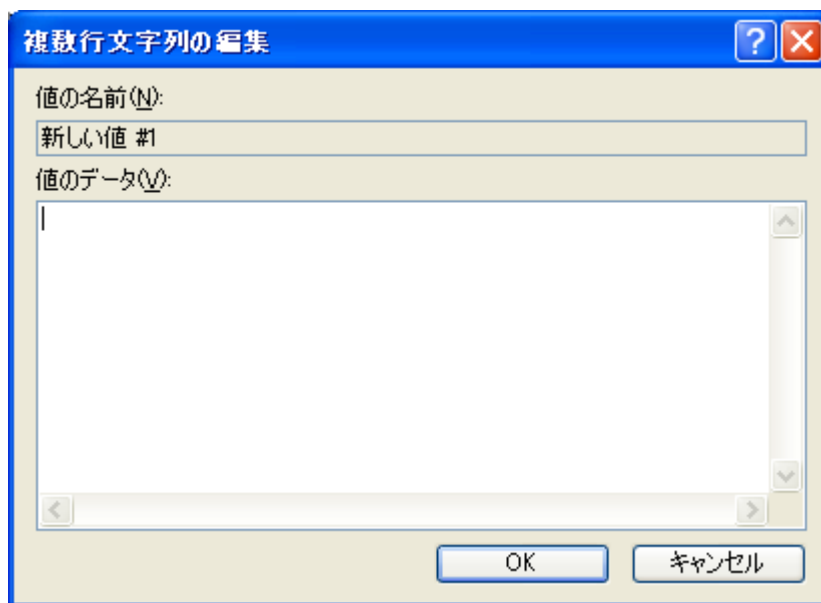
値の名前：値の名前が表示されます。このフィールドを変更することはできません。

値のデータ：値のデータを、選択した基数に基づく 1～8 桁の文字列として、このフィールドに入力します。基数については、次の説明を参照してください。

表記：次のいずれかのオプションを選択します。

- **16 進**：このオプションを選択すると、入力した文字列は 16 進数として解釈されます (デフォルト)。
- **10 進**：このオプションを選択すると、入力した文字列は 10 進数として解釈されます。

複数行文字列値：このコマンドを選択すると、複数の文字列で構成される値が作成されます。強調表示されたデフォルトの値名は、必要に応じて直接入力するか、(CTRL+V) でクリップボードから貼り付けて変更できます。値レコードを右クリックして [変更] を選択すると、次のウィンドウが表示されます。



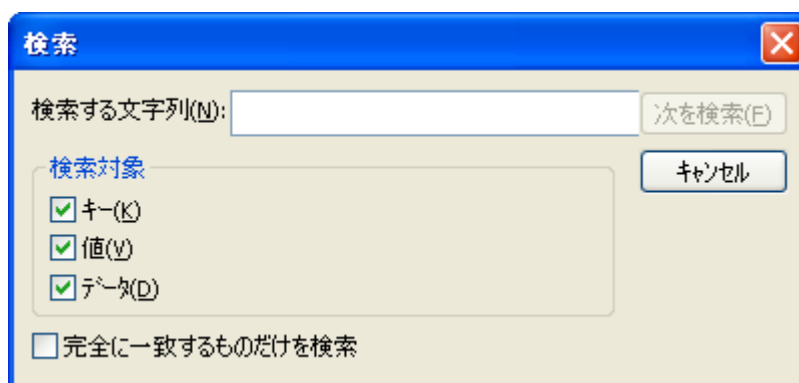
値の名前：値の名前が表示されます。このフィールドを変更することはできません。

値のデータ：値のデータを、NULL 文字で区切った複数の文字列として、このペインに入力します。

展開可能な文字列値：このコマンドを選択すると、展開可能な文字列で構成される値が作成されます。強調表示されたデフォルトの値名は、必要に応じて直接入力するか、(CTRL+V) でクリップボードから貼り付けて変更できます。値レコードを右クリックして [変更] を選択すると、上に示した [Edit String] ウィンドウが表示され、値のデータを指定できます。

検索...：このコマンドを選択するか、CTRL+F を押すか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

検索



検索する文字列：検索する文字列を、このフィールドに入力します。

[検索対象] セクション

キー：このボックスにチェックマークを付けたままにすると、指定した文字列を含む名前のキーが検索されます (デフォルト：チェック済み)。

値：このボックスにチェックマークを付けたままにすると、指定した文字列を含む名前の値が検索されます (デフォルト：チェック済み)。

3.7 ゲストのセッション

データ : このボックスにチェックマークを付けたままにすると、指定した文字列を含む値のデータが検索されます (デフォルト : チェック済み)。

完全に一致するものだけを検索 : このボックスにチェックマークを付けると、指定した文字列に完全に一致する要素だけが検索されます (デフォルト : チェックなし)。

次を検索 : このボタンをクリックするか F3 キーを押して、選択したキーまたは値から下方向に検索を開始または再開します。

ヒント : 検索を使えば、アプリケーションを削除した後、不要になったレジストリ設定を効果的に削除できます。

次を検索 : このコマンドを選択するか F3 キーを押すと、*[Find]* ウィンドウで指定した文字列に合致する次のキーや値が検索されます。

削除 : キー フォルダや値レコードを選択して、このコマンドを選択するか、DELETE キーを押すか、あるいは**ツールバー**の対応するボタンをクリックすると、選択したキーや値を削除できます (削除前に確認ダイアログボックスが表示されます)。標準で定義されているサブツリーと、値が (*default*) のレコードは削除できません。

警告 : キーを削除すると、その配下のサブツリーもすべて削除されます。

名前の変更 : キーや値レコードを選択して、このコマンドを選択すると、そのキーや値の名前がフレームで囲まれて強調表示され、名前を変更できる状態になります。標準で定義されているサブツリーと、 (*default*) の値名は名前を変更できません。

インポート... : このコマンドを選択するか、**ツールバー**の対応するボタンをクリックすると、Windows の *[ファイルを開く]* ダイアログボックスに似た *[レジストリ ファイルのインポート]* ウィンドウが表示されます。このウィンドウの *[ファイルの種類]* フィールドは「Registration Files (*.reg)」に設定されており、任意のレジストリ ファイルの位置に移動してファイルを開き、そのファイルの内容をレジストリにインポートできます。

警告 : レジストリ ファイルをインポートすると、重複する既存のレジストリキーと値レコードは上書きされます。そのため、インポートしたキーや値レコードと、既存のキーや値レコードの間に不整合があると、レジストリが壊れてしまいます。

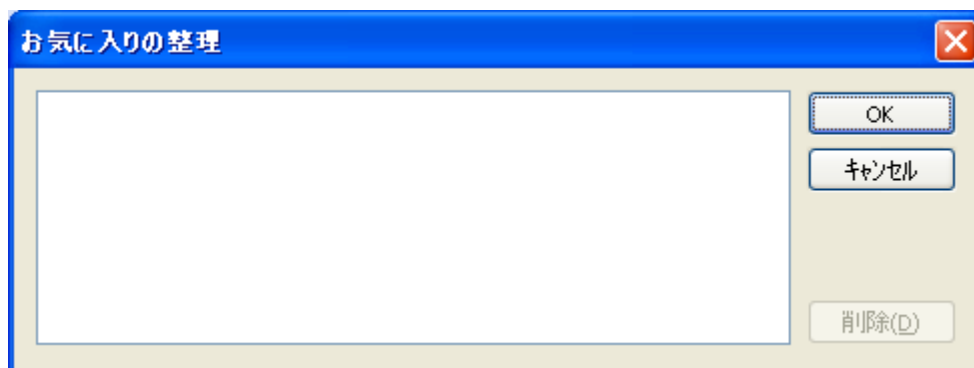
エクスポート... : キーを選択して、このコマンドを選択するか、**ツールバー**の対応するボタンをクリックすると、Windows の *[名前を付けて保存]* ダイアログボックスに似た *[レジストリ ファイルのエクスポート]* ウィンドウが表示されます。このウィンドウの *[ファイルの種類]* フィールドは「Registration Files (*.reg)」に設定されており、選択したキー分岐のキーと値レコードを含むファイルのパスと名前を指定します。

変更 : 値レコードを選択してこのコマンドを選択するか、**ツールバー**の対応するボタンをクリックすると、選択した値の型に応じて、前述した *[Edit]* <値の種類> ウィンドウが表示され、値のデータを変更できます。値レコード (*default*) のデータ (*value not set*) は変更できません。

キー名のコピー : キーを選択して、このコマンドを選択するか、**ツールバー**の対応するボタンをクリックすると、選択しているキーのレジストリ パスと名前がクリックボードにコピーされます。

リフレッシュ : このコマンドを選択するか、F5 キーを押すか、**ツールバー**の対応するボタンをクリックすると、ホスト コンピュータから新しいデータが取り込まれ、**表示パネル**の内容が更新されます。

お気に入りの整理... : このコマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。

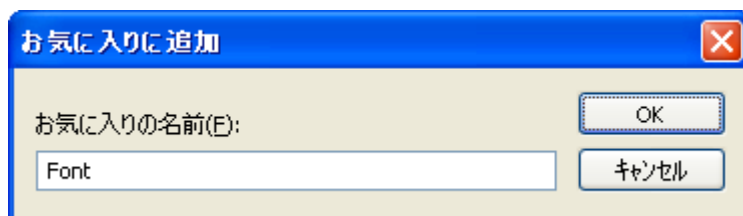


このペインの項目が、[ツールバー](#)の右側のドロップダウン ボックスに、お気に入り項目として一覧表示されます (初期設定では空白です)。

削除 : ペイン内のお気に入り項目を選択してこのボタンをクリックすると、その項目が削除されます。

お気に入りに追加 : キーを選択して、このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

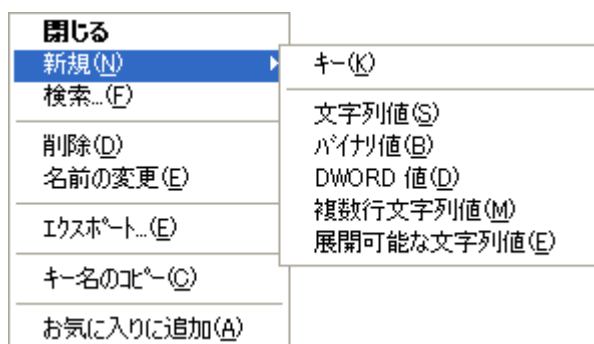
お気に入りに追加



お気に入りの名前 : 選択したキーの名前が表示されます。このフィールドの名前を必要に応じて編集し、追加したお気に入り項目の名前を変更します。

注意 : お気に入り項目は、[ツールバー](#)の右側にある [お気に入り] ドロップダウン ボックスのリストに一覧表示されます。

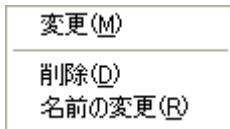
キー ペイン内のフォルダを右クリックすると、次のメニューが表示されます。



展開 / 収納 : この太字表示されているコマンドを選択するか、キーをダブルクリックすると、選択しているキー フォルダが展開されるか、展開していた部分がフォルダに収納されます。その他のメニュー コマンドの機能は、前述のとおりです。

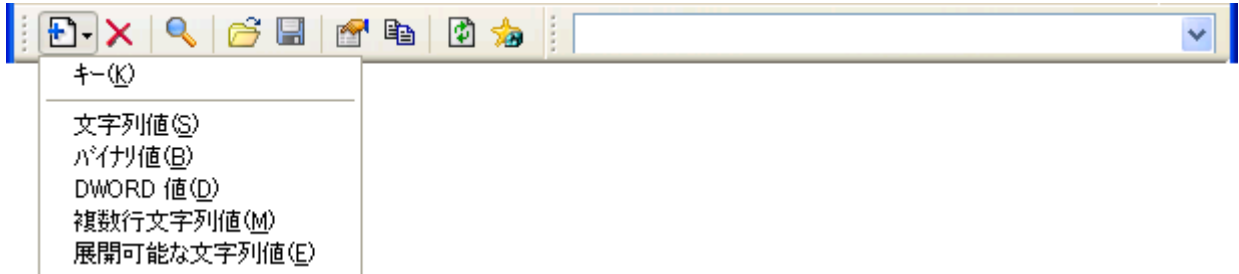
3.7 ゲストのセッション

値ペイン内でレコードを右クリックすると、次のメニューが表示されます。



メニュー コマンドの機能は、前述のとおりです。

次の [ツールバー](#) が表示されます ([\[表示\]メニュー](#)の [\[ツールバー\]](#) コマンドで非表示に設定した場合を除く)。



新規：このボタンをクリックするか、[\[レジストリ\]](#)メニューの対応するコマンドを選択すると、[\[新規\]](#)サブメニューが表示されます ([「レジストリメニュー」](#)を参照)。



削除：キー フォルダや値レコードを選択して、このボタンをクリックするか、[\[レジストリ\]](#)メニューの対応するコマンドを選択すると、選択したキーや値レコードを削除できます (削除前に確認ダイアログ ボックスが表示されます)。標準で定義されているサブツリーと、値が (*default*) のレコードは削除できません。

警告：キーを削除すると、その配下のサブツリーもすべて削除されます。



検索：このボタンをクリックするか、[\[レジストリ\]](#)メニューの対応するコマンドを選択すると、[検索](#)ウィンドウが表示されます。



インポート：このボタンをクリックするか、[\[レジストリ\]](#)メニューの対応するコマンドを選択すると、Windows の [\[ファイルを開く\]](#)ダイアログボックスに似た [\[レジストリ ファイルのインポート\]](#)ウィンドウが表示されます。このウィンドウの [\[ファイルの種類\]](#)フィールドは「Registration Files (*.reg)」に設定されており、任意のレジストリ ファイルの位置に移動してファイルを開き、そのファイル内の設定をレジストリにインポートできます。

警告：レジストリ ファイルをインポートすると、重複する既存のレジストリ キーと値レコードは上書きされます。そのため、インポートしたキーや値レコードと、既存のキーや値レコードの間に不整合があると、レジストリが壊れてしまいます。



エクスポート：キーを選択してこのボタンをクリックするか、[\[レジストリ\]](#)メニューの対応するコマンドを選択すると、Windows の [\[名前を付けて保存\]](#)ダイアログボックスに似た [\[レジストリ ファイルのエクスポート\]](#)ウィンドウが表示されます。このウィンドウの [\[ファイルの種類\]](#)フィールドは「Registration Files (*.reg)」に設定されており、選択したキー分岐のキーと値レコードを含むファイルのパスと名前を指定します。



変更：値レコードを選択してこのボタンをクリックか、[\[レジストリ\]](#)メニューの対応するコマンドを選択すると、選択した値の型に応じて、[\[Edit\]](#) <値の種類>ウィンドウが表示され ([「レジストリメニュー」](#)を参照)、値のデータを変更できます。値レコード (*default*) の値データ (*value not set*) は変更できません。



キー名のコピー: キーを選択して、このボタンをクリックするか、[レジストリ]メニューの対応するコマンドを選択すると、選択しているキーのレジストリパスと名前がクリックボードにコピーされます。



更新: このボタンをクリックするか、[レジストリ]メニューの対応するコマンドを選択するか、F5 キーを押すと、ホストコンピュータから新しいデータが取り込まれ、[表示パネル](#)の内容が更新されます。



お気に入りに追加: キーを選択してこのボタンをクリックするか、[レジストリ]メニューの対応するコマンドを選択すると、[お気に入りに追加](#)ウィンドウが表示されます。



お気に入り: デフォルトでは、このドロップダウンボックスのフィールドは空白です。このドロップダウンボックスのリストに、お気に入りのキーが入ります(初期設定では空白)。このリストでお気に入りキーを選択すると、その名前がフィールドに表示され、該当するキーがキーペインに表示されます。

3.7.5.7.5 サービス

[リモート管理](#)ウィンドウの [\[管理\]メニュー](#) または [ナビゲーションパネル](#) の [\[管理\]](#) セクションの [\[サービス\]](#) コマンドを選択すると、ホストコンピュータの各サービスが [表示パネル](#) に表示されます。

名前	説明	ステータス	スタートアップの...
Alerter	選択したユーザ...	停止	手動
Application Layer Gate...	インターネット接...	停止	手動
Application Management	割り当て、公開...	停止	手動
Automatic Updates	重要な Window...	開始	自動
Background Intelligent ...	データを転送す...	開始	手動
ClipBook	クリップブックを使...	停止	手動
COM+ Event System	サポートシステ...	開始	手動
COM+ System Application	コンポーネントオ...	停止	手動
Computer Browser	ネットワーク上の...	開始	自動
Cryptographic Services	提供される管理...	開始	自動
DHCP Client	IP アドレスと DN...	開始	自動
Distributed Link Trackin...	ネットワークドメ...	開始	自動
Distributed Transaction ...	データベース、メ...	停止	手動
DNS Client	このコンピュータ...	開始	自動
Network Connections	ネットワークとダ...	開始	手動

注意: ホストコンピュータのサービスを管理する権限がホストにない場合は、このコマンドは無効になります。ホストに必要な権限を割り当てるには、必要な権限を持つユーザーとして実行します([NetOp ホストプログラムのオプション](#)ウィンドウの [「\[別のユーザーとして実行\] タブ](#)」を参照)。[\[別のユーザーとして実行\] タブ](#)は、ホストで [リモートコントロール](#)セッションに表示することができます。

サービスを管理できるのは、Windows Server 2003、XP、2000、および NT が搭載されたコンピュータのみです。[\[サービス\]](#) コマンドが有効になるのも、ホストコンピュータでこれらのオペレーティングシステムが動作している場合に限られます。

[\[拡張\]](#) タブの左側には、選択しているサービスの名前、そのサービスを起動するリンク、およびサービスの説明が表示されます。

3.7 ゲストのセッション

もう 1 つの [標準] タブには、次のように表形式のサービス リストだけが表示されます。



名前	説明	ステータス	スタートアップの種類	ログオン
Alerter	選択したユーザ...	停止	手動	NT AUTHORITY...
Application Layer Gate...	インターネット接...	停止	手動	NT AUTHORITY...
Application Management	割り当て、公開...	停止	手動	LocalSystem
Automatic Updates	重要な Window...	開始	自動	LocalSystem
Background Intelligent ...	データを転送す...	開始	手動	LocalSystem
ClipBook	クリップブックを使...	停止	手動	LocalSystem
COM+ Event System	サポートシステ...	開始	手動	LocalSystem
COM+ System Application	コンポーネントオ...	停止	手動	LocalSystem
Computer Browser	ネットワーク上の...	開始	自動	LocalSystem
Cryptographic Services	提供される管理...	開始	自動	LocalSystem
DHCP Client	IP アドレスとDN...	開始	自動	LocalSystem
Distributed Link Trackin...	ネットワークドメ...	開始	自動	LocalSystem
Distributed Transaction ...	データベース、メ...	停止	手動	NT AUTHORITY...
DNS Client	このコンピュータ...	開始	自動	NT AUTHORITY...
Error Reporting Service	標準ではない環...	開始	自動	LocalSystem
Network Connections	ネットワークとダ...	開始	手動	LocalSystem
Network DDF	同じコンピュータ...	停止	手動	LocalSystem

この表には、利用可能なサービスのレコードが、次の内容で表示されます。

- ・ 名前：サービスのアイコンと名前
- ・ 説明：サービスの説明
- ・ ステータス：開始、停止、または一時停止
- ・ スタートアップの種類：自動、手動、または無効
- ・ ログオン：LocalSystem、NT AUTHORITY/LocalService、NT AUTHORITY/NetworkService または <ユーザー名>

表内のコントロールについては、「[テーブル コントロール](#)」を参照してください。

[メニュー バー](#)で [サービス] を選択するか、ALT+S を押すか、[表示パネル](#)内で右クリックすると、次のメニューが表示されます。



追加... : *Ctrl+N* : このコマンドを選択するか、CTRL+N を押すか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、次に示す [サービス インストール] ウィザードの最初の画面が表示されます。

サービス インストール

サービス インストール

フォワードスラッシュ文字とバックスラッシュ文字は無効なサービス名文字です。

サービス名:

サービス表示名:

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

サービス名 : このフィールドに、サービス名を入力します。

サービス表示名 : このフィールドに、サービスの表示名を入力します。

次へ> : このボタンをクリックすると、次に示す [サービス インストール] ウィザードの 2 番目の画面が表示されます。

サービス インストール

実行可能ファイルへの完全なパスを指定してください。パスとファイル名はシステム上のリモートドライブのものでなければなりません。

サービスの実行可能ファイルの位置:

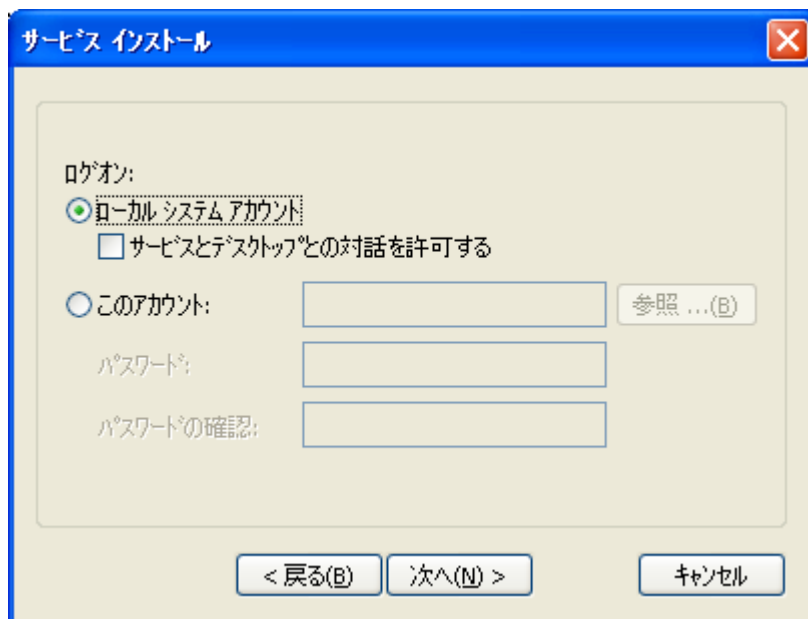
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

サービスの実行可能ファイルの位置 : サービスの実行可能ファイルのホスト コンピュータ上のパスと名前を、このフィールドに入力します。

< 戻る : このボタンをクリックすると、ウィザード内の前のウィンドウに戻ります。

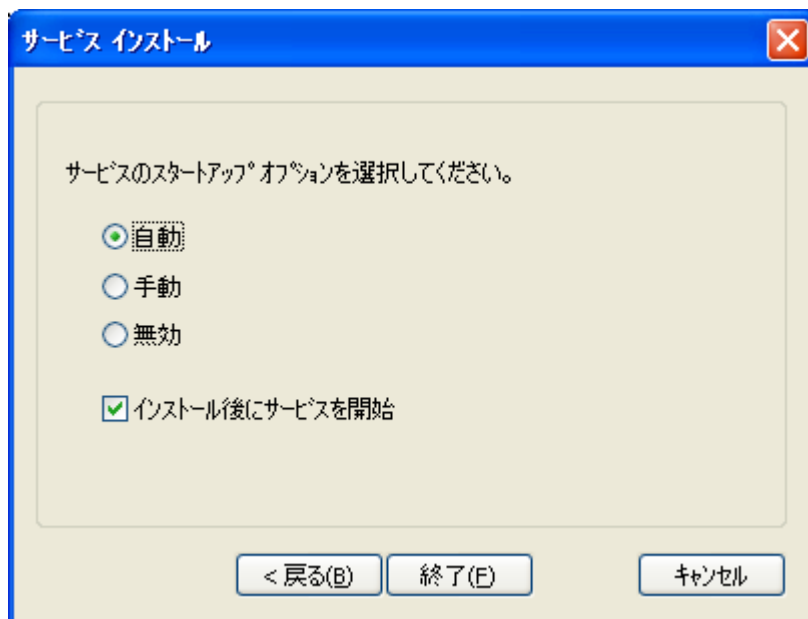
3.7 ゲストのセッション

次へ>: このボタンをクリックすると、次に示す [サービス インストール] ウィザードの 3 番目の画面が表示されます。



このウィンドウのオプションについては、[\[ログオン\] タブ](#) セクションで説明します。

次へ>: このボタンをクリックすると、次に示す [サービス インストール] ウィザードの 4 番目の画面が表示されます。



次のどちらかのオプションを選択します。

- **自動**: インストール中のサービスを、通常はオペレーティング システムの起動時に自動的に開始します (デフォルト)。
- **手動**: インストール中のサービスを手動で開始します。
- **無効**: インストール中のサービスの開始を無効にします。

インストール後にサービスを開始：このボックスにチェックマークが付いたままにしておくと、サービスがインストール後にただちに開始されます（デフォルト：チェック付き）。上のラジオボタンで「無効」を選択した場合、サービスは開始されません。

完了：このボタンをクリックするとサービスがホスト コンピュータにインストールされ、そのレコードが[表示パネル](#)に表示されます。

削除 Del：レコードを選択して、このコマンドを選択するか、DELETE キーを押すか、あるいは[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、選択したレコードを削除できます（削除前に確認ダイアログボックスが表示されます）。

注意：稼働中のアプリケーションのサービスを削除すると、そのサービスは停止済みかつ無効になります。そのアプリケーションが終了すると、レコードは削除されます。

注意：サービスを削除すると、そのサービスに依存しているサービスも影響を受けることがあります（「[依存](#)」[タブ](#)」を参照）。

開始：このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の「開始/再開」ボタンをクリックすると、サービスが開始されます（コマンドやボタンが無効になっている場合を除く）。

停止：このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、選択したサービスが停止します（コマンドやボタンが無効になっている場合を除く）。

一時停止：このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、選択したサービスが一時停止します（コマンドやボタンが無効になっている場合を除く）。

再開：このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の「開始/再開」ボタンをクリックすると、サービスが再開されます（コマンドやボタンが無効になっている場合を除く）。

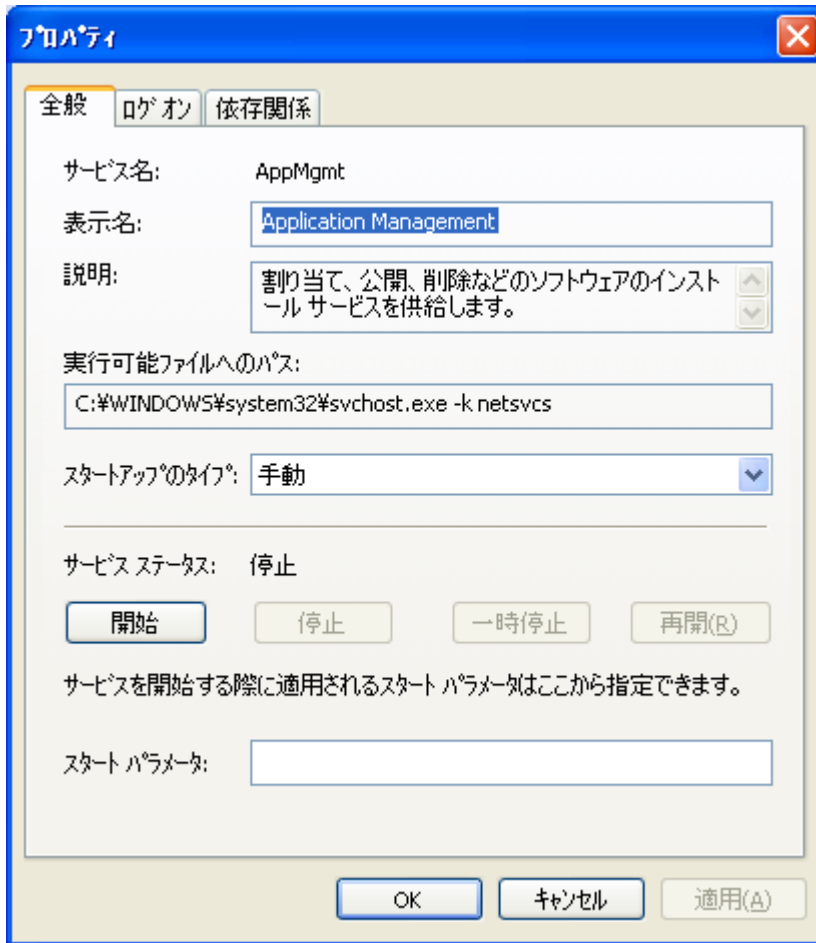
再起動：このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、選択したサービスが再起動されます（コマンドやボタンが無効になっている場合を除く）。

注意：サービスを停止、一時停止、または再起動すると、そのサービスに依存しているサービスも影響を受けることがあります（「[依存](#)」[タブ](#)」を参照）。

更新：このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、ホスト コンピュータから新しいデータが取り込まれ、[表示パネル](#)の内容が更新されます。

3.7 ゲストのセッション

プロパティ：レコードを選択して、このコマンドを選択するか、レコードをダブルクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



このウィンドウでは、選択したレコードに対応するホスト コンピュータのサービスのプロパティを、次の各タブで表示および変更できます。

- ・ [\[全般\] タブ](#)
- ・ [\[ログオン\] タブ](#)
- ・ [\[依存\] タブ](#)

注意：ホスト コンピュータのサービスのプロパティは、サービスの機能を十分に理解している場合を除き、変更しないでください。また、変更によって意図せぬ悪影響が生じた場合に、プロパティを元の設定に戻せるように、変更した内容を記録しておいてください。

[全般] タブ

この[リモート管理のサービス](#)タブでは、一般的なサービスのプロパティを設定します。

サービス名：サービス名が表示されます。

表示名：サービスの表示名が表示されます。

説明：サービスの説明が表示されます。

実行可能ファイルへのパス：ホスト コンピュータ上でのサービスの実行ファイルのパスが表示されます。

スタートアップのタイプ：このドロップダウン ボックスのフィールドに、選択しているサービスの種類が表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには 3 つのオプション（「自動」、「手動」、「無効」）が含まれており、リスト内のオプションを選択すると、そのオプションがフィールドにセットされます。

注意：無効を選択した場合は、[開始]のサービスは実行を続け、[停止]のサービスは「再開」できますが、[停止済み]のサービスを「開始」することはできません。

サービス ステータス：サービスの状態（開始、停止、または停止済み）が表示されます。

開始：このボタンが有効な場合、クリックするとサービスが開始されます。

停止：このボタンが有効な場合、クリックするとサービスが停止されます。

一時停止：このボタンが有効な場合、クリックするとサービスが一時停止されます。

再開：このボタンが有効な場合、クリックするとサービスが再開されます。

警告：サービスを停止または一時停止すると、そのサービスに依存しているサービスも影響を受けることがあります（「[依存](#)」タブを参照）。

スタート パラメータ：このフィールドは、サービスの状態が停止済みの場合のみ有効です。サービスの起動時に使用するコマンドラインのパラメータがあれば、このフィールドで指定します。

注意：[スタート パラメータ] フィールドに入力したパラメータは保存されません。円記号(¥)はエスケープ文字と解釈されます。パラメータに円記号自体を含める場合は、円記号を2つ続けて入力します。

[ログオン] タブ

プロパティ

全般 ログオン 依存関係

ログオン:

ローカルシステムアカウント

サービスとデスクトップとの対話を許可する

このアカウント:

パスワード:

パスワードの確認:

参照...(B)

OK キャンセル 適用(A)

この[リモート管理のサービス](#)タブでは、選択したレコードに対応するホスト コンピュータのサービスのログオン プロパティを設定します。

3.7 ゲストのセッション

ログオン名：次のいずれかのオプションを選択します。

- ローカル システム アカウント：このオプションを選択すると、選択しているレコードに対応するホスト コンピュータのサービスが、ローカル システム アカウントでログオンします。ローカル システム アカウントは、ホスト コンピュータには十分な権限を持ちますが、他のコンピュータには権限を持ちません（通常はこのオプションがデフォルトです）。
 - デスクトップでの対話型サービスを許可：このボックスにチェックマークを付けると、サービスがデスクトップにウィンドウを表示し、ユーザーによる対話型操作が可能になります（このオプションは通常、チェックされていません）。
- このアカウント：[]：このオプションを選択すると、選択しているサービスがホストコンピュータへのログオンに使用するユーザーとパスワードを、横のフィールドに入力できます。

注意：選択しているホスト コンピュータのサービスにローカル サービス アカウントを使用させるには、`NT AUTHORITY\LocalService` を指定します。一方、ネットワーク サービス アカウントを使用させるには、`NT AUTHORITY\NetworkService` を指定します。これらのアカウントには、パスワードは指定しないでください。

参照：このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

ユーザーの選択

ユーザー名	フルネーム	説明
-------	-------	----

ユーザー名	フルネーム	説明
-------	-------	----

次から名前を一覧表示：このドロップダウン ボックスのフィールドには、通常ホスト コンピュータの名前が表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには、ホスト コンピュータで認識されている各ドメインの名前が一覧されます。リストから名前を選択すると、それがフィールドに表示されます。

グループおよびユーザー：このペインには、[次から名前を一覧表示] ドロップダウン ボックスのフィールドに表示されているコンピュータまたはドメイン内の各ユーザーが、表形式で一覧表示されます。表には次の列があります。

- ・ ユーザー名：Windows のログオン ユーザー名

- ・ フルネーム : Windows ユーザーのフルネーム (指定されている場合のみ)
- ・ 説明 : Windows ユーザーの説明 (指定されている場合のみ)

表内のコントロールについては、「[テーブル コントロール](#)」を参照してください。

レコードをダブルクリックすると、下の「追加されたユーザー」ペインに追加されます。

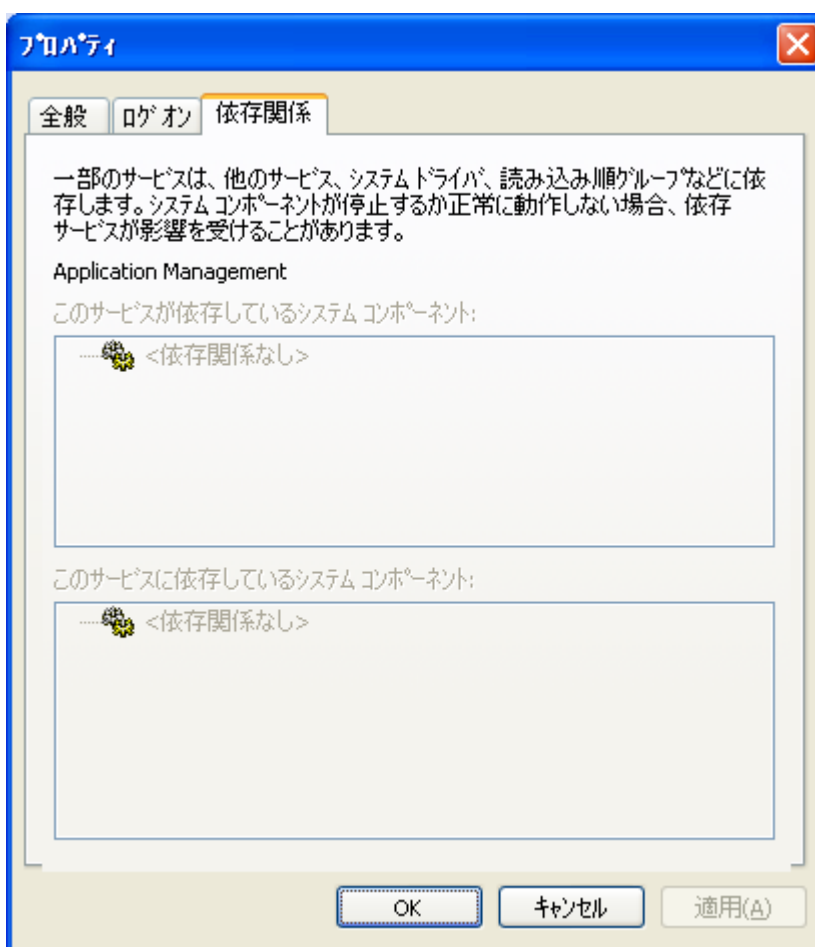
追加されたユーザー : このペインに入れることができるレコードは、1 件のみです。このペインからレコードを削除するには、そのレコードをダブルクリックします。

OK : このボタンをクリックするとウィンドウが閉じ、「追加されたユーザー」ペイン内のレコードのユーザー名が、「プロパティ」ウィンドウの「このアカウント」フィールドに表示されます。

パスワード : 「このアカウント」フィールドに指定したユーザー名と組み合わせて使用されるパスワードを、このフィールドに入力します。キーボードから入力した文字は、フィールド内ではアスタリスク (*) で表示されます。

パスワードの確認 : 確認のために、このフィールドにパスワードを再入力します。

「依存」タブ




このタブの上のペインには、選択したレコードのサービスが依存するシステム コンポーネントが表示されます。下のペインには、このサービスに依存するシステム コンポーネントが表示されます。依存関係が存在する場合、ペインの背景は白、存在しない場合はグレイになります。このタブで依存関係を変更することはできません。


警告 : 選択したレコードのサービスに依存するシステム コンポーネントが存在する場合、サービスのプロパティを変更すると、コンピュータが正しく機能しなくなる可能性があります。

3.7 ゲストのセッション

次のツールバーが表示されます（「[表示](#)」メニューの「[ツールバー](#)」コマンドで非表示に設定した場合を除く）。





 **追加**：このボタンをクリックするか、[\[サービス\]](#)メニューの対応するコマンドを選択するか、CTRL+N を押すと、[サービス インストール](#) ウィザードの最初の画面が表示されます。


 **削除**：レコードを選択して、このボタンをクリックするか、[\[サービス\]](#)メニューの対応するコマンドを選択するか、DELETE キーを押すと、選択したレコードを削除できます（削除前に確認ダイアログボックスが表示されます）。


注意：稼働中のアプリケーションのサービスを削除すると、そのサービスは停止済みかつ無効になります。そのアプリケーションが終了すると、レコードは削除されます。

注意：サービスを削除すると、そのサービスに依存しているサービスも影響を受けることがあります（「[依存](#)」タブを参照）。


 **開始/再開**：このボタンをクリックするか、[\[サービス\]](#)メニューの対応するコマンドを選択すると、サービスが開始または再開されます（コマンドやボタンが無効になっている場合を除く）。

 **停止**：このコマンドを選択するか、[\[サービス\]](#)メニューの対応するボタンをクリックすると、選択したサービスが停止します（コマンドやボタンが無効になっている場合を除く）。

 **一時停止**：このコマンドを選択するか、[\[サービス\]](#)メニューの対応するボタンをクリックすると、選択したサービスが一時停止します（コマンドやボタンが無効になっている場合を除く）。

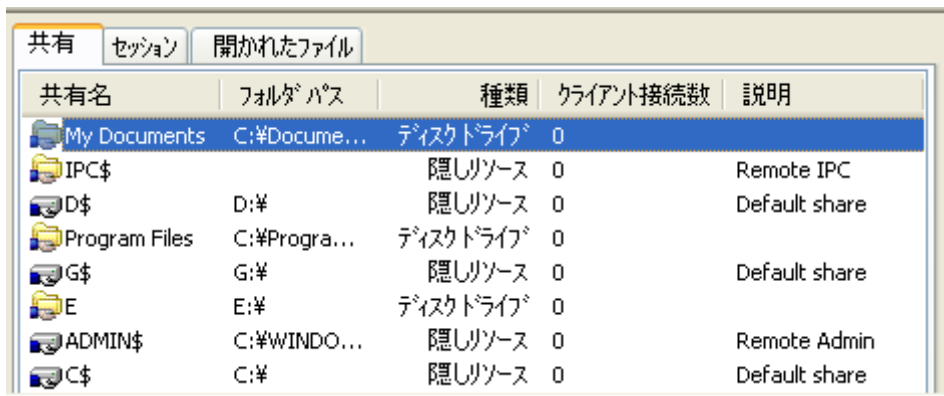
 **再起動**：このコマンドを選択するか、[\[サービス\]](#)メニューの対応するボタンをクリックすると、サービスが再起動されます（コマンドやボタンが無効になっている場合を除く）。

注意：サービスを停止、一時停止、または再起動すると、そのサービスに依存しているサービスも影響を受けることがあります（「[依存](#)」タブを参照）。

 **更新**：このボタンをクリックするか、[\[サービス\]](#)メニューの対応するコマンドを選択するか、F5 キーを押すと、ホスト コンピュータから新しいデータが取り込まれ、[表示パネル](#)の内容が更新されます。

3.7.5.7.6 共有フォルダ

[リモート管理](#)ウィンドウの「[管理](#)」メニューまたは[ナビゲーション パネル](#)の「[管理](#)」セクションの「[共有フォルダ](#)」コマンドを選択すると、ホストコンピュータの共有リソース、セッションおよび開かれているファイルが[表示パネル](#)に表示されます。



共有名	フォルダパス	種類	クライアント接続数	説明
My Documents	C:\%Docume...	ディスクドライブ	0	
IPC\$		隠しリソース	0	Remote IPC
D\$	D:\	隠しリソース	0	Default share
Program Files	C:\%Progra...	ディスクドライブ	0	
G\$	G:\	隠しリソース	0	Default share
E	E:\	ディスクドライブ	0	
ADMIN\$	C:\%WINDO...	隠しリソース	0	Remote Admin
C\$	C:\	隠しリソース	0	Default share

注意：ホストコンピュータの共有フォルダを管理する権限がホストにない場合は、このコマンドは無効になります。ホストに必要な権限を割り当てるには、必要な権限を持つユーザーとして実行します（[NetOp ホストプログラムのオプション](#) ウィンドウの「[別のユーザーとして実行](#)」タブを参照）。「[別のユーザーとして実行](#)」タブは、ホストで[リモート コントロール](#) セッションに表示することができます。

この[表示パネル](#)には、以下のタブがあります。

- ・ [\[共有\] タブ](#)
- ・ [\[セッション\] タブ](#)
- ・ [\[開かれたファイル\] タブ](#)

[共有] タブ

この[リモート管理](#)ウィンドウの[共有フォルダ](#) タブには、ホスト コンピュータ上の共有リソースがレコードとして、表形式で表示されます。表には次の列があります。

- ・ **共有名：**共有リソースを表すアイコンと共有リソース名
- ・ **フォルダ パス：**ディレクトリのパスまたはリソースの説明
- ・ **種類：**隠しリソースまたはリソースのタイプ名
- ・ **クライアント接続数：**接続しているリモート コンピュータの数
- ・ **説明：**共有リソースの説明（ない場合もあります）

表内のコントロールについては、「[テーブル コントロール](#)」を参照してください。

特殊共有

管理およびシステムでの使用を目的として通常、共有名の末尾が \$ 記号の特殊共有が、オペレーティング システムによって隠しリソースとして自動的に作成されます。

注意：通常、特殊共有の削除や変更が必要になることはありません。特殊共有を削除または変更しても、サーバーのサービスまたはコンピュータの再起動時に、元の状態に復元されます。

次のような特殊共有が、[\[共有\] タブ](#)に表示されます。

[<ドライブ レター>\\$](#)：管理者によるドライブのルート ディレクトリへの接続を可能にします。

[ADMIN\\$](#)：コンピュータのリモート管理を可能にします。この共有のパスは、常にシステムのルート ディレクトリのパスになります。

[IPC\\$](#)：リモート管理の実行中およびコンピュータの共有リソースを表示する際に、名前付きパイプによるプログラム間通信を可能にします。これを削除することはできません。


[NETLOGON](#)：ドメイン コントローラに必要な共有です。これを削除すると、ドメイン クライアントコンピュータは機能しなくなります。

[SYSVOL](#)：ドメイン コントローラに必要な共有です。これを削除すると、ドメイン クライアントコンピュータは機能しなくなります。

[PRINT\\$](#)：プリンタのリモート管理に使用されます。

[FAX\\$](#)：ファックスの一時ファイルと表紙ページが格納されるサーバ フォルダです。クライアントコンピュータがファックス送信時に使用します。

[セッション] タブ



共有	セッション	開かれたファイル						
ユーザー	コンピュータ	種類	トランスポート	開かれたフ...	接続時間	アイドル...	ゲスト	
CG	192.168.102.92	Win...	{Device}...	2	00:00:20	00:00:00	No	

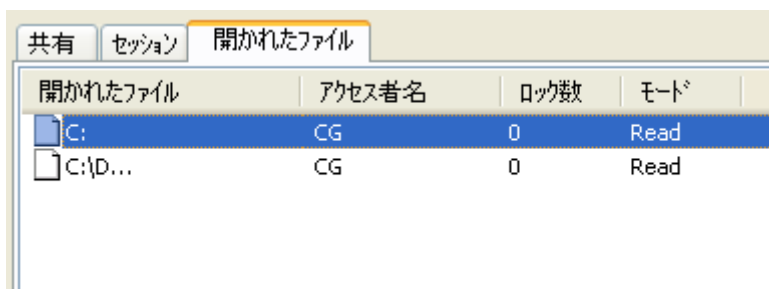
3.7 ゲストのセッション

このタブには、ホスト コンピュータ上の共有フォルダ セッションがレコードとして、表形式で表示されます。表には次の列があります。

- ・ ユーザー：セッション ユーザーのアイコン および Windows のログオン名
- ・ コンピュータ：セッション コンピュータの名前またはアドレス
- ・ 種類：セッション コンピュータのオペレーティング システムの種類
- ・ トランスポート：セッションの通信デバイス指定
- ・ 開かれたファイル数：セッションで開いているファイルの数
- ・ 接続時間：HH:MM:SS 形式の接続時間 (H= 時間、M= 分、S= 秒)
- ・ 経過時間：HH:MM:SS 形式の、セッション ユーザーが実行した最後のアクションからの経過時間 (H= 時間、M= 分、S= 秒)
- ・ ゲスト：セッション ユーザーが *Guest* アカウントでログオンしている場合、この列は「はい」になります。通常、*Guest* アカウントのユーザーに与えられる権限は、きわめて限定的です。その他のアカウントでログオンしている場合は「いいえ」になります。

表内のコントロールについては、「[テーブル コントロール](#)」を参照してください。

[開かれたファイル] タブ



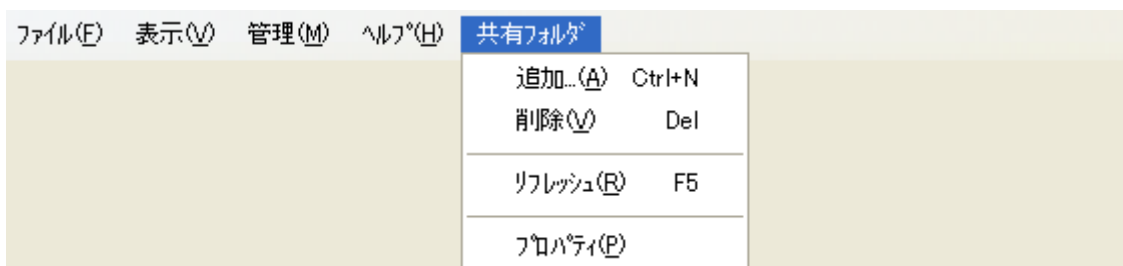
開かれたファイル	アクセス者名	ロック数	モード
C:	CG	0	Read
C:\D...	CG	0	Read

このタブには、ホスト コンピュータ上の共有フォルダ内の開かれているファイルがレコードとして、表形式で表示されます。表には次の列があります。

- ・ 開かれたファイル：ファイルのアイコン、パスおよび名前
- ・ アクセス者名：ファイル セッション ユーザーの、Windows のログオン名
- ・ ロック数：ファイルのロック数
- ・ モード：ファイルの許可設定

表内のコントロールについては、「[テーブル コントロール](#)」を参照してください。

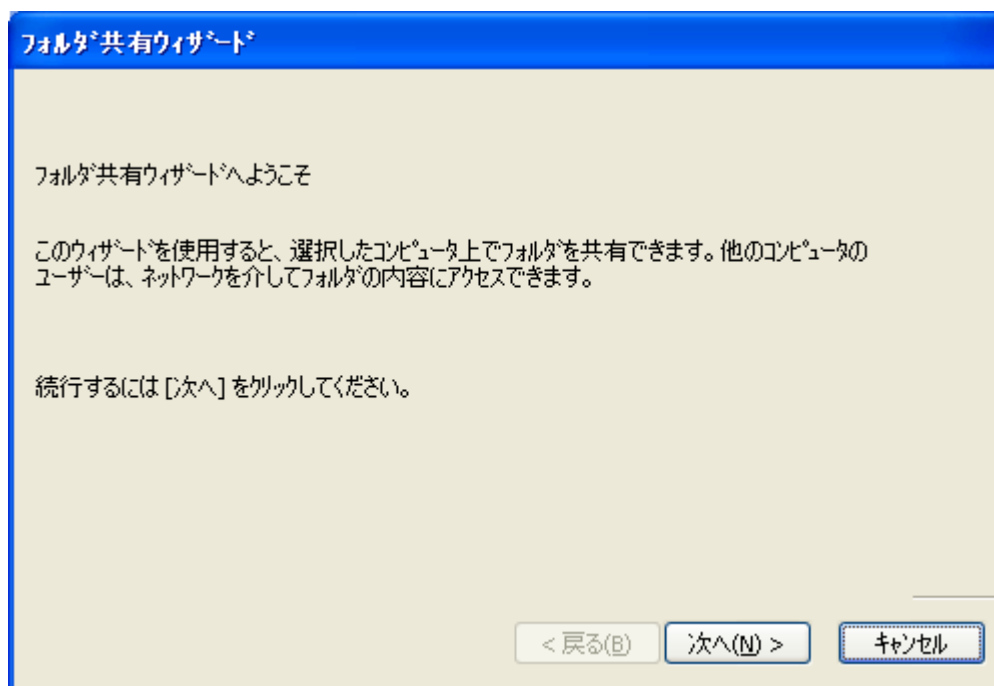
[メニュー バー](#)で [共有フォルダ] を選択するか、ALT+S を押すか、表示パネル内で右クリックすると、次のメニューが表示されます。



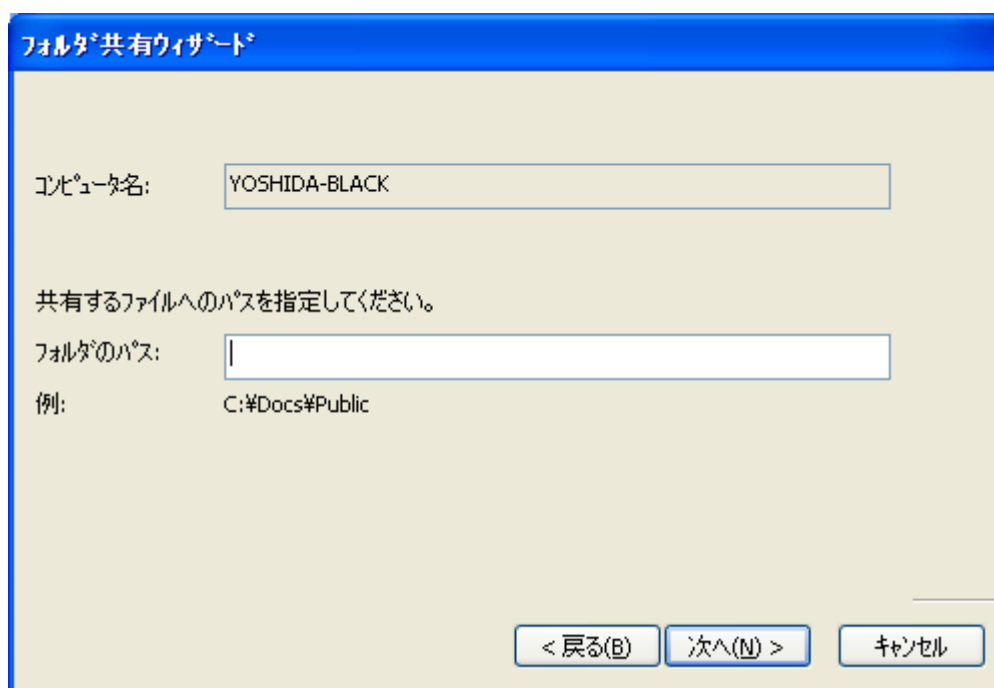
共有フォルダ
追加... (A) Ctrl+N
削除 (D) Del
リフレッシュ (R) F5
プロパティ (P)

追加...：[共有] タブを表示した状態で、このコマンドを選択するか、CTRL+N を押すか、あるいは [ツールバー](#) の対応するボタンをクリックすると、[共有フォルダ ウィザード] の最初の画面が表示されます。

共有フォルダ ウィザード



次へ>: このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



コンピュータ名: ホスト コンピュータの名前が表示されます。

フォルダ パス: 共有するホスト コンピュータ上のフォルダのパスを、このフィールドに指定します。

<戻る: このボタンをクリックすると、ウィザード内の前のウィンドウに戻ります。

3.7 ゲストのセッション

次へ>: このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

共有名: 共有名が表示されます (デフォルトでは、ウィザードの直前のウィンドウで指定したフォルダの名前が付いています)。この共有名は編集できます。

注意: 共有名の最後の文字に \$ を使用すると、その共有フォルダは隠しフォルダになり、参照しているネットワーク ユーザーには表示されません。ネットワーク ユーザーは、隠された共有フォルダにドライブを割り当てることができます。

共有のパス: ウィザードの直前の画面で指定した共有パスが表示されます。

説明: 共有の説明を、このフィールドに入力します (省略可)。入力した説明は、[共有] タブの [説明] 列に表示されます。

完了: このボタンをクリックすると [共有フォルダ ウィザード] が終了し、共有レコードが [共有] タブに追加されます。

ヒント: 共有にアクセス許可を設定するには、そのレコードをダブルクリックして [プロパティ] ウィンドウを開きます。以下の説明を参照してください。

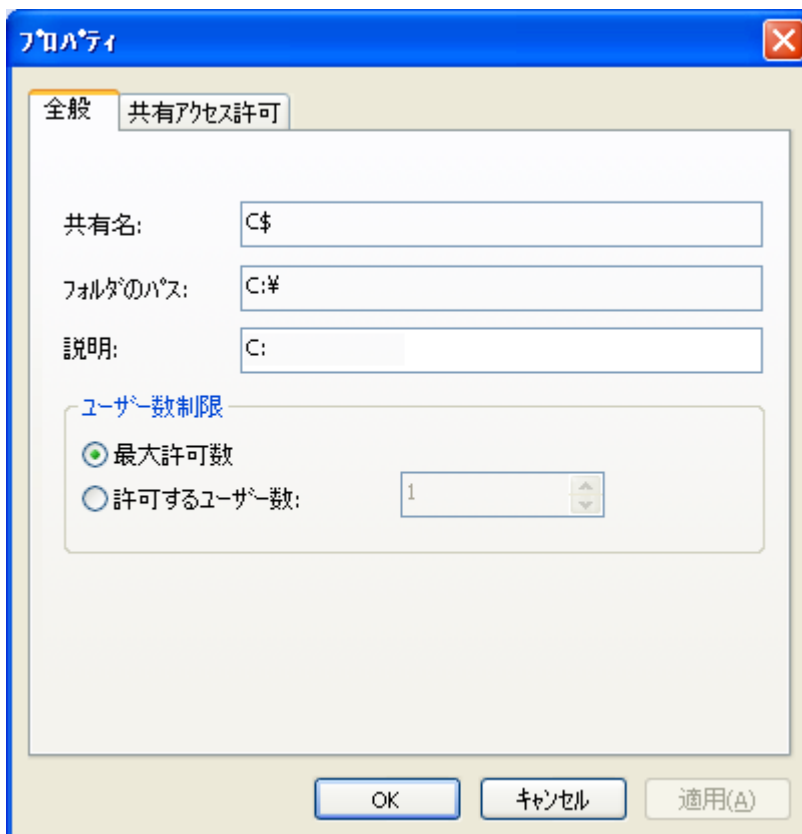
削除: [共有] タブ、[セッション] タブ、または [Open Files] タブでレコードを選択して、このコマンドを選択するか、DELETE キーを押すか、あるいは [ツールバー](#) の対応するボタンをクリックすると、レコードを選択した共有を削除したり、セッション ユーザーの接続を解除したりすることができます (削除や接続解除の前に、確認ダイアログボックスが表示されます)。

注意: [削除] コマンドは、セッション ユーザーがデータを失う原因になる場合があります。通常、[特殊共有](#) は削除すべきではありません。

リフレッシュ: このコマンドを選択するか、F5 キーを押すか、[ツールバー](#) の対応するボタンをクリックすると、ホスト コンピュータから新しい情報が取り込まれ、[表示パネル](#) の内容が更新されます。

プロパティ: [共有] タブを表示した状態で、レコードを選択して、このコマンドを選択するか、[ツールバー](#) の対応するボタンをクリックするか、あるいはレコードをダブルクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

プロパティ



このウィンドウには [\[全般\]](#) タブのほか、共有へのアクセス許可が割り当て可能な場合には、[\[共有アクセス許可\]](#) タブも表示されます。

[全般] タブ

このタブでは、共有の一般的プロパティを設定します。

共有名：共有名が表示されます（変更不可）。

フォルダのパス：共有のパスまたはリソース指定が表示されます（変更不可）。

説明：このフィールドの内容は、特殊共有によっては変更不可（文字がグレイ）となります。そうでない場合は、このフィールドの内容を変更することができ、それは [\[共有タブ\]](#) に表示されます。

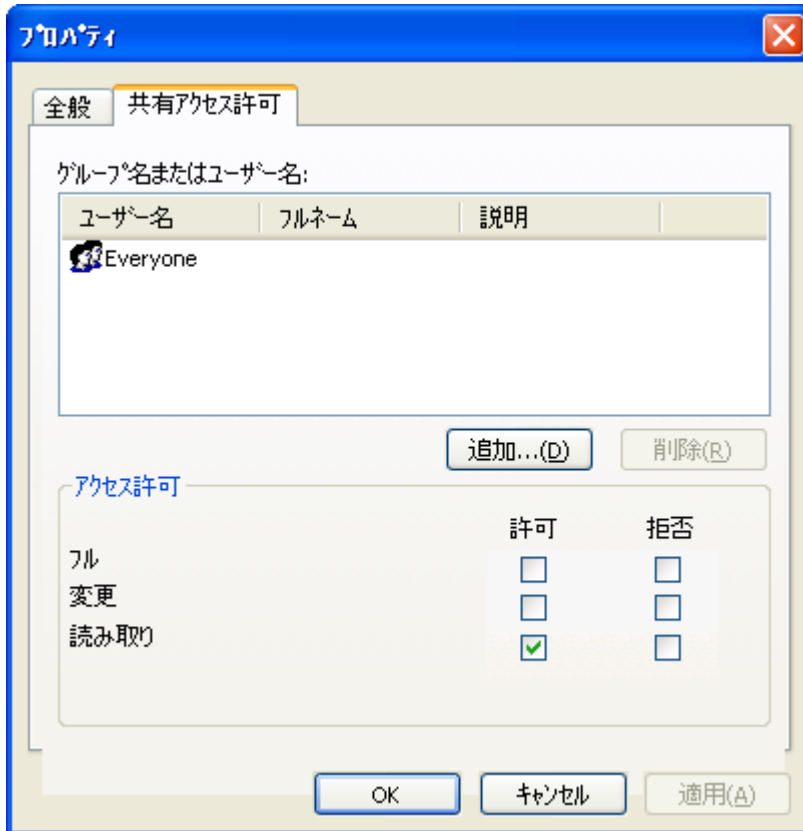
ユーザー数制限：一部の共有では、このセクション内のオプションは無効になっています。有効な場合、次のどちらかのオプションを選択します。

- 最大許可数**：最大限の数のユーザーに、共有の並行使用を許可します（デフォルト）。
- 許可するユーザー数**：共有を並行して使用できるユーザー数を制限する場合に、このオプションを選択します。コンボボックスに、許可する並行ユーザー数が表示されます（デフォルト：1）。この数を、上下の矢印ボタンをクリックして調整するか、ボックスに直接入力して上書きします。

注意：並行ユーザーの最大数は、購入いただいたソフトウェア ライセンスによって制限されることがあります。

3.7 ゲストのセッション

[共有アクセス許可] タブ



グループ名またはユーザー名：このペインには、グループとユーザーがレコードとして、表形式で一覧されます。表には、次の列があります。

- ・ ユーザー名：グループまたはユーザーのアイコンと名前
- ・ フルネーム：ユーザーのフルネーム（設定済みの場合のみ）
- ・ 説明：グループまたはユーザーの説明（設定済みの場合のみ）

表内のコントロールについては、「[テーブル コントロール](#)」を参照してください。

追加...：このボタンをクリックすると [ユーザーの選択](#) ウィンドウが表示され、グループやユーザーを追加できます。

削除：ペインでレコードを選択してこのボタンをクリックすると、レコードが削除されます。

アクセス許可：このセクションで、上のペインで選択したグループまたはユーザーのアクセス許可を設定します。アクセスを許可するには、[許可]列のボックスにチェックマークを付けます。[拒否]列のボックスにチェックマークを付けると、ファイル システム レベルで許可されていても、アクセスが拒否されます。

- ・ フルコントロール：変更の操作に加え、NTFS のファイルとフォルダを変更できます。
- ・ 変更：読み取りの操作に加え、ファイルとサブフォルダの追加、ファイル内のデータの変更、およびサブディレクトリとファイルの削除を実行できます。
- ・ 読み取り：ファイル名とサブフォルダ名の表示、ファイル内のデータの表示、およびプログラム ファイルの実行が許可されます。

注意：上位のアクセスのボックスにチェックマークを付けると、それより下のアクセスには、自動的に同じ列にチェックマークが付けられます。


共有のアクセス許可は、ネットワーク ユーザーだけに適用されます。ホストに直接ログインするユーザー（ターミナル サーバーのユーザーを含む）には適用されません。


アクセス許可を各グループに割り当てて、それらのグループにユーザーを追加する方法が、同じアクセス許可を複数のユーザーに割り当てる方法よりも推奨されます。

特殊共有を変更した場合でも、サーバーのサービスまたはコンピュータの再起動時に、元の許可が復元されます。


次のツールバーが表示されます（[\[表示\]メニュー](#)の [\[ツールバー\]](#) コマンドで非表示に設定した場合を除く）。




 **追加：** [\[共有\]](#) タブを表示した状態でこのボタンをクリックするか、[\[共有フォルダ\]](#) メニューの対応するコマンドを選択するか、CTRL+N を押すと、[共有フォルダ ウィザード](#) ウィザードの最初の画面が表示されます。

 **削除：** レコードを選択して、このボタンをクリックするか、[\[共有フォルダ\]](#) メニューの対応するコマンドを選択するか、DELETE キーを押すと、選択したレコードを削除できます（削除前に確認ダイアログボックスが表示されます）。

注意： [\[削除\]](#) コマンドは、セッション ユーザーがデータを失う原因になる場合があります。通常、[特殊共有](#) は削除すべきではありません。

 **更新：** このボタンをクリックするか、[\[共有フォルダ\]](#) メニューの対応するコマンドを選択するか、F5 キーを押すと、ホスト コンピュータから新しいデータが取り込まれ、[表示パネル](#)の内容が更新されます。

 **プロパティ：** [\[共有\]](#) タブを表示した状態で、レコードを選択してこのボタンをクリックするか、[\[共有フォルダ\]](#) メニューの対応するコマンドを選択するか、レコードをダブルクリックすると、[プロパティ](#) ウィンドウが表示されます。

3.7.5.7.7 インベントリ

[リモート管理](#) ウィンドウの [\[管理\]メニュー](#) または [ナビゲーション パネル](#) の [\[管理\]](#) セクションの [\[インベントリ\]](#) コマンドを選択すると、ホストコンピュータのインベントリが [表示パネル](#) に表示されます。

生成	項目	値
要約	日付	2006/04/04, 10:51:21
ハードウェア	方法	0 (0x0000)
コンピュータ	ホスト ID	YOSHIDA-BLACK
プロセッサ	通信プロファイル	TCP/IP
プロセッサ	XML スキーマのバージョン	2003077
メモリ		
コンピュータ		
ソフトウェア		
OS 環境		
インストールされたソフトウェア		
インストールされたホット フィック		

注意：ホストコンピュータが、Windows オペレーティング システムで動作していない場合は、このコマンドは無効になります。

ホスト コンピュータのインベントリは、[NetOp ゲスト ウィンドウ](#) の [\[インベントリ\]](#) タブの場合と同様に表示されます。これは表示されるだけで、ここでホスト コンピュータのインベントリ情報を保存することはできません。

3.7 ゲストのセッション

メニューバーで [インベントリ] を選択するか、ALT+I を押すと、次のメニューが表示されます。



更新 F5: このコマンドを選択するか、F5 キーを押すか、ツールバーの対応するボタンをクリックすると、ホスト コンピュータから新しい情報が取り込まれ、表示パネルの内容が更新されます。

次のツールバーが表示されます ([表示] メニューの [ツールバー] コマンドで非表示に設定した場合を除く)。

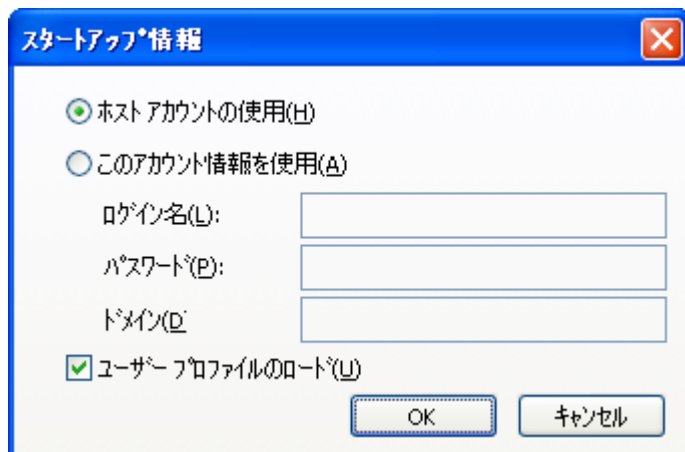


更新: このボタンをクリックするか、[インベントリ] メニューの対応するコマンドを選択するか、F5 キーを押すと、ホスト コンピュータから新しい情報が取り込まれ、表示パネルの内容が更新されます。

3.7.5.7.8 コマンド コンソール

リモート管理ウィンドウの [管理] メニューまたはナビゲーション パネルの [管理] セクションの [コマンド コンソール] コマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。

スタートアップ情報



次のどちらかのオプションを選択します。

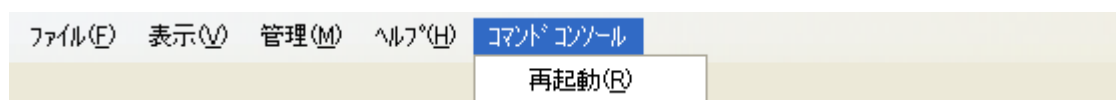
- ホスト アカウントの使用:** ホスト コンピュータの Windows にログオンしたユーザーの権限で、コマンド コンソール 表示を開きます (デフォルト)。
- このアカウント情報を使用:** 下のフィールドで指定したユーザーの権限でコマンド コンソール表示を開きます。
 - ログイン名:** ホスト コンピュータのドメインで認識されるユーザー名を、このフィールドに入力します。
 - パスワード:** []: このフィールドには、対応するパスワードを指定します。入力された文字は、アスタリスク (*) で表示されます。
 - ドメイン:** このフィールドには、対応するドメインを指定します。
- ユーザー プロファイルのロード:** このボックスにチェックマークを付けたままにすると、指定したユーザー名に対するホスト コンピュータのユーザー プロファイルがロードされます (デフォルト: チェック済み)。

[OK] をクリックすると、ホスト コンピュータの [コマンド プロンプト] 画面が、[表示パネル](#)に表示されます。

A screenshot of a Windows XP Command Prompt window. The title bar is not visible. The text inside the window reads: "Microsoft Windows XP [Version 5.1.2600] (C) Copyright 1985-2001 Microsoft Corp. C:\Program Files\Danware Data\NetOp Remote Control\SecurityServer>_". The cursor is positioned at the end of the command line. The window has a standard Windows XP scroll bar at the bottom.

この画面で、ホスト コンピュータで実行するコマンドを指定できます。

[メニュー バー](#)で [コマンド コンソール] を選択するか、ALT+C を押すと、次のメニューが表示されます。



再起動 : このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、コマンド コンソールが再起動し、[スタートアップ情報](#) ウィンドウが表示されます。

次の[ツールバー](#)が表示されます ([\[表示\] メニュー](#)の [ツールバー] コマンドで非表示に設定した場合を除く)。



再起動 : このボタンをクリックするか、[コマンド コンソール] メニューの対応するコマンドを選択すると、コマンド コンソールが再起動し、[スタートアップ情報](#) ウィンドウが表示されます。

3.7 ゲストのセッション

3.7.5.7.9 システム制御

リモート管理ウィンドウの [\[管理\]](#) メニューまたは [ナビゲーション パネル](#) の [\[管理\]](#) セクションの [\[システム制御\]](#) コマンドを選択すると、次のような [表示パネル](#) の内容が表示されます。

現在のホストの状態
ログオン YOSHIDA-BLACK#yoshida

実行するアクション

- コンピュータのロック(L) (Windows NT、2000、XP のみ)
- ユーザーのログオフ(O)
- コンピュータの再起動(C)
- コンピュータのシャットダウン(D)

オプション

ユーザーにプロンプト表示(P)
プロンプトのタイムアウト: 0 秒
表示するメッセージ:
 ユーザーがキャンセルするのを許可(U)

データを保存しないで開いているプログラムを閉じる(V)

送信(S)

これらの要素を使用して、ホスト コンピュータの状態を制御することができます。

[現在のホストの状態] セクション

このセクションには、ホスト コンピュータのユーザー ログオン状態が表示されます。

ログオフ/ログオン: ログオフは、ホスト コンピュータにログオンしているユーザーがいないことを示します。ログオンは、ホスト コンピュータにログオンしているユーザーの名前を示します。

注意: ホスト コンピュータには、[リモート コントロール](#) セッションからログオンできます。

[実行するアクション] セクション

[表示パネル](#) の [\[送信\]](#) ボタンまたは [ツールバー](#) の [\[コマンド送信\]](#) ボタンをクリックしたときに実行されるアクションを、次の中から選択します。

- コンピュータのロック (Win NT/2000/XP のみ):** このオプションを選択するか、[L] キーを押すと、Windows 2003、XP、2000、または NT が動作しているホスト コンピュータをロックします (デフォルト)。
- ユーザーのログオフ:** このオプションを選択するか、[O] キーを押すと、ホスト コンピュータからユーザーをログオフさせます。
- コンピュータの再起動:** このオプションを選択するか、[C] キーを押すと、ホスト コンピュータを再起動します。
- コンピュータのシャットダウン:** このオプションを選択するか、[D] キーを押すと、ホスト コンピュータをシャットダウンします。

【オプション】セクション

このセクションでは、[実行するアクション] セクションで選択したアクションの挙動を、以下のオプションを設定して変更できます。これらのオプションの設定は省略可能です。

プロンプトのタイムアウト： [] 秒： このボックスをクリックして(または [P] キーを押して) チェックマークを付けると、ポップアップ メッセージを表示して、ホスト コンピュータのユーザーにアクションの実行を通知します (デフォルトでチェック付き)。このコンボボックスで、ユーザーに通知を行ってから、[実行するアクション] セクションで選択したアクションを実行するまでの時間 (秒数) を指定します。この数を、上下の矢印ボタンをクリックして調整するか、ボックスに直接入力して上書きします (デフォルト：1、有効範囲：1～999)。

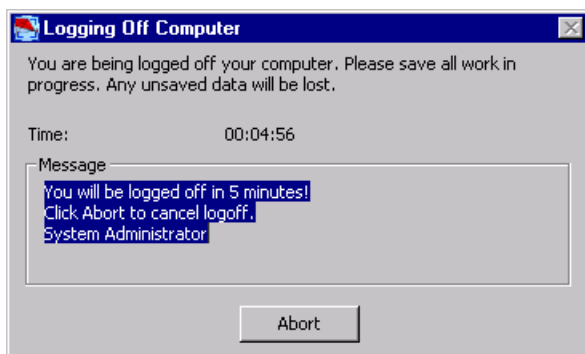
表示するメッセージ： ホスト コンピュータでポップアップ メッセージに表示するテキストを、このペインに入力します。最大 4 行まで入力できます。

ユーザーがキャンセルするのを許可： このボックスをクリックして (または [U] キーを押して) チェックマークを付けると、ホスト コンピュータに表示されるポップアップ メッセージで [中止] ボタンが有効になり、ホスト コンピュータのユーザーがアクションをキャンセルできるようになります (デフォルトではチェックなし)。

データを保存しないで開いているプログラムを閉じる： このボックスをクリックして(または [V] キーを押して) チェックマークを付けると、アクションの実行時にデータを保存せずに、開いているホスト コンピュータのアプリケーションを終了します (デフォルトではチェックなし)。

送信： このボタンをクリックするか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックするか、[システム制御] メニューの対応するコマンドを選択するか、あるいは [S] キーを押すと、上のセクションで指定したアクションが実行されます。

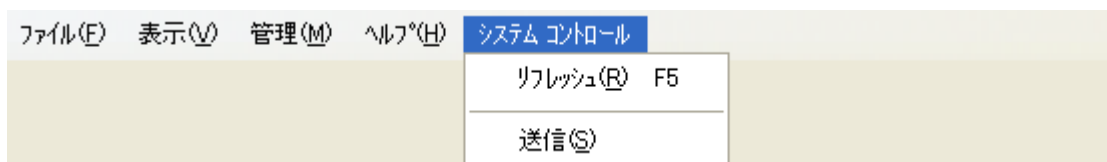
ホスト コンピュータでは、ポップアップ メッセージは次のウィンドウに表示されます。



Time: の横に HH:MM:SS 形式 (H= 時間、M= 分、S= 秒) で表示されている時間がカウントダウンし、00:00:00 になるとシステム制御アクションが実行されます。

注意： 通常、いったん送信したシステム制御コマンドを、取り消すことはできません。ただし、ホスト コンピュータに表示されるポップアップ メッセージで [Abort] ボタンが有効になっている場合は、このボタンを[リモート コントロール](#)表示でクリックすれば、アクションをキャンセルできます。

[メニューバー](#)で [システム制御] を選択するか、ALT+S を押すか、表示パネル内で右クリックすると、次のメニューが表示されます。



リフレッシュ： このコマンドを選択するか、F5 キーを押すか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、ホスト コンピュータから新しい情報が取り込まれ、[表示パネル](#)の内容が更新されます。

送信： このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)または[表示パネル](#)の対応するボタンをクリックするか、[S] キーを押すと、表示パネル内で指定したアクションが実行されます。

3.7 ゲストのセッション

次のツールバーが表示されます（[\[表示\]メニュー](#)の [\[ツールバー\]](#) コマンドで非表示に設定した場合を除く）。

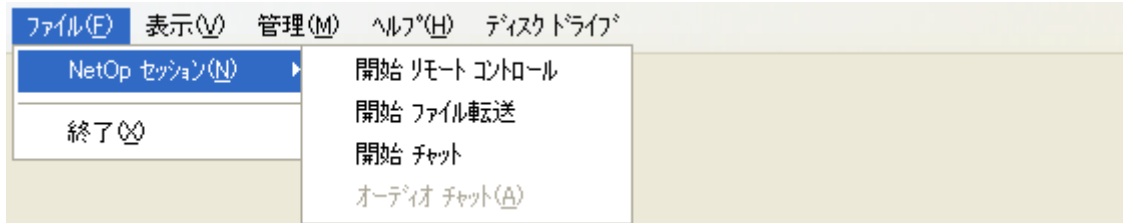


リフレッシュ：このボタンをクリックするか、[\[システム制御\]](#) メニューの対応するコマンドを選択するか、F5 キーを押すと、ホスト コンピュータから新しいデータが取り込まれ、[表示パネル](#)の内容が更新されます。

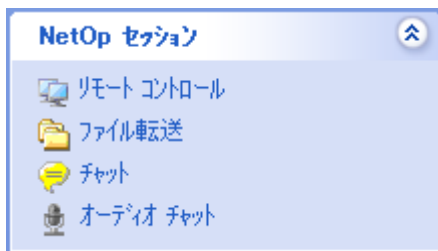
送信：このボタンをクリックするか、[表示パネル](#)の対応するボタンをクリックするか、[\[システム制御\]](#) メニューの対応するコマンドを選択するか、あるいは [S] キーを押すと、[表示パネル](#)で指定したアクションが実行されます。

3.7.5.8 NetOp セッション

その他の NetOp セッションを、リモート管理のホストで、[\[ファイル\]メニュー](#)の [\[NetOp セッション\]](#) コマンドの次のサブメニューから開始したり停止したりできます。



また、[ナビゲーションパネル](#)の [\[NetOp セッション\]](#) の次のセクションからも開始および停止が行えます。



[\[ファイル\]メニュー](#)の各コマンドの名前には、実行中のセッションが存在しない場合は **開始**、セッションが実行中の場合は **停止** が、それぞれ先頭に付きます。

セッションが実行中の場合は、[ナビゲーションパネル](#)のコマンドアイコンに、赤色の「X」が表示されます。

コマンドを選択して、セッションを開始または停止します。

注意：ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)によって、ゲストがあるタイプのセッションを開始することを拒否された場合、このコマンドは実行されません（[「ゲストが行える操作」](#)を参照）。

[\[オーディオビデオ チャットの開始\]](#) は、ゲストとホストのいずれか、または両方で音声対話が無効になっているか、いずれかで別のオーディオ セッションが実行されているときには、無効になっています。

3.7.5.9 詳細情報

[ナビゲーション パネル](#)の [\[詳細\]](#) セクション



このセクションには、次の詳細情報が表示されます。

- ・ <NetOp ホスト ID>
- ・ <ホスト コンピュータの IP アドレスまたは MAC アドレス>
- ・ <ゲストの通信プロファイルの名前>
- ・ 通信の暗号化の種類を表すアイコンと暗号化の<説明>
- ・ <ホスト コンピュータのオペレーティング システム名>
- ・ リモート管理セッションの経過時間 (HH:MM:SS 形式、H= 時間、M= 分、S= 秒)

[\[詳細\]](#) セクションから実行できるアクションはありません。

3.8 セッションのツール

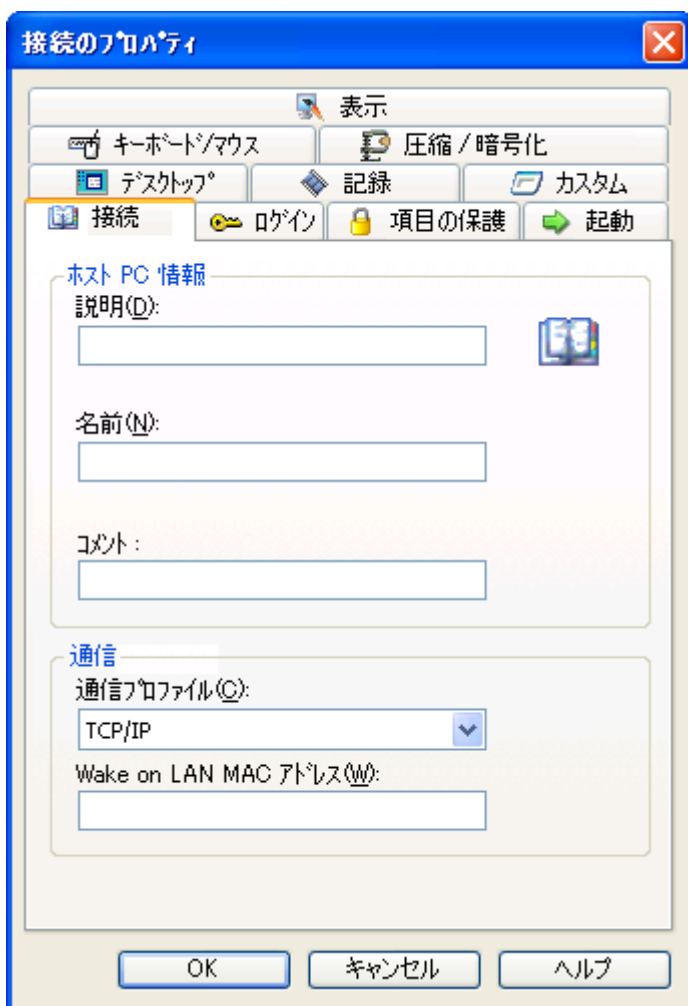
この節では、以下のセッション ツールについて説明します。

- ・ [接続のプロパティ](#)
- ・ [NetOp マーカー ユーティリティ](#)
- ・ [NetOp スクリプト](#)
- ・ [プログラムの実行](#)
- ・ [コマンドの実行](#)
- ・ [NetOp メッセージ](#)
- ・ [インベントリの取得](#)

3.8 セッションのツール

3.8.1 接続のプロパティ

[接続のプロパティ] ウィンドウでは、ホストへの接続時に適用可能な個々の設定を次のウィンドウで指定できます。



このウィンドウには次のタブがあります。

- ・ [\[接続\] タブ](#)
- ・ [\[ログイン\] タブ](#)
- ・ [\[項目の保護\] タブ](#)
- ・ [\[起動\] タブ](#)
- ・ [\[表示\] タブ](#)
- ・ [\[キーボード/マウス\] タブ](#)
- ・ [\[圧縮/暗号化\] タブ](#)
- ・ [\[デスクトップ\] タブ](#)
- ・ [\[記録\] タブ](#)
- ・ [\[カスタム\] タブ](#)

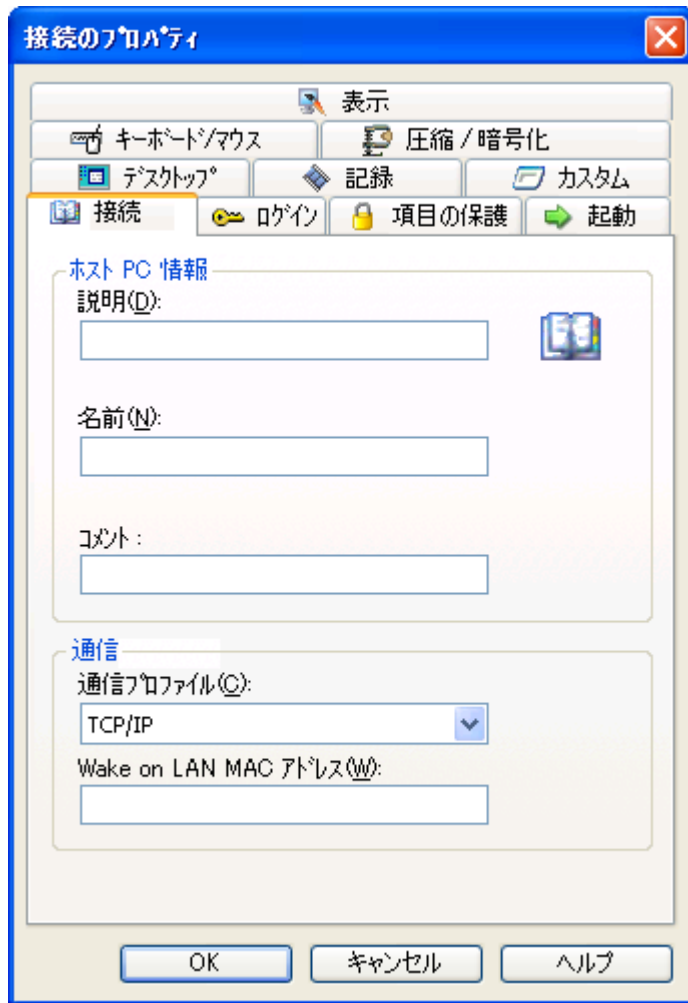
[接続のプロパティ] ウィンドウは、タブ パネルの各タブ、およびリモート コントロール画面から表示できます。

- [電話帳] タブを表示している場合は、[編集] メニューまたはレコード ペインコンテキストメニューで [新規作成]-[電話帳エントリ] コマンドを選択するか、ツールバーのその他のボタンの [電話帳エントリ] ボタンをクリックします。すべてのタブのオプションがデフォルトに設定された状態で [接続のプロパティ] ウィンドウが開き、電話帳レコードを作成できます。
- [電話帳] タブまたは[履歴] タブを表示している場合は、レコード ペインのレコードを選択して、[編集] メニュー (またはレコード ペインのコンテキストメニュー) で [接続のプロパティ] コマンドを選択するか、ツールバーのその他のボタンの [接続のプロパティ] ボタンをクリックします。すべてのタブに選択したレコード接続プロパティが表示された状態で [接続のプロパティ] ウィンドウが開き、プロパティの表示と編集を行うことができます。
- [簡易接続] タブを表示している場合は、ボタンの [接続のプロパティ] ボタンをクリックします。[ログイン] タブ、[起動] タブ、[表示] タブ、[キーボード/マウス] タブ、[圧縮/暗号化] タブ、[デスクトップ] タブ、[記録] タブの各タブに、[簡易接続] タブからの接続に適用する接続プロパティが表示された状態で [接続のプロパティ] ウィンドウが開き、これらのプロパティの表示と編集を行うことができます。
- [ヘルプ呼出] タブを表示している場合は、レコードを選択して、[編集] メニュー (またはコンテキストメニュー) で [接続のプロパティ] コマンドを選択するか、ツールバーのその他のボタンの [接続のプロパティ] ボタンをクリックします。[ログイン] タブ、[起動] タブ、[表示] タブ、[キーボード/マウス] タブ、[圧縮/暗号化] タブ、[デスクトップ] タブ、[記録] タブの各タブに、選択したレコード接続プロパティが表示された状態で [接続のプロパティ] ウィンドウが開き、プロパティの表示と編集を行うことができます。
- リモート コントロール画面では、ウィンドウのタイトル バーメニューで [接続のプロパティ] コマンドを選択するか、ツールバーとツールボックスのコントロール ボタンの [接続のプロパティ] ボタンをクリックします。一部有効になった[表示] タブ、[キーボード/マウス] タブ、[圧縮/暗号化] タブ、[デスクトップ] タブ、[記録] タブの各タブに、編集可能なリモート コントロールセッションの接続プロパティが表示された状態で [接続のプロパティ] ウィンドウが開き、プロパティの表示と編集を行うことができます。

3.8 セッションのツール

3.8.1.1 [接続] タブ

このタブは、ウィンドウを [\[電話帳\] タブ](#) または [\[履歴\] タブ](#) から開いた場合にのみ表示されます。



このタブでは、接続プロパティを設定します。

ホスト PC 情報

説明: このフィールドに、ホスト レコードを識別する名前を指定します (デフォルトでは空白)。このフィールドでは名前を指定または編集できます。空白にしておくと、直下の [\[名前\]](#) フィールドの内容が、このフィールドに自動的に入力されます。

電話番号 [または IP アドレス]: このフィールドは、[\[通信\]](#) セクションの下にある [\[通信プロファイル\]](#) ドロップダウンボックスで選択される通信プロファイルで、[回線通信またはゲートウェイ](#) または [ネットワーク ポイントツーポイント通信](#) デバイスが使用される場合に表示されます (デフォルトでは空白)。ここには、直接接続されるホスト、または接続するホストネットワークの NetOp ゲートウェイの電話番号または IP アドレスを指定する必要があります。

名前 (ゲートウェイ): [\[通信\]](#) セクションの下にある [\[通信プロファイル\]](#) ドロップダウンボックスで選択される通信プロファイルで [ネットワーク通信](#) デバイスが使用される場合は、このフィールドにホストで有効になっている名前を入力する必要があります ([「\[名前\] タブ」](#) を参照)。ホスト ネットワークの NetOp ゲートウェイを通じて接続している場合は、このフィールドにはホスト名を指定できます。

コメント: [タブ パネル](#) の [タブ レコード ペイン](#) の [\[詳細\]](#) ビューの [\[コメント\]](#) 列に表示されるコメントを、必要に応じて指定します (デフォルトでは空白)。

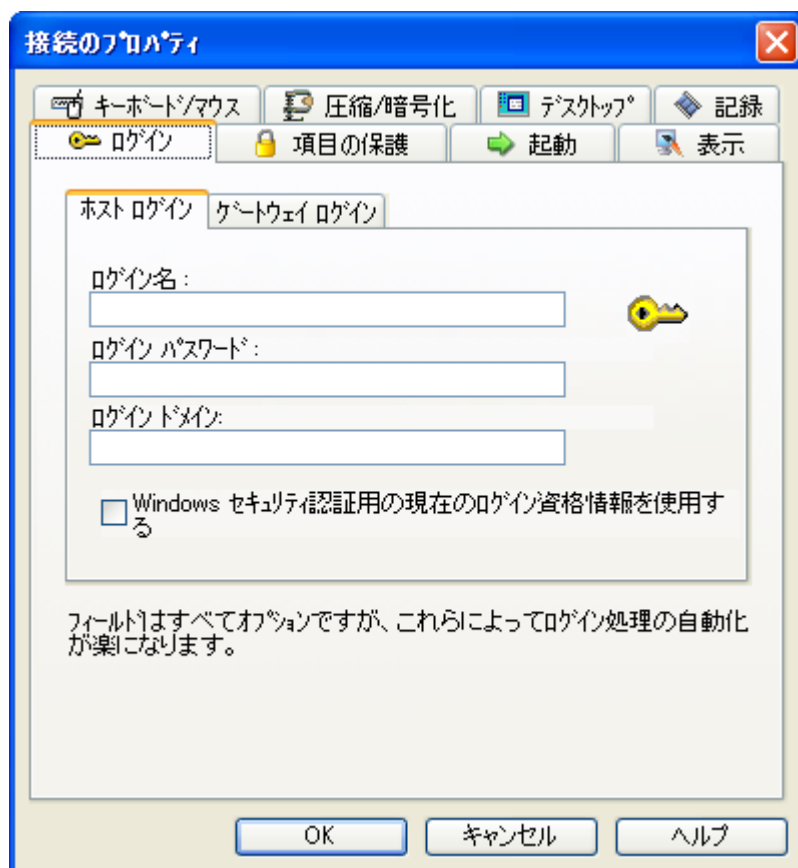
通信

通信プロファイル: このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択されている通信プロファイル (デフォルト: *TCP/IP*) が一覧表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには、利用可能なゲスト通信プロファイルが一覧されており、リストから名前を選択すると、それがフィールドに指定されます。

Wake on LAN MAC address: このフィールドに、ホスト コンピュータの *Wake on LAN* 型ネットワーク カードの MAC アドレスを指定すると、ホストへの接続時にホスト コンピュータを休止モードから復帰させることができます (デフォルトでは空白)。「[コマンドの実行](#)」を参照してください。

3.8.1.2 [ログイン] タブ

このタブは、ウィンドウを [リモート コントロール](#) 画面から開いた場合を除き、表示されます。



このタブで、ホストや接続しているホスト ネットワークのゲートウェイのログオン資格を指定することで、ログオン資格のプロンプト表示なしで接続することが可能になります。

このタブには、同じ内容の次の 2 つのタブがあります。

ホスト ログイン/ゲートウェイ ログイン

ログイン名: ログオン名が必要な場合、このフィールドに入力します (デフォルト: 空白)。

ログイン パスワード: 対応するログオン用パスワードが必要な場合、このフィールドに入力します (デフォルト: 空白)。

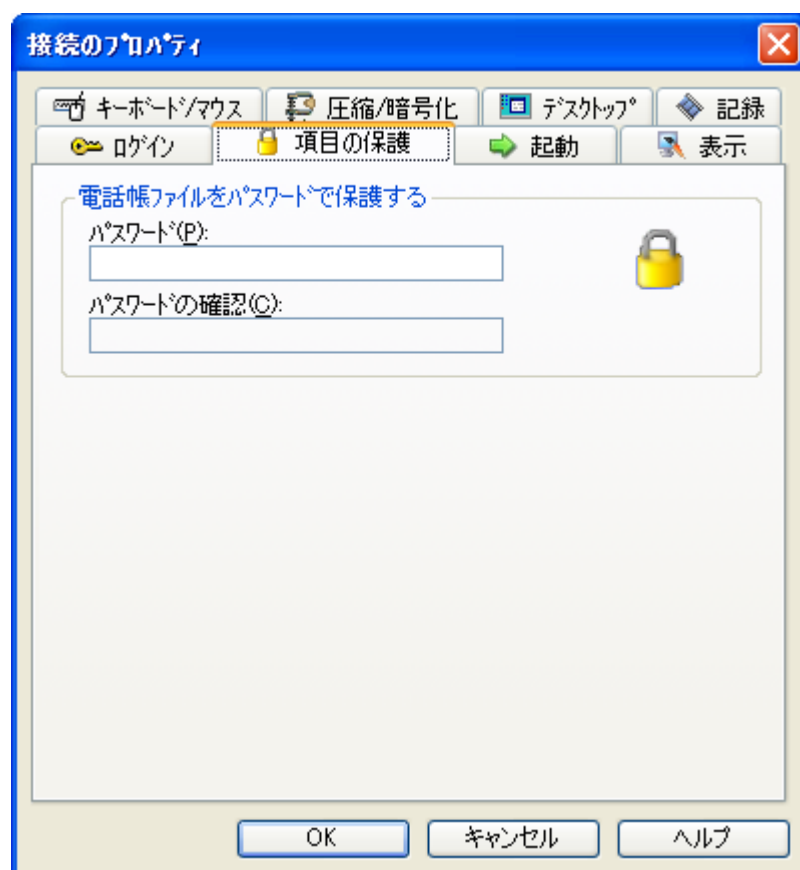
ログイン ドメイン: Windows のドメインまたはディレクトリ サーバーで認証を行う場合は、このフィールドにドメインまたはディレクトリ サーバーの名前を入力します (デフォルト: 空白)。

Windows セキュリティ認証用の現在のログイン資格情報を使用する: このボックスにチェックマークを付けると、ゲスト コンピュータのユーザーの Windows ログオン ユーザー名、パスワード、およびドメインでログインします (デフォルトではチェックなし)。

3.8 セッションのツール

3.8.1.3 [項目の保護] タブ

このタブは、ウィンドウを [\[電話帳\] タブ](#) または [\[履歴\] タブ](#) から開いた場合にのみ表示されます。



このタブを使用して、ホストのレコードやファイルをパスワードで保護することができます。

電話帳ファイルをパスワードで保護する

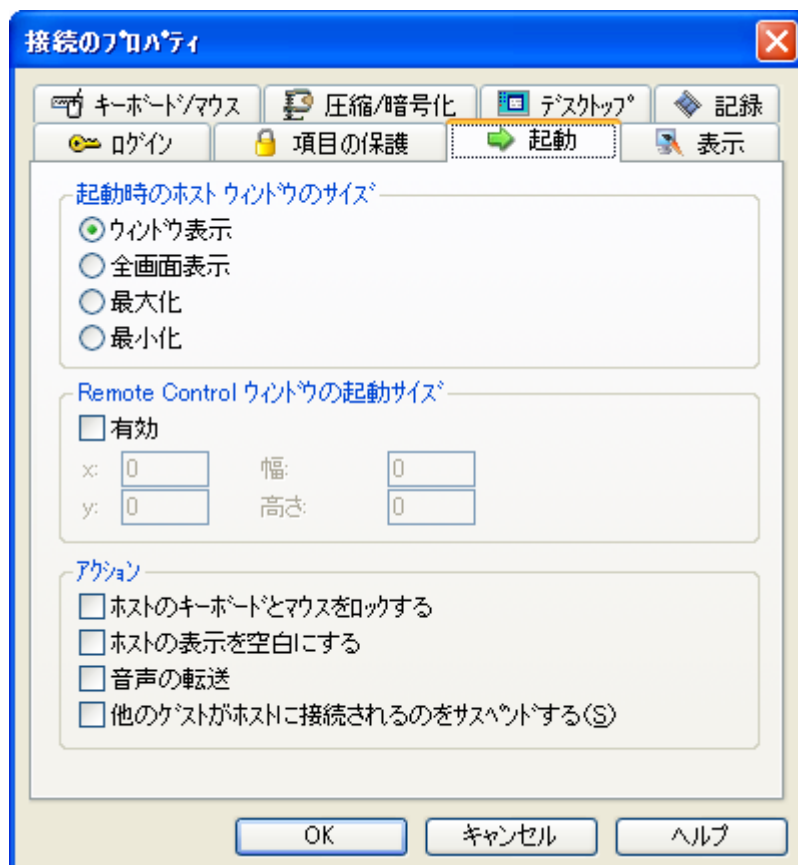
パスワード: このフィールドにパスワードを入力します (デフォルト: 空白)。

パスワードの確認: 確認のために、このフィールドにパスワードを再入力します (デフォルト: 空白)。

注意: 入力されたパスワードの文字は、アスタリスクまたはドットで表示されます。フィールドを空白のままにすると、パスワードの保護が無効になります。

3.8.1.4 [起動] タブ

このタブは、ウィンドウを [リモート コントロール](#) 画面から開いた場合を除き、表示されます。



このタブで、[リモート コントロール](#) セッションの起動プロパティを指定します。

起動時のホスト ウィンドウのサイズ

次のどちらかのオプションを選択します。

- ウィンドウ表示**：ホスト画面を、[リモート コントロール](#) ウィンドウの表示パネルに表示します（デフォルト）。ホスト画面のピクセル数が表示パネルより少ない場合、ホスト画面は黒い境界線で囲まれて表示されます。ホスト画面のピクセル数が表示パネルより多い場合は、スクロールバーが追加されます。[\[表示\] タブ](#)で「[ホスト画面にウィンドウを合わせる](#)」を選択している場合、ホスト画面のサイズによっては、リモート制御ウィンドウのサイズが自動的に最大化されることもあります。以下の説明も参照してください。
- 全画面表示**：ホスト画面が、ゲストのコンピュータ画面全体に全画面表示モードで表示されます。ホスト画面のピクセル数がゲストのコンピュータ画面より少ない場合、ホスト画面は黒い境界線で囲まれて表示されます。ホスト画面のピクセル数がゲストのコンピュータ画面より多い場合は、スクロールバーが表示されます。
- 最大化**：ホスト画面が、Windows のタスクバーを除き、ゲストのコンピュータ画面全体まで最大化された [リモート コントロール](#) ウィンドウの表示パネルに表示されます。ホスト画面のピクセル数が表示パネルより少ない場合、ホスト画面は黒い境界線で囲まれて表示されます。ホスト画面のピクセル数が表示パネルより多い場合は、スクロールバーが追加されず。
- 最小化**：ホストが、Windows のタスクバーに最小化されて表示されます。

3.8 セッションのツール

リモート コントロール ウィンドウの起動サイズ

有効：このボックスにチェックマークを付けると、このセクション内の要素が有効になり、その値が適用されます。チェックマークを付けないと、前回のセッションでのリモート制御ウィンドウの位置とサイズが適用されます（デフォルトではチェックなし）。

x： [リモート コントロール](#) ウィンドウ起動時の、ウィンドウ左上隅の X 座標。ゲストのコンピュータ画面の左上隅を起点としたピクセル数で指定します（デフォルト：0）。

y： [リモート コントロール](#) ウィンドウ起動時の、ウィンドウ左上隅の Y 座標。ゲストのコンピュータ画面の左上隅を起点としたピクセル数で指定します（デフォルト：0）。

幅： [リモート コントロール](#) ウィンドウの起動時のウィンドウ幅をピクセル数で指定します（デフォルト：0）。

高さ： [リモート コントロール](#) ウィンドウの起動時のウィンドウの高さをピクセル数で指定します（デフォルト：0）。

アクション

ホストのキーボードとマウスをロック：このボックスにチェックマークを付けると、起動時にホスト コンピュータのキーボードとマウスが無効になります。[リモート コントロール](#) セクションの [タイトル バー](#) セクションも参照してください（デフォルトではチェックなし）。

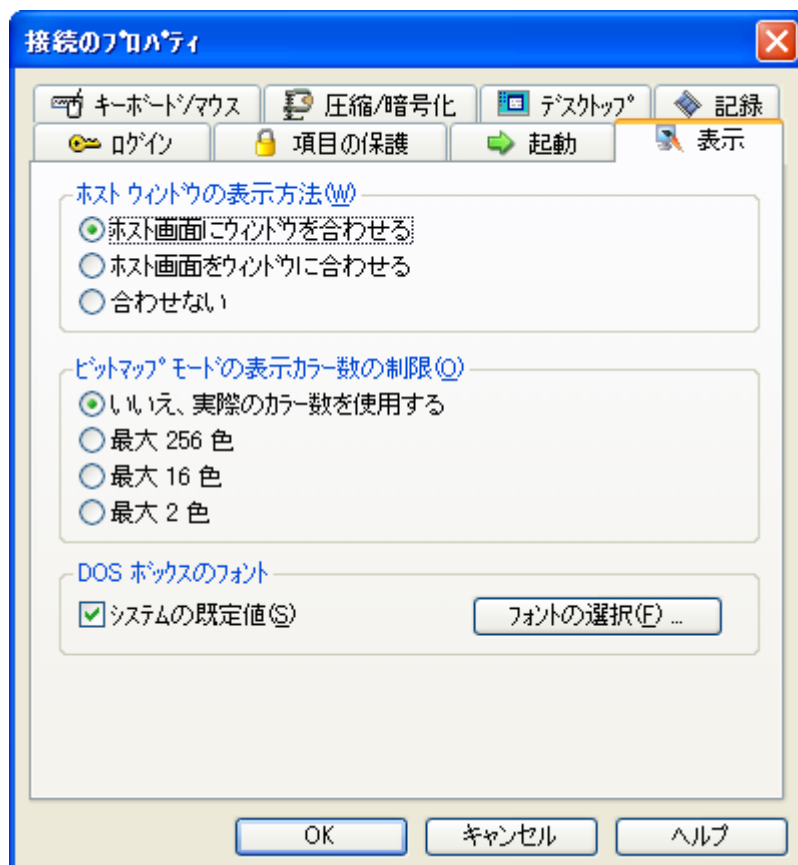
ホストの表示を空白にする：このボックスにチェックマークを付けると、起動時に、ホスト ユーザー側のホスト コンピュータ画面が黒色になります。[リモート コントロール](#) セクションの [タイトル バー](#) セクションも参照してください（デフォルトではチェックなし）。

音声の転送：このボックスにチェックマークを付けると、起動時にホスト コンピュータのアプリケーションのサウンドがゲストに転送されます。[リモート コントロール](#) セクションの [タイトル バー](#) セクションも参照してください（デフォルトではチェックなし）。

他のゲストがホストに接続されるのをサスペンドする：このボックスにチェックマークを付けると、起動時に他のゲストからホストへの接続が拒否されます。[リモート コントロール](#) セクションの [マルチ ゲスト セッションのボタン](#) セクションも参照してください（デフォルトではチェックなし）。

3.8.1.5 [表示] タブ

このタブは、ウィンドウに常に表示されます。



このタブでは、[リモート コントロール](#) セッションのホスト画面の表示に関するプロパティを指定します。

ホスト ウィンドウの表示方法

次のどちらかのオプションを選択します。

- ホスト画面にウィンドウを合わせる** : ホスト画面が 1:1 のスケールで表示パネルに表示されるように、[リモート コントロール](#) ウィンドウのサイズを調整します。ホストの画面イメージのピクセル数が、最大化された[リモート コントロール](#) ウィンドウの表示パネルのピクセル数より多い場合は、ウィンドウにスクロールバーが追加されます (デフォルト)。
- ホスト画面をウィンドウに合わせる** : ホスト画面が[リモート コントロール](#) ウィンドウの表示パネル内に収まるように、サイズを調整します。
- 合わせない** : [リモート コントロール](#) ウィンドウの表示パネルのサイズに、1:1 のスケールで収まるホスト画面イメージの部分だけを表示します。ホストの画面イメージのピクセル数が表示パネルより少ない場合は、黒い境界線で囲まれて表示されます。ホストの画面イメージのピクセル数が表示パネルのピクセル数より多い場合は、スクロールバーが追加されます。

ビットマップ モードの表示カラー数の制限

次のどちらかのオプションを選択します。

- いいえ、実際のカラー数を使用する** : 色データによる転送帯域幅を最大限消費して、実際に近い色で表示します (デフォルト)。
- 最大 256 色** : 色データによる転送帯域幅の消費を抑えながら、ある程度実際に近い色で表示します。
- 最大 16 色** : 色データによる転送帯域幅の消費は少ない代わりに、実際の画面とはかなり異なる色になります。

3.8 セッションのツール

- **最大 2 色** : モノクロ表示。色データによる帯域幅の消費が最も小さくなります。

注意 : このセクションは、[リモート コントロール](#)画面に表示している場合は無効になりません。

DOS ボックスのフォント

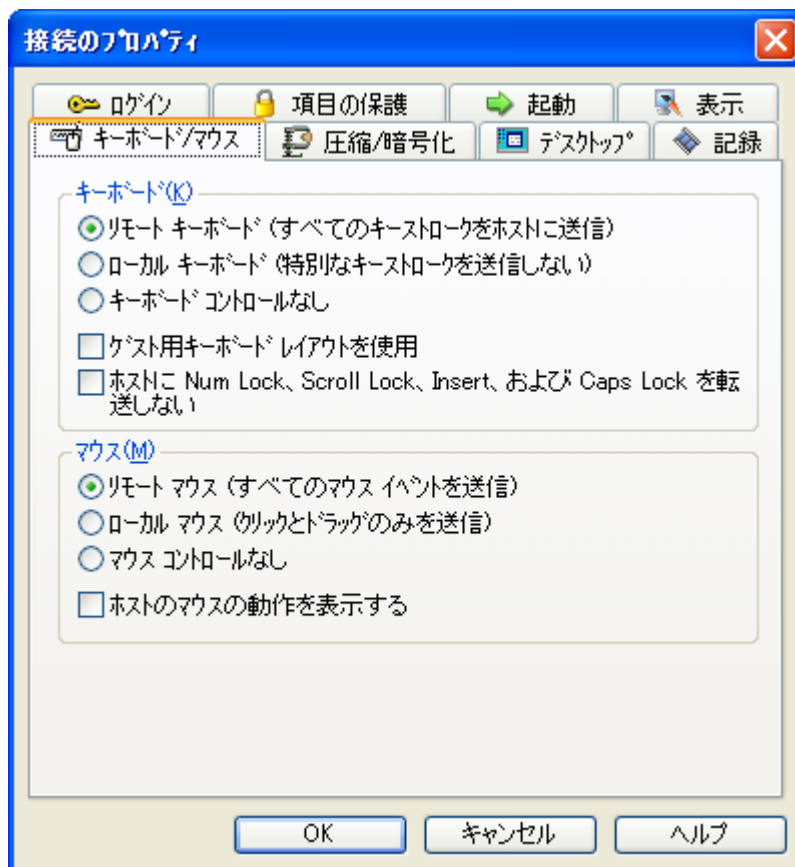
コマンド モードでは、コマンド プロンプト ウィンドウ内の文字がゲスト コンピュータのシステムのデフォルト フォントで表示されます（「[\[圧縮/暗号化\] タブ](#)」を参照）。

システム デフォルト : 他のフォントを選択できるようにしたい場合は、このボックスのチェックマークを外します（デフォルトではチェック付き）。

フォントの選択... : このボタンをクリックすると、Windows の **[フォント]** ウィンドウが表示され、使用するフォントを選択できます。

3.8.1.6 [キーボード/マウス] タブ

このタブは、ウィンドウに常に表示されます。



このタブでは、[リモート コントロール](#) セッションのキーボードとマウスの制御プロパティを指定します。

キーボード

次のどちらかのオプションを選択します。

- **リモート キーボード (すべてのキーストロークをホストに送信)** : ゲスト コンピュータのすべてのキーストロークがホストに送信されます（デフォルト）。
- **ローカル キーボード (特別なキーストロークを送信しない)** : **[キーストロークの送信]** で設定した特殊なキーストロークの組み合わせを除く、ゲスト コンピュータでのすべてのキーストロークがホストに送信されます。**[キーストロークの送信]** で設定した特殊なキーストロークの組み合わせは、ゲスト コンピュータに送信されます。[リモート コントロール](#) セクションの **タイトル バー** セクションを参照してください。

- キーボード コントロールなし：このオプションを選択すると、ゲスト コンピュータでのすべてのキーストロークがゲスト コンピュータに送信されます。
- ゲスト用キーボード レイアウトを使用：ゲスト コンピュータとホスト コンピュータのキーボードのレイアウトが異なる場合には、ゲスト コンピュータで入力したキーストロークの一部が、ホスト コンピュータで異なるキーとして認識される可能性があります。これを防ぐには、このボックスをチェックします（デフォルトはチェックなし）。
- ホストに *Num Lock*、*Scroll Lock*、*Insert*、および *Caps Lock* を転送しない：ディスプレイアダプタによっては、これらのホスト コンピュータのキーボード オプションを有効にすると、ゲストのキーボードのライトが点滅することがあります。これを防ぐには、このボックスをチェックします（デフォルトはチェックなし）。

マウス

次のどちらかのオプションを選択します。

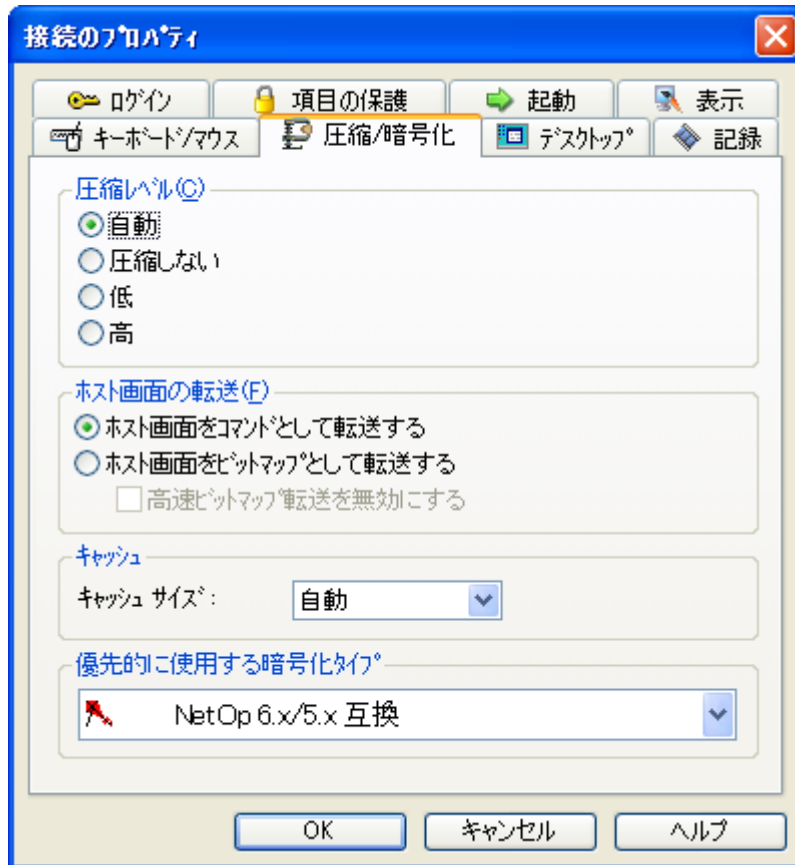
- リモート マウス (すべてのマウス イベントを送信)：ゲスト コンピュータで発生したすべてのマウス イベント（クリック、ドラッグ、移動）がホストに送信されます（デフォルト）。
- ローカル マウス (クリックとドラッグのみを送信)：ゲストで発生するマウス イベントのうち、クリックとドラッグだけがホストに送信されます（転送帯域幅が節約されます）。
- マウス コントロールなし：ゲスト コンピュータでのマウス イベントはホストに送信されません。
- ホストのマウスの動作を表示する：このボックスにチェックマークを付けると、ホスト コンピュータでのマウス ポインタの移動に合わせて、ゲスト コンピュータのマウス ポインタが移動します（デフォルトではチェックなし）。

注意：ホスト側でのマウス操作による、ゲスト コンピュータのマウス ポインタの移動を抑制するには、CTRL キーを押します。

3.8 セッションのツール

3.8.1.7 [圧縮 / 暗号化] タブ

このタブは、ウィンドウに常に表示されます。



このタブでは、データ転送プロパティを設定します。

圧縮レベル

NetOp では、送信されたデータを圧縮して、低速通信リンクでの転送の高速化を図ることができます。ただし、データ圧縮も転送速度に影響を与えます。

次のどちらかのオプションを選択します。

- 自動**：通信プロファイルのプロパティに基づいて圧縮の有無を選択します。通常は、これによって転送速度が最速になります（デフォルト）。
- 圧縮しない**：高速の通信リンクでは、通常このオプションを選択します。
- 低**：中程度の速度の通信リンクでは、通常このオプションを選択します。
- 高**：低速の通信リンクでは、通常このオプションを選択します。

ホスト画面転送

次のどちらかのオプションを選択します。

- ホスト画面をコマンドとして転送する**：通常は高速ですが、ホスト コンピュータのディスプレイ アダプタの種類によってはホスト画面イメージの細かい情報が失われたり、壊れることがあります（デフォルト）。
- ホスト画面をビットマップとして転送する**：通常は低速ですが、ホスト画面イメージの詳細が正確に転送されます。
 - 高速ビットマップ転送を無効にする**：高速ビットマップ転送は、バージョン 7.6 以降の NetOp モジュール間の転送にデフォルトで使用されます。高速ビットマップ転送で、万一問題が発生するようであれば、このボックスにチェックマークを付けて、高速ビットマップ転送を無効化できます（デフォルトではチェックなし）。

注意：このセクションは、[リモート コントロール](#)画面に表示している場合は無効になります。

キャッシュ

コマンド モード[ホスト画面転送](#)では、画面イメージがキャッシュ メモリに格納され、画面が変更された場合のみイメージを転送することによって、帯域幅の節約と、更新速度の最適化が図られます。

キャッシュ サイズ：このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択したキャッシュ メモリ サイズのオプションが表示されます (デフォルト：*自動*)。ドロップダウン ボックスのリストには、オプションとして [*自動*]、および [*なし*]～10240 KB までの値が含まれます。 [*自動*] を選択した場合、キャッシュ メモリのサイズは、通信プロファイルのプロパティに基づいて決定されます。ほとんどの場合、このオプションで最適な結果が得られます。リスト内の他のオプションを選択すると、そのオプションがフィールドにセットされます。

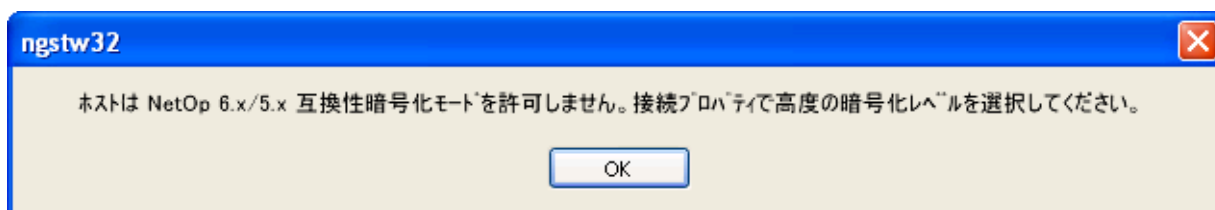
注意：このセクションは、[リモート コントロール](#)画面に表示している場合は無効になります。

NetOp のキャッシュ メモリの共有と合計サイズは、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [[キャッシュ](#)] タブで指定します。

優先的に使用する暗号化タイプ：このドロップダウン ボックスのフィールドには、ゲストが使用したい転送データ暗号化方式が表示されます (デフォルト：*NetOp 6.x/5.x 互換*)。ドロップダウン ボックスのリストには、利用可能な暗号化方式の名前が一覧されます (「[\[暗号化\] タブ](#)」を参照)。リストから暗号化方式を選択すると、それがフィールドに表示されます。

この暗号化方式がゲストとホストの両方で有効な場合は、これが通信に適用されます。

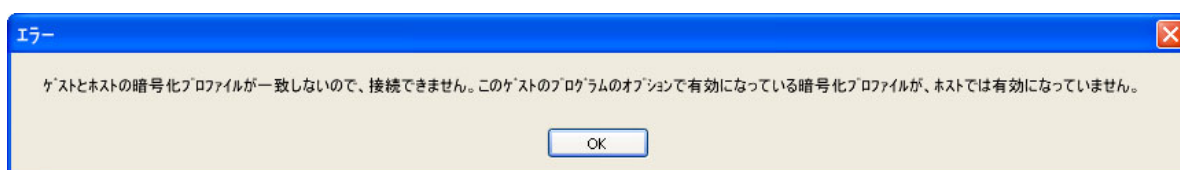
優先する暗号化方式として *NetOp 6.x/5.x 互換* を選択した場合に、この方式がゲストとホストで有効になっていないと、次のメッセージが表示されます。



このメッセージが表示された場合は、優先する暗号化方式として、別の方式を選択してください。

優先する方式として、他の暗号化方式を選択しており、その暗号化方式がホストで有効化されていない場合、ゲストとホストの両方で有効化されている暗号化方式が適用されます。

ゲストとホストの両方で有効化されている暗号化方式が存在しない場合は、次のメッセージが表示されます。

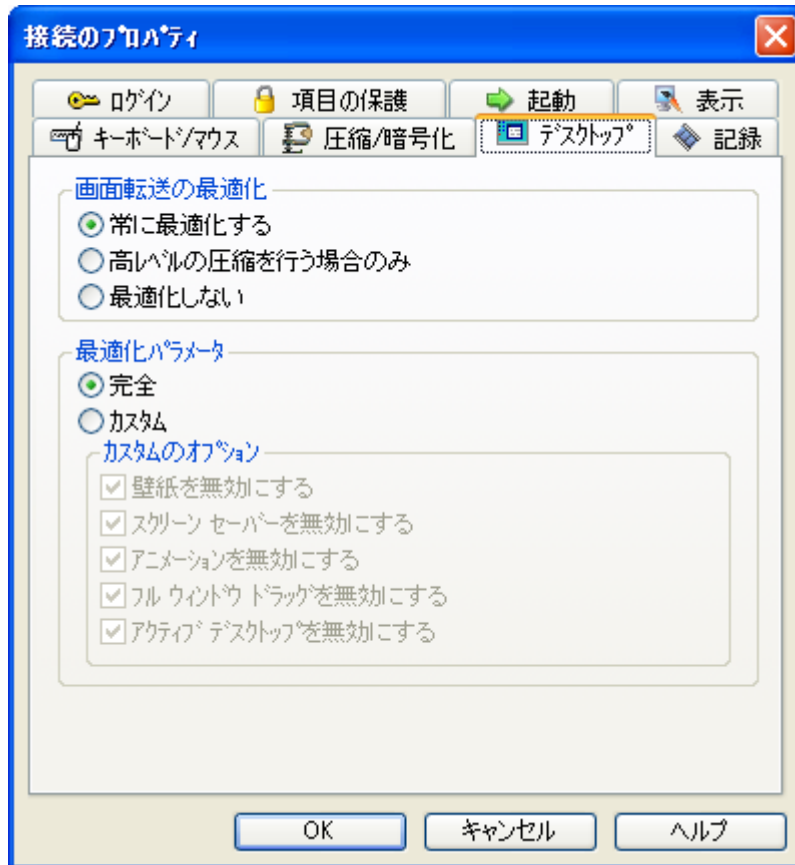


その場合は、[\[暗号化\] タブ](#)で無効になっている暗号化方式を有効化し、双方の方式を一致させます。

注意：[リモート コントロール](#) セッションに適用される暗号化方式は、ウィンドウの [ステータスバー](#) に表示されるアイコンで識別できます。

3.8.1.8 [デスクトップ] タブ

このタブは、ウィンドウに常に表示されます。



このタブでは、[リモートコントロール](#) セッションのホストコンピュータのデスクトップ機能転送プロパティを指定します。

画面転送の最適化

ホストコンピュータの高度なデスクトップ機能は、コマンドモードの[ホスト画面転送](#)スピードを低下させます。またそのような機能は通常、ゲストユーザーにとって重要ではありません。したがって、NetOp のデフォルトでは、ホスト画面は高度なデスクトップ機能なしで転送されます。ただし、高度なデスクトップ機能を個別に選択して、転送に含めることも可能です。

次のどちらかのオプションを選択します。

- 常に最適化する** : 常に高度なデスクトップ機能なしで転送します (デフォルト)。
- 高レベルの圧縮を行う場合のみ** : 高レベルの圧縮を行う場合のみ、高度なデスクトップ機能なしで転送します ([「圧縮/暗号化」タブ](#) を参照)。
- 最適化しない** : 常に高度なデスクトップ機能を転送に含めます。

最適化パラメータ

次のどちらかのオプションを選択します。

- 完全** : 下記のデスクトップ機能をいっさい転送に含めません (デフォルト)。
- カスタム** : 下の **[カスタム オプション]** セクションが有効になり、任意のボックスのチェックマークを外すことにより、転送に含める高度なデスクトップ機能を選択できます。

カスタム オプション

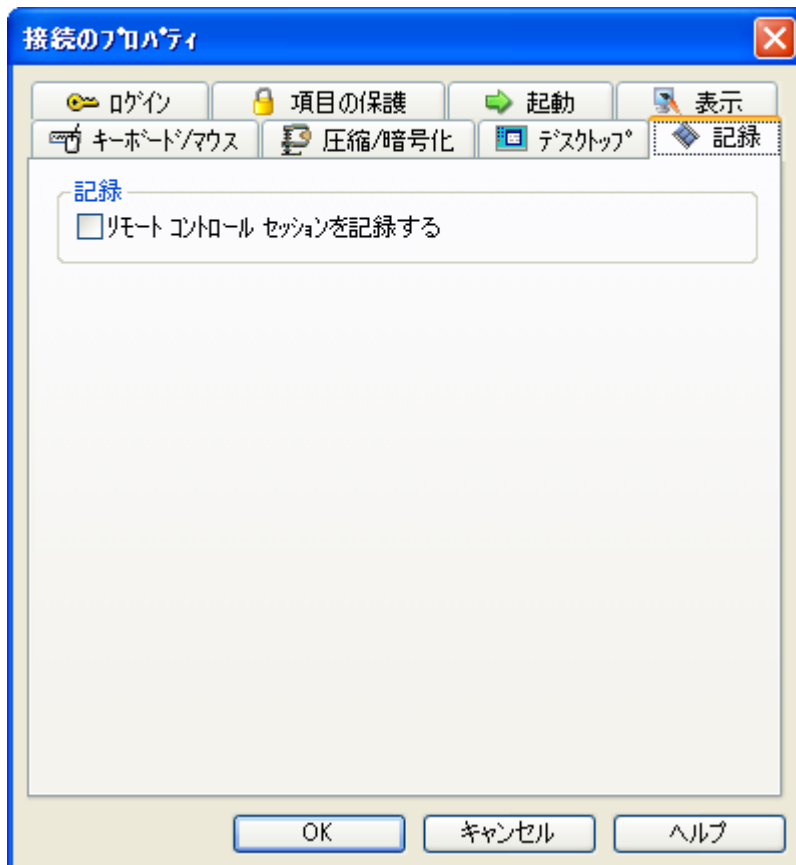
- 壁紙を無効にする**
- スクリーンセーバーを無効にする**

- アニメーションを無効にする
- フル ウィンドウ ドラッグを無効にする
- アクティブ デスクトップを無効にする

デフォルトでは、すべてのチェックボックスにチェックマークが付きます。

3.8.1.9 [記録] タブ

このタブは、ウィンドウに常に表示されます。



このタブは、[リモート コントロール](#) セッションの記録オプションの選択に使用します。

記録

[リモート コントロール セッションを記録する](#) : リモート操作セッションを記録するには、このボックスにチェックマークを付けます (デフォルトではチェックなし)。

注意: [リモート コントロール](#) セッションを記録すると、[\[記録\] タブ](#) 上にセッションのレコードが作成されます。

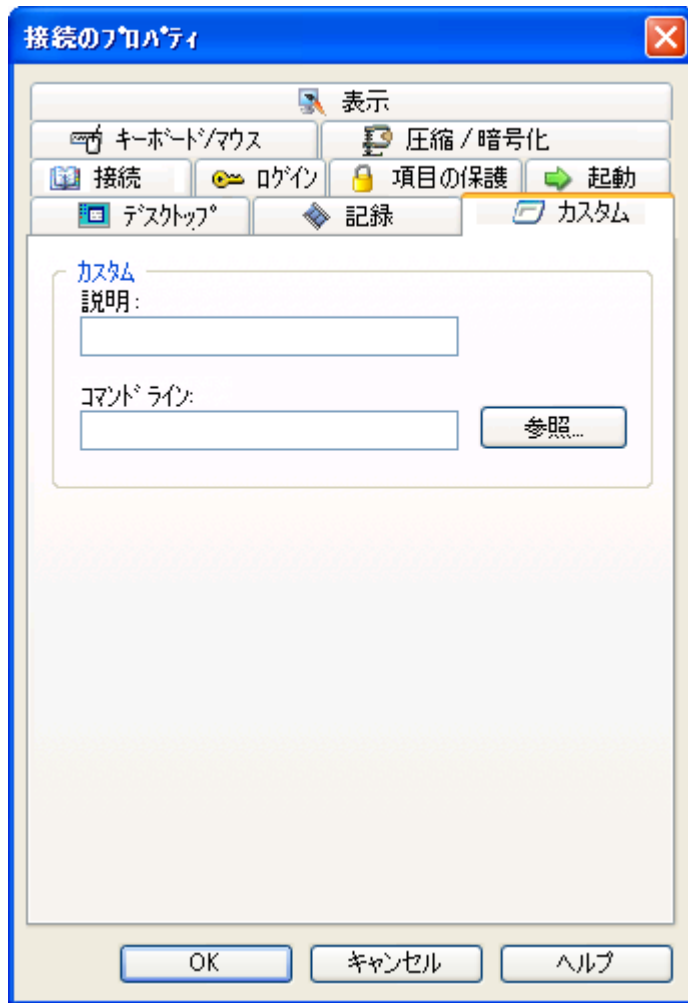
[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [\[記録\] タブ](#) で [\[記録の強化\]](#) ボックスにチェックマークを付けると、このタブでの設定に関係なく、常にリモート操作セッションが記録されます。記録を行うと、[リモート コントロール](#) セッションの転送速度が低下します。

このセクションは、[リモート コントロール](#) 画面に表示している場合は無効になります。

3.8 セッションのツール

3.8.1.10 [カスタム] タブ

このタブは、ウィンドウを [\[電話帳\] タブ](#) または [\[履歴\] タブ](#) から開いた場合にのみ表示されます。



このタブでは、カスタム アプリケーションのコマンドのプロパティを設定します。

カスタム

説明: ホスト レコードのコンテキスト メニューにコマンドとして追加するカスタム アプリケーションの名前を、このフィールドに入力します ([「レコード ペイン」](#) を参照)。このフィールドは、デフォルトでは空白です。

コマンド ライン: このフィールドには、カスタム アプリケーションのコマンド ライン (プログラム ファイルのパスと名前、および必要なコマンド ライン スイッチ) を指定します (デフォルトでは空白)。

参照... : このボタンをクリックすると、Windows の [\[ファイルを開く\]](#) ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスの [\[ファイルの種類\]](#) フィールドは「プログラム」に設定されており、プログラム ファイルを選択して開くと、そのパスと名前が [\[コマンド ライン\]](#) フィールドに表示されます。

3.8.2 NetOp マーカー ユーティリティ

NetOp マーカー ユーティリティを使用して、図やテキスト マーカーをホスト画面のイメージ上に作成したり、ホスト画面のイメージの一部を拡大したりすることができます。

注意：NetOp マーカー ユーティリティのプログラム ファイル (*VITAWRAP.EXE*) はホスト コンピュータに置かれており、マーカーの描画や画面の拡大は、ホスト コンピュータ側で実行されます。NetOp マーカー ユーティリティは、ゲストとホストのどちらのユーザーも制御できます。

NetOp マーカー ユーティリティをゲストからロードするには、[リモート コントロール](#)画面の[ツールバーとツールボックス](#)の[ツール ボタン](#)で、押された状態で表示されている [\[マーカー モード\]](#) ボタンをクリックするか、[リモート コントロール](#) ウィンドウで[タイトル バー](#)対応するメニュー コマンドを選択して、チェックマークを付けます。

NetOp マーカー ユーティリティをゲストからアンロードするには、[リモート コントロール](#)画面の[ツールバーとツールボックス](#)の[ツール ボタン](#)で、[\[マーカー モード\]](#) ボタンをクリックして押されていない状態にするか、[リモート コントロール](#) ウィンドウで[タイトル バー](#)対応するチェックマークの付いているメニュー コマンドを選択して、チェックマークを外します。

NetOp マーカー ユーティリティをホスト コンピュータでロードするには、NetOp ホストがインストールされているディレクトリにある *VITAWRAP.EXE* ファイルをダブルクリックして実行します。

NetOp マーカー ユーティリティをホスト コンピュータでアンロードするには、Windows のタスク マネージャを使用します。

NetOp マーカー ユーティリティでは次のウィンドウが表示されます。

NetOp マーカー ユーティリティ



このウィンドウには、次の要素があります。

- ・ [タイトル バー](#)
- ・ [上のツールバー](#)
- ・ [下のツールバー](#)
- ・ [ステータス バー](#)

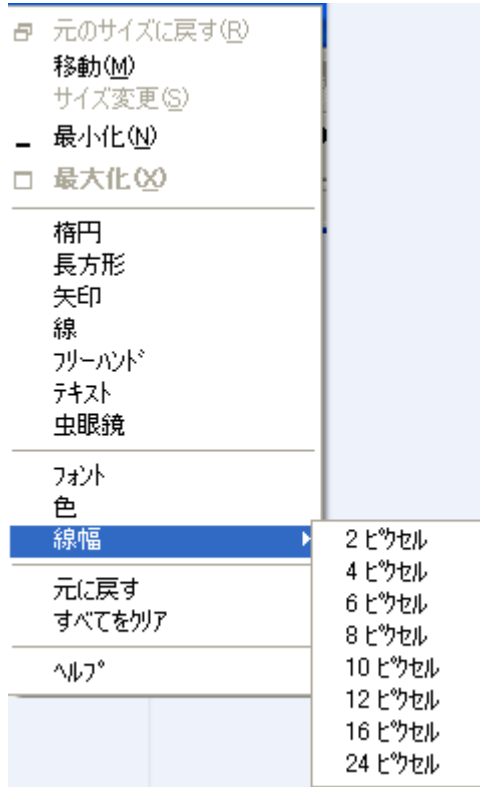
3.8 セッションのツール

3.8.2.1 タイトル バー



タイトルのアイコンをクリックするか、タイトルの任意の位置を右クリックすると、次のメニューが表示されます。

NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー



上部のセクションには、ウィンドウ制御コマンドがあります。「[ウィンドウ コントロール](#)」を参照してください。その他のセクションには、次のような種類の NetOp マーカー ユーティリティのコマンドが含まれています。

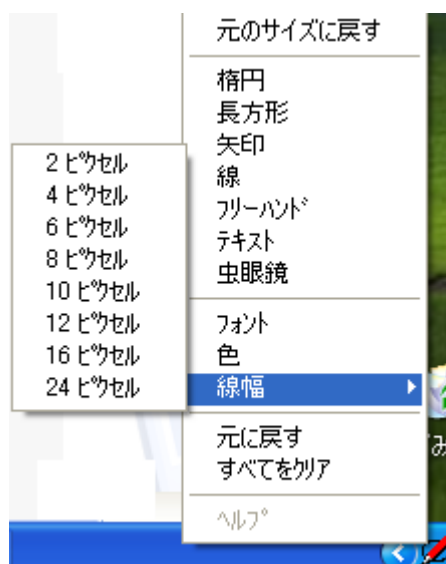
- ・ 図形マーカー コマンド（「[図形マーカー](#)」を参照）
- ・ テキスト マーカー コマンド（「[テキスト マーカー](#)」を参照）
- ・ 拡大鏡 コマンド（「[NetOp 拡大鏡](#)」を参照）
- ・ [元に戻す] コマンドと [すべてクリア] コマンド（「[マーカーの削除](#)」を参照）
- ・ プロパティとヘルプのコマンド（「[マーカーのプロパティとヘルプ](#)」を参照）

[最小化] を選択すると、[NetOp マーカー ユーティリティ](#) ウィンドウが最小化され、次のボタンとしてホスト コンピュータの画面通知エリアに表示されます。



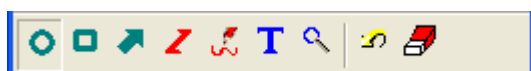
このボタンには、最後に有効化されたマーカー ツールと鉛筆を組み合わせた記号が表示されます。このボタンを右クリックすると、次のメニューが表示されます。

NetOp マーカー ユーティリティ最小化メニュー










このメニューには、[NetOp マーカー ユーティリティ](#) ウィンドウを元の表示に戻す [元のサイズに戻す] コマンドと、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#) と共通の、NetOp マーカー ユーティリティの各コマンドが含まれています。



3.8.2.2 上のツールバー



ツールバーのボタンは、ツールチップで識別できます。

-  **楕円の描画** : このボタンをクリックして押された状態にするか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#) または [NetOp マーカー ユーティリティ最小化メニュー](#) で [楕円] コマンドを選択すると、楕円ツールが有効になります (「[図形マーカー](#)」を参照)。
-  **長方形の描画** : このボタンをクリックして押された状態にするか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#) または [NetOp マーカー ユーティリティ最小化メニュー](#) で [長方形] コマンドを選択すると、長方形ツールが有効になります (「[図形マーカー](#)」を参照)。
-  **矢印の描画** : このボタンをクリックして押された状態にするか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#) または [NetOp マーカー ユーティリティ最小化メニュー](#) で [矢印] コマンドを選択すると、矢印ツールが有効になります (「[図形マーカー](#)」を参照)。
-  **線の描画 (Stop=MB2)** : このボタンをクリックして押された状態にするか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#) または [NetOp マーカー ユーティリティ最小化メニュー](#) で [直線] コマンドを選択すると、直線ツールが有効になります (「[図形マーカー](#)」を参照)。
-  **フリーハンドの描画** : このボタンをクリックして押された状態にするか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#) または [NetOp マーカー ユーティリティ最小化メニュー](#) で [フリーハンド] コマンドを選択すると、フリーハンド ツールが有効になります (「[図形マーカー](#)」を参照)。
-  **フリー テキストの表示** : このボタンをクリックして押された状態にするか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#) または [NetOp マーカー ユーティリティ最小化メニュー](#) で [テキスト] コマンドを選択すると、[テキスト マーカー](#) ツールが有効になります。
-  **拡大鏡の表示** : このボタンをクリックして押された状態にするか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#) または [NetOp マーカー ユーティリティ最小化メニュー](#) で [拡大鏡] コマンドを選択すると、[NetOp 拡大鏡](#) ウィンドウが有効になります。





3.8 セッションのツール

-  元に戻す: このボタンをクリックするか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#)または [NetOp マーカー ユーティリティ最小化メニュー](#)で対応するコマンドを選択すると、最後に選択したマーカーが削除されます（「[マーカーの削除](#)」を参照）。
-  すべてクリア: このボタンをクリックするか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#)または [NetOp マーカー ユーティリティ最小化メニュー](#)で対応するコマンドを選択すると、すべてのマーカーが削除されます（「[マーカーの削除](#)」を参照）。

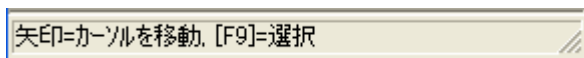
3.8.2.3 下のツールバー



ツールバーのボタンは、ツールチップで識別できます。

-  フォントの選択: このボタンをクリックするか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#)または [NetOp マーカー ユーティリティ最小化メニュー](#)で [フォント] コマンドを選択すると、Windows の [フォント] ウィンドウが表示され、テキスト マーカーのフォントを選択できます（「[マーカーのプロパティとヘルプ](#)」を参照）。
-  色の選択: このボタンをクリックするか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#)または [NetOp マーカー ユーティリティ最小化メニュー](#)で [色] コマンドを選択すると、Windows の [色の設定] ウィンドウが表示され、テキスト マーカーの色を選択できます（「[マーカーのプロパティとヘルプ](#)」を参照）。
-  ペンの太さの選択: このボタンをクリックして線幅を選択するドロップダウン ボックスを表示するか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#)または [NetOp マーカー ユーティリティ最小化メニュー](#)で [線幅] コマンドを選択すると、図形マーカーやテキスト マーカーの枠線の幅を指定できます（「[マーカーのプロパティとヘルプ](#)」を参照）。
-  ヘルプ: このボタンをクリックするか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#)または [NetOp マーカー ユーティリティ最小化メニュー](#)で [ヘルプ] コマンドを選択すると、NetOp ホスト ヘルプの「NetOp マーカー ユーティリティ」トピックが表示されます（「[マーカーのプロパティとヘルプ](#)」を参照）。

3.8.2.4 ステータス バー



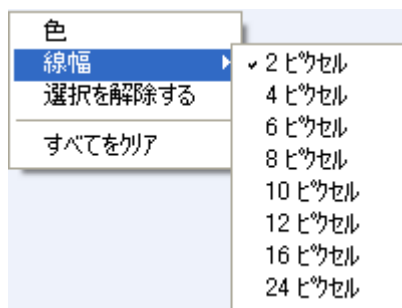
ステータス バーには、マウスポインタを置いた位置にあるボタンや、強調表示されているメニュー コマンドに関するヒントが表示されます。

3.8.2.5 図形マーカー

図形マーカーのツールをマウスで選択するには、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウの上のツールバー](#)で図形マーカー ボタンをクリックして押された状態にするか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#)または [NetOp マーカー ユーティリティ最小化メニュー](#)で図形マーカー コマンドを選択します。マウス ポインタが、図形マーカーと鉛筆を組み合わせた形のポインタに変わります。

キーボードを使って図形マーカーのツールを有効にするには、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ](#)がアクティブな状態で[上のツールバー](#)の図形マーカー ボタンの上にマウス ポインタを置き、[F9] キーを押します。マウス ポインタが、図形マーカーと鉛筆を組み合わせた形のポインタに変わります。または、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ](#)がアクティブな状態で [ALT+SPACE] キーを押して [NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#)を表示し、図形マーカー コマンドの最初の文字をキーボードで入力するか、図形マーカー コマンドを強調表示して [ENTER] キーを押します。

図形マーカー ツールのプロパティを変更するには、右クリックするか [F10] キーを押して、次のメニューを表示します。



このメニューは[図形マーカー メニュー](#)と似ていますが、元に戻すの代わりに選択解除があります。

選択解除：このコマンドを選択するか、[ESCAPE] キーを押すか、[NetOp マーカー ユーティリティ](#) ウィンドウの [上のツールバー](#) で押された状態の図形マーカーボタンをクリックして押されていない状態にするか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#) または [NetOp マーカー ユーティリティ 最小化メニュー](#) で図形マーカー ツール コマンドを選択して図形マーカー ツールの選択を解除すると、マウス ポインタが通常の状態に戻ります。

注意：別のマーカー ツールを選択すると、選択しているマーカー ツールは選択解除されます。

図形マーカーをマウスで作成するには、ドラッグします (分割線：クリック)。分割線の描画を終了するには、右クリックします。

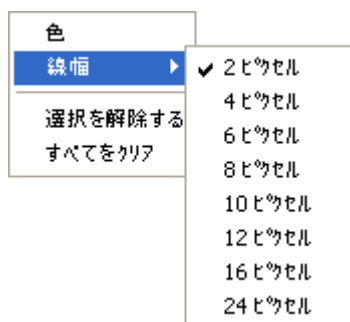
図形マーカーをキーボードで描画するには、まず図形マーカーを、矢印キーを使って描画開始位置まで移動します。INSERT キーを押して描画を開始し、矢印キーを使って移動します。描画を終了するまたは線を区切るには、INSERT キーを押します。区切り線を終了するには F10 を押します。

マーカーを移動したり形を変えたりするには、マウス ポインタを移動して図形マーカーに重ねます。マウス ポインタが矢印と + 記号を組み合わせたポインタに変わります。

移動するには、ドラッグするか INSERT キーを押して有効にし、矢印キーを使って移動します。解除するには、INSERT キーを押します。

形を変えるには、右クリックするか F10 キーを押すと、次のメニューが表示されます。

図形マーカー メニュー



色：このコマンドを選択するか、[NetOp マーカー ユーティリティ](#) ウィンドウの [下のツールバー](#) で [色の選択] ボタンをクリックすると、Windows の [色の設定] ダイアログボックスが表示され、マーカーの色を変更できます (デフォルトは赤)。

線幅：このコマンドを選択すると、一連のピクセル数を含むサブメニューが表示され、マーカーの線幅を指定できます。また、マーカーをクリックして、[NetOp マーカー ユーティリティ](#) ウィンドウの [下のツールバー](#) で [ペンの太さの選択] ボタンをクリックし、表示されるドロップダウン ボックスの線幅リストからマーカーの線幅を選択することもできます (デフォルトは、2 ピクセル)。

元に戻す：このコマンドを選択すると、選択したマーカーが削除されます。

3.8 セッションのツール

すべてをクリア：このコマンドを選択すると、すべてのマーカーが削除されます。

このメニューは、それ以外の部分をクリックするか、F10 キーを押せば消去されます。

3.8.2.6 テキスト マーカー

テキスト マーカーのツールをマウスで選択するには、[NetOp マーカー ユーティリティ](#) ウィンドウの[上のツールバー](#)で [フリー テキストの表示] ボタンをクリックして押された状態にするか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#)または [NetOp マーカー ユーティリティ最小化メニュー](#)で [テキスト] を選択します。マウス ポインタが、テキスト マーカーのボックスの隅を指すアングルに変わります。

テキスト マーカーのツールをキーボードで選択するには、アクティブな [NetOp マーカー ユーティリティ](#) ウィンドウの[上のツールバー](#)で [フリー テキストの表示] ボタンの上にマウス ポインタを置き、F9 キーを押してボタンが押された状態にします。マウス ポインタが、テキスト マーカーのボックスの隅を指すアングルに変わります。

または、[NetOp マーカー ユーティリティ](#) ウィンドウがアクティブな状態で ALT+SPACE キーを押して [NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#)を表示し、T キーを押すか、[テキスト] コマンドを強調表示して [ENTER] キーを押します。

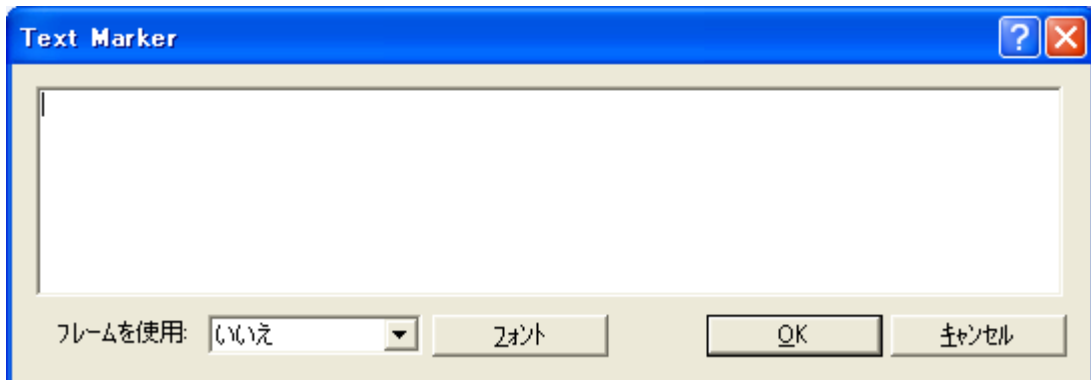
テキスト マーカーのツールを選択解除するには、ESCAPE キーを押すか、前述の選択手順のいずれかで [フリー テキストの表示] ボタンを解除すると、通常のマウス ポインタに戻ります。

注意：別のマーカー ツールを選択すると、選択しているマーカー ツールは選択解除されます。

テキスト マーカーのツールを選択している場合、

- ・ テキスト マーカーをマウスで作成するには、点線で囲まれた長方形をドラッグして[テキスト マーカー](#) ウィンドウを表示します。
- ・ テキスト マーカーをキーボードで作成するには、テキスト マーカーのツールを矢印キーを使って移動します。INSERT キーを押して有効にし、矢印キーを使って移動して点線で囲まれた長方形を作ります。INSERT キーを押して終了すると、次のウィンドウが表示されます。

テキスト マーカー



このウィンドウで、テキスト マーカーの内容と形状を指定します。

テキスト マーカーに使用するテキストを、ペインに入力します。右クリックすると、編集のメニューが表示されます。

フレームの使用：このドロップダウン ボックスのフィールドには、デフォルトでは [いいえ] が表示されており、テキスト マーカーの周囲にフレームは表示されません。ドロップダウン ボックスのリストには、[いいえ] と、フレームの線幅の選択値が含まれます。リスト内のオプションを選択すると、そのオプションがフィールドに表示されます。

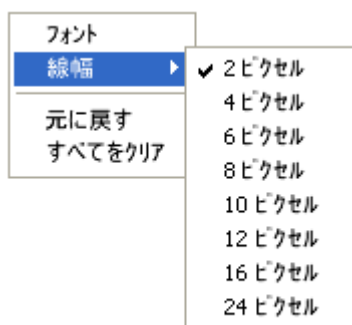
フォント：このボタンをクリックすると、Windows の [フォント] ウィンドウが表示され、テキスト マーカーのフォントと色を設定できます (デフォルト：Arial、太字、30pt、赤)。

OK：このボタンをクリックすると [テキスト マーカー] ウィンドウが閉じ、テキスト マーカーが表示されます。

マーカーを移動したり形を変えたりするには、マウス ポインタを移動して図形マーカーに重ねます。マウス ポインタが矢印と + 記号を組み合わせたポインタに変わります。

移動するには、ドラッグするか INSERT キーを押して有効にし、矢印キーを使って移動します。解除するには、INSERT キーを押します。

形を変えるには、右クリックするか F10 キーを押すと、次のメニューが表示されます。



このメニューは[図形マーカーメニュー](#)と似ていますが、[色]の代わりに[フォント]があります。

フォント：このコマンドを選択すると、Windows の [フォント] ウィンドウが表示され、テキスト マーカーのフォントと色を設定できます (デフォルト：Arial、太字、30pt、赤)。

注意：このメニューに [線幅] コマンドが表示されるのは、フレーム付きのテキスト マーカーを選択している場合だけで、この線幅はフレームに適用します。

3.8.2.7 NetOp 拡大鏡

[NetOp 拡大鏡](#) ウィンドウをマウスで表示するには、[NetOp マーカー ユーティリティ](#) ウィンドウの [上のツールバー](#) で [拡大鏡表示] ボタンをクリックして押された状態にするか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#) または [NetOp マーカー ユーティリティ 最小化メニュー](#) メニューで [拡大鏡] を選択します。

キーボードを使って [NetOp 拡大鏡](#) ウィンドウを表示するには、アクティブな [NetOp マーカー ユーティリティ](#) ウィンドウの [上のツールバー](#) の [拡大鏡] ボタンの上にマウス ポインタを置き、F9 キーを押してボタンが押された状態にします。

または、[NetOp マーカー ユーティリティ](#) ウィンドウがアクティブな状態で ALT+SPACE キーを押して [NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#) を表示し、M キーを押すか、[拡大鏡] コマンドを強調表示して [ENTER] キーを押します。

NetOp 拡大鏡



マウス ポインタがこのウィンドウの外に位置しているとき、このウィンドウのペインには、マウス ポインタの周囲の領域が拡大して表示されます。

このウィンドウを移動するには、そのタイトル バーをドラッグするか、マウス ポインタをタイトル バーに重ねた状態で INSERT キーを押し、矢印キーを使って移動します。解除するには、INSERT キーを押します。

ウィンドウのサイズを変更するには、ウィンドウの隅をドラッグするか、マウス ポインタをウィンドウの端か隅に重ねて INSERT キーを押して有効にし、矢印キーを使って移動します (ウィンドウの端に重ねたマウス ポインタは、両方向の矢印ポインタになります)。解除するには、INSERT キーを押します。

ペイン画像の表示倍率を変えるには、右側にあるスクロールバーのボタンをドラッグするか、その上か下にマウス ポインタを置いて、F9 キーを押します。ボタンが最上部にあると、ペインの画像が 1:1 のスケールで表示されます。

3.8 セッションのツール

ウィンドウ内で右クリックするか、マウス ポインタをウィンドウ内に置いて F10 を押すと、次のメニューが表示されます。

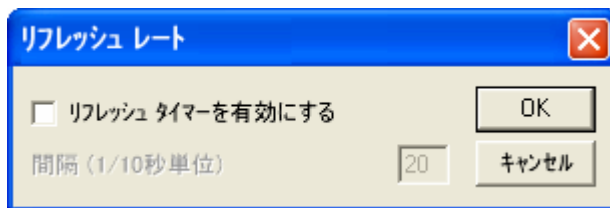
閉じる コピー	Ctrl+C
リフレッシュ リフレッシュ レート...	F5

閉じる : このコマンドを選択するか、[NetOp マーカー ユーティリティ](#) ウィンドウの **上のツールバー** で、押された状態で表示されている **[拡大鏡表示]** ボタンをクリックして解除すると、**[NetOp 拡大鏡]** ウィンドウが閉じます。

コピー : このコマンドを選択するか、CTRL+C を押すと、ペインの内容がクリップボードにコピーされます。

リフレッシュ : マウス ポインタを動かしたときにペインの画像は更新されますが、デフォルトではマウス ポインタを動かさないと更新されません。このコマンドを選択するか F5 キーを押すと、マウス ポインタを移動せずにペインの画像を更新できます。

リフレッシュ レート : このコマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。



リフレッシュ タイマーを有効にする : このボックスにチェックマークを付けると、マウス ポインタが動いていない間も、ペインの画像が一定間隔で更新されます (デフォルトではチェックなし)。

間隔 (0.1 秒単位) : 画像を更新する間隔を、このフィールドに 0.1 秒単位で指定します (デフォルト : 20)。

3.8.2.8 マーカーの削除

マーカーを削除するには、[NetOp マーカー ユーティリティ](#) ウィンドウの **上のツールバー** で、以下のいずれかのボタンをクリックするか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#) または [NetOp マーカー ユーティリティ最小化メニュー](#) で対応するコマンドを選択します。

元に戻す : 最後に選択したマーカーが削除されます。

すべてをクリア : すべてのマーカーが削除されます。

注意 : [NetOp マーカー ユーティリティ](#) をアンロードすると、すべてのマーカーと [NetOp 拡大鏡](#) ウィンドウが削除されます。

3.8.2.9 マーカーのプロパティとヘルプ

マーカーのプロパティの設定や、ヘルプの表示を行うには、[NetOp マーカー ユーティリティ](#) ウィンドウの **下のツールバー** で以下のボタンを使用するか、[NetOp マーカー ユーティリティ ウィンドウ メニュー](#) または [NetOp マーカー ユーティリティ最小化メニュー](#) で対応するコマンドを選択します。

フォントの選択 : このボタンをクリックするかこのコマンドを選択すると、Windows の **[フォント]** ウィンドウが表示され、テキスト マーカーのフォントと色を選択できます (デフォルト : Arial、太字、30pt、赤)。

色の選択 : このボタンをクリックするかこのコマンドを選択すると、Windows の **[色の設定]** ウィンドウが表示され、図形マーカーの色を選択できます (デフォルト : 赤)。

ペンの太さ (線幅) の選択 : このボタンをクリックして線幅ドロップダウン ボックスを表示するか、このコマンドを選択して一連のピクセル数オプションを含むサブメニューを表示すると、図形マーカーまたはテキスト マーカーのフレームの線幅を設定できます (デフォルト : 2 ピクセル)。

ヘルプ: このボタンをクリック (このコマンドを選択) すると、NetOp ホスト ヘルプの「NetOp マーカー ユーティリティ」トピックが表示されます。

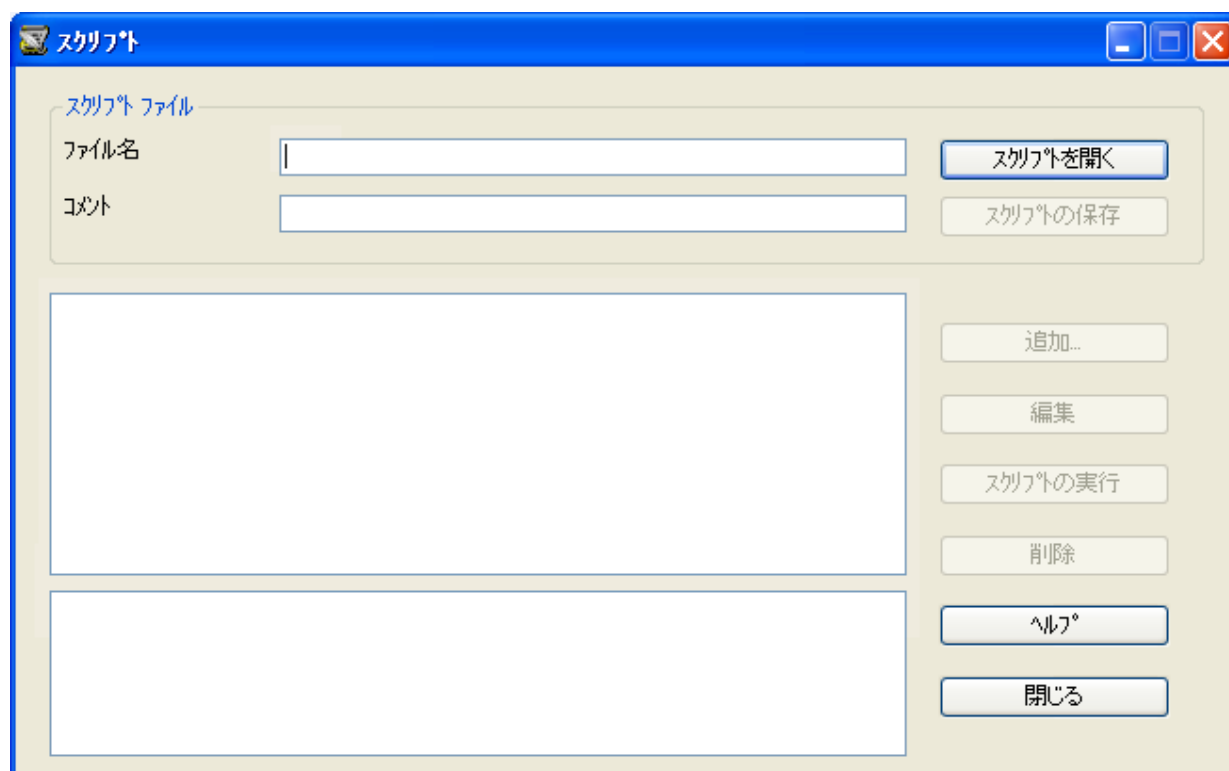
3.8.3 NetOp スクリプト

NetOp スクリプトはユーザー指定の NetOp コマンド構造で、コンピュータ間での無人ファイル転送など、スケジュールされた NetOp タスクを実行できます。

NetOp スクリプトを作成するには、[NetOp ゲスト ウィンドウのタブ パネルの「スクリプト」タブのレコード ペイン](#)のコンテキスト メニューから [\[新規作成\]](#)-[\[スクリプト\]](#) を選択するか、[NetOp ファイル マネージャ](#) ウィンドウで [ツールバーのその他のボタン](#) で [\[スクリプト\]](#) ボタンをクリックするか、[NetOp ファイル マネージャ](#) ウィンドウの [「オプション」メニュー](#) で [\[スクリプト\]](#) コマンドを選択します。 [スクリプト](#) ウィンドウが表示されます。

既存の NetOp スクリプトを表示または編集するには、[NetOp ゲスト ウィンドウのタブ パネルの「スクリプト」タブ](#)でスクリプトのレコードを選択して [「編集」メニュー](#)の [\[スクリプトの編集\]](#) コマンドを選択するか、コンテキスト メニューから [\[編集\]](#) コマンドを選択します。スクリプトが、[スクリプト](#) ウィンドウに表示されます。

スクリプト



このウィンドウでは、NetOp スクリプトをグラフィカルな表示で作成および編集できます。

ウィンドウのタイトル バー コントロールについては、「[ウィンドウ コントロール](#)」で説明しています。

スクリプト ファイル

ファイル名: スクリプト ファイルのパスとファイル名が表示されます (デフォルト: 空白)。NetOp スクリプトを作成する際には、このフィールドにスクリプト ファイルの名前を入力します。ファイルの拡張子とパスを指定しない場合、スクリプト ファイルには「dws」という拡張子が付けられ、[NetOp の設定ファイル](#)のディレクトリ (通常、*C:\Documents and Settings\ユーザー名\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Guest\script*) に保存されます。スクリプトを新規作成する場合は、確認を求めるメッセージが表示されます。[はい] をクリックすると、[グローバル設定](#)ウィンドウが表示されます。

スクリプトを開く: このボタンをクリックすると、Windows の [\[ファイルを開く\]](#) ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスの [\[ファイルの種類\]](#) フィールドは「NetOp スクリプト ファイル (*.dws)」に設定されており、NetOp スクリプト ファイルを選択して開くと、そのパスと名前が [\[ファイル名\]](#) フィールドに表示されます。

3.8 セッションのツール

コメント：[\[スクリプト\] タブ](#)の[レコード ペイン](#)の [コメント] 列に表示されるコメントを、必要に応じて入力します。

スクリプトの保存：このボタンをクリックすると、新規に作成したスクリプトや編集したスクリプトが保存されます。

(スクリプト ペイン)：ウィンドウにスクリプトが表示されている場合、この上部ペインにはスクリプトの内容が展開可能なツリー構造でグラフィカルに表示されます ([「NetOp スクリプトのテスト」](#)を参照)。デフォルトでは空白です。

(デバッグ メッセージ ペイン)：ウィンドウにスクリプトが表示されている場合、この下部ペインにはデバッグ情報が表示されます ([「NetOp スクリプトのテスト」](#)を参照)。デフォルトでは空白です。

追加：このボタンをクリックすると、スクリプト ペイン内の選択したスクリプト コマンドの下に、スクリプト コマンドが追加されます ([「コマンド」](#)を参照)。

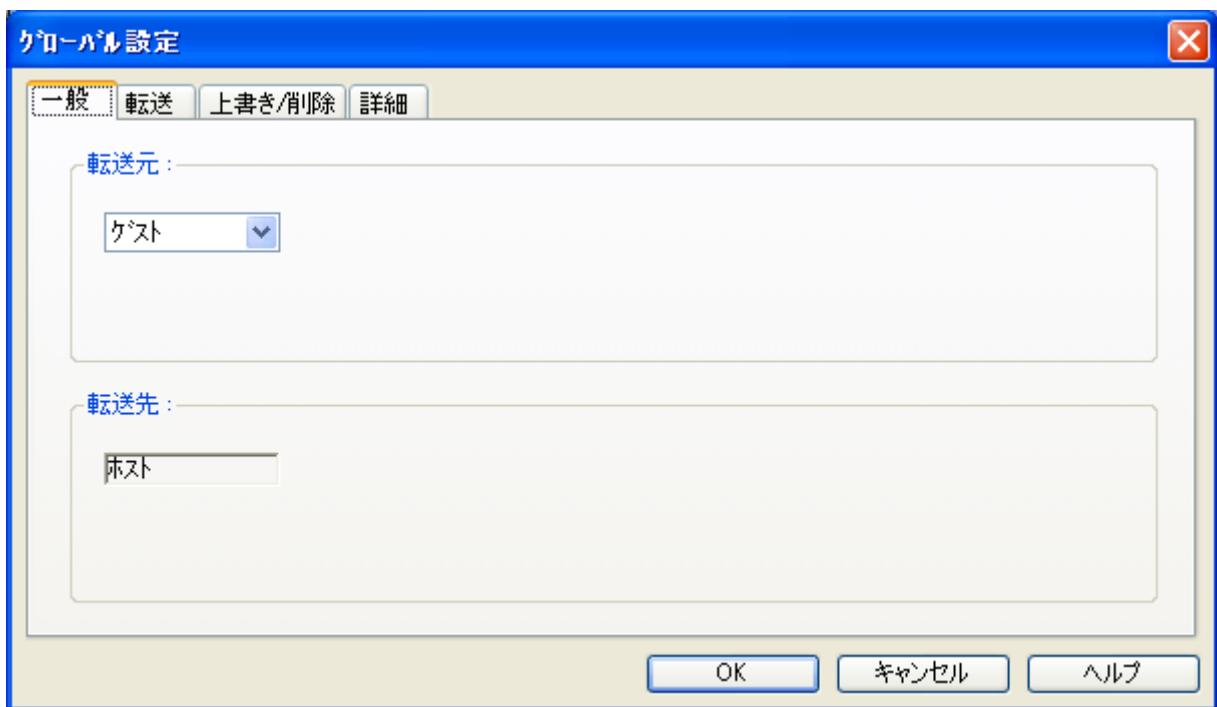
編集：スクリプト ペインでスクリプト コマンドを選択してこのボタンをクリックすると、対応する編集ウィンドウが表示されます。

スクリプトの実行：このボタンをクリックすると、スクリプトが実行されます ([「NetOp スクリプトのテスト」](#)を参照)。

削除：スクリプト ペインでスクリプト コマンドを選択してこのボタンをクリックすると、スクリプト コマンドとその下のサブツリーが削除されます。

3.8.3.1 グローバル設定

グローバル設定では、スクリプトの初期設定を入力します。[\[はい\]](#)を選択してスクリプトの新規作成を確認するか、スクリプト ペインで [\[グローバル設定\]](#)を選択して [\[編集\]](#)をクリックすると、このウィンドウが表示されます。

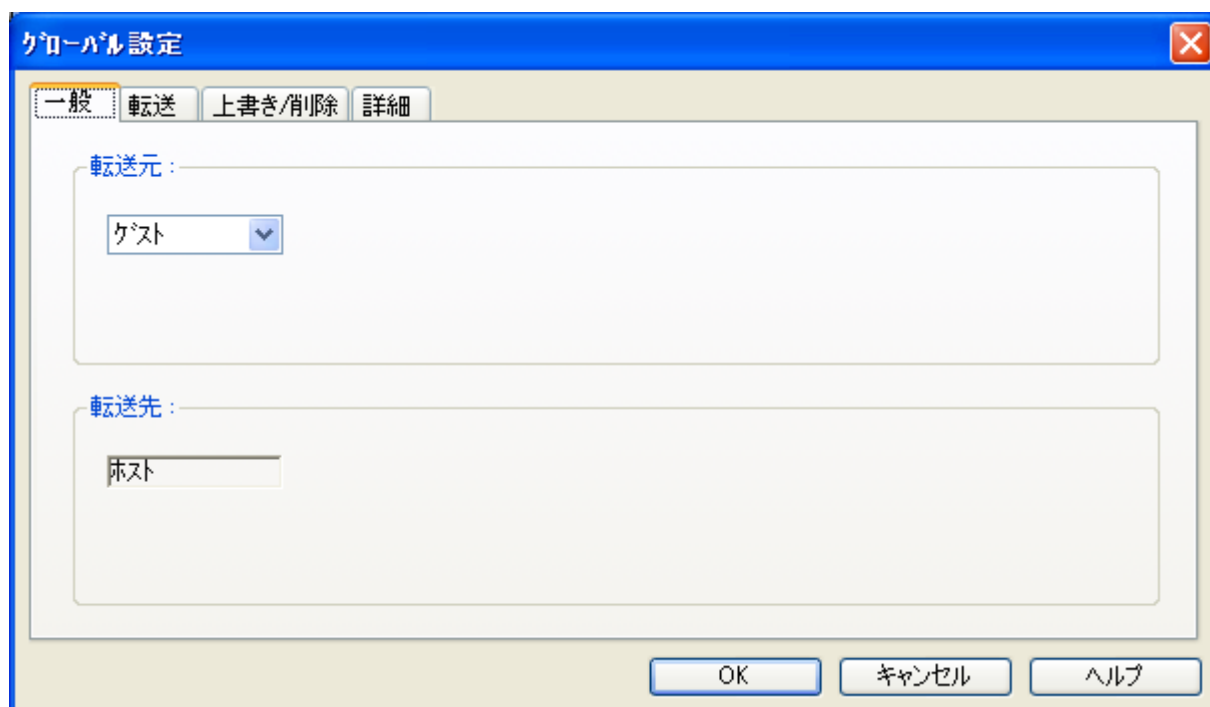


このウィンドウには次のタブがあります。

- [\[一般\] タブ](#)
- [\[転送\] タブ](#)
- [\[上書き / 削除\] タブ](#)
- [\[詳細\] タブ](#)

注意：スクリプト ファイル内でのグローバル設定の表示形式については、「[スクリプト ファイル内のグローバル設定](#)」で説明しています。

3.8.3.1.1 [一般] タブ



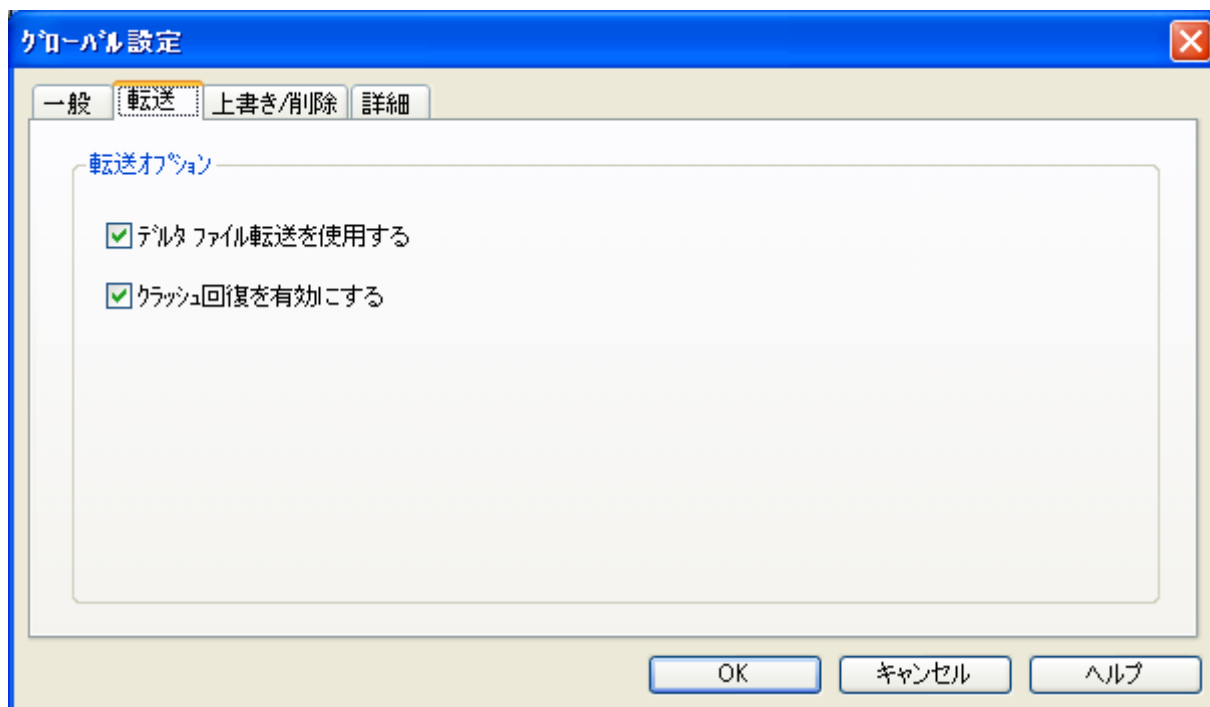
この [NetOp スクリプトグローバル設定](#) ウィンドウのタブでは、グローバルなファイル転送方向を設定します。

転送元：このドロップダウン ボックスのフィールドには、転送元として選択している NetOp モジュールの名前（デフォルト：ゲスト）が表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには、ゲストおよびホスト オプションが含まれます。リスト内のオプションを選択すると、そのオプションがフィールドに表示されます。

転送先：このフィールドは読み取り専用で、[転送元] ドロップダウン ボックスのリストで選択されなかった NetOp モジュール名が表示されます。

3.8 セッションのツール

3.8.3.1.2 [転送] タブ

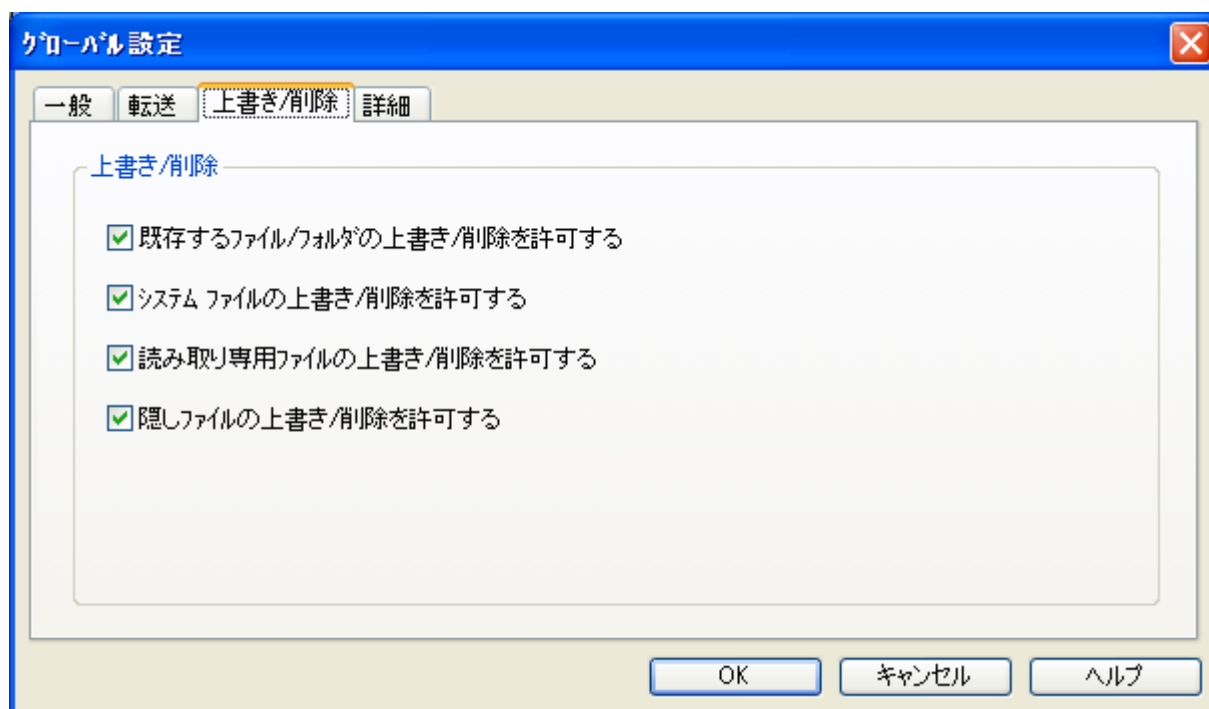


この [NetOp スクリプトグローバル設定](#) ウィンドウのタブでは、ファイル転送のグローバル オプションを設定します。

転送オプション

- デルタ ファイル転送を使用する** : このボックスにチェックマークを付けたままにすると、転送の帯域幅を節約するために、転送元のファイルと宛先のファイルが比較され、双方のファイルの差異のみが転送されます (デフォルトではチェック付き)。
- クラッシュ回復を有効にする** : このボックスにチェックマークを付けたままにすると、転送中にコンピュータまたはネットワークがクラッシュした場合に後から回復できるような方法で、ファイルが転送されます (デフォルトではチェック付き)。

3.8.3.1.3 [上書き / 削除] タブ



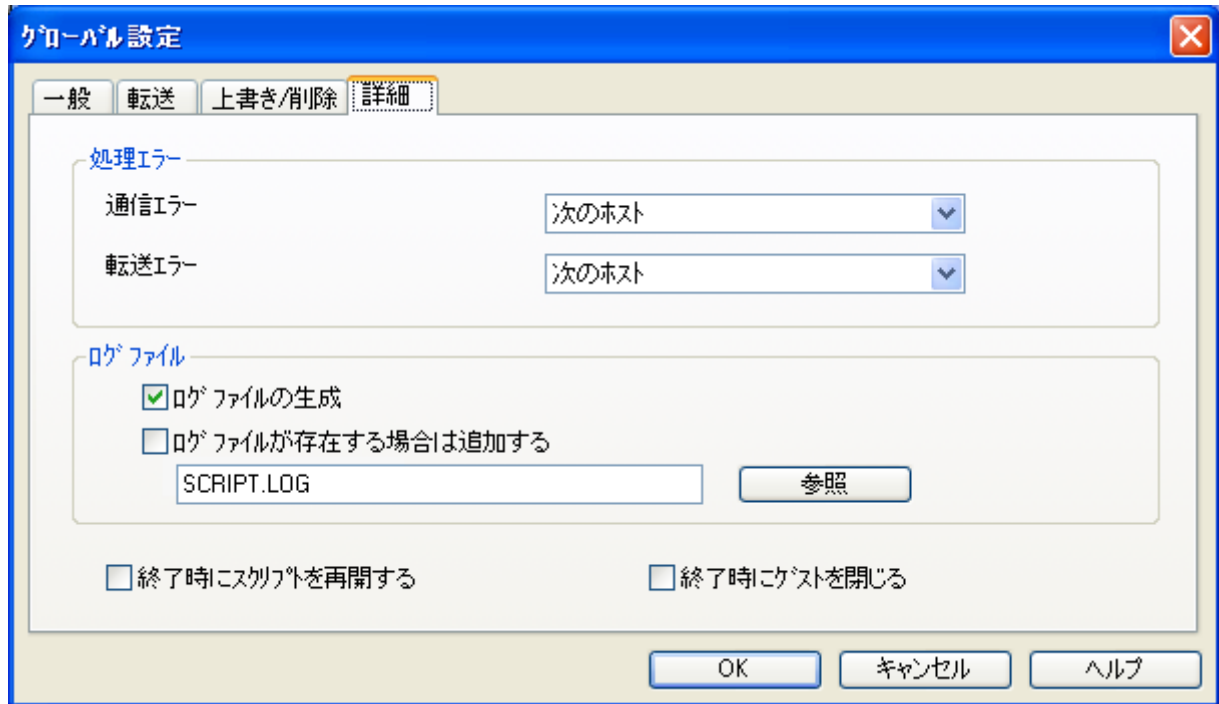
この [NetOp スクリプトグローバル設定](#) ウィンドウのタブでは、上書きと削除のグローバル オプションを設定します。

上書き / 削除

- 既存するファイル/フォルダの上書き/削除を許可する** : このボックスにチェックマークを付けたままにすると、転送先コンピュータ上のファイルとフォルダの上書きと削除が許可されます (デフォルトでチェック付き)。
- システムファイルの上書き/削除を許可する** : このボックスにチェックマークを付けたままにすると、転送先コンピュータ上のシステムファイルの上書きと削除が許可されます (デフォルトでチェック付き)。
- 読み取り専用ファイルの上書き/削除を許可する** : このボックスにチェックマークを付けたままにすると、転送先コンピュータ上の読み取り専用ファイルの上書きと削除が許可されます (デフォルトでチェック付き)。
- 隠しファイルの上書き/削除を許可する** : このボックスにチェックマークを付けたままにすると、転送先コンピュータ上の隠しファイルの上書きと削除が許可されます (デフォルトでチェック付き)。

3.8 セッションのツール

3.8.3.1.4 [詳細] タブ



この [NetOp スクリプトグローバル設定](#) ウィンドウのタブでは、グローバル設定の詳細を指定します。

処理エラー

通信エラー：このドロップダウン ボックスのフィールドで、通信エラーの発生時に実行されるアクションを指定します。ドロップダウン ボックスのリストには、次のオプションがあります。

終了：スクリプトを終了します。

次のホスト：スクリプトに指定されている次のホストに進みます（デフォルトで選択）。

再試行 1 回：失敗したコマンドを 1 回再試行します。

再試行 2 回：失敗したコマンドを 2 回再試行します。

～

再試行 9 回：失敗したコマンドを 9 回再試行します。

リスト内のオプションを選択すると、そのオプションがフィールドに表示されます。

転送エラー：このドロップダウン ボックスのフィールドで、ファイル転送エラーの発生時に実行されるアクションを指定します。ドロップダウン ボックスのリストには、次のオプションがあります。

終了：スクリプトを終了します。

次のホスト：スクリプトに指定されている次のホストに進みます。

次のファイル：スクリプトに指定されている次のファイルに進みます（デフォルトで選択）。

再試行 1 回：失敗したコマンドを 1 回再試行します。

再試行 2 回：失敗したコマンドを 2 回再試行します。

～

再試行 9 回：失敗したコマンドを 9 回再試行します。

リスト内のオプションを選択すると、そのオプションがフィールドに表示されます。

ログ ファイル

ログ ファイルの作成：このボックスにチェックマークが付いたままにしておくと、スクリプトの実行時にログ ファイルが生成されます（デフォルト：チェック付き）。

ログ ファイルが存在する場合は追加する：このボックスにチェックマークを付けると、既存のログ ファイルに指定の名前でログが追加されます（デフォルトではチェックなし）。上書きする場合は、チェックを付けないままにしておきます。

＜ログ ファイルのパスと名前＞：このフィールドで、ログ ファイルのパスと名前を指定します（デフォルト：SCRIPT.LOG）。パスを指定しない場合、ログ ファイルは [NetOp の設定ファイル](#) ディレクトリ（通常、C:\Documents and Settings\ユーザー名\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Guest\）に保存されます。

参照：このボタンをクリックすると、Windows の [ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスの [ファイルの種類] フィールドは「ログ ファイル (*.log)」に設定されており、ログ ファイルを選択して開くと、そのパスと名前がフィールドに指定されます。

注意：スクリプト ログ ファイルについては、「[スクリプト ログ](#)」で説明しています。

終了時にスクリプトを再開する：このボックスにチェックマークを付けると、スクリプトが終了後、再実行されます（デフォルトではチェックなし）。

終了時にゲストを閉じる：このボックスにチェックマークを付けると、スクリプトの終了後、NetOp ゲストがアンロードされます（デフォルトではチェックなし）。

3.8.3.1.5 スクリプト ファイル内のグローバル設定

[NetOp スクリプト](#) の [グローバル設定](#) は、スクリプト ファイル内に以下の表で示すように表示されます。

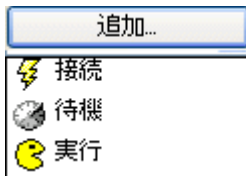
設定	値	説明
SET Copy=	G_H	ゲストからホストへ転送する
	H_G	ホストからゲストへ転送する
SET Delta=	互換性なし	デルタ ファイル転送を使用しない
	Yes	デルタ ファイル転送を使用する
SET CrashRecovery=	互換性なし	クラッシュ回復を有効にしない
	Yes	クラッシュ回復を有効にします。
SET OverwriteExisting=	互換性なし	既存のファイルを上書き / 削除しない
	Yes	既存のファイルを上書き / 削除する
SET OverwriteSystem=	互換性なし	システム ファイルを上書き / 削除しない
	Yes	システム ファイルを上書き / 削除する
SET OverwriteReadOnly=	互換性なし	読み取り専用ファイルを上書き / 削除しない
	Yes	読み取り専用ファイルを上書き / 削除する
SET OverwriteHidden=	互換性なし	隠しファイルを上書き / 削除しない
	Yes	隠しファイルを上書き / 削除する
SET OnComError=	Exit	通信エラーの発生したスクリプトを終了する
	NextHost	通信エラーが発生した場合、スクリプトに指定されている次のホストに進む
	<数>	通信エラーが発生した場合、<Number> 回再試行する（1～9）
SET OnError=	Exit	転送エラーが発生した場合、スクリプトを終了する
	NextHost	転送エラーが発生した場合、スクリプトに指定されている次のホストに進む
	NextFile	転送エラーが発生した場合、スクリプトに指定されている次のファイルに進む
	<数>	転送エラーが発生した場合、<Number> 回再試行する（1～9）
SET LogAppend=	互換性なし	既存のログ ファイルにログを追加しない
	Yes	既存のログ ファイルにログを追加する

3.8 セッションのツール

SET Log=	(値なし)	ログを生成しない
	"< ログ ファイルのパスと名前 >"	指定されたログ ファイルにログを生成する
SET AtEnd=	(値なし)	スクリプトの終了時にスクリプトを再実行しません。
	再起動	スクリプトの終了時にスクリプトを再開する
SET CloseGuest=	互換性なし	スクリプトの終了時にゲストをアンロードしない
	Yes	スクリプトの終了時にゲストをアンロードする

3.8.3.2 コマンド

NetOp スクリプトの最初のスクリプト コマンドを指定するには、[スクリプト](#) ウィンドウのスクリプト ペイン内で [\[グローバル設定\]](#) を選択し、[\[追加\]](#) をクリックします。次のドロップダウンメニューが表示されます。



このメニューには、ゲストで実行できるスクリプト コマンドが含まれています。

接続：このコマンドを選択すると [\[ホストに接続\]](#) ウィンドウが表示され、ホストに接続する [接続コマンド](#) を追加できます。

待機：このコマンドを選択すると [\[待機ダイアログ\]](#) ウィンドウが表示され、スクリプト実行を遅らせる [待機コマンド](#) を追加できます。

実行：このコマンドを選択すると [\[プログラムの実行\]](#) ウィンドウが表示され、ゲスト コンピュータでプログラムを実行する [実行コマンド](#) を追加できます。

[接続](#) コマンドによって、それ以降のコマンドが、接続されているホストで実行されるか、ゲスト コンピュータで実行されるかが決定されます。後者の場合は、[接続/Mode=Guest](#) コマンドを使用します。

スクリプト ペインで、[接続](#) コマンドの左側にある [\[+\]](#) をクリックしてコマンドを展開表示し、展開された [接続](#) コマンドや、それより下のいずれかのコマンドを選択して [\[追加\]](#) をクリックすると、次のメニューが表示されます。



このメニューには、接続されているホストに（またはローカル接続経由でゲスト自体に）実行できるスクリプト コマンドが含まれています。

コピー～削除：これらのコマンドのいずれかを選択すると、[ファイル転送] ダイアログ] ウィンドウが開き、[ファイル転送コマンド](#)を追加できます。

待機：このコマンドを選択すると [待機ダイアログ] ウィンドウが表示され、スクリプト実行を遅らせる[待機コマンド](#)を追加できます。

実行：このコマンドを選択すると [プログラムの実行] ウィンドウが表示され、接続先コンピュータでプログラムを実行する[実行コマンド](#)を追加できます。

ログオフ～メッセージの送信：これらのコマンドのいずれかを選択すると、接続先コンピュータでアクションを実行する[アクション コマンド](#)を追加できます。

注意：スクリプト ファイル内でのコマンドの表示形式については、「[スクリプト ファイル内のコマンド](#)」で説明しています。

3.8.3.2.1 接続コマンド

Netop スクリプトに [接続コマンド](#)を追加するには、[スクリプト](#) ウィンドウのスクリプト ペインで、[グローバル設定] か、[グローバル設定] の直下にある、ホストへの接続（またはゲストへのローカル接続）を実行する位置の直前にあるコマンドを選択して、[追加] ボタンをクリックします。[コマンド](#) ドロップダウン メニューで[接続](#)を選択すると、[ホストに接続](#)ウィンドウが表示されます。

[接続コマンド](#)を編集するには、スクリプト ペインで [接続コマンド](#)を選択し、[編集] ボタンをクリックすると、[ホストに接続](#)ウィンドウが表示されます。

ホストに接続

The screenshot shows a dialog box titled "ホストに接続". It contains a dropdown menu for "接続時に使用:" with "電話帳ファイル" selected. Below this is a text input field for "電話帳ファイル:" and a "参照" button. At the bottom of the dialog are three buttons: "OK", "キャンセル", and "ヘルプ".

このウィンドウでは、[接続コマンド](#)を追加または編集できます。

接続時に使用：このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択した接続オプションが表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには、次のオプションが含まれます。

- ・ **電話帳ファイル：**ホストの NetOp 電話帳ファイルを指定してホストに接続する場合は、このオプションを選択します（デフォルト）。

3.8 セッションのツール

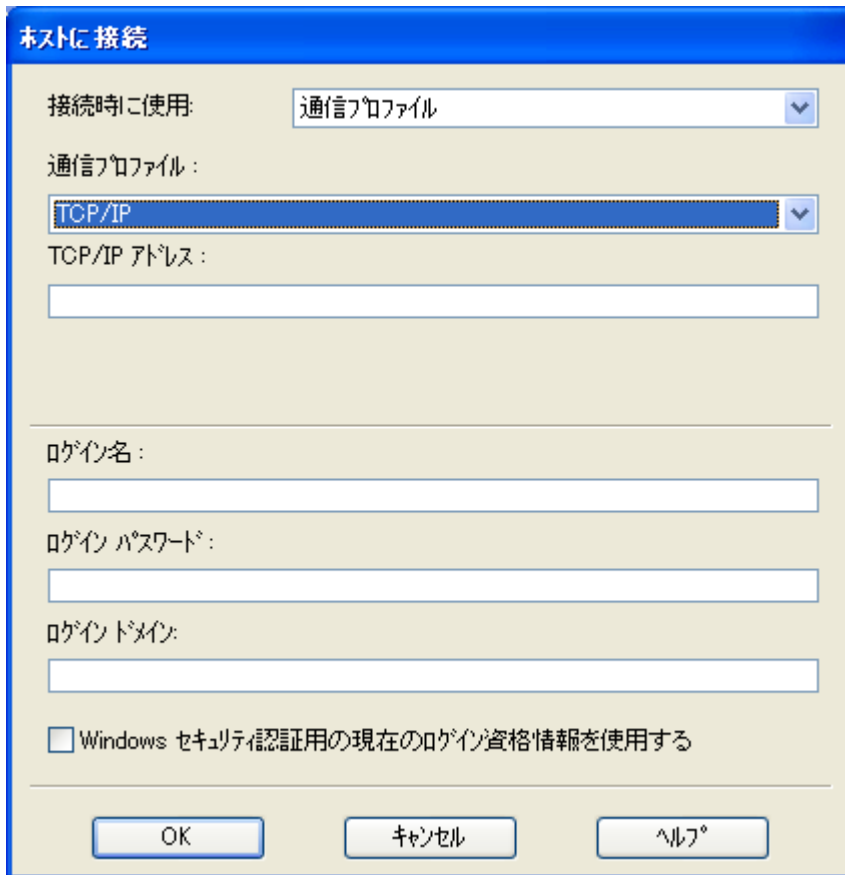
- ・ **通信プロファイル**：通信プロファイルとホストの接続情報を指定してホストに接続する場合は、このオプションを選択します。
- ・ **ローカル**：このオプションは、ゲストにローカル接続する場合に選択します。

リスト内のオプションを選択すると、そのオプションがフィールドに表示されます。

[電話帳ファイル]を選択すると、次のように表示されます。

電話帳ファイル：[参照]：[参照]をクリックすると、Windows の [ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスの [ファイルの種類] フィールドは「NetOp Phonebook Files (*.dwc)」に設定されており、電話帳ファイルを選択して開くと、そのパスと名前がフィールドに表示されます。または、このフィールドにパスと名前を入力します。

[通信プロファイル]を選択すると、次のように表示されます。



通信プロファイル：このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択されている通信プロファイル (デフォルト：TCP/IP) が表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには、利用可能なゲスト通信プロファイルが一覧されており、リスト内のプロファイルを選択すると、そのプロファイルがフィールドにセットされます。

TCP/IP アドレス：[]：上で選択した通信プロファイルに従って、ホストの接続情報を 1 つまたは 2 つのフィールドに指定します (「[\[ホスト\] セクション](#)」を参照)。このフィールドは、デフォルトでは空白になっています。IP アドレスを入力可能なフィールドで、IP アドレスの範囲 (192.168.1.1-192.168.1.5 など) を指定して、1 つのスクリプトから複数のホスト コンピュータに接続することもできます。

ログイン名：ホストでログイン名が必要とされる場合は、このフィールドに入力します (デフォルト：空白)。

ログイン パスワード：ログイン名に対応するパスワードを、このフィールドに入力します (デフォルト：空白)。

ログイン ドメイン：ログイン名に対応するドメインまたはディレクトリサーバーを、このフィールドに入力します (デフォルト：空白)。

Windows セキュリティ認証用の現在のログイン資格情報を使用する：上で入力したログイン資格情報の代わりに、ゲスト コンピュータのユーザーの Windows ログイン資格情報でログインするには、このボックスにチェックマークを付けます（デフォルトではチェックなし）。

[ローカル] を選択した場合は、それ以上の入力はありません。

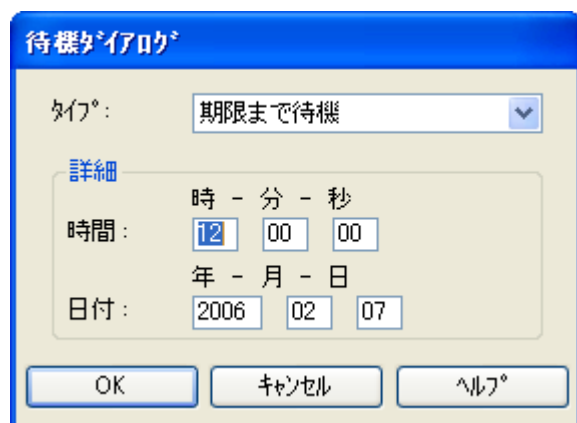
[OK] をクリックすると、入力または編集した接続コマンドがスクリプト ペインに入力されます。

3.8.3.2.2 待機コマンド

NetOp スクリプトに待機コマンドを追加するには、[スクリプト](#) ウィンドウのスクリプト ペインで、スクリプトの実行を継続する前に待機させる直前のコマンドを選択し、[追加] ボタンをクリックします。[コマンド](#) ドロップダウン メニューで待機を選択すると、[待機ダイアログ](#)：ウィンドウが表示されます。

待機コマンドを編集するには、スクリプト ペインで待機コマンドを選択し、[編集] ボタンをクリックすると、[待機ダイアログ](#)：ウィンドウが表示されます。

待機ダイアログ：



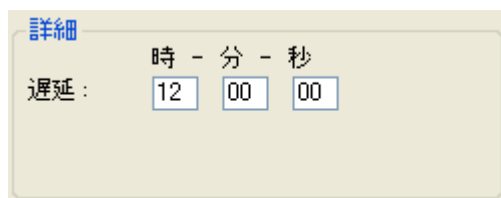
このウィンドウでは、待機コマンドを追加または編集できます。

タイプ：このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択した待機のタイプが表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには、次の待機のタイプがあります。

- ・ 遅延：スクリプトの実行を、指定した時間だけ一時停止します。
- ・ 待機：指定した日時まで待機した後、スクリプトの実行を再開します（デフォルト）。
- ・ 毎日反復：スクリプトを毎日、指定した時刻に実行します。
- ・ 毎週反復：スクリプトを毎週、指定した曜日の指定した時刻に実行します。
- ・ 毎月反復：スクリプトを毎月、指定した曜日の指定した時刻に実行します。
- ・ 特定の日に毎月反復：スクリプトを毎月、指定した日付の指定した時刻に実行します。

リストから待機のタイプを選択すると、それがフィールドに表示されます。

[遅延] を選択すると、セクションは次のように表示されます。



遅延：時 - 分 - 秒 のフィールドに、00-00-00 ~ 23-59-59 の範囲内で遅延時間を指定します（デフォルト：12-00-00）。

3.8 セッションのツール

[待機] を選択すると、セクションは次のように表示されます。

詳細

時 - 分 - 秒
時間: 12 00 00

年 - 月 - 日
日付: 2006 02 07

時間: 時 - 分 - 秒 のフィールドと [AM/PM] ボタンを使って、00-00-00 AM ~ 11-59-59 PM の範囲内で時刻を指定します (デフォルト: 12:00:00 AM (正午))。

日付: 年 - 月 - 日 のフィールドに、必要に応じて 1900-01-01 ~ 2200-12-31 の範囲内で日付を指定します (デフォルトは <当日>)。

注意: [日付] フィールドを入力しないと、スクリプトの実行は [時間] フィールドで指定された時刻になるまで待機します。

これ以外のタイプの待機を選択すると、セクションは次のように表示されます。

詳細

時 - 分 - 秒
時間: 12 00 00

日を選択...

時間: 時 - 分 - 秒 のフィールドと [AM/PM] ボタンを使って、00-00-00 AM ~ 11-59-59 PM の範囲内で時刻を指定します (デフォルト: 12:00:00 AM (正午))。

日を選択...: [タイプ] ドロップダウン ボックスで [毎日反復] を選択した場合は、このボタンは表示されません。このボタンをクリックすると、以下のいずれかのウィンドウが表示されます。

[タイプ] ドロップダウン ボックスのフィールドで [毎週反復] を選択した場合

待機 - 日を選択

日を選択:

月 火 水 木 金 土 日

OK キャンセル ヘルプ

[タイプ] ドロップダウン ボックスのフィールドで [毎月反復] を選択した場合

待機 - 日を選択

日を選択 :

1 番目	月	火	水	木	金	土	日
2 番目	月	火	水	木	金	土	日
3 番目	月	火	水	木	金	土	日
4 番目	月	火	水	木	金	土	日
最後	月	火	水	木	金	土	日

OK キャンセル ヘルプ°

[タイプ] ドロップダウン ボックスのフィールドで、[特定の日に毎月反復] を選択した場合

待機 - 日付を選択

日付を選択 :

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

OK キャンセル ヘルプ°

曜日または日付をクリックし、白い枠で囲んで選択します。デフォルトでは月曜日（月カレンダーでは第 1 月曜日）または 1 日が選択されています。

3.8 セッションのツール

3.8.3.2.3 実行コマンド

NetOp スクリプトに実行コマンドを追加するには、[スクリプト](#) ウィンドウのスクリプト ペインで、コマンドを実行する位置の直前にあるコマンドを選択し、[\[追加\]](#) ボタンをクリックします。[コマンド](#) ドロップダウン メニューで実行を選択すると、[プログラムの実行](#) ウィンドウが表示されます。

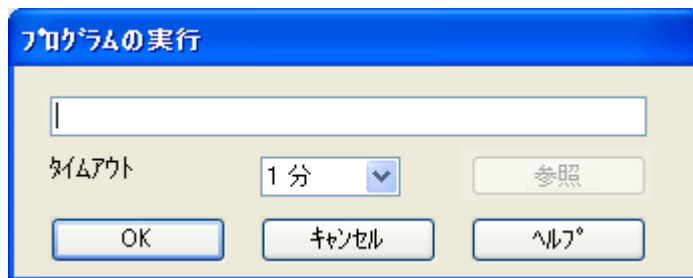
注意：[\[グローバル設定\]](#) コマンドの直下または [\[接続 /Mode=Guest\]](#) コマンドの下にある実行コマンドは、ゲスト コンピュータで実行されます。

[接続 /Mode=Guest](#) 以外の、[接続](#)コマンド直下の実行コマンドは、接続しているホスト コンピュータで実行されます。

指定したプログラム ファイルは、それを実行するコンピュータに位置している必要があります。

実行コマンドを編集するには、スクリプト ペインで [RUN](#) コマンドを選択し、[\[編集\]](#) ボタンをクリックします。次の[プログラムの実行](#) ウィンドウが表示されます。

プログラムの実行



このウィンドウでは、実行コマンドを追加または編集できます。

実行コマンドを追加するときには、このフィールドは空白です。実行コマンドを編集する場合は、このフィールドにプログラムのパスとコマンド名が表示されます。このフィールドにプログラムのパスとコマンド名を指定するか、パスとコマンド名を編集します。このフィールドを右クリックすると、標準的な編集メニューが表示されます。コマンド ライン スイッチを追加することもできます。

参照：このボタンをクリックすると、Windows の [\[ファイルを開く\]](#) ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスの [\[ファイルの種類\]](#) フィールドは「プログラム ファイル (*.exe)」に設定されており、exe ファイルを選択して開くと、そのパスと名前が上記フィールドに指定されます。

注意：[「プログラムの実行」](#) も参照してください。

タイムアウト：このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択したタイムアウト (デフォルト：1 分) が表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには、先頭に [\[なし\]](#)、末尾に [\[完了まで待機\]](#) のオプションがあり、それらの間に 5 秒～10 分のタイムアウト オプションが一覧されます。[\[なし\]](#) を選択すると、スクリプトの実行が、プログラムの実行完了を待たずに続行されます。特定のタイムアウトを選択すると、そのタイムアウト内にプログラムの実行が完了しない場合、スクリプト エラーが発生します。[\[完了まで待機\]](#) を選択すると、スクリプトの実行は、常にプログラムの実行が完了するまで待機します。

警告：コマンドの指定が正しくないと、スクリプト エラーの原因になります。「[NetOp スクリプトのテスト](#)」を参照してください。

3.8.3.2.4 ファイル転送コマンド

NetOp スクリプトにファイル転送コマンドを追加するには、[スクリプト](#) ウィンドウのスクリプト ペインで、ファイル転送コマンドの挿入位置の直前にあるコマンドを選択し、[\[追加\]](#) ボタンをクリックします。[コマンド](#) ドロップダウン メニューで [\[コピー\]](#)、[\[移動\]](#)、[\[同期化\]](#)、[\[複製\]](#)、[\[削除\]](#) のいずれかを選択すると、対応する [\[ファイル転送 ダイアログ\]](#) ウィンドウ (後述) が開きます。

ファイル転送コマンドを編集するには、スクリプト ペインでファイル転送コマンドを選択して [編集] ボタンをクリックします。対応する [ファイル転送 ダイアログ] ウィンドウ (後述) が開きます。

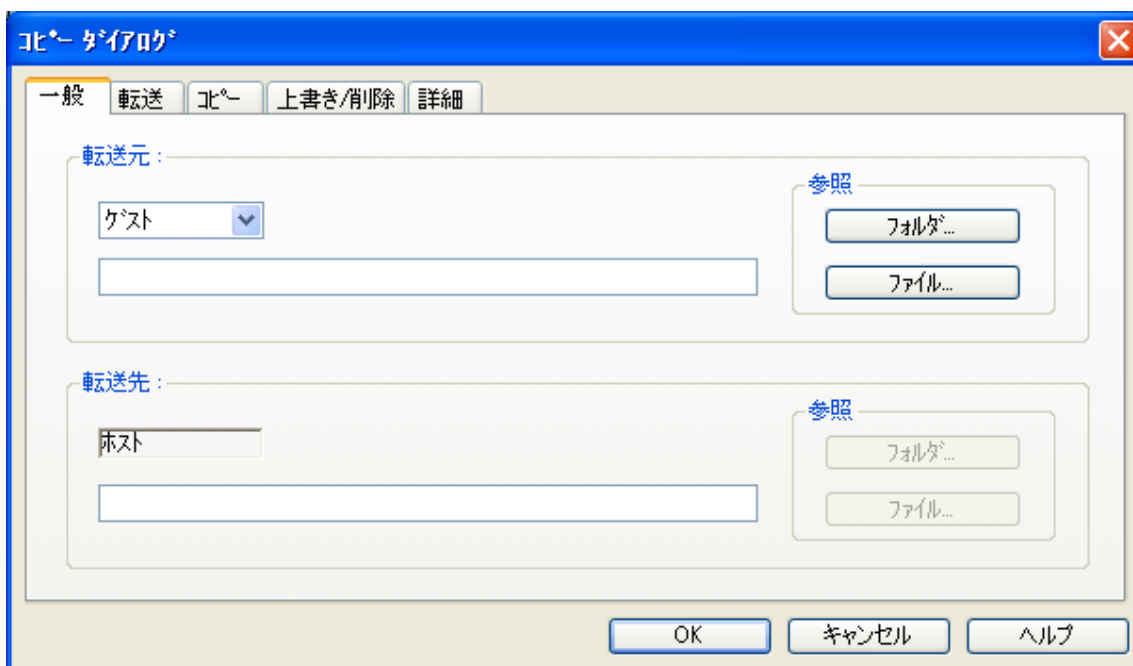
ファイル転送コマンドには、コピー、移動、同期化、複製、削除の 5 つがあります。

コピー ダイアログ、移動ダイアログ、同期化ダイアログ、複製ダイアログの各ウィンドウのレイアウトは同じです。ここでは コピー ダイアログ ウィンドウについて説明し、これらのダイアログウィンドウの相違点も指摘します。このウィンドウには次のタブがあります。

- ・ [\[一般\] タブ](#)
- ・ [\[転送\] タブ](#)
- ・ [\[コピー\] タブ](#)
- ・ [\[上書き / 削除\] タブ](#)
- ・ [\[詳細\] タブ](#)

コピー ダイアログ

[一般] タブ



[転送元] セクション

(上のドロップダウン ボックス) : このドロップダウン ボックスのフィールドには、転送元として選択している NetOp モジュールの名前が表示されます。デフォルトでは、[グローバル設定](#) ウィンドウの [一般] タブで選択した名前が表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには、ゲストおよびホスト オプションが含まれます。リスト内のオプションを選択すると、そのオプションがフィールドに表示されます。

(下のフィールド) : ファイル転送コマンドを追加するときには、このフィールドは空白です。ファイル転送コマンドを編集している場合は、このフィールドには転送元のファイルのパスと名前が表示されます。転送元の指定または編集を行います。ファイル マスク (すべての文字列に合致する「*」などのワイルドカード文字を含むファイル名) を指定すれば、名前に共通の文字を含む複数のファイルを指定できます。たとえば、ファイル マスク「*.」は、すべてのファイルとディレクトリに合致します。

注意 : [同期化] コマンドや [複製] コマンドの場合は、転送元のディレクトリを指定する必要があります。

3.8 セッションのツール

参照

注意：このセクションが有効になるのは、[転送元]セクションの上のドロップダウンボックスのフィールドが「ゲスト」の場合だけです。

フォルダ...：このボタンをクリックすると、Windows の [フォルダの参照] ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスで転送元のディレクトリを選択すると、そのパスが左側の下のフィールドに表示されます（パスの末尾に「*.*」が付加されます）。

ファイル...：このボタンをクリックすると、Windows の [ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスの [ファイルの種類] フィールドは「すべてのファイル (*.*)」に設定されており、転送元ファイルを選択して開くと、そのパスと名前が左側の下のフィールドに表示されます。

注意：[ファイル...] ボタンは、[同期化] コマンドや [複製] コマンドの設定時には無効になります。

[転送先] セクション

(上のフィールド)：このフィールドには、[転送元]セクションの上のドロップダウンボックスのリストで選択されなかったオプションが常に表示されます。このフィールドは読み取り専用です。

(下のフィールド)：ファイル転送コマンドを追加するときには、このフィールドは空白です。ファイル転送コマンドを編集している場合は、このフィールドには転送先のファイルのパスと名前が表示されます。このフィールドで転送先を指定するか、既存の転送先を編集します。転送先は通常、末尾に「*.*」が付いたディレクトリのパスです。単独のファイルを、名前を変更して転送する場合は、転送先のファイル名まで指定します。

注意：[同期化] コマンドや [複製] コマンドの場合は、転送先のディレクトリを指定する必要があります。

参照

注意：このセクションが有効になるのは、[転送先]セクションの上のドロップダウンボックスのフィールドが「ゲスト」の場合だけです。

フォルダ...：このボタンをクリックすると、Windows の [フォルダの参照] ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスで転送先のディレクトリを選択すると、そのパスが左側の下のフィールドに表示されます（パスの末尾に「*.*」が付加されます）。

転送先ディレクトリ内のファイルは、転送元の同じ場所に同じ名前のファイルがあると、後者によって上書きされます。ただし、同期化の場合には、転送元と転送先のディレクトリに関係なく、古いファイルが新しいファイルによって上書きされます。

ファイル...：このボタンをクリックすると、Windows の [ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスの [ファイルの種類] フィールドは「すべてのファイル (*.*)」に設定されており、転送先ファイルを選択して開くと、そのパスと名前が左側の下のフィールドに表示されます。

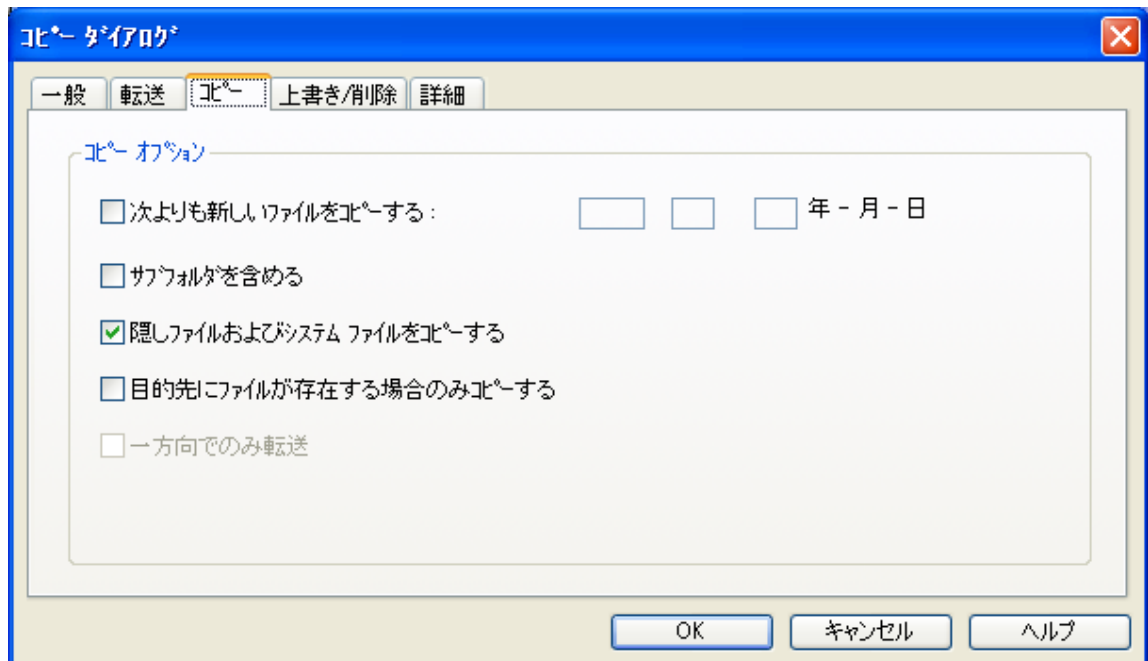
転送先のファイル名を指定すると、転送される単独のファイルは、転送先では指定した名前になります。指定した名前のファイルが転送先に存在する場合、そのファイルは転送されるファイルで上書きされます。

注意：[ファイル...] ボタンは、[同期化] コマンドや [複製] コマンドの設定時には無効になります。

警告：ファイル転送の設定が正しくないと、スクリプト エラーの原因になります。「[NetOp スクリプトのテスト](#)」を参照してください。

【転送】タブ

このタブの構成要素は、[グローバル設定](#)ウィンドウの [【転送】タブ](#)と同じです。デフォルトでは、[グローバル設定](#)と同じ項目が選択されています。選択の変更は、現在のファイル転送コマンドだけに適用されます。

【コピー】タブ**コピー オプション**

- 次よりも新しいファイルをコピーする**：このボックスにチェックマークを付けて、フィールドに日付を指定すると、指定した日付より新しいファイルだけが転送されます（デフォルトではチェックなし）。
- サブフォルダを含める**：このボックスにチェックマークを付けると、指定したディレクトリのサブディレクトリ内のファイルも転送対象になります（デフォルトではチェックなし）。指定したディレクトリのファイルのみを転送するには、チェックを付けなくておきます。
- 隠しファイルおよびシステム ファイルをコピーする**：このボックスにチェックマークを付けたままにしておくと、隠しファイルとシステム ファイルも転送されます（デフォルトでチェック付き）。チェックマークを外すと、隠しファイルとシステム ファイルは転送の対象外になります。
- 目的先にファイルが存在する場合のみコピーする**：このボックスにチェックマークを付けないままにしておくと、指定したすべてのファイルが転送されます（デフォルトではチェックなし）。このボックスにチェックマークを付けると、転送先コンピュータの指定したディレクトリに存在するファイルだけが転送されます。
- 一方向でのみ転送**：このオプションは [【同期化】](#) コマンドでのみ有効です。このボックスにチェックマークを付けると、転送元のコンピュータから転送先のコンピュータの方向だけにファイルが転送されます（デフォルトではチェックなし）。

注意： [【複製】](#) コマンドでは、 [【サブフォルダを含める】](#) 以外のすべてのオプションが無効です。

【上書き / 削除】タブ

このタブの構成要素は、[グローバル設定](#)ウィンドウの [【上書き / 削除】タブ](#)と同じです。デフォルトでは、[グローバル設定](#)と同じ項目が選択されています。選択の変更は、現在のファイル転送コマンドだけに適用されます。

3.8 セッションのツール

【詳細】タブ

このタブの構成要素は、[グローバル設定](#)ウィンドウの [【詳細】タブ](#)と同じです。ただし、[【ログ ファイル】](#)セクションと、[【終了時にスクリプトを再開する】](#)および [【終了時にゲストをアンロードする】](#)のオプションが無効になります。デフォルトでは、[グローバル設定](#)と同じ項目が選択されています。選択の変更は、現在のファイル転送コマンドだけに適用されます。

削除

【転送元】セクション

(上のドロップダウン ボックス) : このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択している NetOp モジュールの名前が表示されます。デフォルトでは、[グローバル設定](#)ウィンドウの [【一般】タブ](#) タブで選択されていない名前が表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには、ゲストおよびホスト オプションが含まれます。リスト内のオプションを選択すると、そのオプションがフィールドに表示されます。

(下のフィールド) : ディレクトリまたはファイルのパスと名前を入力します。ファイル マスク (すべての文字列に合致する「*」などのワイルドカード文字を含むファイル名) を指定すれば、名前に共通の文字を含む複数のファイルを指定できます。たとえば、ファイル マスク「*. *」は、すべてのファイルとディレクトリに合致します。

【オプション】セクション

サブフォルダを含める : このボックスにチェックマークを付けると、指定したディレクトリとそのサブディレクトリ、およびその中のファイルも削除対象になります (デフォルトではチェックなし)。指定したディレクトリのファイルのみを削除するには、チェックを付けなくておきます。

隠しファイルとシステム ファイルを削除 : このボックスにチェックマークを付けたままにしておくと、指定したディレクトリ内の隠しファイルとシステム ファイルも削除されます (デフォルトでチェック付き)。チェックマークを外すと、隠しファイルとシステム ファイルは削除の対象外になります。

読み取り専用ファイルを削除 : このボックスにチェックマークを付けると、指定したディレクトリ内の読み取り専用ファイルが削除されます (デフォルトではチェックなし)。読み取り専用ファイルを削除しない場合は、チェックマークを付けなくておきます。

3.8.3.2.5 アクション コマンド

アクション コマンドには、ログオフ、再起動、電源を切る、ロックなどの単純なコマンドと、イベントリやメッセージの送信などの複合コマンドがあります。

注意 : アクション コマンドは、接続しているホストに対してのみ機能します。ゲストとローカルに接続している場合は機能しません。

Netop スクリプトにアクション コマンドを追加するには、[スクリプト](#) ウィンドウのスクリプト ペインで、これから実行したいコマンドを選択します。[追加] ボタンをクリックして、ドロップダウン メニューで次のコマンドの中から 1 つを選択します。

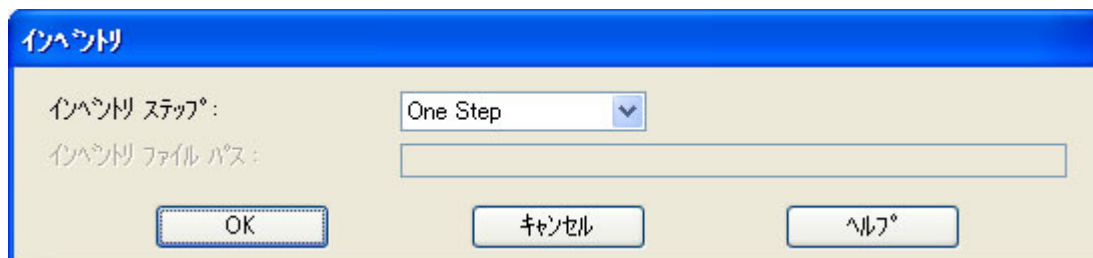
ログ オフ：ユーザーが接続先のホスト コンピュータで Windows からログ オフするコマンドを追加します。

再起動：接続先のホスト コンピュータで Windows を再起動するコマンドを追加します。

電源を切る：接続先のホスト コンピュータを終了して電源を切るコマンドを追加します。

ロック：接続先のホスト コンピュータをロックするコマンドを追加します。

インベントリ：下のウィンドウが表示されます。



インベントリ ステップ：このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択したインベントリのステップのオプションが表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには、次のオプションが含まれます。

1 つのステップ：接続先のホスト コンピュータのインベントリを生成、受信、コピーし、完成させます。

生成：ホスト コンピュータ上にホスト コンピュータのインベントリを生成します。

受信：生成したホスト コンピュータのインベントリを、ホスト コンピュータのファイル `%TEMP%\%si_out.xml` に受信します。

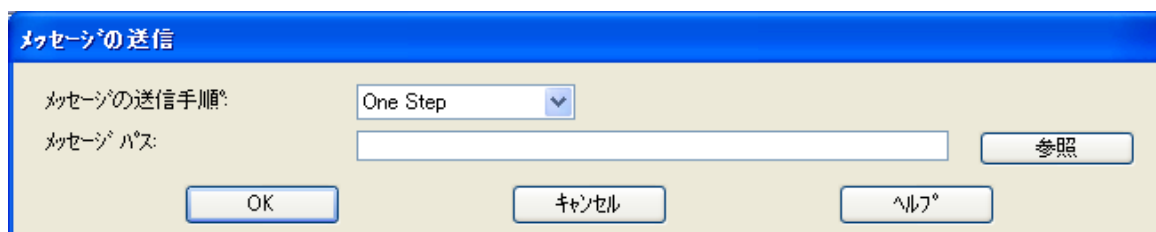
注意：受信したインベントリ ファイルは、完成前の準備のために、接続先のホスト コンピュータからゲスト コンピュータへ（通常はゲスト コンピュータの `%TEMP%` ディレクトリに）、コピー [ファイル転送コマンド](#) でコピーしておく必要があります。

完成：ゲスト コンピュータにコピーしたホスト コンピュータのインベントリ ファイルを、ゲスト コンピュータ ユーザーの `inventor` ディレクトリに移動し、[NetOp ゲスト ウィンドウのタブ パネルの「インベントリ」タブ](#) タブで表示できるようにします。`inventor` ディレクトリは、[NetOp の設定ファイル](#) ディレクトリ（通常、`C:\Documents and Settings\<User name>\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\<Guest\inventor`）に置かれます。

リスト内のオプションを選択すると、そのオプションがフィールドに表示されます。

インベントリ ファイル パス：このフィールドは、[完了] が [インベントリのステップ] ドロップダウン ボックス フィールドに表示されている場合のみ有効になります。完成させるインベントリ ファイルのゲスト コンピュータでのパスと名前を指定します。

メッセージの送信：下のウィンドウが表示されます。



メッセージの送信手順：このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択したメッセージ送信の手順のオプションが表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには、次のオプションが含まれます。

3.8 セッションのツール

1 つのステップ: ゲスト コンピュータのメッセージ ファイルを接続先のホストの *Messages* ディレクトリにコピーして、ホスト コンピュータの画面にメッセージを表示します。

注意: メッセージの作成と保存は、[メッセージの送信] ウィンドウで行います。[NetOp メッセージ](#)を参照してください。

メッセージの表示: ホストの *Messages* ディレクトリにあるメッセージ ファイルをホスト コンピュータの画面に表示します。

リスト内のオプションを選択すると、そのオプションがフィールドに表示されます。

メッセージ パス: このフィールドには、ゲスト コンピュータ (1 つのステップの場合) またはホスト コンピュータ (メッセージの表示の場合) での、(コピーおよび) 表示されるメッセージ ファイルのパスと名前を指定します。

注意: ホストの *Messages* ディレクトリは、環境変数 *%RootConfig%Messages* で表されます。

ホストの [メッセージ] ウィンドウに表示するには、メッセージのファイル名が <日付>T<時刻>;<送信者>.rtf という構文で、日付と時刻が YYYY-MM-DDTHH-MM-SS という形式である必要があります。

参照... : このボタンをクリックすると、Windows の [ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスの [ファイルの種類] フィールドは「Rtf ファイル (*.rtf)」に設定されており、ゲスト コンピュータのメッセージ ファイルを選択して開くと、そのパスと名前が [メッセージ パス] フィールドに指定されます。

3.8.3.2.6 スクリプト ファイル内のコマンド

NetOp スクリプト ファイル内にあるスクリプト コマンドは、以下の表のとおりです。

コマンド / 設定	引数 / 値	説明
Connect /Mode=Phonebook	<ドライブ>:¥<パス>¥<ファイル>	電話帳ファイル <ドライブ>:¥<パス>¥<ファイル> を使用してホストに接続します。
Connect /Mode=CommProfile	/Profile="通信プロファイル" /Name=<ホスト名または IP アドレスの範囲> /Loginname=<ログイン名> /Loginpassword=<パスワード (暗号化)> /Logindomain=<ドメインまたはディレクトリ サービス名> /LoginCredentials=<Yes/No>	通信プロファイル <通信プロファイル> を使用して、<ホスト名または IP アドレスの範囲> に対して、<ログイン名>、<パスワード> および <ドメインまたはディレクトリ サービス名> または現在の Windows の資格 <Yes/No> によって接続します。
Connect /Mode=Guest		ゲストとローカルに接続します。
WAIT /Mode=Delay	HH:MM:SS	処理を進める前に、HH:MM:SS で指定した時間の長さだけ待機します。
WAIT /Mode=Until	HH:MM:SS [MM-DD-YYYY]	処理を進める前に、指定された MM-DD-YYYY または次の HH:MM:SS (時刻) まで待機します。
WAIT /Mode=Repeat	HH:MM:SS	HH:MM:SS (時刻) に毎日繰り返します。
WAIT /Mode=WeekDay	/Days="<n1>,<n2>,..." HH:MM:SS	毎週、<n1>、<n2> (1=月曜日、2=火曜日など) など、指定した日の HH:MM:SS (時刻) に繰り返します。
WAIT /Mode=MonthDay	/Days="<n1>,<n2>,..." HH:MM:SS	毎月、<n1>、<n2> (1=第1週の月曜日、8=第2週の月曜日、29=最終週の月曜日) など、指定した日の HH:MM:SS (時刻) に繰り返します。
WAIT /Mode=MonthDate	/Days="<n1>,<n2>,..." HH:MM:SS	毎月、<n1>、<n2> など、指定した日付の HH:MM:SS (時刻) に繰り返します。

Run <Drive>:¥<Path>¥<File>	[<Any command line switch>]	プログラム <ドライブ>:¥<パス>¥<ファイル> を実行します。コマンドライン スイッチを追加することもできます。
	/Guest	プログラム <ドライブ>:¥<パス>¥<ファイル> をゲスト上で実行します。
	/TimeOut=0	プログラム <ドライブ>:¥<パス>¥<ファイル> を実行し、実行が完了するまで待機せずに即座に処理を開始します。
	/TimeOut=<n>	プログラム <ドライブ>:¥<パス>¥<ファイル> を実行し、実行が完了したら処理を開始します。実行が完了しなくても n 秒後 (0<n<1000) には処理を開始し、エラーを報告します。
	/TimeOut=1000	プログラム <ドライブ>:¥<パス>¥<ファイル> を実行し、実行が完了するまで待機します。
COPY <Source> <Destination>		ソース コンピュータの <Source> フォルダまたはファイルを、送信先コンピュータの <Destination> フォルダまたはファイルにコピーします。
	/<Setting without SET_>	指定された設定を転送に適用します。指定がない場合、スクリプトに指定されたグローバル設定を適用します。 スクリプト ファイル内のグローバル設定 を参照してください。
	/D=YYYY-MM-DD	指定した年月日より新しいファイルをコピーします。
	/S	サブフォルダを含めます。
	/H	隠しファイルおよびシステム ファイルをコピーします。
	/U	送信先ディレクトリにファイルが存在する場合のみコピーします。
MOVE <Source> <Destination>		ソースコンピュータの <Source> フォルダまたはファイルを、送信先コンピュータの <Destination> フォルダまたはファイルに移動します。
	/<Setting without SET_>	指定された設定を転送に適用します。指定がない場合、スクリプトに指定されたグローバル設定を適用します。 スクリプト ファイル内のグローバル設定 を参照してください。
	/D=YYYY-MM-DD	YYYY-MM-DD より新しいファイルを移動します。
	/S	サブフォルダを含めます。
	/H	隠しファイルおよびシステム ファイルを移動します。
	/U	送信先ディレクトリにファイルが存在する場合のみ移動します。

3.8 セッションのツール

SYNC <Source> <Destination>		ソースコンピュータの <Source> フォルダまたはファイルを、送信先コンピュータの <Destination> フォルダまたはファイルと同期化します。
	/<Setting without SET_>	指定された設定を転送に適用します。指定がない場合、スクリプトに指定されたグローバル設定を適用します。 スクリプト ファイル内のグローバル設定 を参照してください。
	/D=YYYY-MM-DD	指定した年月日より新しいファイルを同期化します。
	/S	サブフォルダを同期化します。
	/H	隠しファイルおよびシステム ファイルを同期化します。
	/U	送信先ディレクトリにすでに存在するファイルだけを同期化します。
	/OneWay=Yes	ソース コンピュータからのみファイルを転送します。
CLONE <Source> <Destination>		ソースコンピュータの <Source> フォルダまたはファイルを、送信先コンピュータの <Destination> ディレクトリに複製します。
	/<Setting without SET_>	指定された設定を転送に適用します。指定がない場合、スクリプトに指定されたグローバル設定を適用します。 スクリプト ファイル内のグローバル設定 を参照してください。
	/S	サブフォルダを複製します。
LOGOFF		ホスト コンピュータで現在のユーザーを Windows からログ オフします。
RESTART		ホスト コンピュータで Windows が再起動します。
POWEROFF		ホスト コンピュータを終了し、電源を切ります。
LOCKWORKSTATION		ホスト コンピュータをロックします。
USERCMD “GET_INVENTORY=SI_ONESTEP”		ゲスト側にホスト コンピュータのインベントリを作成します。
USERCMD “GET_INVENTORY=SI_GENERATE”		ホスト コンピュータ上にインベントリを生成します。
USERCMD “GET_INVENTORY=SI_RETRIEVE”		生成したホストのインベントリをホスト コンピュータのインベントリファイルに取得します。
USERCMD “GET_INVENTORY=SI_COMPLETE <インベントリ ファイルのパス>”		ゲスト コンピュータの <インベントリ ファイルのパス> にあるインベントリ ファイルを、 <i>inventor</i> ディレクトリに移動します。
USERCMD “SHOWMSG=<ホスト コンピュータのメッセージ ファイルのパス>”		<ホスト コンピュータのメッセージ ファイルのパス> にあるメッセージ ファイルを、ホスト コンピュータ画面の [メッセージ] ウィンドウに表示します。

3.8.3.3 スクリプト ファイル

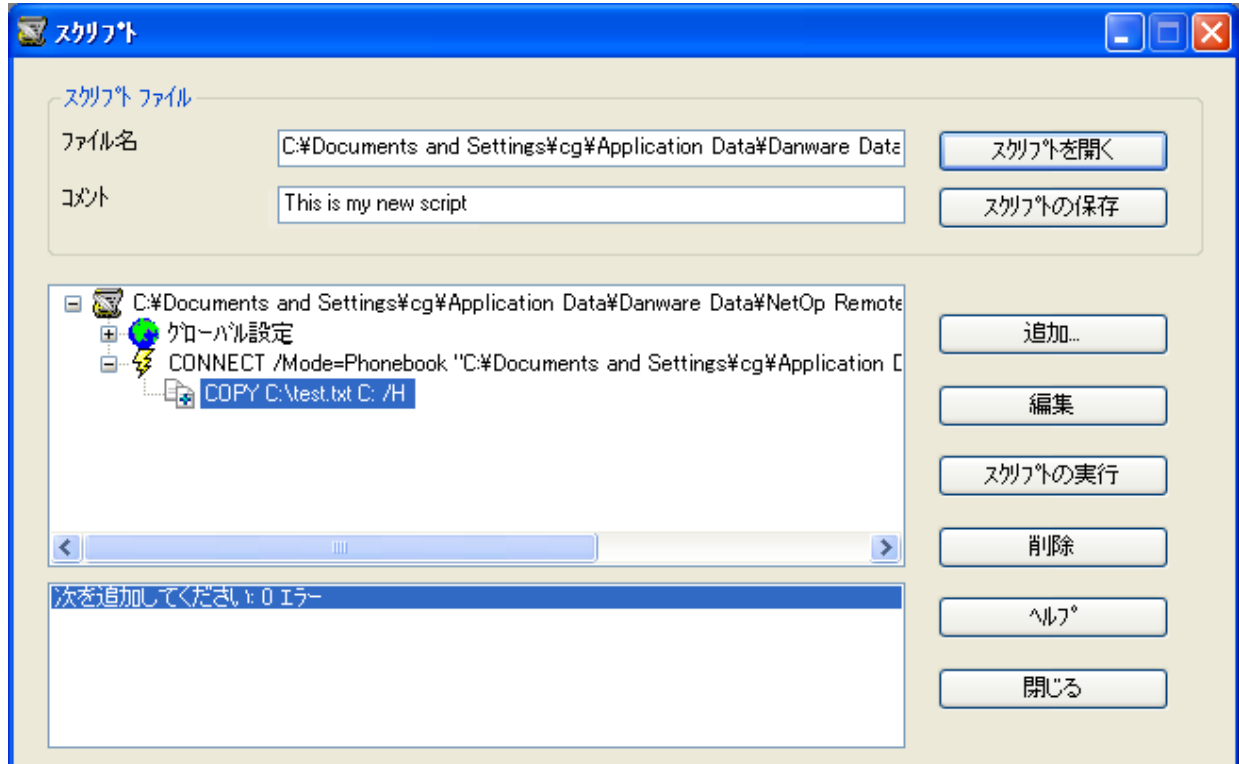
以下は、NetOp スクリプト ファイルの例です。スクリプト ファイルは左側に示し、各行の説明を右側に示します。スクリプト ファイルは *.DWS ファイルまたは *.TXT として保存できます。

スクリプト ファイル	説明
<code>;This is my new script</code>	スクリプトはセミコロン (;) で開始し、その後にコメントを続けます。
<code>;*****</code>	
<code>Script</code>	スクリプトを開始します。
	グローバル設定:
<code>SET Copy=G_H</code>	ファイルをゲストからホストへ転送します。
<code>SET Delta=Yes</code>	デルタ ファイル転送を使用します。
<code>SET CrashRecovery=Yes</code>	クラッシュ回復を有効にします。
<code>SET OverwriteExisting=Yes</code>	既存するファイル / フォルダの上書き / 削除を許可します。
<code>SET OverwriteSystem=Yes</code>	システム ファイルの上書き / 削除を許可します。
<code>SET OverwriteReadOnly=Yes</code>	読み取り専用ファイルの上書き / 削除を許可します。
<code>SET OverwriteHidden=Yes</code>	隠しファイルの上書き / 削除を許可します。
<code>SET OnComError=NextHost</code>	通信エラーが発生した場合、次のホストに進みます。
<code>SET OnError=NextFile</code>	転送エラーが発生した場合、次のファイルに進みます。
<code>SET AtEnd=None</code>	スクリプトの終了時にスクリプトを再実行しません。
<code>SET CloseGuest=No</code>	スクリプトの終了時にゲストをアンロードしません。
<code>SET AppendLog=No</code>	既存のログ ファイルにログを追加しません。
<code>SET Log="SCRIPT.LOG"</code>	ファイル <i>SCRIPT.LOG</i> にログを作成します。
	コマンド:
<code>Connect Mode=Phonebook</code>	コンピュータ ユーザー <i>User1</i> のデフォルトの電話帳ディレクトリにある電話帳ファイル <i>Host1.dwc</i> を使用してホストに接続します。
<code>"C:\Documents and Settings\User1\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Guest\PhBook\Host1.dwc</code>	
<code>COPY "C:\test.txt" C: /H</code>	ソース コンピュータ (この場合はゲスト) のファイル <i>C:\test.txt</i> を、送信先コンピュータ (この場合はホスト) の <i>C:</i> フォルダにコピーします。
<code>ConnectEnd</code>	切断します。
<code>ScriptEnd</code>	スクリプトを終了します。

3.8 セッションのツール

3.8.3.4 NetOp スクリプトのテスト

完成したスクリプトは、[スクリプト] ウィンドウで下のように表示されます。



注意：これは、[スクリプト ファイル](#)にあるスクリプトの例です。

[スクリプト] ウィンドウでスクリプトを作成および編集している間、下にあるデバッグ メッセージ ペインに構文エラーが報告されます。

以下の構文エラーが表示されます。

エラー	説明
101	文字列が終了していません (例: "test.txt" 末尾に引用符なし)。
102	1 行が 512 文字を超えています。
103	文字が無効です (例: ドライブ指定 É:)。
201	ブール型パラメータ値が無効です (例: SET OverwriteHidden=True)。
202	コマンド ラインがコマンドなしで始まっています。
203	コマンドの数が多すぎます。
204	不明なコマンドです。
205	列挙型パラメータ値が無効です (例: SET OnComError=11)。
206	整数型パラメータ値が範囲外です (例: /Timeout=1500)。
207	パラメータが多すぎます。
208	不明なパラメータ名です (例: SET ComErr=5)。
209	構文エラーです (例: SET OverwriteSystem=5)。
300	A SET コマンドが Script コマンドの前にあります。
301	スクリプトの最後に ScriptEnd コマンドがありません。
302	ファイル転送のコマンドが Connect コマンドの前にあります。
303	A 前の接続の終了前に Connect コマンドが開始されています。

注意：これらの構文エラーのほとんどは、[スクリプト](#) ウィンドウでスクリプトを作成することで回避できます。

スクリプトは、最初から最後まで [スクリプト](#) ウィンドウで実行され、スクリプトのそれぞれの *Connect* 分岐を完了してから次の *Connect* 分岐に進みます。

[スクリプト](#) ウィンドウに表示されるスクリプトをテストするには、[スクリプトの実行] ボタンをクリックして、スクリプトがそのアクションを実行するかどうか、また、デバッグメッセージペインに何らかの実行エラーが報告されるかどうかを確認します。スクリプトが失敗した場合は、意図した動作になるようにスクリプトを編集して再実行します。

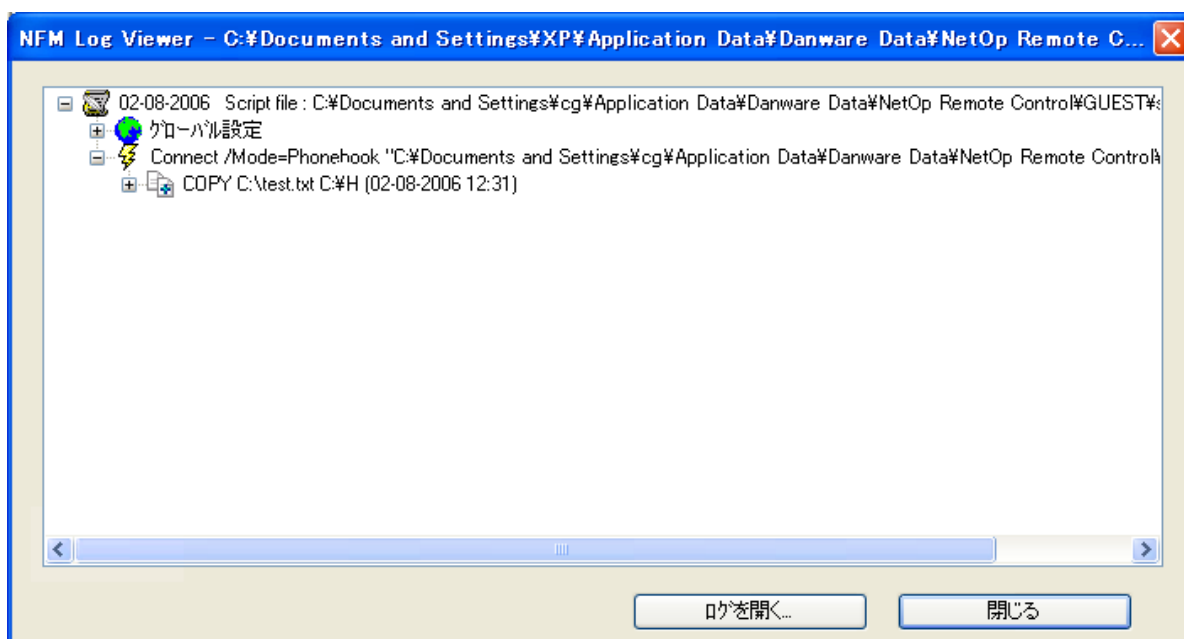
スクリプトのエラーは、[スクリプト ログ](#)で参照できます。

3.8.3.5 スクリプト ログ

[[グローバル設定](#)] ウィンドウの [[詳細](#)] タブで選択されている場合、スクリプトを実行すると、スクリプト ログが生成されます。

デフォルトでは、[NetOp の設定ファイル](#) ディレクトリ (通常は *C:\Documents and Settings\ユーザー名\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Guest*) に、*SCRIPT.LOG* という名前のスクリプト ログが作成されます。

スクリプト ログをグラフィック表示するには、[NetOp ゲスト ウィンドウ](#) の [[表示](#)] メニューで [[ファイル マネージャ ログ ファイルの表示](#)] を選択し、Windows の [[ファイルを開く](#)] ウィンドウを表示します。このダイアログボックスの [[ファイルの種類](#)] フィールドは「ログ ファイル (*.log)」に設定されており、このウィンドウでスクリプト ログを開きます。

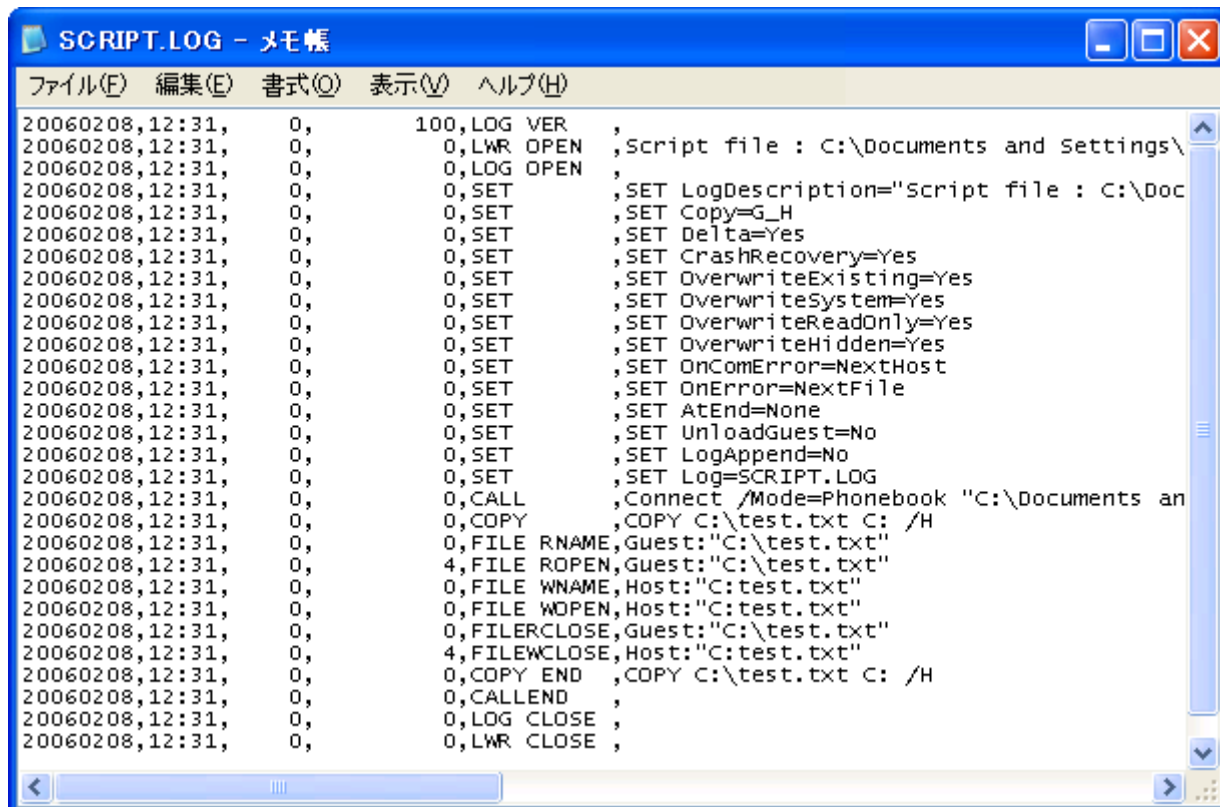


[*NFM Log Viewer*] ウィンドウについては、[\[オプション\] メニュー](#)を参照してください。

グラフィック表示されたスクリプト ログには、[NetOp スクリプト](#)の [[スクリプト](#)] ウィンドウのように、スクリプトの実行状況が表示されます。スクリプト エラーは赤い感嘆符で表示され、クリア テキストで説明されます。

3.8 セッションのツール

テキスト形式のログを表示するには、メモ帳のようなテキスト エディタでスクリプト ログ ファイルを開きます。



テキスト形式のログには、表形式で日付 (YYYYMMDD)、時刻 (HH:MM)、エラー コード、拡張エラーコード、アクション コード、アクション詳細を列にしたレコードのように、ログに記録されたイベントが行として収められています。

スクリプト ログは次のエラーを表示できます。

コード	説明	コード	説明
0	エラーはありません。	34	パスが存在しません。
01	構文エラーです。	35	ファイルが存在しません。
02	コマンドが無効です。	36	ファイルがすでに存在します。
03	メモリ エラーです。	37	ファイルが読み取り専用です。
04	スクリプトがビジーです。	38	ファイルが隠しファイルです。
05	コマンドがキャンセルされました。	39	ファイルがシステム ファイルです。
06	スクリプトが初期化されていません。	40	タイムスタンプのため、スキップされました。
07	内部エラー - コントロール ハンドラがありません。	41	タイムスタンプと名前が同じで、属性が異なります。
08	内部エラー - コピー ハンドラがありません。	42	読み取るファイルを開くときにエラーが発生しました。
09	内部エラー - 無効な状態	43	書き込むファイルを開くときにエラーが発生しました。
10	ログ ファイルを開くときにエラーが発生しました。	44	日付のためスキップされました。
11	ログ ファイルへの書き込みでエラーが発生しました。	45	属性のためスキップされました。
12	無効なログ バージョンです。	46	ファイルをスキップします。
13	内部エラーです。	47	ファイルがロックされています。
14	ユーザーに読み取り権限がありません。	48	ディスクがいっぱいです。
15	ユーザーに書き込み権限がありません。	80	I/O エラーです。

16	プログラムのタイムアウトです。	81	通信エラーです。
17	ホストがサポートしていないコマンドです。	160	認証に失敗しました。
32	内部エラーです。	255	不明なエラーです。
33	フォルダが空ではありません。		

多くのアクションの中で、スクリプト ログは次のアクションを表示できます。

コード	説明
FILE ROPEEN	読み取り用ファイルが開かれました。
FILE WOPEN	書き込み用ファイルが開かれました。
FILERCLOSE	読み取り後、ファイルが閉じられました。
FILEWCLOSE	書き込み後、ファイルが閉じられました。
FILE DEL	ファイルが削除されました。
DIR DEL	ディレクトリが削除されました。
LOG OPEN	ログ ファイルが開かれました。
LOG CLOSE	ログ ファイルが閉じられました。
ERROR	転送中にエラーが発生しました。
CALL	ホストに接続されています。
CALLEND	ホストから接続が切断されました。

NetOp スクリプティングの詳細については、『**管理者マニュアル**』の「**高度なツール群**」の章にある「*NetOp* スクリプティング *ActiveX* コントロール」セクションを参照してください。

3.9 ゲスト アクション

ホスト上で、次のアクションを実行することができます。

- ・ [プログラムの実行](#)
- ・ [コマンドの実行](#)
- ・ [NetOp メッセージ](#)
- ・ [画面呼出](#)
- ・ [インベントリの取得](#)

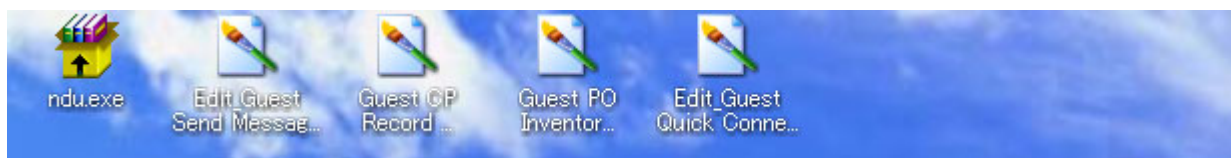
3.9.1 プログラムの実行

[NetOp ゲスト ウィンドウ](#)から、または [NetOp スクリプト](#)から、1 台または複数のホスト コンピュータ上でプログラムを実行できます。

- ・ [NetOp ゲスト ウィンドウ](#) で、1 つまたは複数の [タブ パネル](#) ホスト レコードを選択し、[ツールバー\[アクション\] ボタン](#)の [\[プログラムの実行\]](#) ボタンをクリックするか、[\[接続\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、[\[プログラムの実行\]メニュー](#)が表示されます。
- ・ [NetOp スクリプト](#) に、[実行コマンド](#) を記述します。

[リモート コントロール](#) セッションのホスト コンピュータ上で、プログラムを実行することができます。[ツールバーとツールボックス\[アクション\] ボタン](#) [\[プログラムの実行\]](#) ボタンをクリックして、[\[プログラムの実行\]メニュー](#)を表示します。

[\[プログラムの実行\]メニュー](#)



このメニューには、[\[参照\]コマンド](#)と、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [\[プログラムの実行\]タブ](#)で指定したプログラム コマンドがあります。

[\[参照\]コマンド](#)を選択すると、[\[プログラムの実行 - 参照\]](#) ウィンドウが表示され、プログラムを指定して、選択したレコードのホスト コンピュータまたは [リモート コントロール](#) セッションのホスト コンピュータ上で、そのプログラムを実行することができます。

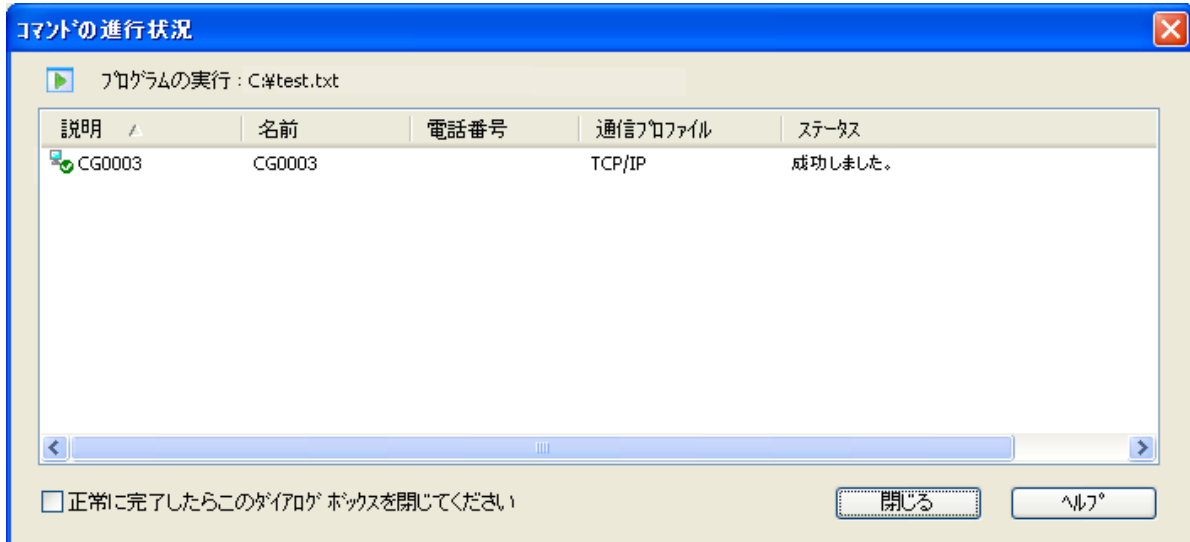
3.9 ゲスト アクション

プログラム コマンドを選択して、選択したレコードのホスト コンピュータまたは[リモート コントロール](#) セッションのホスト コンピュータ上で、そのプログラムを実行します。

注意：プログラム ファイルは、ホスト コンピュータの [[プログラムの実行 - 参照](#)] ウィンドウまたは [[プログラムの実行](#)] タブで指定した場所にある必要があります。




[[プログラムの実行](#)] コマンドを実行すると、次のウィンドウが表示されます。

コマンドの進行状況



<[[プログラムの実行](#)] アイコン> [プログラムの実行](#) : プログラム ファイルのパスと名前が表示されます。

このペインには、選択したホスト レコードが次の内容の表で表示されます。

- ・ **説明：**進行状況とホスト レコードの説明です。[電話帳レコード](#)などを参照してください。次の進行状況が表示できます。
 -  コマンドの実行中です。
 -  コマンドは正常に実行されました。
 -  コマンドの実行は失敗しました。
- ・ **名前：**該当する場合、タブのレコードにあるホスト名です。
- ・ **電話番号：**該当する場合、タブのレコードにあるホストまたは接続している NetOp ゲートウェイのモデムの電話番号または IP アドレスです。
- ・ **通信プロファイル：**タブのレコードにあるゲスト通信プロファイルです。
- ・ **ステータス：**テキスト形式の進行状況。

表内のコントロールについては、「[テーブル コントロール](#)」を参照してください。

複数のコマンドは、進行状況と [[ステータス](#)] 列の内容に従って、順番に実行されます。

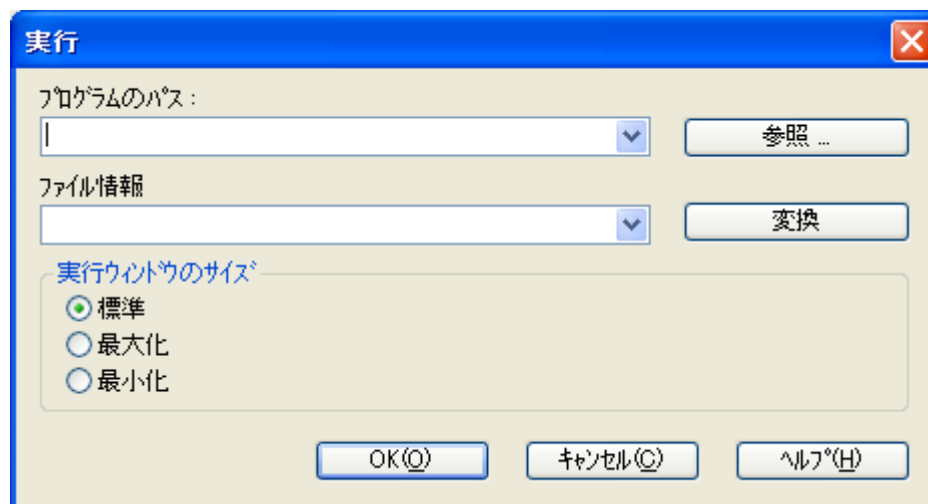
注意：ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [[プログラムの実行](#)] を許可していない場合。コマンドは実行されません。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

正常に完了したらこのダイアログ ボックスを閉じてください：このチェックボックスをオンにすると、選択したすべてのホストに対してコマンドが正常に完了した場合に、このウィンドウを閉じます (デフォルト：オフ)。

キャンセル/閉じる：実行中は、このボタンは [キャンセル] と表示されます。クリックすると、コマンドを実行または試行しているコンピュータへのコマンド実行をキャンセルし、次のホストレコードに進みます。完了すると、このボタンは [閉じる] と表示されます。クリックすると、ウィンドウが閉じます。

3.9.1.1 プログラムの実行 - 参照

[プログラムの実行] メニューの [参照] コマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。



このウィンドウでは、プログラムとその実行プロパティを指定し、選択したレコードのホスト コンピュータ上でそのプログラムを実行します。

プログラムのパス： []: このドロップダウン ボックスのフィールドには、プログラム ファイルのパスと名前が表示されます (デフォルト：なし)。ドロップダウン ボックスのリストには、このウィンドウから以前実行したファイルのパスと名前が表示されます。リストからパスと名前を選択してフィールドに表示させるか、ファイルのパスと名前をフィールドに指定します。

参照... : このボタンをクリックすると、Windows の [ファイルを開く] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスの [ファイルの種類] フィールドは「プログラム」に設定されており、ゲスト コンピュータのプログラム ファイルを選択して開くと、そのパスと名前が [プログラムのパス] フィールドに表示されます。

注意： [ファイルを開く] ウィンドウは、ゲスト コンピュータのディレクトリとプログラム ファイルのみを表示します。下にあるドロップダウン ボックス リストから、[すべてのファイル] を選択すると、すべてのファイル タイプが表示されます。テキスト ファイルなど、他のファイル タイプも実行できます。ファイルを実行するには、そのファイルがホスト コンピュータ上に存在し、識別する必要があります。

ファイル情報： []: このドロップダウン ボックスのフィールドには、[プログラムのパス] ドロップダウン ボックスで指定されたコマンドに適用されるスイッチが表示されます (デフォルト：なし)。ドロップダウン ボックス リストには、このウィンドウで以前適用したスイッチが表示されます。リストからスイッチを選択してフィールドに表示させるか、ファイルに適用させるスイッチをフィールドに指定します。

変換： このボタンをクリックすると、[プログラムのパス] フィールドのパス要素を、利用できる環境変数で置換して、言語やオペレーティング システムなどのためにゲスト コンピュータのディレクトリ構造とは異なるディレクトリ構造を持つホスト コンピュータ上のパスを識別しやすくします。

実行ウィンドウのサイズ

次のいずれかのオプションを選択します。

- 標準**：通常サイズのウィンドウでプログラムを実行します (デフォルト設定)。
- 最大化**：最大化したウィンドウでプログラムを実行します。
- 最小化**：プログラムを最小化して実行します。

3.9 ゲスト アクション

OK: このボタンをクリックすると、選択したレコードのホスト コンピュータ上で指定したプログラムを実行し、[\[コマンドの進行状況\]](#) ウィンドウを表示します。

3.9.2 コマンドの実行

[NetOp ゲスト ウィンドウ](#)から、または [NetOp スクリプト](#)から、1 台または複数のホスト コンピュータ上でコンピュータ コントロール コマンドを実行できます。

- [NetOp ゲスト ウィンドウ](#)で、1 つまたは複数の[タブ パネル](#) ホスト レコードを選択し、[ツールバー \[アクション\] ボタン](#)の [\[プログラムの実行\]](#) ボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#) の対応するコマンドを選択すると、[\[一斉制御\] メニュー](#)が表示されます。
- [NetOp スクリプト](#)に、コンピュータ コントロール[アクション コマンド](#)を記述します。

コンピュータ コントロール コマンドは、[リモート コントロール セッション](#)のホスト コンピュータ上で実行できます。[ツールバーとツールボックス \[アクション\] ボタン](#)の [\[一斉制御\]](#) ボタンをクリックすると、[\[一斉制御\] メニュー](#)が表示されます。

[一斉制御] メニュー



ログ オフ: このコマンドを選択すると、選択したレコードのホスト コンピュータにおいて、ユーザーを Windows からログオフさせます。

再起動: このコマンドを選択すると、選択したレコードのホスト コンピュータを再起動します。

シャット ダウン: このコマンドを選択すると、選択したレコードのホスト コンピュータをシャット ダウンします。

コンピュータをロック: このコマンドを選択すると、選択したレコードのホスト コンピュータをロックします。

Wake on LAN: このコマンドを選択すると、*Wake on LAN MAC* アドレス が登録されている、選択したレコードのホスト コンピュータを起動します。[\[接続\] タブ](#)を参照してください。

[\[コマンドの進行状況\]](#) ウィンドウには、コマンドの実行状況が表示されます。

注意: ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [\[一斉制御 \(再起動など\)\]](#) を許可していない場合、コマンドは実行されません。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

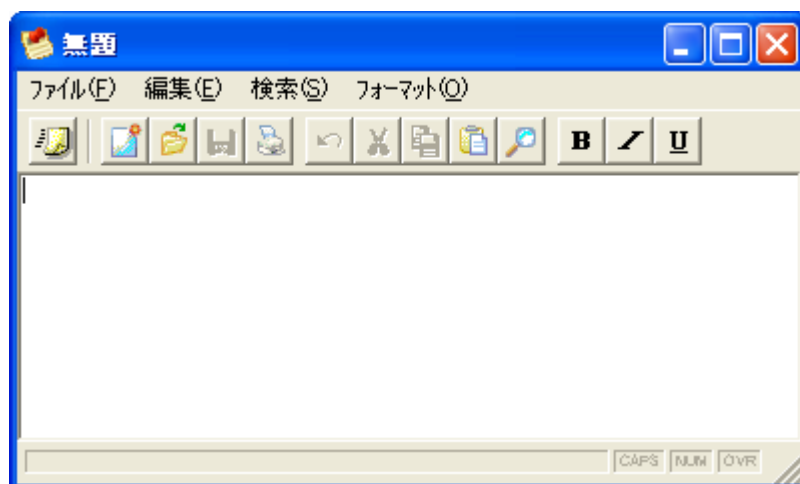
3.9.3 NetOp メッセージ

[NetOp ゲスト ウィンドウ](#)から、または [NetOp スクリプト](#)から、1 台または複数のホストに NetOp メッセージを送信できます。

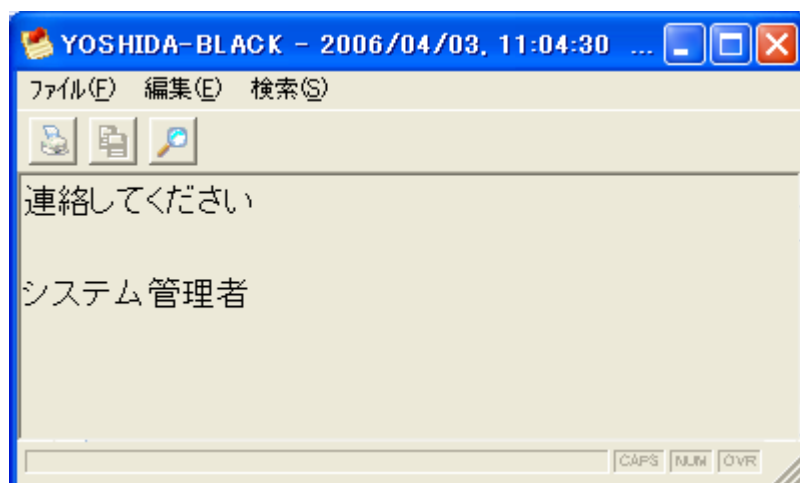
- [NetOp ゲスト ウィンドウ](#)で、1 つまたは複数の[タブ パネル](#) ホスト レコードを選択し、[ツールバー \[アクション\] ボタン](#)の [\[メッセージ送信\]](#) ボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、[NetOp メッセージ](#) ウィンドウが表示されます。
- [NetOp スクリプト](#)に、メッセージ送信[アクション コマンド](#)を記述します。

NetOp メッセージを[リモート コントロール セッション](#)のホスト コンピュータ ユーザーに送信できます。[ツールバーとツールボックス \[アクション\] ボタン](#)の [\[メッセージ送信\]](#) ボタンをクリックして、[NetOp メッセージ](#) ウィンドウを表示します。

NetOp メッセージ



このウィンドウでは、次のようにホスト コンピュータの画面上にポップアップ表示される NetOp メッセージを作成、編集および送信できます。



[NetOp メッセージ](#) ウィンドウには、次の要素があります。

- ・ [タイトル バー](#)
- ・ [メニュー バー](#)
- ・ [ツールバー](#)
- ・ [メッセージ ペイン](#)
- ・ [ステータス バー](#)

3.9.3.1 タイトル バー

[[NetOp メッセージ](#)] ウィンドウのタイトル バーを下に示します。

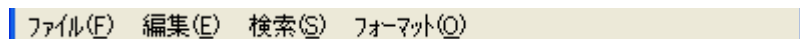


最初は [無題] と表示されます。ウィンドウのメッセージがファイルに保存されている場合、そのパスと名前が表示されます。

ウィンドウ コントロールについては、[ウィンドウ コントロール](#)を参照してください。

3.9.3.2 メニュー バー

[[NetOp メッセージ](#)] ウィンドウのメニュー バーを下に示します。



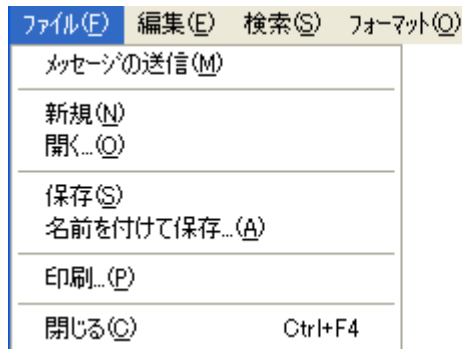
3.9 ゲスト アクション

次のメニューがあります。

- ・ [\[ファイル\] メニュー](#)
- ・ [\[編集\] メニュー](#)
- ・ [\[検索\] メニュー](#)
- ・ [\[フォーマット\] メニュー](#)

3.9.3.2.1 [ファイル] メニュー

[[NetOp メッセージ](#)] ウィンドウの [ファイル] メニューを下に示します。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

メッセージの送信：このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、選択したレコードのホストにメッセージが送信されます。

[[コマンドの進行状況](#)] ウィンドウには、コマンドの実行状況が表示されます。

注意：ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [メッセージの送信] を許可していない場合、コマンドは実行されません。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

新規：このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、メッセージを作成するための空白の[メッセージ ペイン](#)が表示されます。メッセージが変更され保存されていない場合、保存するか問い合わせがあります。

開く：このコマンドを選択するか、または[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、Windows の [ファイルを開く] ウィンドウが表示されます。その際、ウィンドウに表示されたリッチ テキスト形式のファイルを開けるように、[ファイルの種類：RTF ファイル (*.rtf)] が指定されています。メッセージが変更され保存されていない場合、保存するか問い合わせがあります。

保存：このコマンドは、ウィンドウ メッセージのファイル パスと名前が指定されている場合のみ有効になります。これを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、指定したファイルにウィンドウ メッセージを保存します。

名前を付けて保存...：このコマンドを選択すると、Windows の [名前を付けて保存] ウィンドウが表示されます。その際、選択したディレクトリに指定した名前と拡張子でウィンドウ メッセージを保存できるように、[ファイルの種類：RTF ファイル (*.rtf)] が指定されています。

注意：新しいメッセージは、自動的に名前が付けられず、拡張子が指定され、ゲスト コンピュータに保存されます。しかし、ホスト コンピュータで受信されると、自動的に名前が付けられ、拡張子が指定されて保存されます。

印刷：このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、Windows の [印刷] ウィンドウが表示され、ウィンドウ メッセージをヘッダーやフッターなしに印刷できます。

閉じる：このコマンドまたは[ウィンドウ コントロール](#)の対応するメニュー コマンドを選択するか、[ウィンドウ コントロール](#)の [閉じる] ボタンをクリックするか、CTRL+F4 キーを押すと、[[NetOp メッセージ](#)] ウィンドウを閉じます。メッセージが変更され保存されていない場合、保存するか問い合わせがあります。

3.9.3.2.2 [編集] メニュー

[NetOp メッセージ] ウィンドウの [編集] メニューを下に示します。

ファイル(F)	編集(E)	検索(S)	フォーマット(O)
	元に戻す(U)	Ctrl+Z	
	切り取り(T)	Ctrl+X	
	コピー(C)	Ctrl+C	
	貼り付け(P)	Ctrl+V	
	すべてをクリア(A)	Ctrl+Del	
	削除	Del(D)	

メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

元に戻す：このコマンドを選択するか、CTRL+Z キーを押すか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、[メッセージ ペイン](#)での最後のアクションを元に戻すか、やり直します。

切り取り：[メッセージ ペイン](#)でテキストを選択して、このコマンドを選択するか、CTRL+X キーを押すか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、選択したテキストを削除して、それをクリップボードに配置します。

コピー：[メッセージ ペイン](#)でテキストを選択して、このコマンドを選択し、CTRL+C キーを押すか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、選択したテキストをクリップボードにコピーします。

貼り付け：このコマンドを選択し、CTRL+V キーを押すか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、クリップボードの内容を[メッセージ ペイン](#)内のカーソルの位置に貼り付けます。

すべてクリア：このコマンドを選択するか、CTRL+DELF4 キーを押すと、[メッセージ ペイン](#)の内容がすべてクリアされます。

削除：[メッセージ ペイン](#)でテキストを選択して、このコマンドを選択するか、DEL キーを押すと、選択したテキストを削除します。

3.9.3.2.3 [検索] メニュー

[NetOp メッセージ] ウィンドウの [検索] メニューを下に示します。

ファイル(F)	編集(E)	検索(S)	フォーマット(O)
		検索... (F)	
		置換... (R)	
		次へ (N) F3	

メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

検索...：このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、Windows の [検索] ウィンドウが表示され、[メッセージ ペイン](#)内のテキストを検索することができます。

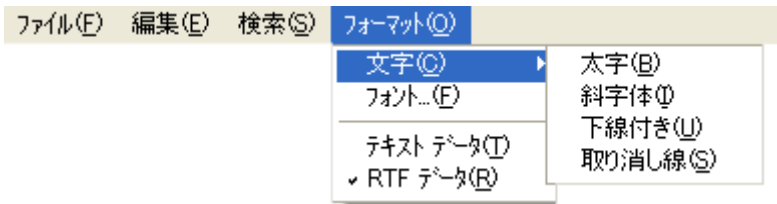
置換...：このコマンドを選択すると、Windows の [置換] ウィンドウが表示され、[メッセージ ペイン](#)内のテキストを置換することができます。

次へ：このコマンドを選択するか、F3 キーを押すと、[メッセージ ペイン](#)内で、[検索] または [置換] ウィンドウで指定したテキストが次に出現する箇所が強調表示されます。

3.9 ゲスト アクション

3.9.3.2.4 [フォーマット] メニュー

[NetOp メッセージ] ウィンドウの [フォーマット] メニューを下に示します。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

文字：このコマンドは以下のコマンドに展開されます。

太字：[メッセージ ペイン](#)でテキストを選択しこのコマンドを選択して、チェックマークを付けた外したりするか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、ボタンが押された状態になって太字に設定したり、ボタンが押されていない状態になって太字が解除されたり、選択したテキストの太字を元に戻すことができます。

斜字体：[メッセージ ペイン](#)でテキストを選択しこのコマンドを選択して、チェックマークを付けた外したりするか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、ボタンが押された状態になって斜体に設定したり、ボタンが押されていない状態になって斜体が解除されたり、選択したテキストの斜体を元に戻すことができます。

下線付き：[メッセージ ペイン](#)でテキストを選択しこのコマンドを選択して、チェックマークを付けた外したりするか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックすると、ボタンが押された状態になって下線に設定したり、ボタンが押されていない状態になって下線が解除されたり、選択したテキストの下線を削除することができます。

取り消し線：[メッセージ ペイン](#)でテキストを選択しこのコマンドを選択して、チェックマークを付けた外したりすると選択したテキストに取消線を引いたり、取消線を削除したりできます。

フォント...：[メッセージ ペイン](#)でテキストを選択しこのコマンドを選択すると、Windows の [フォント] ウィンドウが表示され、選択したテキストのフォントと色を変更することができます。

テキスト データ/RTF データ：チェックマークが付けられていないコマンドを選択してチェックマークを付けると、[メッセージ ペイン](#)のテキスト データがチェックマークを付けたタイプに変更されます。

注意：RTF フォーマットは、ハイパーリンクをサポートしています。

3.9.3.3 ツールバー

[NetOp メッセージ] ウィンドウのツールバーを下に示します。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

ツールバーには次のボタンがあります。

-  **送信**：このボタンをクリックするか、[\[ファイル\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、選択したレコードのホストにウィンドウ メッセージを送信します。
[\[コマンドの進行状況\]](#) ウィンドウには、コマンドの実行状況が表示されます。
-
- 注意**：ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [\[メッセージの送信\]](#) を許可していない場合、コマンドは実行されません。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。
-
-  **新規作成**：このボタンをクリックするか、[\[ファイル\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、メッセージを作成するための空白の[メッセージ ペイン](#)が表示されます。メッセージが変更され保存されていない場合、保存するか問い合わせがあります。
-  **開く**：このボタンをクリックするか、または [\[ファイル\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、Windows の [\[ファイルを開く\]](#) ウィンドウが表示されます。その際、ウィンドウに表示されたリッチ テキスト形式のファイルを開けるように、[\[ファイルの種類: RTF ファイル \(*.rtf\)\]](#) が指定されています。メッセージが変更され保存されていない場合、保存するか問い合わせがあります。
-  **保存**：このボタンは、ファイルのパスと名前が指定されている場合のみ有効になります。これをクリックするか、または [\[ファイル\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、指定したファイルにメッセージを保存します。
-  **印刷**：このボタンをクリックするか、[\[ファイル\]メニュー](#) の対応するコマンドを選択すると、Windows の [\[印刷\]](#) ウィンドウが表示され、ウィンドウ メッセージをヘッダーやフッターなしに印刷できます。
-  **元に戻す/やり直し**：このボタンをクリックするか、[\[編集\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、[メッセージ ペイン](#)での最後のアクションを元に戻すか、やり直します。
-  **切り取り**：[メッセージ ペイン](#)でテキストを選択して、このボタンをクリックし、[\[編集\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択するか、CTRL+X キーを押すと、選択したテキストを削除して、それをクリップボードに配置します。
-  **コピー**：[メッセージ ペイン](#)でテキストを選択して、このボタンをクリックし、[\[編集\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択するか、CTRL+C キーを押すと、選択したテキストをクリップボードにコピーします。
-  **貼り付け**：このボタンをクリックし、[\[編集\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択するか、CTRL+V キーを押すと、クリップボードの内容を[メッセージ ペイン](#)内のカーソルの位置に貼り付けます。
-  **検索**：このボタンをクリックするか、[\[検索\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、Windows の [\[検索\]](#) ウィンドウが表示され、[メッセージ ペイン](#)内のテキストを検索することができます。
-  **B** **太字**：[メッセージ ペイン](#)でテキストを選択して、このボタンをクリックすると、ボタンが押された状態や押されていない状態になったり、[\[フォーマット\]メニュー](#)の対応するコマンドのチェックマークが付いたり解除されたりして、選択したテキストを太字に変えたり、太字を元に戻すことができます。
-  **斜体**：[メッセージ ペイン](#)でテキストを選択して、このボタンをクリックすると、ボタンが押された状態や押されていない状態になったり、[\[フォーマット\]メニュー](#)の対応するコマンドのチェックマークが付いたり解除されたりして、選択したテキストを斜体に変えたり、斜体を元に戻すことができます。
-  **U** **下線**：[メッセージ ペイン](#)でテキストを選択して、このボタンをクリックすると、ボタンが押された状態や押されていない状態になったり、[\[フォーマット\]メニュー](#)の対応するコマンドのチェックマークが付いたり解除されたりして、選択したテキストに下線を引いたり、下線を削除することができます。

3.9 ゲスト アクション

3.9.3.4 メッセージ ペイン

[[NetOp メッセージ](#)] ウィンドウのメッセージ ペインを下に示します。



このペインではメッセージの内容を表示します。テキストの最初の行は、ホスト上のメッセージの内容を示します。テキスト ペインのテキストは、メニュー コマンドおよび[ツールバー](#)のボタンから、編集、検索、書式設定を行うことができます。

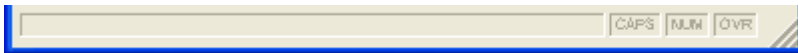
あらかじめ準備されていない NetOp メッセージを作成するには、メッセージをペインに入力します。

準備された NetOp メッセージを作成するには、ファイルでプレーン テキストまたは RTF 形式のテキストを作成し、それをペインに貼り付けます。

注意： RTF 形式のテキストは、ハイパーリンクをサポートしています。[\[フォーマット\] メニュー](#)を参照してください。

3.9.3.5 ステータス バー

[[NetOp メッセージ](#)] ウィンドウのステータス バーを下に示します。



右側のフィールドはアクティブです。

- *CAPS* : CAPS LOCK キーが有効の場合、黒字で表示されます。
- *NUM* : NUM LOCK キーが有効の場合、黒字で表示されます。
- *OVR* : 挿入が有効の場合、黒字で表示されます。

3.9.4 画面呼出

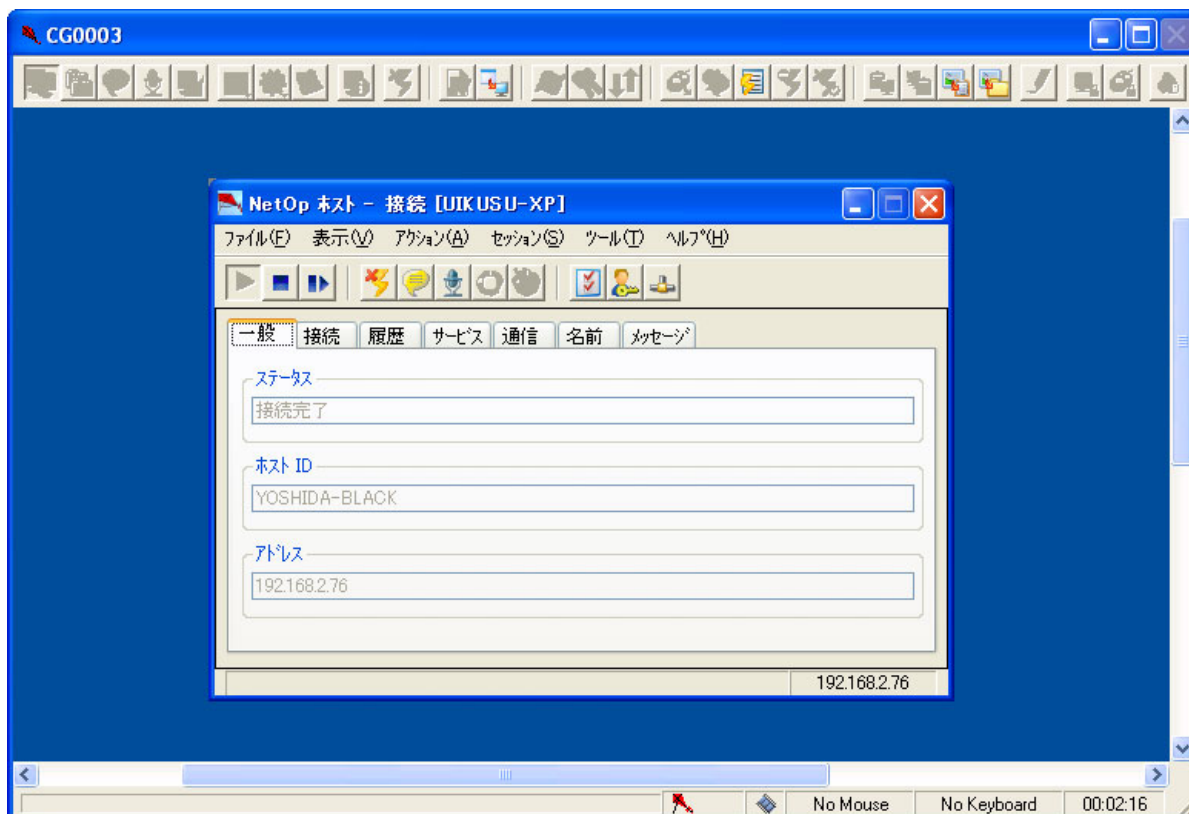
複数のホスト コンピュータ画面を次々に監視するには、[NetOp ゲスト ウィンドウ](#)で複数の[タブ パネル](#) ホスト レコードを選択して、[ツールバー](#) [\[アクション\]](#) ボタンの [\[画面呼出\]](#) ボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#)の対応するコマンドを選択して、[\[画面呼出\] ツールボックス](#)を表示し、最初に選択したレコードのホストへの接続を開始します。

注意： 画面を呼び出すには、各ホストにログオンする必要があります。

ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [\[リモート コントロール\]](#)を許可していない場合、接続は拒否されます。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。


接続されると、ホスト コンピュータの画面イメージが通常は下のウィンドウで表示されます。


[画面呼出] ウィンドウ




ウィンドウ コントロールについては、[ウィンドウ コントロール](#)を参照してください。

このウィンドウは、[[リモート コントロール](#)] ウィンドウと似ていますが、次の[ツールバーとツールボックス](#) ボタンだけが有効です。


 **全画面**：このウィンドウ ツールバーのボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択すると、ホスト コンピュータの画面イメージを全画面表示で表示します。[リモート コントロール表示](#)を参照してください。


 この全画面のツールボックス ボタンをクリックすると、ホスト コンピュータの画面イメージをウィンドウ表示で表示します。[リモート コントロール表示](#)を参照してください。

注意：拡大のホットキーを押すと、ウィンドウ表示と全画面表示を切り替えることができます。拡大のホットキーは、変更していなければ、CTRL+Z です。[リモート コントロール タブ](#)を参照してください。

 **接続一覧の表示**：このボタンをクリックすると、ホスト コンピュータ画面上に [[接続一覧](#)] ウィンドウが表示され、接続しているゲストのレコードが表示されます。[接続の通知 タブ](#)を参照してください。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [[マルチ ゲスト セッション管理者として行動](#)] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

 **画面をクリップボードに保存する**：このボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択すると、ホスト コンピュータの画面イメージをゲスト コンピュータのクリップボードに取得します。

 **画面をファイルに保存する**：このボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択すると、ホスト コンピュータの画面イメージをキャプチャして、Windows の [[名前を付けて保存](#)] ウィンドウを表示します。ウィンドウ内で、ファイル名は <ホスト名>-<日付>-<時刻>.bmp、ディレクトリは [NetOp の設定ファイル](#)の *SnapShot* になっています。保存する前に、このファイル名とディレクトリを変更することができます。

3.9 ゲスト アクション

[ステータス バー](#)のキーボードとマウスのコントロール フィールドには、マウスなしおよびキーボードなしと表示され、ホスト画面のイメージで画面呼出がマウスやキーボードのコントロールを行わないことを示します。

その他に[リモート コントロール表示](#)機能が利用できます。

[[プログラムのオプション](#)] ウィンドウの「[画面呼出](#)」タブで指定されたオートスキャンの間隔が経過すると、ゲストの接続が切断され、次に選択されたレコードのホストに接続されます。

「[画面呼出](#)」ツールボックスから画面呼出を終了できます。

3.9.4.1 「画面呼出」ツールボックス

「[画面呼出](#)」ツールボックスを下に示します。



タイトル バーには、以下が表示されます。

- 画面呼出中： *画面呼出*：〈ホスト名〉、〈数字〉：〈数字〉は、[[プログラムのオプション](#)] ウィンドウの「[画面呼出](#)」タブで指定したオートスキャンの間隔から 0 までカウントダウンされます。0 になると、ゲストの接続が切断され、次に選択したレコードのホストに接続されます。
 - カウントダウンの停止： *停止* 〈ホスト名〉。
 - リモート コントロール中： *リモート コントロール*：〈ホスト名〉。
- このツールボックスには以下のボタンがあります。



終了：画面呼出の終了。



継続：停止後のカウントダウンの継続。



停止：カウントダウンの停止。



直前：直前のホストの画面呼出。



次：次のホストの画面呼出。



リモート コントロール / 画面呼出：画面呼出および画面呼出のリモート コントロールの切り換え。このボタンは、画面呼出中はリモート コントロール アイコンを、リモート コントロール中は画面呼出アイコンを表示します。



全画面 / ウィンドウ：ウィンドウ表示と全画面表示の切り換え。このボタンは、ウィンドウ表示では全画面アイコンを、全画面表示ではウィンドウ アイコンを表示します。



ホスト一覧：画面呼出中のホストの一覧を表示します。画面呼出を行うホストを選択します。

画面呼出リモート コントロールでは、[リモート コントロール](#)の全機能が有効になるわけではありませんが、マウスおよびキーボードのコントロールや次のツールバー ボタンが有効になります。



接続のプロパティ：このボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択すると、[[接続のプロパティ](#)] ウィンドウが選択したタブとオプションで表示されます。



Ctrl+Esc の送信：このボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択すると、CTRL+ESC のキーストロークの組み合わせをホストに送信し、Windows ホスト コンピュータでは [スタート] メニューが表示され、OS/2 ホスト コンピュータでは [ウィンドウ リスト] が表示されます。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [キーボードとマウスを使う] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。キーボードからこのキーストロークの組み合わせを使用すると、望ましくない結果を引き起こす場合があります。



Ctrl+Alt+Del の送信：このボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択すると、CTRL+ALT+DEL のキーストロークの組み合わせをホストに送信し、Windows 2003/XP/2000 ホスト コンピュータではセキュリティ ダイアログ ボックスが表示され、OS/2 ホスト コンピュータの場合は再起動します。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [キーボードとマウスを使う] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。キーボードからこのキーストロークの組み合わせを使用すると、望ましくない結果を引き起こす場合があります。

Send Ctrl+Alt+Del は、Windows ME、98、95 のホスト コンピュータでは無効になります。ホスト コンピュータを再起動するには、[ホスト PC の再起動] をクリックまたは選択します。



クリップボードの送信：このボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択すると、ゲスト コンピュータのクリップボードの内容をホスト コンピュータのクリップボードへ送信します。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [クリップボードを転送する] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。



クリップボードの受信：このボタンをクリックするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択すると、ホスト コンピュータのクリップボードの内容をゲスト コンピュータのクリップボードに受信します。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [クリップボードを転送する] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。



マーカー モード：このボタンをクリックして押された状態にするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択してチェックマークを付けると、[NetOp マーカー ユーティリティ](#)を起動します。押された状態のボタンをクリックして解除するか、チェックマークの付いたコマンドを選択してチェックを外すと、[NetOp マーカー ユーティリティ](#)を停止します。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [キーボードとマウスを使う] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。



キーボードとマウスのロック：このボタンをクリックして押された状態にするか、[タイトル バー](#)のメニューの対応するコマンドを選択してチェックマークを付けると、ホスト コンピュータのキーボードとマウスを無効にします。押された状態のボタンをクリックして解除するか、チェックマークの付いたコマンドを選択してチェックを外すと、ホスト コンピュータのキーボードとマウスを有効にします。

注意：このボタンは、ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が [キーボードとマウスのロック] を許可していない場合は無効になります。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

3.9 ゲスト アクション

3.9.5 インベントリの取得

[NetOp ゲスト ウィンドウ](#)から、または [NetOp スクリプト](#)から、1 台または複数のホストからホスト コンピュータのインベントリを取得できます。

- [NetOp ゲスト ウィンドウ](#)で、1 つまたは複数の[タブ パネル](#) ホスト レコードを選択し、[ツールバー \[アクション\] ボタン](#)の[\[インベントリの取得\]](#) ボタンをクリックするか、[\[接続\] メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、ホスト コンピュータのインベントリを[タブ パネル \[インベントリ\] タブ](#)に取得できます。
- [NetOp スクリプト](#)に、インベントリ [アクション コマンド](#)を記述します。

[リモート コントロール](#) セッションのホストから[タブ パネル](#)の[\[インベントリ\] タブ](#)へホスト コンピュータのインベントリを取得するには、[ツールバーとツールボックス](#)の[\[アクション\] ボタン](#)で[\[インベントリの取得\]](#) ボタンをクリックします。

[\[コマンドの進行状況\]](#) ウィンドウには、コマンドの実行状況が表示されます。

注意：ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)が[\[インベントリの取得\]](#) を許可していない場合、コマンドは実行されません。[ゲストが行える操作](#)を参照してください。

インベントリの詳細オプションは、[\[プログラムのオプション\]](#) ウィンドウの[\[インベントリ\] タブ](#)から使用できます。

4 NetOp ホスト

4.1 概要

4.1 概要

この章では、Windows オペレーティング システム上で稼動するコンピュータ上の NetOp ホストの機能について説明します。

注意：Linux、Solaris、Mac OSX、OS/2、または DOS の各オペレーティング システム上で動作する NetOp ホストについては、『**管理者マニュアル**』の章「**その他のオペレーティング システム**」で説明しています。

NetOp ホストを使用すると、[NetOp ゲスト](#)が実行されているコンピュータから別のコンピュータをリモート制御 / 操作することができます。

この章には、以下の節があります。

- ・ [ホストの起動ガイド](#)
- ・ [\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)
- ・ [ホスト ツール](#)
- ・ [ホスト セッション](#)
- ・ [ホスト アクション](#)

4.2 ホストの起動ガイド

4.2.1 通常のコンピュータ ユーザーの場合

NetOp ホストはサーバー型プログラムであり、別のコンピュータ上で動作するクライアント型プログラム「NetOp ゲスト」から NetOp ホスト コンピュータ上のリソースにアクセスできるようにする機能があります。

NetOp ホストがローカル コンピュータ上で動作している場合は、NetOp ゲストを実行するリモート コンピュータからローカル コンピュータへのアクセスが行われるために、時によっては制御できない事象が発生する可能性があります。システム管理者がすべてのコンピュータの設定やセキュリティを制御する組織内部にコンピュータが設置されている場合は、そのような事象が発生しても特に問題ではありません。しかしながら、望ましくない事象がローカル コンピュータ上で発生した場合は、システム管理者に報告する必要があります。

通常、画面の右下隅の通知エリアに表示される次のボタンによって、NetOp ホストがコンピュータにロードされているかどうかを確認できます。

NetOp ホスト ボタン

NetOp ホスト - 実行中 (192.168.2.206)



注意：NetOp ホストをステルス モードで動作するように設定すれば、NetOp ホスト ボタンは表示されません。[\[一般\] タブ](#)を参照。

NetOp ホスト ボタンの上にマウスのポインタを置くと、ホストの状態を簡潔に示すツールヒントが表示されます（上記の例では、IP アドレスが 192.168.102.92 であるコンピュータ上でホストが動作中）。

このボタンを右クリックすると、次のメニューが表示されます。

NetOp ホスト ボタンのメニュー

表示 終了
接続一覧(C) 履歴一覧(H)
ヘルプ呼出

元のサイズに戻す/表示する：このコマンドは、[\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)が [NetOp ホスト ボタン](#)に最小化されている場合は [\[元のサイズに戻す\]](#)になり、[\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)が画面上にあるものの他のウィンドウによって隠されている場合は [\[表示する\]](#)になります。このコマンドを選択するか、[NetOp ホスト ボタン](#)をダブルクリックすると、[\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)が他のウィンドウの手前に表示されます。

終了：NetOp ホストを終了するには、このコマンドを選択するか、[\[NetOp ホスト\] ウィンドウ \[ファイル\] メニュー](#)の該当コマンドを選択する方法、[ウィンドウ コントロールメニュー](#)の [\[閉じる\]](#)コマンドを選択する方法、[タイトル バー](#) アイコンをダブルクリックする方法、[ウィンドウ コントロール](#)の [\[閉じる\]](#) ボタンをクリックする方法、[\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)がアクティブであるときに ALT+F4 キーを押す方法があります。

注意： [\[終了\]](#) 操作は、[保守パスワード](#)で保護できます。

接続一覧：このコマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。

接続一覧



ウィンドウ コントロールについては、[ウィンドウ コントロール](#)を参照してください。

このウィンドウには、[\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)の [\[接続\] タブ](#)と同様に、接続されたゲストの記録が表示されます。[\[接続の通知\] タブ](#)も参照してください。

履歴一覧：このコマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。

履歴一覧



ウィンドウ コントロールについては、[ウィンドウ コントロール](#)を参照してください。

このウィンドウには、[\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)の [\[履歴\] タブ](#)と同様に、ホストを最後にロードした以降の接続イベントの記録が表示されます。[\[接続の通知\] タブ](#)も参照してください。

ヘルプ呼出/呼出取消：このコマンドは、ホストのステータスが [\[実行中\]](#)の場合は [\[ヘルプ呼出\]](#)になります。[タイトル バー](#)を参照してください。ヘルプ呼出を実行するには、このコマンドを選択するか [\[セッション\] メニュー](#)の該当のコマンドを選択するか、[ツールバー](#)上にある [セッション ボタン](#)の該当のボタンをクリックします ([ヘルプ呼出](#)を参照)。

このコマンドは、ホストのステータスが [\[ヘルプ呼出済み\]](#)の場合は [\[呼出取消\]](#)になります。[タイトル バー](#)を参照してください。ヘルプ呼出を取り消すには、このコマンドを選択するか [\[セッション\] メニュー](#)の該当のコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の [セッション ボタン](#) ボタンをクリックします。[ヘルプ呼出](#)を参照してください。

4.2.2 上級者のコンピュータ ユーザーの場合

コンピュータやアプリケーションの設定を自分自身の責任で行っている場合は、自分で NetOp ホストをセットアップする必要があります。

NetOp Remote Control の基本 [インストール](#)を行った後、コンピュータを起動しても、NetOp ホストは自動的に読み込み/実行されません。

NetOp ホストを起動するには、[\[スタート\] > \[すべてのプログラム\] > \[NetOp Remote Control\] > \[ホスト\]](#)を選択するか、[その他の読み込み方法](#)の1つを利用します。

4.2 ホストの起動ガイド

基本インストールを行った後、最初に NetOp ホストを起動したときに、[セットアップ ウィザード](#) が実行されて NetOp ホストの初期設定が行われます。NetOp ホストの有効な初期設定を適用するためのデフォルト オプションを選択してください。デフォルト設定では、[NetOp ホスト ボタン](#) に最小化された状態で NetOp ホストが起動されます（この設定はコンピュータの起動時にも適用されます）。

NetOp ホストに関して複数のセットアップ オプションを利用することができます。

- 一般的なセットアップ：[「プログラムのオプション」](#)を参照してください。
- ゲスト アクセス セキュリティ セットアップ：[「ゲスト アクセス セキュリティ」](#)を参照してください。
- 通信のセットアップ：[「通信プロファイル」](#)を参照してください。
- NetOp ログのセットアップ：[「ログのセットアップ」](#)を参照してください。
- セットアップ情報の保護：[「保守パスワード」](#)を参照してください。

標準以外のインストール方式である自動インストールと NetOp インストール ユーティリティでは、セットアップ済みの状態で NetOp ホストをインストールできます。[マニュアル](#)の節「高度なツール」を参照してください。

4.2.3 その他の読み込み方法

NetOp ホストは次の方法で読み込むこともできます。

1. Windows XP の [スタート] メニューで、頻繁に使用するプログラムのリストまたは [スタート] メニューに登録された [ホスト] を選択します。
2. NetOp ホストをインストールしたディレクトリ（通常は `C:\Program Files\Danware Data\NetOp Remote Control\Host`）で、`NHSTW32.EXE` を実行（ダブルクリック）します。
3. `NHSTW32.EXE` へのデスクトップ ショートカットを作成し、このショートカットをダブルクリックします。
4. Windows の [ファイル名を指定して実行] ウィンドウまたは [コマンド プロンプト] ウィンドウで、`NGSTW32.EXE` のパスとファイル名を指定したコマンドを実行します。このコマンドでは、次の構文に従って、オプション スイッチで特定のホスト アクションを指定できます。

<NetOp ホスト プログラムのパスおよびファイル> [<スイッチ 1>] [<スイッチ 2>]...

NetOp ホストの読み込みコマンドでは下記のスイッチを使用できます。

スイッチ	機能
/C:<通信プロファイル>	選択された他の 通信プロファイル に加えて <通信プロファイル> を有効にします。この設定は保存されません。
/I:<インベントリ ファイルのパスと名前>	<インベントリ ファイルのパスと名前> にインベントリを作成し、 インベントリの取得 を行います。
/R:<ホスト名>	<ホスト名> という名前をホストに付けます。この設定は保存されます。
/W:[+/-]	/W: 読み込み時にホストを起動します。この設定は保存されません。 /W:+ 読み込み時にホストを起動します。この設定は保存されます。 /W:- 読み込み時にホストを起動しません。この設定は保存されます。
NetOp ヘルプを呼び出すには、下記の 4 つのスイッチの少なくとも 1 つを指定します。 ヘルプ呼出 を参照してください。	
/HD:<障害の状態>	問題を <障害の状態> で指定します。
/HP:<ヘルプ プロバイダ>	ヘルプ プロバイダを <ヘルプ プロバイダ> で指定します。
/HC:<通信プロファイル>	通信プロファイルを <通信プロファイル> で指定します。
/HA:<ヘルプ プロバイダのアドレス>	ヘルプ プロバイダのアドレスを <ヘルプ プロバイダのアドレス> で指定します。
保留中のヘルプ呼出を取り消します。 ヘルプ呼出 を参照してください。	

/HH:	保留中のヘルプ呼出を取り消します。
接続中の NetOp ゲートウェイにログオンします。	
/LGN:<ゲートウェイのログオン名>	ゲートウェイのログオン名を指定します。
/LGP:<ゲートウェイのログオン パスワード>	ゲートウェイのログオン パスワードを指定します。
/LGD:<ゲートウェイのログオン ドメイン>	ゲートウェイのログオン ドメインを指定します。

例

<NetOp ホスト プログラムのパスおよびファイル> /R:John C:/TCP/IP /W:

説明: *John* というホスト名で NetOp ホストを読み込んで、NetOp ホストを起動します (この設定は保存されません)。TCP/IP、および選択された他の通信プロファイルが有効になります。

<NetOp ホスト プログラムのパスおよびファイル> /R:Peter /W:+

説明: *Peter* というホスト名で NetOp ホストを読み込んで、NetOp ホストを起動します (この設定は保存されます)。選択された通信プロファイルが有効になります。

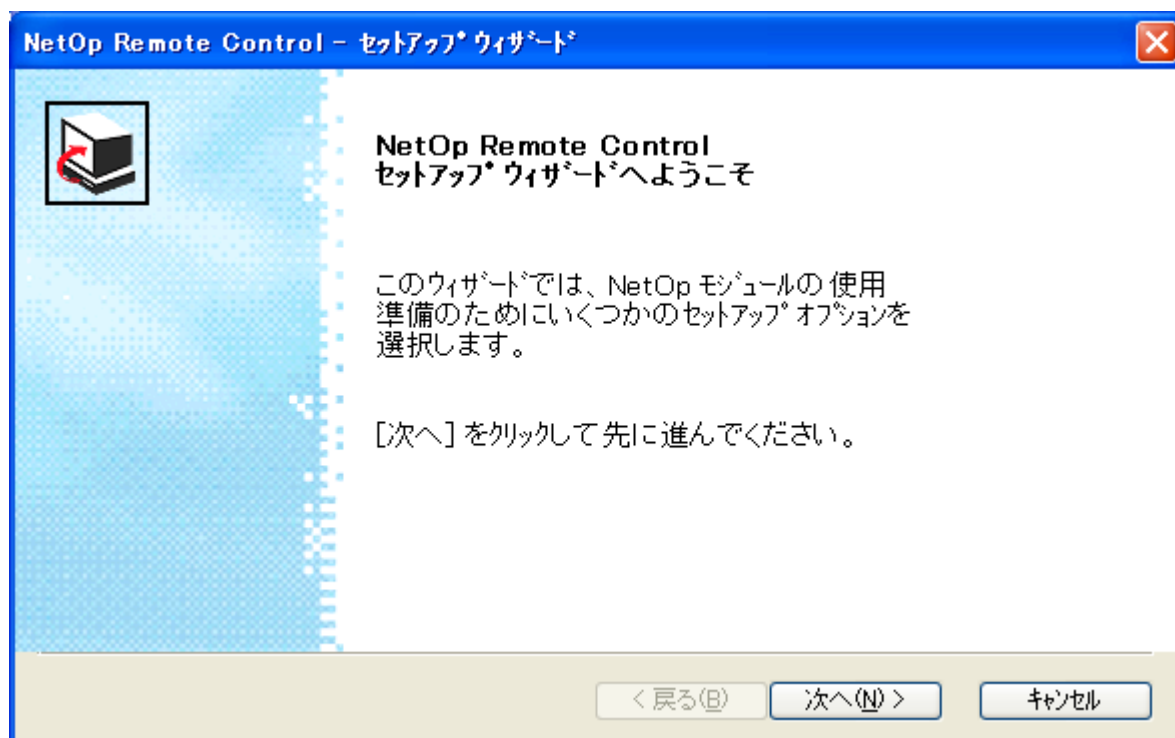
<NetOp ホスト プログラムのパスとファイル> /HD:"Nothing works"
/HP:"windows help" /HC:TCP4 /HA:192.168.102.58

説明: NetOp ホストを読み込み、障害の状態 *Nothing works*、ヘルプ プロバイダ *Windows Help*、通信プロファイル *TCP4*、および IP アドレス *192.168.102.58* を指定して、ヘルプ呼出を送信します。

注意: スペースや特殊文字を含むスイッチ パラメータは、二重引用符で囲まなければなりません。

4.2.4 セットアップ ウィザード

基本インストールの後で NetOp ホストを最初に読み込んだ場合、または [ツール] メニュー から [セットアップ ウィザードの実行] コマンドを選択した場合は、次のウィンドウが表示されます。



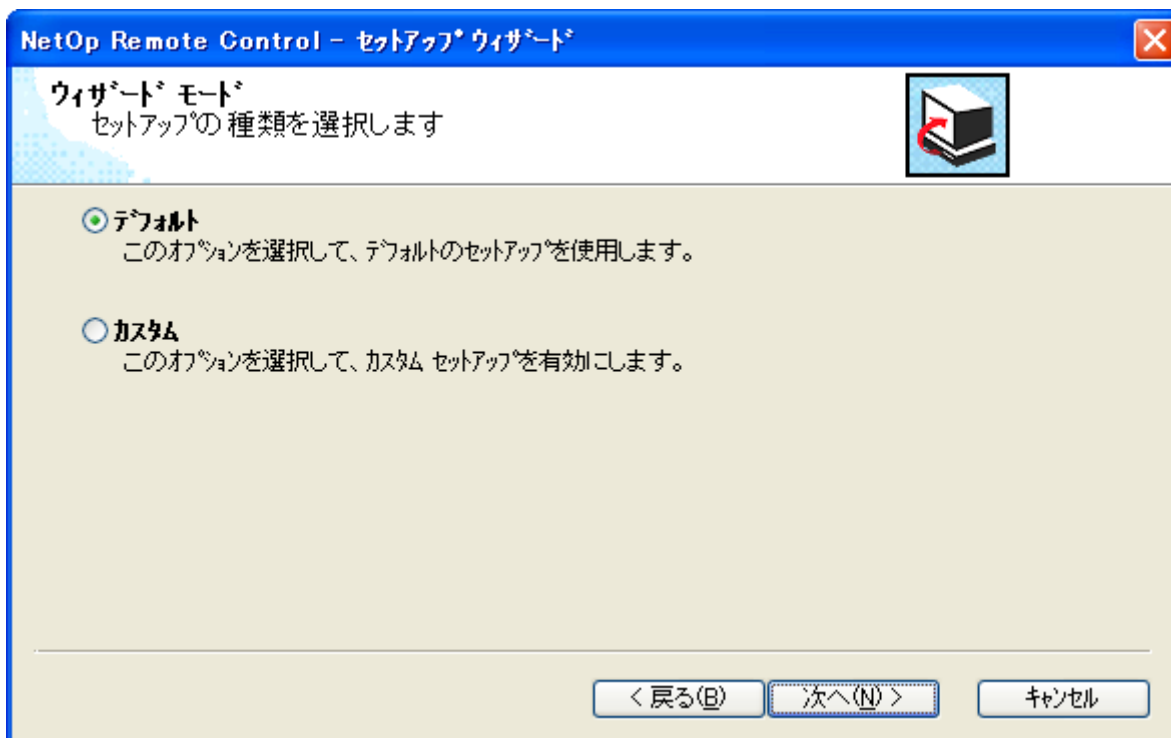
これはセットアップ ウィザードの最初の画面であり、この画面から NetOp ホストのセットアップ手順が順番に示されます。

NetOp ホストの設定を変更しないでセットアップ ウィザードを終了するには、[キャンセル] をクリックします。

4.2 ホストの起動ガイド

注意：基本インストールの後で NetOp ホストを最初に読み込んだときは、セットアップ ウィザードを実行することをお勧めします。

[次へ >] をクリックして、次のウィンドウを表示します。



次のどちらかのオプションを選択します。

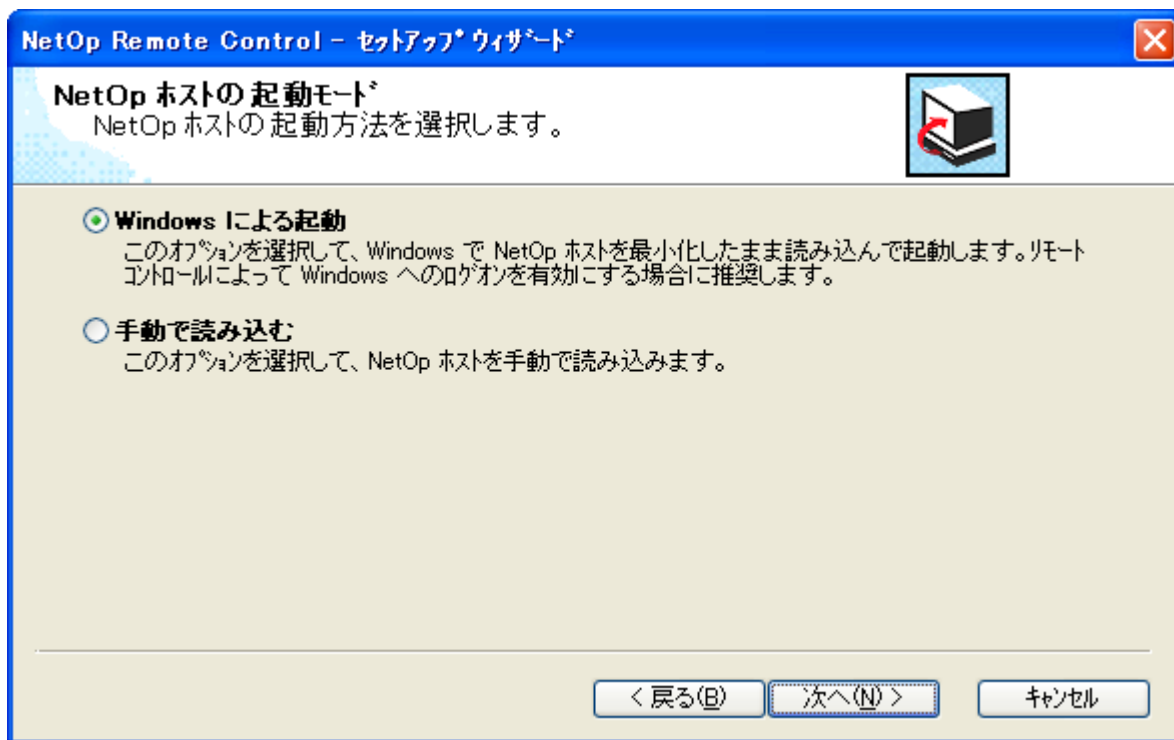
- デフォルト:** 数個のセットアップ オプション (デフォルト設定) を持つ [デフォルトトラック](#) を実行します。
- カスタム:** 数多くのセットアップ オプションを持つ [カスタムトラック](#) を実行します。

注意：初期セットアップでは、[デフォルトトラック](#) に従ってデフォルト設定を適用することをお勧めします。

ウィザード内の前のウィンドウに戻る場合は、[< 戻る] をクリックします。

[次へ >] をクリックして、次のウィンドウを表示します。

デフォルト トラック



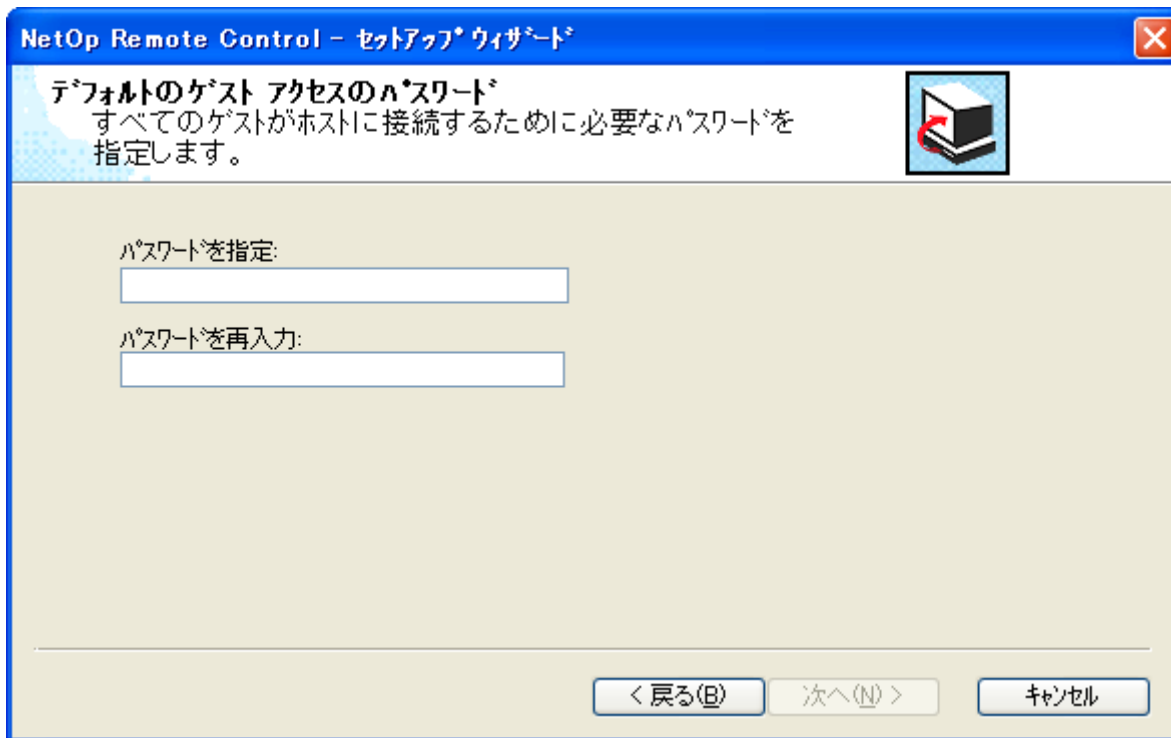
次のどちらかのオプションを選択します。

- Windows による起動** : Windows の起動時に NetOp ホストの読み込みと起動を行います (デフォルト設定)。
- 手作業で読み込む** : Windows の起動時に NetOp ホストの読み込みと起動を行いません。

4.2 ホストの起動ガイド

[次へ >] をクリックして、次のウィンドウを表示します。

デフォルトのゲスト アクセスのパスワード



NetOp Remote Control - セットアップ ウィザード

デフォルトのゲスト アクセスのパスワード
すべてのゲストがホストに接続するために必要なパスワードを指定します。

パスワードを指定:

パスワードを再入力:

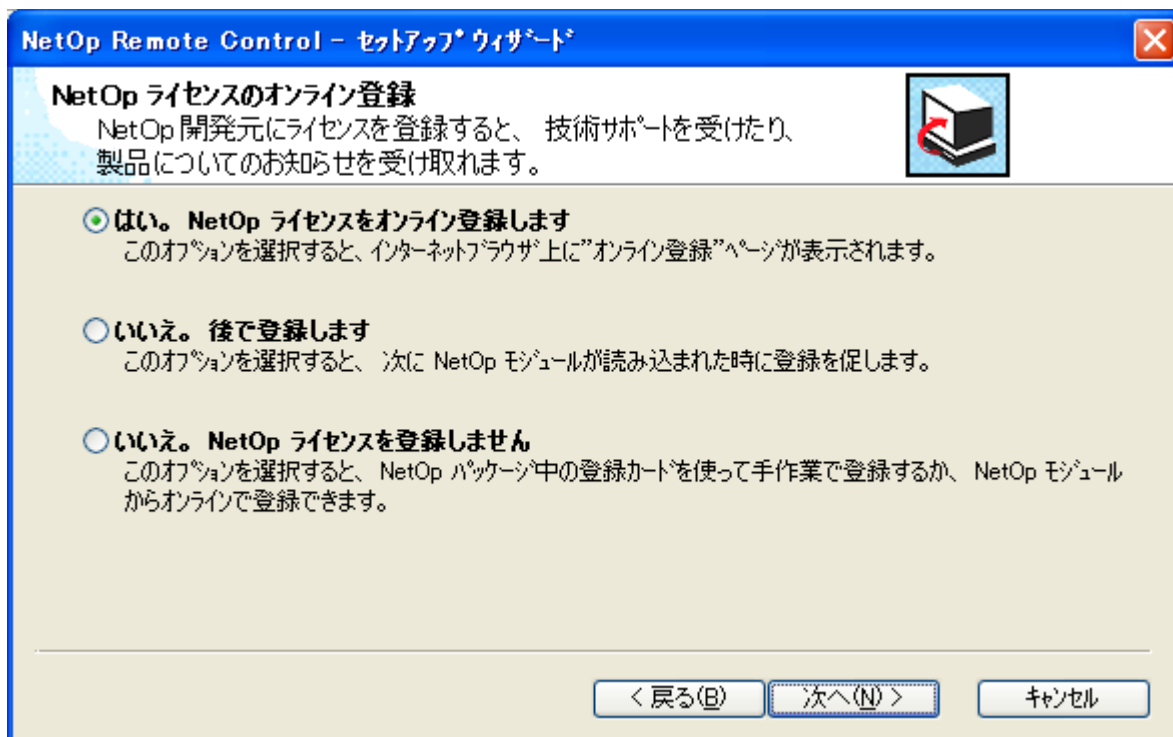
< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

パスワードを指定 : []: このフィールドには、接続側のゲストが指定する必要があるパスワードを入力します。入力した文字は、ドットまたはアスタリスクで表示されます。

パスワードを再入力 : []: このフィールドには、確認のために同じパスワードをもう一度入力します。

[次へ >] をクリックして、次のウィンドウを表示します。

登録



次のいずれかのオプションを選択します。

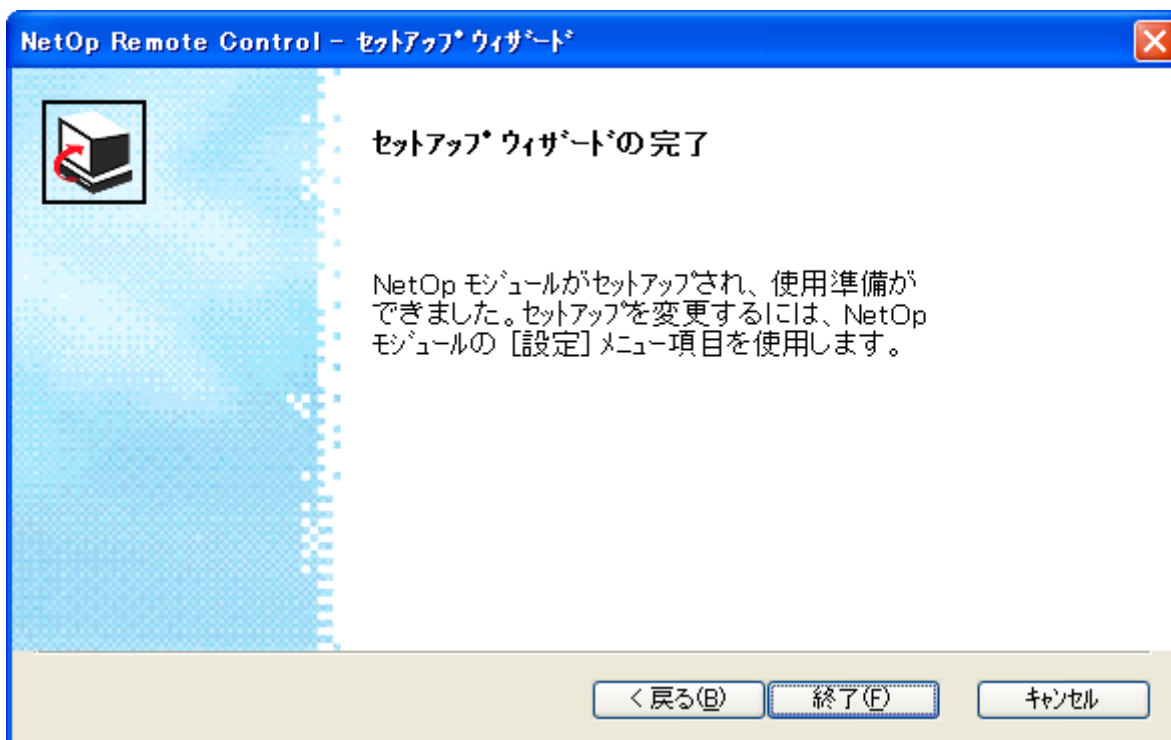
- はい。NetOp ライセンスをオンライン登録します： [次へ] をクリックすると、インターネット ブラウザに [NetOp 製品登録] Web ページが表示されます（デフォルト設定）。
- いいえ。後で登録します： NetOp ホストを次に読み込んだときに、この登録ウィンドウを表示します。
- いいえ。NetOp ライセンスを登録しません： 今後、この登録ウィンドウを表示しません。

注意： NetOp 製品元にライセンスを登録しておく、ライセンス証明書を紛失した場合や製品を新しいバージョンにアップグレードしたい場合に便利です。

無料試用版のライセンスや既に登録されたライセンスは登録しないでください。

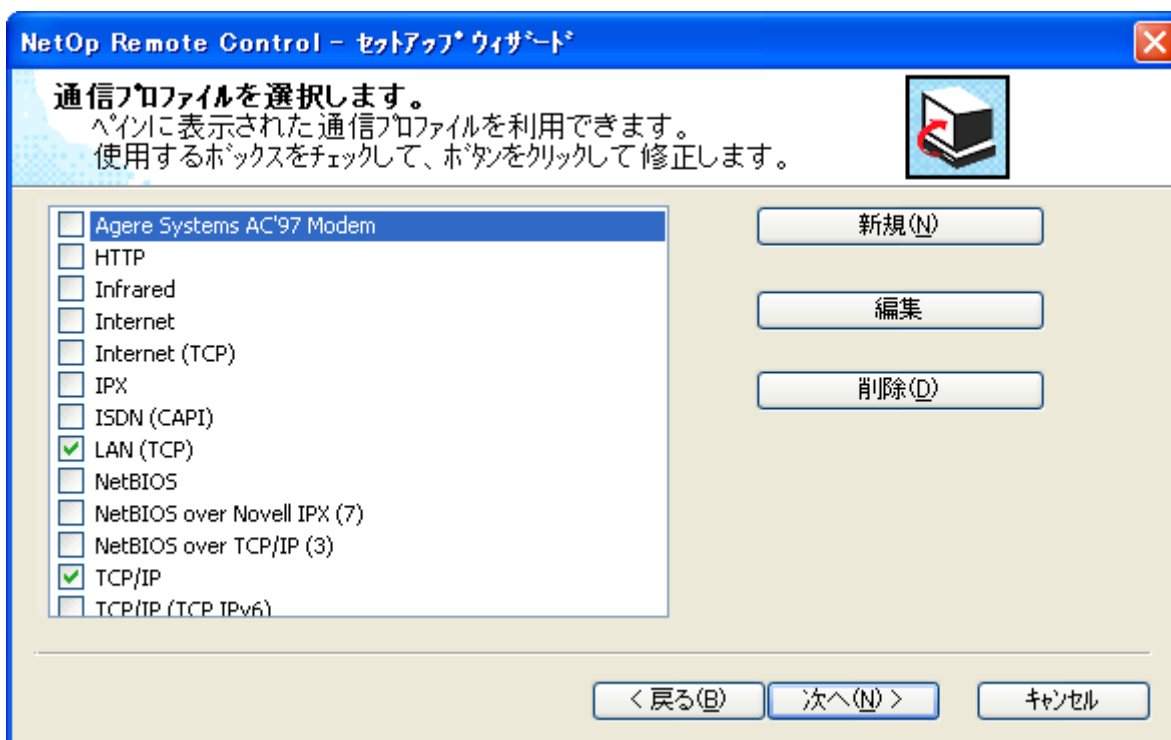
4.2 ホストの起動ガイド

[次へ >] をクリックして、次のウィンドウを表示します。



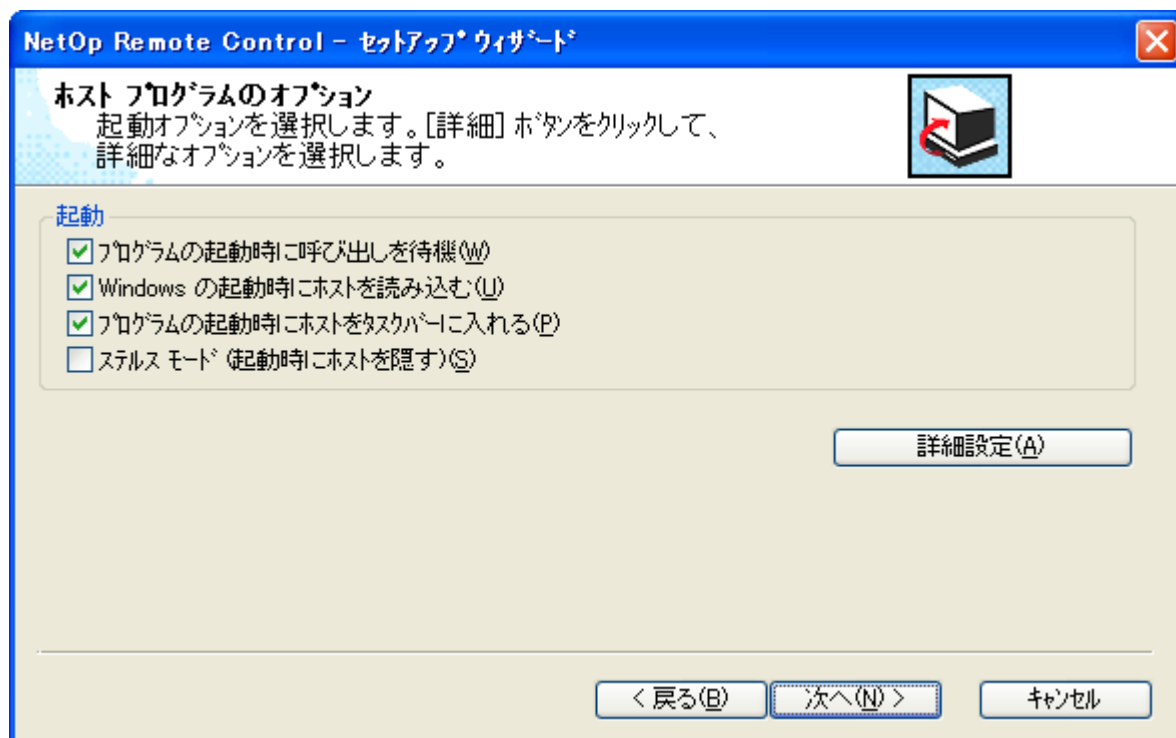
[終了] をクリックして、セットアップ ウィザードを終了します。

カスタムトラック



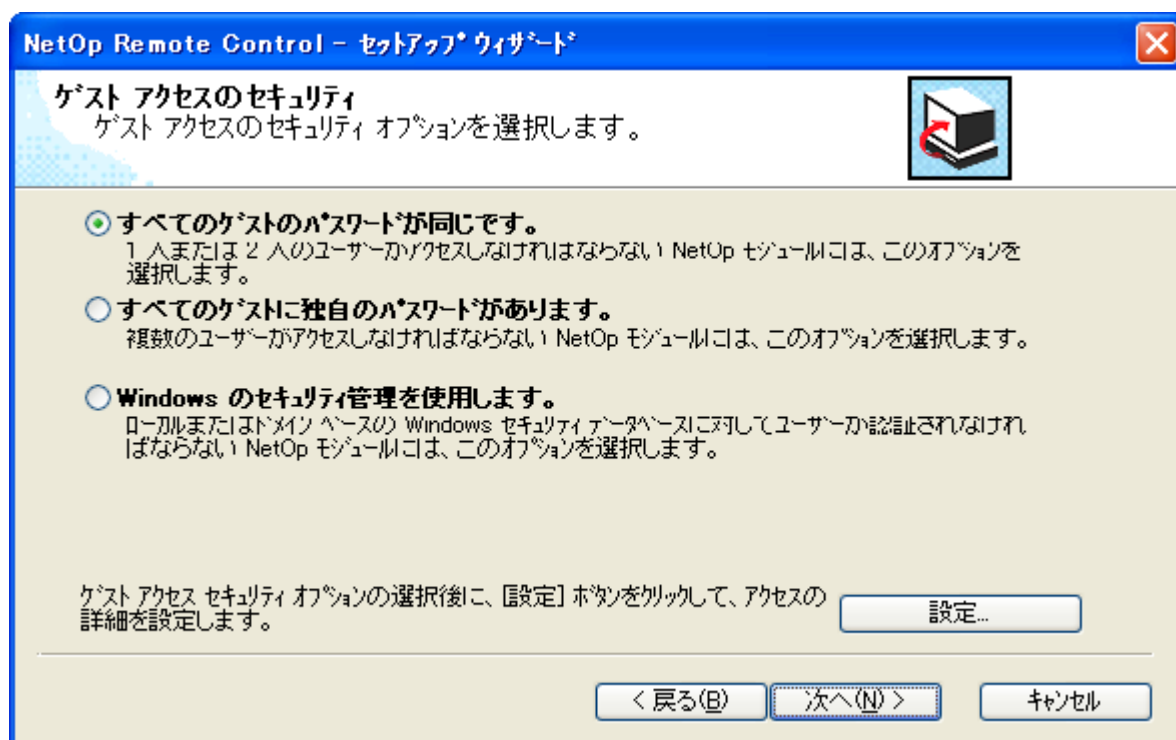
[通信プロファイル](#)の選択、作成、編集、または削除を行います。

[次へ >] をクリックして、次のウィンドウを表示します。



プログラムのオプションを選択します。

[次へ >] をクリックして、次のウィンドウを表示します。

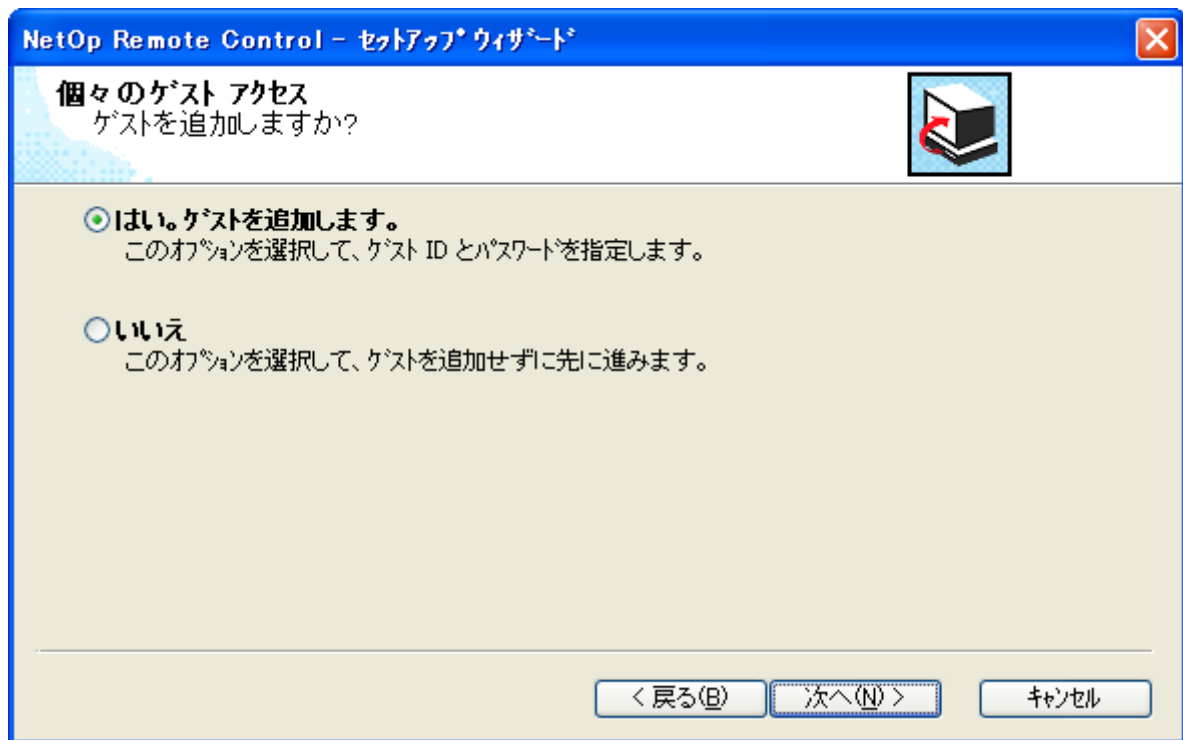


4.2 ホストの起動ガイド

次のいずれかのオプションを選択します。

- **すべてのゲストのパスワードが同じです。** : [設定] をクリックすると、[ゲスト アクセス セキュリティ](#) ウィンドウの [\[ゲスト アクセス特権\]](#) タブが開き、[すべてのゲストにデフォルトのアクセス特権を与える](#) オプションが表示されます。[次へ] をクリックすると、[デフォルトのゲスト アクセスのパスワード](#) ウィンドウが表示されます (デフォルト設定)。
- **すべてのゲストに独自のパスワードがあります。** : [設定] をクリックすると、[ゲスト アクセス セキュリティ](#) ウィンドウの [\[ゲスト アクセス特権\]](#) タブが開き、[NetOp 認証を使用して各ゲストに個別にアクセス特権を与える](#) オプションが表示されます。追加されるゲストに適用するセキュリティ ロールを選択します。[次へ] をクリックすると、[NetOp に対する個々のゲスト アクセス](#) ウィンドウが表示されます。
- **Windows のセキュリティ管理を使用します。** : [設定] をクリックすると、[\[ゲスト アクセス セキュリティ\]](#) ウィンドウの [\[ゲスト アクセス特権\]](#) タブが開き、[Windows セキュリティ管理を使用して各ゲストにそれぞれアクセス特権を与える](#) オプションが表示されます。追加されるユーザーとグループに適用するセキュリティ ロールを選択します。[次へ] をクリックすると、[\[個々のゲスト アクセス\]](#) ウィンドウ ウィンドウが表示されます。

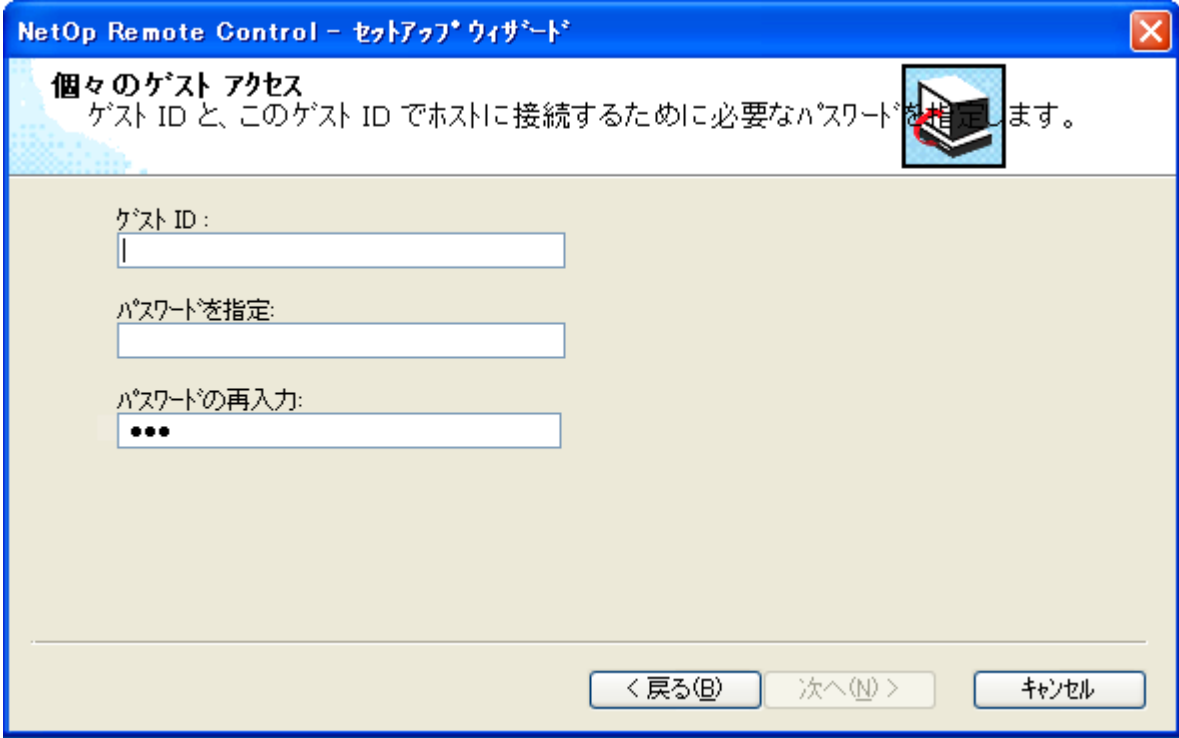
NetOp に対する個々のゲスト アクセス



次のどちらかのオプションを選択します。

- **はい。ゲストを追加します。** : [ゲストの追加](#) ウィンドウを表示します (デフォルト設定)。
- **いいえ。** : [登録](#) ウィンドウを表示します。

ゲストの追加



NetOp Remote Control - セットアップ ウィザード

個々のゲスト アクセス
 ゲスト ID と、このゲスト ID でホストに接続するために必要なパスワードを指定します。

ゲスト ID:

パスワードを指定:

パスワードの再入力:

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

ゲスト ID: []: 接続を試みるゲストがログオンするための名前を、このフィールドに入力します。

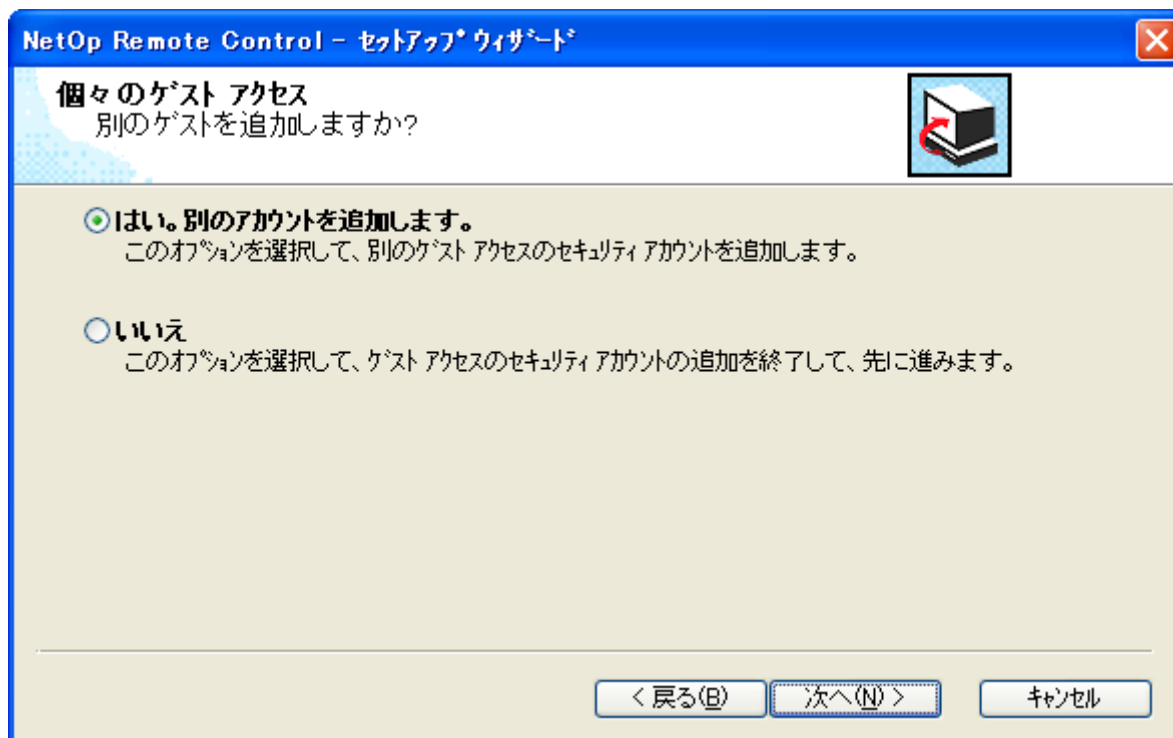
パスワードを指定: []: 接続を試みるゲストがログオンするためのパスワードを、このフィールドに入力します。入力した文字は、ドットまたはアスタリスクで表示されます。

パスワードを再入力: []: 確認のため、このフィールドにパスワードをもう一度入力します。

[次へ >] をクリックすると、このアカウントが [ゲスト アクセス セキュリティ](#) ウィンドウの [\[ゲスト アクセス特権\]](#) タブに追加されます。 [NetOp 認証を使用して各ゲストに個別にアクセス特権を与える](#) オプションでセキュリティ ロールを選択して、 [別のアカウントの追加](#) ウィンドウを表示します。

4.2 ホストの起動ガイド

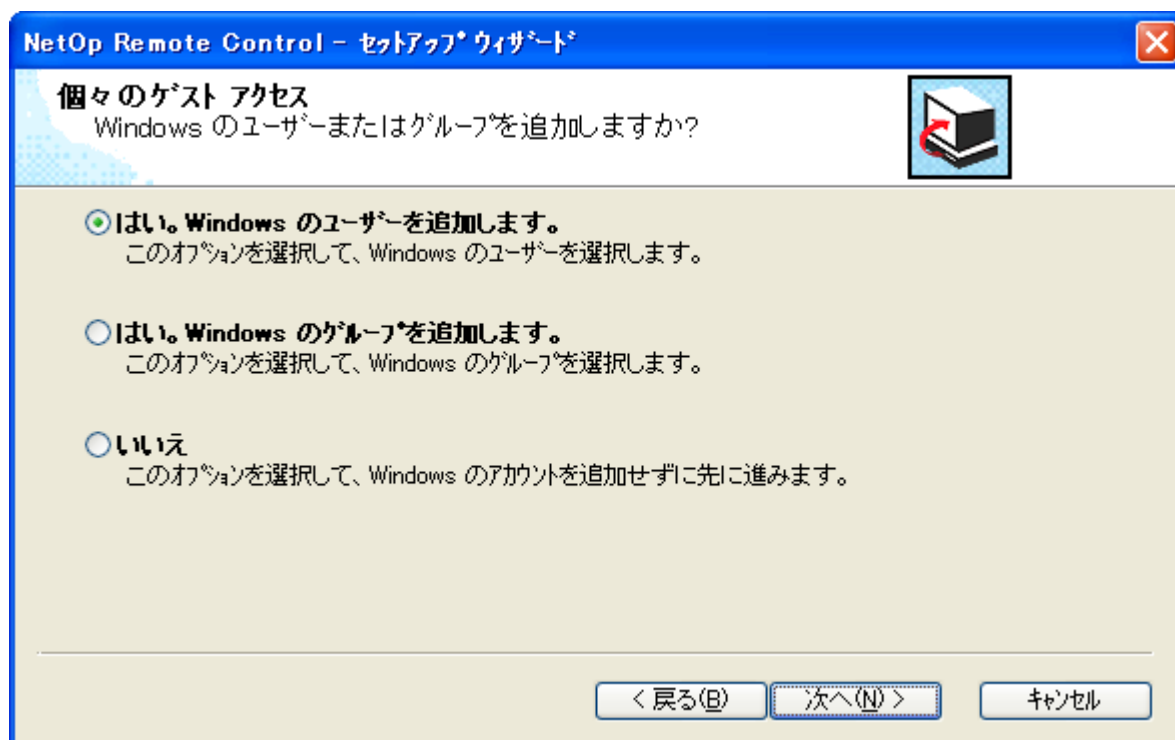
別のアカウントの追加



次のどちらかのオプションを選択します。

- はい。別のアカウントを追加します。 : このウィンドウの直前に表示されていた [NetOp に対する個々のゲスト アクセス](#) ウィンドウまたは [\[個々のゲスト アクセス\] ウィンドウ](#) を再表示して、別のアカウントを追加できるようにします (デフォルト設定)。
- いいえ : [登録](#) ウィンドウを表示します。

[個々のゲスト アクセス] ウィンドウ



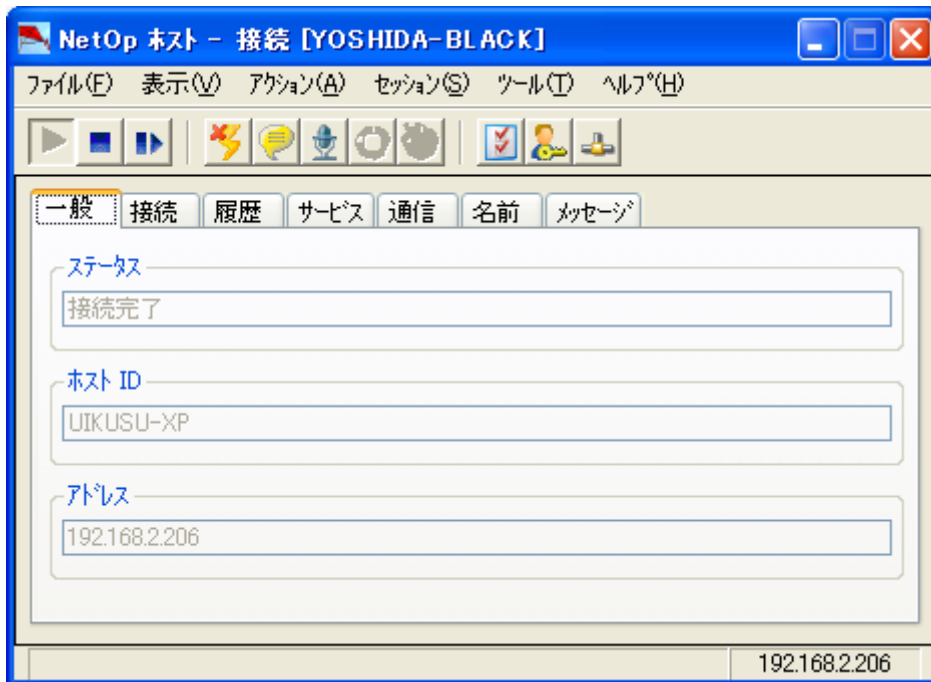
次のいずれかのオプションを選択します。

- はい。Windows のユーザーを追加します：Windows の [ユーザー選択] ウィンドウを表示し、Windows ユーザー アカウントを [ゲスト アクセス セキュリティ](#) ウィンドウの [ゲスト アクセス特権] タブに追加します。 [Windows セキュリティ管理を使用して各ゲストにそれぞれアクセス特権を与える](#) オプションでセキュリティ ロールを選択して、 [別のアカウントの追加](#) ウィンドウを表示します (デフォルト設定)。
- はい。Windows のグループを追加します：Windows の [グループ選択] ウィンドウを表示し、Windows グループ アカウントを [ゲスト アクセス セキュリティ](#) ウィンドウの [ゲスト アクセス特権] タブに追加します。 [Windows セキュリティ管理を使用して各ゲストにそれぞれアクセス特権を与える](#) オプションでセキュリティ ロールを選択して、 [別のアカウントの追加](#) ウィンドウを表示します。
- いいえ： [登録](#) ウィンドウを表示します。

4.3 [NetOp ホスト] ウィンドウ

4.3 [NetOp ホスト] ウィンドウ

[NetOp ホスト] ウィンドウを下図に示します。



このウィンドウには、次の要素があります。

- ・ [タイトル バー](#)
- ・ [メニュー バー](#)
- ・ [ツールバー](#)
- ・ [タブ パネル](#)
- ・ [ステータス バー](#)

4.3.1 タイトル バー

[NetOp ホスト] ウィンドウのタイトル バーを下図に示します。



タイトル バー上のウィンドウ コントロールについては、[ウィンドウ コントロール](#)を参照してください。

タイトル バーには、NetOp ホストのステータス情報が表示されます。

- ・ *読み込み中* : ホストを読み込み中です。
- ・ *停止済み* : ホスト通信が停止しています。
- ・ *起動中* : ホスト通信を有効化しています。
- ・ *実行中* : ホスト通信が有効に動作しています。ゲストは接続していません。
- ・ *接続済み* [*<ゲスト名>*]*<数値>* : ホスト通信が有効に動作しています。*<ゲスト名>* と *<数値>* で識別されるゲストが接続しています。

注意： [プログラムのオプション](#) ウィンドウ [\[接続の通知\]](#) タブの [\[接続中\]](#) セクションで、[\[タイトル バー \(ある場合\) にゲスト名を表示する\]](#) ボックスがチェックされている場合は、接続済みのゲストを識別するための名前が角括弧の中に表示されます。

[\[プログラムのオプション\]](#) ウィンドウの [\[一般\]](#) タブにある [\[接続\]](#) セクションで、[\[同時に複数のゲスト セッションを許可する\]](#) ボックスがチェックされている場合は、複数のゲストが同時に接続できます。接続済みのゲストの数が2以上である場合は、その接続数が [< 数値 >](#) という形式で示されます。

- ・ **切断中：** ホスト通信が有効に動作しています。接続済みのすべてのゲストを切断中です。
- ・ **ヘルプ呼出：** ホスト通信が有効に動作しています。ゲストに送信されたヘルプ呼出が保留中です。[ヘルプ呼出](#)を参照。
- ・ **停止中：** ホスト通信を停止中です。

このステータス情報は、[\[一般\]](#) タブの [\[ステータス\]](#) フィールド、Windows タスクバーの [\[NetOp ホスト\]](#) ボタンとツールヒント、通知領域の [NetOp ホスト ボタン](#) ツールヒントにも表示されます。

通知領域の [NetOp ホスト ボタン](#) としてのみホストを表示する場合は、[ウィンドウ コントロール](#) メニューから [\[最小化\]](#) コマンドを選択するか、タイトル バー上の最小化ボタンをクリックします。

4.3.2 メニュー バー

[\[NetOp ホスト\]](#) ウィンドウのメニュー バーを下図に示します。

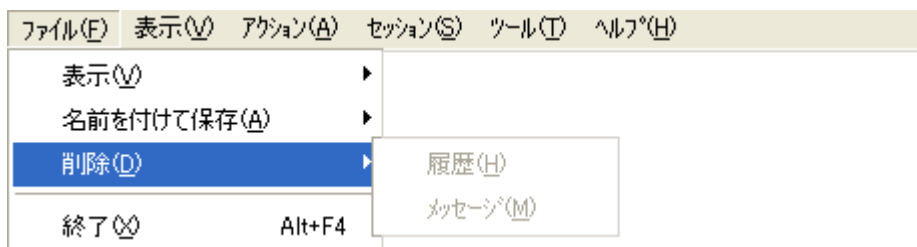
ファイル(F) 表示(V) アクション(A) セッション(S) ツール(T) ヘルプ(H)

メニュー バーには次のメニュー項目があります。

- ・ [\[ファイル\]](#) メニュー
- ・ [\[表示\]](#) メニュー
- ・ [\[アクション\]](#) メニュー
- ・ [\[セッション\]](#) メニュー
- ・ [\[ツール\]](#) メニュー
- ・ [\[ヘルプ\]](#) メニュー

4.3.2.1 [ファイル] メニュー

[メニュー バー](#) から [\[ファイル\]](#) を選択するか、([\[NetOp ホスト\]](#) ウィンドウがアクティブである場合は) ALT+F キーを押すと、次のメニューが表示されます。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

表示：このコマンドは、次のコマンドに展開されます。

メッセージ： [\[メッセージ\]](#) タブのレコードを選択した後、このコマンドを選択するか、レコードのコンテキスト メニューの対応するコマンドを選択すると、レコード メッセージが [NetOp メッセージ](#) ウィンドウに表示されます。

4.3 [NetOp ホスト] ウィンドウ

名前を付けて保存：このコマンドは、次のコマンドに展開されます。

履歴：[履歴] タブを選択した後、このコマンドを選択するか、タブ ペインのコンテキスト (右クリック) メニューの対応するコマンドを選択すると、Windows の [名前を付けて保存] ウィンドウが表示されます。その際、[履歴] タブのペインの内容をファイルに保存できるように、[ファイルの種類：すべてのファイル (*.*)] が指定されています。

注意：[名前を付けて保存] ウィンドウでは、[履歴] タブのペインの内容をテキスト ファイルとして保存するために、*.txt というファイル名を指定しますが、指定したファイル名に拡張子 (txt) は自動的に追加されません。

削除：このコマンドは以下のコマンドに拡張されます。

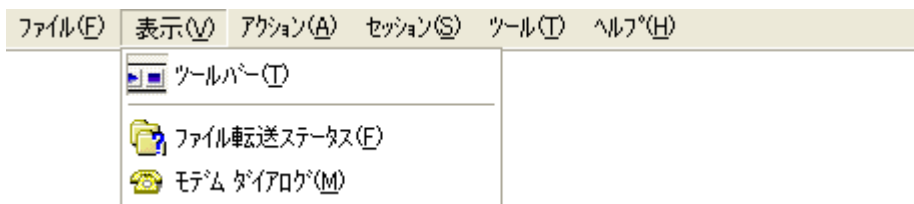
履歴：[履歴] タブを選択した後、このコマンドを選択するか、タブ ペインのコンテキスト (右クリック) メニューの対応するコマンドを選択すると、ペインの内容を削除するかどうかを確認するための確認ウィンドウが表示されます。

メッセージ：[メッセージ] タブのレコードを選択した後、このコマンドを選択するか、レコードのコンテキスト (右クリック) メニューの対応するコマンドを選択すると、選択したレコードと関連ファイルを削除するかどうかを確認するための確認ウィンドウが表示されます。

終了：NetOp ホストを終了するには、このコマンドを選択するか、**NetOp ホスト ボタン**の該当メニュー コマンドを選択する方法、**ウィンドウ コントロール** メニューの [閉じる] コマンドを選択する方法、**タイトル バー** アイコンをダブルクリックする方法、**ウィンドウ コントロール**の [閉じる] ボタンをクリックする方法、**[NetOp ホスト] ウィンドウ**がアクティブであるときに ALT+F4 キーを押す方法があります。

4.3.2.2 [表示] メニュー

メニュー バーから [表示] を選択するか、(**[NetOp ホスト] ウィンドウ**がアクティブである場合は) ALT+V キーを押すと、次のメニューが表示されます。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

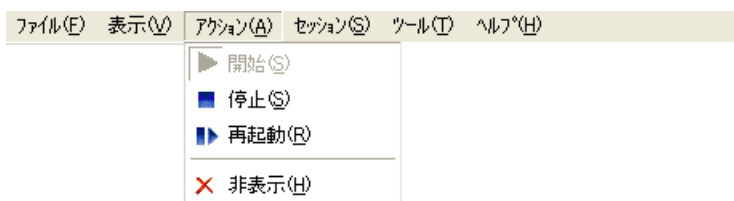
ツールバー：このコマンドを選択すると、**ツールバー**の非表示 / 表示が切り替わります (デフォルトでは表示)。**ツールバー**が表示されているときは、コマンドのアイコンが押された状態で表示されます。

ファイル転送ステータス：このコマンドは、ゲストが接続しているときに有効になります。このコマンドを選択すると、**ファイル転送ステータス** ウィンドウが表示されます。

モデム ダイアログ：このコマンドを選択すると、**[モデム ダイアログ]** ウィンドウが表示されます。

4.3.2.3 [アクション] メニュー

メニュー バーから [アクション] を選択するか、(**[NetOp ホスト] ウィンドウ**がアクティブである場合は) ALT+A キーを押すと、次のメニューが表示されます。

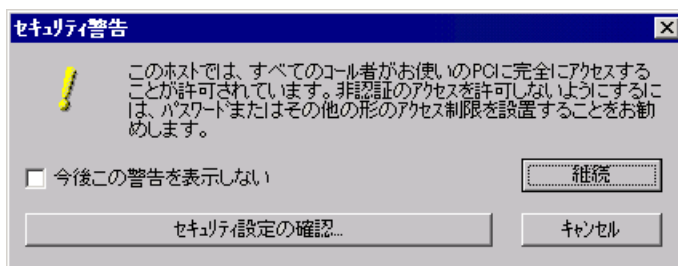


メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

開始：このコマンドを選択するか、[ツールバーのアクション ボタン](#)の対応するボタンをクリックすると、ホストが起動して、指定の[通信プロファイル](#)が有効になります。

[ゲスト アクセス セキュリティ](#)でゲストのログオン資格が指定されていない場合は、デフォルトで次の [セキュリティ警告] ウィンドウが表示されます。

セキュリティ警告



今後この警告を表示しない：このボックスにチェックを付けると、今後このセキュリティ警告は表示されません。（デフォルト：チェックなし）

注意：このセキュリティ警告を一度無効にした後で再表示するように設定を戻す場合は、ホストが停止中に [NetOp の設定ファイル](#)である `nhstconf.ndb` ファイルを削除します。通常、このファイルは `C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Host` にあります。`nhstconf.ndb` ファイルを削除すると、ホストのセットアップ情報が削除されます。ホストを再度読み込むとき、ホストのセットアップ情報を作成するために、[セットアップ ウィザード](#)が実行されます。

セキュリティ設定の確認...：このボタンをクリックすると、[ゲスト アクセス セキュリティ](#) ウィンドウが表示されます。

継続：このボタンをクリックすると、警告ウィンドウが閉じてホストが起動します。

キャンセル：このボタンをクリックすると、ホストが起動しないで警告ウィンドウが閉じます。

停止：このコマンドを選択するか、[ツールバーのアクション ボタン](#)の対応するボタンをクリックすると、ホストが停止して、現在有効な[通信プロファイル](#)が無効になります。

再起動：このコマンドを選択するか、[ツールバーのアクション ボタン](#)の対応するボタンをクリックすると、ホストが停止してから再起動します。指定の[通信プロファイル](#)は一度無効になった後、再度有効になります。

注意：特定のセットアップ情報については、変更を有効にするためにホストの再起動が必要になります。

隠す：このコマンドを選択すると、ホストを非表示にすることを確認するための確認ウィンドウが表示されます。ホストを非表示にした場合、ホストが読み込まれていることを示すアイコンは画面上にまったく表示されません。

注意：このコマンドでホストを非表示にした場合、たとえば Windows の再起動などを行って、非表示のホストを再度読み込むと、隠される前の状態でホストが表示されます。

[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [一般] タブの [ステルス モード (起動時にホストを隠す)] オプションを使用してホストを非表示にした場合は、再読み込み後もホストは非表示になります。

隠されたホストを表示するには、(デフォルトでは) ホストがインストールされたディレクトリにある `SHOWHOST.EXE` を実行します。

4.3 [NetOp ホスト] ウィンドウ

4.3.2.4 [セッション] メニュー

[メニューバー](#)から [セッション] を選択するか、([\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)がアクティブである場合は) ALT+S キーを押すと、次のメニューが表示されます。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

切断：このコマンドは、ゲストが接続しているときに有効になります。接続中の全ゲストの接続を切断するには、このコマンドを選択するか、[NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)の対応するコマンドを選択するか、[ツールバー](#)上にある[セッション ボタン](#)の該当するボタンをクリックします。

注意：[NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)を使用すると、接続されている複数のゲストの1つを切断できます。

チャット：このコマンドは、ゲストが接続しているときに有効になります。接続中の全ゲストと[チャット](#) セッションを開始するには、このコマンドを選択するか、[NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)の対応するコマンドを選択するか、[ツールバー](#)上にある[セッション ボタン](#)の [チャット] ボタンをクリックします。

注意：[NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)を使用すると、接続されている複数のゲストの1つと[チャット](#) セッションを開始できます。

オーディオ/ビデオ チャット：ゲストが接続中であり、ゲストまたはホストが他のオーディオセッションに参加していない場合は、このコマンドが有効になります。接続中のゲストのうち、キーボードとマウスの制御権を持つゲストと[オーディオ/ビデオ チャット](#) セッションを開始するには、このコマンドを選択するか、[NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)の対応するコマンドを選択するか、[ツールバー](#)上にある[セッション ボタン](#)の [オーディオ/ビデオ チャット] ボタンをクリックします。

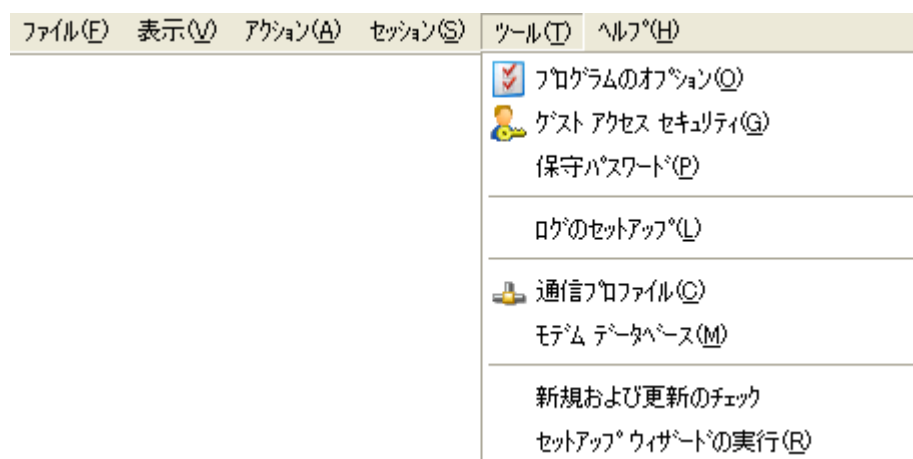
注意：[NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)では、接続している複数のゲスト間でキーボードとマウスの制御権を相互に交換することができます。

ヘルプ呼出：このコマンドが使用可能になるのは、ホストのステータスが**実行中**であるとともに([タイトルバー](#)を参照)、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [\[ヘルプ呼出\] タブ](#) オプションセクションで、[ヘルプ呼出を有効にする] ボックスまたは [サービス チケットを有効にする] ボックスがチェックされているときです。ゲストから[ヘルプ呼出](#)を受け付けるには、このコマンドを選択するか、[NetOp ホスト ボタンの](#)対応するメニュー コマンドを選択するか、[ツールバー](#)上にある[セッション ボタン](#)の該当するボタンをクリックします。

呼出取消：このコマンドは、ホストのステータスが**ヘルプ呼出済み**である場合に有効になります([タイトルバー](#)を参照)。保留中のヘルプ呼出を取り消すには、このコマンドを選択するか [NetOp ホスト ボタンの](#)該当のメニュー コマンドを選択するか、[ツールバー](#)上にある[セッション ボタン](#)のボタンをクリックします。

4.3.2.5 [ツール] メニュー

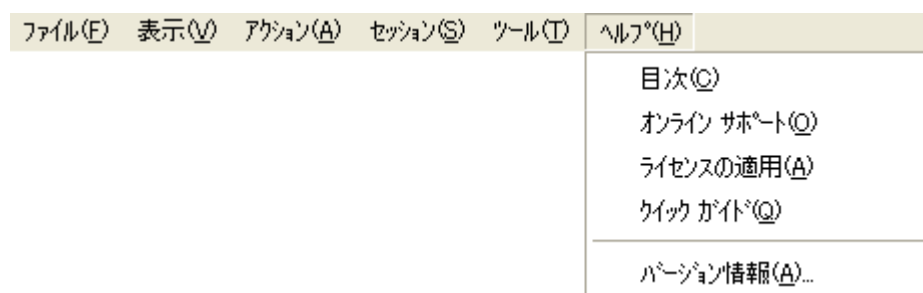
[メニュー バー](#)から [ツール] を選択するか、([\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)がアクティブである場合は) ALT+T キーを押すと、次のメニューが表示されます。



このメニューの各コマンドについては、[ホスト ツール](#)を参照してください。

4.3.2.6 [ヘルプ] メニュー

[メニュー バー](#)から [ヘルプ] を選択するか、([\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)がアクティブである場合は) ALT+H キーを押すと、次のメニューが表示されます。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

目次：このコマンドを選択すると、NetOp ホスト ヘルプ システムが起動され、その左側のペインに目次が一覧形式で表示されます。

オンライン サポート：このコマンドを選択すると、[NetOp Remote Control のサポート](#) Web ページがインターネット ブラウザに表示されます。

4.3 [NetOp ホスト] ウィンドウ

ライセンスの適用/オンライン登録: NetOp ホストのトライアルバージョンがインストールされている場合は、このコマンドは [ライセンスの適用] になります。このコマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。



このウィンドウでライセンス情報をトライアルバージョンに適用すると、ライセンス供与バージョンにアップグレードされます。

ライセンスされたユーザー:[:]: ライセンスが供与されているユーザー名を、このフィールドに入力します。

シリアル番号:[:]: ホストのライセンス番号をこのフィールドに入力します。

NetOp ホストのライセンス供与バージョンがインストールされている場合は、このコマンドは [オンライン登録] になります。このコマンドを選択すると、[NetOp 製品登録](#) Web ページがインターネット ブラウザに表示されます。

クイック ガイド: このコマンドを選択すると、NetOp ホスト ヘルプの「ホストの起動ガイド」トピックが表示されます。

バージョン情報... : このコマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。

NetOp Remote Control Host のバージョン情報



このウィンドウには、インストールされている NetOp ホストに関する情報が表示されます。ビルド番号は、バージョン番号の右側のカッコ内に、YYYYDDD (Y= 4桁の西暦年、D=1月1日からの通し日付) の形式で表示されます。

システム情報... : このボタンをクリックすると、[システム情報](#)ウィンドウが表示されます。

4.3.3 ツールバー

[\[表示\]メニュー](#)の [ツールバー] コマンドで非表示にした場合を除き、[\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)には次のツールバーが表示されます。






メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

ツールバーには、次のセクションにグループ分けされたボタンがあります。

- ・ [アクション ボタン](#)
- ・ [セッション ボタン](#)
- ・ [ツール ボタン](#)

4.3.3.1 アクション ボタン


[\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)の[ツールバー](#)には次のアクション ボタンがあります。

-  **起動** : このボタンをクリックするか、[\[アクション\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、ホストが起動して、指定の[通信プロファイル](#)が有効になります。
-  **停止** : このボタンをクリックするか、[\[アクション\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、ホストが停止して、すべての[通信プロファイル](#)が無効になります。
-  **再起動** : このボタンをクリックするか、[\[アクション\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択すると、ホストが停止してから再起動します。指定の[通信プロファイル](#)は一度無効になった後、再度有効になります。


注意 : 特定のセットアップ情報については、変更を有効にするためにホストの再起動が必要になります。

4.3.3.2 セッション ボタン


[\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)の[ツールバー](#)には次のセッション ボタンがあります。

-  **切断** : このボタンは、ゲストが接続しているときに有効になります。接続中の全ゲストの接続を切断するには、このボタンをクリックするか、[\[セッション\]メニュー](#)または [NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)の対応するコマンドを選択します。

注意 : [NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)を使用すると、接続されている複数のゲストの1つを切断できます。

-  **チャット** : このボタンは、ゲストが接続しているときに有効になります。接続中の全ゲストと[チャット](#)セッションを開始するには、このボタンをクリックするか、[\[セッション\]メニュー](#)または [NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)の対応するコマンドを選択します。

注意 : [NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)を使用すると、接続されている複数のゲストの1つと[チャット](#)セッションを開始できます。

-  **オーディオ/ビデオ チャット** : ゲストが接続中であり、ゲストまたはホストが他のオーディオセッションに参加していない場合は、このボタンが有効になります。接続中のゲストのうち、キーボードとマウスの制御権を持つゲストと[オーディオ/ビデオ チャット](#)セッションを開始するには、このボタンをクリックするか、[\[セッション\]メニュー](#)または [NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)の対応するコマンドを選択します。

注意 : [NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)では、接続している複数のゲスト間でキーボードとマウスの制御権を相互に交換することができます。

4.3 [NetOp ホスト] ウィンドウ



ヘルプ呼出：このボタンは、ホストのステータスが **実行中** である場合に有効になります (**タイトル バー**を参照)。ヘルプ呼出を行うには、このボタンをクリックするか、**[セッション] メニュー**または **NetOp ホスト ボタン** メニューの対応するコマンドを選択します。



呼出取消：このボタンは、ホストのステータスがヘルプ呼出済みである場合に有効になります (**タイトル バー**を参照)。保留中のヘルプ呼出を取り消すには、このボタンをクリックするか、**[セッション] メニュー**または **NetOp ホスト ボタン** メニューの対応するコマンドを選択します。

4.3.3.3 ツール ボタン

[NetOp ホスト] ウィンドウの**ツールバー**には次のツール ボタンがあります。



プログラムのオプション：このボタンをクリックするか、**ホスト ツール**の対応するコマンドを選択すると、**[プログラムのオプション]** ウィンドウが表示されます。



ゲスト アクセス セキュリティ：このボタンをクリックするか、**ホスト ツール**の対応するコマンドを選択すると、**[ゲスト アクセス セキュリティ]** ウィンドウが表示されます。



通信プロファイル このボタンをクリックするか、**ホスト ツール**の対応するコマンドを選択すると、**[通信プロファイルのセットアップ]** ウィンドウが表示されます。**通信プロファイル**を参照してください。

注意：設定ファイルが保護されている場合は、ツール ボタンと**[ツール] メニュー**の設定コマンドが使用できなくなります (**保守パスワード**を参照)。ツール アクションは、**保守パスワード**で保護できます。

4.3.4 タブ パネル

[NetOp ホスト] ウィンドウの**タブ パネル**には、ホストのプロパティがタブ形式で表示されます。



このウィンドウには次のタブがあります。

- [\[一般\] タブ](#)
- [\[接続\] タブ](#)
- [\[履歴\] タブ](#)
- [\[サービス\] タブ](#)
- [\[通信\] タブ](#)
- [\[名前\] タブ](#)
- [\[メッセージ\] タブ](#)

4.3.4.1 [一般] タブ

[NetOp ホスト] ウィンドウのタブ パネルにあるこのタブには、ホストの一般的なプロパティが表示されます (デフォルトでは、このタブが手前に表示されます)。



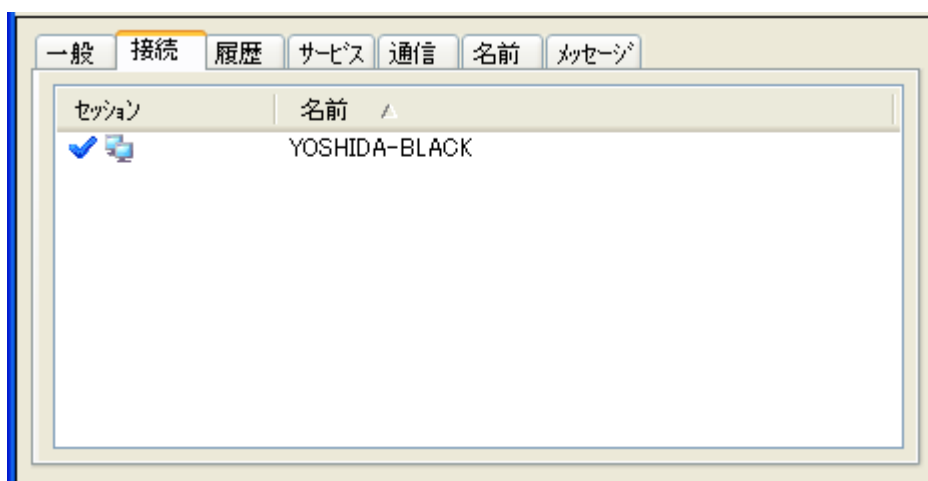
ステータス []: この編集不可能なフィールドには、[タイトル バー](#)、Windows タスクバー ボタン、[NetOp ホスト ボタン](#)のツールヒントなどと同様に、ホストのステータス情報が表示されます。

ホスト ID []: 通常は編集不可能なこのフィールドには、[プログラムのオプション](#) ウィンドウ、[\[ホスト名\] タブ](#)の [\[名前付け\]](#) セクションで指定されたホスト名が表示されます ([\[名前\] タブ](#)も参照)。このフィールドが編集可能になるのは、ホスト ステータスが [停止済み](#)であるとともに、[\[ホスト名\] タブ](#)の [\[名前付け\]](#) セクションで [\[PC 名を入力または空白にする\]](#) が選択されている場合です。その場合、このフィールドにホスト名を入力するか、フィールド内のホスト名を編集できます。

アドレス []: この編集不可能なフィールド、[\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)の [ステータス バー](#)、および [NetOp ホスト ボタン](#)のツールヒントには、動作中のホスト コンピュータの IP アドレスが表示されます。[\[名前\] タブ](#)を参照してください。

4.3.4.2 [接続] タブ

[NetOp ホスト] ウィンドウのタブ パネルにあるこのタブには、ゲストの接続状態が表示されず。



このタブのペインには、接続中のゲストの記録が表形式で表示されます。この表には、次の内容の列があります。

- ・ **セッション**: キーボードとマウスの制御を持つゲスト (チェックマークが付けられる) とセッション アイコンが表示されます。
- ・ **名前**: ゲスト名が表示されます。

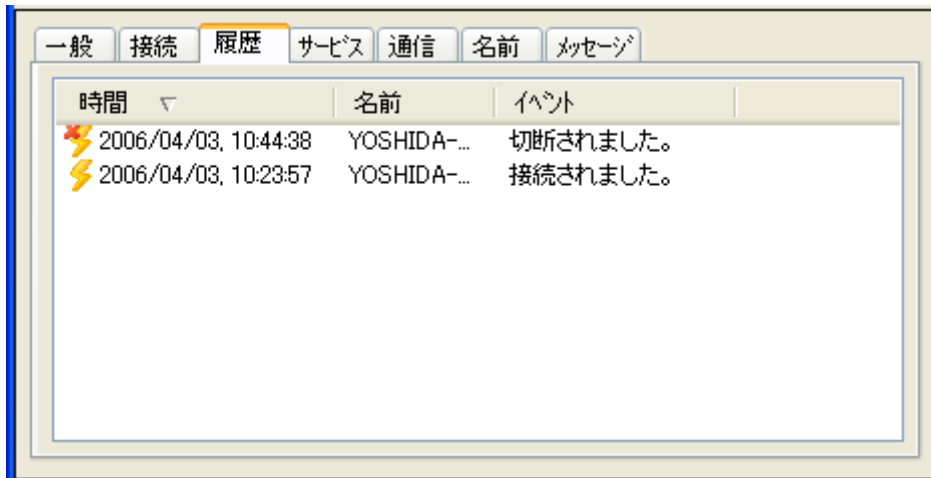
4.3 [NetOp ホスト] ウィンドウ

表内のコントロールについては、[テーブル コントロール](#)を参照してください。

注意： ペイン内の情報は[接続一覧](#)に表示できます。

4.3.4.3 [履歴] タブ

[\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)の[タブ パネル](#)にあるこのタブには、接続の履歴情報が表示されます。



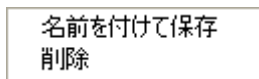
このタブのペインには、ホストが最後に読み込まれて以降の接続イベントの記録が表形式で表示されます。この表には、次の内容の列があります。

- ・ **時間：** イベント アイコン、日付と時刻が表示されます。
- ・ **名前：** ゲスト名が表示されます。
- ・ **イベント：** *接続済み*または*切断済み*が表示されます。

表内のコントロールについては、[テーブル コントロール](#)を参照してください。

注意： ペイン内の情報は[履歴一覧](#)に表示できます。

ホストをアンロードすると、ペイン内の記録が失われます。ペイン内で右クリックすると、次のコンテキスト メニューが表示されます。



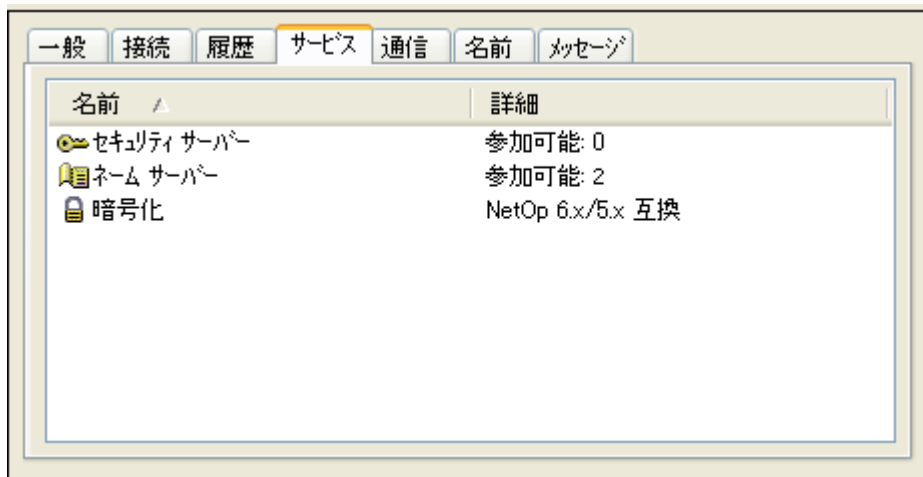
名前を付けて保存： このコマンドを選択するか、[\[ファイル\] メニュー](#)の [\[名前を付けて保存\]](#) > [\[履歴\]](#) コマンドを選択すると、Windows の [\[名前を付けて保存\]](#) ウィンドウが表示されます。その際、ペインの内容をファイルに保存できるように、[\[ファイルの種類：すべてのファイル \(*.*\)\]](#) が指定されています。

注意： [\[名前を付けて保存\]](#) ウィンドウでは、[\[履歴\]](#) タブのペインの内容をテキスト ファイルとして保存するために、**.txt* というファイル名を指定しますが、指定したファイル名に拡張子 (*.txt*) は自動的に追加されません。

削除： このコマンドを選択するか、[\[ファイル\] メニュー](#)の [\[削除\]](#) > [\[履歴\]](#) コマンドを選択すると、ペインの内容の削除を確認するための確認ウィンドウが表示されます。

4.3.4.4 [サービス] タブ

[NetOp ホスト] ウィンドウの [タブ パネル](#)にあるこのタブには、利用可能な NetOp サービスが表示されます。



このタブのペインには、NetOp サービスに関する情報が表形式で表示されます。この表には、次の内容の列があります。

- ・ **名前**：サービスのアイコンと名前
- ・ **詳細**：個々の NetOp サービスごとに異なる詳細情報が表示されます。

暗号化：現在または直前のゲスト接続の暗号化方式が表示されます（[\[暗号化\] タブ](#)を参照）。

ネーム サーバー：*Available: 0* NetOp ネーム サーバーを使用していない場合、または NetOp ネーム サーバーを使用する通信時に NetOp ネーム サーバーが利用できない場合。*Available: 1* または *2* - NetOp ネーム サーバーを使用した通信を行っている場合に、利用可能な NetOp ネーム サーバーの数が表示されます。[TCP/IP の詳細設定](#)を参照してください。

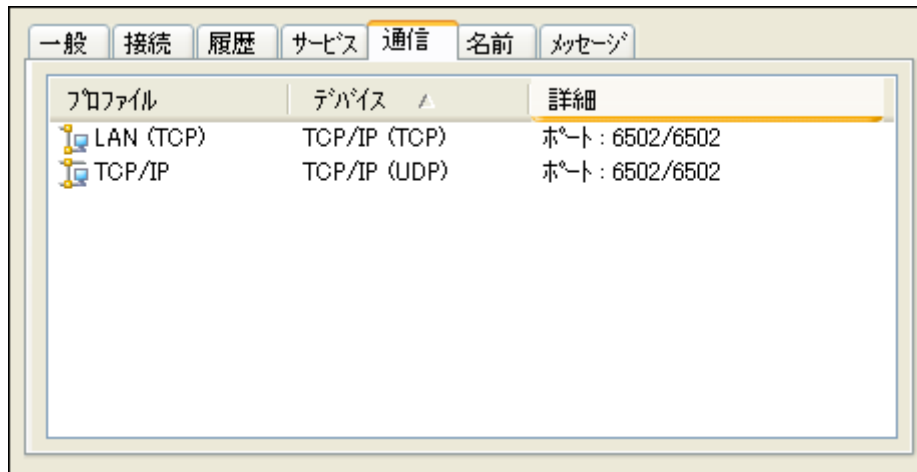
セキュリティ サーバー：*Available: 0* NetOp セキュリティ サーバーを使用していない場合、または NetOp セキュリティ サーバーを使用する通信時に NetOp セキュリティ サーバーが利用できない場合。*Available: <利用可能な NetOp セキュリティ サーバーの数>* - NetOp セキュリティ サーバーを使用した通信を行っている場合に、利用可能な NetOp セキュリティ サーバーの数が表示されます。[NetOp セキュリティ サーバーの使用](#)を参照してください。

表内のコントロールについては、[テーブル コントロール](#)を参照してください。

4.3 [NetOp ホスト] ウィンドウ

4.3.4.5 [通信] タブ

[NetOp ホスト] ウィンドウの [タブ パネル](#)にあるこのタブには、有効な通信プロファイルが表示されます。



プロファイル	デバイス ▲	詳細
LAN (TCP)	TCP/IP (TCP)	ポート: 6502/6502
TCP/IP	TCP/IP (UDP)	ポート: 6502/6502

このタブのペインには、有効な通信プロファイルに関する情報が表形式で表示されます。この表には、次の内容の列があります。

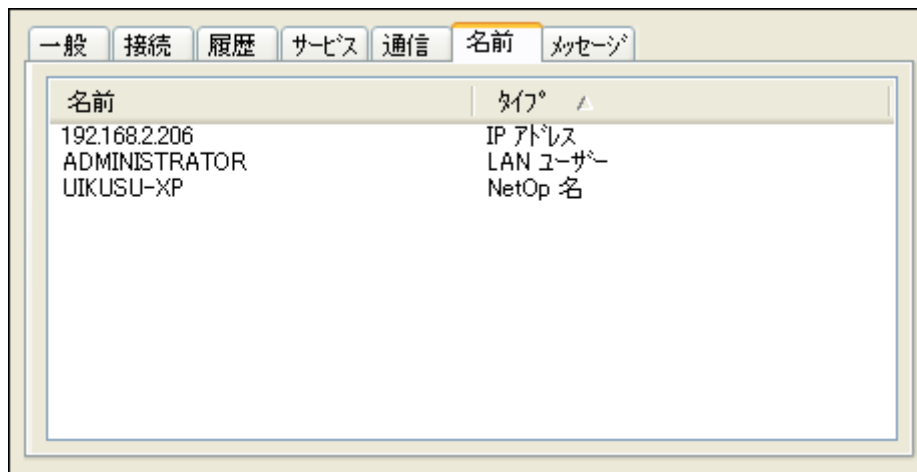
- ・ **プロファイル**: 通信デバイスのアイコンと通信プロファイルの名前が表示されます。
- ・ **デバイス**: 通信プロファイルの通信デバイスが表示されます。 [通信デバイス](#)を参照してください。
- ・ **詳細**: 通信プロファイルの設定の詳細が表示されます。 [TCP/IP の詳細設定](#)を参照してください。

表内のコントロールについては、 [テーブル コントロール](#)を参照してください。

注意: 通信プロファイルは、ホストのステータスが **実行中**、**接続済み**、または**ヘルプ呼出済み**の場合にのみ有効になります。 [タイトル バー](#)を参照してください。

4.3.4.6 [名前] タブ

[NetOp ホスト] ウィンドウの [タブ パネル](#)にあるこのタブには、有効なホスト名が表示されます。



名前	タイプ ▲
192.168.2.206	IP アドレス
ADMINISTRATOR	LAN ユーザー
UIKUSU-XP	NetOp 名

このタブのペインには、有効なホスト名に関する情報が表形式で表示されます。この表には、次の内容の列があります。

- ・ **名前**: ホスト名が表示されます。
- ・ **タイプ**: ホスト名のタイプが表示されます。

表内のコントロールについては、 [テーブル コントロール](#)を参照してください。

注意： ホスト名は、ホストのステータスが**実行中**、**接続済み**、または**ヘルプ呼出済み**の場合にのみ有効になります。

ホスト名は、他の NetOp モジュールと通信している NetOp モジュールを表します。また、使用されている通信デバイスと接続するために指定できます（妥当な場合）。[通信デバイス](#)を参照してください。

ホスト コンピュータの IP アドレスが *IP アドレス* タイプの名前として有効になるのは、通信デバイス [TCP/IP](#) を使用する通信プロファイルが有効になっている場合、あるいは通信デバイス [TCP/IP \(TCP\)](#) または [TCP/IP \(TCP IPv6\)](#) を使用する通信プロファイルによってホストが接続されている場合です。[\[通信\] タブ](#)を参照してください。

ホスト コンピュータのネットワーク カードの MAC アドレスが *MAC アドレス* タイプの名前として有効になるのは、通信デバイス [NetBIOS](#) または [IPX](#) を使用する通信プロファイルが有効になっている場合です。

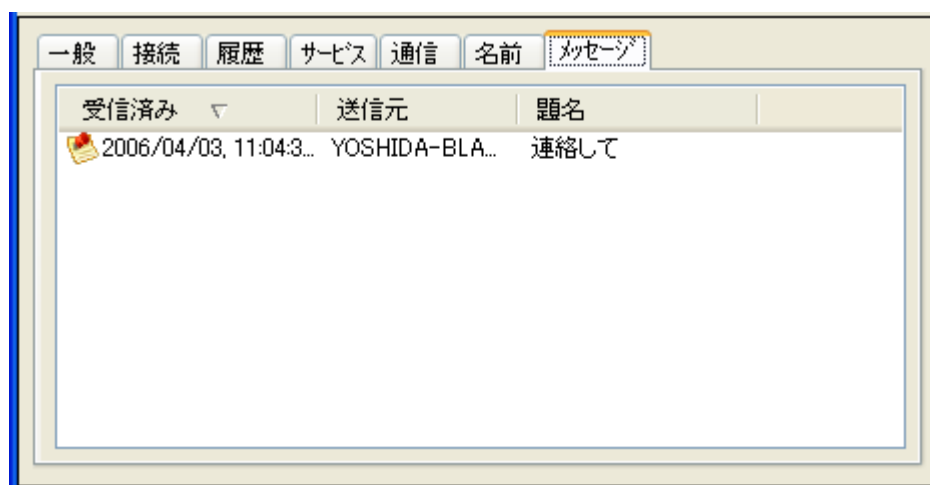
NetOp によって割り当てられるランダム MAC アドレスが *MAC アドレス* タイプの名前として有効になるのは、通信デバイス [赤外線 \(IrDA\)](#) または [ターミナル サーバー](#) を使用する通信プロファイルが有効になっており、かつ他の通信デバイスを使用する通信プロファイルによってホストが接続されている場合です。NetOp によって割り当てられるランダム MAC アドレスを使用して通信を行うことはできません。

ホスト コンピュータの Windows ユーザー名またはネットワーク ログオン ユーザー名が *LAN ユーザー* タイプの名前として有効になるのは、[\[プログラムのオプション\]](#) ウィンドウの [\[ホスト名\] タブ](#)にある [\[名前オプション\]](#) セクションで、[\[ユーザー名を有効にする\]](#) ボックスにチェックが付けられている場合です。

[\[一般\] タブ](#)の [\[ホスト ID\]](#) フィールドのホスト名は、*NetOp 名* タイプの名前として有効になります。

4.3.4.7 [メッセージ] タブ

[\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)の[タブ パネル](#)にあるこのタブには、受信した NetOp メッセージが表示されます。



このタブのペインには、受信した NetOp メッセージに関する情報が表形式で表示されます。この表には、次の内容の列があります。

- ・ **受信済み：** メッセージ アイコンと受信した日付および時刻が表示されます。
- ・ **送信元：** ゲスト名が表示されます。
- ・ **題名：** メッセージの最初の行が表示されます。

表内のコントロールについては、[テーブル コントロール](#)を参照してください。

受信した NetOp メッセージの内容は、[NetOp の設定ファイル](#)の *Messages* ディレクトリ（通常は *C:\Documents and Settings\ALL Users\Application Data\NetOp Remote Control\Host\Messages*）に、*rtf*（リッチ テキスト フォーマット）ファイルとして自動的に保存されます。このディレクトリ内の *rtf* ファイルが、[\[メッセージ\] タブ](#)のレコードとして表示されます。

4.3 [NetOp ホスト] ウィンドウ

1つのメッセージ レコードを右クリックするか、複数のレコードを選択して右クリックすると、次のコンテキスト メニューが表示されます。

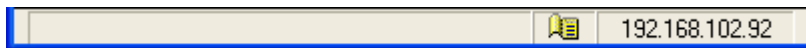
表示
削除

表示：1つのレコードを選択した後、このコマンドを選択するか、[\[ファイル\] メニュー](#)の [\[表示\]](#) > [\[メッセージ\]](#) コマンドを選択すると、選択したレコード メッセージが [\[NetOp メッセージ\]](#) ウィンドウに表示されます。

削除：1つまたは複数のレコードを選択した後、このコマンドを選択するか、[\[ファイル\] メニュー](#)の [\[削除\]](#) > [\[メッセージ\]](#) コマンドを選択すると、選択したレコードとそのファイルの削除を確認する確認ウィンドウが表示されます。

4.3.5 ステータス バー

[\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)のステータス バーを下図に示します。



TCP/IP ファミリの通信デバイスを使用する通信プロファイルが有効である場合は、ステータス バーの右端にホスト コンピュータの IP アドレスが表示されます。複数の IP アドレスが有効になっている場合は、IP アドレスの後ろに + が表示されます。有効なその他の IP アドレスを表示するには、+ をクリックします。[\[一般\] タブ](#)の [\[アドレス\]](#) フィールドと [NetOp ホスト ボタン](#)のツールヒントにも有効な IP アドレスが表示されます。

[TCP/IP](#) 通信デバイスを使用する通信プロファイルが有効であり、かつ [\[TCP/IP の詳細設定\]](#) ウィンドウで [\[NetOp ネーム サーバーの使用\]](#) を選択している場合は、電話帳アイコンがステータス バーに表示されます。電話帳アイコンの上には、次のインジケータが表示されることがあります。

何も表示されない：指定された NetOp ネーム サーバーを使用できます。

赤い X マーク：指定された NetOp ネーム サーバーは使用不可能です。

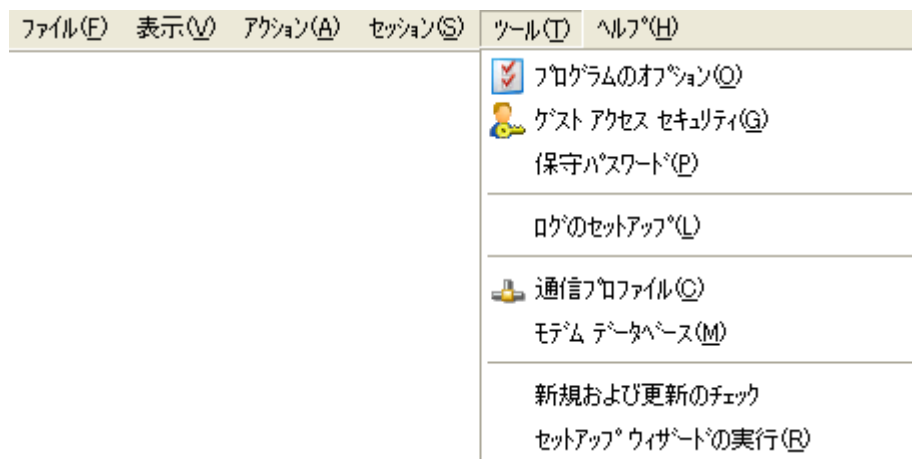
赤い感嘆符 (!)：指定した 2 つの NetOp ネーム サーバーのいずれかを使用できます。

注意：NetOp ネーム サーバーが使用できるかどうかは、[\[サービス\] タブ](#)にも示されます。

マウス ポインタをメニュー コマンドまたは[ツールバー](#) ボタンの上に置くと、ステータス バーがクリアされ、メニュー コマンドまたは[ツールバー](#) ボタンに関するヒントが表示されます。

4.4 ホスト ツール

ホスト ツールは、[\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)の [\[ツール\] メニュー](#)から選択します。



または、[ツールバー](#)の [ツール ボタン](#)から選択します。



メニューおよびツールバーのコントロールについては、[メニューとツールバーのコントロール](#)を参照してください。

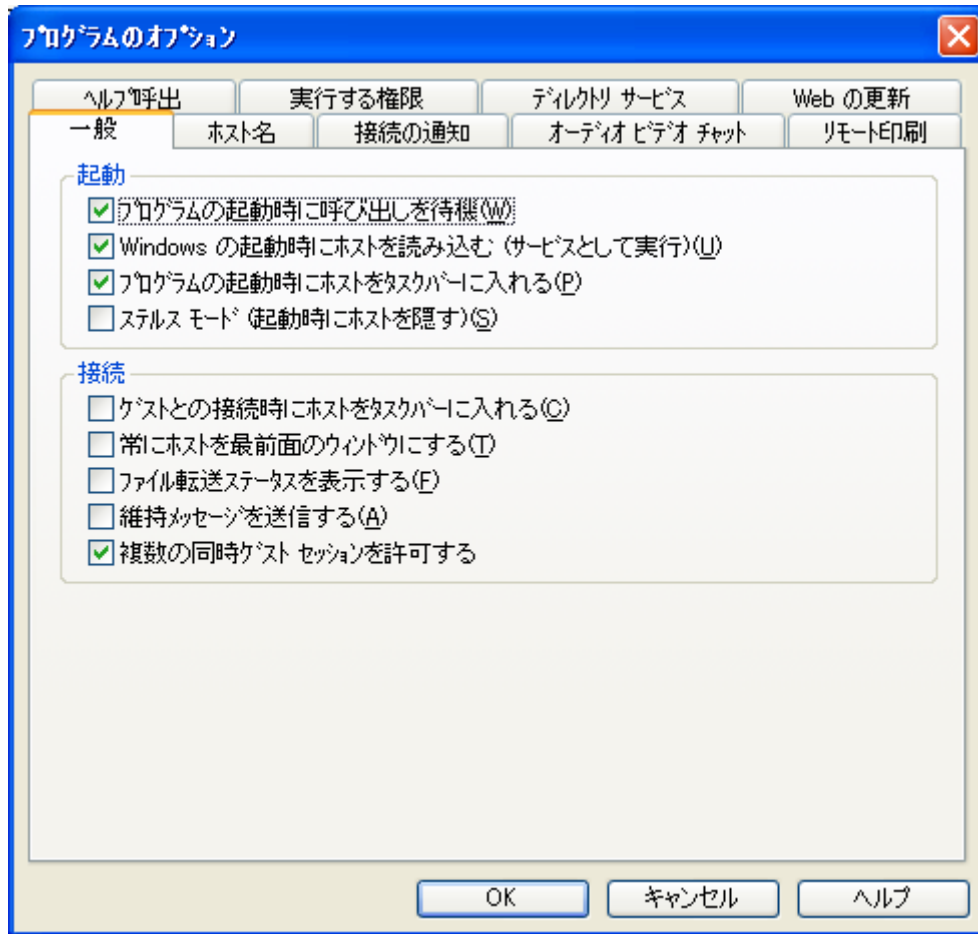
注意： 設定ファイルが保護されている場合は、[\[ツール\] メニュー](#)の設定コマンドと[ツールバー](#)の [ツール ボタン](#) が使用できなくなります ([保守パスワード](#)を参照)。ツール アクションは、[保守パスワード](#)で保護できます。

次のホスト ツールが使用可能です。

- ・ [プログラムのオプション](#)
- ・ [ゲスト アクセス セキュリティ](#)
- ・ [保守パスワード](#)
- ・ [ログのセットアップ](#)
- ・ [通信プロファイル](#)
- ・ [モデム データベース](#)
- ・ [新規および更新のチェック](#)
- ・ [デバッグのトレース](#)
- ・ [セットアップ ウィザードの実行](#)

4.4.1 プログラムのオプション

[NetOp ホスト] ウィンドウの [ツール] メニューから [プログラムオプション] コマンドを選択するか、ツールバーのツール ボタンにある [プログラムオプション] ボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



注意：設定ファイルが保護されている場合は、このコマンドとボタンが使用できなくなります（[保守パスワード](#)を参照）。

[保守パスワード](#)によって保護されている場合は、[\[保守パスワードの入力\]](#) ウィンドウに正しいパスワードを入力しないと、[\[プログラムオプション\]](#) ウィンドウにアクセスできません。

このウィンドウでは、次のタブでホストのセットアップ情報を指定します

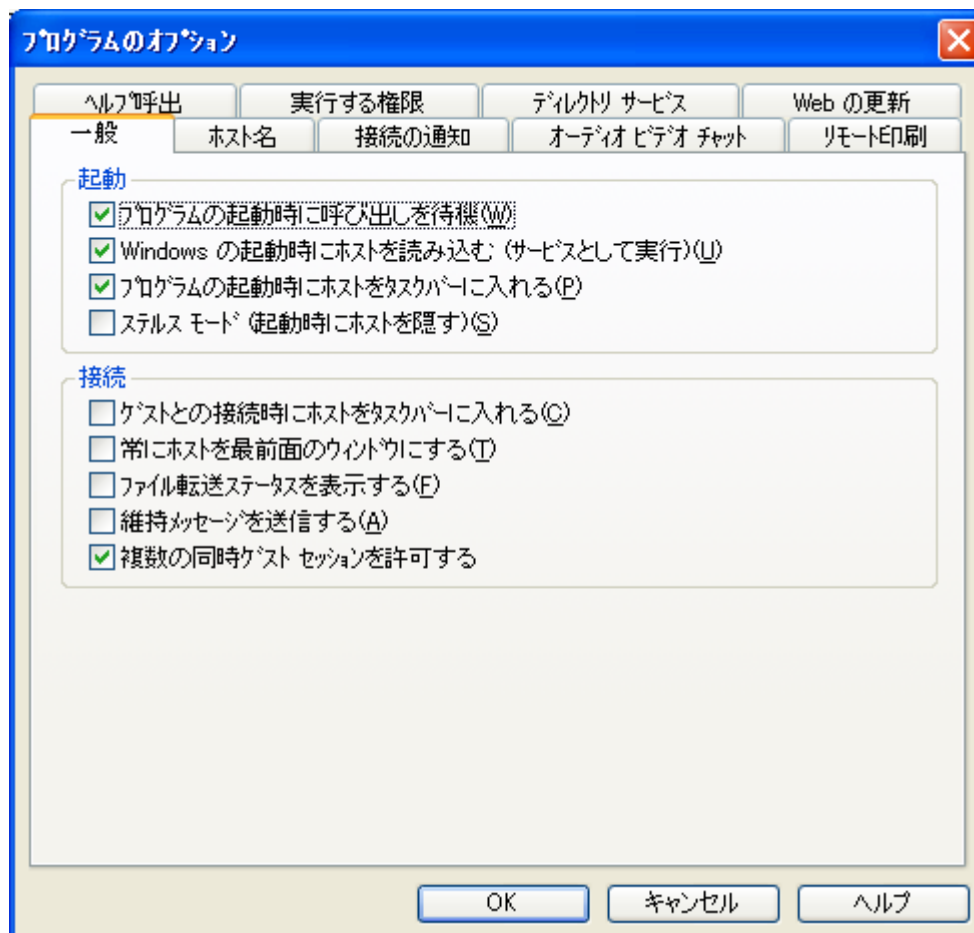
- ・ [\[一般\] タブ](#)
- ・ [\[ホスト名\] タブ](#)
- ・ [\[接続の通知\] タブ](#)
- ・ [\[オーディオ/ビデオ チャット\] タブ](#)
- ・ [\[リモート印刷\] タブ](#)
- ・ [\[ヘルプ呼出\] タブ](#)
- ・ [\[ディレクトリ サービス\] タブ](#)
- ・ [\[Web の更新\] タブ](#)

注意： [プログラムのオプション] ウィンドウでの設定内容は、ホスト設定ファイル *nhstconf.ndb* に保存されます。この設定ファイルは、[NetOp の設定ファイル](#) ディレクトリ（通常は *C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Host*）にあります。

ホストの特定のセットアップ情報については、変更を適用するためにホストの再起動が必要になります。[\[アクション\] メニュー](#) または [アクション ボタン](#) を参照してください。

4.4.1.1 [一般] タブ

ホスト ツールの [プログラムのオプション] ウィンドウの [一般] タブを下図に示します。



このタブでは、起動オプションと接続オプションを指定します。

起動

- プログラムの起動時に呼び出しを待機：** このボックスにチェックを付けたままにすると、ホストの読み込み時にホストの通信プロファイルが有効になり、ホストが起動されます（デフォルトではチェック付き）。
- Windows の起動時にホストを読み込む (サービスとして実行)：** このボックスにチェックを付けたままにすると、Windows をコンピュータ上で起動したときにホストが読み込まれます（デフォルトではチェック付き）。

注意： Windows の起動時にホストを読み込み、読み込み完了後にホストを起動するように設定しておく、ユーザーが Windows にログオンしない場合でも、ホスト コンピュータのスイッチを入れたときにホストに接続できるようになります。

- プログラムの起動時にホストをタスクバーに入れる：** このボックスにチェックを付けたままにすると、読み込み時にホストが [NetOp ホスト ボタン](#) に最小化されます（デフォルトではチェック付き）。

4.4 ホスト ツール

ステルス モード (起動時にホストを隠す) : このボックスにチェックを付けると、ホスト コンピュータのユーザーに対して非表示の状態です。ホストが読み込まれます (デフォルトではチェックなし)。ホストを非表示にした場合、ホストが読み込まれていることを示すアイコンは画面上にいつ表示されません。

注意 : 隠されたホストを表示するには、(デフォルトでは) NetOp ホストがインストールされたディレクトリ内にある *SHOWHOST.EXE* を実行します。

接続

ゲストとの接続時にホストをタスク バーに入れる : このボックスにチェックを付けると、ゲストとの接続時にホスト ウィンドウが [NetOp ホスト ボタン](#) に最小化されます (デフォルトではチェックなし)。

常にホストを最前面のウィンドウにする : このボックスにチェックを付けると、ゲストとの接続時にホスト ウィンドウが一番手前に表示されます (デフォルトではチェックなし)。

ファイル転送ステータスを表示する : このボックスにチェックを付けると、ゲストがホストと [ファイルの転送](#) セッションを開始したときに、[[ファイル転送ステータス](#)] ウィンドウが表示されます (デフォルトではチェックなし)。

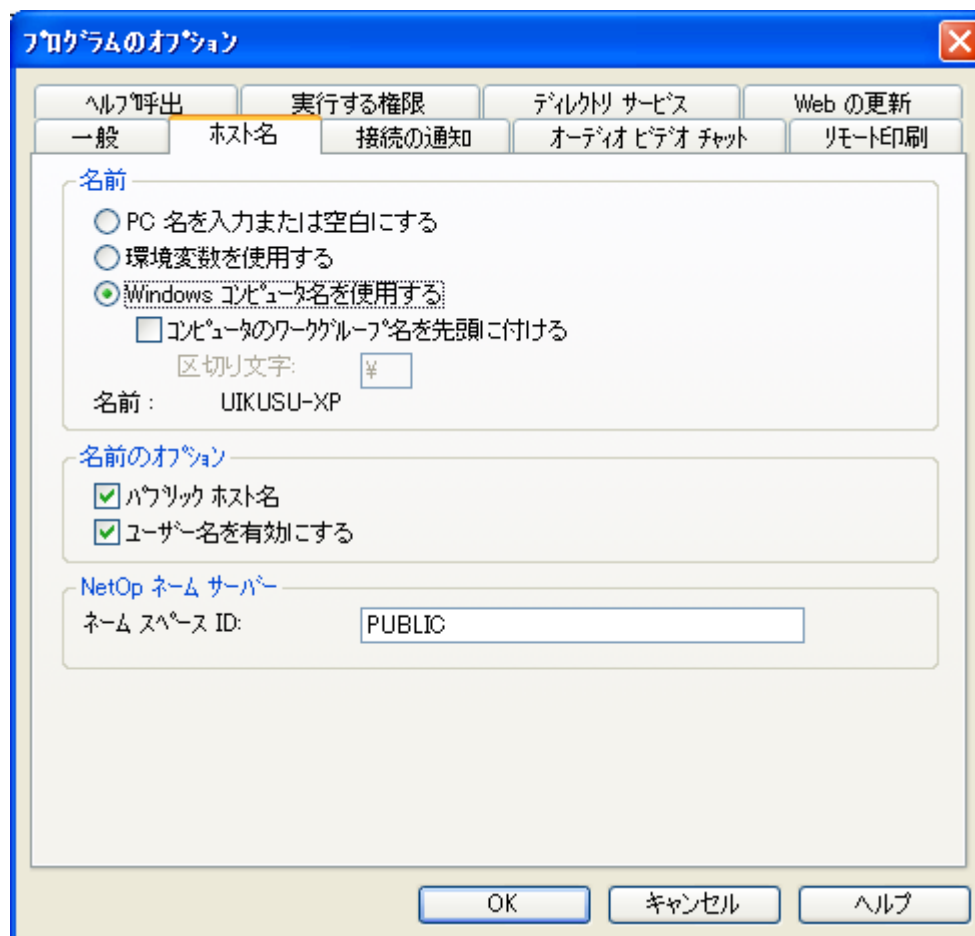
維持メッセージを送信する : このボックスにチェックを付けると、接続が切断されたときに通知されるように、ホストから適当な間隔でデータ パケットが送信されます (デフォルトではチェックなし)。

注意 : [ISDN \(CAPI\)](#) 接続において短期の非アクティブ状態のときに接続を維持するには、このボックスにチェックしないで、[[短期保留モード](#)] オプションを使用してください ([ISDN \(CAPI\) 通信プロファイルの編集](#) を参照)。

複数の同時ゲスト セッションを許可する : このボックスにチェックを付けたままにすると、複数のゲストからホストに対する同時接続が許可されます (デフォルトではチェック付き)。

4.4.1.2 [ホスト名] タブ

ホスト ツールの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウの [ホスト名] タブを下図に示します。



このタブでは、ホスト名のオプションと NetOp ネーム サーバーのネーム スペース ID を指定します。

名前付け

このセクションでは、通信時にホストが自分自身を識別する名前を指定します。

注意： ネットワーキング通信デバイス ([NetBIOS](#), [IPX](#), [TCP/IP](#), [ターミナル サーバー](#)) を使用する通信プロファイルを通じて通信を行うときには、個々のホストに一意的な名前を割り当てる必要があります。通信を行う他のホストで既に使用されている名前を割り当てられたホストは、通信を開始できません。

次のいずれかのオプションを選択します。

- [PC 名を入力または空白にする](#) : ホストのステータスが停止済みである場合に、[\[NetOp ホスト\] ウィンドウ \[一般\] タブ](#)の [ホスト ID] フィールドが入力可能になります。このフィールドにホスト名を入力するか、ブランクにしておくことができます。
- [環境変数を使用する \[\]](#) : このフィールドにはホストに名前を付けるための環境変数名を入力します。指定した環境変数の値がホスト名になります。

4.4 ホスト ツール

注意： ネットワーク コンピュータであるホストを [Windows の起動時に読み込む] ように設定している場合は、環境変数 `USERNAME` に基づく名前をそのホストに付けないでください ([\[一般\] タブ](#)を参照)。 `USERNAME` 変数を使用した場合は、ユーザーが Windows にログオンする前にホストが読み込まれるため、`%USERNAME%` という名前がホストに付けられます。ユーザーがログオンして <Windows ログオン ユーザー名> を取得しても、`%USERNAME%` というホスト名が次の再読み込み時まで維持されます。`%USERNAME%` という名前の複数のホストが存在する場合、その中の1つのホストのみが通信を開始できます。

通常、ターミナル サーバーであるホストには環境変数 `USERNAME` に基づく名前を付けます。[マニュアル](#)の章「高度なツール」の節「ターミナル サーバー環境での NetOp」「ターミナル サーバー環境での NetOp のネーミング」を参照してください。

使用可能な Windows 環境変数の一覧を表示するには、コマンド プロンプト ウィンドウで **set** と入力して ENTER キーを押します。

Windows コンピュータ名を使用する： ホストの Windows コンピュータ名をホスト名として使用します (デフォルト設定)。コンピュータの起動時にホストが読み込まれるネットワークコンピュータについては、この名前付けオプションを選択します。

コンピュータのワークグループ名を先頭に付ける： このボックスにチェックを付けたら、Windows コンピュータ名の先頭に、そのコンピュータのドメイン名またはワークグループ名が付けられ、複数のドメインおよびワークグループにわたってホスト名が一意になります (デフォルトではチェックなし)。

区切り文字： `[]`：このフィールドには、デフォルトの区切り文字 (¥) が表示されます。この区切り文字を任意の文字で置き換えることができます。

注意： 通常、ネットワーク コンピュータについては、この名前付けオプションを使用しません。

ターミナル サーバー ホストについては、この名前付けオプションを選択しないでください。複数のターミナル サーバー ホストがターミナル サーバーの Windows コンピュータ名を共有することになります。ターミナル サーバーの Windows コンピュータ名を持つ複数のホストが存在する場合、その中の1つのホストのみが通信を開始できます。

名前： [環境変数を使用する] または [Windows コンピュータ名を使用する] の選択に応じたホスト名が表示されます。[\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)の [\[一般\] タブ](#)の [ホスト ID] フィールドで指定したホスト名は、ここに表示されません。

名前のオプション

パブリック ホスト名： このボックスにチェックを付けたままにすると、ブロードキャスト (たとえばゲストがホストを検索する) への応答が可能になります (デフォルトではチェック付き)。

警告： インターネットなどの公衆ネットワークに直結されたコンピュータ上では、ハッカー行為による被害を防ぐために、このボックスのチェックを外してください。

ユーザー名を有効にする： このボックスにチェックを付けたままにすると、[\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)の [\[名前\] タブ](#)で指定されたホスト コンピュータにログオンしたユーザーの名前を使用して接続を確立することができます (デフォルトではチェック付き)。

警告： サーバー コンピュータ ホスト上では、一時的にログオンした管理者の名前で接続を確立して Windows 管理者権限を取得する行為を防止するために、このボックスのチェックを外してください ([\[別のユーザーとして実行\] タブ](#)を参照)。

NetOp ネーム サーバー

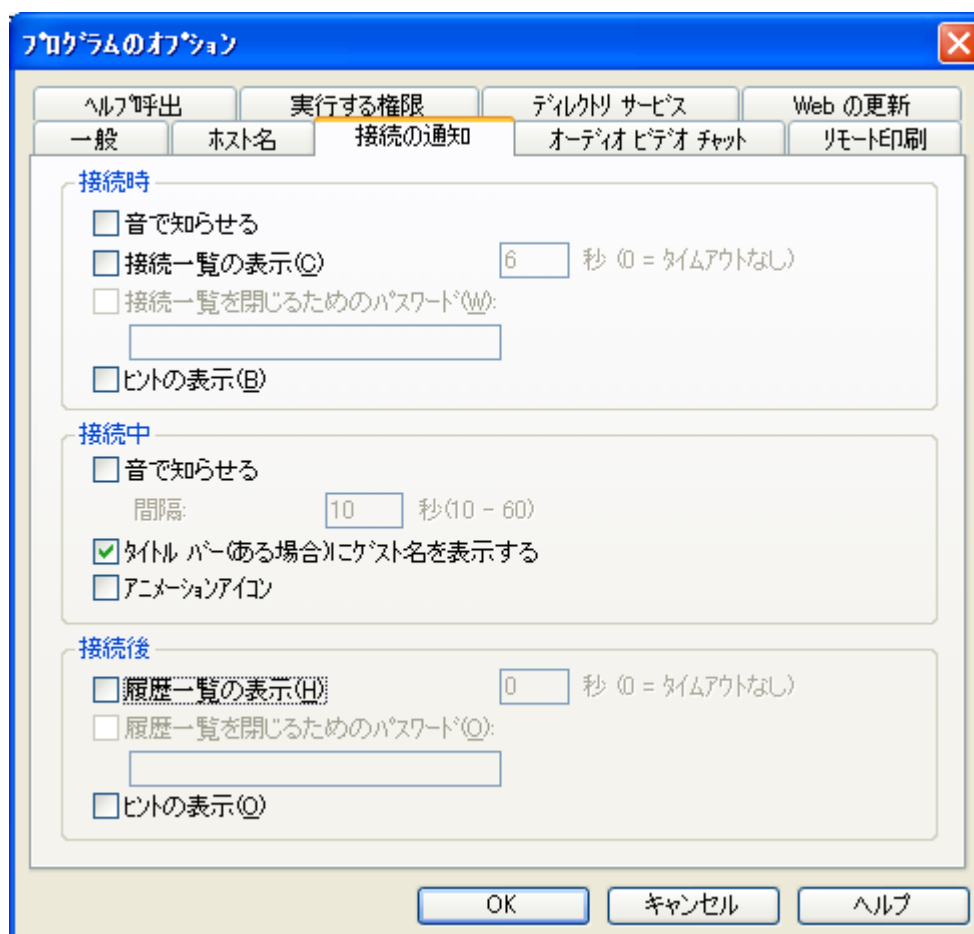
ネーム スペース ID： `[]`：デフォルトでは、このフィールドに `PUBLIC` と表示されます。NetOp ネーム サーバーを使用した接続を許可されるゲスト上で指定された ネーム スペース ID をこのフィールドに指定します。

ネーム スペース ID が適用されるのは、[TCP/IP](#) 通信プロファイルによるホスト通信を行うときに、その通信プロファイルについて、[\[TCP/IP の詳細設定\]](#) ウィンドウで [\[NetOp ネーム サーバーの使用\]](#) ボックスがチェックされているとともに、NetOp ネーム サーバーが指定されている場合に限られます。

注意：ネーミングと名前スペース IDの変更を適用するには、ホストを再起動する必要があります。[\[アクション\]メニュー](#)または[アクションボタン](#)を参照してください。

4.4.1.3 [接続の通知] タブ

ホスト ツールの [\[プログラムのオプション\]](#) ウィンドウの [\[接続の通知\]](#) タブを下図に示します。



このタブでは、接続の通知オプションを指定します。

接続時

音で知らせる：このボックスにチェックを付けると、ゲストが接続したときに通知音が再生されます（デフォルトではチェックなし）。

注意：接続時のサウンドファイル *STARTRC.WAV* は、NetOp ホストがインストールされたディレクトリの *Media* ディレクトリにあります。

接続一覧の表示 [] 秒 (0 = タイムアウトなし)：このボックスにチェックを付けると、ゲストが接続したときに、[\[接続一覧\]](#) ウィンドウが表示されます（デフォルトではチェックなし）。このウィンドウが表示される秒数を右側のフィールドに入力してください（デフォルトは 6）。0 を指定すると、ウィンドウが画面上にずっと表示されます。

接続一覧を閉じるためのパスワード：[]：このボックスにチェックを付けてフィールドにパスワードを入力すると、手動で閉じるまでは、[\[接続一覧\]](#) ウィンドウが画面上に開いたままになります（デフォルトではチェックなし）。入力した文字は、ドットまたはアスタリスクで表示されます。[\[接続一覧\]](#) ウィンドウを閉じるには、[\[パスワード\]](#) ウィンドウにパスワードを入力します。

ヒントの表示：このボックスにチェックを付けると、ゲストが接続したときに、[NetOp ホストボタン](#) からバールン ヒントが表示されます（デフォルトではチェックなし）。

4.4 ホスト ツール

接続中

音で知らせる：間隔：[] 秒 (10-60)：このボックスにチェックを付けると、ゲストの接続中に一定の間隔で音が再生されます (デフォルトではチェックなし)。音を再生する間隔を指定範囲内の秒数でフィールドに入力します (デフォルトは 10)。

注意： 接続中のサウンド ファイル *CONTHRC.WAV* は、NetOp ホストがインストールされたディレクトリの *Media* ディレクトリにあります。

タイトル バー(ある場合)にゲスト名を表示する：このボックスにチェックを付けたままにすると、接続されたゲストの名前が [\[NetOp ホスト\] ウィンドウのタイトル バー](#)、Windows タスクバーの [\[NetOp ホスト\] ボタン](#)、および [NetOp ホスト ボタン](#) のツールヒントに表示されます (デフォルトではチェック付き)。

アニメーションアイコン：このボックスをチェックすると、[NetOp ホスト ボタン](#) の 2 重線にアニメーションが付きます。チェックなし)。

接続後

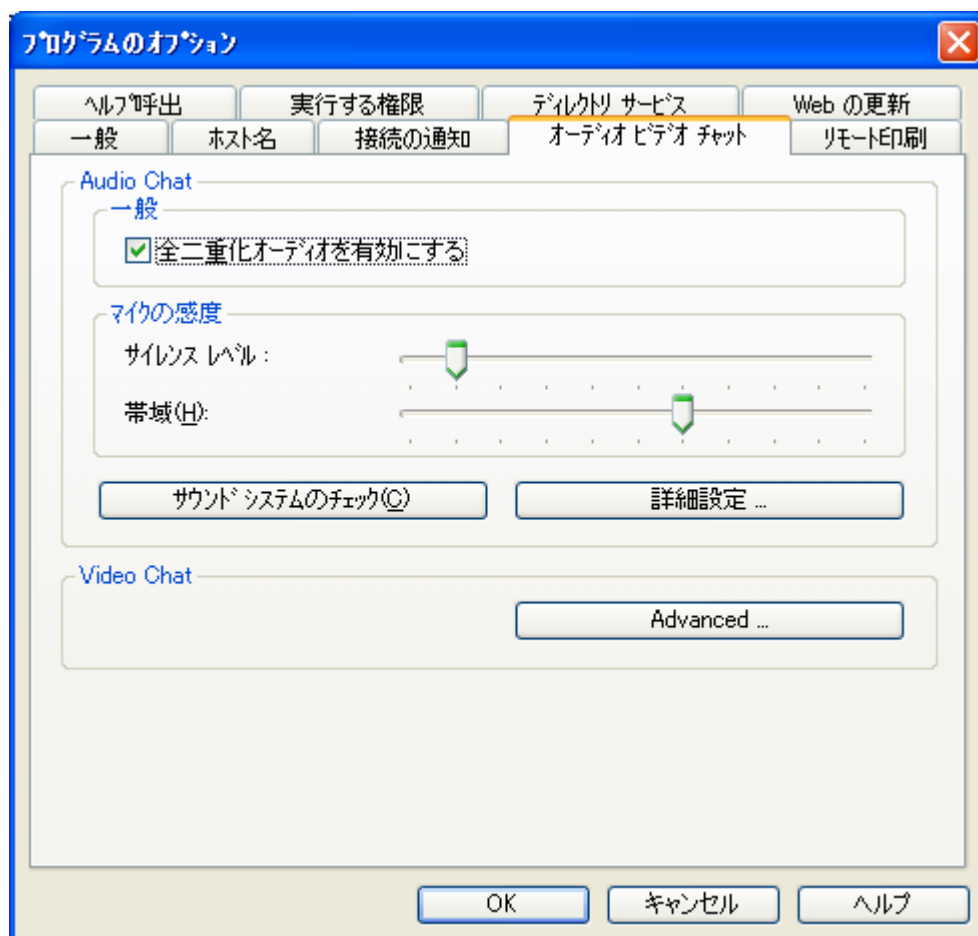
履歴一覧の表示 [] 秒 (0 = タイムアウトなし)：このボックスにチェックを付けると、ゲストが切断したときに、[\[履歴一覧\]](#) ウィンドウが表示されます (デフォルトではチェックなし)。このウィンドウが表示される秒数を右側のフィールドに入力してください (デフォルトは 0)。0 を指定すると、ウィンドウが画面上にずっと表示されます。

履歴一覧を閉じるためのパスワード：[]：このボックスにチェックを付けてフィールドにパスワードを入力すると、手動で閉じるまでは、[\[履歴一覧\]](#) ウィンドウが画面上に開いたままになります (デフォルトではチェックなし)。入力した文字は、ドットまたはアスタリスクで表示されます。[\[履歴一覧\]](#) ウィンドウを閉じるには、[\[パスワード\]](#) ウィンドウにパスワードを入力します。

ヒントの表示：このボックスにチェックを付けると、ゲストが切断したときに、[NetOp ホスト ボタン](#) からバルーン ヒントが表示されます (デフォルトではチェックなし)。

4.4.1.4 [オーディオ/ビデオ チャット] タブ

ホスト ツールの「プログラムのオプション」ウィンドウの「オーディオ/ビデオ チャット」タブを下図に示します。



このタブでは、オーディオの設定を指定します。

オーディオ チャット

一般

全二重化オーディオを有効にする：このボックスにチェックを付けたままにすると、ゲストとホスト間でオーディオ データが同時に両方向に送信されます（デフォルトではチェック付き）。

注意： コンピュータのオーディオ システムの中には、全二重オーディオをサポートしていないものがあります。

マイクの感度

サイレンス レベル： このスライダをドラッグすると、それ以下ではオーディオ データが送信されなくなるマイク サウンド入力レベルを設定できます（デフォルトでは左から 2 番目の目盛りに設定される）。

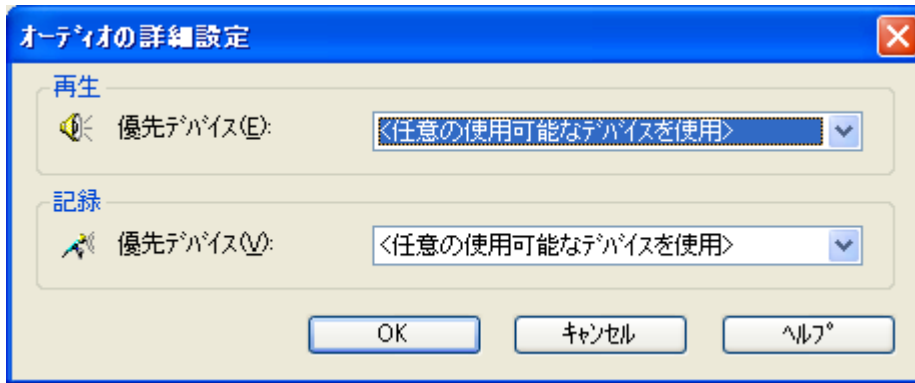
帯域： このスライダをドラッグすると、マイク サウンド入力レベルが [サイレンス レベル] を下回った後もオーディオ データを送信し続ける時間を設定できます（デフォルトでは左から 6 番目の目盛りに設定される）。

注意： オーディオ通信を最適化するには、[サイレンス レベル] と [帯域] でさまざまな設定を試みてください。

サウンド システムのチェック： このボタンをクリックすると、コンピュータ サウンドのシステムチェックを実行し、結果をメッセージ表示します。

4.4 ホスト ツール

詳細設定... : このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



再生

優先デバイス : []: このドロップダウン ボックスのフィールドには、オーディオ再生の優先デバイスが表示されます (デフォルト : <任意の使用可能なデバイスを使用>)。ドロップダウン ボックスには、Windows で検出した再生用デバイスがリストされます。リストから名前を選択すると、それがフィールドに表示されます。

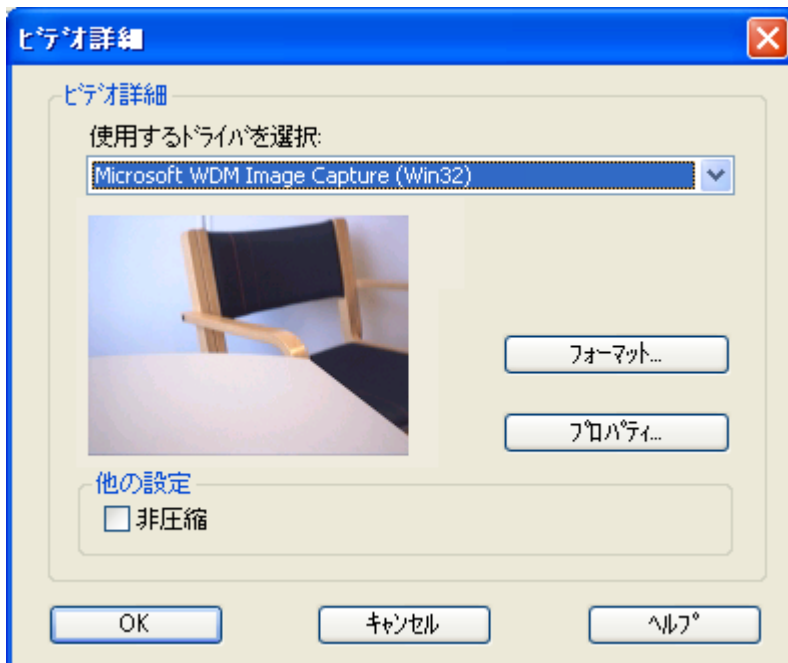
記録

優先デバイス : []: このドロップダウン ボックスのフィールドには、オーディオ記録の優先デバイスが表示されます (デフォルト : <任意の使用可能なデバイスを使用>)。ドロップダウン ボックスには、Windows で検出した記録用デバイスがリストされます。リストから名前を選択すると、それがフィールドに表示されます。

注意 : コンピュータにマルチメディア デバイスが接続されている場合、<任意の使用可能なデバイスを使用>を選択すると、コンピュータのサウンド システムの代わりに、接続されているデバイスが選択されることがあります。このような場合は、コンピュータのサウンド システムを選択してください。

ビデオ チャット

Advanced... : このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



使用するドライバを選択 : []: ビデオ カメラを取り付けた場合、このドロップダウン ボックスにそのドライバ名が入ります。このリストからドライバ名を選択すると、フィールドにその名前が表示されます。

[使用するドライバを選択] ドロップダウン ボックス フィールドに名前が表示されているドライバを使用しているカメラが有効になっている場合、イメージ フレームにはキャプチャされたイメージが表示されます。

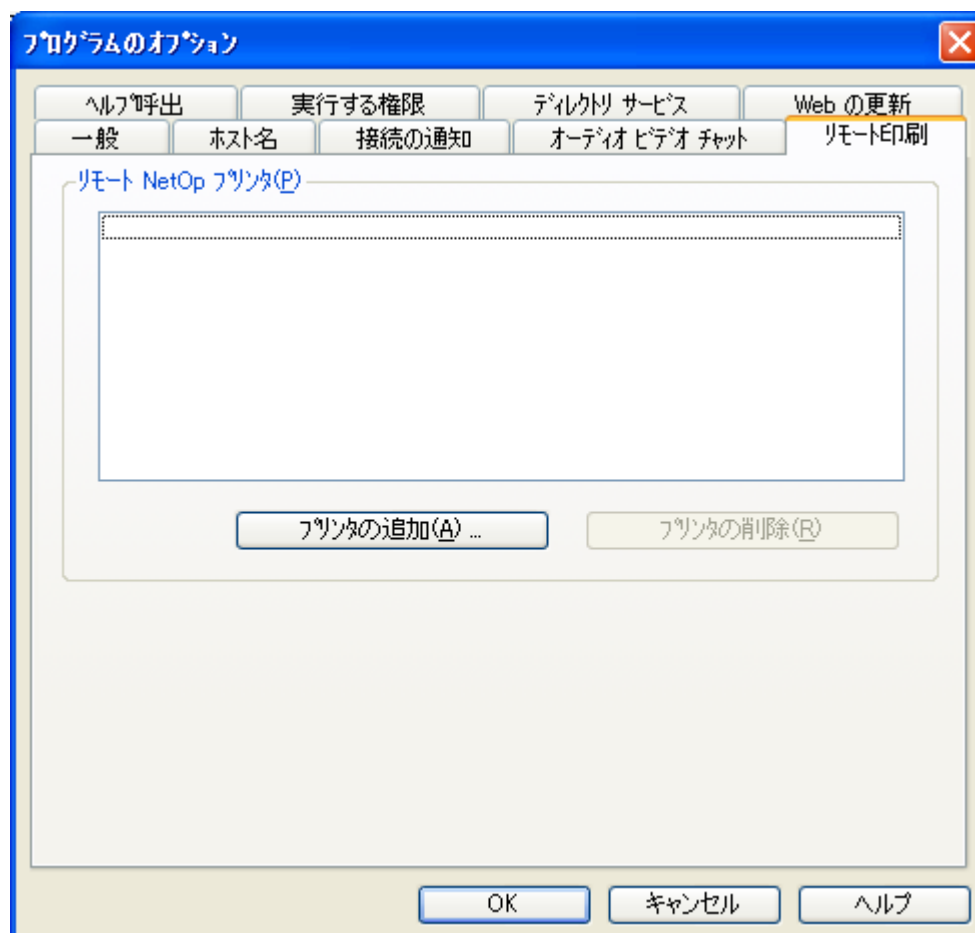
フォーマット：このボタンをクリックすると、Windows の [ビデオ フォーマット] ウィンドウが表示され、ビデオ キャプチャ イメージのフォーマットを指定できます。

プロパティ：このボタンをクリックすると、Windows の [ビデオ ソース] ウィンドウが表示され、ビデオ ソースのプロパティを指定できます。

非圧縮：このボックスにチェックマークを付けると、ビデオのデータ圧縮を無効にします (デフォルト：チェックなし)。

4.4.1.5 [リモート印刷] タブ

ホスト ツールの [プログラムのオプション] ウィンドウの [リモート印刷] タブを下図に示します。



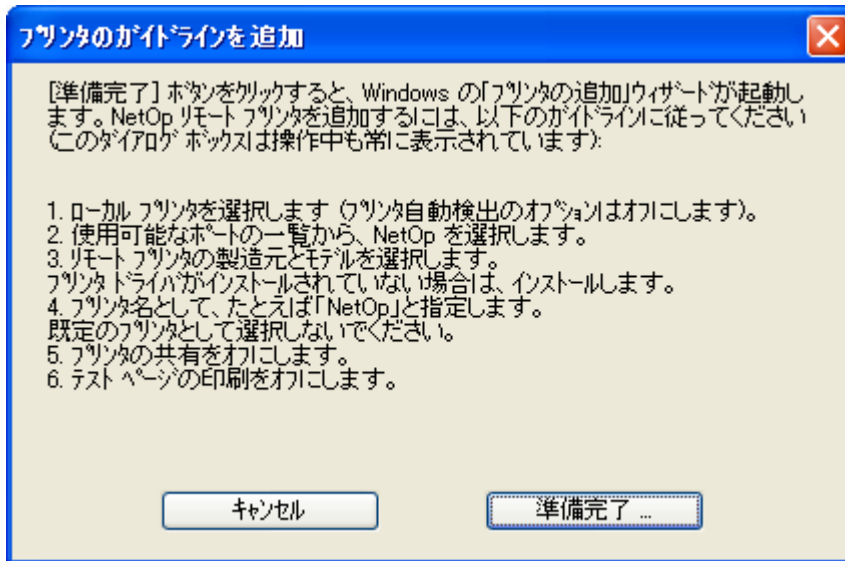
このタブでは、リモート NetOp プリンタを指定します。

4.4 ホスト ツール

リモート NetOp プリンタ

このペインには、ホスト コンピュータの Windows *Printers* フォルダ内にある NetOp プリンタの名前が表示されます（初期状態では表示なし）。

プリンタの追加... : このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



この指示をよく読んでください。これは、NetOp プリンタを追加している間、画面上に表示されます。[準備完了...] をクリックすると、NetOp プリンタの追加が開始されます。

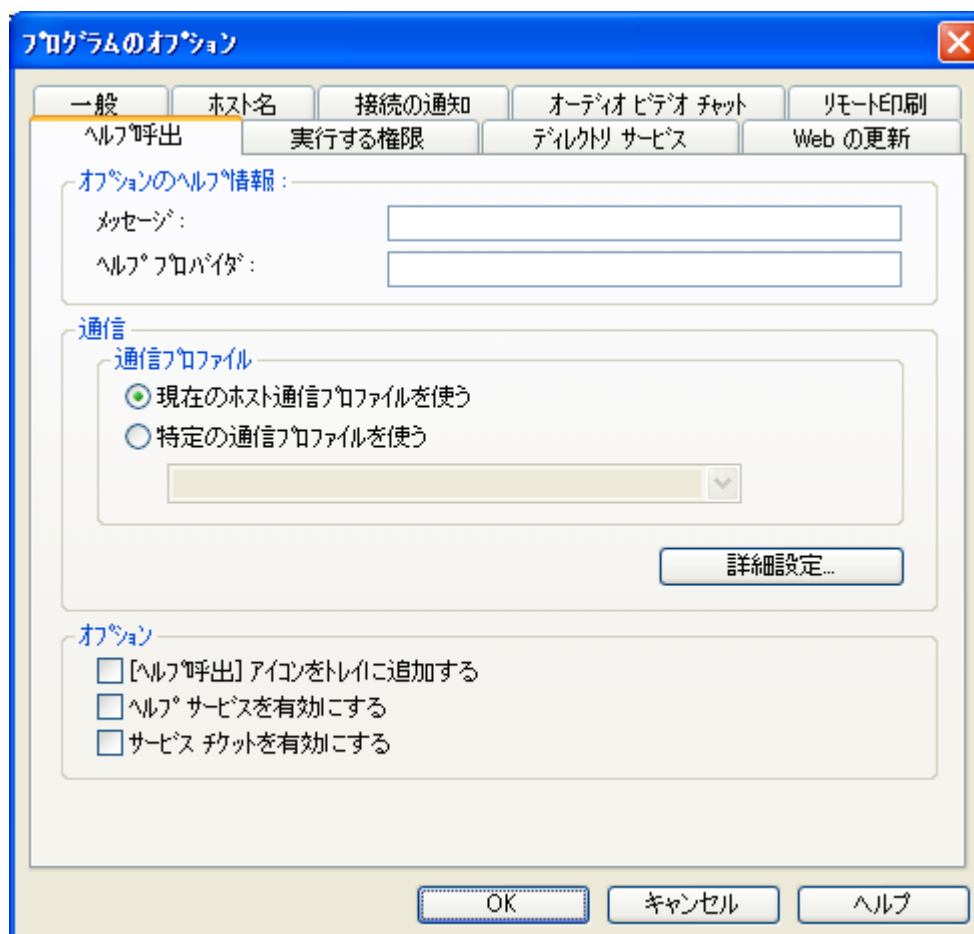
注意： 印刷ジョブを送信するコンピュータには、NetOp プリンタのドライバと指定のリモート印刷デバイス ドライバをインストールしておく必要があります。

DOS アプリケーションからリモート印刷を行う場合の特別な手順指示については、NetOp [KnowledgeBase](#) を参照してください。

プリンタの削除： ペイン内で NetOp プリンタを選択してこのボタンをクリックすると、そのプリンタが削除されます。

4.4.1.6 [ヘルプ呼出] タブ

ホスト ツールの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウの [ヘルプ呼出] タブを下図に示します。



このタブでは、ヘルプ呼出のオプションを指定します。

オプションのヘルプ情報

メッセージ: []: ヘルプ呼出を行うときに常に同じ障害説明を使用する場合は、このフィールドに説明を入力します。このフィールドに何も入力しない場合は、ヘルプ呼出を行うときに [[ヘルププロバイダ](#)] ウィンドウが表示されます。

ヘルププロバイダ: []: 常に同じヘルププロバイダからヘルプ呼出を行う場合は、このフィールドにヘルププロバイダの名前を入力します。このフィールドに何も入力しない場合は、ヘルプ呼出を行うときに [[ヘルププロバイダ](#)] ウィンドウが表示されます。

通信

通信プロファイル

次のどちらかのオプションを選択します。

現在のホスト通信プロファイルを使う: このオプションを選択すると、有効な通信プロファイルを使用してヘルプ呼出が送信されます (デフォルト設定)。複数の通信プロファイルが有効である場合は、ヘルプ呼出を行うときに [[ヘルプ呼出通信プロファイルの選択](#)] ウィンドウが表示されます。

特定の通信プロファイルを使う []: このオプションを選択すると、利用可能なホスト通信プロファイルが一覧表示されたドロップダウンボックスが入力可能になります。このドロップダウンボックスで、ヘルプ呼出に使用する通信プロファイルを選択します。

詳細設定...: このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

ヘルプ呼出の詳細オプション

通信

電話番号または IP アドレス : [] (オプション) : [赤外線 \(IrDA\)](#) 以外のポイント ツー ポイント通信デバイスを使用する通信プロファイルによってヘルプ呼出を行う場合は、電話番号または IP アドレスが必要になります。必要な電話番号または IP アドレスをフィールドに入力してください。このフィールドで電話番号または IP アドレスが指定されておらず、ヘルプ呼出時にそれらの情報が必要になる場合は、[\[ヘルプ プロバイダに接続\]](#) ウィンドウが表示されます。

ヘルプ呼出の応答タイムアウト : [] 分 (1 - 60, 0 = 無制限) : このフィールドには、指定の分数内に応答がない場合に、ヘルプ呼出を自動的にキャンセルするまでの時間 (分) を表記の範囲内で指定します (デフォルトは 0、つまりタイムアウトなし)。

ゲートウェイ ログイン

ログオンを必要とするゲートウェイを通じてヘルプ呼出を転送する場合は、[\[ログオン\]](#) ウィンドウを表示しないでログオンするために必要なログオン資格情報をこのセクションで指定できます。[ヘルプ呼出](#)を参照してください。

ログイン名 : [] : このフィールドには、必要なログオン名を指定します (デフォルトは空白)。

ログイン パスワード : [] : このフィールドには、必要なログオン パスワードを指定します (デフォルトは空白)。

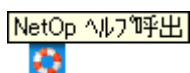
ログイン ドメイン : [] : このフィールドには、必要なログオン ドメインを指定します (デフォルトは空白)。

Windows セキュリティ認証用の現在のログイン資格情報を使用する : このボックスにチェックを付けると、ホスト コンピュータ上の Windows にログオンしたユーザーの名前、パスワード、ドメインを使用してゲートウェイにログオンします (デフォルトではチェックなし)。

オプション

[ヘルプ呼出] アイコンをトレイに追加する : このボックスにチェックを付けると、[\[NetOp ヘルプ呼出\]](#) というヒント付きのボタンが画面右下隅の通知領域に追加されます (デフォルトではチェックなし)。

[NetOp ヘルプ呼出] ボタン



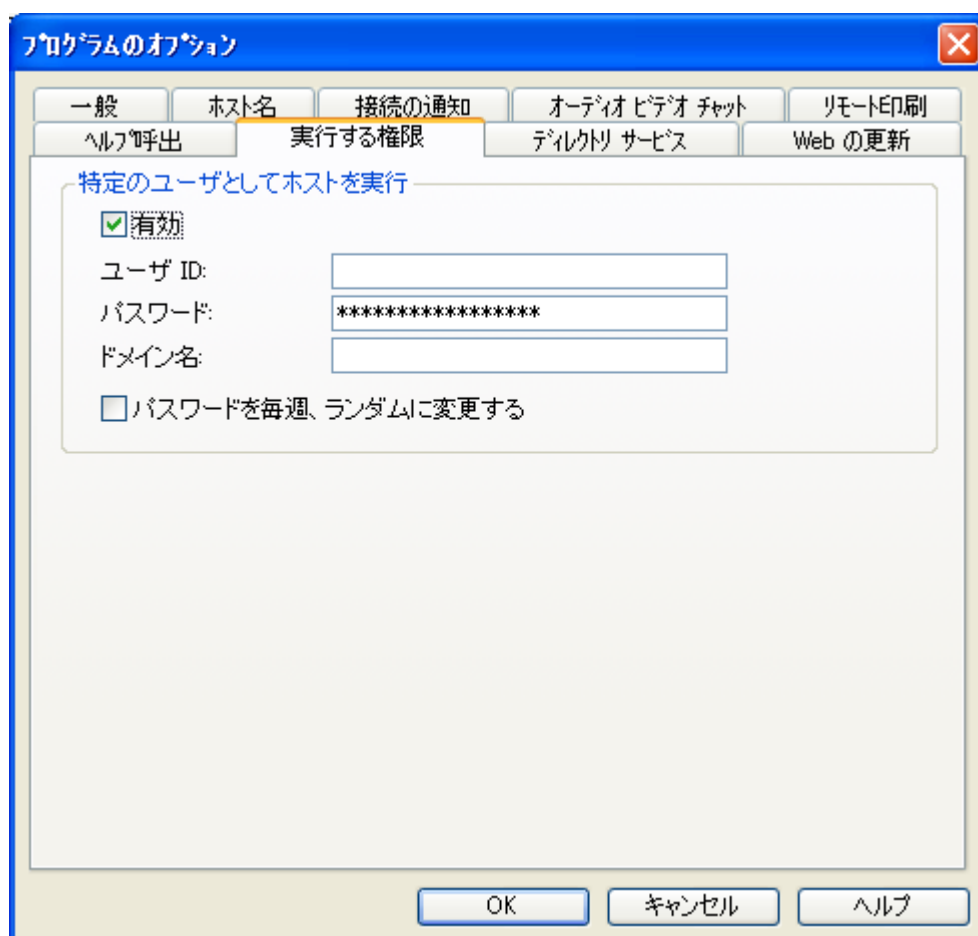
ヘルプ呼出を実行するには、このボタンをダブルクリックするか、ボタンのコンテキストメニューから「ヘルプ呼出」を選択します。

注意： このボタンを追加すると、非表示のホストのユーザーがヘルプ呼出を実行できます（[\[アクション\]メニュー](#)または[アクションボタン](#)を参照）。

- ヘルプ サービスを有効にする：**このボックスにチェックを付けたままにすると、ヘルプ サービスによるヘルプ呼出が有効になります（[ヘルプ呼出](#)を参照）。（デフォルトではチェック付き）。
- サービス チケットを有効にする：**このボックスにチェックを付けると、サービス チケットによるヘルプ呼出が有効になります（[ヘルプ呼出](#)を参照）。（デフォルトではチェックなし）。

4.4.1.7 [別のユーザーとして実行] タブ

[ホスト ツール](#)の「[プログラムのオプション](#)」ウィンドウの「[実行する権限](#)」タブを下図に示します。



このタブを使用すると、常に特定のユーザー名でホストを実行できます。

ホスト コンピュータにユーザーがログオンしていない場合、ホストは広範なホスト コンピュータ権限を持ちますが、ネットワーク コンピュータ権限は持ちません。[マニュアル](#)の節「[高度なツール](#)」および「[NetOp Remote Control のプロセスと Windows のセキュリティ](#)」を参照してください。

ホスト コンピュータにユーザーがログオンしている場合、ホストはログオンしているユーザーの権限を持ちます。

4.4 ホスト ツール

接続済みのゲストはホストの権限を取得しますが、その権限は[ゲスト アクセス セキュリティ](#)の制約によって限定されます。

特定の目的のために（通常はホスト コンピュータにユーザーがログオンしていないときに、ホストに対してネットワーク コンピュータ権限を割り当てるために）、特定のユーザー名でホストを実行することができます。

特定のユーザーとしてホストを実行

有効：このボックスにチェックを付けると、常に指定のユーザー名でホストが実行されます（デフォルトではチェックなし）。

ユーザー ID：[]：このフィールドにはユーザー ID を指定します。

パスワード：[]：このフィールドには上記のユーザーのパスワードを指定します。

ドメイン名：[]：このフィールドには上記のユーザーのドメインを指定します。

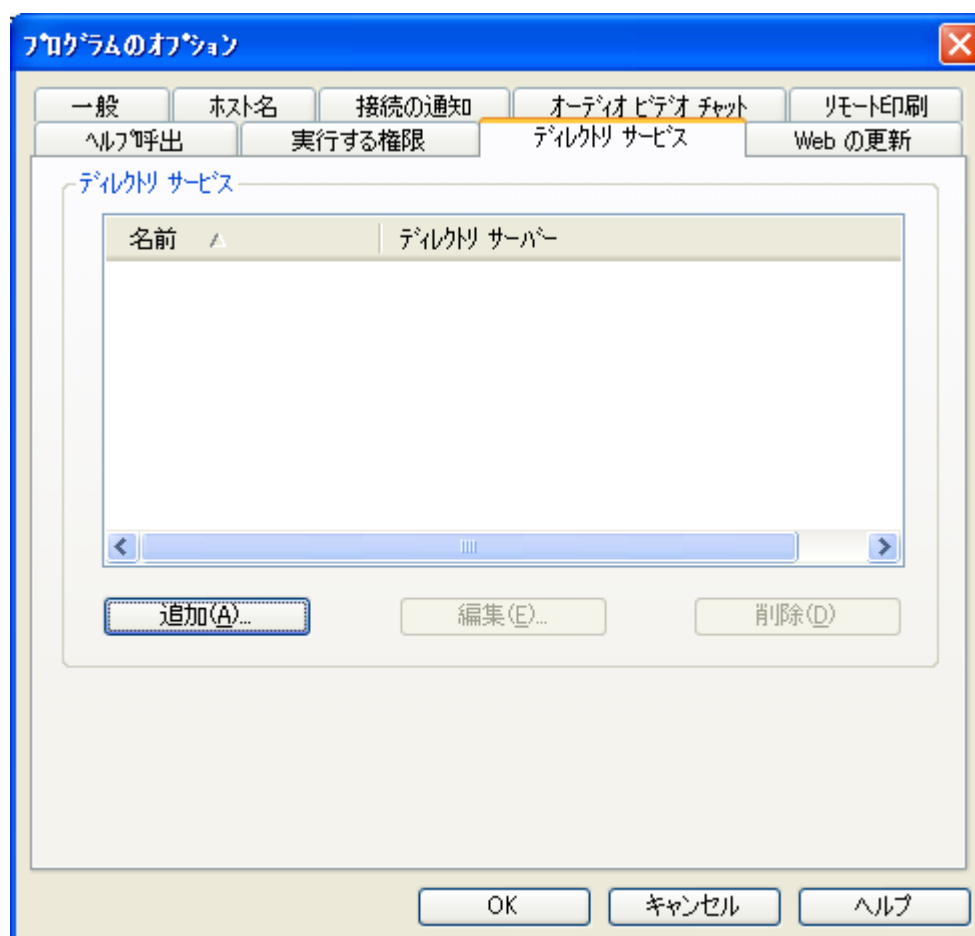
警告：常に特定のユーザー名でホストを実行するときのセキュリティ上のリスクなど、各ケースの利点と欠点を注意深く検討してください。状況によっては、この目的専用で作成した Windows ユーザーとして、ホストを実行する必要が生じる場合もあります。

パスワードを毎週、ランダムに変更する：このボックスにチェックを付けると、上記の各フィールドで指定したログオン資格のパスワードが直ちに変更されます。また、パスワード変更ポリシーを自動的に満たすために、週ごとにランダム パスワードに変更されます。

警告：上記の各フィールドで指定したログオン資格が一人のユーザーに属している場合、そのユーザーはランダム パスワードを認識できないため、このボックスにチェックを付けないでください。

4.4.1.8 [ディレクトリ サービス] タブ

ホスト ツールの [\[プログラムのオプション\]](#) ウィンドウの [\[ディレクトリ サービス\]](#) タブを下図に示します。



このタブでは、接続しようとするゲストの認証を可能にするためのディレクトリ サービスを指定します。[ディレクトリ サービスを使用して各ゲストに個別にアクセス特権を与える](#)を参照してください。

ディレクトリ サービス

このペインでは、ディレクトリ サービスが表内のレコードとして示されます。この表には、次の内容の列があります（最初は何も表示されません）。

- ・ **名前**：ディレクトリ サービス名が表示されます。
- ・ **ディレクトリ サーバー**：ディレクトリ サービスの DNS 名または IP アドレスが表示されます。

表内のコントロールについては、[テーブル コントロール](#)を参照してください。

追加...：このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

ディレクトリ サービス

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "ディレクトリ サービス" (Directory Services). It has two tabs: "一般" (General) and "証明" (Authentication). The "一般" tab is selected and contains the following fields and options:

- 名前:** Microsoft Active Directory
- ディレクトリ サーバー:** (empty text box)
- ポート:** 389
- セキュアな接続を使用
- ベース DN:** (empty text box)

The "証明" tab is also visible and contains the following fields and options:

- anonymous バインド
- Encrypted bind
- ユーザー DN:** (empty text box)
- パスワード:** (empty text box)
- パスワードの確認:** (empty text box)

At the bottom of the dialog are three buttons: "OK", "キャンセル" (Cancel), and "ヘルプ" (Help).

このウィンドウでは、ディレクトリ サービスを指定します。

一般

名前: []: このフィールドには、[\[ディレクトリ サービス\] タブ](#)上でこのディレクトリ サービスを識別する名前を指定します。

ディレクトリ サーバー: []: このフィールドには、ディレクトリ サーバーの IP アドレスまたは DNS 名を指定します。

ポート: []: このフィールドには、ホストがこのディレクトリ サーバーに接続する際に使用するポートを指定します (デフォルトでは 389、LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) ポート)。

セキュアな接続を使用: このボックスにチェックを付けると、このディレクトリ サーバーへの接続にセキュリティで保護された接続が使用されます (デフォルトではチェックなし)。LDAP の保護された接続のポート番号は 636 です。

ベース DN: []: このフィールドには、検索が開始されるディレクトリ サービスの識別名を指定します。

[証明] タブ

このタブでは、ホストがディレクトリ サーバーにログオンする際の資格を指定します。ユーザー ID は、使用可能なディレクトリ サービス情報を決定します。

anonymous 名バインド: このボックスにチェックを付けると、その下のフィールドが入力不可能になり、匿名ユーザーの権限でディレクトリ サービスが検索されるようになります (デフォルトではチェックなし)。

ユーザー DN: []: このフィールドには、このユーザーの権限でディレクトリ サービスを検索するためのディレクトリ サービス ユーザー識別名を指定します。

パスワード: []: このフィールドには、対応するパスワードを指定します。

パスワードの確認: []: このフィールドにパスワードをもう一度指定して、確認します。

〔設定〕タブ

このタブでは、接続しようとしているゲスト ユーザーのプロパティを読み取る際に適用される検索条件を指定します。初期状態では、フィールドは空白になっています。[デフォルト...] ボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

このウィンドウでは、ディレクトリ サービスの種類を指定します。

ドロップダウン ボックスのフィールドには、選択されているディレクトリ サービス タイプが表示されます (デフォルトでは *Microsoft アクティブ ディレクトリ*)。ドロップダウン ボックスのリストには、一般的に使用されるディレクトリ サービスの名前が表示されます。[[ディレクトリ サービス](#)] ウィンドウの [ディレクトリ サーバー] フィールドで指定したディレクトリ サーバーのディレクトリ サービス タイプがリスト内に表示されている場合は、そのタイプを選択してドロップダウン ボックスのフィールドにセットしてください。

OK: このボタンをクリックすると、ウィンドウが閉じ、選択したディレクトリ サービス タイプのデフォルト設定が [〔設定〕タブ](#) のフィールドにセットされます。

注意: [〔設定〕タブ](#) のフィールドが [[ディレクトリ サービスの選択](#)] ウィンドウから自動セットされた場合、通常はそれらの内容を編集する必要はありません。

ユーザー検索フィルタ: []:(オプション) ユーザー属性の検索を特定のオブジェクト クラスに限定するために、このフィールドに検索フィルタを指定することをお勧めします。

ユーザー属性: []: このフィールドには、検索対象のユーザー属性のタイプを指定します。

ユーザーブラウズフィルタ: []:(オプション) ユーザー属性の参照を特定のオブジェクト クラスに限定するために、このフィールドにユーザー参照フィルタを指定することをお勧めします。

グループ検索フィルタ: []:(オプション) グループ属性の検索を特定のオブジェクト クラスに限定するために、このフィールドに検索フィルタを指定することをお勧めします。

グループ属性: []: このフィールドには、検索対象のグループ属性のタイプを指定します。

4.4 ホスト ツール

グループ ブラウズ フィルタ : [] : (オプション) グループ属性の参照を特定のオブジェクトクラスに限定するために、このフィールドにグループ参照フィルタを指定することをお勧めします。

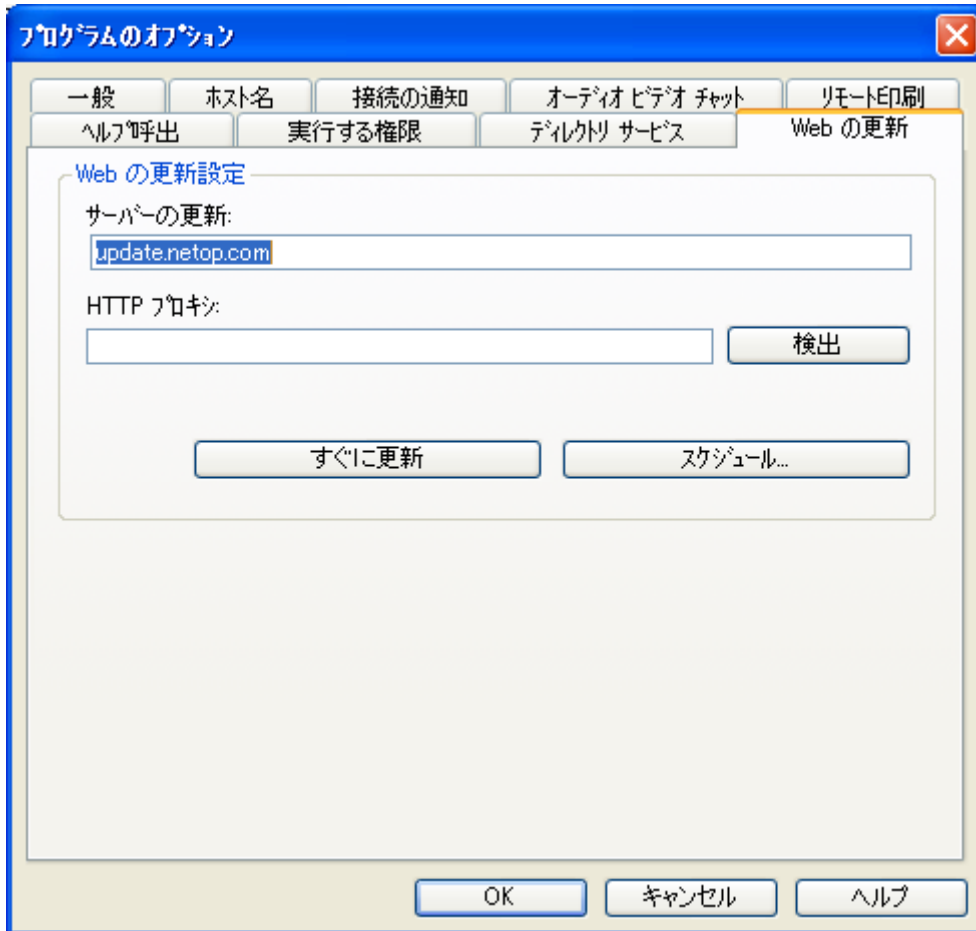
OU 検索フィルタ : [] : (オプション) 組織単位属性の検索を特定のオブジェクト クラスに限定するために、このフィールドに検索フィルタを指定することをお勧めします。

編集... : ペイン内のレコードを選択してこのボタンをクリックすると、[[ディレクトリ サービス](#)] ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、ディレクトリ サービスのプロパティを編集できます。

削除 : ペイン内でレコードを選択してこのボタンをクリックすると、レコードが削除されます。

4.4.1.9 [Web の更新] タブ

ホスト ツール の [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウの [*Web の更新*] タブを下図に示します。



このタブでは、ホストの設定をネットワークから更新するための Web アップデート オプションを指定します。

Web の更新設定

サーバーの更新 : [] : このフィールドには、NetOp ホストの更新ファイルのダウンロード元となるサーバーの Web アドレスを指定します (デフォルトでは `update.netop.com`、これは NetOp 製造元の Web 更新サーバーです)。

注意 : 組織内に数多くの NetOp がインストールされている場合は、内部 Web 更新サーバーに対して [新しい更新を公開](#) を行うことをお勧めします。

HTTP プロキシ : [] : 通常、HTTP プロキシ サーバーの指定は不要です。

HTTP プロキシを指定する前に、[すぐに更新] をクリックして Web 更新接続のテストを行います。このとき、更新サーバーへの接続が成功したことを示すメッセージが表示された場合は、HTTP プロキシ サーバーを指定しません。

[すぐに更新] によって接続が確立されない場合は [検出] をクリックします。こうすると、NetOp によって HTTP プロキシ サーバーの検出が行われ、プロキシの名前とポート番号が [HTTP プロキシ] フィールドに入力されます。[すぐに更新] をクリックして接続をテストしてください。

接続できない場合は、[HTTP プロキシ] フィールドに指定する値 (形式: <サーバー名>:<ポート番号>) についてネットワーク / システム管理者に相談してください。

すぐに更新: このボタンをクリックすると、[サーバーの更新] フィールドで指定した更新サーバーに接続します。更新サーバーへの接続に失敗した場合、更新内容がない場合、更新内容がある場合に、Web 更新メッセージが通知されます。最後の場合、更新内容をダウンロードおよびインストールするか問い合わせがあります。

スケジュール...: このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

このウィンドウでは、利用可能な更新ファイルのダウンロードやインストールなどのために、アップデートをチェックするスケジュールを指定できます。

スケジュール

次のいずれかのオプションを選択します。

- 無効化:** 自動 Web 更新を無効にします (デフォルト)。ウィンドウ内の他のセクションが無効になります。
- 自動ダウンロード、インストール前に確認:** 更新ファイルがあれば自動的にダウンロードし、ダウンロードが完了したらユーザーに確認します。
- 自動ダウンロードとインストール:** 更新ファイルがあれば自動的にダウンロードしてインストールします。
 - インストール後にシステムの再起動を許可:** このボックスをチェックすると、更新をインストールした後で必要に応じてコンピュータが自動的に再起動されます (デフォルトではチェックなし)。このボックスをオフのままにしておくと、自動再起動は行われません。更新のインストールの後で、インストールを完了するためには再起動が必要であるというメッセージが表示されます。

4.4 ホスト ツール

実行

次のいずれかのオプションを選択します。

- ◎ **読み込み時**：ゲストの読み込み時に更新をチェックします（デフォルト）。このオプションを選択した場合は、上の画像に示す [遅延] セクションが表示されます。

遅延

[] **分単位の遅延**：このフィールドには、Web 更新を遅延させる時間を分数で指定します（デフォルト：0、範囲 0 ~ 99）。

- **毎日**：日数単位で更新をチェックします。このオプションを選択すると、次のセクションが表示されます。

開始日

12:00 毎日 1 日

1 時間内でランダム化

開始時間

[] **毎日 [] 日**：最初のフィールドには、時刻を指定します（デフォルト：12:00）。2 番目のフィールドには日数の間隔を指定します（デフォルト：1、範囲 1 ~ 99）。

1 時間内でランダム化：このボックスにチェックマークを付けると、Web 更新のスケジュールが集中しないように、設定時間から 1 時間内にランダムに更新を行います（デフォルト：チェックなし）。

注意：スケジュールされた時刻にゲストが読み込まれていない場合は、その後、ゲストが読み込まれた時点で、Web の更新が実行されます。

- **毎週**：週単位で更新をチェックします。このオプションを選択すると、次のセクションが表示されます。

開始日

12:00 毎週 1 週

月曜 火曜 水曜
 木曜 金曜 土曜
 日曜

1 時間内でランダム化

開始時間

[] **毎週 [] 週**：最初のフィールドには、時刻を指定します（デフォルト：12:00）。2 番目のフィールドには週の間隔を指定します（デフォルト：1、範囲 1 ~ 99）。

<曜日>：このボックスにチェックマークを付けると、Web 更新のスケジュールを選択した曜日に実行します（デフォルト：月曜日だけがオン）。

1 時間内でランダム化：このボックスにチェックマークを付けると、Web 更新のスケジュールが集中しないように、設定時間から 1 時間内にランダムに更新を行います（デフォルト：チェックなし）。

注意：スケジュールされた時刻にゲストが読み込まれていない場合は、その後、ゲストが読み込まれた時点で、Web の更新が実行されます。

- 毎月：更新を毎月チェックします。このオプションを選択すると、次のセクションが表示されます。

開始日
 12:00 時間 1 日付 (1 - 28)
 1 時間内でランダム化

開始時間

時間 日付：最初のフィールドには、時刻を指定します（デフォルト：12:00）。2番目のフィールドには月の日を指定します（デフォルト：1、範囲 1 ~ 28）。

1 時間内でランダム化：このボックスにチェックマークを付けると、Web 更新のスケジュールが集中しないように、設定時間から 1 時間内にランダムに更新を行います（デフォルト：チェックなし）。

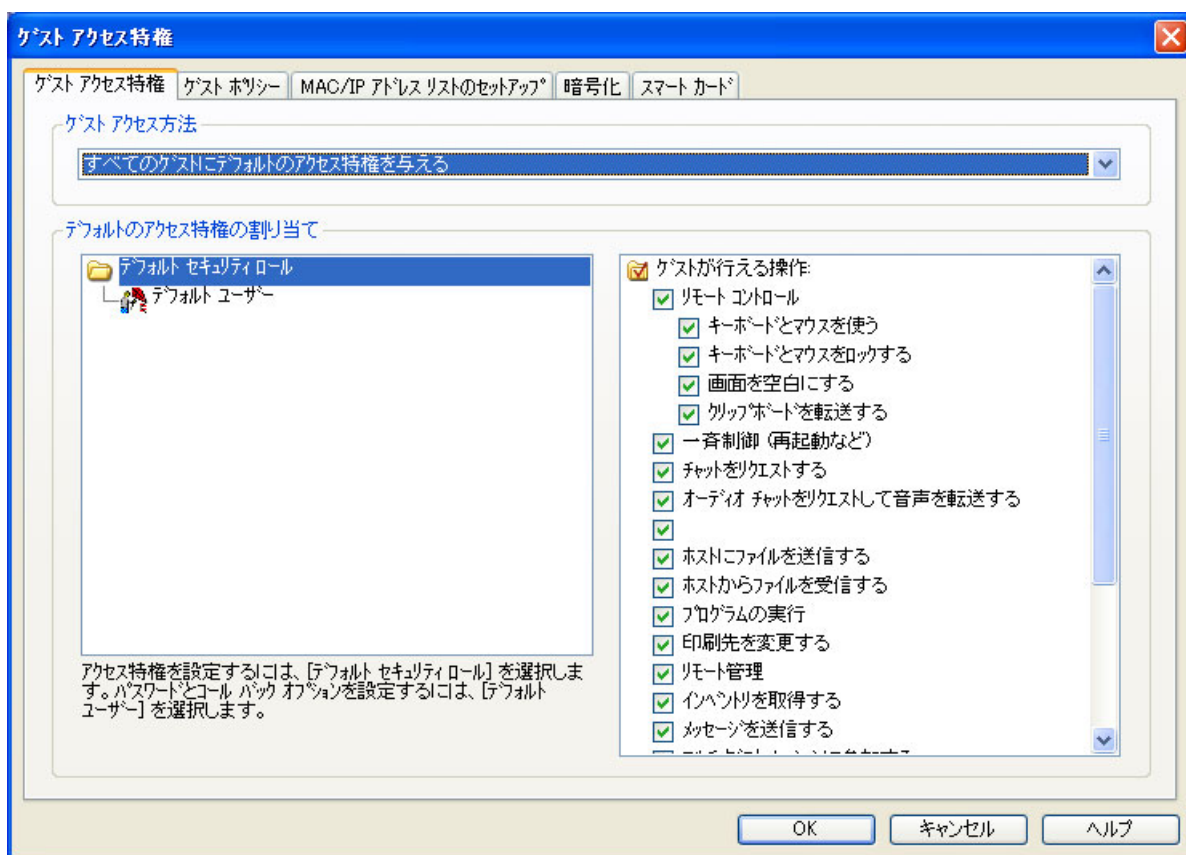
注意： スケジュールされた時刻にゲストが読み込まれていない場合は、その後、ゲストが読み込まれた時点で、Web の更新が実行されます。

スケジュール開始日

年： 月： 日： ：ドロップダウン ボックスでスケジュール開始日を選択します（デフォルト：今日）。

4.4.2 ゲスト アクセス セキュリティ

[NetOp ホスト] ウィンドウの [ツール] メニューの [ゲスト アクセス セキュリティ] コマンドを選択するか、ツールバーのツール ボタンにある該当のボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



このウィンドウでは、次のタブ上でゲスト アクセス セキュリティのオプションを指定します。

- ・ [\[ゲスト アクセス特権\] タブ](#)
- ・ [\[ゲスト ポリシー\] タブ](#)

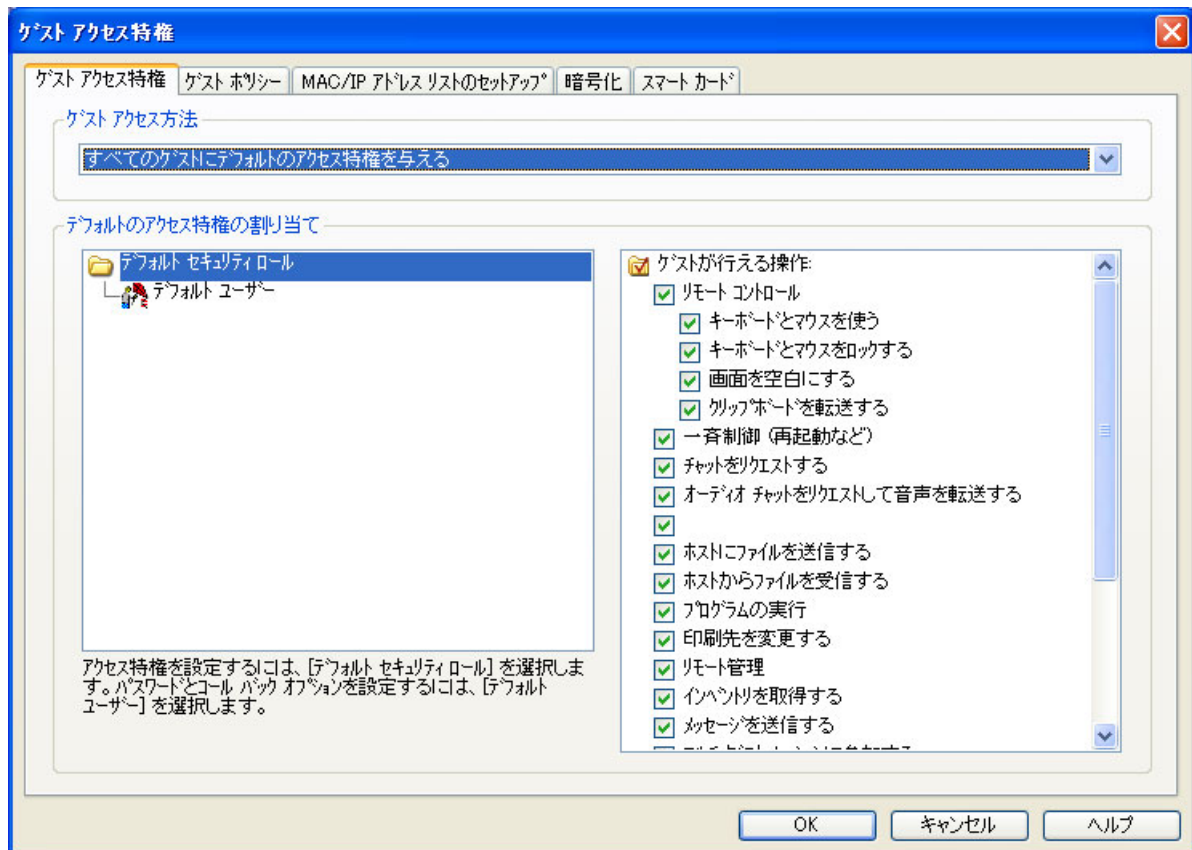
4.4 ホスト ツール

- ・ [\[MAC/IP アドレス リストのセットアップ\] タブ](#)
- ・ [\[暗号化\] タブ](#)
- ・ [\[スマート カード\] タブ](#)

注意：ゲスト アクセス セキュリティの全般的な設定内容は、[NetOp の設定ファイル](#) `nhstconf.ndb` に保存されます。通常、この設定ファイルは、`C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Host` ディレクトリにあります。

4.4.2.1 [ゲスト アクセス特権] タブ

[ホスト ツール](#)の [\[ゲスト アクセス セキュリティ\]](#) ウィンドウの [\[ゲスト アクセス特権\]](#) タブを下図に示します。



このタブでは、ゲスト アクセス方法を指定し、その詳細を設定します。

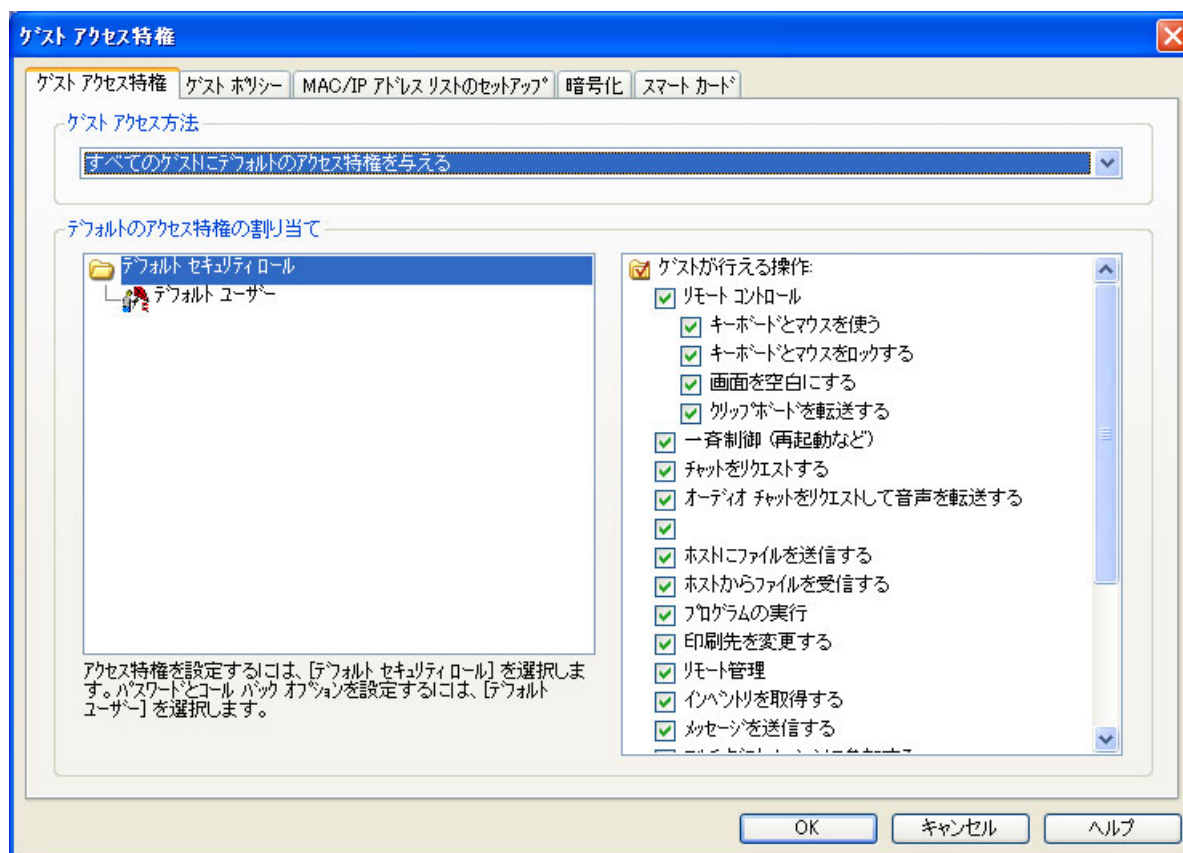
ゲスト アクセス方法 []: このドロップダウン ボックスのフィールドでは、特定のゲスト アクセス方法を指定します。ドロップダウン ボックスのリストには、次のゲスト アクセス方法が表示されます。

- ・ [すべてのゲストにデフォルトのアクセス特権を与える](#) (デフォルト設定)
- ・ [NetOp 認証を使用して各ゲストに個別にアクセス特権を与える](#)
- ・ [Windows セキュリティ管理を使用して各ゲストにそれぞれアクセス特権を与える](#)
- ・ [ディレクトリ サービスを使用して各ゲストに個別にアクセス特権を与える](#)
- ・ [NetOp セキュリティ サーバーの使用](#)

リスト内のゲスト アクセス方法を選択すると、それがフィールドに表示され、接続しようとしているゲストにそのゲスト アクセス方法が適用されます。下記のセクションでは、選択したゲスト アクセス方法の詳細を設定します。

4.4.2.1.1 すべてのゲストにデフォルトのアクセス特権を与える

ホスト ツールの [[ゲスト アクセス セキュリティ](#)] ウィンドウの [[ゲスト アクセス特権](#)] タブ [[ゲスト アクセス方法](#)] ドロップダウン ボックスから上記のアクセス方法を選択すると、次のような内容のタブが表示されます。



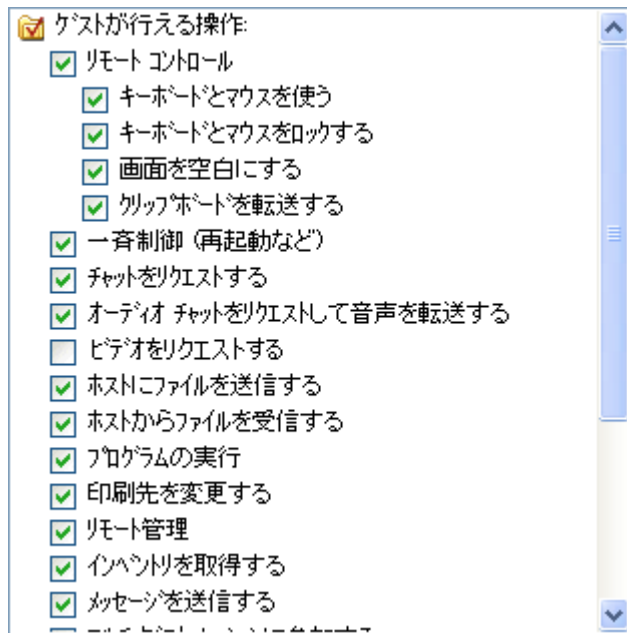
左側のペインには、[デフォルトのセキュリティ ロール](#) というフォルダ内に 1 つの共通のセキュリティ ロールが表示されます。このデフォルトのセキュリティ ロールは、[デフォルト ユーザー](#) というゲスト オブジェクト内の接続中の全ゲストに適用されます。

デフォルトのセキュリティ ロール

左側のペイン内で *Default Security Role* フォルダを選択すると、次のセキュリティ ロール ペインが右側に表示されます。

4.4 ホスト ツール

セキュリティ ロール ペイン



ヘッダー [ゲストが行える操作] の下には、複数のチェックボックスが表示されます。これらのチェックボックスでは、接続されたゲストに対してどのような特権を付与するのかを指定します。チェックマークが付いた特権は許可され、チェックマークが付いていない特権は拒否されます。特権を変更するには、ボックスにチェックマークを付けるかチェックマークを外します。

ヘッダー [アクセスの確認] の下には、ホスト コンピュータ ユーザー アクセス確認オプションが表示されます。下記のいずれかのオプションを選択します。

ゲストが行える操作:

- リモート コントロール:** [リモート コントロール](#) セッションを開始します (デフォルト: 許可される)。字下げで表記されている下記の特権が [リモート コントロール](#) セッションに適用されます。
 - キーボードとマウスを使う:** ホスト コンピュータの画面上でキーボードとマウスを操作します (デフォルト: 許可される)。
 - 画面を空白にする:** ホスト コンピュータのユーザーに対して、空白のホスト コンピュータ画面を表示します (デフォルト: 許可される)。
 - キーボードとマウスをロックする:** ホスト コンピュータのキーボードとマウスを無効にします (デフォルト: 許可される)。
 - クリップボードを転送する:** ゲスト コンピュータのクリップボードの内容をホスト コンピュータのクリップボードに転送するか、ホスト コンピュータのクリップボードの内容をゲスト コンピュータのクリップボードに転送します (デフォルト: 許可される)。
- 一斉制御(再起動など):** システム制御コマンド ([コマンドの実行](#)) や他のコマンドをホスト コンピュータ上で実行します (デフォルト: 許可される)。
- チャットをリクエストする:** [チャット](#) セッションを開始します (デフォルト: 許可される)。
- オーディオ チャットをリクエストして音声を転送する:** [オーディオ/ビデオ チャット](#) などのオーディオ セッションを開始し、ホスト アプリケーションの音声を転送します (デフォルト: 許可される)。
- ビデオをリクエストする:** [オーディオ/ビデオ チャット](#) セッション中にビデオを使用できるようにします (デフォルト: 拒否)。
- ホストにファイルを送信する:** ゲスト コンピュータからホスト コンピュータに対して [ファイルの転送](#) を行います (デフォルト: 許可される)。

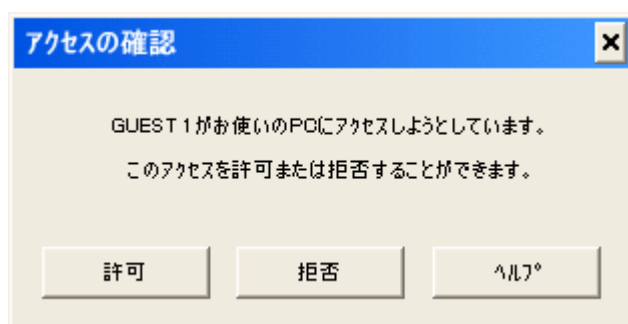
- ホストからファイルを受信する**：ホスト コンピュータからゲスト コンピュータに対して [ファイルの転送](#)を行います（デフォルト：許可される）。
- プログラムの実行**：ホスト コンピュータ上で [プログラムの実行](#)します（デフォルト：許可される）。
- 印刷先を変更する**：ホスト コンピュータとゲスト コンピュータの印刷装置間で印刷ジョブを交換します（デフォルト：許可される）。
- リモート管理**：ホスト コンピュータを [リモート管理](#)します（デフォルト：許可される）。
- インベントリを取得する**：ホスト コンピュータのハードウェアとソフトウェアの [インベントリの取得](#)を行います（デフォルト：許可される）。
- メッセージを送信する**：[NetOp メッセージ](#)をホスト コンピュータに送信します（デフォルト：許可される）。
- マルチ ゲスト セッション参加**：実行中の [リモート コントロール](#) セッションに参加します（デフォルト：許可される）。
- マルチ ゲスト セッション管理者として行動**：マルチ ゲストの [リモート コントロール](#) セッションを管理します（デフォルト：許可される）。

アクセスの確認：

次のどちらかのオプションを選択します。

- いいえ**：ホスト コンピュータのユーザーがゲスト アクセスを確認する必要はありません（デフォルト設定）。
- はい（指定の場合を除く）**：下記でチェックした条件に該当しない場合は、ホスト コンピュータのユーザーがゲスト アクセスを確認する必要があります。
 - コンピュータがロックされている**：ホスト コンピュータがロックされている場合（デフォルト：チェックなし）。
 - ユーザーがログオンしていない**：ホスト コンピュータにユーザーがログオンしていない場合。
 - ゲスト ユーザーがログオンしている**：ゲスト コンピュータのユーザーがホスト コンピュータにログオンしている場合。

ホスト ユーザーがゲスト アクセスを確認する必要がある場合は、ゲストの接続時に次のようなウィンドウがホスト コンピュータ上に表示されます。



許可：このボタンをクリックすると、ゲスト アクセスが許可されます。

拒否：このボタンをクリックすると、ゲスト アクセスが拒否されます。

注意：[アクセスの確認] ウィンドウ内のテキストは、[NETOP.INI](#) ファイルの [TEXT_CONFIRM_ACCESS] セクションで変更できます。

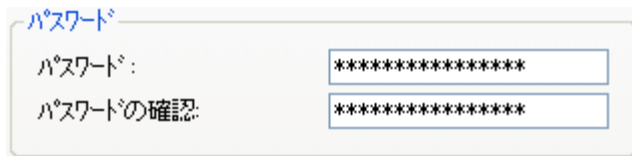
左側のペインでセキュリティ ロール フォルダを選択すると、次のセキュリティ ロール ペインが右側に表示されます。

4.4 ホスト ツール

デフォルト ユーザー

左側のペインで *Default User* ゲスト オブジェクトを選択すると、次のセクションが右側に表示されます。

【パスワード】セクション

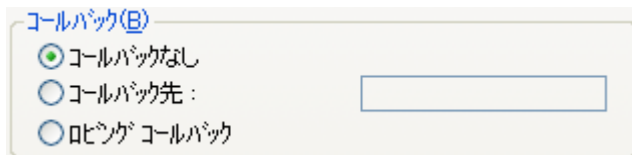


パスワード: []: このフィールドには、共有パスワード認証を可能にするため、最大 16 文字のパスワードを指定します。入力した文字は、ドットまたはアスタリスクで表示されます。

パスワードの確認: []: このフィールドにパスワードをもう一度指定して、確認します。

注意: パスワード認証を無効にして、接続側ゲストからのパスワードを不要にするには、両方のフィールドをクリアします。こうすると、ホスト側のゲスト アクセス認証が無効になり、任意のゲストがホストに接続できるようになります。警告を抑制していなければ、ホストが通信を開始するときに、[[セキュリティ警告](#)] ウィンドウが表示されます。

【コールバック】セクション



次のいずれかのオプションを選択します。

- コールバックなし: このオプションを選択すると、コールバックが適用されません (デフォルト設定)。
- コールバック先: []: このオプションを選択して右側のフィールド内に電話番号または IP アドレスを指定すると、ポイントツーポイント通信デバイス ([ISDN \(CAPI\)](#)、[シリアル](#)、[Windows モデム](#)、[TCP/IP \(TCP\)](#)、または [TCP/IP \(TCP IPv6\)](#)) を使用する通信プロファイルによってゲストが接続する場合に、ホストはその接続をいったん切断した後、指定された電話番号または IP アドレスに再接続します。

注意: 指定した電話番号または IP アドレスに対するコールバックを選択すると、その電話番号または IP アドレスを持つコンピュータ上のゲストからの接続のみが可能になります。

ゲストのアドレスを制限するその他のオプションについては、[\[MAC/IP アドレス リストのセットアップ\]](#) タブおよび許可されている [ISDN 番号](#) を参照してください。

- ロビンク コールバック: ポイントツーポイント通信デバイス ([ISDN \(CAPI\)](#)、[シリアル](#)、[Windows モデム](#)、[TCP/IP \(TCP\)](#)、または [TCP/IP \(TCP IPv6\)](#)) を使用する通信プロファイルによって接続するゲストからコールバックの電話番号または IP アドレスを要求する場合は、このオプションを選択します。この情報を受け取ったホストは、いったん接続を切断してから、指定の電話番号または IP アドレスに再接続します。

注意: ロビンク コールバックは通常、出張先からホーム コンピュータに接続する場合など、ホスト側の組織に接続費用を負担させる手段として使用されます。

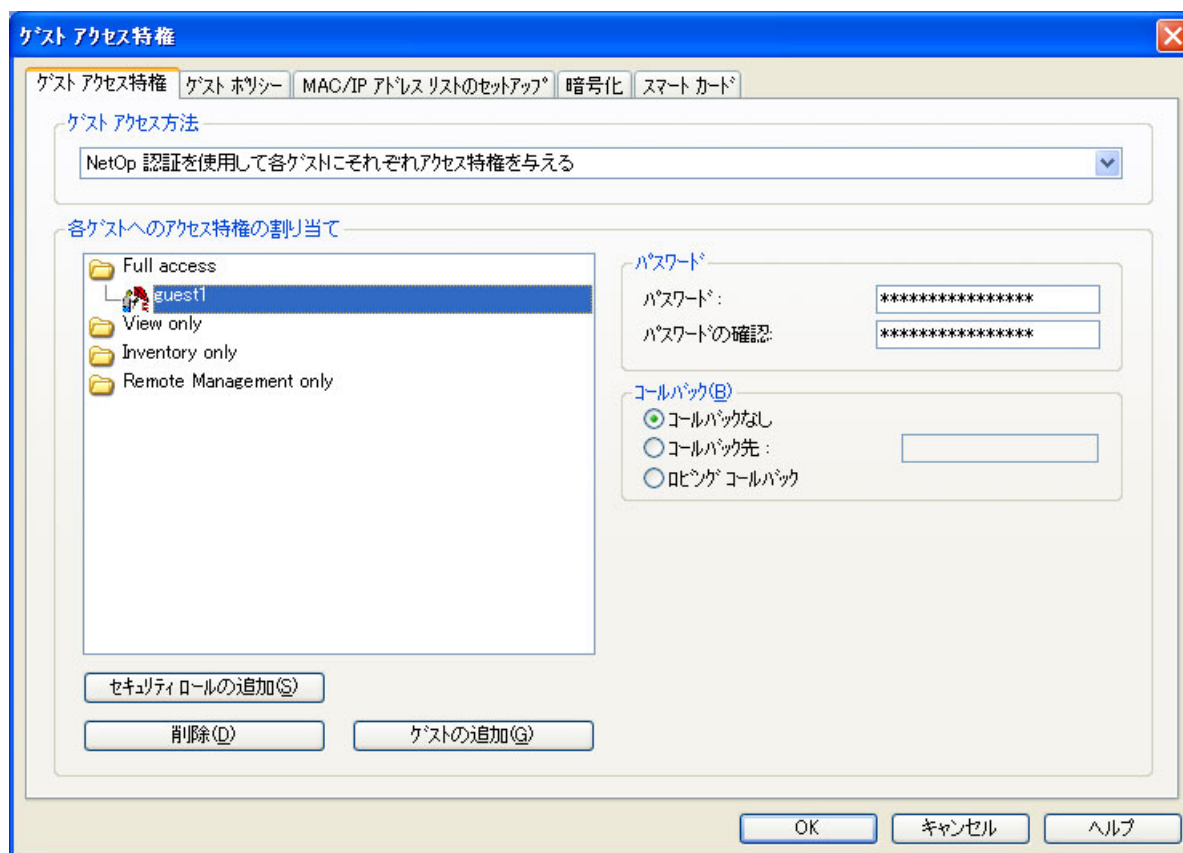
ゲストが接続すると、ホストは必要に応じてパスワードを要求します。

ゲストが[デフォルト ユーザー](#) パスワードを返すと、ホストはゲストに対して[デフォルトのセキュリティ ロール](#)特権を付与します。

他のゲスト アクセス セキュリティ オプションを適用することもできます。[\[ゲスト ポリシー\]](#) タブ、[\[MAC/IP アドレス リストのセットアップ\]](#) タブ、[\[暗号化\]](#) タブ、[\[スマート カード\]](#) タブを参照してください。

4.4.2.1.2 NetOp 認証を使用して各ゲストに個別にアクセス特権を与える

ホスト ツールの [[ゲスト アクセス セキュリティ](#)] ウィンドウの [[ゲスト アクセス特権](#)] タブ [[ゲスト アクセス方法](#)] ドロップダウン ボックスから上記のアクセス方法を選択すると、次のような内容のタブが表示されます。



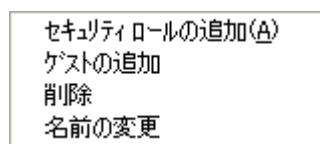
左側のペインでは、名前付きフォルダ内の個々の[セキュリティ ロール](#)を名前付き[ゲスト プロファイル](#) オブジェクト内の個々のゲストに割り当てることができます。

最初、左側のペインには[セキュリティ ロール](#) フォルダ (*Full access*、*View only*、*Inventory only*、および *Remote Management only*) が表示され、[ゲスト プロファイル](#) オブジェクトは存在しません。上記の図では、例示のために、[ゲスト プロファイル](#) オブジェクトが[セキュリティ ロール](#) フォルダに追加されています。[セキュリティ ロール](#) フォルダをダブルクリックすると、フォルダが開くか (縮小するか) 開いて (展開して)、フォルダ内の[ゲスト プロファイル](#) オブジェクトが表示されます。ドラッグ & ドロップ操作によって、[ゲスト プロファイル](#) オブジェクトを上下に移動するか、[セキュリティ ロール](#) フォルダ間で移動することができます。

[セキュリティ ロール](#) フォルダを選択すると、[セキュリティ ロール ペイン](#)が右側に表示されます。

[ゲスト プロファイル](#) オブジェクトを選択すると、[[パスワード](#)] セクションと [[コールバック](#)] セクションが右側に表示されます。

[セキュリティ ロール](#) フォルダを右クリックすると、次のコンテキスト メニューが表示されます。

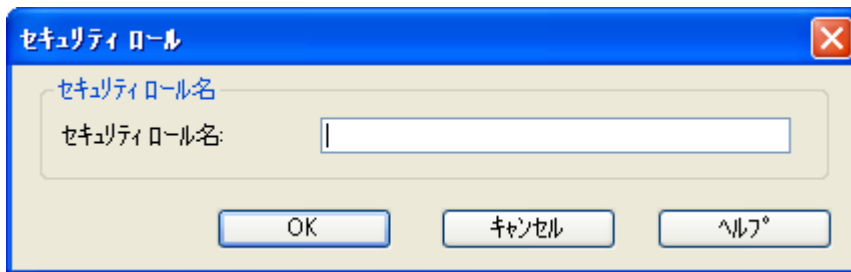


注意: [セキュリティ ロール](#) フォルダが選択されていない場合は、このメニューに [[セキュリティ ロールの追加](#)] が表示されません。

4.4 ホスト ツール

セキュリティ ロールの追加： このコマンドを選択するか、ペインの下に対応するボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

セキュリティ ロール

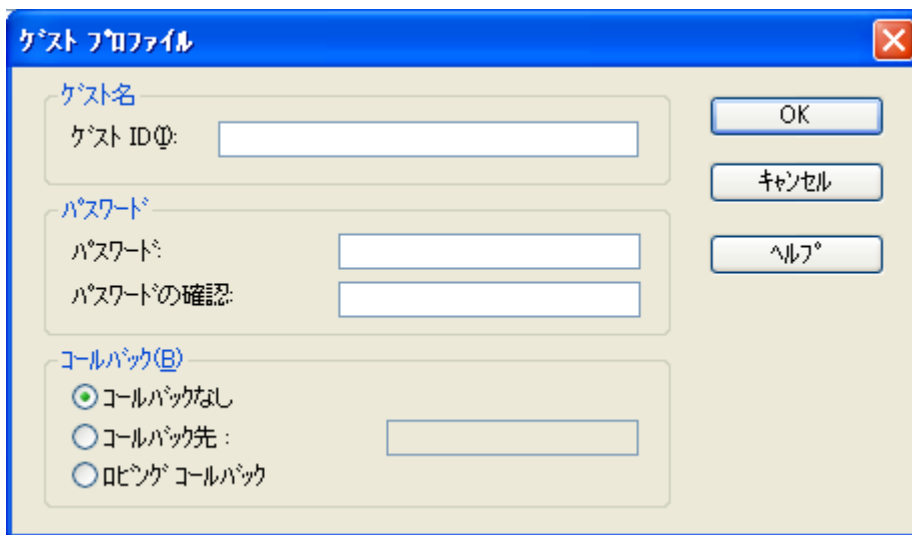


このウィンドウでは、セキュリティ ロールを指定します。

セキュリティ ロール名： `[]`： このフィールドには、セキュリティ ロールの名前を指定します。

ゲストの追加： [セキュリティ ロール](#) フォルダ、またはそのフォルダに含まれるゲスト プロファイル プロジェクトを選択して、このコマンドを選択するか、ペイン下に対応するボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

ゲスト プロファイル



このウィンドウでは、選択した[セキュリティ ロール](#) フォルダ内のゲスト プロファイルを指定します。

ゲスト ID： `[]`： このフィールドには、このゲスト プロファイルを使用しているゲストが、ホストに対して自身を識別する名前を指定します。

パスワード： [\[パスワード\] セクション](#)を参照してください。

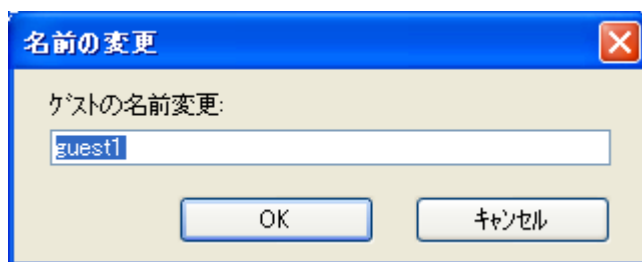
コールバック： [\[コールバック\] セクション](#)を参照してください。

削除： [セキュリティ ロール](#) フォルダまたは[ゲスト プロファイル](#) オブジェクトを選択して、このコマンドを選択するか、ペイン下に対応するボタンをクリックすると、選択した[セキュリティ ロール](#) フォルダまたは[ゲスト プロファイル](#) オブジェクトの削除を確認するための確認ウィンドウが表示されます。

警告： [セキュリティ ロール](#) フォルダを削除すると、そのフォルダに含まれるすべての[ゲスト プロファイル](#) オブジェクトが削除されます。

名前の変更： [セキュリティ ロール](#) フォルダまたは[ゲスト プロファイル](#) オブジェクトを選択して、このコマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。

名前の変更



セキュリティ ロール/ゲストの名前変更: []: このフィールドでは、変更する名前を編集します。

注意: 個別の NetOp アクセス特権の内容は、[NetOp の設定ファイル](#) *security.ndb* に保存されません。通常、この設定ファイルは、*C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Host* ディレクトリにあります。

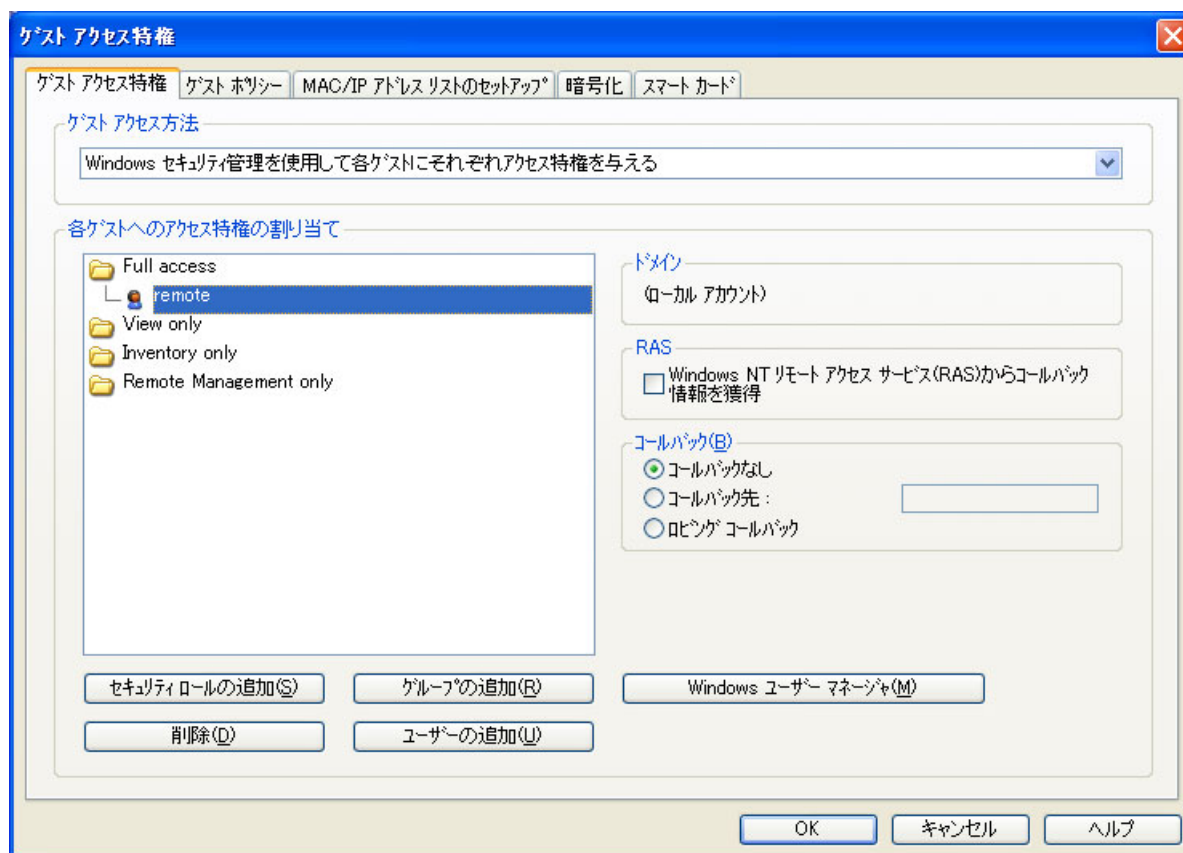
ゲストが接続すると、ホストは [ゲスト ID](#) とパスワードからなる NetOp 資格を要求します。

ホスト上に存在する [ゲスト プロファイル](#) に一致する NetOp 資格をゲストが返すと、ホストは [ゲスト プロファイル](#) に割り当てられた [セキュリティ ロール](#) の特権を付与します。

他のゲスト アクセス セキュリティ オプションを適用することもできます。[\[ゲスト ポリシー\]](#) タブ、[\[MAC/IP アドレス リストのセットアップ\]](#) タブ、[\[暗号化\]](#) タブ、[\[スマート カード\]](#) タブを参照してください。

4.4.2.1.3 Windows セキュリティ管理を使用して各ゲストにそれぞれアクセス特権を与える

ホスト ツールの [\[ゲスト アクセス セキュリティ\]](#) ウィンドウの [\[ゲスト アクセス特権\]](#) タブ [\[ゲスト アクセス方法\]](#) ドロップダウン ボックスから上記のアクセス方法を選択すると、次のような内容のタブが表示されます。



4.4 ホスト ツール

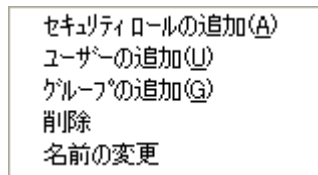
左側のペインでは、名前付きフォルダ内の個々のセキュリティ ロールを名前付き Windows アカウント オブジェクト内の個々の Windows ユーザー / グループに割り当てることができます。

最初、左側のペインにはセキュリティ ロール フォルダ (*Full access*, *View only*, *Inventory only*, および *Remote Management only*) が表示され、Windows アカウント オブジェクトは存在しません。上記の図では、例示のために、Windows ユーザー オブジェクトがセキュリティ ロール フォルダに追加されています。セキュリティ ロール フォルダをダブルクリックすると、フォルダが閉じるか (縮小するか) 開いて (展開して)、フォルダ内の Windows アカウント オブジェクトが表示されます。ドラッグ & ドロップ操作によって、Windows アカウント オブジェクトを上下に移動するか、セキュリティ ロール フォルダ間で移動することができます。

セキュリティ ロール フォルダを選択すると、セキュリティ ロール ペインが右側に表示されます。

Windows アカウント オブジェクトを選択すると、[\[ドメイン\] セクション](#)、[\[RAS\] セクション](#)、および [\[コールバック\] セクション](#) が右側に表示されます。

セキュリティ ロール フォルダを右クリックすると、次のコンテキスト メニューが表示されます。

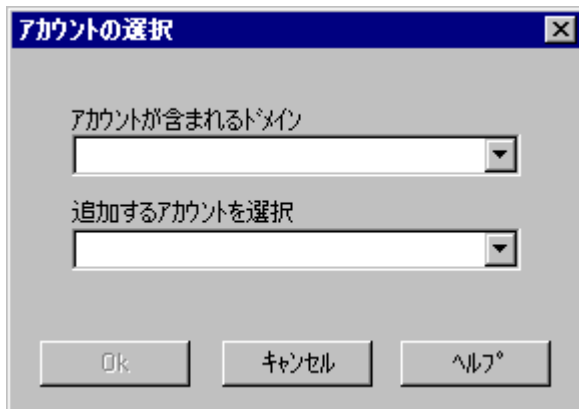


注意: セキュリティ ロール フォルダが選択されていない場合は、このメニューに [\[セキュリティ ロールの追加\]](#) と [\[名前の変更\]](#) が表示されません。

セキュリティ ロールの追加: このコマンドを選択するか、ペインの下の対応するボタンをクリックすると、セキュリティ ロール ウィンドウが表示されます。

ユーザーの追加: セキュリティ ロール フォルダ、または同フォルダ内の Windows アカウント オブジェクトを選択して、このコマンドを選択するか、ペイン下の対応するボタンをクリックすると、Windows の [\[ユーザーの選択\]](#) ウィンドウが表示されます (Windows 2000 以上のコンピュータの場合)。このウィンドウでは、Windows ユーザーを 1 人以上選択して、それらのユーザーを指定のセキュリティ ロール フォルダに追加できます。

Windows NT または Windows 9x コンピュータの場合は、次のウィンドウが表示されます。



アカウントが含まれるドメイン: []: このドロップダウン ボックスのリストには、コンピュータで認識されるドメインが表示されます。ドメインを選択すると、ドロップダウン ボックスのフィールドにそのドメインが表示されます。

追加するアカウントを選択: []: このドロップダウン ボックスのリストには、上のドロップダウン ボックスのフィールドで選択されているドメイン内のユーザーの名前が表示されません。名前を選択すると、ドロップダウン ボックスのフィールドにその名前が表示されます。

[OK] をクリックすると、選択した Windows ユーザー オブジェクトが追加されます。

グループの追加: [セキュリティ ロール](#) フォルダ、または同フォルダ内の Windows アカウント オブジェクトを選択して、このコマンドを選択するか、ペイン下の対応するボタンをクリックすると、Windows の [グループの選択] ウィンドウが表示されます (Windows 2000 以上のコンピュータの場合)。このウィンドウでは、1 つ以上の Windows グループを選択して、それらのグループを指定のセキュリティ ロール フォルダに追加できます。

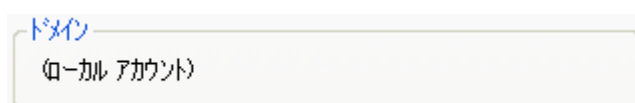
Windows NT または Windows 9x コンピュータの場合は、上記で説明した [アカウントの選択] ウィンドウが表示されます。このウィンドウにはユーザーの代わりにグループが表示され、グループを追加できます。

削除: [セキュリティ ロール](#) フォルダまたは Windows アカウント オブジェクトを選択して、このコマンドを選択するか、ペイン下の対応するボタンをクリックすると、選択した[セキュリティ ロール](#) フォルダまたは Windows アカウント オブジェクトの削除を確認するための確認ウィンドウが表示されます。

警告: セキュリティ ロール フォルダを削除すると、そのフォルダに含まれる Windows アカウント オブジェクトがすべて削除されます。

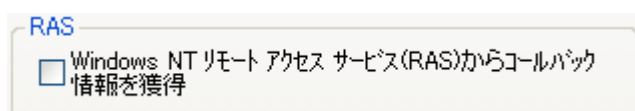
名前の変更: セキュリティ ロール フォルダを選択した後、このコマンドを選択すると、[名前の変更](#)ウィンドウが表示されます。

[ドメイン] セクション



このセクションには、選択した Windows アカウント オブジェクトのドメインが表示されます。

[RAS] セクション



このセクションは、Windows Server 2003、XP、2000 または NT オペレーティング システム上でホスト コンピュータを実行している場合のみ表示されます。

[] *Windows NT リモート アクセス サービス (RAS) からコールバック情報を獲得:* このボックスにチェックを付けると、Windows NT リモート アクセス サービス (RAS) に格納されているコールバック情報が使用されます (デフォルトではチェックなし)。

コールバック: このセクションは、上記の [RAS] セクションのチェックが外されている場合のみ表示されます。[[コールバック](#)] セクションを参照してください。

Windows ユーザー マネージャ: このボタンは、Windows Server 2003、XP、2000 または NT オペレーティング システム上でホスト コンピュータを実行している場合のみ表示されます。このボタンをクリックすると、ユーザーとグループを管理するために、ホスト コンピュータ上の Windows にログオンしているユーザーの管理者権限に従って Windows の [ユーザー マネージャ] ウィンドウが表示されます。

注意: 個別の Windows アクセス特権の内容は、[NetOp の設定ファイル](#) *secur_NT.ndb* に保存されます。通常、この設定ファイルは、*C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Host* ディレクトリにあります。

ゲストが接続すると、ホストはユーザー名、パスワード、およびドメインからなる Windows 資格を要求します。

ホストは、ゲストから返された Windows 資格のチェックとグループ メンバー情報の提供を Windows Security Management に要求します。ホスト上に存在する Windows アカウント オブジェクトとゲスト ユーザーが一致するか、そのゲスト ユーザーがメンバーであるグループがホスト上の Windows アカウント オブジェクトと一致すると、ホストは Windows アカウント オブジェクトに割り当てられた[セキュリティ ロール](#)の特権をゲストに許可します。

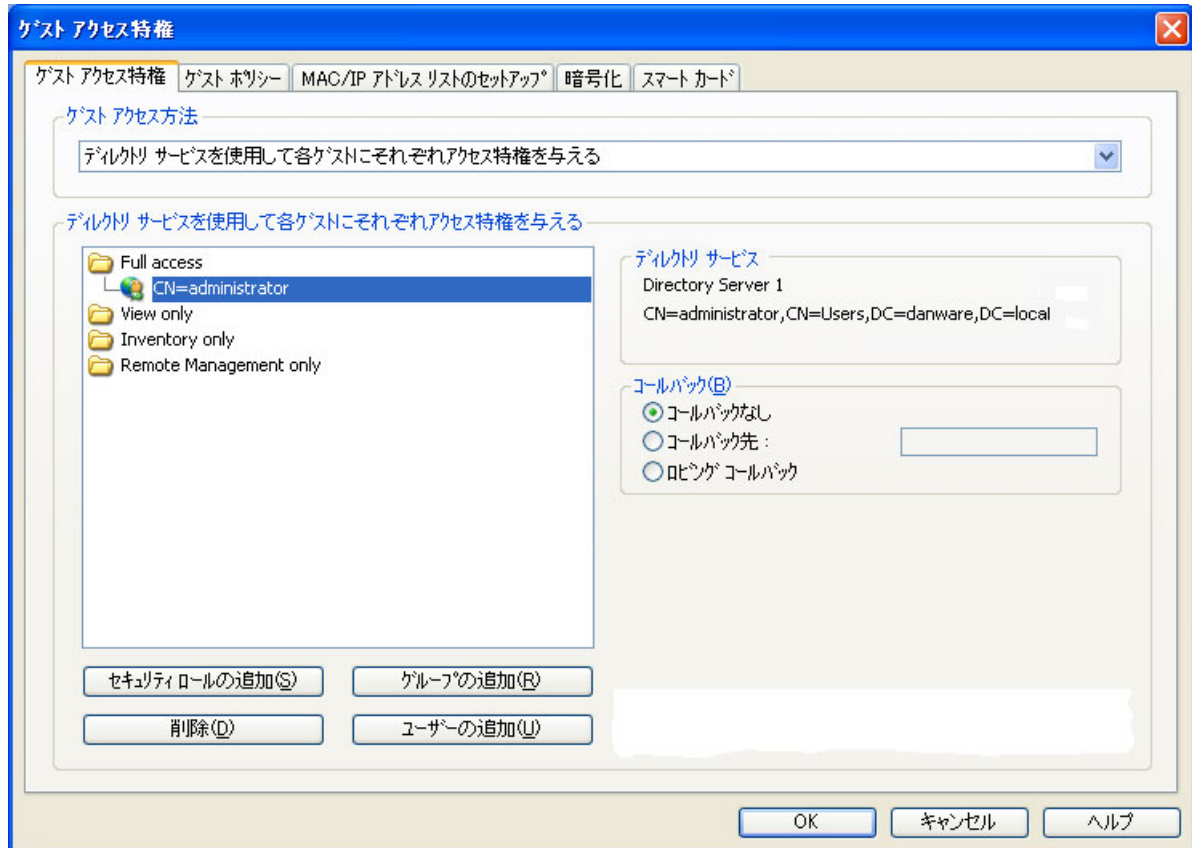
注意: グループのメンバーとして別々の[セキュリティ ロール](#)が個別に割り当てられたゲスト ユーザーには、適用可能な[セキュリティ ロール](#)で許可されるのと同じ権限が許可されます。

4.4 ホスト ツール

他のゲスト アクセス セキュリティ オプションを適用することもできます。[\[ゲスト ポリシー\]](#) タブ、[\[MAC/IP アドレス リストのセットアップ\]](#) タブ、[\[暗号化\]](#) タブ、[\[スマート カード\]](#) タブを参照してください。

4.4.2.1.4 ディレクトリ サービスを使用して各ゲストに個別にアクセス特権を与える

ホスト ツールの [\[ゲスト アクセス セキュリティ\]](#) ウィンドウの [\[ゲスト アクセス特権\]](#) タブ [\[ゲスト アクセス方法\]](#) ドロップダウン ボックスから上記のアクセス方法を選択すると、次のような内容のタブが表示されます。



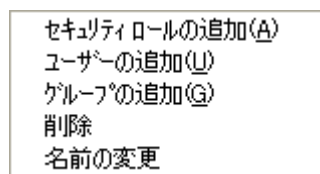
左側のペインでは、名前付きフォルダ内の個々の[セキュリティ ロール](#)を名前付きディレクトリ サービス アカウント オブジェクト内の個々のディレクトリ サービス ユーザー / グループに割り当てることができます。

最初、左側のペインには[セキュリティ ロール](#) フォルダ (*Full access*, *View only*, *Inventory only*, および *Remote Management only*) が表示され、ディレクトリ サービス アカウント オブジェクトは存在しません。上記の図では、例示のために、ディレクトリ サービス ユーザー オブジェクトが[セキュリティ ロール](#) フォルダに追加されています。[セキュリティ ロール](#) フォルダをダブルクリックすると、フォルダが閉じるか (縮小するか) 開いて (展開して)、フォルダ内のディレクトリ サービス アカウント オブジェクトが表示されます。ドラッグ & ドロップ操作によって、ディレクトリ サービス アカウント オブジェクトを上下に移動するか、[セキュリティ ロール](#) フォルダ間で移動することができます。

[セキュリティ ロール](#) フォルダを選択すると、[セキュリティ ロール ペイン](#)が右側に表示されます。

ディレクトリ サービス アカウント オブジェクトを選択すると、[ディレクトリ サービスの選択](#)、および [\[コールバック\]](#) セクションが右側に表示されます。

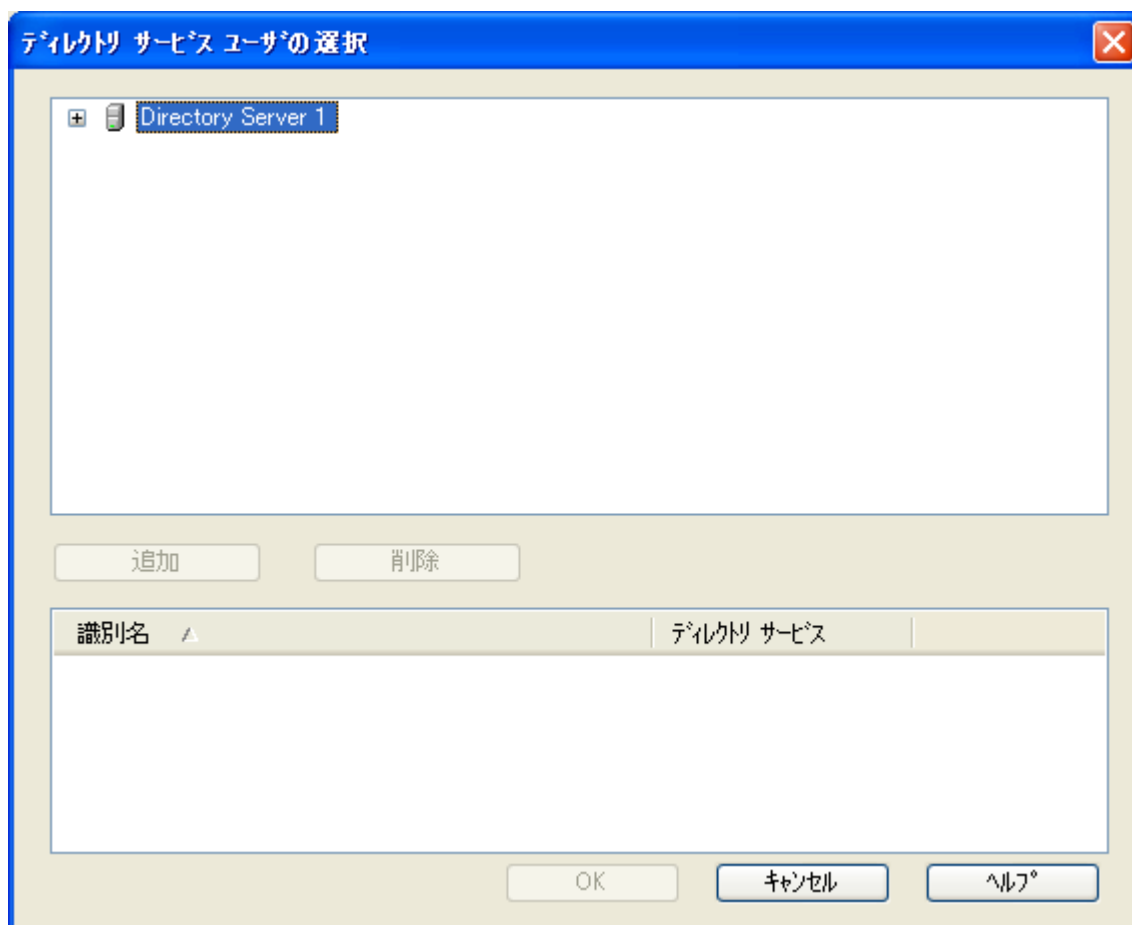
[セキュリティ ロール](#) フォルダを右クリックすると、次のコンテキスト メニューが表示されます。



注意： [セキュリティ ロール](#) フォルダが選択されていない場合は、このメニューに [セキュリティ ロールの追加] と [名前の変更] が表示されません。

セキュリティ ロールの追加： このコマンドを選択するか、ペインの下に対応するボタンをクリックすると、[セキュリティ ロール](#) ウィンドウが表示されます。

ユーザーの追加： [セキュリティ ロール](#) フォルダ、またはそのフォルダに含まれるディレクトリ サービス アカウント プロジェクトを選択して、このコマンドを選択するか、ペイン下の対応するボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



上のペインには、[プログラムのオプション](#) ウィンドウの [ディレクトリ サービス](#) タブで定義されたディレクトリ サービスが、拡張可能なディレクトリ ツリー構造とともに表示されます。[+] ボタンをクリックするとディレクトリが展開され、[-] ボタンをクリックするとディレクトリが折りたたまれます。ユーザーは、ユーザー アイコンと共通名 (cn=<Common name>) で表示されます。

追加： 上のペインでユーザーを選択してこのボタンをクリックすると、ユーザーがレコードとして下のペインに追加されます。

削除： 下のペインでユーザー レコードを選択してこのボタンをクリックすると、そのレコードが削除されます。

4.4 ホスト ツール

下のペインには、選択したユーザーのレコードが表形式で表示されます。この表には、次の列があります。

- ・ **識別名**：ユーザーのディレクトリ パスと共通名が表示されます。
- ・ **ディレクトリ サービス**：[\[プログラムのオプション\]](#) ウィンドウの [\[ディレクトリ サービス\]](#) タブで指定されたディレクトリ サービスの名前が表示されます。

表内のコントロールについては、[テーブル コントロール](#)を参照してください。

OK：このボタンをクリックすると、ウィンドウが閉じ、選択した[セキュリティ ロール](#) フォルダに下のペイン内のユーザーが追加されます。

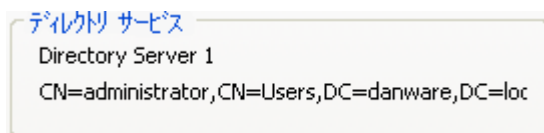
グループの追加：[セキュリティ ロール](#) フォルダ、または同フォルダ内のディレクトリ サービス アカウント オブジェクトを選択して、このコマンドを選択するか、ペイン下の対応するボタンをクリックすると、上記で説明した [\[セキュリティ ディレクトリ サービス ユーザー\]](#) ウィンドウに似た [\[ディレクトリ サービス グループの選択\]](#) ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、グループ オブジェクトを[セキュリティ ロール](#) フォルダに追加できます。

削除：[セキュリティ ロール](#) フォルダまたはディレクトリ サービス アカウント オブジェクトを選択して、このコマンドを選択するか、ペイン下の対応するボタンをクリックすると、選択した[セキュリティ ロール](#) フォルダまたはディレクトリ サービス アカウント オブジェクトの削除を確認するための確認ウィンドウが表示されます。

警告：[セキュリティ ロール](#) フォルダを削除すると、そのフォルダに含まれるすべてのディレクトリ サービス アカウント オブジェクトが削除されます。

名前の変更：[セキュリティ ロール](#) フォルダを選択した後、このコマンドを選択すると、[名前の変更](#)ウィンドウが表示されます。

ディレクトリ サービスの選択



このセクションには、ディレクトリ サービスの名前と、選択したディレクトリ サービス アカウント オブジェクトの識別名 (dn) が表示されます。

コールバック [\[コールバック\]](#) セクションを参照してください。

注意：個別のディレクトリ サービス アクセス特権の内容は、[NetOp の設定ファイル](#) `secur_DS.ndb` に保存されます。通常、この設定ファイルは、`C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Host` ディレクトリにあります。

ゲストが接続すると、ホストはユーザー名、パスワード、およびディレクトリ サーバーで構成されるディレクトリ サービス資格を要求します。

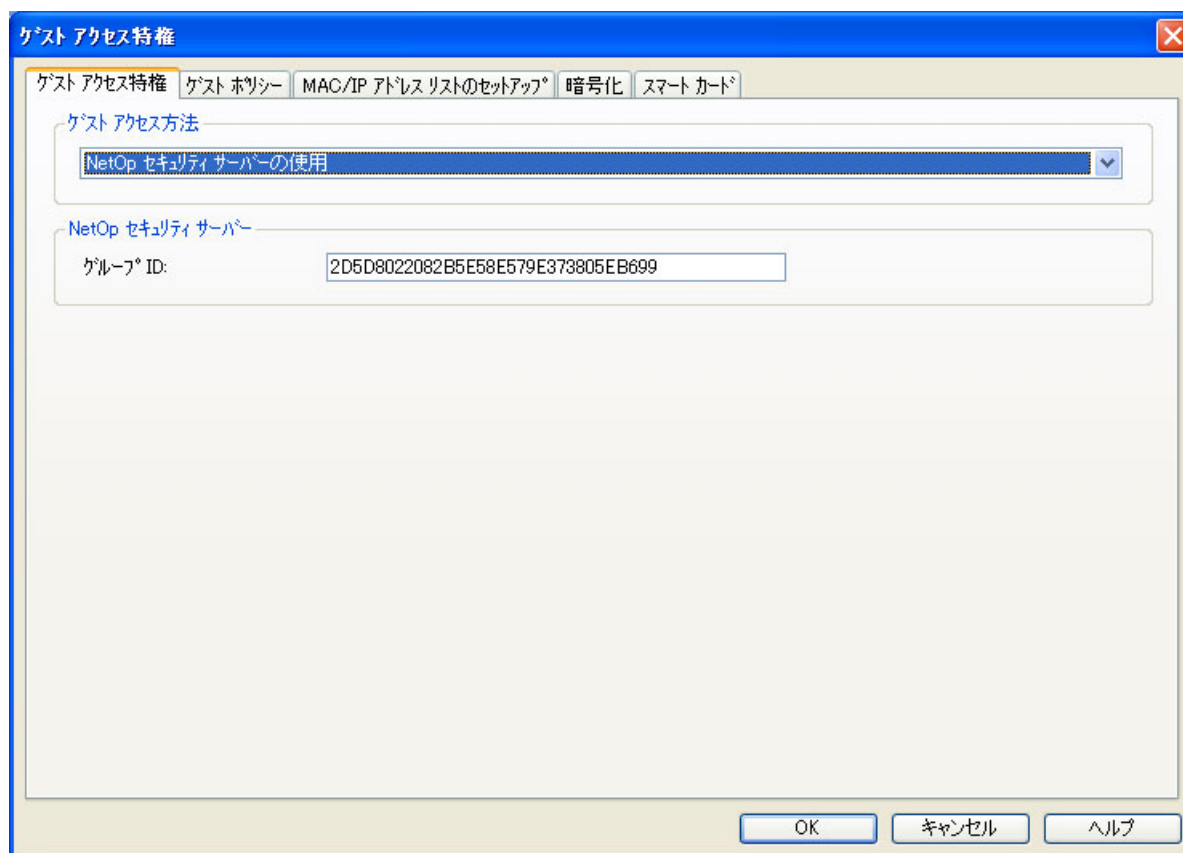
ホストは、指定のディレクトリ サーバーを検索して、ゲストから返された資格を確認するほか、ゲスト ユーザーのグループ メンバーシップに関する情報を取得します。ホスト上に存在するディレクトリ サービス アカウント オブジェクトとゲスト ユーザーが一致するか、そのゲスト ユーザーがメンバーであるグループがホスト上のディレクトリ サービス アカウント オブジェクトと一致すると、ホストはディレクトリ サービス アカウント オブジェクトに割り当てられた[セキュリティ ロール](#)の特権をゲストに許可します。

注意：グループのメンバーとして別々の[セキュリティ ロール](#)が個別に割り当てられたゲスト ユーザーには、適用可能な[セキュリティ ロール](#)で許可されるのと同じ権限が許可されます。

他のゲスト アクセス セキュリティ オプションを適用することもできます。[\[ゲスト ポリシー\]](#) タブ、[\[MAC/IP アドレス リストのセットアップ\]](#) タブ、[\[暗号化\]](#) タブ、[\[スマート カード\]](#) タブを参照してください。

4.4.2.1.5 NetOp セキュリティ サーバーの使用

ホスト ツールの [[ゲスト アクセス セキュリティ](#)] ウィンドウの [[ゲスト アクセス特権](#)] タブ [[ゲスト アクセス方法](#)] ドロップダウン ボックスから上記のアクセス方法を選択すると、次のような内容のタブが表示されます。



このタブでは、NetOp セキュリティ サーバーを使用して接続元の各ゲストを認証し、[セキュリティ ロール](#)をゲストに割り当てます。

グループ ID: []: このフィールドには、16 進数の NetOp セキュリティ サーバー グループ ID (32 桁) を指定します。このグループ ID は、ホスト側で NetOp セキュリティ サーバー グループを識別するのに使用されます。

注意: NetOp セキュリティ サーバー グループ ID は、NetOp セキュリティ マネージャからコピーできます。[マニュアル](#)の節「[NetOp セキュリティ管理](#)」、「[セキュリティ データベースの内容の管理](#)」、「[セキュリティ設定](#)」、「[セキュリティ ポリシー](#)」、「[セキュリティ サーバー グループ名](#)」を参照してください。

ゲストが接続すると、ホストは NetOp セキュリティ サーバーの設定に基づいてログオン資格を要求します。

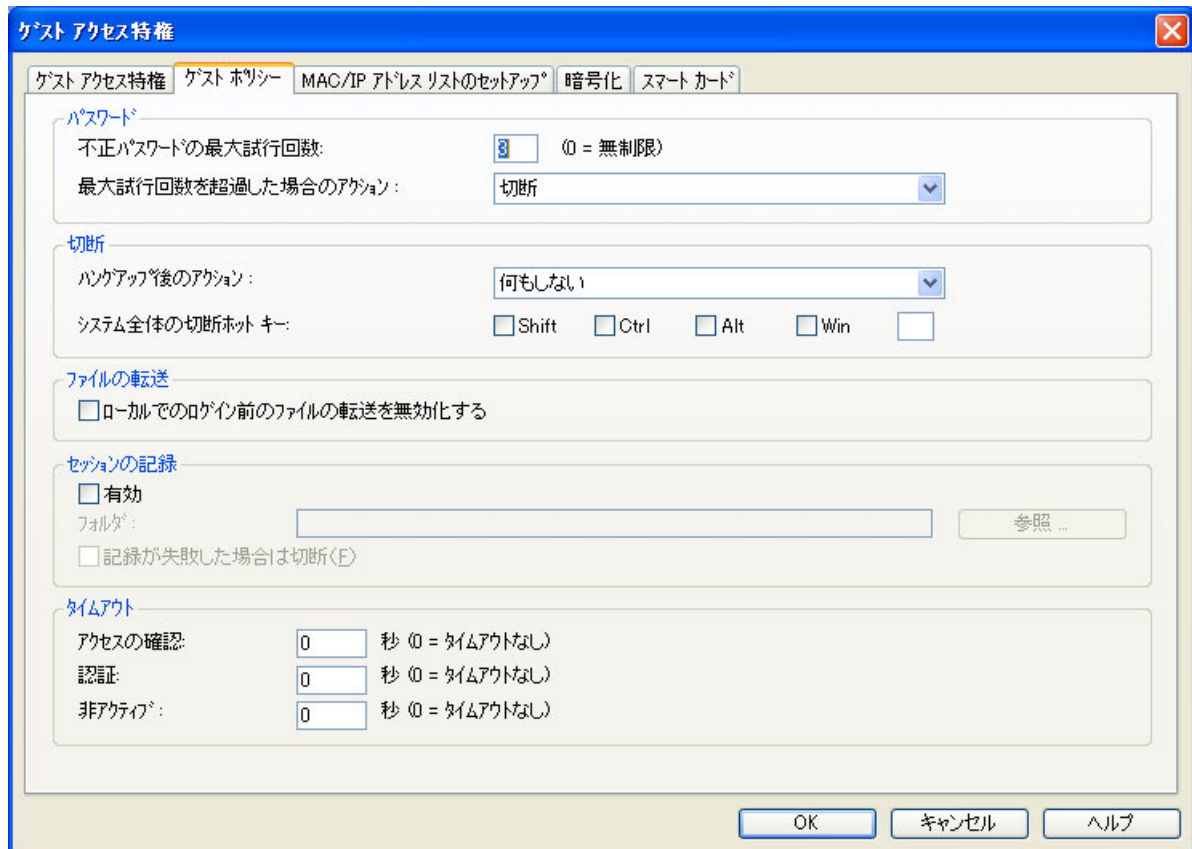
ホストは、セキュリティ データベースに保存されたセキュリティ データに基づいてゲストに割り当てられるセキュリティ ロールの確認と収集を行うために、この資格を NetOp セキュリティ サーバーに転送します。結果として得られたセキュリティ ロールはホストに返され、ホストはそのセキュリティ ロールをゲストに適用します。

他のゲスト アクセス セキュリティ オプションを適用することもできます。[\[ゲスト ポリシー\]](#) タブ、[\[MAC/IP アドレス リストのセットアップ\]](#) タブ、[\[暗号化\]](#) タブ、[\[スマート カード\]](#) タブを参照してください。

4.4 ホスト ツール

4.4.2.2 [ゲスト ポリシー] タブ

ホスト ツールの [ゲスト アクセス セキュリティ] ウィンドウの [ゲスト ポリシー] タブを下図に示します。



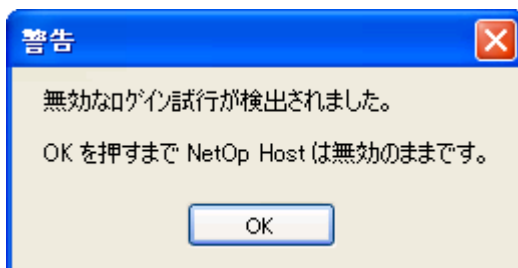
このタブでは、ゲスト アクセス セキュリティ ポリシーを指定します。

パスワード

不正パスワードの最大試行回数：[] (0 = 無制限)：このフィールドには、ゲスト ユーザーがパスワードを試行できる回数を 0 ～ 9 の範囲で指定します。この回数を超えると、次のドロップダウン ボックス フィールドで選択されたアクションが実行されます (デフォルト：3)。

最大試行回数を超過した場合のアクション：[]：このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択したアクションが表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには、次のオプションがあります。

- ・ **切断**：ゲストを切断します (デフォルト設定)。
- ・ **ホストを使用不可にする**：すべての接続要求がホストによって拒否され、次のウィンドウが表示されます。



- ・ **Windows を再起動する**：ホスト コンピュータ上で Windows を再起動します。ホストの設定によっては、ホストが再度読み込まれて起動し、接続待機の状態になります。

リスト内のオプションを選択すると、そのオプションがフィールドにセットされます。

切断

ハングアップ後のアクション: []: このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択したアクションが表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには、次のオプションがあります。

- ・ 何もしない: アクションは指定されません (デフォルト)。
- ・ コンピュータをロックする: ホスト コンピュータがロックされ、Windows の [コンピュータのロック] ウィンドウが表示されます。この状態でもホストは動作を続け、接続が可能です。
- ・ Windows をログオフする: ホスト コンピュータ ユーザーが Windows からログオフされ、[Windows によろこそ] ウィンドウが表示されます。この状態でもホストは動作を続け、接続が可能です。
- ・ Windows を再起動する: ホスト コンピュータ上で Windows を再起動します。ホストの設定によっては、ホストが再度読み込まれて起動し、接続待機の状態になります。

リスト内のオプションを選択すると、そのオプションがフィールドにセットされます。

システム全体の切断ホット・キー: [] Shift [] Ctrl [] Alt [] Win []: 最初の 4 つのボックスのいずれかにチェックを付け、またオプションで最後のボックスに 1 文字を指定すると、[NetOp ホスト] ウィンドウがアクティブであるかどうかに関係なく、接続されたすべてのゲストを切断するキーストロークの組み合わせが作成されます (デフォルト: 空白)。

ファイルの転送

ローカルでのログイン前のファイルの転送を無効化する: このボックスにチェックを付けると、ユーザーがホスト コンピュータにログインしていない場合に、[ファイルの転送](#)が無効になります。そのため、ログインしているユーザーの権限で許可される[ファイルの転送](#)のみが実行されます (デフォルトではチェックなし)。

注意: このオプションは、特定のユーザー名でホストが実行されていても影響を受けません ([\[別のユーザーとして実行\] タブ](#)を参照)。

セッションの記録

有効: このボックスにチェックを付けると、ホストがリモート コントロール セッションを記録することが可能になります。また、セクションの他のオプションが有効になります (デフォルトではチェックなし)。

フォルダ: [] [参照...]: このフィールドには、セッション記録ファイルを保存するディレクトリのパスを指定します。[参照] ボタンをクリックすると、Windows の [フォルダの参照] ウィンドウが表示されます。このウィンドウでフォルダを選択すると、そのパス名がフィールドに入力されます。

記録が失敗した場合は切断: このボックスにチェックを付けると、セッションの記録が失敗した場合に接続が切断されます (デフォルトではチェックなし)。

注意: セッション記録ファイルの名前は、<タイムスタンプ>-<ゲスト ID>-<ホスト ID>.dwr となります。セッション記録は、ゲストでのみ再生できます。[\[記録\] タブ](#)を参照してください。

タイムアウト

アクセスの確認: [] 秒 (0 = タイムアウトなし): ホストがゲストのアクセスを確認しないまま特定の秒数が経過したときにゲストとの接続を切断する場合は、このフィールドに 1 ~ 9999 秒の範囲内で切断までの時間を指定します (デフォルト: 0)。

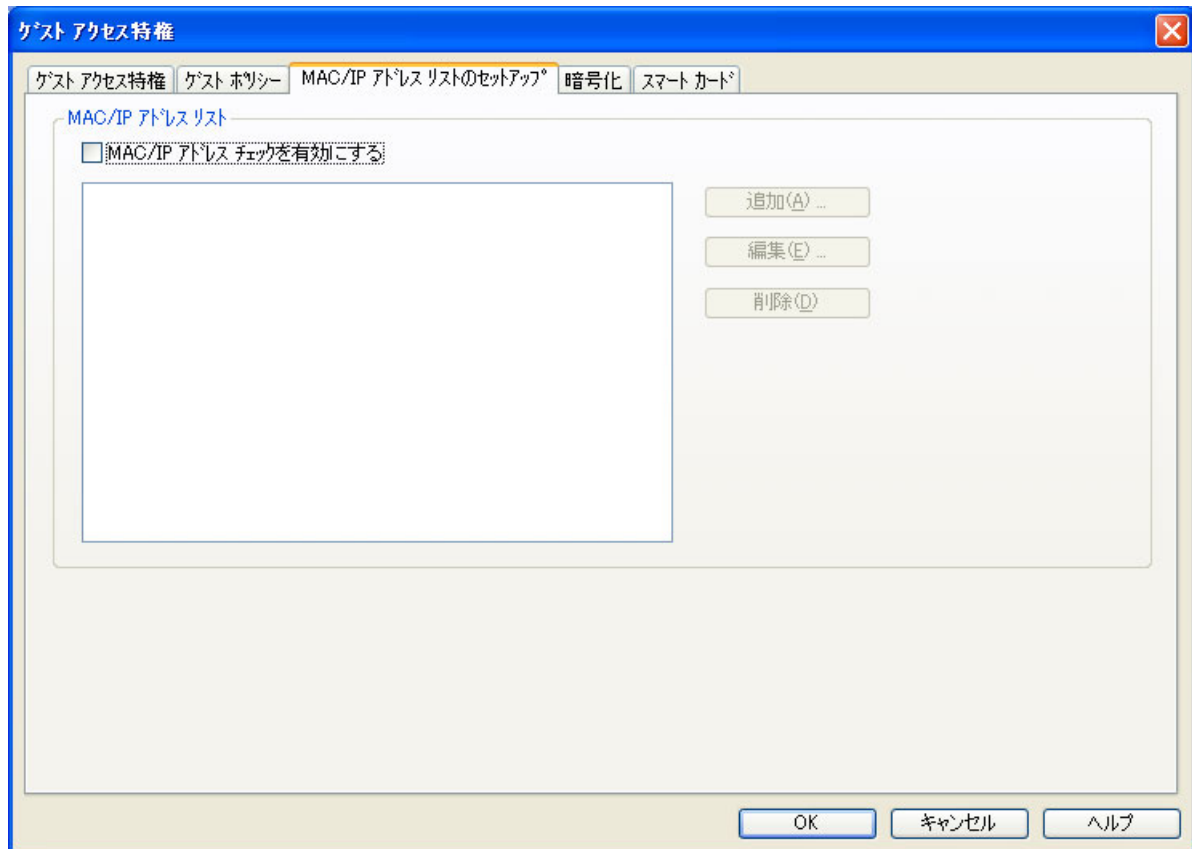
認証: [] 秒 (0 = タイムアウトなし): ゲストの認証が完了しないまま特定の秒数が経過したときにゲストとの接続を切断する場合は、このフィールドに 1 ~ 9999 秒の範囲内で切断までの時間を指定します (デフォルト: 0)。

非アクティブ: [] 秒 (0 = タイムアウトなし): ゲストがキーボードまたはマウスを操作しないまま特定の秒数が経過したときにゲストとの接続を切断する場合は、このフィールドに 1 ~ 9999 秒の範囲内で切断までの時間を指定します (デフォルト: 0)。

4.4 ホスト ツール

4.4.2.3 [MAC/IP アドレス リストのセットアップ] タブ

ホスト ツールの [[ゲスト アクセス セキュリティ](#)] ウィンドウの [[MAC/IP アドレス リストのセットアップ](#)] タブを下図に示します。



このタブでは、ゲストが接続する元のネットワーク アドレスを制限できます。

MAC/IP アドレス リスト

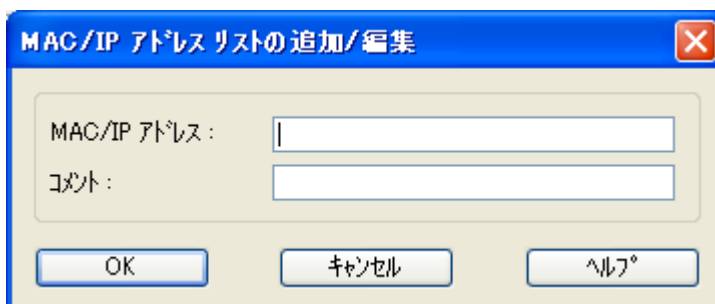
MAC/IP アドレス チェックを有効にする : このボックスをチェックすると、下のペインとボタンが使用可能になります。ゲストが接続する元のネットワーク アドレスは、ペイン内で指定するアドレスに限定されます (デフォルト : オフ)。

注意 : MAC アドレスは、[NetBIOS](#) または [IPX 通信デバイス](#) による接続に適用されます。

IP アドレスは、[TCP/IP](#) または [TCP/IP \(TCP\) 通信デバイス](#) による接続に適用されます。

このペインには、指定されたアドレス レコードと、オプションのコメントが表示されます (デフォルト : 空)。

追加... : このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



MAC/IP アドレス : [] : このフィールドには、MAC アドレスまたは IP アドレスを指定します。

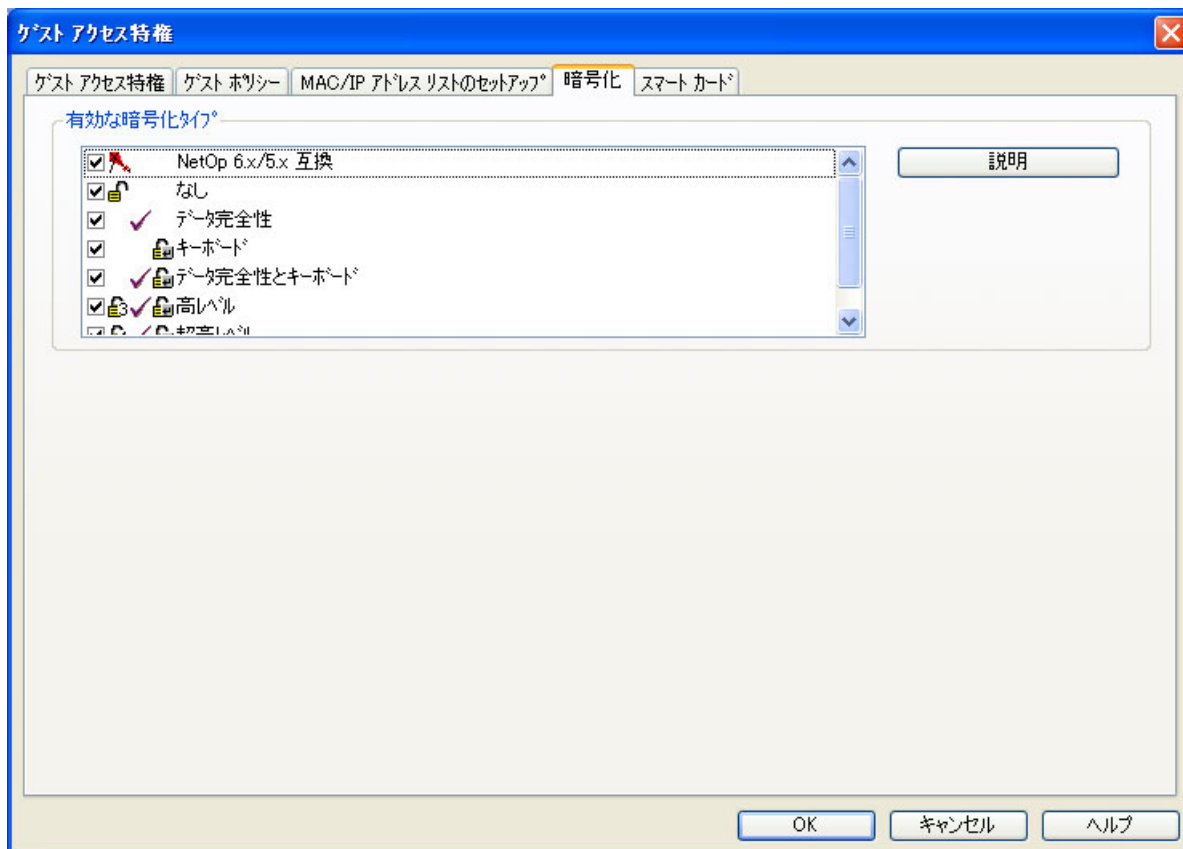
コメント：[]: このフィールドでは、ペイン内のアドレスの横に表示されるコメントを指定できます。

編集…: ペイン内でアドレス レコードを選択してこのボタンをクリックすると、選択したアドレスが [MAC/IP アドレス リストの追加/編集] ウィンドウに表示され、選択したアドレスを編集できます。

削除: ペイン内のアドレス レコードを選択してこのボタンをクリックすると、アドレスが削除されます。

4.4.2.4 [暗号化] タブ

ホスト ツールの [[ゲスト アクセス セキュリティ](#)] ウィンドウの [暗号化] タブを下図に示します。



このタブでは、有効な暗号化タイプを指定します。

注意: NetOp 通信は暗号化によって保護されます。バージョン 7.0 以降の NetOp リモート コントロール モジュールでは、複数の暗号化タイプを利用できます。バージョン 6.5 以前の NetOp リモート コントロール モジュールでは、1 つの暗号化タイプを利用できます。NetOp モジュールの通信では自動的に折衝が行われ、双方のモジュールで有効な暗号化タイプによって通信が暗号化されます ([\[圧縮/暗号化\] タブ](#)を参照)。共通の暗号化タイプが有効になっていない NetOp モジュールは通信できません。

有効な暗号化タイプ

ペインには、使用可能な暗号化タイプのアイコンと名前が記されたチェックボックスが表示されます。ボックスにチェックを付けたままにすると、その暗号化タイプが有効になります (デフォルト: すべてチェック付き)。チェックを外すと無効になります。

- NetOp 6. x/5. x 互換*: NetOp Remote Control バージョン 6.5 と互換の暗号化
- なし*: モジュール ID を暗号化しますが、データは暗号化しません。
- データ完全性*: データ完全性暗号化

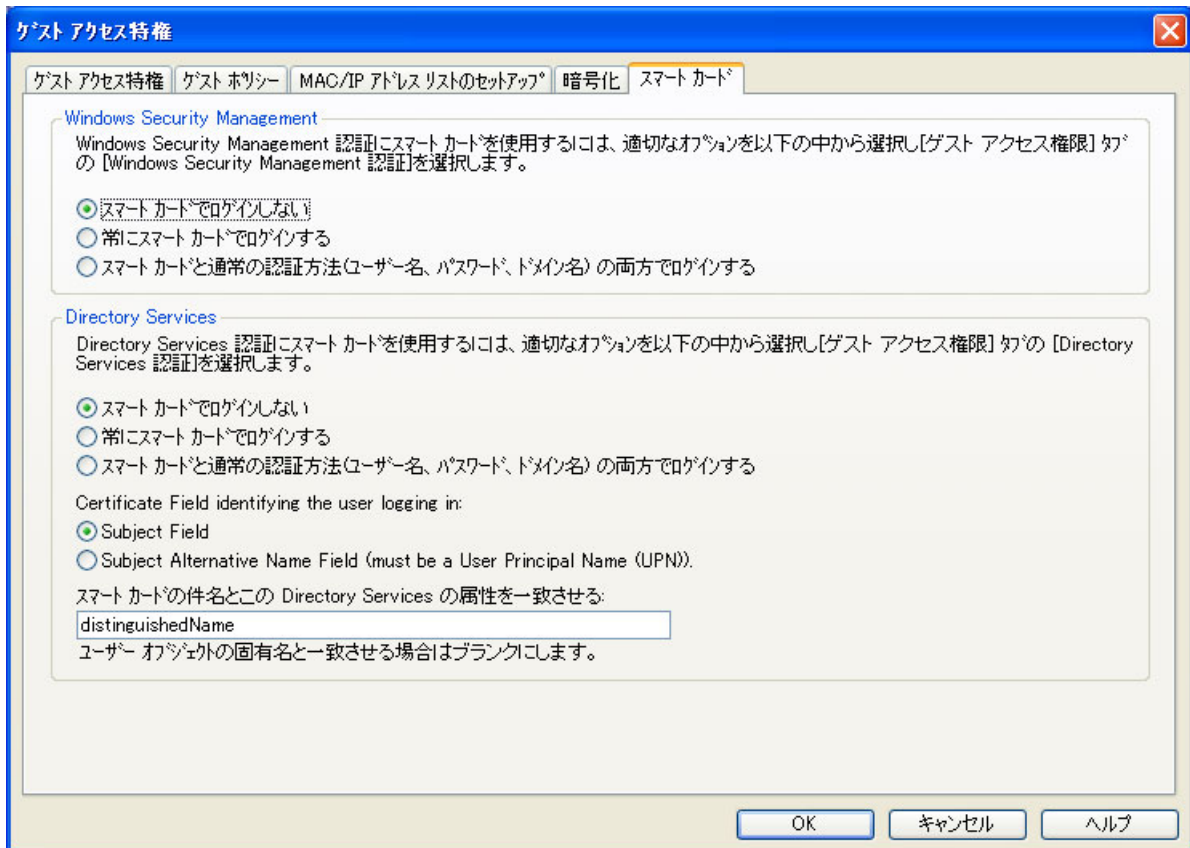
4.4 ホスト ツール

- キーボード : キーボードの暗号化
- データ完全性とキーボード : データ完全性とキーボードの暗号化
- 高レベル : 高いレベルの暗号化
- 超高レベル : 非常に高いレベルの暗号化

説明 : 暗号化タイプを 1 つ選択してこのボタンをクリックすると、その暗号化に関する説明が表示されます。

4.4.2.5 [スマート カード] タブ

ホスト ツールの [[ゲスト アクセス セキュリティ](#)] ウィンドウの [スマート カード] タブを下図に示します。



このタブでは、スマート カードのログイン オプションを指定します。

Windows Security Management

次のいずれかのオプションを選択します。

- スマート カードでログインしない : 資格によるログインのみを許可します (デフォルト設定)。
- 常にスマート カードでログインする : スマート カードによるログインのみを許可します。
- スマート カードと通常の認証方法 (ユーザー名、パスワード、ドメイン名) の両方でログインする : スマート カードによるログインと資格によるログインの両方を許可します。

Directory Services

次のいずれかのオプションを選択します。

- スマート カードでログインしない : 資格によるログインのみを許可します (デフォルト設定)。
- 常にスマート カードでログインする : スマート カードによるログインのみを許可します。

- スマート カードと通常の認証方法（ユーザー名、パスワード、ドメイン名）の両方でログインする：スマート カードによるログインと資格によるログインの両方を許可します。

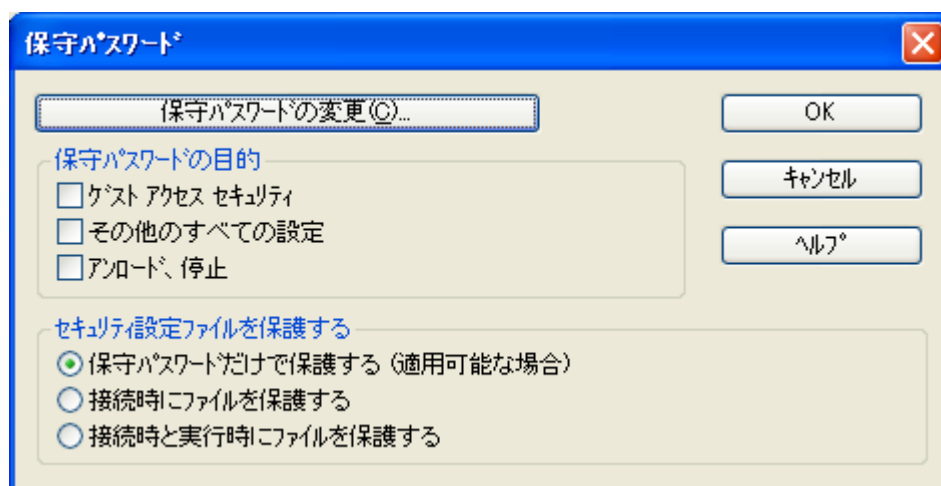
次のどちらかのオプションを選択します。

- ◎ *Subject Field*: ユーザーの識別情報を Subject フィールドから取り出します（デフォルト設定）。
- *Subject Alternative Name Field (must be User Principal Name (UPN))*. : ユーザーの識別情報を Subject 以外の名前フィールドから取り出します。

資格フィールドの内容をユーザー オブジェクトの識別名とは異なるディレクトリ サービス属性と照合する場合のみ、そのディレクトリ サービス属性のタイプ名を下側のフィールドに指定します。

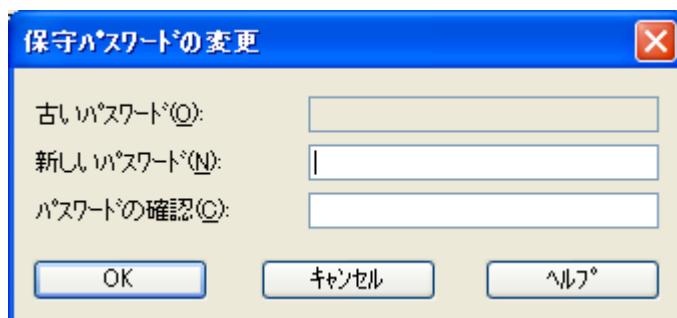
4.4.3 保守パスワード

[NetOp ホスト] ウィンドウの [ツール] メニューから [保守パスワード] コマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。



このウィンドウでは、保守パスワード、パスワードの保護対象、およびホスト設定ファイルの保護を指定します。

保守パスワードの変更... : このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



古いパスワード : []: 保守パスワードが指定されていない場合、このフィールドには入力できません。現在の保守パスワードを変更するには、このフィールドに現在のパスワードを指定します。入力した文字は、ドットまたはアスタリスクで表示されます。

新しいパスワード : []: このフィールドには、新しい保守パスワードを 16 文字以内で指定します。

パスワードの確認 : []: このフィールドには、確認のために新しい保守パスワードを再入力します。

4.4 ホスト ツール

注意： 保守パスワードを指定すると、保守パスワードによる保護が有効になり、[\[ツール\]メニュー](#)の [\[保守パスワード\]](#) コマンドが保護されます。[\[新しいパスワード\]](#) フィールドと [\[パスワードの確認\]](#) フィールドを空白にすると、保守パスワードによる保護が無効になります。

保守パスワードの目的

- ゲスト アクセス セキュリティ：**このボックスにチェックを付けると、保守パスワードによる保護が [\[ツール\]メニュー](#)の [\[ゲスト アクセス セキュリティ\]](#) コマンドと、[ツールバー](#)の [ツール ボタン](#)の対応するボタンに適用されます (デフォルトではチェックなし)。
- その他のすべての設定：**このボックスにチェックを付けると、保守パスワードによる保護が、[\[新規更新をチェック\]](#)と [\[デバッグ トレース\]](#)を除くすべての [\[ツール\]メニュー](#) コマンドと、[ツールバー](#)の [ツール ボタン](#)の対応するボタンに適用されます (デフォルトではチェックなし)。
- アンロード、停止：**このボックスにチェックを付けると、保守パスワードによる保護がアンロード ([タイトル バー](#)または [\[ファイル\]メニュー](#)を参照)、およびホストの停止 ([\[アクション\]メニュー](#)または [アクション ボタン](#)を参照)に適用されます (デフォルトではチェックなし)。

注意： 保守パスワードによる保護として [\[アンロード、停止\]](#) を選択すると、偶発的なホスト停止やアンロードによって接続不能になる状態を防止できます。また、[セキュリティ設定ファイルを保護する](#)にも効果があります。

セキュリティ設定ファイルを保護する

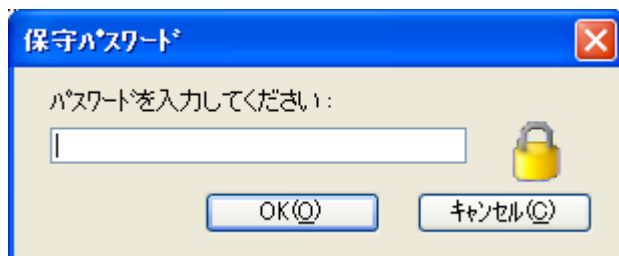
次のいずれかのオプションを選択します。

- 保守パスワードだけで保護する (適用可能な場合)：**適用可能な保守パスワードのみでホストのセットアップ情報を保護します。ホスト設定ファイルは保護されません (デフォルト設定)。
- 接続時にファイルを保護する：**ホストのステータスが [\[接続済み\]](#) であるときに、ホスト設定ファイルを保護 (変更を禁止) するとともに、[\[新規更新をチェック\]](#)と [\[デバッグ トレース\]](#)を除く [\[ツール\]メニュー](#) コマンドを使用禁止にします。これにより、ゲスト コンピュータから接続したユーザーがホストのセットアップ情報を変更できなくなります。
- 接続時と実行時にファイルを保護する：**ホストのステータスが [\[接続済み、ヘルプ呼出済み\]](#) または [\[実行中\]](#) であるときに、ホスト設定ファイルを保護 (変更を禁止) するとともに、[\[新規更新をチェック\]](#)と [\[デバッグ トレース\]](#)を除く [\[ツール\]メニュー](#) コマンドを使用禁止にします。このオプションでは、保守パスワードによってホストの停止とアンロードを禁止されているホスト コンピュータ ユーザーがホストのセットアップ情報を変更できなくなります。

注意： ホスト設定ファイルは、[NetOp の設定ファイル](#) ディレクトリ (通常は `C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Host`) に保存されます。

保守パスワードによる保護が有効な場合、保護されているコマンドを選択するか、ツールバーの保護ボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

保守パスワードの入力



パスワードを入力してください: []: このフィールドに保守パスワードを入力します。

4.4.4 ログのセットアップ

[NetOp ホスト] ウィンドウの [ツール] メニューから [ログのセットアップ] コマンドを選択すると、[ログのセットアップ] ウィンドウが表示されます。

注意： ログのセットアップは NetOp のすべてのモジュールに共通です。そのため、[ログのセットアップ] セクションについては、「[共通のツール](#)」で説明しています。

4.4.5 通信プロファイル

[NetOp ホスト] ウィンドウの [ツール] メニューから [通信プロファイル] コマンドを選択するか、[ツールバーのツール ボタン](#)にある該当のボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



このウィンドウでは、通信プロファイルの有効化 / 無効化、作成、編集、および削除を行うことができます。

注意： 通信プロファイルは、通信デバイスの設定に名前を付けたものです。個々の通信デバイスについて異なる設定を使用する複数の通信プロファイルを作成できます。通信デバイスは NetOp のすべてのモジュールに共通です。そのため、[通信デバイス](#) セクションについては、「[共通のツール](#)」の章で説明しています。

通信プロファイルの一覧 []： このペインには、チェックボックス付きのホスト通信プロファイル名が表示されます。ホストによる通信の開始時に通信プロファイルを有効にするには、該当のボックスにチェックを付けます（デフォルトでは LAN (TCP) と TCP/IP にチェック付き）。

新規作成： このボタンをクリックすると、通信プロファイルを作成するための [通信プロファイルの編集](#) ウィンドウが表示されます。

編集： ペイン内で通信プロファイルを選択して強調表示させてから、このボタンをクリックすると、[通信プロファイルの編集](#) ウィンドウが表示され、通信プロファイルを編集できます。

削除： ペイン内で通信プロファイルを選択して、このボタンをクリックすると、その通信プロファイルが削除されます。

注意： 有効になっている通信プロファイルに変更を適用するには、ホストを再起動する必要があります。[アクション](#) メニューまたは [アクション ボタン](#) を参照してください。

4.4 ホスト ツール

4.4.6 モデム データベース

[NetOp ホスト] ウィンドウの [ツール] メニューから [モデム データベース] コマンドを選択すると、[モデム] ウィンドウが表示されます。 [モデム データベース](#) を参照してください。

注意： モデム データベースは NetOp のすべてのモジュールに共通です。そのため、[[モデム データベース](#)] セクションについては、「[共通のツール](#)」の章で説明しています。

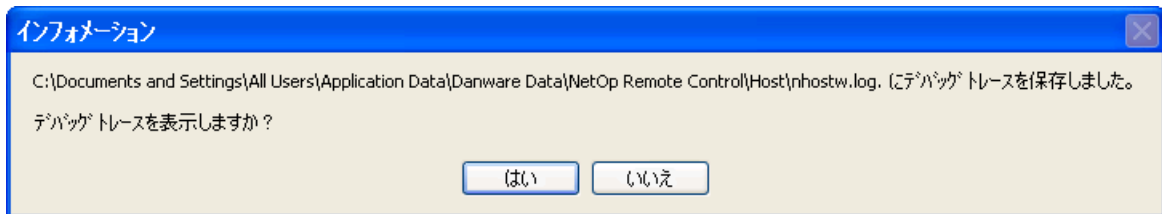
4.4.7 新規および更新のチェック

[NetOp ホスト] ウィンドウの [ツール] メニューから [新規および更新のチェック] コマンドを選択すると、[プログラムのオプション] ウィンドウの [Web の更新] タブで指定した更新サーバーに接続され、現在インストールされているホスト向けの新規更新が存在するかどうかチェックされます。また、[Web の更新] タブで指定されている場合は、新規更新があればそれがダウンロードされ、インストールされます。

4.4.8 デバッグのトレース

通常、このコマンドは [NetOp ホスト] ウィンドウの [ツール] メニューに表示されません。このコマンドを追加するには、「ヘルプ」メニューから [バージョン情報...] を選択して、[NetOp Remote Control Host のバージョン情報] ウィンドウを表示します。ALT+Z キーを押すと、[デバッグ トレース] コマンドが [ツール] メニューに追加されます。

[デバッグ トレース] を選択すると、最近の通信のデバッグ トレースが保存されます。このデバッグ トレースは、通信に関する問題をトラブルシューティングする際に、NetOp サポートから要求されることがあります。次のウィンドウが表示されます。



このウィンドウには、デバッグ トレースの保存場所が表示されます。

はい：このボタンをクリックすると、デバッグ トレースが表示されます。

いいえ：このボタンをクリックすると、デバッグ トレースが表示されないでウィンドウが閉じます。

注意： NetOp デバッグ トレースは、最新の NetOp 通信イベントを記録したプレーン テキスト ファイルです。デバッグ トレースを解釈するには、NetOp に関する専門知識と経験が必要です。

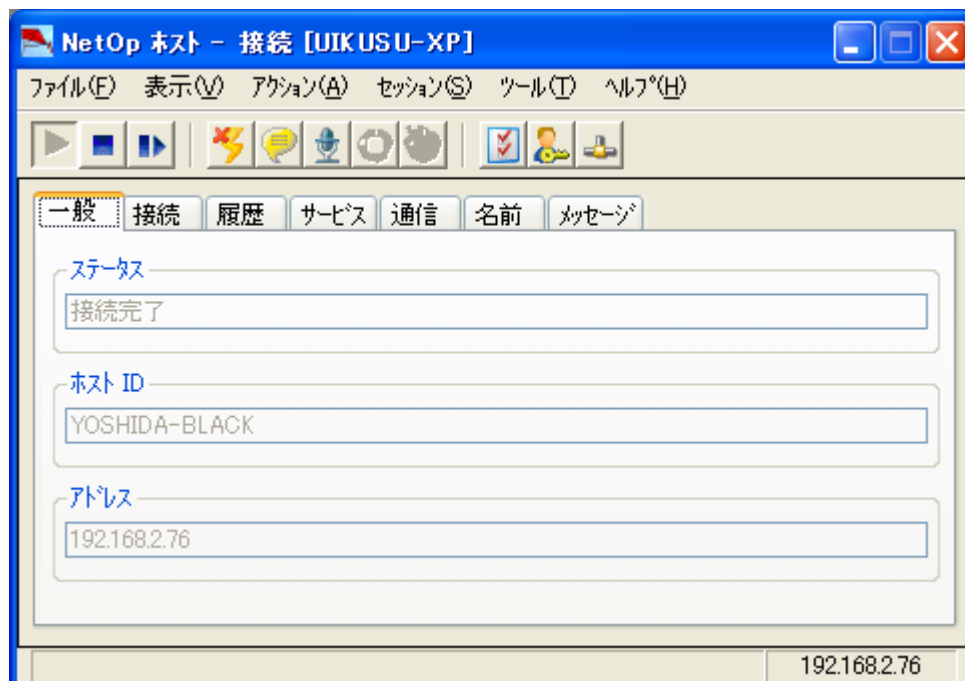
4.4.9 セットアップ ウィザードの実行

[NetOp ホスト] ウィンドウの [ツール] メニューから [セットアップ ウィザードの実行] コマンドを選択すると、[セットアップ ウィザード](#) が実行され、ダイアログによるガイドに従ってホストの設定を変更できます。

4.5 ホスト セッション

NetOp ゲストは NetOp ホストに接続して、1 つまたは複数の同時セッションをホストとともに実行できます。

ゲストが接続すると、次のような [\[NetOp ホスト\] ウィンドウ](#)が表示されます。



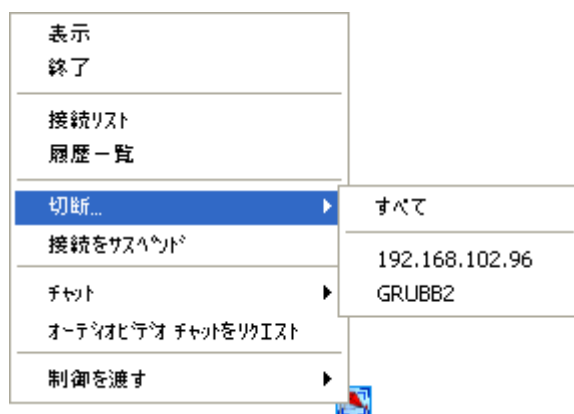
このウィンドウの [タイトル バー](#)には、[\[接続済み\]](#)と表示されます。また、[\[プログラムのオプション\]](#) ウィンドウの [\[接続の通知\]](#) タブの [\[接続中\]](#) セクションで指定されている場合は、キーボードとマウスの制御権を持つゲストの名前が角括弧内に表示されます。複数のゲストが接続している場合は、+1, +2 などの文字によって追加の接続ゲスト数が示されます。

ツールバーの [セッション ボタン](#)のうち、[\[切断\]](#)、[\[チャット\]](#)、および [\[オーディオ チャット\]](#) の各ボタンが有効になり、[\[ヘルプ呼出\]](#)と [\[呼出取消\]](#)の両ボタンは無効になります。

ステータス情報 [\[接続済み\]](#)は、[\[一般\]](#) タブの [\[ステータス\]](#) フィールド、Windows タスクバーの [\[NetOp ホスト\]](#) ボタンとツールヒント、通知領域の [NetOp ホスト ボタン](#) ツールヒントにも表示されます。

セッションでゲストが接続されている場合は、[NetOp ホスト ボタン](#)の角が 2 重の線で表示されます。このボタンを右クリックすると、次のメニューが表示されます。

NetOp ホスト ボタンの接続メニュー



[\[元のサイズに戻す/表示する\]](#) ~ [\[履歴一覧\]](#) : [\[NetOp ホスト ボタン\]](#) を参照してください。

4.5 ホスト セッション

切断：1 つのゲストが接続されている場合、このコマンドは拡張されません。接続を切断するには、このコマンドを選択するか、[\[セッション\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択するか、[ツールバー](#)上にある[セッション ボタン](#)の該当するボタンをクリックします。

複数のゲストが接続されている場合、このコマンドは次のコマンドに展開されます。

すべて：接続されたすべてのゲストからの接続を切断するには、このコマンドを選択するか、[\[セッション\]メニュー](#)の **[切断]** コマンドを選択するか、[ツールバー](#)上にある [セッション ボタン](#)の該当するボタンをクリックします。

<ゲスト名>：このコマンドを選択すると、特定のゲストとの接続のみが切断されます。

接続をサスペンド：このコマンドを選択してチェックマークを付けると、以降のゲストの接続が拒否されます（デフォルトではチェックマークなし）。チェックマークが付いたコマンドを選択してチェックマーク外すと、以降のゲストの接続が許可されます。

チャット：1 つのゲストが接続されている場合、このコマンドは拡張されません。このコマンドを選択するか、ホスト ウィンドウの [\[セッション\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択するか、[ツールバー](#)上にある [セッション ボタン](#)の該当するボタンをクリックすると、ゲストとの [チャット](#) セッションが開始されます。

複数のゲストが接続されている場合、このコマンドは次のコマンドに展開されます。

すべて：接続されたすべてのゲストとマルチ[チャット](#) セッションを開始するには、このコマンドを選択するか、[\[セッション\]メニュー](#)の **[チャット]** コマンドを選択するか、[ツールバー](#)上にある [セッション ボタン](#)の該当するボタンをクリックします。

<ゲスト名>：このコマンドを選択すると、指定したゲストのみと [チャット](#) セッションが開始されます。

オーディオ/ビデオ チャットの要求：キーボードとマウスの制御権を持つゲストと [オーディオ/ビデオ チャット](#) セッションを開始するには、このコマンドを選択するか、[\[セッション\]メニュー](#)の対応するコマンドを選択するか、[ツールバー](#)上にある [セッション ボタン](#)の該当するボタンをクリックします。

制御を渡す...：このコマンドは、複数のゲストが接続して場合のみ表示されます。このコマンドは、接続中のゲスト名を示すサブコマンドに展開されます。キーボードとマウスの制御権を持つゲスト名にはチェックマークが付けられ、そのゲスト名のサブコマンドは選択できません。別のゲスト名のコマンドを選択して、キーボードとマウスの制御権をそのゲストに渡すと、そのゲスト名のコマンドにチェックマークが付いて選択不可能になります。

利用可能なセッション タイプ：

[リモート コントロール](#)

[ファイルの転送](#)

[チャット](#)

[オーディオ/ビデオ チャット](#)

[リモート管理](#)

4.5.1 リモート コントロール

[ゲスト アクセス セキュリティ](#)によって許可される場合、NetOp ゲストは[リモート コントロール](#)セッションの開始と停止を行い、ホスト コンピュータの画面をゲスト コンピュータの画面上に表示することができます。ホスト コンピュータのユーザーがリモート コントロール セッションを終了するには、[\[セッション\]メニュー](#)または [NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)の **[切断]** コマンドを選択するか、[セッション ボタン](#)の対応するボタンをクリックして接続を切断するしか手段がありません。

[\[プログラムのオプション\]](#) ウィンドウの [\[一般\]タブ](#)の **[同時に複数のゲスト セッションを許可する]** ボックスがチェックされている場合は、複数のゲストがマルチゲスト [リモート コントロール](#)セッションに参加することができます。ホスト コンピュータの画面上でキーボードとマウスの制御権を持つのは、同時に一人のゲストに限られます。ゲストの名前は[タイトル バー](#)に表示できます。一人のゲストから別のゲストに**制御権を渡す**には、[NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)を使用します。

ホスト コンピュータの画面にウィンドウは表示されません。キーボードとマウスの制御権を持つ一人のゲスト コンピュータ ユーザー、およびホスト コンピュータ ユーザーがホスト コンピュータの画面上で同時に作業を行うことができます。デフォルトでは両ユーザーに同じオプションが適用されます。

ゲスト ユーザーのリモート コントロール オプションには、キーストローク コマンドの送信、マルチ ゲスト セッションの管理、クリップボードの内容の送信 / 受信 / 保存、ホスト コンピュータ画面上での [NetOp マーカー ユーティリティ](#) の表示、ホスト コンピュータのキーボードとマウスの無効化、ホスト ユーザーに空白画面が表示されるようにするホスト画面の空白化などがあります。

ホストの[ゲスト アクセス セキュリティ](#)を使用すると、ゲストに許可されるリモート コントロール特権を制限できます。

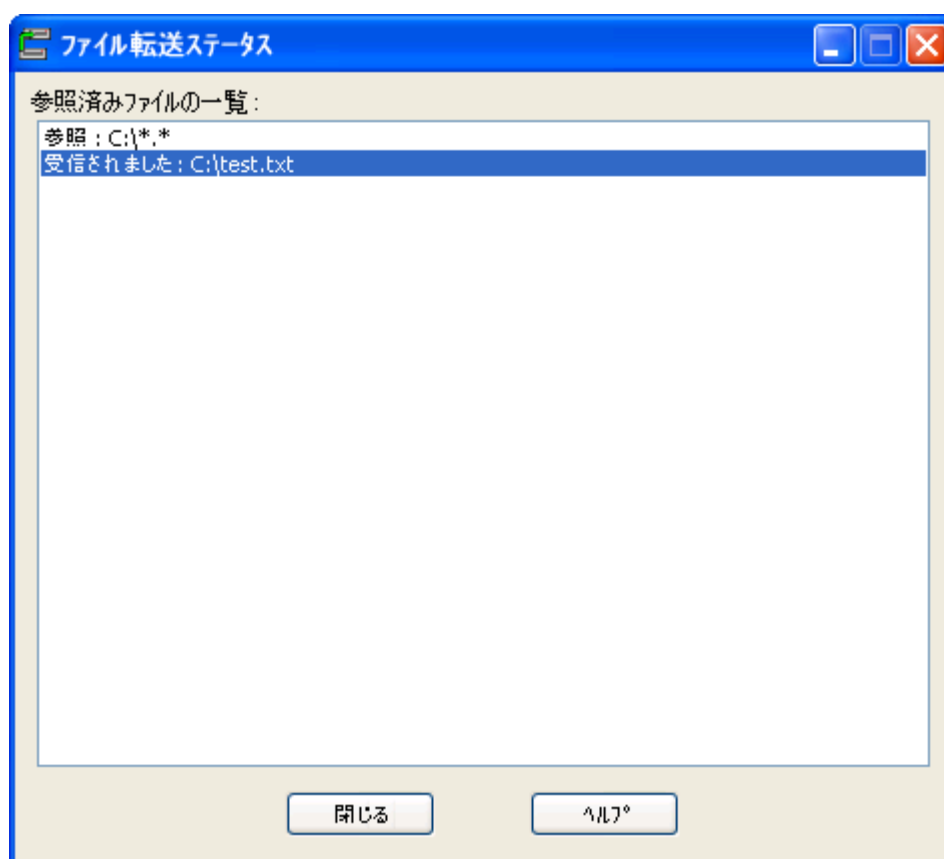
4.5.2 ファイルの転送

[ゲスト アクセス セキュリティ](#)によって許可される場合、NetOp ゲストは[ファイルの転送](#)セッションの開始と停止を行うことができます。このセッションでは、ゲスト コンピュータのユーザーがゲスト コンピュータとホスト コンピュータ間でファイルを転送できます。ホスト コンピュータのユーザーがファイル転送セッションを終了するには、[\[セッション\] メニュー](#)または [NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)の [\[切断\]](#) コマンドを選択するか、[セッション ボタン](#)の対応するボタンをクリックして接続を切断するしか手段がありません。

[\[プログラムのオプション\]](#) ウィンドウの [\[一般\] タブ](#)の [\[同時に複数のゲスト セッションを許可する\]](#) ボックスがチェックされている場合は、複数のゲストが同時に[ファイルの転送](#)セッションを実行できます。

ホスト コンピュータの画面にウィンドウは表示されません。ファイル転送セッションで行われている処理を表示するには、[\[表示\] メニュー](#)の [\[ファイル転送ステータス\]](#) コマンドを選択して、次のウィンドウを表示します。

ファイル転送ステータス



このウィンドウのペインには、参照されるホスト コンピュータのディレクトリと、受信済みファイルおよび削除済みファイルが表示されます。

4.5 ホスト セッション

ファイル転送セッションの開始時にこのウィンドウを表示するには、[[プログラムのオプション](#)] ウィンドウの [[一般](#)] タブの [[ファイル転送ステータスを表示する](#)] ボックスにチェックを付けます。

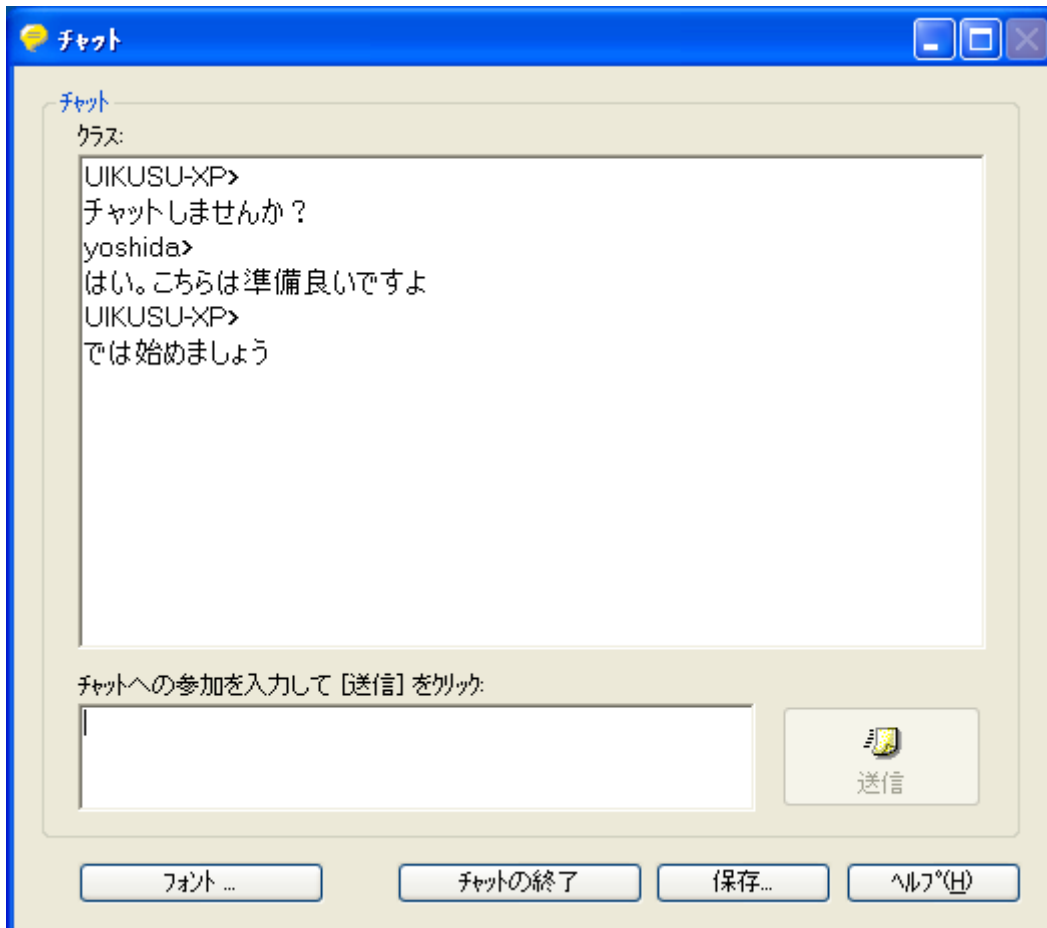
ホスト上で [ゲスト アクセス セキュリティ](#) を使用すると、ゲストに許可されるファイル転送特権を制限できます。

4.5.3 チャット

[ゲスト アクセス セキュリティ](#) によって許可される場合、NetOp ゲストはチャット セッションの開始と停止を行うことができます。チャット セッションでは、ゲスト コンピュータのユーザーとホスト コンピュータのユーザー間でテキスト入力による相互通信を実行できます。ホストは接続中のゲストとの間のみでチャット セッションを開始または停止できます。チャット セッションの開始と停止を行うには、[[セッション](#)] メニューまたは [NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#) の [[チャット](#)] コマンドを選択するか、[セッション ボタン](#) の対応するボタンをクリックします。

[[プログラムのオプション](#)] ウィンドウの [[一般](#)] タブの [[同時に複数のゲスト セッションを許可する](#)] ボックスがチェックされている場合は、複数のゲストが同時に単一のホストとマルチチャット セッションを実行できます。複数のゲストが接続されている場合、[[セッション](#)] メニューの [[チャット](#)] コマンドまたは [NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#) の [[チャット](#)] > [[全ゲスト](#)] コマンドを選択するか、[セッション ボタン](#) の [[チャット](#)] ボタンをクリックすると、接続されているすべてのゲストとのチャット セッションが開始されます。[NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#) を使用すると、接続されている複数のゲストの1つとチャットセッションを開始できます。

次のウィンドウが表示されます。



参加しているゲスト コンピュータの画面にも同様のウィンドウが表示されます。

クラス: []: このペインには、発言内容が記されたチャット ダイアログが表示されます。各発言の冒頭には、送信者の名前が表示されます。

チャットへの参加を入力して [送信] をクリック： [] 送信：このペインに発言内容を入力して [送信] をクリックすると、発言内容が他の参加者に送信されます。

フォント...：このボタンをクリックすると、Windows の [フォント] ウィンドウが表示され、送信前に発言内容のフォントを指定できます。

チャットの終了：このボタンをクリックするとチャット セッションが終了します。マルチチャット セッションからゲストを退出させるには、[NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)の [チャット] コマンドのサブメニュー内でチェックマークの付いたコマンドを選択します。こうすると、ゲスト参加者はマルチチャット セッションから退出できます。キーボードとマウスの制御権を持つゲストはマルチチャット セッションを終了できます。

保存...：このボタンをクリックすると、Windows の [名前を付けて保存] ウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、チャットの内容を rtf 形式のチャット ファイルとして個人のディレクトリに保存できます (このファイルには現在の日付と時刻を表す名前が付きます)。

4.5.4 オーディオ / ビデオ チャット

[ゲスト アクセス セキュリティ](#)によって許可される場合、NetOp ゲストは[オーディオビデオ チャット](#) セッションの開始と停止を行うことができます。このセッションでは、ゲスト コンピュータのユーザーとホスト コンピュータのユーザー間でサウンドと画像を相互に交換できます。ホスト コンピュータのユーザーは、接続中のゲストのうち、キーボードとマウスの制御権を持つゲストとの間のみでオーディオ / ビデオ チャット セッションを開始または停止できます。このセッションの開始と停止を行うには、[\[セッション\] メニュー](#)または [NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)の [オーディオ / ビデオ チャット] コマンドを選択するか、[セッション ボタン](#)の対応するボタンをクリックします。

注意：各ゲストと各ホストが同時に実行できるのは、[\[サウンドの転送\]](#)も含み、1 つのオーディオ セッションに限られます ([リモート コントロール](#)を参照)。モジュールがオーディオセッションで占有されている場合、そのモジュール上と接続先のモジュール上では、オーディオおよびオーディオ / ビデオ関連のコマンドとボタンが使用不可能になります。

次のウィンドウが表示されます。

オーディオ / ビデオ チャット



ゲスト コンピュータの画面には、ツールバー ボタン コントロール付きの同様のウィンドウが表示されます。ゲスト コンピュータのユーザーが実行できる操作には、オーディオとビデオのオン / オフの切り替え、大中小のリモート ビデオ フレームに合わせてゲスト側とホスト側の [\[オーディオ / ビデオ チャット\]](#) ウィンドウのサイズを調整する操作、セッションの終了などがあります。ホスト コンピュータのユーザーは、接続の切断によってのみセッションを終了できます。

4.6 ホスト アクション

[リモート]セクションのビデオ フレームには、リモート コンピュータのビデオ カメラ画像が表示されます。ビデオ通信が無効になっている場合は、ビデオ フレームに「ビデオなし」と表示されます。リモート コンピュータ上でカメラが動作していない場合は、ビデオ フレームに「カメラなし」と表示されます。

[ローカル]セクションのビデオ フレームには、ローカル コンピュータのビデオ カメラ画像が表示されます。ビデオ通信が無効になっている場合は、ビデオ フレームに「ビデオなし」と表示されます。ローカル コンピュータ上でカメラが動作していない場合は、ビデオ フレームに「カメラなし」と表示されます。

右下の [ボリューム] セクションには、2つのスライダと1つのディスプレイがあります。

- 再生時の音量を調整するには、左側のスピーカー スライダをドラッグします (デフォルト: 最大音量)。
- 録音時の音量を調整するには、中央のマイク スライダをドラッグします (デフォルト: 最大音量)。
- 右側のマイク ディスプレイには、録音時の実際の音量が表示されます。録音していないとき、ディスプレイには何も表示されません。録音時には、色付きのブロックがディスプレイの一部を覆うように表示されます。

オーディオ/ビデオ チャットに関するオプションを指定するには、ゲスト上の [プログラムのオプション] ウィンドウの [オーディオ/ビデオ チャット] タブ、およびホスト上の [プログラムのオプション] ウィンドウの [オーディオ/ビデオ チャット] タブを使用します。

4.5.5 リモート管理

[ゲスト アクセス セキュリティ](#)によって許可される場合、NetOp ゲストは[リモート管理](#)セッションの開始と停止を行うことができます。このセッションでは、ゲスト コンピュータのユーザーがホスト コンピュータの特定の管理ツールにアクセスできます。ホスト コンピュータのユーザーがリモート管理セッションを終了するには、[\[セッション\] メニュー](#)または [NetOp ホスト ボタンの接続メニュー](#)の [切断] コマンドを選択するか、[セッション ボタン](#)の対応するボタンをクリックして接続を切断するしか手段がありません。

[プログラムのオプション] ウィンドウの [一般] タブの [同時に複数のゲスト セッションを許可する] ボックスがチェックされている場合は、複数のゲストが同時に[リモート管理](#)セッションを実行できます。

ホスト コンピュータの画面にウィンドウは表示されません。

4.6 ホスト アクション

ホストは、ヘルプ サービスを提供するゲストから[ヘルプ呼出](#)を実行できます。

ゲストはホスト コンピュータ上で次のアクションを実行できます。

- [プログラムの実行](#)
- [コマンドの実行](#)
- [NetOp メッセージ](#)
- [画面呼出](#)
- [インベントリの取得](#)

4.6.1 ヘルプ呼出

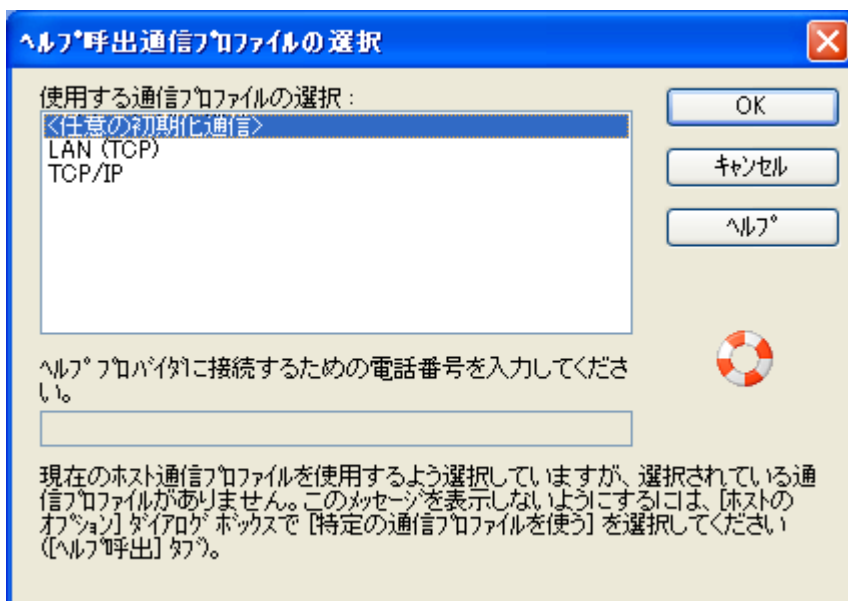
ステータスが「実行中」であるホストは、ヘルプ サービスを提供するゲストからヘルプ呼出を実行できます ([タイトル バー](#)を参照)。

ヘルプ呼出を実行するには、[\[セッション\] メニュー](#)、[NetOp ホスト ボタンのメニュー](#)または [\[NetOp ヘルプ呼出\] ボタン](#)の [ヘルプ呼出] コマンドを選択するか、[ツールバー上のセッション ボタン](#)の対応するボタンをクリックします。このコマンドまたはボタンが使用可能になるのは、[\[プログラムのオプション\] ウィンドウの \[ヘルプ呼出\] タブ](#)で、[ヘルプ呼出を有効にする] ボックスまたは [サービス チケットを有効にする] ボックスがチェックされている場合です。

[プログラムのオプション] ウィンドウの [\[ヘルプ呼出\] タブ](#)でヘルプ呼出が詳細に指定されており、指定されたヘルプ サービスが応答した場合は、ヘルプ呼出が配信されます。

[プログラムのオプション] ウィンドウの[ヘルプ呼出] タブで [現在のホスト通信プロファイルを使う] が選択されるとともに、ネットワーク通信プロファイル以外が有効になっている場合は、次のウィンドウが表示されます。

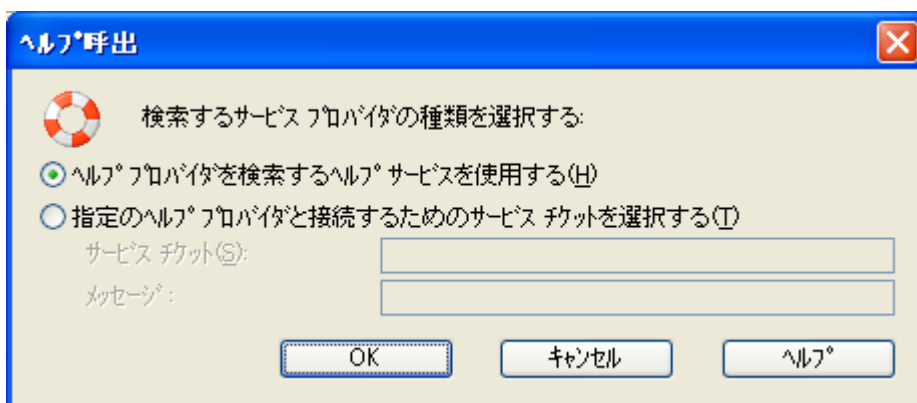
ヘルプ呼出通信プロファイルの選択



このウィンドウのペインには、<任意の初期化通信>と有効な通信プロファイルが表示されます。<任意の初期化された通信>を選択すると、有効なすべてのネットワーク通信プロファイルが使用されます。または、特定の通信プロファイルを選択します。

上のペイン内でポイント ツー ポイント通信プロファイルを選択すると、下のフィールドが入力可能になります。このフィールドには接続先の電話番号または IP アドレスを入力します。

TCP/IP に基づく通信プロファイルをヘルプ呼出で使用するとき、[プログラムのオプション] ウィンドウの[ヘルプ呼出] タブで、[ヘルプ呼出を有効にする] ボックスと [サービス チケットを有効にする] ボックスの両方がチェックされている場合は、次のウィンドウが表示されます。



次のどちらかのオプションを選択します。

- ヘルプ プロバイダを検索するヘルプ サービスを使用する: ヘルプ サービスを使用してヘルプ呼出を実行します。
- 指定のヘルプ プロバイダと接続するためのサービス チケットを選択する: 受信したサービス チケット番号によるヘルプ呼出を要求できるように、下のフィールドが入力可能になります。
サービス チケット: []: このフィールドには、サービス チケット番号を入力します。

4.6 ホスト アクション

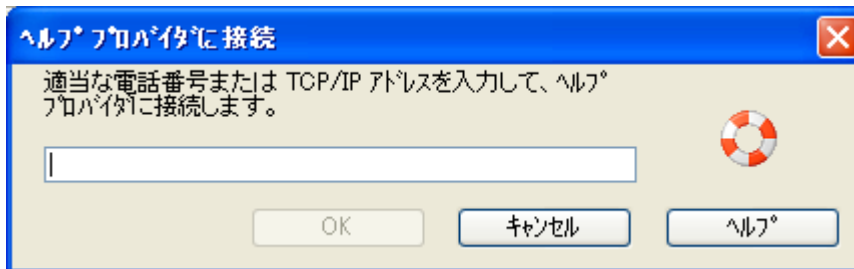
メッセージ: []: このフィールドには、障害に関する説明を入力できます。

注意: NetOp on Demand ゲストはサービス チケット番号を発行できます。ゲスト ユーザーは、ユーザーがヘルプ呼出を返送できるように、サービス チケット番号をユーザーに転送できます。

[\[ヘルプ呼出\] タブ](#)で [\[サービス チケットを有効にする\]](#) ボックスのみがチェックされている場合は、このウィンドウにサービス チケットに関するフィールドのみが表示されます。

ポイント ツー ポイント通信プロファイルを選択したが、電話番号と IP アドレスを指定しなかった場合は、次のウィンドウが表示されます。

ヘルプ プロバイダに接続



ヘルプ プロバイダに接続

適当な電話番号または TCP/IP アドレスを入力して、ヘルプ プロバイダに接続します。

OK キャンセル ヘルプ

このフィールドには接続先の電話番号または IP アドレスを入力します。

NetOp ゲートウェイを経由する必要があるヘルプ呼出については、ゲートウェイのセキュリティによってログイン資格が要求される場合があります。次のいずれかのウィンドウが表示されます。

- ・ [\[共有 NetOp 認証\]](#) ウィンドウ:



ログイン

NetOp Remote Control

ログイン VF-UI

パスワード:

OK キャンセル ヘルプ

パスワード []: ゲートウェイのセキュリティ パスワードを指定します。

- ・ [\[個々の NetOp 認証\]](#) ウィンドウ:



ログイン

NetOp Remote Control

ログイン VF-UI

ゲスト ID:

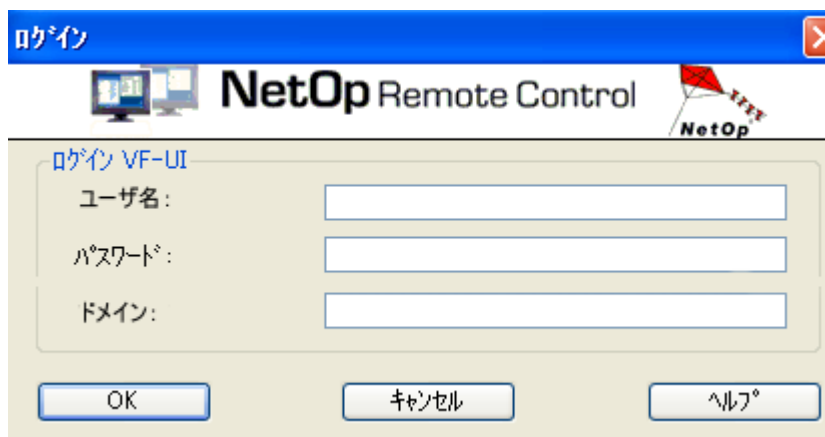
パスワード:

OK キャンセル ヘルプ

ゲスト ID: []: ゲートウェイ セキュリティで認識されるゲスト ID を指定します。

パスワード: []: 対応するパスワードを指定します。

- [\[Windows 認証\]](#) ウィンドウ :



ユーザー名 : []: ゲートウェイ セキュリティで認識される Windows ユーザー名を指定します。

パスワード : []: 対応する Windows ログオン パスワードを指定します。

ドメイン : []: 対応するドメインを指定します。

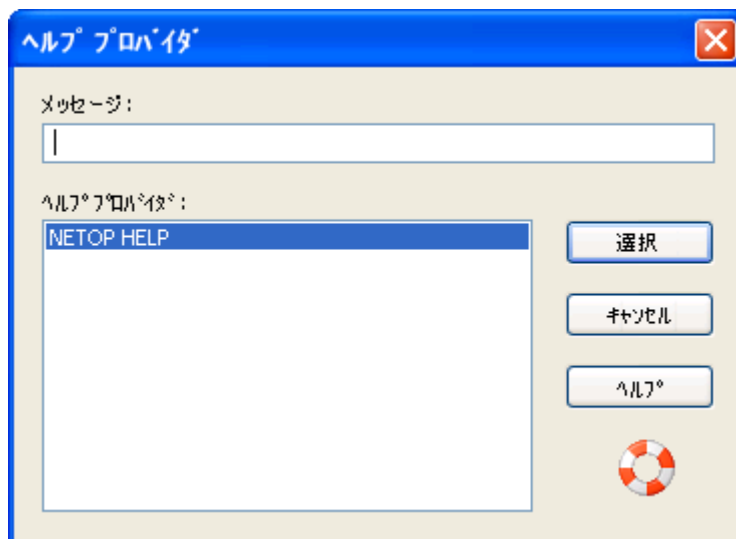
要求されたゲートウェイ資格が [\[プログラムのオプション\]](#) ウィンドウ、[\[\[ヘルプ呼出\] タブ ヘルプ呼出の詳細オプション\]](#) ウィンドウで指定された場合、ログイン ウィンドウは表示されません。

注意: ローカル ネットワーク セグメントの外部でヘルプ プロバイダを検索するには、[IP ブロードキャスト リスト](#)または NetOp ネーム サーバーを使用します。[TCP/IP の詳細設定](#)を参照してください。

ヘルプ プロバイダが応答しない場合は、メッセージが表示されます。

ヘルプ プロバイダが応答したが、[\[プログラムのオプション\]](#) ウィンドウの [\[ヘルプ呼出\] タブ](#) で [\[メッセージ\]](#) または [\[ヘルプ プロバイダ\]](#) が指定されていない場合は、次のウィンドウが表示されます。

ヘルプ プロバイダ



フィールドには、[\[プログラムのオプション\]](#) ウィンドウの [\[ヘルプ呼出\] タブ](#) で指定された障害の状態が表示されます。必要に応じて、障害の状態を編集できます。

ペインには、応答中のヘルプ プロバイダが表示されます。1つのプロバイダを選択してください。

4.6 ホスト アクション

選択：このボタンをクリックして、選択したヘルプ サービスからヘルプ呼出を要求します。

ヘルプ呼出が配信されると、[ヘルプ呼出]が入力不可能になり、[呼出取消]が入力可能になります。[\[NetOp ホスト\] ウィンドウのタイトル バー](#)には [ヘルプ呼出済み]と表示され、ヘルプ呼出が保留中であることが示されます。

ヘルプを提供しているゲスト ユーザーには、保留中のヘルプ呼出が通知されます。通常、このゲストは、[リモート コントロール](#) セッションを開始することでヘルプ呼出に応答します。

[呼出取消]を選択(クリック)すると、保留中のヘルプ呼出が取り消されます。保留中のヘルプ呼出に応答がない場合、そのヘルプ呼出はタイムアウトによって取り消されます([ヘルプ呼出の詳細オプション](#)を参照)。ホストが再起動されるか、ゲストが接続すると、保留中のヘルプ呼出は取り消されます。

注意：コマンドを使用してヘルプ呼出の要求または取り消しを行うことができます。[その他の読み込み方法](#)を参照してください。

4.6.2 プログラムの実行

[ゲスト アクセス セキュリティ](#)によって許可される場合、NetOp ゲストはホスト コンピュータ上でプログラムを実行できます。[プログラムの実行](#)を参照してください。

プログラムがウィンドウ内で実行される場合は、そのプログラムがホスト コンピュータの画面上に表示され、ホスト ユーザーはプログラムにアクセスできます。それ以外の場合は、ホスト コンピュータの画面に何も表示されません。

4.6.3 コマンドの実行

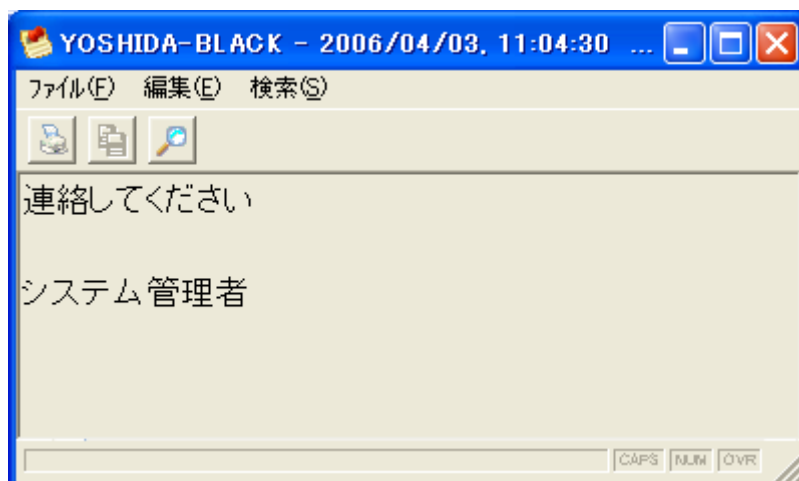
[ゲスト アクセス セキュリティ](#)によって許可される場合、NetOp ゲストは、ホスト コンピュータ上で次のシステム制御コマンドを実行できます。[コマンドの実行](#)を参照してください。

- ・ **ログオフ**：ホスト コンピュータ ユーザーを Windows からログオフします。
- ・ **再起動**：ホスト コンピュータを再起動します。
- ・ **シャット ダウン**：ホスト コンピュータをシャットダウンします。
- ・ **コンピュータをロックする**：ホスト コンピュータをロックします。ログオンしたユーザーまたは管理者がロックを解除できます。
- ・ **Wake on LAN**：Wake on LAN ネットワーク カードが装着されたホスト コンピュータを起動します。

4.6.4 NetOp メッセージ

[ゲスト アクセス セキュリティ](#)によって許可される場合、NetOp ゲストは NetOp メッセージを送信できます。NetOp メッセージは、ホスト コンピュータの画面上に次のように表示されます。

メッセージ



このウィンドウには次のコンポーネントがあります。

- ・ [タイトル バー](#)
- ・ [メニュー バー](#)
- ・ [ツールバー](#)
- ・ [メッセージ ペイン](#)
- ・ [ステータス バー](#)

4.6.4.1 タイトル バー



ウィンドウのタイトル バー コントロールについては、「[ウィンドウ コントロール](#)」で説明しています。

タイトル バーや自動的に保存されるメッセージ ファイルでは、送信者名、日付、および時刻で各メッセージが識別されます。

4.6.4.2 メニュー バー

[[メッセージ](#)] ウィンドウのメニュー バー：

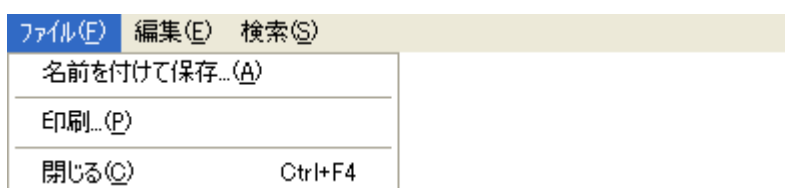
ファイル(F) 編集(E) 検索(S)

次のメニューがあります。

- ・ [\[ファイル\] メニュー](#)
- ・ [\[編集\] メニュー](#)
- ・ [\[検索\] メニュー](#)

4.6.4.2.1 [ファイル] メニュー

[[メッセージ](#)] ウィンドウの [[ファイル](#)] メニューを下図に示します。



名前を付けて保存…：このコマンドを選択すると、Windows の [[名前を付けて保存](#)] ウィンドウが表示されます。その際、メッセージの内容をリッチ テキスト形式のファイルに保存できるように、[[ファイルの種類](#)：RTF ファイル (*.RTF)] が指定されています。

注意：受信したメッセージの内容を記録したファイルは、[NetOp の設定ファイル](#) Messages ディレクトリ (通常は *C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\Host*) に自動保存されます。

このディレクトリ内のファイルに関する情報は、[[NetOp ホスト](#)] ウィンドウの [[メッセージ](#)] タブに表示されます。

印刷… このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の [[印刷](#)] ボタンをクリックすると、Windows の [[印刷](#)] ウィンドウが表示され、[メッセージ ペイン](#)の内容を印刷できます。

閉じる：このコマンドを選択するか、対応する[ウィンドウ コントロール](#)をクリックすると、[[メッセージ](#)] ウィンドウが閉じます。

4.6.4.2.2 [編集] メニュー

[[メッセージ](#)] ウィンドウの [[編集](#)] メニューを下図に示します。

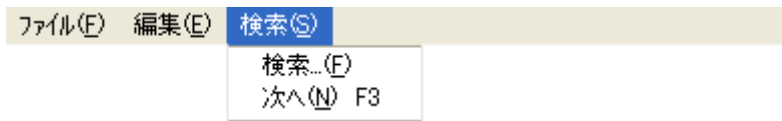


4.6 ホスト アクション

コピー： [メッセージ ペイン](#)内でテキストを選択してこのコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の [コピー] ボタンをクリックするか、CTRL+C キーを押すと、選択したテキストがクリップボードにコピーされます。

4.6.4.2.3 [検索] メニュー

[[メッセージ](#)] ウィンドウの [検索] メニューを下図に示します。



検索...： このコマンドを選択するか、[ツールバー](#)の [検索] ボタンをクリックすると、Windows の [検索] ウィンドウが表示され、指定のテキスト文字列を[メッセージ ペイン](#)内で検索できます。




次を検索： このコマンドを選択するか、F3 キーを押すと、[検索] ウィンドウで指定したテキスト文字列が次に出現する箇所が強調表示されます。

4.6.4.3 ツールバー

[[メッセージ](#)] ウィンドウのツールバー：



次のボタンがあります。

-  **印刷**： このボタンをクリックするか、[\[ファイル\] メニュー](#)の [印刷] コマンドを選択すると、Windows の [印刷] ウィンドウが表示され、[メッセージ ペイン](#)の内容を印刷できます。
-  **コピー**： [メッセージ ペイン](#)内でテキストを選択してこのボタンをクリックするか、[\[編集\] メニュー](#)の [コピー] コマンドを選択するか、CTRL+C キーを押すと、選択したテキストがクリップボードにコピーされます。
-  **検索**： このボタンをクリックするか、[\[検索\] メニュー](#)の [検索] コマンドを選択すると、Windows の [検索] ウィンドウが表示され、指定のテキスト文字列を[メッセージ ペイン](#)内で検索できます。

4.6.4.4 メッセージ ペイン

[[メッセージ](#)] ウィンドウのメッセージ ペインを下図に示します。



メッセージ ペインのサイズを変更するには、[\[メッセージ\]](#) ウィンドウの縁をドラッグします。

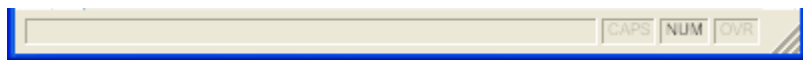
メッセージ ペインの内容を印刷するには、[\[ファイル\] メニュー](#)の [印刷] コマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックします。

メッセージ ペインの内容をコピーするには、[\[編集\] メニュー](#)の [コピー] コマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックします。

メッセージ ペインの内容を検索するには、[\[検索\] メニュー](#)の [検索] コマンドを選択するか、[ツールバー](#)の対応するボタンをクリックします。

4.6.4.5 ステータス バー

[[メッセージ](#)] ウィンドウのステータス バーを下図に示します。



ステータス バーには何も表示されません。

4.6.5 画面呼出

[ゲスト アクセス セキュリティ](#)によって[リモート コントロール](#)が許可される場合、NetOp ゲストは複数のホストの画面イメージを継続的に監視し、画面呼出モードと[リモート コントロール](#)モードを切り替えることができます。

ホスト上では、個々の画面呼出が短い[リモート コントロール](#)セッションのように表示されます。

4.6.6 インベントリの取得

[ゲスト アクセス セキュリティ](#)によって許可される場合、NetOp ゲストはホスト コンピュータ上にあるハードウェアとソフトウェアのインベントリの生成、検索、コピーを実行できます。

ホスト コンピュータの画面にウィンドウは表示されません。

5 共通のツール

5.1 概要

5.1 概要

この章では、すべての NetOp Remote Control モジュールに共通するツールについて説明します。このマニュアルには、次のセクションが含まれます。

- [通信デバイス](#)
- [モデム データベースとモデム ダイアログ](#)
- [NetOp ログ](#)
- [システム情報](#)
- [NETOP. INI](#)
- [NetOp の設定ファイル](#)

5.2 通信デバイス

この節では、NetOp 通信デバイスと、通信プロファイルの作成、管理、使用について説明します。NetOp では、**通信デバイス**という用語を使用します。通信デバイスは、NetOp をコンピュータの一般的な通信プロトコルまたは NetOp 独自の通信プロトコルに適合させるためのものです。

NetOp モジュールは、各種の通信デバイス設定を使用してさまざまな通信環境に対応します。NetOp では、**通信プロファイル**という用語を使用します。通信プロファイルとは、ある通信デバイス設定に名前を付けたものです。

新たにインストールした NetOp モジュールには、通信プロファイルがデフォルトで存在します。デフォルトの通信プロファイルを編集してもよいですし、ユーザーの通信環境に合った新しい通信プロファイルを作成しても構いません。

モジュールのウィンドウで [\[ツール\] メニュー](#) の [\[通信プロファイル\]](#) コマンドで [\[通信プロファイルのセットアップ\]](#) ウィンドウを選ぶか、[NetOp ゲスト ウィンドウ](#) で [タブ パネルの \[簡易接続\] タブ](#) にある [\[通信プロファイル\] セクション](#) を選び、[\[新規\]](#) または [\[編集\]](#) ボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

通信プロファイルの編集

このウィンドウでは、通信プロファイルの作成や編集が行えます。

通信情報

通信プロファイルの説明：[]: [\[新規\]](#) ボタンをクリックしてこのウィンドウを開いた場合、このフィールドは空になっています。[\[編集\]](#) ボタンをクリックしてウィンドウを開いた場合、このフィールドには選択した通信プロファイルの名前が表示されます。必要に応じて名前を指定するか編集します。

注意：各種の通信デバイスを使用して、複数の通信プロファイルを作成できます。それぞれの通信プロファイルは、一意の名前を持っていないとなりません。

通信デバイス：[]: このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択されている通信デバイスの名前が表示されます。ドロップダウン ボックスのリストからは次の通信デバイスを選択できます。

- [NetBIOS](#)
- [IPX](#)
- [ISDN \(CAPI\)](#)
- [シリアル](#)
- [Windows モデム](#)
- [TCP/IP](#)
- [TCP/IP \(TCP\)](#)
- [TCP/IP \(TCP IPv6\)](#)
- *RemPCIPX v. 4.3 (ゲストのみ)* : 「[IPX](#)」を参照してください。
- *RemPCNB v. 4.3 (ゲストのみ)* : 「[NetBIOS](#)」を参照してください。
- [ゲートウェイ](#)
- [赤外線 \(IrDA\)](#)
- [ターミナル サーバー](#) (ターミナル サーバー モジュールのみ)

リストから通信デバイスを選択すると、その通信デバイス名がフィールドにセットされます。

[ダイヤルアップ ネットワークを使用する](#) : このチェックボックスは、TCP/IP ファミリの通信デバイスが [通信デバイス] ドロップダウン ボックスで選択されている場合にのみ有効になります。このボックスにチェックを付けると、ウィンドウに [ダイヤルアップ ネットワーク接続] セクションが追加されます。[TCP/IP \(TCP\) 通信プロファイルの編集](#)を参照してください。

ウィンドウの下部には、[通信デバイス] ドロップダウン ボックスのフィールドで選択した通信デバイスの設定オプションがあります。これらのオプションについては、上記のリストで参照された節で説明します。

注意 : 通信プロファイルは、[NetOp の設定ファイル](#)の *comprof.ndb* というファイルに保存され、このファイルは通常、*C:\Documents and Settings\ユーザー名\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\モジュール名* というディレクトリに置かれます。

5.2.1 NetBIOS

NetBIOS (Network Basic Input/Output System) は、簡単なネットワーク通信デバイスです。

注意 : ネットワーク通信デバイスを使う通信プロファイルは、複数の NetOp 接続をサポートしています。

基本モードで NetBIOS (Windows では *Microsoft NetBEUI*) を使用する通信は、ルータのようなネットワーク接続装置を通過できません。

NetBIOS over [IPX](#) か NetBIOS over [TCP/IP](#) を使用する通信は、ネットワーク接続装置を通過できます。

それぞれの通信モジュールは、同じ NetBIOS モードを使用しなければなりません。NetBIOS のモードが異なると、使用されるアダプタ番号も異なります。

5.2.1.1 NetBIOS の設定

接続するには、接続先の NetOp モジュールが応答できる名前を指定します。

- ゲストがホスト名限定子 *H::* を使用して接続または参照する場合、ゲストの [プログラムのオプション] ウィンドウで [\[ホスト名\] タブ](#) を確認します。ホストは有効な *NetOp* ネームのタイプ名および *MAC* アドレスのタイプ名で応答するので、ホストの [タブ パネル](#) の [\[名前\] タブ](#) を確認します。
- ゲストがホスト名限定子 *U::* を使用して接続または参照する場合、ゲストの [プログラムのオプション] ウィンドウで [\[ホスト名\] タブ](#) を確認します。ホストは有効な *LAN* ユーザーのタイプ名で応答するので、ホストの [タブ パネル](#) の [\[名前\] タブ](#) を確認します。

5.2 通信デバイス

- ・ ホストがヘルプ呼出を送信した場合、ゲストは有効なヘルプ サービス名で応答できるので、ゲストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウで [[ヘルプ リクエスト](#)] タブを確認します。

NETOP. INI の設定

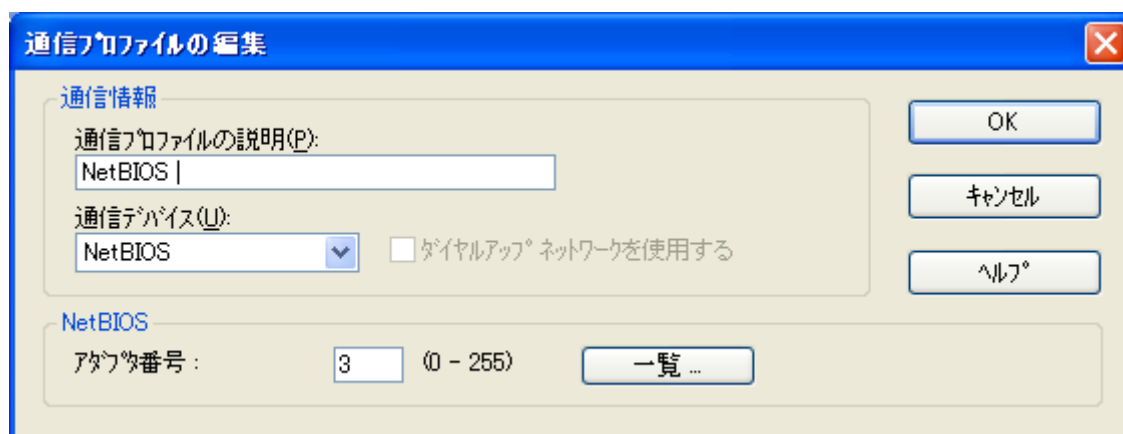
次の設定は、[NETOP. INI](#) ファイルの [[NetBIOS](#)] セクションに適用されます。

キー	値	説明
Max_Packet_Size=	<数>	<数> は、パケットの最大サイズをバイト数で指定します。通信上の問題が発生した場合は、最小値の 512 を指定してみてください。
Rcv_DG_Threads=	1 または 2	デフォルト値は 2 です (2 つのデータグラム スレッド)。これで問題が発生する場合は、1 を指定してみてください。

リソース

NetBIOS は特殊なリソースを必要としません。

5.2.1.2 NetBIOS 通信プロファイルの編集



ウィンドウの上部セクションについては、[通信デバイス](#)で説明します。

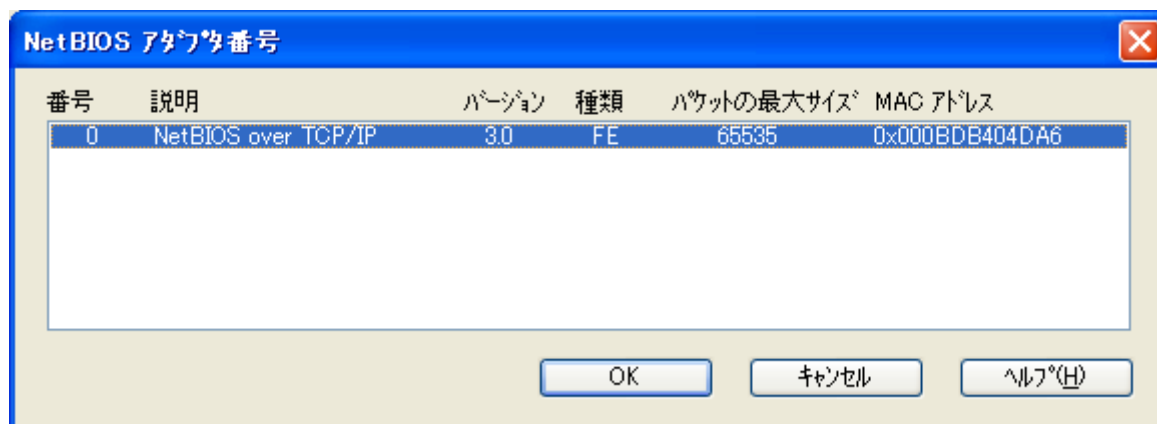
ゲストの NetBIOS 通信デバイスには 2 つのタイプがあります。1 つは、ホストのバージョン 5.0 以上と通信する *NetBIOS*、もう 1 つは、RemPC バージョン 4.3 と通信する *RemPCNB v. 4.3* です。[\[NetBIOS\]](#) または [\[RemPC NetBIOS の互換性\]](#) と名付けられたウィンドウの下部セクションは、どちらも同じ内容で構成されています。

アダプタ番号: [] (0-255): このフィールドには、NetBIOS モードに割り当てられているアダプタ番号を指定します。詳しくは [NetBIOS アダプタ番号](#)を参照してください。

一覧... : このボタンをクリックすると、[\[NetBIOS アダプタ番号\]](#) ウィンドウが表示されます。

5.2.1.2.1 NetBIOS アダプタ番号

[\[NetBIOS 通信プロファイルの編集\]](#) ウィンドウの [\[NetBIOS/RemPC NetBIOS の互換性\]](#) セクションで、[\[一覧...\]](#) をクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



このペインには、使用可能な NetBIOS モードのレコードが表内に表示されます。この表には、次の列が含まれます。

- ・ **番号**：モード アダプタ番号が表示されます。
- ・ **説明**：モード タイプが表示されます。
- ・ **バージョン**：ソフトウェアのバージョン番号が表示されます。
- ・ **種類**：ソフトウェアのタイプが表示されます。
- ・ **パケットの最大サイズ**：パケットの最大サイズがバイト数で表示されます。
- ・ **MAC アドレス**：ネットワーク アダプタの MAC アドレスが表示されます。

注意：ネットワーク モードのレコードには、元のコンピュータ ネットワーク アダプタの MAC アドレスが表示されます。NetOp は、ダイヤルアップなどの適用不可能なモードにはランダムな MAC アドレスを割り当てます。こういったレコードは選択しないでください。

5.2.2 IPX

IPX (Internetwork Packet Exchange) は、Novell のネットワーク通信デバイスです。IPX は通常、NetWare サーバーと NetWare クライアントがあるネットワーク環境で使用されます。

注意：ネットワーク通信デバイスを使う通信プロファイルは、複数の NetOp 接続をサポートしています。

5.2.2.1 IPX の設定

接続するには、接続先の NetOp モジュールが応答できる名前を指定します。

- ・ ゲストがホスト名限定子 *H::* を使用して接続または参照する場合、ゲストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウで [[ホスト名](#)] タブを確認します。ホストは有効な *NetOp* ネームのタイプ名および *MAC* アドレスのタイプ名で応答するので、ホストの [タブ パネル](#) の [[名前](#)] タブを確認します。
- ・ ゲストがホスト名限定子 *U::* を使用して接続または参照する場合、ゲストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウで [[ホスト名](#)] タブを確認します。ホストは有効な *LAN* ユーザーのタイプ名で応答するので、ホストの [タブ パネル](#) の [[名前](#)] タブを確認します。
- ・ ホストがヘルプ呼出を送信した場合、ゲストは有効なヘルプ サービス名で応答できるので、ゲストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウで [[ヘルプ リクエスト](#)] タブを確認します。

NETOP.INI の設定

次の設定は、[NETOP.INI](#) ファイルの [[IPX](#)] セクションに適用されます。

キー	値	説明
Max_Packet_Size=	<数>	<数> は、パケットの最大サイズをバイト数で指定します。通信上の問題が発生した場合は、最小値の 512 を指定してみてください。

ネットワーク番号

名前が分かっているコンピュータのネットワーク番号を検索するには、コマンド プロンプトに次のように入力します。

```
nlist user=<コンピュータ名> /a (NetWare 4.x)、または
```

```
userlist /a (NetWare 3.x)
```

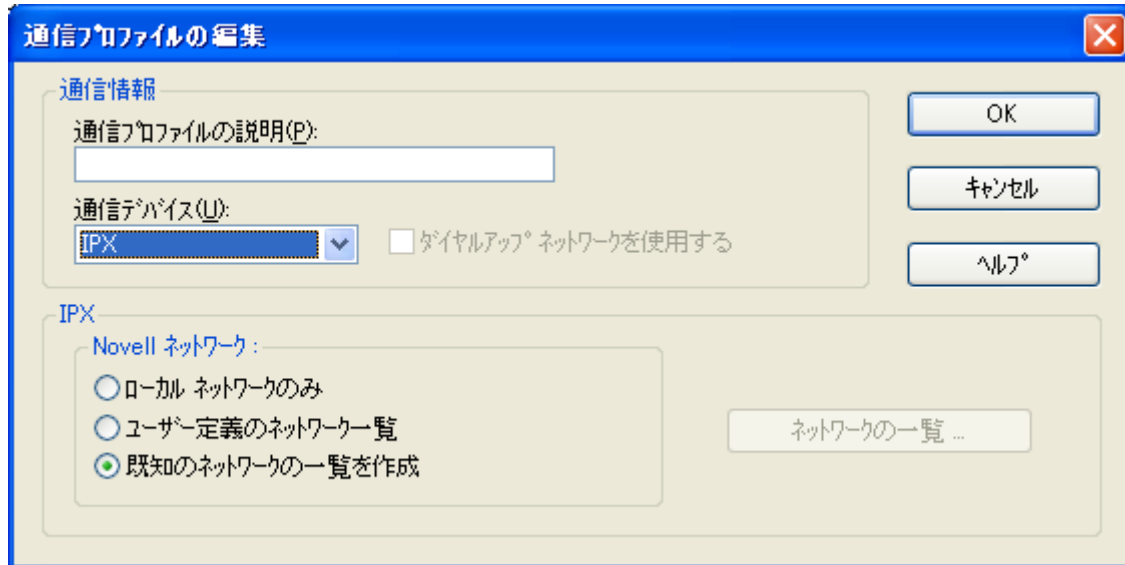
コンピュータ名を認識できる NetWare サーバーに接続すると、アドレス フィールドにネットワーク番号が返されます。

リソース

NetOp は、ゲストとホスト間で通信する際に、IPX ソケット 8641 (16 進数) を使用します。NetOp は、ゲストと RemPC 間で通信する際に、IPX ソケット 8186 と 8187 (16 進数) を使用します。これらのソケットは、Novell によって NetOp に割り当てられています。

5.2 通信デバイス

5.2.2.2 IPX 通信プロファイルの編集



このウィンドウの上部セクションについては、[通信デバイス](#)で説明します。

ゲストの IPX 通信デバイスには 2 つのタイプがあります。1 つは、ホストのバージョン 5.0 以上と通信する *IPX*、もう 1 つは、RemPC バージョン 4.3 と通信する *RemPCIPX v. 4.3* です。*[IPX]* または *[RemPC IPX の互換性]* と名付けられたウィンドウの下部セクションは、どちらも同じ内容で構成されています。

Novell ネットワーク

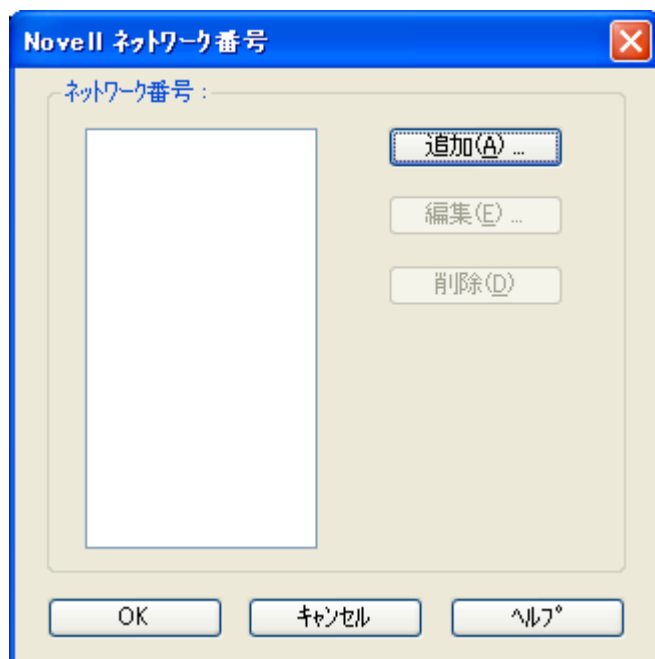
ネットワーク一覧が作成されている場合を除き、IPX 通信で接続できるのはローカル ネットワーク上の NetOp モジュールに限られます。このセクションのオプションを使用すると、リモートネットワークにまで通信範囲を拡張できます。

次のどちらかのオプションを選択します。

- ローカル ネットワークのみ：ローカル ネットワークのみに接続されます。
- ユーザー定義のネットワーク一覧：[ネットワーク一覧...] ボタンが有効になります。このボタンをクリックすると、[\[Novell ネットワーク番号\]](#) ウィンドウが表示されます。
- 既知のネットワークの一覧を作成：チェックを付けると、一覧にあるネットワークと通信するため、NetOp はルータ情報プロトコル (RIP) によって公開された情報を参照してネットワーク一覧を作成します (デフォルトの選択)。

5.2.2.2.1 Novell ネットワーク番号

[[IPX 通信プロファイルの編集](#)] ウィンドウの [[IPX/RemPC IPX の互換性](#)] セクションで [[ネットワーク一覧...](#)] をクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

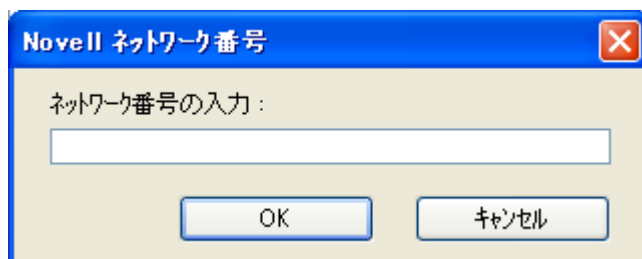


ネットワーク番号

このペインには、選択したリモート ネットワークのネットワーク番号 (8 桁の 16 進数) が表示されます。

追加... : このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

Novell ネットワーク番号



ネットワーク番号の入力: []: このフィールドには、ネットワーク番号 (8 桁の 16 進数) を入力するか、編集します。

編集... : ペインでネットワーク番号を選択してこのボタンをクリックすると、[[Novell ネットワーク番号](#)] ウィンドウが表示され、編集できます。

削除: ペインでネットワーク番号を選択してこのボタンをクリックすると、その番号が削除されます。

5.2.3 ISDN (CAPI)

CAPI (Common Applications Programmer's Interface) を使用すると、お互いに接続された ISDN(Integrated Services Digital Network) モデムが接続パラメータをネゴシエートできます。

NetOp Remote Control バージョン 7.0 以上は、32 ビット バージョンの CAPI 2.0 しかサポートしません。

注意: ISDN (CAPI) は、ポイント ツー ポイント回線通信デバイスです。2 つの ISDN チャネルはそれぞれ、1 つの NetOp 接続しかサポートしません。

5.2 通信デバイス

CAPI は、ISDN 接続の両端が CAPI をサポートしている場合にのみ NetOp で動作します。

ISDN CAPI 通信と互換性がない非 CAPI の ISDN 通信では、[シリアル](#)通信デバイスまたは [Windows モデム](#)通信デバイスを使用します。

CAPI 2.0 は、より古い 16 ビット バージョンの CAPI 1.1 と互換性がありますが、接続の他端でも CAPI 2.0 を使用することを経験からお勧めします。

5.2.3.1 ISDN (CAPI) の設定

接続するには、宛先コンピュータの ISDN デバイスの電話番号を指定します。

ホストがヘルプ呼出を送信した場合、ゲストは有効なヘルプ サービス名で応答できるので、ゲストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウで [[ヘルプ リクエスト](#)] タブを確認します。

リソース

CAPI 2.0 をサポートする ISDN デバイスが、コンピュータに接続されている必要があります。CAPI は、設定して有効にする必要があります。

5.2.3.2 ISDN (CAPI) 通信プロファイルの編集

ウィンドウの上部セクションについては、[通信デバイス](#)で説明します。

通信デバイス: ドロップダウン ボックスで [*ISDN (CAPI 2.0)*] を選択した場合に表示される [*ISDN*] セクションには、次の内容が表示されます。

独自の番号: []: 同じ ISDN 回線を使用するアプリケーションがほかにない場合は、このフィールドは空白のままにしておきます。他のアプリケーションが同じ ISDN 回線を使用する場合は、このフィールドには、NetOp が使用する電話番号と同じ ISDN 回線を使用する他のアプリケーションが使用する電話番号を区別するために、ISDN デバイスの電話番号の一部を指定します。電話交換器経由で接続する場合は、内線の電話番号用に一般的に使用される番号の最後の数を指定します。

有効

短期保留モード [] 秒 (10-250): このチェックボックスを選択すると (デフォルトではチェックなし)、短期の非アクティブ状態のときには接続が閉じて、電話課金が最小限に抑えられます。ゲスト上には、短期保留の間隔を 10 ~ 250 秒 (デフォルトは 10) で指定するための追加フィールドが表示されます。

2 個の B チャンネルを使う: このチェックボックスを選択すると (デフォルトではチェックなし)、両方の B チャンネルが使用され、転送速度が速くなります。

注意: これらのオプションは、接続の両端で選択されている場合にのみ機能します。

コールバックの前に待機: [] 秒 (1-999): このフィールドには、コールバック前に待機する秒数を、指定された範囲で入力します。適用されると、受信側のモデムが有効になり、レディ状態に移行します (デフォルトは 10)。

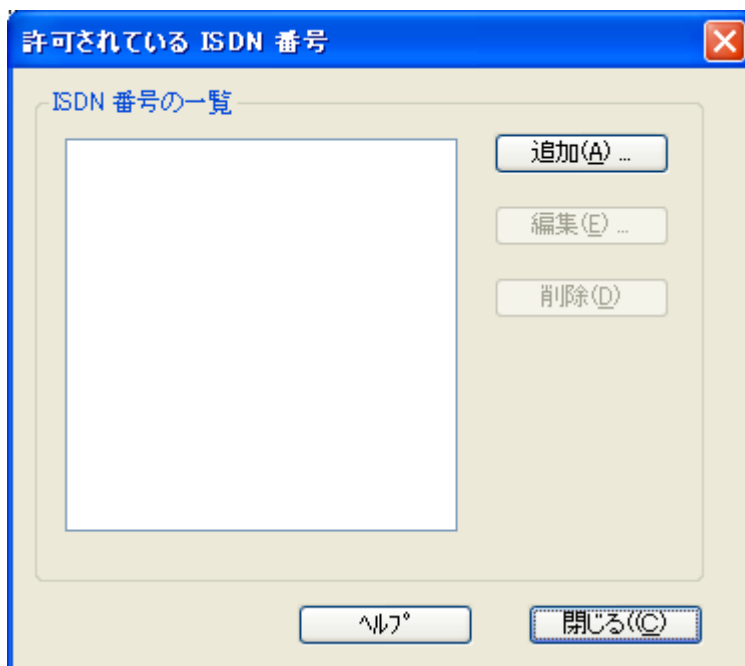
ISDN 番号のチェック (ホストのみ)

[] ゲストの ISDN 番号チェックを有効にする：このボックスにチェックを付けると、ISDN モデム番号が [許可されている ISDN 番号] ウィンドウに表示されているゲストだけにホストへの接続が許可されます。

許可されている ISDN 番号の編集...：このボタンをクリックすると、[許可されている ISDN 番号] ウィンドウが表示されます。

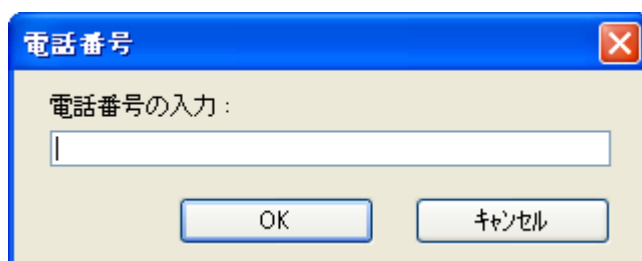
5.2.3.2.1 許可されている ISDN 番号

ホストの [ISDN (CAPI) 通信プロファイルの編集] ウィンドウの [ISDN (CAPI)] セクションで、[許可されている ISDN 番号の編集...] をクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



このペインには、許可されている ISDN 電話番号が表示されます。

追加...：このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

電話番号

電話番号の入力：[]：このフィールドには、電話番号を入力するか、番号を編集します。

編集...：ペインで電話番号を選択してこのボタンをクリックすると、[電話番号] ウィンドウが表示され、編集できます。

削除：ペインで電話番号を選択してこのボタンをクリックすると、その番号が削除されます。

5.2.4 シリアル

シリアル通信デバイスを使用すると、電話回線とモデムを経由する通信か、直接ケーブル接続による通信 (ヌル モデム) が可能になります。これには、アナログ通信や非 CAPI ISDN 通信が含まれます。

5.2 通信デバイス

注意：シリアルは、ポイント ツー ポイント回線通信デバイスです。1 つのシリアル モデムがサポートするのは、1 つの NetOp 接続だけです。

NetOp モデム通信では、通信の両端で同じタイプのモデムが必要です。使用できるモデムのタイプには、アナログ、非 CAPI ISDN、および ISDN (CAPI) があります。ISDN (CAPI) 通信では、[ISDN \(CAPI\)](#) 通信デバイスが使用されます。

5.2.4.1 シリアルの設定

接続するには、宛先コンピュータのモデムの電話番号を指定します。

ホストがヘルプ呼出を送信した場合、ゲストは有効なヘルプ サービス名で応答できるので、ゲストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウで [[ヘルプ リクエスト](#)] タブ を確認します。

リソース

デジタル電話接続を使用して通信するには、AT コマンド セットをサポートする ISDN モデムが両端でコンピュータに接続され、インストールされている必要があります。

アナログ電話接続を使用して通信するには、AT コマンド セットをサポートするアナログ モデムが両端でコンピュータに接続され、インストールされている必要があります。

5.2.4.2 シリアル通信プロファイルの編集

通信プロファイルの編集

通信情報

通信プロファイルの説明(P):

通信デバイス(U): Serial ダイヤルアップ ネットワークを使用する

シリアル(S)

モデム

Null モデム (直接接続)(D)

モデム名(N):

新しいモデム モデムの編集

通信ポート(C): Com 1

データレート(R): Default

フロー コントロール(F): Default

ダイヤルの種類(D): Tone

コールバックの前に待機: 10 秒 (1-999)

このウィンドウの上部セクションについては、[通信デバイス](#)で説明します。

[通信デバイス] ドロップダウン ボックスで [シリアル] を選択した場合に表示される [シリアル] セクションには、次の内容が表示されます。

モデム

Null モデム (直接接続)：このボックスには、ゲストのモデムとホストのモデムの間でヌルモデム ケーブル接続を使用する場合にのみチェックを付けます。

モデム名：[]：このドロップダウン ボックスのリストには、NetOp の[モデム データベース](#)に含まれているモデムが一覧表示されます。コンピュータに接続されているモデムの名前を一覧から検索して選択すると、ドロップダウン ボックスのフィールドにその名前が表示されます。モデムが一覧にない場合は、以下のオプションを順に使用します。

1. 最新の[モデム データベース](#)を NetOp [KnowledgeBase](#) からダウンロードすると、使用しているモデムが見つかることがあります。
2. [[Hayes 互換高速](#)] を選択します。

3. モデムのマニュアルを参照するか、モデムの製造元の Web サイトにアクセスして、使用しているモデムに必要なモデム コマンド ストリングを検索し、そのモデム ストリングを適用して新しいモデム設定を作成します。下記の「新しいモデム...」を参照してください。
4. NetOp の[サポート](#)にサポートを要請します。モデムの正確な名前を記入してください。できる限り早く問題を解決できるようにお答えします。

新しいモデム... : ドロップダウン リストでモデムを選択してこのボタンをクリックすると、[\[モデムの設定\]](#) ウィンドウが表示され、選択したモデムに基づいて[モデム データベース](#)にモデムの設定が作成されます。

モデムの編集... : ドロップダウン リストでモデムを選択してこのボタンをクリックすると、[\[モデムの設定\]](#) ウィンドウが表示され、モデムの設定を編集できます。このボタンが無効の場合は、選択したモデムの設定は編集できません。ただし、そのモデムの設定に基づいて新しいモデム設定を作成することは可能です。上記の「新しいモデム...」を参照してください。

設定

注意 : 選択したモデムの設定によっては、以下のオプションの一部しか有効にならないことがあります。無効になったオプションは編集できません。無効になっているオプションを変更する必要がある場合は、新しいモデムの設定を作成します。上記の「新しいモデム...」を参照してください。

通信ポート : `[]` : このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択されている通信ポートが表示されます (デフォルト : `[Com 1]`)。このドロップダウン ボックスのリストには、コンピュータ上のシリアル通信ポートの名前が表示されます。リストから名前を選択すると、それがフィールドに表示されます。

データ レート : `[]` : このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択したデータ レートが表示されます (デフォルト : `[デフォルト]`)。このドロップダウン ボックスのリストには、`[デフォルト]` および一般的に適用されるデータ レートが表示されます。リストでデータ レートを選択すると、それがフィールドに表示されます。`[デフォルト]` では、モデムのデフォルトのデータ レートが選択されます。使用しているモデムのデータ レートに対応しているデータ レートと、接続するモデムを選択します。

フロー コントロール : `[]` : このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択したフロー制御が表示されます (デフォルト : `[デフォルト]`)。このドロップダウン ボックスのリストには、モデムで使用できるフロー制御のオプションが表示されます。リストでフロー制御のオプションを選択すると、それがフィールドに表示されます。通常は、`[RTS/CTS]` (戻って送信 / クリアして送信) を選択します。

ダイヤルの種類 : `[]` : このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択したダイヤルの種類が表示されます (デフォルト : `[トーン]`)。このドロップダウン ボックスのリストには、`[トーン]` と `[パルス]` のオプションがあります。パルス ダイヤルのみを受け付ける旧式の電話交換器に接続している場合を除き、`[トーン]` を選択します。

コールバックの前に待機 : `[] 秒 (1-999)` : このフィールドには、コールバック前に待機する秒数を、指定された範囲で入力します。適用されると、受信側のモデムが有効になり、レディ状態に移行します (デフォルトは `[10]`)。

5.2.5 Windows モデム

Windows モデム通信デバイス (TAPI と呼ばれることがある) を使用すると、電話回線を経由するモデム通信や、直接ケーブル接続による通信 (ヌル モデム) が可能になります。これには、アナログ通信や非 CAPI ISDN 通信が含まれます。

注意 : Windows モデムは、ポイント ツー ポイント回線通信デバイスです。1 つの Windows モデムがサポートするのは、1 つの NetOp 接続だけです。

NetOp モデム通信では、通信の両端で同じタイプのモデムが必要です。使用できるモデムのタイプには、アナログ、非 CAPI ISDN、および ISDN (CAPI) があります。ISDN (CAPI) 通信では、[ISDN \(CAPI\)](#) 通信デバイスが使用されます。

設定

ユーザーが NetOp モジュールを初めて読み込んで、[セットアップ ウィザード](#)を実行すると、NetOp は Windows にインストールされているモデムを自動的に検出し、その通信プロファイルを [\[通信プロファイルのセットアップ\]](#) ウィンドウに保存します。

5.2 通信デバイス

追加の Windows モデムの通信プロファイルは、[\[Windows モデム通信プロファイルの編集\]](#) ウィンドウで作成できます。

Windows モデムは、TAPI (Telephony Application Programmer's Interface) を使用します。TAPI は、データ / ファックス / 音声通話を可能にするためにプログラム (Windows アプレットの HyperTerminal、ダイヤルアップ ネットワーク、ダイヤラ、その他の Win32 通信アプリケーションが含まれる) によって一般的に使用されます。

ただし、モデムによっては、Windows モデム 設定では NetOp 通信を正常に実行できない場合があります。NetOp サポートはそのような事例を把握しており、それらのモデムでも動作するシリアル通信プロファイルを開発しています。[シリアル通信プロファイルの編集](#)を参照してください。シリアル通信プロファイルの設定でも、基本的なモデム通信の設定とトラブルシューティングができます。

5.2.5.1 Windows モデムの設定

接続

接続するには、宛先コンピュータのモデムの電話番号を指定します。

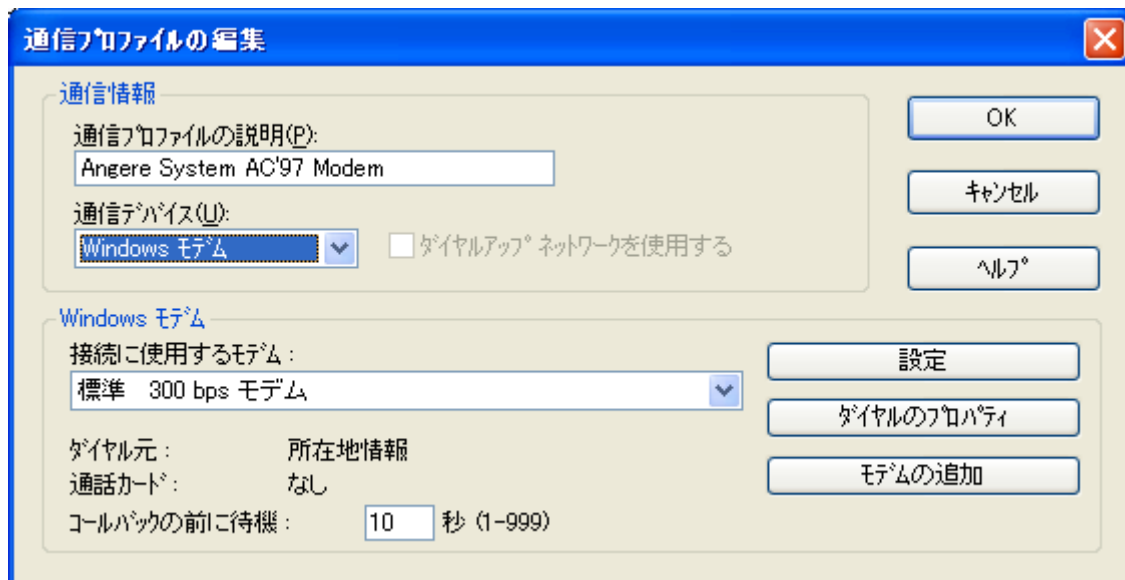
ホストがヘルプ呼出を送信した場合、ゲストは有効なヘルプ サービス名で応答できるので、ゲストの [\[プログラムのオプション\]](#) ウィンドウで [\[ヘルプ リクエスト\]](#) タブを確認します。

リソース

デジタル電話接続を使用して通信するには、AT コマンド セットをサポートする ISDN モデムが両端でコンピュータに接続され、インストールされている必要があります。

アナログ電話接続を使用して通信するには、AT コマンド セットをサポートするアナログ モデムが両端でコンピュータに接続され、インストールされている必要があります。

5.2.5.2 Windows モデム通信プロファイルの編集



このウィンドウの上部セクションについては、[通信デバイス](#)で説明します。

[\[通信デバイス\]](#) ドロップダウン ボックスで [\[Windows モデム\]](#) を選択した場合に表示される [\[Windows モデム\]](#) セクションには、次の内容が表示されます。

接続に使用するモデム: []: このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択したモデムが表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには、Windows で認識されるモデムの名前が一覧表示されます。この通信プロファイルで使用するモデムを選択し、必要に応じてその上の [\[通信プロファイルの説明\]](#) の名前を編集します。

通常は、これで Windows モデム通信プロファイルの設定は完了します。ただし、次のオプションも設定できます。

設定: このボタンをクリックすると、Windows の [\[<モデム名> 接続環境の設定\]](#) ウィンドウが表示され、接続の設定を編集できます。

ダイヤルのプロパティ:このボタンをクリックすると、Windows の [電話とモデムのオプション] ウィンドウの [ダイヤル情報] タブが表示され、地域を選択または指定できます。

モデムの追加:このボタンをクリックすると、Windows の [電話とモデムのオプション] ウィンドウが表示され、Windows モデムを追加できます。

ダイヤル元:と**通話カード:**Windows での選択が表示されます。

コールバックの前に待機:[] 秒 (1-999):このフィールドには、コールバック前に待機する秒数を、指定された範囲で入力します。適用されると、受信側のモデムが有効になり、レディ状態に移行します (デフォルトは [10])。

5.2.6 TCP/IP

TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol) は、ネットワーク通信プロトコルスイートです。このスイートには、他のプロトコルと共に、広く使用されているネットワークプロトコルである UDP (User Datagram Protocol) が含まれています。TCP/IP は、TCP/IP (UDP) で接続し、場合によってはセッション中に [TCP/IP \(TCP\)](#) で通信を行います。[TCP/IP の詳細設定](#)を参照してください。

注意: ネットワーク通信デバイスを使う通信プロファイルは、複数の NetOp 接続をサポートしています。

5.2.6.1 TCP/IP の設定

TCP/IP では、3 つの接続オプションが提供されています。

- ・ [IP アドレス](#)
- ・ [名前応答](#)
- ・ [名前解決](#)

IP アドレス

インターネットも含め、どの IP ネットワークであっても、IP アドレスを使えばゲストからホストへ接続できます。ゲストの送信ポート番号は、ホストの受信ポート番号と一致していなければなりません。[TCP/IP の詳細設定](#)を参照してください。

ネットワーク アドレス変換 (NAT) ファイアウォールかプロキシ サーバーで保護されているネットワークの外からネットワーク コンピュータの NetOp モジュールに接続する場合は、ファイアウォールかプロキシ サーバーの公開 IP アドレスと、ネットワーク コンピュータに割り当てられたポート番号 (例えば 192.168.20.51:1234) を指定します。特定のネットワーク コンピュータに割り当てられたポート番号については、ファイアウォールかプロキシ サーバーの管理者に問い合わせてください。

名前応答

名前応答は、名前、名前の最初の文字、または名前なしをネットワーク上でブロードキャストし、対応する有効な名前を持つ NetOp モジュールが応答することを要求します。次の名前の検索オプションを使用できます。

- ・ ゲストがホスト名限定子 *H::* を使用して名前前で接続または参照する場合、ゲストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウで [[ホスト名](#)] タブを確認します。ホストは有効な NetOp ネームのタイプ名で応答するので、ホストの[タブ パネル](#)の [[名前](#)] タブを確認します。
- ・ ゲストがホスト名限定子 *U::* を使用して名前前で接続または参照する場合、ゲストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウで [[ホスト名](#)] タブを確認します。ホストは有効な LAN ユーザーのタイプ名で応答するので、ホストの[タブ パネル](#)の [[名前](#)] タブを確認します。
- ・ ホストがヘルプ呼出を送信した場合、ゲストは有効なヘルプ サービス名で応答できるので、ゲストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウで [[ヘルプ リクエスト](#)] タブを確認します。

注意: TCP/IP ブロードキャストが達するのは、ローカルネットワークのセグメント上にあるコンピュータと、IP アドレスまたは DNS 名が通信プロファイルの [IP ブロードキャスト リスト](#) で指定されているコンピュータだけです。

名前解決

名前解決は、指定の名前に対応する IP アドレスに解決します。次の名前解決オプションを使用できます。

5.2 通信デバイス

- NetOp ネーム サーバーの使用を [[TCP/IP の詳細設定](#)] ウィンドウで指定し、接続先の NetOp モジュールが使用する ネーム スペース ID を [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウの [[ホスト名](#)] タブで指定します。ホストがゲストにヘルプ サービス名を要求できるよう、有効な接続先モジュール名のどれかで接続し、ゲストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウで [[ヘルプ リクエスト](#)] タブを確認します。NetOp ネーム サーバーは、対応する IP アドレスに名前を解決するので、その名前でインターネットを含めたどの IP ネットワークにも接続できます。「[ホストを参照する:](#)」も可能になります。
- ゲストがホスト名限定子 `DNS::` を使用して名前で接続する場合、ゲストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウで [[ホスト名](#)] タブを確認します。ドメイン ネーム サーバーはその名前を DNS 名であると解釈して対応する IP アドレスに解決するため、ゲストはその名前でインターネットを含めたどの IP ネットワークにも接続できます。

注意: ほとんどの場合、ホスト名限定子 `H::` を使用すると、ドメイン ネーム サーバーは名前を DNS 名であると解釈し、対応する IP アドレスに解決しようとします。

- ゲストがホスト名限定子 `LDAP::` を使用して名前で接続する場合、ゲストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウで [[ホスト名](#)] タブを確認します。ゲストは、ゲストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウの [[ディレクトリ サービス](#)] タブで指定されているディレクトリ サービスでこの名前のユーザーを検索し、対応するアドレス属性 (通常は IP アドレス) で接続します。「[ホストを参照する:](#)」も可能になります。

通信の障害

通信の障害が発生した場合は、まずコマンド プロンプトで次のように入力して、IP 接続が使用可能かどうかを確認します。

PING <呼び出された NetOp モジュールの IP アドレス>

PING ユーティリティは、4 つのパケットを送信して応答を要求します。応答を受信した場合、IP 接続は利用可能な状態にあります。

IP 接続が利用できるが接続に問題がある場合は、ネットワーク / システム管理者に問い合わせてください。最後の手段として、サポート リクエストを NetOp [サポート](#) に送付できます。

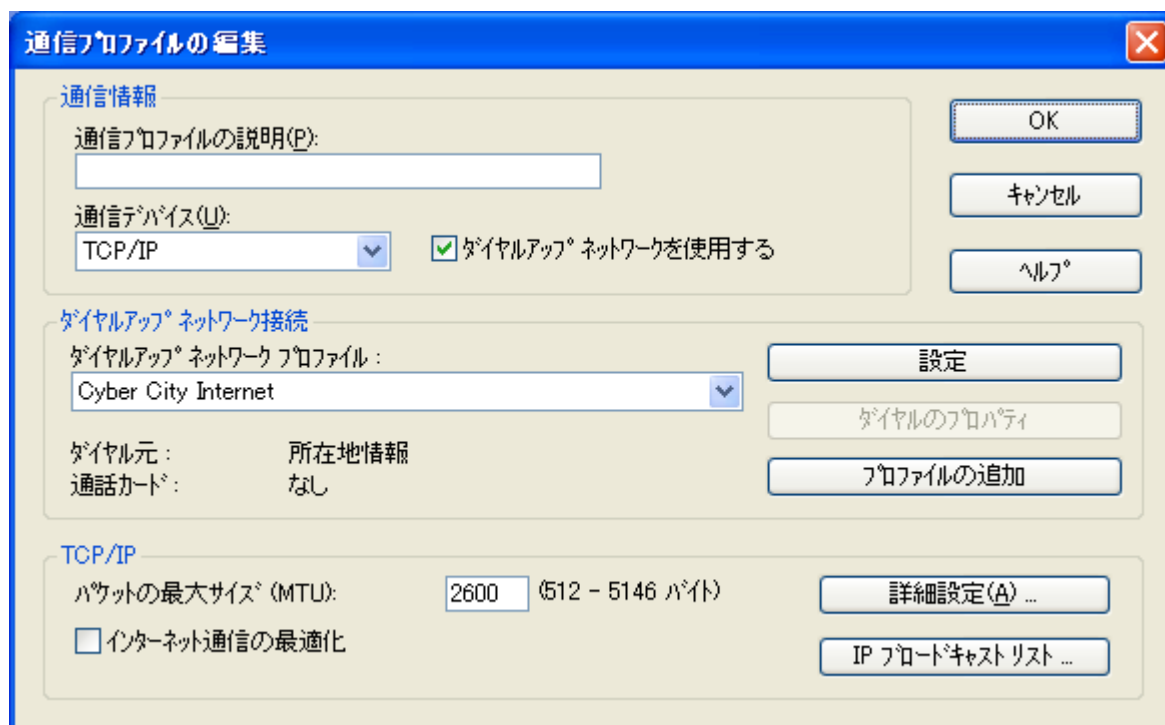
リソース

TCP/IP は、通信の送受信にポートをそれぞれ 1 つ使用します。

デフォルトでは、NetOp Remote Control は送受信にポート番号 6502 を使用します。

特別な場合には他のポート番号を使用できますが、ゲストの送信ポート番号とホストの受信ポート番号は常に一致していなければなりません。また、ホストの送信ポート番号とゲストの受信ポート番号も常に一致していなければなりません。

5.2.6.2 TCP/IP 通信プロファイルの編集



このウィンドウの上部セクションについては、[通信デバイス](#)で説明します。

[通信デバイス] ドロップダウン ボックスで [TCP/IP] が選択されている場合は、[TCP/IP] セクションが表示されます。

[ダイヤルアップ ネットワークを使用する] ボックスにチェックが付けられている場合は、[ダイヤルアップ ネットワーク接続] セクションが表示されます。

ダイヤルアップ ネットワーク接続

ダイヤルアップ ネットワーク プロファイル: []: このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択したプロファイルが表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには、利用可能なプロファイルの名前が表示されます。リストでプロファイルを選択すると、そのプロファイルがフィールドに表示されます。ネットワークへの接続には、このダイヤルアップ ネットワーク プロファイルが使用されます。

ダイヤル元、通話カード: 選択したダイヤルアップ ネットワーク プロファイルのダイヤルのプロパティが表示されます。

設定: このボタンをクリックすると、Windows の [ダイヤルアップ接続] ウィンドウが表示され、ダイヤルアップ接続を設定できます。

ダイヤルのプロパティ: このボタンをクリックすると、Windows の [電話とモデムのオプション] ウィンドウが表示され、選択したダイヤルアップ ネットワーク プロファイルのダイヤルのプロパティを編集できます。

プロファイルの追加: このボタンをクリックすると、Windows の [ネットワーク接続ウィザード] が表示され、ダイヤルアップ ネットワーク プロファイルを追加できます。

TCP/IP

パケットの最大サイズ (MTU): [] (512 ~ 5146 バイト): このフィールドには、パケットの最大サイズを指定します (範囲: 512 ~ 5146、デフォルト: [2600])。

注意: MTU を大きくすると通信速度が向上し、MTU を低くすると通信障害を解決できることがあります。

[] **インターネット通信の最適化:** このボックスにチェックを付けると、インターネット通信に最適化された設定 (MTU やデータ圧縮など) が適用されます。

詳細設定...: このボタンをクリックすると、[TCP/IP の詳細設定] ウィンドウが表示されます。

5.2 通信デバイス

IP ブロードキャスト リスト... : このボタンをクリックすると、[\[IP ブロードキャスト リスト\]](#) ウィンドウが表示されます。

5.2.6.2.1 TCP/IP の詳細設定

[\[TCP/IP 通信プロファイルの編集\]](#) ウィンドウの [\[TCP/IP\]](#) セクションで [\[詳細設定...\]](#) をクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

IP アドレスの指定

すべての使用可能な IP アドレスを使用する : このボックスにチェックを付けたままにすると、使用可能なすべての IP アドレスが使用されます (デフォルトではチェック付き)。コンピュータが複数の IP アドレスでネットワークに接続され、しかも NetOp 通信用に 1 つの IP アドレスしか使用しない場合は、このボックスのチェックを外して [\[IP アドレス:\]](#) フィールドを有効にします。

[IP アドレス:\]](#) : このフィールドには、NetOp 通信用に使用される IP アドレスを指定します。

ポート番号の指定

既定のポート番号を使用する : このボックスにチェックを付けたままにすると、[\[受信ポート\]](#) と [\[送信ポート\]](#) の両方で NetOp のデフォルト ポート番号 6502 が使用されます (デフォルトではチェック付き)。

注意 : NetOp Remote Control には、ポート番号 1970 が公式に登録されています。ただし、NetOp の古いバージョンとの互換性を保つため、デフォルトのポート番号 6502 が優先的に設定されます。

受信ポート : [\[既定のポート番号を使用する\]](#) ボックスにチェックを付けた場合、6502 が表示されます。チェックを外した場合、指定のポート番号を示すフィールドに 6502 がデフォルトで表示されます。デフォルト以外の [\[受信ポート\]](#) 番号を指定するには、1025 ~ 65535 の範囲で番号を編集します。

送信ポート : [\[既定のポート番号を使用する\]](#) ボックスにチェックを付けた場合、6502 が表示されます。チェックを外した場合、指定のポート番号を示すフィールドに 6502 がデフォルトで表示されます。デフォルト以外の [\[送信ポート\]](#) 番号を指定するには、1025 ~ 65535 の範囲で番号を編集します。

注意： ゲストの [送信ポート] 番号とホストの [受信ポート] の番号は、一致していなければなりません。また、ホストがヘルプ呼び出しを行う場合は、ホストの [送信ポート] とゲストの [受信ポート] の番号が一致していなければなりません。

【オプション】セクション

可能であればセッションで TCP を使用する： [TCP/IP](#) で接続し、ゲストおよびホストで高速のセッション通信が行える場合に [TCP/IP \(TCP\)](#) を利用するには、このボックスにチェックを付けたままにします (デフォルトではチェック付き)。

NetOp ネーム サーバー

NetOp ネーム サーバーの使用： このボックスにチェックを付けると、NetOp で使用された名前を IP アドレス に解決するために NetOp ネーム サーバーが使用されます (デフォルトではチェックなし)。

注意： NetOp ネーム サーバーを使用すると、インターネットを含む大規模なネットワークで TCP/IP による接続が容易になります。[マニュアル](#) の *NetOp* ネーム管理セクションを参照してください。

プライマリ： []: このフィールドは、インターネット上の公式なプライマリ NetOp ネーム サーバーのデフォルト名である *nns1.netop.com* のままにするか、企業ネットワークで動作しているプライマリ NetOp ネーム サーバーの IP アドレスか DNS 名を指定します。

セカンダリ： []: このフィールドは、インターネット上の公式なセカンダリ NetOp ネーム サーバーのデフォルト名である *nns2.netop.dk* のままにするか、企業ネットワークで動作しているセカンダリ NetOp ネーム サーバーの IP アドレスか DNS 名を指定します。

ネーム サーバーからのポート情報を無視する： このボックスにチェックを付けると、NetOp ネーム サーバーから受信した接続ポート番号が、下で指定するポート番号に置き換えられます (デフォルトではチェック付き)。

注意： 一部のタイプのファイアウォールでは、接続行為からネットワーク上のコンピュータを保護するために、コンピュータのポート番号を無効なポート番号に置き換えます。この場合、NetOp ネーム サーバーは無効な接続ポート番号を受信し、保存し、戻します。これらの番号は、有効な接続ポート番号に置き換えなければなりません。

使用するポート： []: このフィールドには、NetOp ネーム サーバーから受信した接続ポート番号と置き換えるポート番号を指定します (デフォルトでは 6502)。

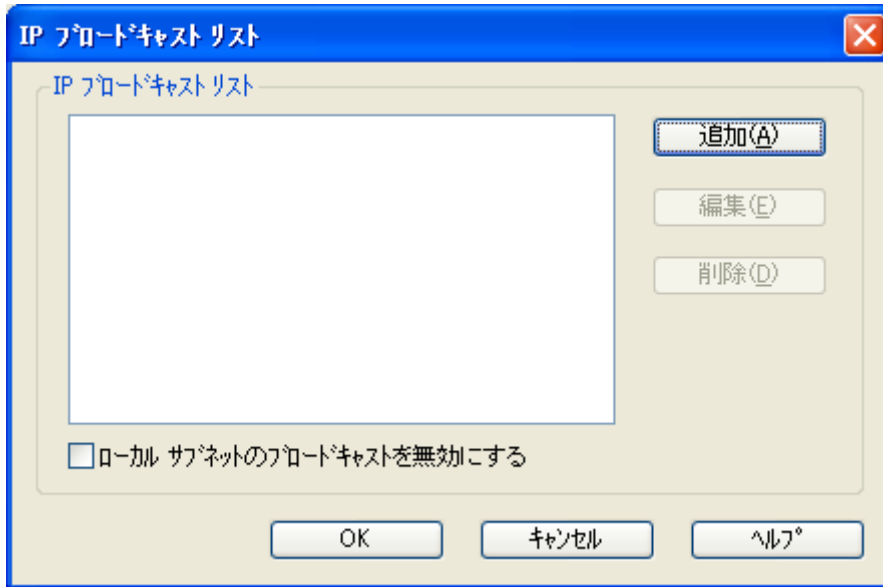
注意： 適切なネーム スペース ID をゲストおよびホストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウの [[ホスト名](#)] タブ に指定しなければなりません。

5.2.6.2.2 IP ブロードキャスト リスト

[[TCP/IP 通信プロファイルの編集](#)] ウィンドウの [[TCP/IP](#)] セクションで [[IP ブロードキャストリスト...](#)] をクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

5.2 通信デバイス

IP ブロードキャスト リスト

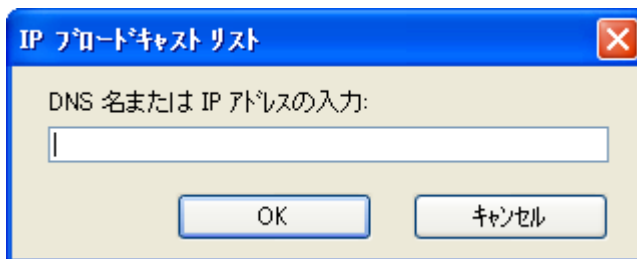


[TCP/IP](#) を使用してホストとホストのヘルプ呼出を参照するゲストがブロードキャストする通信は、デフォルトではローカル ネットワーク セグメント上にあるコンピュータにしか達しません。ブロードキャストがローカル ネットワーク セグメントを超えるようにするには、通信プロファイルから表示できるこのウィンドウで、ブロードキャストが到達する IP アドレス、IP アドレス範囲、および DNS 名を指定します。

注意： NetOp ネーム サーバーを使用する場合、[IP ブロードキャスト リスト] は必要ありません。

追加： このボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。

IP ブロードキャスト リストの入力



DNS 名または IP アドレスの入力： []: このフィールドには、IP アドレス（例えば 192.168.102.57）、IP アドレス範囲（例えば 192.168.102.20-192.168.102.30）、または DNS 名（例えば MAIL_SVR）を指定します。指定した値は、[[IP ブロードキャスト リスト](#)] ウィンドウのペインに追加されます。

警告： IP アドレス範囲を指定すると、それぞれのブロードキャストによって範囲内の IP アドレスの数と同じ数のデータ パケットが送信されます。過度のネットワーク トラフィックを避けるため、妥当と思われる以上の IP アドレス範囲を指定しないでください。

編集： このペインで IP アドレス、IP アドレス範囲、または DNS 名を選択してこのボタンをクリックすると、[[IP ブロードキャスト リストの入力](#)] ウィンドウに表示され、編集できます。

削除： このペインで IP アドレス、IP アドレス範囲、または DNS 名を選択してこのボタンをクリックすると、選択内容が削除されます。

ローカル サブネットのブロードキャストを無効にする： このボックスにチェックを付けるとローカル ネットワーク セグメントへのブロードキャストが無効になり、ペイン内で指定したアドレスだけにデータをブロードキャストできます。

5.2.7 TCP/IP (TCP)

TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol) は、ネットワーク通信プロトコルスイートです。このスイートには、広く使用されているポイント ツー ポイント プロトコルである TCP (Transmission Control Protocol) が、多数の他のプロトコルと共に含まれています。

注意： TCP/IP (TCP) は、ポイント ツー ポイントのネットワーク通信デバイスです。TCP/IP (TCP) を使用する各通信プロファイルは、1 つの NetOp 接続しかサポートしません。ただし、複数の TCP/IP (TCP) 通信プロファイルを有効にできます。

5.2.7.1 TCP/IP (TCP) の設定

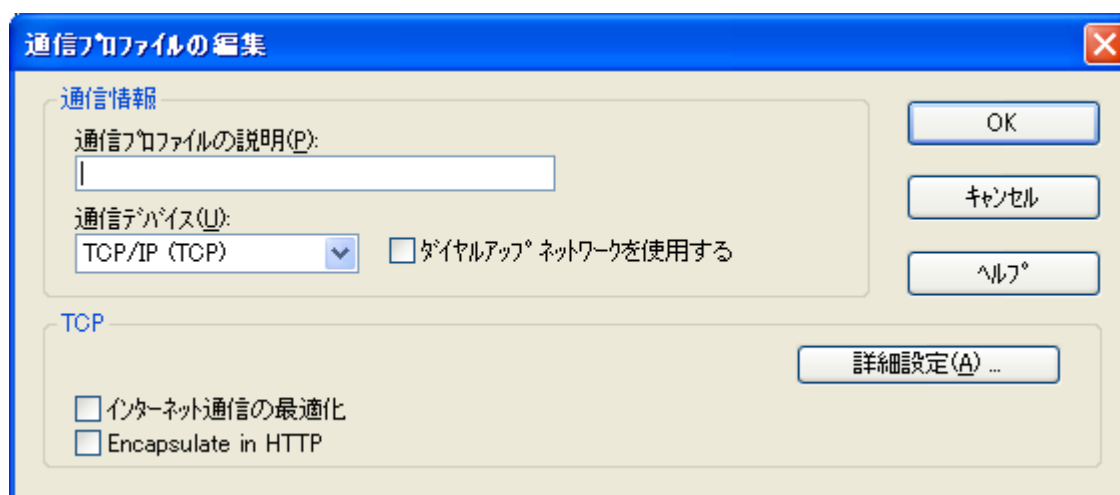
接続するには、宛先コンピュータの IP アドレスを指定します。

ネットワーク アドレス変換 (NAT) ファイアウォールかプロキシ サーバーで保護されているネットワークの外からネットワーク コンピュータの NetOp モジュールに接続する場合は、ファイアウォールかプロキシ サーバーの公開 IP アドレスと、ネットワーク コンピュータに割り当てられたポート番号 (例えば 192.168.20.51:1234) を指定します。特定のネットワーク コンピュータに割り当てられたポート番号については、ファイアウォールかプロキシ サーバーの管理者に問い合わせてください。

ホストがヘルプ呼出を送信した場合、ゲストは有効なヘルプ サービス名で応答できるので、ゲストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウで [[ヘルプ リクエスト](#)] タブ を確認します。

その他の TCP/IP (TCP) の設定は、[TCP/IP](#) の設定と同じです。

5.2.7.2 TCP/IP (TCP) 通信プロファイルの編集



このウィンドウの上部セクションについては、[通信デバイス](#)で説明します。

ダイヤルアップ ネットワークを使用する : このボックスにチェックを付けると、ウィンドウに [[ダイヤルアップ ネットワーク接続](#)] セクションが追加されます。[TCP/IP 通信プロファイルの編集](#)を参照してください (デフォルトではチェックなし)。

[[通信デバイス](#)] ドロップダウン ボックスで [[TCP/IP \(TCP\)](#)] を選択した場合に表示される [[TCP](#)] セクションには、次の内容が表示されます。

インターネット通信の最適化 : このボックスにチェックを付けると、インターネット通信に最適化された設定 (MTU やデータ圧縮など) が適用されます (デフォルトではチェックなし)。

Encapsulate in HTTP : このボックスにチェックを付けると、NetOp セッション データが HTTP プロトコルで包まれ、ファイアウォールを容易に通過させることができます (デフォルトではチェックなし)。これは、HTTP トンネリングとも呼ばれます。

詳細設定... : このボタンをクリックすると、[TCP/IP の詳細設定](#) ウィンドウが表示されます。ここにはオプションのセクションがなく、NetOp ネーム サーバーのセクションは選択できません。

5.2 通信デバイス

注意： 同じ IP アドレスおよびポート番号を [TCP/IP の詳細設定] ウィンドウに指定している複数の TCP/IP (TCP) および TCP/IP の通信プロファイルを有効にすることができます。しかし、[通信プロファイルの説明] フィールドに指定している各通信プロファイルの名前は一意でなければなりません。

TCP/IP (TCP) セッションを開始する際、Winsock は利用できる受信ポート番号をデフォルトで割り当て、NetOp がリスニング用に指定している受信ポート番号にバインドしません。

セッション通信を NetOp が指定する受信ポート番号にバインドするには、この [NETOP.INI](#) ファイルにある [TCP] セクションに、次の設定を行います。

[TCP]

BindToRecvPort=True

5.2.8 TCP/IP (TCP IPv6)

TCP/IP (Transmission Control Protocol/Internet Protocol) は、ネットワーク通信プロトコルスイートです。このスイートには、最近導入された 128 ビット IP アドレス向けのポイントツーポイント プロトコルである TCP IPv6 (Transmission Control Protocol for Internet Protocol version 6) が、多数の他のプロトコルと共に含まれています。

注意： TCP/IP (TCP IPv6) は、ポイントツーポイントのネットワーク通信デバイスです。TCP/IP (TCP IPv6) を使用する各通信プロファイルは、1 つの NetOp 接続しかサポートしません。ただし、複数の TCP/IP (TCP IPv6) 通信プロファイルを有効にできます。

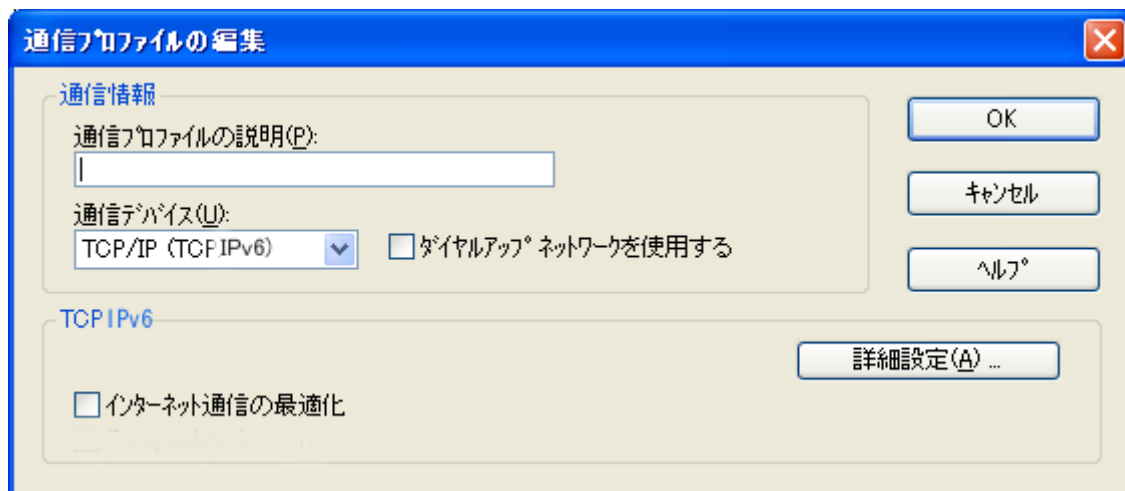
TCP/IP (TCP IPv6) は、IPv6 ネットワークに所属するコンピュータ間でしか適用できません。

5.2.8.1 TCP/IP (TCP IPv6) の設定

接続するには、宛先コンピュータの IPv6 アドレスを指定します。

ホストがヘルプ呼出を送信した場合、ゲストは有効なヘルプ サービス名で応答できます。[ヘルプリクエスト] タブ を参照してください。

5.2.8.2 TCP/IP (TCP IPv6) 通信プロファイルの編集



このウィンドウの上部セクションについては、[通信デバイス](#)で説明します。

ダイヤルアップ ネットワークを使用する：このボックスにチェックを付けると、ウィンドウに [ダイヤルアップ ネットワーク接続] セクションが追加されます。[TCP/IP 通信プロファイルの編集](#)を参照してください (デフォルトではチェックなし)。

[通信デバイス] ドロップダウン ボックスで [TCP/IP (TCP IPv6)] を選択した場合に表示される [TCP IPv6] セクションには、次の内容が表示されます。

インターネット通信の最適化：このボックスにチェックを付けると、インターネット通信用に最適化された設定 (MTU やデータ圧縮など) が適用されます。

詳細設定... : このボタンをクリックすると、[TCP/IP の詳細設定] ウィンドウが表示されます。ここにはオプションのセクションがなく、NetOp ネーム サーバーのセクションは選択できません。

注意： 同じ IPv6 アドレスおよびポート番号を [TCP/IP の詳細設定] ウィンドウに指定している複数の TCP/IP (TCP IPv6) 通信プロファイルを有効にすることができます。しかし、[通信プロファイルの説明] フィールドに指定している各通信プロファイルの名前は一意でなければなりません。

5.2.9 ゲートウェイ

ゲートウェイは、ネットワーク NetOp モジュールがローカル ネットワーク NetOp ゲートウェイ経由で接続することを可能にする NetOp 専用の通信デバイスです。

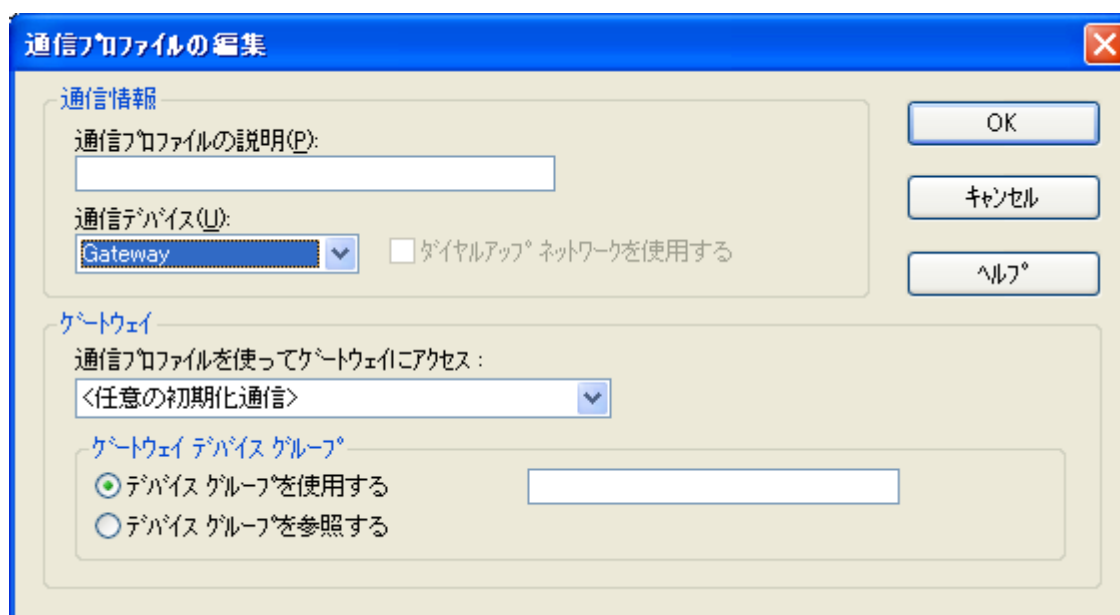
5.2.9.1 ゲートウェイの設定

接続するには、接続先となるローカル ネットワーク NetOp ゲートウェイが使用する通信デバイスに基づいて 宛先 NetOp モジュールを識別します。

リソース

ゲートウェイを使用するには、少なくとも 1 つの発信通信が有効になっている NetOp ゲートウェイがローカル ネットワーク上で動作していなければなりません。マニュアルの NetOp ゲートウェイセクションを参照してください。

5.2.9.2 ゲートウェイ通信プロファイルの編集



このウィンドウの上部セクションについては、[通信デバイス](#)で説明します。

[通信デバイス] ドロップダウン ボックスで [ゲートウェイ] を選択した場合に表示される [ゲートウェイ] セクションには、次の内容が表示されます。

通信プロファイルを使ってゲートウェイにアクセス： []: このドロップダウン ボックスのフィールドには、ローカル ネットワーク NetOp ゲートウェイに接続する通信プロファイルの名前が表示されます (デフォルト：<任意の初期化通信>)。ドロップダウン ボックスのリストには、<任意の初期化通信>、使用可能なネットワーク通信プロファイル、およびターミナル サーバーが表示されます。リストから通信プロファイルを選択すると、その通信プロファイルがフィールドにセットされます。

<任意の初期化通信> を選択すると、有効になったすべてのネットワーク通信プロファイルを使用して、NetOp ゲートウェイ デバイス グループがローカル ネットワークで参照されます。別の通信プロファイルを選択すると、有効にする必要がないその通信プロファイルだけを使用して参照が行われます。NetOp モジュールがターミナル サーバーのクライアントにある場合にのみ、ターミナル サーバーを選択します。

ゲートウェイ デバイス グループ

ゲートウェイ デバイス グループは、ローカル ネットワーク上の NetOp ゲートウェイで使用可能な発信ポイント ツー ポイント通信の管理者指定名です。

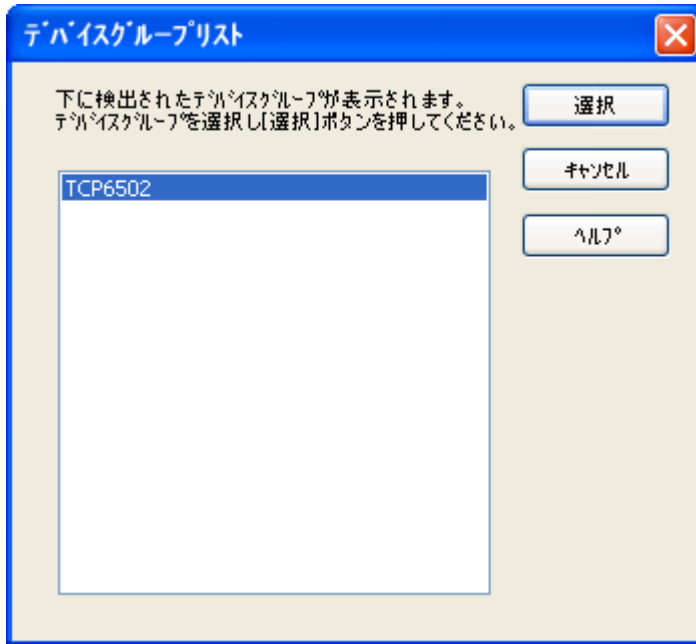
5.2 通信デバイス

次のどちらかのオプションを選択します。

- デバイス グループを使用する：[:]: このオプションを選択すると、デバイス グループ名がフィールドに指定されます（デフォルト）。
- デバイス グループを参照する： このオプションを選択すると、接続時に [[ゲートウェイ デバイス グループ リスト](#)] ウィンドウが表示されます。

5.2.9.2.1 ゲートウェイ デバイス グループ リスト

[[デバイス グループを参照する](#)] オプションが [[ゲートウェイ通信プロファイルの編集](#)] ウィンドウで選択されている[ゲートウェイ](#)通信プロファイルで接続する場合、次のウィンドウが表示されます。



このペインには、ローカル ネットワーク上のゲートウェイ デバイス グループが表示されます。

選択：ペインでデバイス グループを選択して、このボタンをクリックすると、選択したデバイスグループで接続できます。

5.2.10 赤外線 (IrDA)

赤外線 (IrDA) は、赤外線で通信する 2 台のコンピュータ上の NetOp モジュール間での通信を可能にする NetOp の専用通信デバイスです。

注意：赤外線 (IrDA) は、1 つの NetOp 接続しかサポートしないポイント ツー ポイント通信デバイスです。

設定

Windows Server 2003、XP、2000、ME、および 98 は、赤外線データ協会 (IrDA) のプロトコルと標準に従って赤外線通信をサポートします。赤外線通信は、Windows で設定します。

5.2.10.1 赤外線 (IrDA) の設定

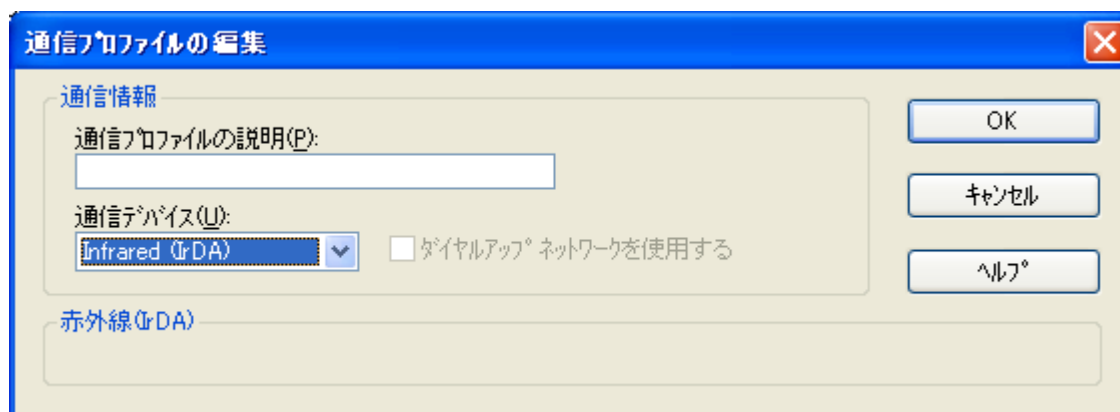
接続する際に、接続先を指定してはいけません。

ホストがヘルプ呼出を送信した場合、ゲストは有効なヘルプ サービス名で応答できるので、ゲストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウで [[ヘルプ リクエスト](#)] タブを確認します。

リソース

互いの送信機を到達範囲内に置き、赤外線通信を確立してください。

5.2.10.2 赤外線 (IrDA) 通信プロファイルの編集



このウィンドウの上部セクションについては、[通信デバイス](#)で説明します。

[通信デバイス:] ドロップダウン ボックスで [赤外線 (IrDA)] を選択したときに表示される [赤外線 (IrDA)] セクションには何も表示されません。赤外線 (IrDA) 通信デバイスには、設定オプションはありません。

5.2.11 ターミナル サーバー

ターミナル サーバーは、ターミナル サーバー上で動作している NetOp モジュールがお互いに通信することを可能にする NetOp 専用の通信デバイスです。

注意: ターミナル サーバーは、複数の NetOp 接続をサポートする通信デバイスのネットワークタイプです。ターミナル サーバーは、ターミナル サーバー上にインストールされた NetOp モジュールでのみ使用できます。

5.2.11.1 ターミナル サーバーの設定

接続するには、まず通信プロファイルを選択します。

- ターミナル サーバー環境で NetOp モジュールと通信するには、ターミナル サーバー通信プロファイルを選択します。
- ターミナル サーバー コンソール上の NetOp ゲートウェイを通じて、ターミナル サーバー ネットワーク上のコンピュータにある NetOp モジュールと通信するネットワークと通信を確立するには、ターミナル サーバー通信プロファイルを有効にし、[初期化された任意の通信](#)を選択して、コンソールの NetOp ゲートウェイが有効なネットワーク通信プロファイルを経由するようにします。
- ポイント ツー ポイント通信を使用して、ターミナル サーバー コンソール上で動作している NetOp ゲートウェイ経由でターミナル サーバー環境外にある NetOp モジュールと通信するには、ターミナル サーバー通信プロファイルを有効にして[ゲートウェイ](#)通信プロファイルを選択します。

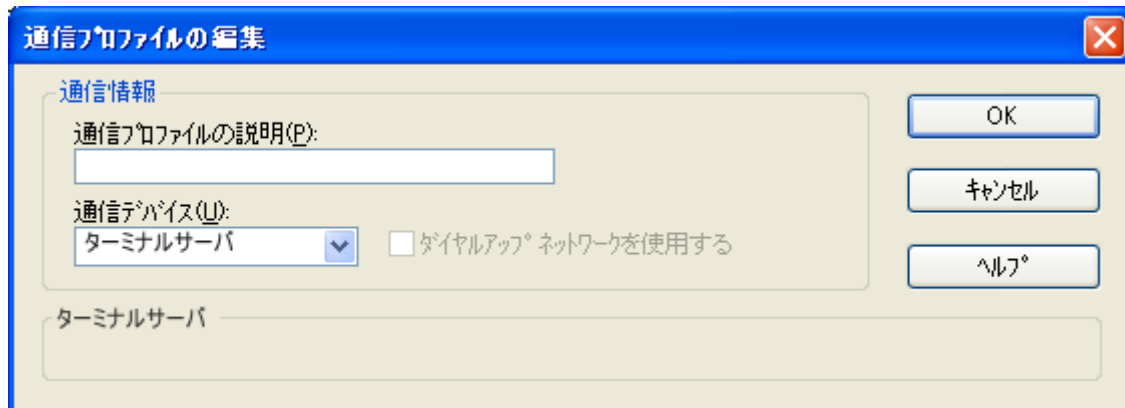
次に、[ゲートウェイ](#)通信プロファイルが選択されている場合、接続先モジュールが応答できる名前、および / または電話番号か IP アドレスを指定します。

- ゲストがホスト名限定子 *H::* を使用して接続または参照する場合、ゲストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウで [[ホスト名](#)] タブを確認します。ホストは有効な NetOp ネームのタイプ名および MAC アドレスのタイプ名で応答するので、ホストの[タブ パネル](#)の [[名前](#)] タブを確認します。
- ゲストがホスト名限定子 *U::* を使用して接続または参照する場合、ゲストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウで [[ホスト名](#)] タブを確認します。ホストは有効な LAN ユーザーのタイプ名で応答するので、ホストの[タブ パネル](#)の [[名前](#)] タブを確認します。
- ホストがヘルプ呼出を送信した場合、ゲストは有効なヘルプ サービス名で応答できるので、ゲストの [[プログラムのオプション](#)] ウィンドウで [[ヘルプ リクエスト](#)] タブを確認します。
- [ゲートウェイ](#)通信プロファイルが選択されている場合、接続先モジュールまたはリモート NetOp ゲートウェイのコンピュータの電話番号か IP アドレスを指定します。

5.3 モデム データベースとモデム ダイアログ

注意：ターミナル サーバー環境外から、ターミナル サーバー クライアント セッションで実行されている NetOp モジュールに接続するには、ターミナル サーバー コンソール上で動作している NetOp ゲートウェイ経由で接続します。

5.2.11.2 ターミナル サーバー通信プロファイルの編集



このウィンドウの上部セクションについては、[通信デバイス](#)で説明します。

[通信デバイス:] ドロップダウン ボックスで [ターミナル サーバー] を選択したときに表示される [ターミナル サーバー] セクションには何も表示されません。ターミナル サーバー通信デバイスには、設定オプションはありません。

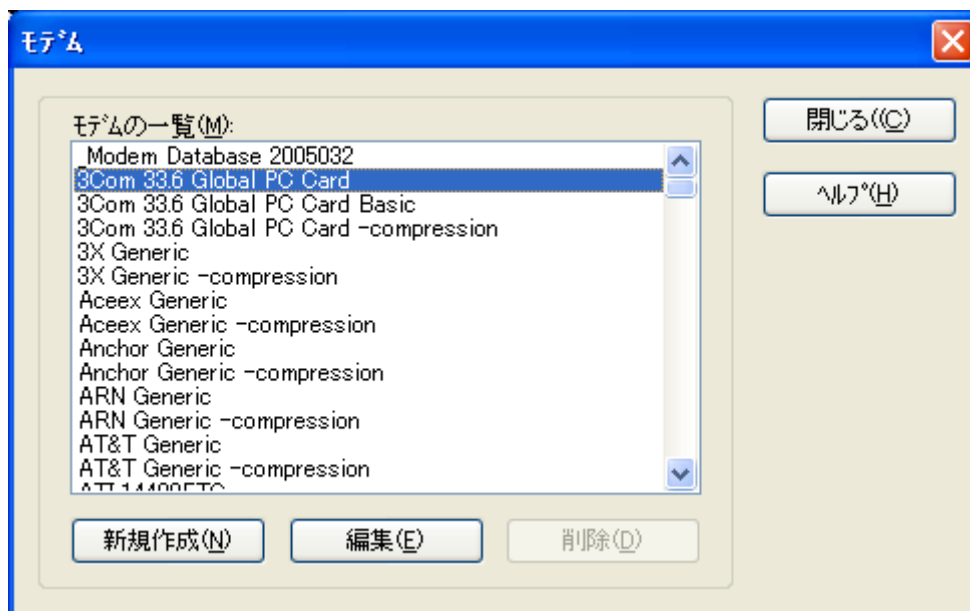
5.3 モデム データベースとモデム ダイアログ

この節では、[シリアル](#)通信デバイスに関連付けられる[モデム データベース](#)と[モデム ダイアログ](#)について説明します。

5.3.1 モデム データベース

[ツール] メニューの [モデム データベース] コマンドを選択すると次のウィンドウが表示されます。

モデム



このウィンドウでは、モデム データベースの[シリアル](#) モデム設定が行えます。

注意：モデム データベースは、[NetOp の設定ファイル](#)の `modems.ndb` というファイルに保存され、このファイルは通常、`C:\Documents and Settings\ユーザー名\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\モジュール名` というディレクトリに置かれます。

このペインの先頭にある `_Modem Database YYYYDDD` というレコードは、モデム データベースが更新された年と日付を示します。最新の入手可能な更新は、NetOp の [KnowledgeBase](#) にある `Download Updates` (更新をダウンロード) からダウンロードし、インストールできます。

注意： `modems.ndb` をダウンロードしてインストールすると、現在の `modems.ndb` が上書きされます。

新規作成： このボタンをクリックすると、新しいモデム設定を作成するための [\[モデムの設定\]](#) ウィンドウが表示されます。既存のモデム設定に基づいて新しいモデム設定を作成する場合は、このボタンをクリックする前に既存のレコードを選択します。

編集： ペインでレコードを選択してこのボタンをクリックすると、[\[モデムの設定\]](#) ウィンドウが表示され、選択したレコードのモデム設定を編集できます。

削除： レコードを選択してこのボタンをクリックすると、レコードが削除されます。選択したレコードが削除できない場合、このボタンは無効になります。

5.3.1.1 モデムの設定

[\[モデム\]](#) ウィンドウで、[\[新規\]](#) または [\[編集\]](#) をクリックすると次のウィンドウが表示されます。

このウィンドウでは、[モデム データベース](#)のモデム設定の作成や編集が行えます。

注意： 無効になっているフィールドの内容は、編集できません。モデム設定を作成すると、すべてのフィールドが有効になります。

名前： `[]`: モデム設定の作成をする場合、このフィールドは空白になります。このフィールドには、編集したモデム設定の名前が表示されます。必要に応じて名前を指定するか編集します。

モデム コマンド スtring

これらのフィールドには、モデムの AT コマンド スtringを指定します。使用しているモデムに必要な AT コマンド スtringを探すには、モデムのマニュアルまたはモデムの製造元の Web サイトで調べます。

5.4 NetOp ログ

最大データ レート

このドロップダウン ボックスのフィールドには、選択した最大データ レートか、デフォルト値が表示されます。ドロップダウン ボックスのリストには、一般的なデータ レートが含まれています。使用しているモデムのデータ レートに適用可能なデータ レートと、接続するモデムを選択します。

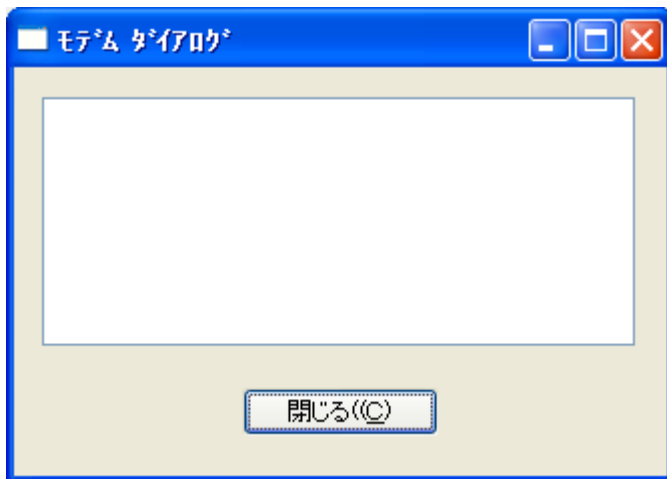
設定

RTS/CTS フロー制御 : 通常、RTS/CTS (Return To Send/Clear To Send) のフロー制御を使うには、このチェックボックスは選択しておきます (デフォルトではチェックなし)。

キャリア信号を無視する : 通常、このボックスにチェックマークは付けません (デフォルトではチェックなし)。

5.3.2 モデム ダイアログ

[\[表示\]](#) [メニュー](#)の [\[モデム ダイアログ\]](#) コマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。



[シリアル](#) モデムの接続中や切断中に、このウィンドウのペインには、モデムの送信 (>>) および受信 (<<) の通信状態が表示されます。この情報により、モデムの接続障害の診断ができます。

5.4 NetOp ログ

いずれの NetOp モジュールも、指定の NetOp イベントをログできます。NetOp イベントは、以下にログできます。

- コンピュータのローカル NetOp ログ。
- NetOp セキュリティ サーバーの *NetOp* ログ、または古いバージョンの NetOp アクセス サーバーか NetOp ログ サーバー。
- このコンピュータと別のコンピュータの Windows イベント ログ。
- 管理情報システム。

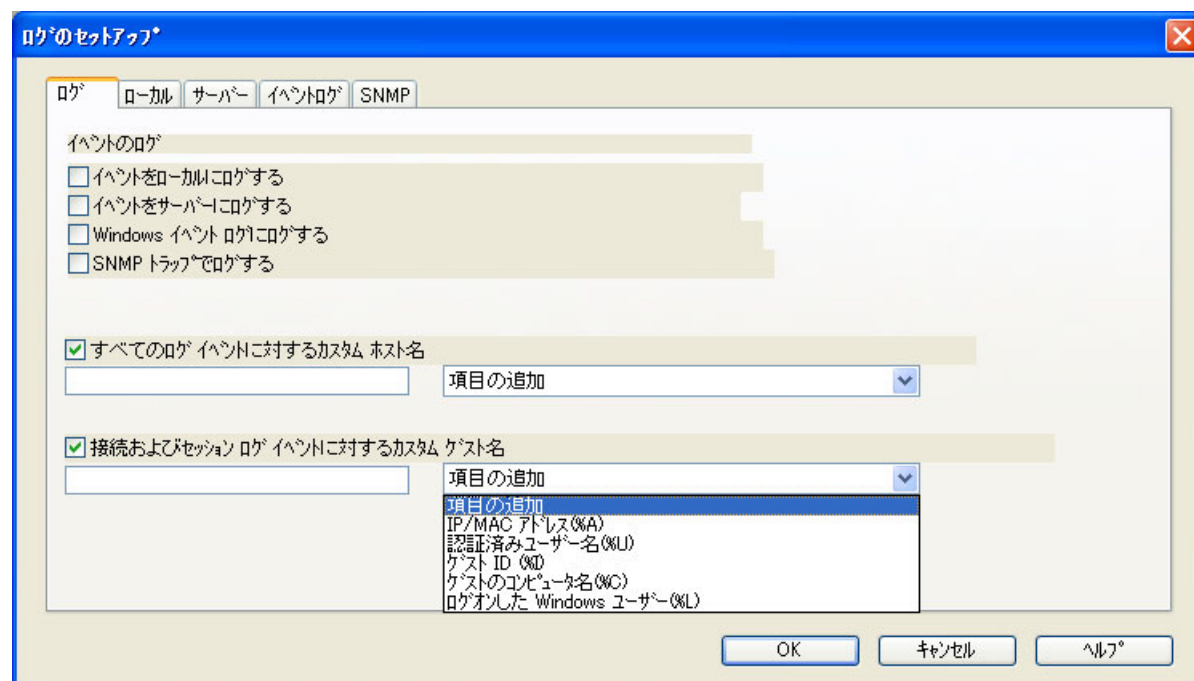
このセクションには以下のトピックがあります。

- [ログのセットアップ](#)
- [ローカル NetOp ログ](#)
- [NetOp ログ イベント](#)

5.4.1 ログのセットアップ

[\[ツール\] メニュー](#)の [\[ログのセットアップ\]](#) コマンドを選択すると、次のウィンドウが表示されます。

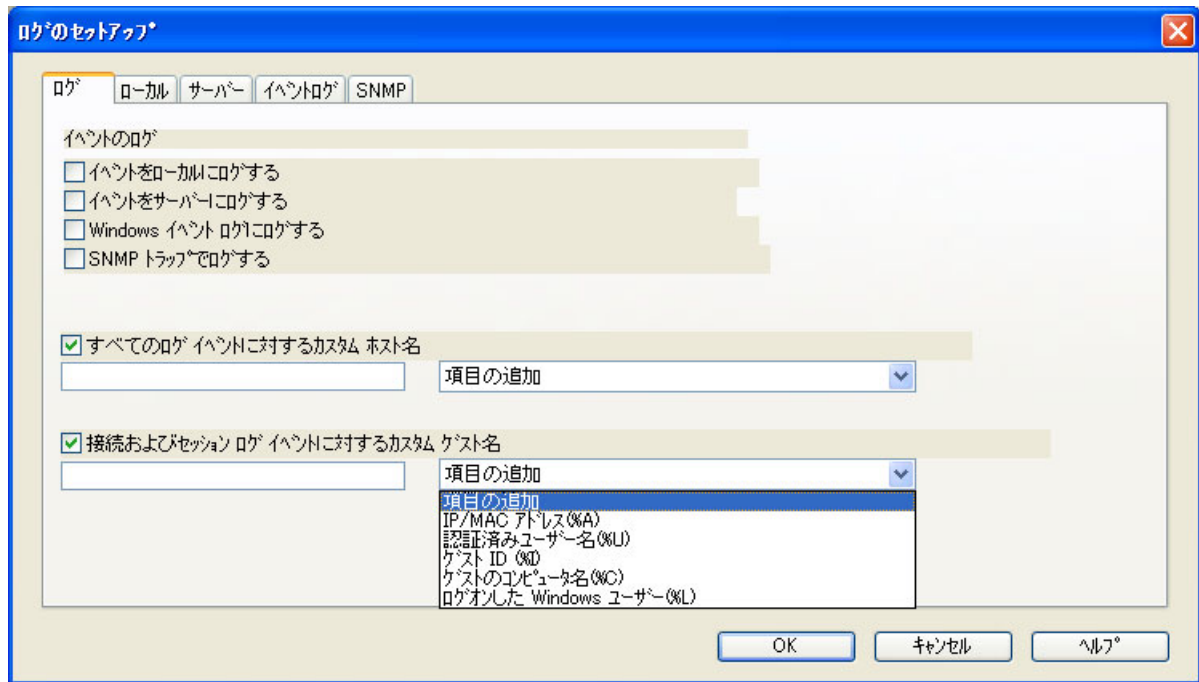
ログのセットアップ



このウィンドウでは、NetOp ログのセットアップを次のタブで指定します。

- [\[ログ\] タブ](#)
- [\[NetOp ローカル\] タブ](#)
- [\[NetOp サーバー\] タブ](#)
- [\[Windows イベント ログ\] タブ](#)
- [\[SNMP\] タブ](#)

5.4.1.1 [ログ] タブ



このタブでは、ログのオプションを指定します。

イベントのログ

- イベントをローカルにログする：このボックスにチェックを付けると、NetOp イベントがコンピュータ上のログ ファイルにログされます（デフォルトではチェックなし）。
- イベントをサーバーにログする：このボックスにチェックを付けると、NetOp イベントが NetOp セキュリティ サーバーか、古いバージョンの NetOp アクセス サーバーか、NetOp ログ サーバーの NetOp ログにログされます（デフォルトではチェックなし）。
- Windows イベント ログにログする：このボックスにチェックを付けると、NetOp イベントがこのコンピュータおよび / または別の Windows Server 2003/XP/2000/NT コンピュータの Windows イベント ログにログされます（デフォルトではチェックなし）。
- SNMP トラップでログする：このボックスにチェックを付けると、SNMP メッセージを管理情報システムに送信することによって NetOp イベントがログされます（デフォルトではチェックなし）。

NetOp セキュリティ サーバーには、さらに次のチェックボックスが追加されます。

- ログ サーバーとして動作する：このボックスにチェックを付けたままにすると、別の NetOp モジュールの NetOp イベントをセキュリティ データベースの NetOp ログにログできます（デフォルトではチェック付き）。

NetOp ホストと拡張ホストには、さらに次のチェックボックス、フィールド、ドロップダウンボックスが追加されます。

- すべてのログ イベントに対するカスタム ホスト名：このボックスにチェックを付けると、その下にあるフィールドとドロップダウン ボックスが有効になり、カスタマイズしたホスト名でログ イベントを識別できます（デフォルトではチェックなし）。左のフィールドには、カスタマイズされたホスト名（右にあるドロップダウン ボックスのコンポーネントとキーボードから入力する文字で構成）を指定します。次のコンポーネントが使用できます。

- %A：IP/MAC アドレス
- %I：ホスト ID
- %C：コンピュータ名
- %L：Windows ログオン ユーザー名

コンポーネントを右のドロップダウン ボックスの一覧から選択すると、それが左のフィールドに追加されます。

接続およびセッション ログ イベントに対するカスタム ゲスト名: このボックスにチェックを付けると、その下にあるフィールドとドロップダウン ボックスが有効になり、[接続]と[セッション] ログ イベントで指定したゲストをカスタマイズした名前で見分けることができます。左のフィールドには、カスタマイズされたゲスト名（右にあるドロップダウン ボックスのコンポーネントとキーボードから入力する文字で構成）を指定します。次のコンポーネントが使用できます。

- %A: IP/MAC アドレス
- %U: 認証済みユーザー名
- %I: ゲスト ID
- %C: ゲストのコンピュータ名
- %L: ログオンした Windows ユーザー名

コンポーネントを右のドロップダウン ボックスの一覧から選択すると、それが左のフィールドに追加されます。

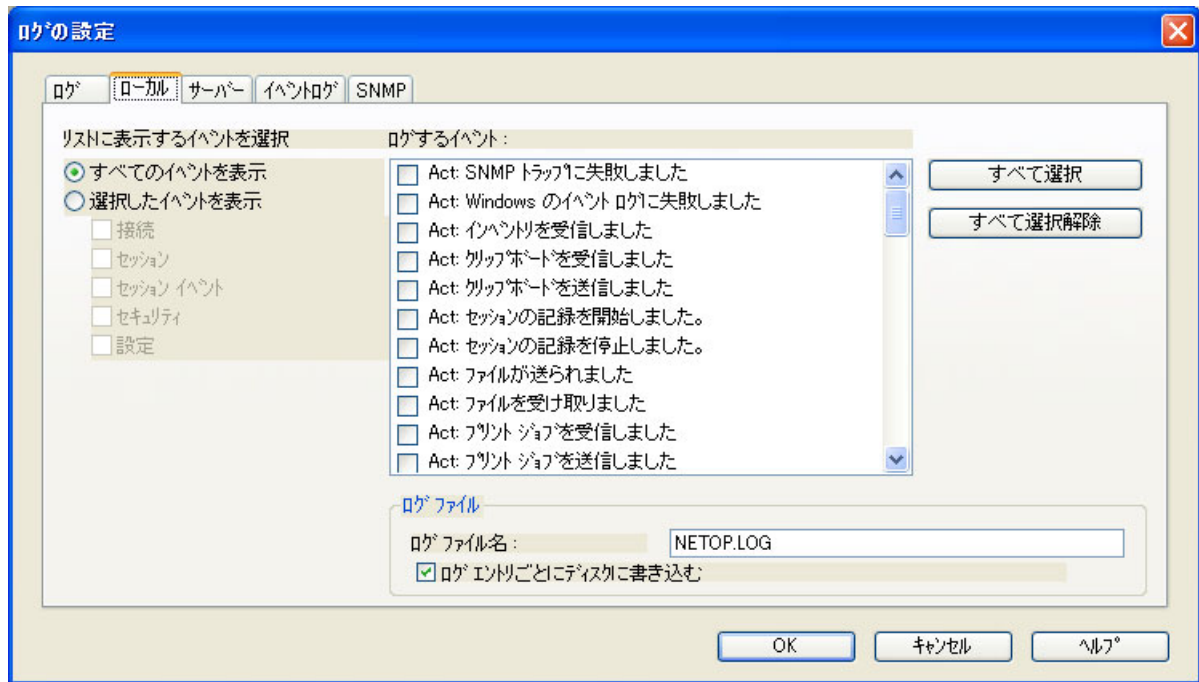
次に示すのは、カスタム ホストおよびゲスト名のローカル NetOp ログです。

```
20031103,14:10,Host1+User1,0,00000,00000,HCON      +,
20031103,14:10,Host1+User1,1,00000,00000,HSES      +,User2@192.168.1.2
20031103,14:10,Host1+User1,2,00000,00000,HSESRC    +,User2@192.168.1.2
20031103,14:10,Host1+User1,3,00000,00000,HSESFXFER+,User2@192.168.1.2
20031103,14:10,Host1+User1,4,00000,00000,HSESCHAT +,User2@192.168.1.2
20031103,14:10,Host1+User1,5,00000,00000,HSESAUDIO+,User2@192.168.1.2
20031103,14:10,Host1+User1,6,00000,00000,HSESAUDIO-,User2@192.168.1.2
20031103,14:10,Host1+User1,7,00000,00000,HSESCHAT -,User2@192.168.1.2
20031103,14:11,Host1+User1,8,00000,00000,HSESFXFER-,User2@192.168.1.2
20031103,14:11,Host1+User1,9,00000,00000,HSESRC   -,User2@192.168.1.2
20031103,14:11,Host1+User1,10,00000,00000,HSES    -,User2@192.168.1.2
```

ホスト名は、%C+%L としてカスタマイズされています。ゲスト名は、%U+%A としてカスタマイズされています。

ホストが起動され、またゲストによってリモート コントロール セッション、ファイル転送セッション、チャット セッション、およびオーディオ チャット セッションが開始されています。また、その逆の順番でセッションが終了されています。

5.4.1.2 [NetOp ローカル] タブ



このタブでは、ログする NetOp イベントを選択し、ローカルの NetOp ログ ファイルを指定します。

リストに表示するイベントを選択

次のオプションのいずれかを選択すると、チェックボックスが付けられたイベント名が右側の [ログするイベント] ペイン内に表示されます。

- すべてのイベントを表示**：使用可能なすべてのイベントが表示されます（デフォルト）。
- 選択したイベントを表示**：次のオプションが有効になります。
 - 接続**：このボックスにチェックを付けると、使用可能な接続イベントが表示されます。
 - セッション**：このボックスにチェックを付けると、使用可能なセッション イベントが表示されます。
 - セッション イベント**：このボックスにチェックを付けると、使用可能なアクション イベントが表示されます。
 - セキュリティ**：このボックスにチェックを付けると、使用可能なセキュリティ イベントが表示されます。
 - 設定**：このボックスにチェックを付けると、使用可能な設定イベントが表示されます。

ログするイベント：[]：このペインには、左側で選択したタイプのイベントの名前がチェックボックス付きで表示されます。これらのボックスにチェックを付けると、イベントのログ記録が選択されます（デフォルトではすべてチェックなし）。

すべて選択：このボタンをクリックすると、[ログするイベント] ペインに表示されているすべてのボックスにチェックが付けられます。

すべて選択解除：このボタンをクリックすると、[ログするイベント] ペインに表示されているすべてのボックスのチェックが外されます。

注意：NetOp ログ イベント コードと引数については、[NetOp ログ イベント](#)の表を参照してください。

ログ ファイル

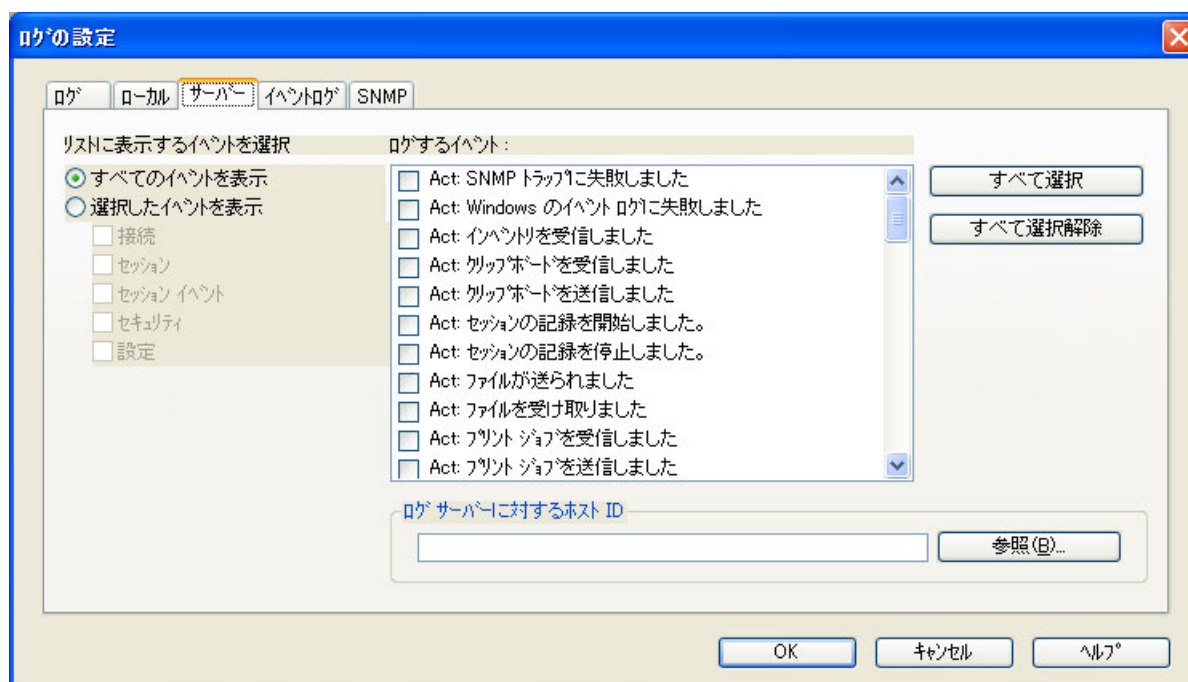
注意：このセクションは、[\[ログ\] タブ](#)で「ローカルにログする」が選択されている場合にのみ有効になります。

ログ ファイル名：[]：このフィールドでは、ログ ファイルの（パスおよび）名前が表示されます（デフォルトでは *NETOP.LOG*）。パスを指定しない場合、ログ ファイルは [NetOp の設定ファイル](#) ディレクトリに保存され、これは通常、*C:\Documents and Settings\ユーザー名\Application Data\Danware Data\NetOp Remote Control\モジュール名*に置かれます。

ログ エントリごとにディスクに書き込む：このボックスにチェックを付けたままにすると、各 NetOp イベントが即時にローカル NetOp ログ ファイルに書き込まれます（デフォルトではチェック付き）。このボックスのチェックを外すと、NetOp モジュールがアンロードされた時点で、NetOp イベントがローカル NetOp ログ ファイルに書き込まれ、プロセッサへの負荷が軽減されます。

注意：NetOp モジュールを読み込んだときに作成される新しいローカル NetOp ログ ファイルによって、同じパスとファイル名を持つ古いローカル NetOp ログ ファイルが上書きされます。

5.4.1.3 [NetOp サーバー] タブ



このタブでは、ログする NetOp イベントを選択し、ログ サーバーのホスト ID を指定します。

リストに表示するイベントを選択

次のオプションのいずれかを選択すると、チェックボックスが付けられたイベント名が右側の「ログするイベント」ペイン内に表示されます。

- すべてのイベントを表示：** 使用可能なすべてのイベントが表示されます（デフォルト）。
- 選択したイベントを表示：** 次のオプションが有効になります。
 - 接続：** このボックスにチェックを付けると、使用可能な接続イベントが表示されます。
 - セッション：** このボックスにチェックを付けると、使用可能なセッション イベントが表示されます。
 - セッション イベント：** このボックスにチェックを付けると、使用可能なアクション イベントが表示されます。
 - セキュリティ：** このボックスにチェックを付けると、使用可能なセキュリティ イベントが表示されます。

5.4 NetOp ログ

設定 : このボックスにチェックを付けると、使用可能な設定イベントが表示されます。

ログするイベント : [] : このペインには、左側で選択したタイプのイベントの名前がチェックボックス付きで表示されます。これらのボックスにチェックを付けると、イベントのログ記録が選択されます (デフォルトではすべてチェックなし)。

すべて選択 : このボタンをクリックすると、[ログするイベント] ペインに表示されているすべてのボックスにチェックが付けられます。

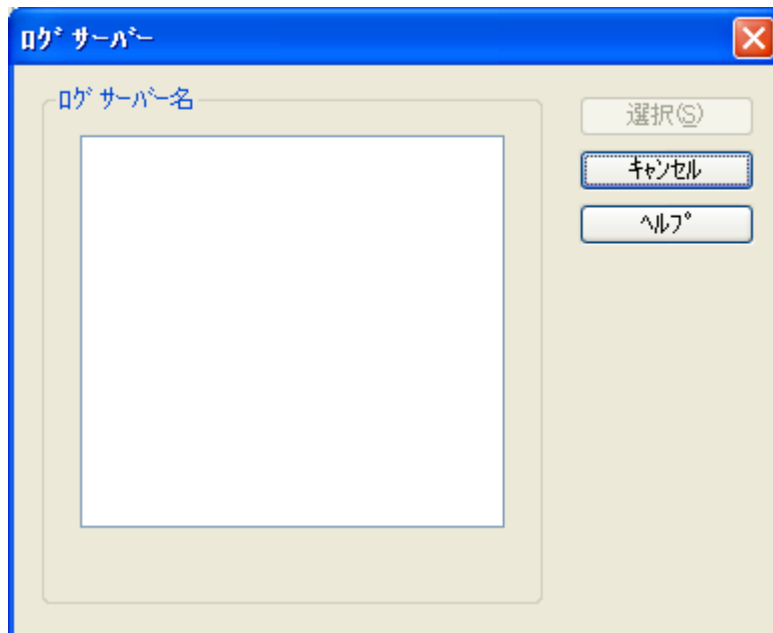
すべて選択解除 : このボタンをクリックすると、[ログするイベント] ペインに表示されているすべてのボックスのチェックが外されます。

注意 : NetOp ログ イベント コードと引数については、[NetOp ログ イベント](#)の表を参照してください。

ログ サーバーのホスト ID

注意 : このセクションは、[\[ログ\] タブ](#)で [\[イベントをサーバーにログする\]](#) が選択されている場合にのみ有効になります。

このフィールドでイベントのログ用に選択した NetOp サーバーのホスト ID を指定するか、[\[参照...\]](#) をクリックすると、使用可能な ログ NetOp サーバーがネットワークで参照され、その結果が次のウィンドウに表示されます。

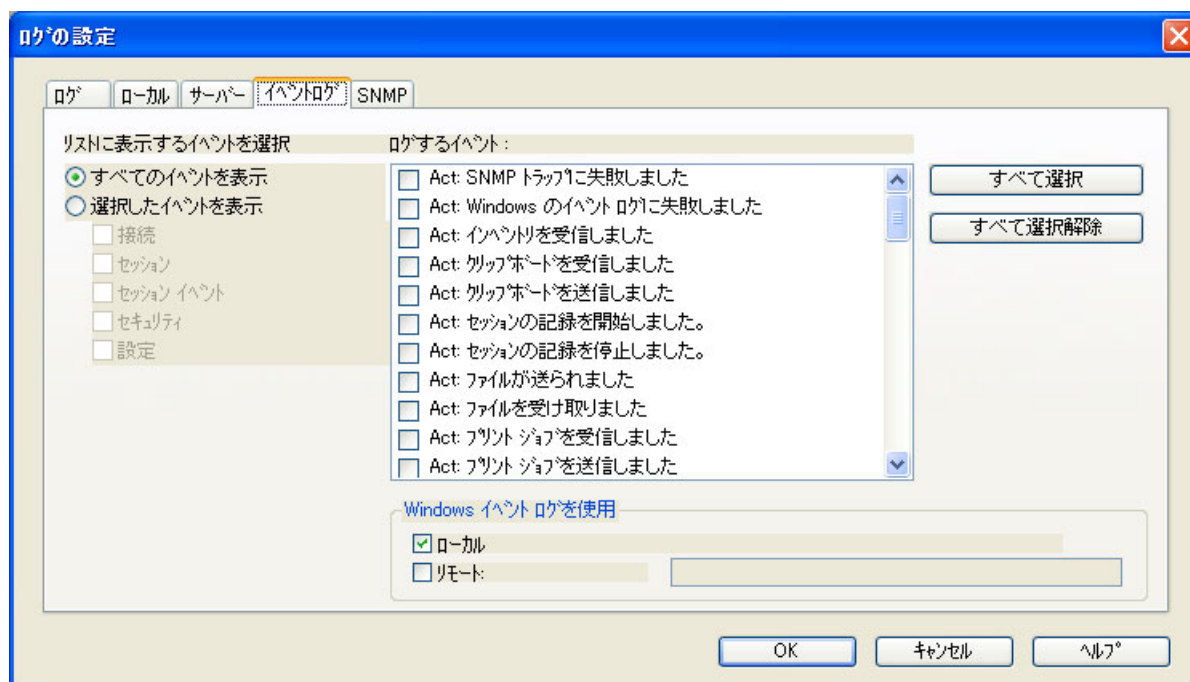


このペインには、応答する ログ NetOp サーバーのホスト ID が表示されます。

選択 : ペインでホスト ID を選択してこのボタンをクリックすると、そのホスト ID がフィールドに表示されます。

注意 : ホストか拡張ホスト上で [\[ゲスト アクセス セキュリティ\]](#) オプションの [\[NetOp セキュリティ サーバーの使用\]](#) が選択されている場合、指定したセキュリティ サーバー グループのセキュリティ データベースの NetOp ログでログするには、[\[ログ サーバーのホスト ID\]](#) フィールドを空白のままにしておきます。

5.4.1.4 [Windows イベント ログ] タブ



このタブでは、ログする NetOp イベントを選択し、Windows のイベント ログを指定します。

リストに表示するイベントを選択

次のオプションのいずれかを選択すると、チェックボックスが付けられたイベント名が右側の [ログするイベント] ペイン内に表示されます。

- すべてのイベントを表示**：使用可能なすべてのイベントが表示されます (デフォルト)。
- 選択したイベントを表示**：次のオプションが有効になります。
 - 接続**：このボックスにチェックを付けると、使用可能な接続イベントが表示されます。
 - セッション**：このボックスにチェックを付けると、使用可能なセッション イベントが表示されます。
 - セッション イベント**：このボックスにチェックを付けると、使用可能なアクション イベントが表示されます。
 - セキュリティ**：このボックスにチェックを付けると、使用可能なセキュリティ イベントが表示されます。
 - 設定**：このボックスにチェックを付けると、使用可能な設定イベントが表示されます。

ログするイベント：[]：このペインには、左側で選択したタイプのイベントの名前がチェックボックス付きで表示されます。これらのボックスにチェックを付けると、イベントのログ記録が選択されます (デフォルトではすべてチェックなし)。

すべて選択：このボタンをクリックすると、[ログするイベント] ペインに表示されているすべてのボックスにチェックが付けられます。

すべて選択解除：このボタンをクリックすると、[ログするイベント] ペインに表示されているすべてのボックスのチェックが外されます。

注意：NetOp ログ イベント コードと引数については、[NetOp ログ イベント](#)の表を参照してください。

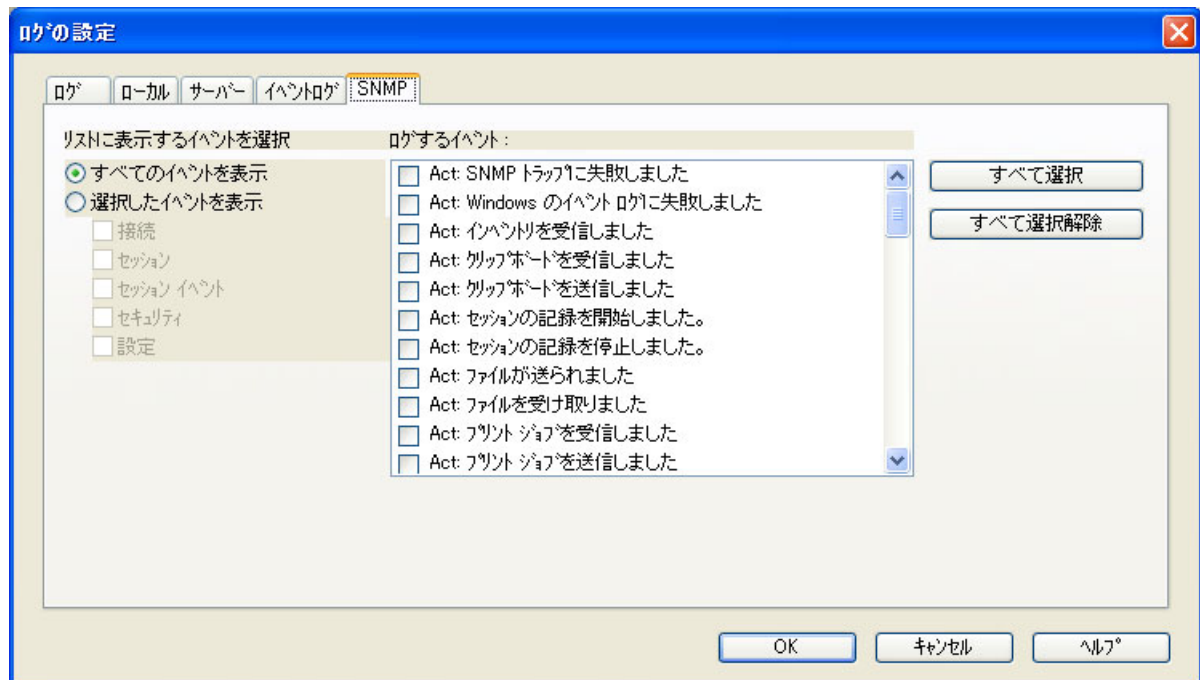
Windows イベント ログを使用

注意： このセクションは、[\[ログ\] タブ](#)で *[Windows イベント ログにログする]* が選択されている場合にのみ有効になります。

ローカル： このボックスにチェックを付けたままにすると、NetOp イベントがコンピュータの Windows イベント ログにログされます (デフォルトではチェック付き)。

リモート： *[]*: このボックスにチェックを付けると、NetOp イベントがリモートの Windows Server 2003/XP/2000/NT コンピュータの Windows イベント ログにログされます (デフォルトではチェックなし)。このフィールドには、リモート コンピュータの Windows 名を指定します。

5.4.1.5 [SNMP] タブ



このタブでは、管理情報システムにログする NetOp イベントを選択します。

リストに表示するイベントを選択

次のオプションのいずれかを選択すると、チェックボックスが付けられたイベント名が右側の *[ログするイベント]* ペイン内に表示されます。

- すべてのイベントを表示：** 使用可能なすべてのイベントが表示されます (デフォルト)。
- 選択したイベントを表示：** 次のオプションが有効になります。
 - 接続：** このボックスにチェックを付けると、使用可能な接続イベントが表示されます。
 - セッション：** このボックスにチェックを付けると、使用可能なセッション イベントが表示されます。
 - セッション イベント：** このボックスにチェックを付けると、使用可能なアクション イベントが表示されます。
 - セキュリティ：** このボックスにチェックを付けると、使用可能なセキュリティ イベントが表示されます。
 - 設定：** このボックスにチェックを付けると、使用可能な設定イベントが表示されます。

ログするイベント： *[]*: このペインには、左側で選択したタイプのイベントの名前がチェックボックス付きで表示されます。これらのボックスにチェックを付けると、イベントのログ記録が選択されます (デフォルトではすべてチェックなし)。

すべて選択：このボタンをクリックすると、[ログするイベント] ペインに表示されているすべてのボックスにチェックが付けられます。

すべて選択解除：このボタンをクリックすると、[ログするイベント] ペインに表示されているすべてのボックスのチェックが外されます。

注意：NetOp ログ イベント コードと引数については、[NetOp ログ イベント](#)の表を参照してください。

[ログのセットアップ] タブで [SNMP トラップでログする] にチェックが付けられている場合は、選択された NetOp イベントが発生するたびに SNMP (Simple Network Management Protocol) メッセージが送信されます。NetOp SNMP イベントは、NetOp モジュールをインストールしたディレクトリにある *Danware.mib* ファイルで定義されています。

5.4.2 ローカル NetOp ログ

ローカル NetOp ログ ファイルはプレイン テキスト ファイルで、各行に NetOp イベントが記録されています。

イベントは時系列で並んでいます。ゲスト ログから取った次の例は、典型的なログの内容を示しています。

```
20011009,15:41,Guest1,0,00000,00000,GACTCOMPR+,TCP/IP
20011009,15:41,Guest1,1,00000,00000,GCONCALL ,192.168.1.3
20011009,15:41,Guest1,2,00000,00000,GSESFYFER+,
20011009,15:42,Guest1,3,00000,00000,*ACTFILE -,C:\test.txt
20011009,15:42,Guest1,4,00000,00000,GSESFYFER-,
20011009,15:42,Guest1,5,00000,00000,GSESRC -,
20011009,15:42,Guest1,6,00000,00000,GCONHNGUP ,192.168.1.3
20011009,15:42,Guest1,7,00000,00000,GACTCOMPR-,
```

注意：NetOp ログ イベント コードと引数については、[NetOp ログ イベント](#)の表を参照してください。

各行には、日付、時刻、NetOp モジュール名、イベント番号、エラー コード 1、エラー コード 2、イベント コード、および引数の情報が含まれています。

注意：エラー コードは現在導入されていないので、常に 00000 になります。

上のログ ファイルは、次のイベントを記録しています。

2001 年 10 月 9 日の 15 時 41 分に、ゲスト Guest1 が通信プロファイル TCP/IP を有効にした。名前 192.168.1.3 でホストに接続した。

ファイル転送セッションを開始した。

ファイル *C:\test.txt* を送信した。

以降については、各自で判断してください。

5.4 NetOp ログ

5.4.3 NetOp ログ イベント

この節では、NetOp イベントを次のセクション別に表に表示します。

[ゲストの NetOp ログ イベント](#)

[ホストおよび拡張ホストの NetOp ログ イベント](#)

5.4.3.1 ゲストの NetOp ログ イベント

次の NetOp イベントは、ゲストからログできます。

接続

イベント名	イベントコード	引数
接続： ホスト呼出	GCONCALL	ホスト名
接続： ホスト切断	GCONHNGUP	ホスト名
接続： 接続切断	*CONLOST	ホスト名
接続： ユーザー認証済み	GCONUSER	(なし)

セッション

イベント名	イベントコード	引数
セッション： リモート コントロール開始	GSESRC +	ホスト名
セッション： リモート コントロール停止	GSESRC -	ホスト名
セッション： ファイル転送開始	GSEFXFER+	(なし)
セッション： ファイル転送停止	GSEFXFER-	(なし)
セッション： チャット開始	GSECHAT +	(なし)
セッション： チャット停止	GSECHAT -	(なし)
セッション： オーディオ開始	GSESAUDIO+	(なし)
セッション： オーディオ停止	GSESAUDIO-	(なし)
セッション： リモート管理開始	GSESRM +	ホスト名
セッション： リモート管理停止	GSESRM -	ホスト名

アクション

イベント名	イベントコード	引数
アクション： ヘルプ サービス起動	GACTHLPSV+	(なし)
アクション： ヘルプ サービス停止	GACTHLPSV-	(なし)
アクション： ヘルプ呼出受信	GACTHLPRQ+	ホスト名
アクション： ヘルプ呼出取消	GACTHLPRQ-	ホスト名
アクション： ファイル受信	*ACTFILE +	ファイル パスと名前
アクション： ファイル送信	*ACTFILE -	ファイル パスと名前
アクション： ホスト再起動	*ACTBOOT	ホスト名
アクション： セッション記録開始	GACTREC +	記録ファイルのパスと名前
アクション： セッション記録停止	GACTREC -	記録ファイルのパスと名前
アクション： Windows イベント ログ失敗	*ACTWIN !	(なし)
アクション： SNMP トラップ失敗	*ACTSNMP !	(なし)
アクション： クリップボード受信	*ACTCLPB +	(なし)
アクション： クリップボード送信	*ACTCLPB -	(なし)
アクション： プリント ジョブ受信	*ACTPRINT+	(なし)
アクション： プリント ジョブ送信	*ACTPRINT-	(なし)
アクション： 通信プロファイル開始	GACTCOMPR+	通信プロファイル名
アクション： 通信プロファイル停止	GACTCOMPR-	[通信プロファイル名]
アクション： インベントリ受信	GACTINV	ホスト名
アクション： メッセージ送信	GACTMSG	ホスト名

セキュリティ

イベント名	イベントコード	引数
セキュリティ：パスワード拒否	*SECPW !	ホスト名
セキュリティ：アクセス確認拒否	*SECCA !	ホスト名
セキュリティ：セキュリティ サーバー ログイン	GSECACSRV+	ログイン名
セキュリティ：セキュリティ サーバー ログオフ	GSECACSRV-	(なし)

設定

イベント名	イベントコード	引数
設定：ヘルプ サービス名定義	GCFGHLPSV+	ヘルプ サービス名
設定：ヘルプ サービス名削除	GCFGHLPSV-	ヘルプ サービス名
設定：ローカル ログ有効化	*CFGLLOC +	ログ ファイル名
設定：ローカル ログ無効化	*CFGLLOC -	ログ ファイル名
設定：ローカル ログ ファイル名変更	*CFGLFILE*	新しいログ ファイル名
設定：サーバー ログ有効化	*CFGLSRV +	ログ サーバー名
設定：サーバー ログ無効化	*CFGLSRV -	ログ サーバー名
設定：Windows イベント ログ有効化	*CFGLWIN +	リモートの場合：コンピュータ名
設定：Windows イベント ログ無効化	*CFGLWIN -	リモートの場合：コンピュータ名
設定：SNMP トラップ送信有効化	*CFGLSNMP+	(なし)
設定：SNMP トラップ送信無効化	*CFGLSNMP-	(なし)
設定：セキュリティ サーバー パスワード 変更	GCFGACPW *	NetOp ゲスト ID
設定：Web 更新チェック	*CFGWUCHK	古いビルド、新しいビルド、[タイムアウト エラー]
設定：Web 更新ダウンロード	*CFGWUDL	ファイル名、[タイムアウト エラー]
設定：Web 更新インストール	*CFGWUINST	(なし)
設定：Web 更新成功	*CFGWU *	古いビルド、新しいビルド
設定：Web 更新失敗	*CFGWU !	古いビルド、エラー メッセージ

5.4.3.2 ホストおよび拡張ホストの NetOp ログ イベント

次の NetOp イベントは、ホストまたは拡張ホストからログできます。

接続

イベント名	イベントコード	引数
接続：ホスト起動	HCON +	(なし)
接続：ホスト停止	HCON -	(なし)
接続：コールバック	HCONCALLB	コールバック番号
接続：接続切断	*CONLOST	(なし)
接続：ネーム サーバー起動	HCONNNS +	(なし)
接続：ネーム サーバー停止	HCONNNS -	(なし)
接続：セキュリティ サーバー起動	HCONNSS +	(なし)
接続：セキュリティ サーバー停止	HCONNSS -	(なし)
接続：ゲートウェイ起動	HCONGW +	(なし)
接続：ゲートウェイ停止	HCONGW -	(なし)

5.4 NetOp ログ

セッション

イベント名	イベントコード	引数
セッション：セッション開始	HSES +	ゲスト名
セッション：セッション停止	HSES -	ゲスト名
セッション：リモート コントロール開始	HSESRC +	ゲスト名
セッション：リモート コントロール停止	HSESRC -	ゲスト名
セッション：ファイル転送開始	HSESFXFER+	ゲスト名
セッション：ファイル転送停止	HSESFXFER-	ゲスト名
セッション：チャット開始	HSESCHAT +	ゲスト名
セッション：チャット停止	HSESCHAT -	ゲスト名
セッション：オーディオ開始	HSESAUDIO+	ゲスト名
セッション：オーディオ停止	HSESAUDIO-	ゲスト名
セッション：リモート管理開始	HSESRM +	ゲスト名
セッション：リモート管理停止	HSESRM -	ゲスト名

アクション

イベント名	イベントコード	引数
アクション：ヘルプ呼出送信	HACTHLPRQ+	ヘルプ サービス名、問題の説明
アクション：ヘルプ呼出取消	HACTHLPRQ-	(なし)
アクション：ファイル受信	*ACTFILE +	ファイル パスと名前
アクション：ファイル送信	*ACTFILE -	ファイル パスと名前
アクション：ホスト再起動	*ACTBOOT	(なし)
アクション：プログラム実行	HACTRUN	プログラム名
アクション：コマンド実行	HACTEXE	コマンド名
アクション：Windows イベント ログ失敗	*ACTWIN !	(なし)
アクション：SNMP トラップ失敗	*ACTSNMP !	(なし)
アクション：クリップボード受信	*ACTCLPB +	(なし)
アクション：クリップボード送信	*ACTCLPB -	(なし)
アクション：プリント ジョブ受信	*ACTPRINT+	(なし)
アクション：プリント ジョブ送信	*ACTPRINT-	(なし)
アクション：キーボード ロック	HACTKBD -	(なし)
アクション：キーボード ロック解除	HACTKBD +	(なし)
アクション：画面空白化	HACTSCR -	(なし)
アクション：画面空白化解除	HACTSCR +	(なし)
アクション：ホスト ユーザー ログ オフ	HACTLOFF	(なし)
アクション：ゲートウェイ ログイン	HACTGW +	接続するモジュールの名前
アクション：インベントリ送信	HACTINV	ゲスト名
アクション：メッセージ受信	HACTMSG	ゲスト名

セキュリティ

イベント名	イベントコード	引数
セキュリティ：個々のセキュリティ有効化および変更	HSECINDIV+	ゲスト アクセス方法
セキュリティ：個々のセキュリティ無効化	HSECINDIV-	ゲスト アクセス方法
セキュリティ：セキュリティ ロール追加	HSECRROLE +	セキュリティ ロール名
セキュリティ：セキュリティ ロール削除	HSECRROLE -	セキュリティ ロール名
セキュリティ：セキュリティ ロール変更	HSECRROLE *	セキュリティ ロール名
セキュリティ：ルールにゲスト追加	HSECGUEST+	ゲスト名
セキュリティ：ルールからゲスト削除	HSECGUEST-	ゲスト名
セキュリティ：ゲスト ロール変更	HSECGUEST*	ゲスト名
セキュリティ：パスワード有効化	HSECPW +	個人の場合：ゲスト名
セキュリティ：パスワード無効化	HSECPW -	個人の場合：ゲスト名
セキュリティ：パスワード変更	HSECPW *	個人の場合：ゲスト名
セキュリティ：コールバック有効化 (デフォルトのみ)	HSECCALLB+	(なし)
セキュリティ：コールバック無効化 (デフォルトのみ)	HSECCALLB-	(なし)
セキュリティ：コールバック変更 (デフォルトのみ)	HSECCALLB*	(なし)
セキュリティ：アクセス確認有効化	HSECCA +	個人の場合：セキュリティ ロール名
セキュリティ：アクセス確認無効化	HSECCA -	個人の場合：セキュリティ ロール名
セキュリティ：パスワード拒否	*SECPW !	ゲスト名
セキュリティ：アクセス確認拒否	*SECCA !	(なし)
セキュリティ：不正パスワード限界到達	HSECPWLIM!	(なし)
セキュリティ：タイムアウト限界超過	HSECTMOUT	AC (非アクティブ)、AU (認証)、または CA (アクセス確認)

設定

イベント名	イベントコード	引数
設定：ローカル ログ開始	*CFGLLOC +	ログ ファイル名
設定：ローカル ログ停止	*CFGLLOC -	ログ ファイル名
設定：ローカル ログ ファイル名変更	*CFGLFILE*	新しいログ ファイル名
設定：サーバー ログ開始	*CFGLSRV +	ログ サーバー名
設定：サーバー ログ停止	*CFGLSRV -	ログ サーバー名
設定：Windows イベント ログ開始	*CFGLWIN +	リモートの場合：コンピュータ名
設定：Windows イベント ログ停止	*CFGLWIN -	リモートの場合：コンピュータ名
設定：SNMP トラップ送信開始	*CFGLSNMP+	(なし)
設定：SNMP トラップ送信停止	*CFGLSNMP-	(なし)
設定：オプション変更：読み込み時に開始	HCFGOWAIT*	ON/OFF
設定：オプション変更：OS 起動時に読み込み	HCFGOLoad*	ON/OFF
設定：オプション変更：起動時に最小化	HCFGOMIST*	ON/OFF
設定：オプション変更：ステルス モード	HCFGOSTLT*	ON/OFF
設定：オプション変更：接続時に最小化	HCFGOMICO*	ON/OFF
設定：オプション変更：上部	HCFGOTOP *	ON/OFF
設定：オプション変更：ファイル転送表示	HCFGOSFX *	ON/OFF
設定：オプション変更：キープ アライブ送信	HCFGOTALIV*	ON/OFF
設定：選択済みオプション：切断後にブート	HCFGBOOT+	(なし)
設定：選択済みオプション：切断後ログオフ	HCFGLOGO+	(なし)
設定：選択済みオプション：切断後ロック	HCFGLOCK+	(なし)

5.4 NetOp ログ

設定： 選択済みオプション：切断後無操作	HCFGONOTH+	(なし)
設定： オプション変更：ネーミング方法	HCFGONAME*	(なし)
設定： オプション変更：パブリック ホスト名	HCFGOPUBN*	ON/OFF
設定： オプション変更：ユーザー名有効化	HCFGOUSRN*	ON/OFF
設定： オプション変更：接続通知	HCFGONOTI*	(なし)
設定： オプション変更：ヘルプ呼出の説明	HCFGOHRD *	(なし)
設定： オプション変更：ヘルプ呼出 プロバイダ	HCFGOHRP *	(なし)
設定： オプション変更：ヘルプ呼出通信	HCFGOHRC *	(なし)
設定： オプション変更：ヘルプ呼出電話 /IP	HCFGOHRPI*	(なし)
設定： オプション変更：ヘルプ呼出アイコン 表示	HCFGOHRSI*	ON/OFF
設定： オプション変更：オーディオ全二重	HCFGUAUFD*	ON/OFF
設定： オプション変更：オーディオ消音 レベル	HCFGUAUSL*	(なし)
設定： オプション変更：オーディオ保留	HCFGUAULH*	(なし)
設定： オプション変更：ネーム スペース ID	HCFGONSID*	(なし)
設定： ゲスト保守要求変更	HCFGMRQG*	(なし)
設定： ゲートウェイ保守要求変更	HCFGMRQGW*	(なし)
設定： その他の保守要求変更	HCFGMRQO *	(なし)
設定： 終了 / 停止保守要求変更	HCFGMRQEX*	(なし)
設定： 保護ファイル変更	HCFGPROTS*	(なし)
設定： 保守パスワード変更	HCFGMTPW *	(なし)
設定： ゲスト アクセス変更許可 (デフォルトのみ)	HCFGGALLW*	(なし)
設定： MAC/IP アドレス リスト変更	HCFGMACIP*	(なし)
設定： ファイルの転送無効化変更	HCFGFX *	(なし)
設定： セキュリティ サーバー グループ ID 変更	HCFGSSG *	(なし)
設定： Web 更新チェック	*CFGWUCHK	古いビルド、新しいビルド、[タイムアウト エラー]
設定： Web 更新ダウンロード	*CFGWUDL	ファイル名、[タイムアウト エラー]
設定： Web 更新インストール	*CFGWUINST	(なし)
設定： Web 更新成功	*CFGWU *	古いビルド、新しいビルド
設定： Web 更新失敗	*CFGWU !	古いビルド、エラー メッセージ

ゲートウェイ

次の NetOp イベントは、ゲートウェイからログできます。

イベント名	イベント コード	引数
GW： ゲートウェイ アクセス許可	HGW ACCES+	(なし)
GW： ゲートウェイ コールバック	HGW CALLB	コールバック番号
GW： ゲートウェイ コールバック変更 (デフォルトのみ)	HGW CALLB*	(なし)
GW： ゲートウェイ コールバック無効化 (デフォルトのみ)	HGW CALLB-	(なし)
GW： ゲートウェイ コールバック有効化 (デフォルトのみ)	HGW CALLB+	(なし)
GW： ゲートウェイ グループ定義	HGW GROUP+	セキュリティ ロール名
GW： ゲートウェイ グループ削除	HGW GROUP-	セキュリティ ロール名
GW： ゲートウェイ ゲスト追加	HGW GUEST+	ゲスト名
GW： ゲートウェイ ゲスト変更	HGW GUEST*	ゲスト名
GW： ゲートウェイ ゲスト削除	HGW GUEST-	ゲスト名

GW : ゲートウェイの個々のセキュリティ無効化	HGW INSEC-	(なし)
GW : ゲートウェイの個々のセキュリティ有効化 (および変更)	HGW INSEC+	(なし)
GW : ゲートウェイ NSS GID 変更	HGW SSGID*	(なし)
GW : ゲートウェイ パスワード変更 (デフォルトのみ)	HGW PW *	(なし)
GW : ゲートウェイ パスワード無効化 (デフォルトのみ)	HGW PW -	(なし)
GW : ゲートウェイ パスワード有効化 (デフォルトのみ)	HGW PW +	(なし)
GW : ゲートウェイ パスワード拒否	*SECGWPW !	接続するモジュールの名前

5.5 システム情報

[ヘルプ] メニュー の [バージョン情報...] コマンドで [バージョン情報] ウィンドウを開き、[システム情報...] ボタンをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



このウィンドウには、次に示す 2 つのメニューがあり、また選択したシステム情報が 3 つのセクションに表示されます。

- ・ 上部のセクションには、プログラムの概要とシステム情報が表示されます。
- ・ 中央のセクションには、画面情報の概要が表示されます。
- ・ 下部のセクションには、ドライバ情報の概要が表示されます。

[ディスプレイの詳細情報] メニュー

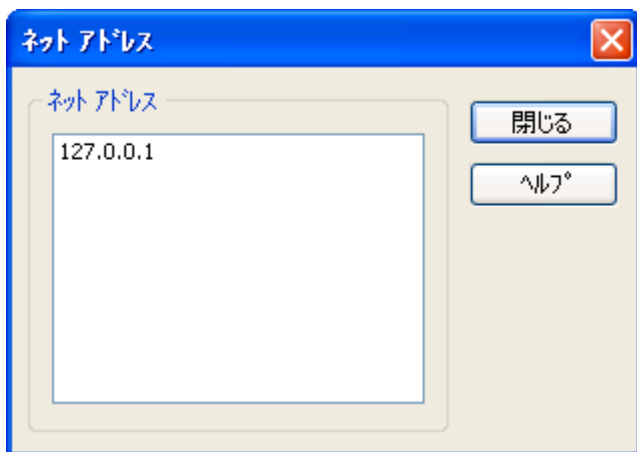


各コマンドを選択すると、現在の画面ディスプレイに関する詳細情報が [画面情報] ウィンドウに表示されます。

[通信情報] メニュー



このメニューには、[ネット アドレス] コマンドだけが含まれます。このコマンドをクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



ネット アドレス []: このペインには、NetOp で有効になっているコンピュータ ネットワーク アドレスが表示されます。

注意: ネットワーク アドレスが NetOp で有効になるのは、ネットワーク通信デバイスを使用する通信プロファイルが有効になっている場合に限られます。

5.6 NETOP. INI

NetOp を初めてコンピュータにインストールしたとき、*NETOP.INI* という名前のファイルがコンピュータの OS のディレクトリ (*C:\Windows* または *C:\WINNT*) に作成されます。

コンピュータに NetOp モジュールがインストールされるか、または読み込まれるときに、このファイルが読み取られます。*NETOP.INI* にはインストールおよび起動に関する情報が収められています。その情報により、NetOp モジュールをインストールおよび読み込む方法が決まります。

通常は、*NETOP.INI* ファイルについて気にする必要はありません。しかし、このファイルを編集して、オプションを設定することができます。

NETOP.INI では、セクション、キー、および値について、Windows の標準 *.INI* ファイル形式を使用しています。このファイルはプレーン テキスト ファイルなので、Windows のメモ帳のような通常のテキスト エディタを使用して編集できます。

NETOP.INI ファイルは次のセクションで構成されています。

[*INSTALL*]: NetOp インストール設定を指定します。

[*COEXISTENCE*] : コンピュータで同時に別の NetOp モジュールを実行する場合の設定を指定します。

[*GUEST*]、[*HOST*]、[*GATEWAY*]、[*NNS*]、[*NSS*] : NetOp モジュールの起動時の設定を指定します。

[*IPX*] : IPX 通信デバイスの起動時の設定を指定します。

[*NETBIOS*] : NetBIOS 通信デバイスの起動時の設定を指定します。

[*TCP*] : TCP 通信デバイスの起動時の設定を指定します。

[*DTL*] : 特殊な通信設定を指定します。

[*AUDIO*] : 特殊なオーディオ設定を指定します。

NETOP. INI ファイルには、このほかにもセクションを含めることができます。

注意 : NetOp の [KnowledgeBase](#) で、*Documentation* セクションにある NETOP. INI 設定のサブセクションを調べると、現在利用できる NETOP. INI 設定オプションがすべて表示されます。

5.6.1 [INSTALL] セクション

デフォルトで組み込まれているこのセクションでは、最後にインストールされた NetOp プログラムのインストール ディレクトリとプログラム フォルダを指定します。この指定は NetOp を再インストールするときのデフォルトの推奨値となります。

5.6.2 [COEXISTENCE] セクション

デフォルトで組み込まれているこのセクションでは、稼働中のある NetOp モジュールを別の NetOp モジュールで置き換えるため設定、および同時に異なる NetOp モジュールを稼働させるための設定を行います。

低レベルの共存では、NetOp ホストまたは拡張 NetOp ホストが稼働しているコンピュータ上に NetOp ゲストをロードして、NetOp ホストを一時的にサスペンドできます。また、その逆も可能です。ゲストに接続されているホストはサスペンドできません。稼働中のゲストがホストによって置き換えられると、ホストに接続されているゲストは切断されます。

高レベルの共存では、1 台のコンピュータ上で NetOp ゲストを NetOp ホストまたは拡張ホストと同時に実行できます。

このセクションでは、次のようなキーを定義できます。

COEXIST=<1, 0、または 2>

デフォルト値 1 は、低レベルの共存を有効にします。値 0 は共存を無効にし、値 2 は高レベルの共存を有効にします。このキーが定義されていないと、共存は無効になります。

LOAD_WARNING=<1 または 0>

デフォルト値の 1 を取ると、ユーザーが低レベルの共存を行おうとしたときに、警告メッセージが表示されます。その際、ユーザーは続行するかキャンセルするかを選択することができます。値が 0 の場合、警告メッセージは表示されません。このキーが定義されていないと、警告メッセージが表示されます。

DEBUG=<0 または 1>

このキーを追加すると、別のウィンドウで実行されるローダー プログラム コマンドが表示されます。このキーを定義しないかまたは値を 0 に設定すると、ローダー プログラム ウィンドウは表示されません。値を 1 に設定すると、ローダー プログラムのウィンドウが表示されます。

注意 : 高レベルの共存では、リモート制御を連鎖させることができます。たとえば、あるゲストがあるホストをリモート制御していて、そのホストが稼働しているコンピュータ上で別のゲストが稼働していると、そのゲストから別のホストをリモート制御することができます。1 台のコンピュータ上で同時にゲストとホストを稼働させるには、両者が異なる通信プロファイルを使用する必要があります。2 つの TCP/IP 通信プロファイルを使用するには、異なる受信ポート番号を使用しなければなりません。

5.6.3 [GUEST]、[HOST]、[GATEWAY]、[NNS]、[NSS] の各セクション

このオプションの各セクションを設定すると、NetOp モジュールが作成および使用する設定ファイルやその他のファイルの場所を、デフォルト以外の場所に指定できます。[NetOp 設定ファイルのその他の場所](#)を参照してください。以下のセクションおよびキーを使用することができます。

[GUEST]

DataPath=<パス> : ゲストの設定ファイルやその他のファイルのパスを指定します。

HistoryPath=<パス> : ゲストの履歴ファイルのパスを指定します。

PhonebookPath=<パス> : ゲストの電話帳ファイルのパスを指定します。

RecordPath=<パス> : ゲストのレコード ファイルのパスを指定します。

ScriptPath=<パス> : ゲストのスクリプト ファイルのパスを指定します。

および / または

[HOST]

DataPath=<パス> : ホストの設定ファイルやその他のファイルのパスを指定します。

MessagePath=<パス> : ホストのメッセージ ファイルのパスを指定します。

および / または

[GATEWAY]

DataPath=<パス> : ゲートウェイの設定ファイルやその他のファイルのパスを指定します。

MessagePath=<パス> : ゲートウェイのメッセージ ファイルのパスを指定します。

および / または

[NNS]

DataPath=<パス> : ネーム サーバーの設定ファイルやその他のファイルのパスを指定します。

MessagePath=<パス> : ネーム サーバーのメッセージ ファイルのパスを指定します。

および / または

[NSS]

DataPath=<パス> : セキュリティ サーバーの設定ファイルやその他のファイルのパスを指定します。

MessagePath=<パス> : セキュリティ サーバーのメッセージ ファイルのパスを指定します。

これらのセクションに、その他のキーを含めることもできます。

注意 : [HOST] セクションには、**ActualBufferReleaseBlock=<数値>** というキーがありますが、これはプログラムが *NETOP.INI* ファイルに出力した情報です。この情報はユーザーにとっては重要ではありませんが、トラブルシューティングの際に NetOp の専門家が使用します。

5.6.4 [IPX] セクション

このオプションのセクションには、次のキーが含まれます。

Max_Packet_Size=<数値> : <数値> は最大通信パケットサイズ (単位 : バイト)。有効範囲は 512 ~ 5000 です。

この設定は、通信上の問題を解決するために利用できます。[IPX の設定](#)を参照してください。

5.6.5 [NetBIOS] セクション

このオプションのセクションには、次のキーが含まれます。

Max_Packet_Size=<数値> : <数値> は最大通信パケットサイズ (単位 : バイト)。有効範囲は 512 ~ 5000 です。

この設定は、通信上の問題を解決するために利用できます。[NetBIOS の設定](#)を参照してください。

5.6.6 [TCP] セクション

このオプションのセクションには、次のキーが含まれます。

BindToRecvPort=True

[TCP/IP \(TCP\)](#) セッションを開始する際、Winsock は利用できる受信ポート番号をデフォルトで割り当て、NetOp がリスニング用に指定している受信ポート番号にバインドしません。セッション通信を NetOp が指定する受信ポート番号にバインドするには、このキーを使います。

5.6.7 [DTL] セクション

このオプションのセクションには、次のキーが含まれます。

TimeoutTimes=< 数値 > : < 数値 > はデータ パケットを入手するために適用されるデフォルト値の 10 を超える再送信の回数を意味し、設定可能範囲は 1 ~ 50 です。

このキーの設定は、データ パケットの転送または切断に時間がかかる場合に必要となる場合があります。

5.6.8 [AUDIO] セクション

このオプションのセクションには、次のキーが含まれます。

Sound_Mix=< サウンド ミックス録音モード名 >

ホスト コンピュータの音声デバイス (サウンド カード) のサウンド ミックス録音モードが *Wave Out Mix* 以外の場合、このキーを NetOp ホストで設定すれば、ホスト アプリケーションの音声の転送が可能になります。[ツール ボタン](#)を参照してください。

5.6.9 例

NETOP.INI ファイルの例を次に示します。右側は説明です。

NETOP.INI ファイル	説明
[INSTALL]	[INSTALL] セクション
DIRECTORY=C:\Program Files\Danware Data\NetOp Remote Control	NetOp プログラム ファイルはディレクトリ <i>C:\Program Files\Danware Data\NetOp Remote Control</i> に置かれます。
FOLDER=NetOp Remote Control	プログラム フォルダ名は <i>NetOp Remote Control</i> です。
[COEXISTENCE]	[COEXISTENCE] セクション
COEXIST=1	低レベルの共存が有効です。
DEBUG=1	ローダー プログラムのコマンドが表示されます。
LOAD_WARNING=1	モジュールの同時ロードに関する警告ウィンドウが表示されます。
[Guest]	[Guest] セクション
DataPath=F:\SHARED\DATA\Guest	ゲスト設定ファイルは、ディレクトリ <i>F:\SHARED\DATA\Guest</i> に置かれます。
[Host]	[Host] セクション
DataPath=F:\SHARED\DATA\Host	ホスト設定ファイルは、ディレクトリ <i>F:\SHARED\DATA\Host</i> に置かれます。
[IPX]	[IPX] セクション
Max_Packet_Size=512	512 バイト以下のサイズの packets で IPX データが転送されます。
[NETBIOS]	[NETBIOS] セクション
Max_Packet_Size=2500	2500 バイト以下のサイズの packets で NetBIOS データが転送されます。
[DTL]	[DTL] セクション
TimeoutTimes=10	デフォルト値の 10 に 10 回の再送信が追加されます。

5.7 NetOp の設定ファイル

5.7 NetOp の設定ファイル

NetOp モジュールのセットアップ情報は、設定ファイルに格納されます。設定ファイルには通常、*ndb* (NetOp DataBase) という拡張子が付いています。

コンピュータに NetOp モジュールをインストールすると、セットアップ情報を含む設定ファイルが、その NetOp モジュールのインストール先ディレクトリに作成されます。

インストール後にユーザーが NetOp モジュールを最初に読み込むとき、NetOp モジュールのインストール ディレクトリから、そのユーザーの NetOp 設定ディレクトリに設定ファイルがコピーされます。

[セットアップ ウィザード](#)が開き、ユーザーはカスタマイズしたセットアップを作成できます。カスタマイズした情報は、ユーザーの NetOp 設定ディレクトリ内に設定ファイルとして保存されます。

ユーザーが作成するその他の NetOp ファイル用のディレクトリ フォルダは、そのユーザーの設定ディレクトリ内に作成されます。

ユーザーが作成する NetOp ログ ファイルも、ユーザー設定ディレクトリにデフォルトで保存されます。

以下の表に、NetOp 設定ファイルとその他のファイルの一覧、デフォルトの場所、および内容を示します。

ファイル名	デフォルトの場所	ファイルの内容
共通ファイル:		
COMIPLST.NDB	<Guest> または <Host>	IP ブロードキャスト リスト
COMPROF.NDB	<Guest> または <Host>	通信プロファイル
MODEMS.NDB	<Guest> または <Host>	モデム データベース
NETOP.LOG	<Guest> または <Host>	ローカル イベント ログ (デフォルト名)
ゲスト ファイル:		
INVCUITM.XML	<ゲスト>	インベントリ内のカスタム項目
NOWCONF.NDB	<ゲスト>	ゲストの設定
RUNPROG.NDB	<ゲスト>	実行プログラム仕様
*.DWC	<ゲスト>%PhBook	電話帳レコード
*.DWC	<ゲスト>%History	履歴レコード
*.DWR	<ゲスト>%record	記録レコード
*.DWS	<ゲスト>%script	スクリプト
*.XML	<ゲスト>%inventor	ホストのインベントリ
*.BMP	<ゲスト>%SnapShot	ホストのスクリーン画像
NFM.LOG	<ゲスト>	ファイル マネージャ ログ (デフォルト名)
NGUESTW.LOG	<ゲスト>	ゲストのデバッグ トレース
SCRIPT.LOG	<ゲスト>	スクリプト ログ (デフォルト名)
ホスト ファイルおよび拡張ホスト ファイル:		
ANUMLIST.NDB	<ホスト>	許可されている ISDN 番号
DIRSERV.NDB	<ホスト>	ディレクトリ サービスの設定
MACLIST.NDB	<ホスト>	使用できるゲストの IP アドレスまたは MAC アドレス
NHSTCONF.NDB	<ホスト>	ホストの設定
SECUR_DS.NDB	<ホスト>	ディレクトリ サービスのロール、ユーザー、およびグループ
SECUR_NT.NDB	<ホスト>	Windows のロール、ユーザー、およびグループ
SECURITY.NDB	<ホスト>	NetOp のロールおよびゲスト
*.RTF	<ホスト>%Messages	メッセージ
NHOSTW.LOG	<ホスト>	ホストのデバッグ トレース
ゲートウェイ ファイル:		
GWSCR_NT.NDB	<ゲートウェイ>	ゲートウェイ Windows のロール、ユーザー、およびグループ
GWSCRTY.NDB	<ゲートウェイ>	ゲートウェイ NetOp のロールおよびゲスト

〈ゲスト〉、〈ホスト〉、および〈ゲートウェイ〉の意味については、[NetOp 設定ファイルのデフォルトの場所](#)を参照してください。

使用中にユーザーが NetOp モジュールの設定を変更すると、そのユーザーの設定ディレクトリにある設定ファイルに即座に（または NetOp モジュールをアンロードしたときに）変更内容が書き込まれます。

ユーザーが NetOp モジュールを読み込む際には、ユーザーの設定ディレクトリにある設定ファイルが読み取られ、同じユーザーが前回、その NetOp モジュールをアンロードした時点の設定が再現されます。

ユーザー設定ファイルが読み取り専用で設定されているか、設定ファイルが置かれているディレクトリへのアクセスが拒否された場合には、設定の変更は設定ファイルに書き込まれず、保存されません。

NetOp モジュールの設定は、[保守パスワード](#)を利用することで保護できます。ホストのユーザー設定ファイルが保護されるのは、ホストが動作しているか、接続している間だけです。

ユーザー設定ファイルが削除されると、その設定ファイルに含まれていたユーザー セットアップ情報は失われてしまいます。ユーザー設定ファイルの削除後、モジュールを読み込むとき、ユーザー設定ファイルに新しいユーザー セットアップ情報が作成されます。

ほとんどの *ndb* ファイルは、NetOp 専用フォーマットで書き込まれていて、個別に読み取りまたは編集することはできません。

5.7.1 NetOp 設定ファイルのデフォルトの場所

コンピュータでユーザー プロファイルがサポートされている場合、各ユーザーは NetOp モジュールの一部を自分用に設定し、その情報を保持できます。ユーザー プロファイルがサポートされていないコンピュータでは、設定は全ユーザー共通になります。

ユーザー プロファイルは、Windows NT 系のシステム（Windows Server 2003、XP、2000、および NT）では標準でサポートされており、Windows 9x システム（Windows ME、98、および 95）にもサポートを追加できます。

Windows Server 2003、Windows XP、および Windows 2000 では、ユーザー プロファイルは通常、*C:\Documents and Settings\Windows ログオン ユーザー名* に保存されます。

Windows NT では、ユーザー プロファイルのディレクトリは通常、*C:\WINNT\Profiles\Windows ログオン ユーザー名* です。

Windows 9x（ME、98、および 95）にユーザー プロファイルのサポートを追加した場合、ユーザー プロファイルのディレクトリは通常、*C:\Windows\Profiles\Windows ユーザー ログオン名* です。

デフォルトでは、ユーザーの設定ファイルは以下のパス内にあります。

〈ユーザー プロファイル ディレクトリ〉*%Application Data%*〈NetOp モジュール パス〉

ここで、〈NetOp モジュール パス〉は、NetOp モジュールがインストールされているディレクトリへのフルパスになります。NetOp モジュールが *C:\Program Files* ディレクトリ内にインストールされている場合は、〈NetOp モジュール パス〉には、このディレクトリからのパスのみが入ります。

注意： *Application Data* は隠しフォルダで、隠しフォルダを表示するように設定している場合にのみ表示されます。

コンピュータでユーザー プロファイルがサポートされている場合、ゲスト ユーザーの設定ファイルは、デフォルトでは、Windows にログオンする各ユーザーのプロファイル ディレクトリ内に格納され、各ユーザー専用です（〈ゲスト〉）。

コンピュータでユーザー プロファイルがサポートされている場合、ホスト ユーザーおよび拡張ホストの設定ファイルは、デフォルトで *All Users* のプロファイル ディレクトリに格納され、コンピュータの全ユーザーに共通です（〈ホスト〉 および 〈ゲートウェイ〉）。

コンピュータでユーザー プロファイルがサポートされていない場合、ユーザーの設定ファイルは、デフォルトでは NetOp モジュールのインストール ディレクトリ内の *Config* ディレクトリに格納されます（〈ゲスト〉、〈ホスト〉、および 〈ゲートウェイ〉）。

5.7.2 NetOp 設定ファイルのその他の場所

NetOp の設定ファイルは、ユーザーごとに別々の場所に保存したり、共通の場所に保存したりすることができます。その場合、[NETOP.INI](#) ファイルに以下のキーが必要です。

[GUEST]

DataPath=<パス>

HistoryPath=<パス>

InventoryPath=<パス>

PhonebookPath=<パス>

RecordPath=<パス>

ScriptPath=<パス>

および/または

[HOST]

DataPath=<パス>

MessagePath=<パス>

および/または

[GATEWAY]

DataPath=<パス>

MessagePath=<パス>

および/または

[NNS]

DataPath=<パス>

MessagePath=<パス>

および/または

[NSS]

DataPath=<パス>

MessagePath=<パス>

ここで、<パス> には、ユーザー設定ファイルを格納するディレクトリのフルパスを指定します。

索引

A

AUDIO セクション (共通の NETOP. INI) 419

C

COEXISTENCE セクション (共通の NETOP. INI) 417

D

Danware Data (最初のページ) 2

DTL セクション (共通の NETOP. INI) 419

[DWORD 値の編集] ウィンドウ (ゲスト リモート管理レジストリ) 194

G

GUEST、HOST、GATEWAY、NNS、NSS の各セクション (共通の NETOP. INI) 418

H

[Host User Prompt] ウィンドウ (ゲスト リモート管理システム制御) 219

I

INSTALL セクション (共通の NETOP. INI) 417

IP ブロードキャスト リスト (共通 TCP/IP 通信プロファイルの編集) 391

IPX セクション (共通の NETOP. INI) 418

IPX 通信プロファイルの編集 (共通 IPX) 380

IPX の設定 (共通 IPX) 379

IPX (共通通信デバイス) 379

ISDN (CAPI) 通信プロファイルの編集 (共通 ISDN (CAPI)) 382

ISDN (CAPI) の設定 (共通 ISDN (CAPI)) 382

ISDN (CAPI) (共通通信デバイス) 381

K

KnowledgeBase (はじめに) 14

M

[MAC/IP アドレス リストのセットアップ] タブ (ホストのゲスト アクセス セキュリティ) 354

[MAC/IP アドレス リストの追加 / 編集] ウィンドウ (ホストのゲスト アクセス セキュリティ) 354

N

NetBIOS アダプタ番号 (共通 NetBIOS 通信プロファイルの編集) 378

NetBIOS セクション (共通の NETOP. INI) 418

NetBIOS 通信プロファイルの編集 (共通 NetBIOS) 378

NetBIOS の設定 (共通 NetBIOS) 377

NetBIOS (共通通信デバイス) 377

[NetOp Remote Control ホストのバージョン情報] ウィンドウ (ホストの [ヘルプ] メニュー) 306

NetOp インストール ユーティリティ (その他のインストール方法) 42

NetOp 拡大鏡 (ゲスト NetOp マーカー ユーティリティ) 243

NetOp ゲートウェイを経由したネットワークまたはネットワーク ターミナル サーバー ホストへの接続 (ゲストの [簡易接続] タブの [ホスト] セクション) 81

NetOp ゲスト ウィンドウ (NetOp ゲスト) 61

NetOp ゲスト (第 3 章) 43

[NetOp サーバー] タブ (共通ログのセットアップ) 405

NetOp スクリプトのテスト (ゲストの NetOp スクリプト) 268

NetOp スクリプト (ゲストのセッション ツール) 245

NetOp セキュリティ サーバー認証 (ゲスト認証) 54

NetOp セキュリティ サーバーの使用 (ホストのゲスト アクセス セキュリティ) 351

NetOp セッション (ゲスト リモート管理) 220

NetOp 設定ファイルおよびその他のファイルのデフォルトの場所 (共通の NetOp 設定ファイル) 421

NetOp 設定ファイルのデフォルト以外の場所 (共通の NetOp 設定ファイル) 422
NetOp 認証を使用して各ゲストに個別にアクセス特権を与える (ホストのゲスト アクセス セキュリティ) 343
[NetOp 認証を使用してログイン] ウィンドウ (ゲストの共有 NetOp 認証) 52
[NetOp 認証を使用してログイン] ウィンドウ (ゲストの個人 NetOp 認証) 53
[NetOp ネットワーク] タブ (ゲストの [簡易接続] タブ) 85
NetOp の設定ファイル (共通のツール) 420
NetOp ファイル マネージャ (ゲストのファイル転送) 149
[NetOp ヘルプ呼出] ボタン (ホストのプログラム オプションの [ヘルプ呼出] タブ) 329
[NetOp ホスト] ウィンドウ (NetOp ホスト) 300
NetOp ホスト ボタンの接続メニュー (ホスト セッション) 361
NetOp ホスト ボタン (ホストの起動ガイド) 286
NetOp ホスト (第 4 章) 285
NetOp マーカー ユーティリティ (ゲストのセッション ツール) 237
NetOp マニュアルの使用法 (はじめに、のマニュアル) 18
[NetOp メッセージ] ウィンドウ (ゲストの NetOp メッセージ) 275
NetOp メッセージ (ゲスト アクション) 274
NetOp メッセージ (ホスト アクション) 370
[NetOp ライセンス] ウィンドウ (ゲストの [ヘルプ] メニュー) 69
[NetOp ライセンス] ウィンドウ (ホストの [ヘルプ] メニュー) 306
[NetOp ローカル] タブ (共通ログのセットアップ) 404
NetOp ログ イベント (共通 NetOp ログ) 410
NetOp ログ (共通のツール) 400
NETOP.INI (共通のツール) 416
[NFM Log Viewer] ウィンドウ (ゲストの NetOp スクリプト ログ) 269
[NFM Log Viewer] ウィンドウ (ゲストのファイル転送オプションのログ記録) 167
ngstw32 ウィンドウ (ゲストの接続のプロパティの圧縮 / 暗号化タブ) 233
Novell ネットワーク番号 (共通 IPX 通信プロファイルの編集) 381

P

PING (ゲストの接続の問題) 51

R

ReadMe.txt (インストール要件) 24
RSA SecurID 認証 (ゲスト認証) 55
[RSA SecurID ログイン] ウィンドウ (ゲストの RSA SecurID 認証) 55

S

[Save Event Log] ウィンドウ (ゲスト リモート管理イベント ビューア) 187
[SNMP] タブ (共通ログのセットアップ) 408

T

TCP セクション (共通の NETOP.INI) 419
TCP/IP 通信プロファイルの編集 (共通 TCP/IP) 389
TCP/IP の詳細設定 (共通 TCP/IP 通信プロファイルの編集) 390
TCP/IP の設定 (共通 TCP/IP) 387
TCP/IP (TCP IPv6) 通信プロファイルの編集 (共通 TCP/IP (TCP IPv6)) 394
TCP/IP (TCP IPv6) の設定 (共通 TCP/IP (TCP IPv6)) 394
TCP/IP (TCP IPv6) (共通通信デバイス) 394
TCP/IP (TCP) 通信プロファイルの編集 (共通 TCP/IP (TCP)) 393
TCP/IP (TCP) の設定 (共通 TCP/IP (TCP)) 393
TCP/IP (TCP) (共通通信デバイス) 393
TCP/IP (共通通信デバイス) 387

W

[Web 更新スケジュール] ウィンドウ (ゲストのプログラム オプションの [Web の更新] タブ) 132, 335
[Web の更新] タブ (ゲストの [プログラムのオプション]) 131
[Web の更新] タブ (ホストの [プログラムのオプション]) 334
[Windows イベント ログ] タブ (共通ログのセットアップ) 407
Windows インストーラ (インストール) 26

[Windows 認証] ウィンドウ (ホストのヘルプ呼出) 369
[Windows 認証を使用してログイン] ウィンドウ (ゲストの Windows 認証) 53
Windows 認証 (ゲスト認証) 53
[Windows ネットワーク] タブ (ゲストの [簡易接続] タブ) 86
Windows のセキュリティ管理を使用して各ゲストにそれぞれアクセス特権を与える (ホストのゲスト アクセス セキュリティ) 345
Windows モデム通信プロファイルの編集 (共通 Windows モデム) 386
Windows モデムの設定 (共通 Windows モデム) 386
Windows モデム (共通通信デバイス) 385

あ

[アカウントの選択] ウィンドウ (ホストのゲスト アクセス セキュリティ) 346
アクション コマンド (ゲストの Netop スクリプト) 262
アクション コマンド (ゲストの [接続] メニュー) 65
アクション ボタン (ゲストのツール バー) 71
アクション ボタン (ゲストのリモート コントロール ツール バーとツールボックス) 143
アクション ボタン (ホストのツール バー) 307
[アクション] メニュー ([NetOp ホスト] ウィンドウ) 302
アクション (ゲストの接続ガイド) 50
[アクセスの確認] ウィンドウ (ホストのゲスト アクセス セキュリティ) 341
アクセスの確認 (ゲストのセキュリティ ロール) 58
[アクティブ セッションの警告] ウィンドウ (ゲストの [プログラムのオプション] の [一般] タブ) 105
新しい更新の公開 (ゲスト ツール) 136
[新しいフォルダ] ウィンドウ (ゲストの [NetOp ファイル マネージャ] の [ファイル] メニュー) 151
[新しいフォルダ] ウィンドウ (ゲストの [編集] メニュー) 67
[圧縮 / 暗号化] タブ (ゲストの接続のプロパティ) 232
アドレス チェック (ゲストのホスト セキュリティ ガイド) 61
[暗号化] タブ (ゲストの [プログラムのオプション]) 126
[暗号化] タブ (ホストのゲスト アクセス セキュリティ) 355
暗号化 (ゲストのホスト セキュリティ ガイド) 61

い

[依存] タブ (ゲスト リモート管理サービス プロパティ) 207
[一斉制御] メニュー (ゲスト アクションのプログラムの実行) 274
一斉制御 (ゲスト アクション) 274
[一般] タブ (ゲストの NetOp スクリプトのグローバル設定) 247
[一般] タブ (ゲストの NetOp スクリプトのコピー コマンド) 259
[一般] タブ (ゲストの [プログラムのオプション]) 104
[一般] タブ (ホストのタブ パネル) 309
[一般] タブ (ホストのプログラム オプション) 317
イベント ビューア (ゲスト リモート管理) 185
[イベント ログのクリア] ウィンドウ (ゲスト リモート管理イベント ビューア) 187
[印刷先のプリンタの選択] ウィンドウ (ゲストの [プログラムのオプション] の [リモート印刷] タブ) 118
インストール (インストール) 25
インストール (第 2 章) 23
インベントリ ウィンドウ (ゲストの NetOp スクリプト アクション コマンド) 263
[インベントリ] タブ (ゲストの [プログラムのオプション]) 127
[インベントリ] タブ (ゲストのタブ パネル) 98
インベントリ取得 (ホスト アクション) 373
インベントリの取得 (ゲスト アクション) 284
[インベントリの詳細オプション] ウィンドウ (ゲストの [プログラムのオプション] の [インベントリ] タブ) 128
インベントリ (ゲスト リモート管理) 215

う

ウィンドウ コントロール (はじめに、の共通するコントロール) 21
上のツールバー (ゲスト NetOp マーカー ユーティリティ) 239
[上書き] ウィンドウ (ゲストのファイル転送オプションの確認) 162
[上書き / 削除] タブ (ゲストの NetOp スクリプトのグローバル設定) 249
[上書き / 削除] タブ (ゲストの NetOp スクリプトのコピー コマンド) 261

え

エラー ウィンドウ (ゲストの接続のプロパティの圧縮 / 暗号化タブ) 233

お

[オーディオ / ビデオ チャット] ウィンドウ (ホストのオーディオ / ビデオ チャット) 365
[オーディオ / ビデオ チャット] タブ (ホストのプログラム オプション) 323
オーディオ / ビデオ チャット (ホスト セッション) 365
[オーディオの詳細設定] ウィンドウ (ゲストの [プログラムのオプション] の [オーディオビデオ チャット] タブ) 115
[オーディオの詳細設定] ウィンドウ (ホストのプログラム オプションの [オーディオ チャット] タブ) 324
[オーディオビデオ チャット] ウィンドウ (ゲストのオーディオビデオ チャット) 174
[オーディオビデオ チャット] タブ (ゲストの [プログラムのオプション]) 114
オーディオビデオ チャット (ゲストのセッション) 173
[お気に入りに追加] ウィンドウ (ゲスト リモート管理レジストリ) 197
[お気に入りの整理] ウィンドウ (ゲスト リモート管理レジストリ) 197
[オプション] ウィンドウ (ゲストのファイル転送) 159
[オプション] メニュー (ゲストの [NetOp ファイル マネージャ] ウィンドウ) 159
オペレーティング システム (はじめに、の機能) 16

か

回線通信またはゲートウェイ (ゲストの [簡易接続] タブの [ホスト] セクション) 81
概要 (NetOp ゲスト) 44
概要 (NetOp ホスト) 286
概要 (インストール) 24
概要 (共通のツール) 376
拡大のホットキー (ゲストの [画面呼出] ウィンドウ) 281
拡大のホットキー (ゲストのリモート コントロール ツールバーとツールボックス) 144
拡大のホットキー (ゲストのリモート コントロール) 140
[確認] タブ (ゲストのファイル転送オプション) 161
カスタマー & 製品サポート (はじめに) 14
[カスタム インベントリの項目] ウィンドウ (ゲストの [プログラムのオプション] の [インベントリ] タブ) 129
[カスタム] タブ (ゲストの接続のプロパティ) 236
[画面呼出] ウィンドウ (ゲスト アクションの画面呼出) 281
[画面呼出] タブ (ゲストの [プログラムのオプション]) 113
[画面呼出] ツールボックス (ゲスト アクションの画面呼出) 282
画面呼出 (ゲスト アクション) 280
画面呼出 (ホスト アクション) 373
[簡易接続] タブ (ゲストのタブ パネル) 79
管理メニュー (ゲストの [リモート管理] ウィンドウ) 178
管理 (ゲストの [リモート管理]) 182

き

[キーボード / マウス] タブ (ゲストの接続のプロパティ) 230
[起動] タブ (ゲストの接続のプロパティ) 227
機能 (はじめに) 14
[キャッシュ] タブ (ゲストの [プログラムのオプション]) 106
共通するコントロール (はじめに) 21
共通のツール (第 5 章) 375
[共有 NetOp 認証] ウィンドウ (ホストのヘルプ呼出) 368
共有 NetOp 認証 (ゲスト認証) 52
[共有アクセス許可] タブ (ゲスト リモート管理共有フォルダ プロパティ) 214
[共有フォルダ ウィザード] の最初の画面 (ゲスト リモート管理共有フォルダ) 211
[共有フォルダ ウィザード] の名前 (ゲスト リモート管理共有フォルダ) 212
[共有フォルダ ウィザード] のフォルダ (ゲスト リモート管理共有フォルダ) 211
共有フォルダ (ゲスト リモート管理) 208
許可されている ISDN 番号 (共通 ISDN (CAPI) 通信プロファイルの編集) 383
[記録] タブ (ゲストの [プログラムのオプション]) 119
[記録] タブ (ゲストの接続のプロパティ) 235
[記録] タブ (ゲストのタブ パネル) 93
[記録再生] ウィンドウ (ゲストの [記録] タブ) 94

記録レコード (ゲストの [記録] タブ) 95

く

クリップボード ボタン (ゲストのリモート コントロール ツールバーとツールボックス) 145
 グローバル設定 (ゲストの NetOp スクリプト) 246

け

ゲートウェイ デバイス グループ リスト (共通ゲートウェイ通信プロファイルの編集) 396
 [ゲートウェイ接続] ウィンドウ (ゲストの [簡易接続] タブの [ホスト] セクション) 83
 ゲートウェイ通信プロファイルの編集 (共通ゲートウェイ) 395
 ゲートウェイの設定 (共通ゲートウェイ) 395
 ゲートウェイ (共通通信デバイス) 395
 ゲスト アクション (NetOp ゲスト) 271
 ゲスト アクセス セキュリティ (ホスト ツール) 337
 [ゲスト アクセス特権] タブ (ホストのゲスト アクセス セキュリティ) 338
 [ゲスト セキュリティ サーバー ログイン] ウィンドウ (ゲストの NetOp セキュリティ サーバー認証) 54
 ゲスト ツール (NetOp ゲスト) 100
 [ゲスト プロファイル] ウィンドウ (ゲスト プロファイル) 59
 [ゲスト プロファイル] ウィンドウ (ホストのゲスト アクセス セキュリティ) 344
 ゲスト プロファイル (ゲストのホスト セキュリティ ガイド) 59
 [ゲスト ポリシー] タブ (ホストのゲスト アクセス セキュリティ) 352
 ゲスト ポリシー (ゲストのホスト セキュリティ ガイド) 60
 ゲストが行える操作 (ゲストのセキュリティ ロール) 57
 ゲスト認証 (ゲストのホスト セキュリティ ガイド) 52
 ゲストの NetOp ログ イベント (共通 NetOp ログ) 410
 ゲストのセッション (NetOp ゲスト) 137
 ゲストをリムーバブル メディアにコピー (ゲスト ツール) 136
 [検索] ウィンドウ (ゲスト リモート管理レジストリ) 195
 [検索] メニュー (ゲストの [NetOp メッセージ] ウィンドウ) 277
 [検索] メニュー (ホストの [NetOp メッセージ] ウィンドウ) 372

こ

更新 (はじめに) 19
 [項目の保護] タブ (ゲストの接続のプロパティ) 226
 [コールバック] ウィンドウ (ゲストのコールバック) 60
 コールバック オプション (ゲストのコールバック) 60
 コールバック (ゲスト プロファイル) 59
 互換性 (はじめに) 20
 個々の NetOp 認証 (ゲスト認証) 53
 [コピー ダイアログ] ウィンドウ (ゲストの NetOp スクリプトのファイル転送コマンド) 259
 [コピー] タブ (ゲストの NetOp スクリプトのコピー コマンド) 261
 コピー / 移動 / 同期化 / 複製 (ゲストのファイル転送) 153
 [個別 NetOp 認証] ウィンドウ (ホストのヘルプ呼出) 368
 コマンド コンソール (ゲスト リモート管理) 216
 [コマンド プログラムのステータス] ウィンドウ (ゲスト アクションのプログラムの実行) 272
 コマンドの実行 (ホスト アクション) 370
 [コマンドの進行状況ウィンドウ] (ゲストの [接続] メニュー) 64
 コマンド (ゲストの NetOp スクリプト) 252
 コンテンツ ペイン (ゲストの [インベントリ] タブ) 98
 コントロール ボタン (ゲストのリモート コントロール ツールバーとツールボックス) 144

さ

[サービス インストール スタートアップ] ウィンドウ (ゲスト リモート管理サービス) 202
 [サービス インストール ファイル] ウィンドウ (ゲスト リモート管理サービス) 201
 [サービス インストール ログオン] ウィンドウ (ゲスト リモート管理サービス) 202
 [サービス インストール名] ウィンドウ (ゲスト リモート管理サービス) 201
 [サービス] タブ (ホストのタブ パネル) 311
 サービス (ゲストのリモート管理) 199
 [サウンド] タブ (ゲストの [プログラムのオプション]) 120
 [削除] ウィンドウ (ゲストの NetOp スクリプトのファイル転送コマンド) 262

[削除] ウィンドウ (ゲストのファイル転送オプションの確認) 161

し

資格 (ゲスト プロファイル) 59
システム情報 (共通のツール) 415
システム制御 (ゲスト リモート管理) 218
下のツールバー (ゲスト NetOp マーカー ユーティリティ) 240
[実行] ウィンドウ (ゲストの [プログラムのオプション] の [プログラムの実行] タブ) 125
実行コマンド (ゲストの NetOp スクリプト) 258
自動インストール (その他のインストール方法) 42
従来の InstallShield(インストール) 35
上級者のコンピュータ ユーザーの場合 (ホストの起動ガイド) 287
[詳細] タブ (ゲストの NetOp スクリプトのグローバル設定) 250
[詳細] タブ (ゲストの NetOp スクリプトのコピー コマンド) 262
[詳細設定] ウィンドウ (ゲストのファイル転送オプションの確認) 161
詳細ペイン (ゲストの [インベントリ] タブ) 99
詳細 (ゲスト リモート管理) 221
商標 (先頭ページ) 3
[情報のデバッグ トレース] ウィンドウ (ゲストのデバッグ トレース) 136
情報のデバッグ トレース (ホストのデバッグ トレース) 360
シリアル通信プロファイルの編集 (共通シリアル) 384
シリアルの設定 (共通シリアル) 384
シリアル (共通通信デバイス) 383
新規および更新のチェック (ホスト ツール) 360
新規更新のチェック (ゲスト ツール) 136
[新規タスクの作成] ウィンドウ (ゲスト リモート管理タスク マネージャ) 190
[進行状況] タブ (ゲストのファイル転送ステータス) 154

す

[スクリプト] ウィンドウ (ゲストの NetOp スクリプト) 245
[スクリプト] タブ (ゲストのタブ パネル) 96
スクリプト ファイル内のグローバル設定 (ゲストの NetOp スクリプト) 251
スクリプト ファイル内のコマンド (ゲストの NetOp スクリプト) 264
スクリプト ファイル (ゲストの NetOp スクリプト) 267
スクリプト レコード (ゲストの [スクリプト] タブ) 97
スクリプト ログ (ゲストの NetOp スクリプト) 269
図形マーカー (ゲスト NetOp マーカー ユーティリティ) 240
[スタートアップ情報] ウィンドウ (ゲスト リモート管理コマンド コンソール) 216
ステータス バー ([NetOp ゲスト] ウィンドウ) 100
ステータス バー ([NetOp ホスト] ウィンドウ) 314
ステータス バー (ゲスト NetOp マーカー ユーティリティ) 240
ステータス バー (ゲストの [NetOp メッセージ] ウィンドウ) 280
ステータス バー (ゲストの [リモート コントロール] ウィンドウ) 148
ステータス バー (ゲストの [リモート管理] ウィンドウ) 181
ステータス バー (ホストの [NetOp メッセージ] ウィンドウ) 373
すべてのゲストにデフォルトのアクセス特権を与える (ホストのゲスト アクセス セキュリティ) 339
[スマート カード] ウィンドウ (ゲストのスマート カード認証) 56
[スマート カード] タブ (ゲストの [プログラムのオプション]) 130
[スマート カード] タブ (ホストのゲスト アクセス セキュリティ) 356
スマート カード認証 (ゲスト認証) 56

せ

赤外線通信 (ゲストの [簡易接続] タブの [ホスト] セクション) 84
赤外線 (IrDA) 通信プロファイルの編集 (共通赤外線 (IrDA)) 397
赤外線 (IrDA) の設定 (共通赤外線 (IrDA)) 396
赤外線 (IrDA) (共通通信デバイス) 396
[セキュリティ ロール] ウィンドウ (ホストのゲスト アクセス セキュリティ) 344
[セキュリティ ロール] ペイン (ゲストのセキュリティ ロール) 56
セキュリティ ロール (ゲストのホスト セキュリティ ガイド) 56
セキュリティ警告 (ホストの [アクション] メニュー) 303

セキュリティ (はじめに、の機能) 15
 セッション コマンド (ゲストの [接続] メニュー) 63
 [セッション] タブ (ゲスト リモート管理共有フォルダ) 209
 セッション ボタン (ゲストのツール バー) 70
 セッション ボタン (ゲストのリモート コントロール ツール バーとツールボックス) 142
 セッション ボタン (ホストのツール バー) 307
 [セッション] メニュー ([NetOp ホスト] ウィンドウ) 304
 セッションのツール (NetOp ゲスト) 221
 [セッション履歴] タブ (ゲストのファイル転送ステータス) 156
 [接続] タブ (ゲストの接続のプロパティ) 224
 [接続] タブ (ゲストのタブ パネル) 88
 [接続] タブ (ホストのタブ パネル) 309
 接続 メニュー (NetOp ゲスト ウィンドウ) 63
 [接続一覧] ウィンドウ (ホストの起動ガイド) 287
 接続ガイド (NetOp ゲスト) 49
 接続コマンド (ゲストの Netop スクリプト) 253
 [接続の通知] タブ (ホストのプログラム オプション) 321
 接続のプロパティ (ゲストのセッションのツール) 222
 接続の問題 (ゲストの接続ガイド) 51
 セットアップ ウィザード (ホストの起動ガイド) 289
 セットアップ ウィザードの実行 (ゲスト ツール) 136
 セットアップ ウィザードの実行 (ホスト ツール) 360
 セットアップ ウィザード (ゲストの読み込みとアンロード) 46
 [選択] ウィンドウ (ゲストの [NetOp ファイル マネージャ] の [編集] メニュー) 157
 [選択解除] ウィンドウ (ゲストの [NetOp ファイル マネージャ] の [編集] メニュー) 157
 [全般] タブ (ゲスト リモート管理共有フォルダ) 213
 [全般] タブ (ゲスト リモート管理サービス プロパティ) 204

そ

その他のインストール方法 (インストール) 41
 その他のセッション (ゲストの接続ガイド) 50
 その他の対話処理 (はじめに、の機能) 15
 その他のボタン (ゲストの [NetOp ファイル マネージャ] のツールバー) 168
 その他の読み込み方法 (ホストの起動ガイド) 288
 その他の読み込み方法 (ゲストの読み込みとアンロード) 44

た

ターミナル サーバー通信プロファイルの編集 (共通ターミナル サーバー) 398
 ターミナル サーバーの設定 (共通ターミナル サーバー) 397
 ターミナル サーバー (共通通信デバイス) 397
 ターミナル サーバー (その他のインストール方法) 42
 待機コマンド (ゲストの Netop スクリプト) 255
 [待機ダイアログ] ウィンドウ (ゲストの Netop スクリプトの Wait コマンド) 255
 タイトル バー (NetOp ゲスト ウィンドウ) 62
 タイトル バー ([NetOp ホスト] ウィンドウ) 300
 タイトル バー (ゲスト NetOp マーカー ユーティリティ) 238
 タイトル バー (ゲストの [NetOp ファイル マネージャ] ウィンドウ) 149
 タイトル バー (ゲストの [NetOp メッセージ] ウィンドウ) 275
 タイトル バー (ゲストの [リモート コントロール] ウィンドウ) 138
 タイトル バー (ゲストの [リモート管理] ウィンドウ) 177
 タイトル バー (ホストの [NetOp メッセージ] ウィンドウ) 371
 タスク マネージャ (ゲスト リモート管理) 188
 他のコマンド (ゲストの [接続] メニュー) 65
 他のボタン (ゲストのツール バー) 72
 タブ パネル (NetOp ゲスト ウィンドウ) 73
 タブ パネル ([NetOp ホスト] ウィンドウ) 308

ち

[チャット] ウィンドウ (ゲストのチャット) 172
 [チャット] ウィンドウ (ホスト チャット) 364

チャット (ゲスト セッション) 171
チャット (ホスト セッション) 364

つ

通常のコンピュータ ユーザーの場合 (ホストの起動ガイド) 286
[通信] タブ (ホストのタブ パネル) 312
通信デバイス (共通のツール) 376
通信デバイス (はじめに、の機能) 17
[通信プロファイル] セクション (ゲストの [簡易接続] タブ) 84
[通信プロファイルのセットアップ] ウィンドウ (ゲストの通信プロファイル) 135
[通信プロファイルのセットアップ] ウィンドウ (ホストの通信プロファイル) 359
[通信プロファイルの編集] ウィンドウ (共通通信デバイス) 376
通信プロファイル (ゲスト ツール) 135
通信プロファイル (ホスト ツール) 359
ツール ボタン (ゲストのリモート コントロール ツールバーとツールボックス) 146
ツール ボタン (ホストのツール バー) 308
ツール メニュー (NetOp ゲスト ウィンドウ) 68
[ツール] メニュー ([NetOp ホスト] ウィンドウ) 305
ツールバーとツールボックス (ゲストのリモート コントロール) 141
ツールバー (NetOp ゲスト ウィンドウ) 70
ツールバー ([NetOp ホスト] ウィンドウ) 307
ツールバー (ゲストの [NetOp ファイル マネージャ] ウィンドウ) 167
ツールバー (ゲストの [NetOp メッセージ] ウィンドウ) 278
ツールバー (ゲストの [リモート管理] ウィンドウ) 179
ツールバー (ホストの [NetOp メッセージ] ウィンドウ) 372
ツリー ペイン (ゲストの [記録] タブ) 93
ツリー ペイン (ゲストの [スクリプト] タブ) 96
ツリー ペイン (ゲストの [電話帳] タブ) 75
ツリー ペイン (ゲストの [履歴] タブ) 89

て

[ディスク ドライブ] メニュー (ゲストの [リモート管理] ウィンドウ) 179
ディスク ドライブ (ゲストのリモート管理) 182
[ディレクトリ サービス] ウィンドウ (ホストのプログラム オプションの [ディレクトリ サービス] タブ) 332
[ディレクトリ サービス] タブ (ゲストの [プログラムのオプション]) 110
[ディレクトリ サービス] タブ (ホストのプログラム オプション) 331
[ディレクトリ サービス ログイン] ウィンドウ (ゲストのディレクトリ サービス認証) 54
ディレクトリ サービス認証 (ゲスト認証) 54
[ディレクトリ サービスの検索] ウィンドウ (ゲストの [プログラムのオプション] の [ディレクトリ サービス] タブ) 111
[ディレクトリ サービスの選択] ウィンドウ (ホストのプログラム オプションの [ディレクトリ サービス] タブ) 333
[ディレクトリ サービスのユーザーの選択] ウィンドウ (ホスト GAS ディレクトリ サービス) 349
ディレクトリ サービスを使用して各ゲストに個別にアクセス特権を与える (ホストのゲスト アクセス セキュリティ) 348
ディレクトリからのインストール (その他のインストール方法) 41
テーブル コントロール (はじめに、の共通するコントロール) 22
テキスト マーカー ウィンドウ (ゲスト NetOp マーカー ユーティリティ) 242
テキスト マーカー (ゲスト NetOp マーカー ユーティリティ) 242
[デスクトップ] タブ (ゲストの接続のプロパティ) 234
デバッグ トレース (ホストツール) 360
デバッグのトレース (ゲストのツール) 136
[転送] タブ (ゲストの NetOp スクリプトのグローバル設定) 248
[転送] タブ (ゲストの NetOp スクリプトのコピー コマンド) 261
[転送] タブ (ゲストのファイル転送オプション) 160
転送ステータス (ゲストのファイル転送) 154
[電話帳] タブ (ゲストのタブ パネル) 74
[電話帳からエクスポート] ウィンドウ (ゲストの電話帳のインポート / エクスポート) 78
[電話帳にインポート] ウィンドウ (ゲストの電話帳のインポート / エクスポート) 79
電話帳のインポート / エクスポート (ゲストの [電話帳] タブ) 78
[電話帳リファレンスの追加] ウィンドウ (ゲストの [電話帳] タブのツリー ペイン) 75
電話帳レコード (ゲストの [電話帳] タブ) 77
[電話番号] ウィンドウ (許可されている共通の ISDN 番号) 383

と

[ドライブ情報] ウィンドウ (ゲストの [NetOp ファイル マネージャ] の [ファイル] メニュー) 151

な

ナビゲーション パネル (ゲストの [リモート管理] ウィンドウ) 180

[名前] タブ (ホストのタブ パネル) 312

[名前が見つかりませんでした] ウィンドウ (ゲストの接続の問題) 51

[名前の変更] ウィンドウ (ゲストの [NetOp ファイル マネージャ] の [ファイル] メニュー) 152

[名前の変更] ウィンドウ (ゲストの [編集] メニュー) 66

[名前の変更] ウィンドウ (ホストのゲスト アクセス セキュリティ) 345

ね

[ネット アドレス] ウィンドウ (共通システム情報) 416

ネットワーク ポイントツーポイント通信 (ゲストの [簡易接続] タブの [ホスト] セクション) 83

ネットワーク通信 (ゲストの [簡易接続] タブの [ホスト] セクション) 80

は

[バージョン情報] ウィンドウ (ゲストの [ヘルプ] メニュー) 70

[バイナリ値の編集] ウィンドウ (ゲスト リモート管理レジストリ) 194

はじめに (第 1 章) 13

[パスワードの変更] ウィンドウ (ゲストの NetOp セキュリティ サーバー認証) 55

パッケージの内容 (インストール) 24

ひ

[ビデオの詳細設定] ウィンドウ (ゲストの [プログラムのオプション] の [オーディオビデオ チャット] タブ) 116, 324

表記上の規則 (はじめに、のマニュアル) 18

[表示] タブ (ゲストの接続のプロパティ) 229

[表示] メニュー ([NetOp ホスト] ウィンドウ) 302

[表示] メニュー (ゲストの [NetOp ファイル マネージャ] ウィンドウ) 157

表示パネル (ゲスト リモート管理コマンド コンソール) 217

表示パネル (ゲストの [リモート管理] ウィンドウ) 181

表示メニュー (NetOp ゲスト ウィンドウ) 67

表示メニュー (ゲストの [リモート管理] ウィンドウ) 178

標準ボタン (はじめに、のマニュアル) 19

[開かれたファイル] タブ (ゲスト リモート管理共有フォルダ) 210

ふ

ファイル マネージャのオプション (ゲスト ツール) 134

ファイル メニュー (NetOp ゲスト ウィンドウ) 62

[ファイル] メニュー ([NetOp ホスト] ウィンドウ) 301

[ファイル] メニュー (ゲストの [NetOp ファイル マネージャ] ウィンドウ) 150

[ファイル] メニュー (ゲストの [NetOp メッセージ] ウィンドウ) 276

ファイル メニュー (ゲストの [リモート管理] ウィンドウ) 177

[ファイル] メニュー (ホストの [NetOp メッセージ] ウィンドウ) 371

ファイル転送コマンド (ゲストの NetOp スクリプト) 258

[ファイル転送ステータス] ウィンドウ (ホストのファイル転送) 363

ファイル転送ボタン (ゲストの [NetOp ファイル マネージャ] のツールバー) 168

ファイル転送 (ゲスト セッション) 148

ファイル転送 (ホスト セッション) 363

[フォーマット] メニュー (ゲストの [NetOp メッセージ] ウィンドウ) 278

[複数のホスト名が見つかりました] ウィンドウ (ゲストの [プログラムのオプション] の [ホスト名] タブ) 109

[複数文字列の編集] ウィンドウ (ゲスト リモート管理レジストリ) 195

[プリンタのガイドラインを追加] ウィンドウ (ゲストの [プログラムのオプション] の [リモート印刷] タブ) 118

[プリンタのガイドラインを追加] ウィンドウ (ホストのプログラムのオプションの [リモート印刷] タブ) 326

プログラムのオプション (ゲスト ツール) 101

プログラムのオプション (ホスト ツール) 316

プログラムの実行 - 参照 (ゲスト アクションのプログラムの実行) 273

[プログラムの実行] ウィンドウ (ゲスト NetOp スクリプトの Run コマンド) 258

[プログラムの実行] タブ (ゲストのプログラムのオプション) 124

[プログラムの実行] メニュー (ゲスト アクションのプログラムの実行) 271
プログラムの実行 (ゲスト アクション) 271
プログラムの実行 (ホスト アクション) 370
[プロパティ] ウィンドウ (ゲスト リモート管理ディスク ドライブ) 184
[プロパティ] ウィンドウ (ゲストの [NetOp ファイル マネージャ] の [ファイル] メニュー) 152

へ

[別のユーザーとして実行] タブ (ホストのプログラム オプション) 329
[ヘルプ サービスの詳細] ウィンドウ (ゲストの [プログラムのオプション] の [ヘルプ サービス] タブ) 122
[ヘルプ プロバイダ] ウィンドウ (ホストのヘルプ呼出) 369
[ヘルプ プロバイダに接続] ウィンドウ (ホストのヘルプ呼出) 368
ヘルプ メニュー (NetOp ゲスト ウィンドウ) 69
[ヘルプ] メニュー ([NetOp ホスト] ウィンドウ) 305
[ヘルプ] メニュー (ゲストの [NetOp ファイル マネージャ] ウィンドウ) 167
ヘルプ メニュー (ゲストの [リモート管理] ウィンドウ) 178
[ヘルプ呼出] ウィンドウ (ホストのヘルプ呼出) 367
[ヘルプ呼出] タブ (ゲストの [プログラムのオプション]) 121
[ヘルプ呼出] タブ (ゲストのタブ パネル) 91
[ヘルプ呼出] タブ (ホストのプログラム オプション) 327
[ヘルプ呼出通信プロファイルの選択] ウィンドウ (ホストのヘルプ呼出) 367
[ヘルプ呼出の詳細オプション] ウィンドウ (ホストのプログラム オプションの [ヘルプ呼出] タブ) 328
[ヘルプ呼出の通知] ウィンドウ (ゲストの [プログラムのオプション] の [ヘルプ サービス] タブ) 123
ヘルプ呼出 (ゲストの接続ガイド) 51
ヘルプ呼出 (ホスト アクション) 366
変更またはアンインストール (Windows インストーラによるインストール) 34
変更またはアンインストール (従来の InstallShield によるインストール) 41
[編集] メニュー (ゲストの [NetOp ファイル マネージャ] ウィンドウ) 156
[編集] メニュー (ゲストの [NetOp メッセージ] ウィンドウ) 277
[編集] メニュー (ホストの [NetOp メッセージ] ウィンドウ) 371
編集メニュー (NetOp ゲスト ウィンドウ) 66

ほ

[保守パスワードの入力] ウィンドウ (ゲストの保守パスワード) 134
[保守パスワードの入力] ウィンドウ (ホストの保守パスワード) 358
[保守パスワードの変更] ウィンドウ (ゲストの保守パスワード) 134
[保守パスワードの変更] ウィンドウ (ホストの保守パスワード) 357
保守パスワード (ゲスト ツール) 134
保守パスワード (ホスト ツール) 357
保証 (先頭ページ) 3
ホスト アクション (NetOp ホスト) 366
ホスト コンピュータのインベントリ ([ゲスト インベントリ] タブ) 99
[ホスト] セクション (ゲストの [簡易接続] タブ) 80
ホスト セッション (NetOp ホスト) 361
ホスト ツール (NetOp ホスト) 315
ホストおよび拡張ホストの NetOp ログ イベント (共通 NetOp ログ) 411
[ホストに接続] ウィンドウ (ゲストの NetOp スクリプトの Connect コマンド) 253
ホストの起動ガイド (NetOp ホスト) 286
ホストのセキュリティ ガイド (NetOp ゲスト) 52
[ホスト名] タブ (ゲストの [プログラムのオプション]) 108
[ホスト名] タブ (ホストのプログラム オプション) 319
ホストを参照する (ゲストの [簡易接続] タブの [ホスト] セクション) 80
[保存されたイベント ログを開く] ウィンドウ (ゲスト リモート管理イベント ビューア) 186
ボタン (ゲストの [簡易接続] タブ) 85

ま

マーカーの削除 (ゲスト NetOp マーカー ユーティリティ) 244
マーカーのプロパティとヘルプ (ゲスト NetOp マーカー ユーティリティ) 244
マニュアル (はじめに) 17
マルチ ゲスト セッションのボタン (ゲストのリモート コントロール ツールバーとツールボックス) 145
マルチ ゲスト セッション (ゲストのリモート コントロール) 148

マルチ チャット セッション (ゲストのチャット) 173

む

無効なログインの [警告] ウィンドウ (ホストのゲスト アクセス セキュリティ) 352

め

[メッセージ] タブ (ホストのタブ パネル) 313
メッセージ ペイン (ゲストの [NetOp メッセージ] ウィンドウ) 280
メッセージ ペイン (ホストの [NetOp メッセージ] ウィンドウ) 372
メッセージの送信ウィンドウ (ゲストの NetOp スクリプト アクション コマンド) 263
メニュー バー (NetOp ゲスト ウィンドウ) 62
メニュー バー ([NetOp ホスト] ウィンドウ) 301
メニュー バー (ゲストの [NetOp ファイル マネージャ] ウィンドウ) 149
メニュー バー (ゲストの [リモート管理] ウィンドウ) 177
メニュー バー (ホストの [NetOp メッセージ] ウィンドウ) 371
メニューとツールバーのコントロール (はじめに、の共通するコントロール) 21
免責 (先頭ページ) 3

も

[文字列の編集] ウィンドウ (ゲスト リモート管理レジストリ) 193
[モデム] ウィンドウ (共通モデム データベース) 398
モデム ダイアログ (共通モデム データベースとモデム ダイアログ) 400
モデム データベースとモデム ダイアログ (共通のツール) 398
モデム データベース (共通モデム データベースとモデム ダイアログ) 398
モデム データベース (ゲスト ツール) 136
モデム データベース (ホスト ツール) 360
モデムの設定 (共通モデム データベース) 399

ゆ

[ユーザーの選択] ウィンドウ (ゲスト リモート管理サービス) 206

よ

要件 (インストール) 24
ようこそ (はじめに) 14
読み込みとアンロード (NetOp ゲスト) 44

ら

ライセンス (先頭ページ) 3

り

リフレッシュ間隔ウィンドウ (ゲスト NetOp マーカー ユーティリティ拡大鏡) 244
[リモート コントロール] ウィンドウ (ゲストのリモート コントロール) 138
[リモート コントロール] タブ (ゲストの [プログラムのオプション]) 112
リモート コントロール表示 (ゲストのリモート コントロール) 147
リモート コントロール (ゲストのセッション) 137
リモート コントロール (ゲストの接続ガイド) 49
リモート コントロール (はじめに、の機能) 14
リモート コントロール (ホスト セッション) 362
[リモート印刷] タブ (ゲストの [プログラムのオプション]) 117
[リモート印刷] タブ (ホストのプログラム オプション) 325
リモート管理 (ゲスト セッション) 176
リモート管理 (ホスト セッション) 366
[履歴] タブ (ゲストのタブ パネル) 89
[履歴] タブ (ゲストのファイル転送ステータス) 155
[履歴] タブ (ホストのタブ パネル) 310
[履歴一覧] ウィンドウ (ホストの起動ガイド) 287
履歴レコード (ゲストの [履歴] タブ) 91

れ

- [レイアウト] タブ (ゲストの [プログラムのオプション]) 102
- [レイアウト] タブ (ゲストのファイル転送オプション) 164
- レコード パネル (ゲストの [NetOp ファイル マネージャ] ウィンドウ) 169
- レコード ペイン (ゲストの [記録] タブ) 94
- レコード ペイン (ゲストの [スクリプト] タブ) 97
- レコード ペイン (ゲストの [電話帳] タブ) 76
- レコード ペイン (ゲストの [履歴] タブ) 90
- レジストリ (ゲスト リモート管理) 191

ろ

- ローカル NetOp ログ (共通 NetOp ログ) 409
- [ログ サーバー] ウィンドウ (ログのセットアップ、共通) 406
- [ログ] タブ (共通ログのセットアップ) 402
- [ログイン] タブ (ゲストの [プログラムのオプション]) 107
- [ログイン] タブ (ゲストの接続のプロパティ) 225
- [ログオン] タブ (ゲスト リモート管理サービス プロパティ) 205
- [ログ記録] タブ (ゲストのファイル転送オプション) 166
- ログのセットアップ (共通 NetOp ログ) 401
- ログのセットアップ (ゲスト ツール) 134
- ログのセットアップ (ホスト ツール) 359